

## 日本美術年鑑：昭和28年版

著者	東京文化財研究所美術部（美術研究所） 編
出版年月日	1954-02-25
URL	<a href="http://doi.org/10.18953/00005616">http://doi.org/10.18953/00005616</a>



# 日本美術年鑑

昭和 28 年 版

美術研究所



## 序

日本美術年鑑は東京文化財研究所美術部、即ち美術研究所が、従前からその調査研究事業の一部として計畫從事していたもので、終戦後は一時、數ヶ年をとりまとめて合冊にするという變則を餘儀なくされていたが、昨年から本來の形にもどつて、一年間を一冊に編述する段取りとなり、今年もここに昭和二十八年版を刊行する運びとなつた。

この年鑑の調査と編輯とは、主として當研究所の第二研究室がこれに當り、各項の執筆は室長隈元謙次郎を初め、同室所属の岡畏三郎、中村傳三郎が擔當したが、その中古美術概觀の項は第一研究室長熊谷宣夫、古美術文獻目錄の項は資料室の中川千咲がそれぞれこれを執筆した。

この年鑑の編輯に當つては、諸官廳や美術關係の公私機關を初め、多くの學者作家等の御助力を煩わしたが、殊に文化財保護委員會事務局、文部省社會教育局藝術課、日本藝術院、國立近代美術館、東京・京都・奈良の各國立博物館、各地の諸新聞社、雜誌社、美術館、研究所、學校、美術團體の御援助に待つところが多かつた。更にまた大藏省印刷局は、この年鑑の體裁上印刷技術の困難な點多きにかかわらず、一昨年以來今年も引續きこれを快諾された。ここにこれらの諸機關に對して深く感謝の意を表する。

なおこの年鑑の編輯については常に意を注いで、記事採擇の適正と記事内容の充實とに努めているが、その中に思わぬ過誤や不備の點がないとも限らない。これに對しては一般識者の叱正と御教示とを切に希望する次第である。

昭和二十八年十二月

東京文化財研究所長

田 中 一 松

## 凡 例

一、本年鑑は、昭和二七年一月から同年一二月に至る一年間の美術界の主要な出来事を掲載した。

一、本年鑑の内容は、「図版」「本欄」「附録」の三部に大別し、「図版」には右期間中に発表された注目すべき作品の写真を主として掲載し「本欄」はわが国美術界の全般について、全体の展望、主要な事件、注目すべき展覧会、物故者、発表された文献などを記載した。

「附録」は便覧として美術関係の法規、諸施設、団体、美術家及美術関係者名簿などを集録した。便覧の性質上この欄は原則として昭和二八年一二月現在の記録に従っている。

一、本年鑑であつかう美術の範囲は、一般に行われる狭義の解釈に従い、絵画、彫刻、工藝、および建築に限っている。絵画のうち、日本画と洋画の区別は困難な場合もあるが、だいたい現代の慣習に従った。建築はわれわれの注意をひく範囲にとどめた。

一、人名を記す場合は、すべて敬称をはぶいた。

一、美術文献目録、および美術家及美術関係者名簿についてはそれぞれ項目の初めに凡例を記した。

# 目次

序	一
凡例	三
目次	四

## 本欄

昭和二十七年美術界概観	一
現代美術	一
古美術	六
昭和二十七年美術界年史	八
附表	一五
新指定国宝一覧	一五
重要文化財一覧	三三
文化財保護委員会昭和二十七年補助金交付一覧	四五
日展関係諸表	五七
第八回日本美術展覧会審査員一覧	五八
各大学美術関係講義題目	五八
主要美術雑誌色刷一覧	六〇
助成の措置を講ずべき無形文化財一覧	六四
美術展覧会	六五
物語者	一五五

美術文献目録	一四二
--------	-----

凡例	一四二
目次	一四三

### 定期刊行物所載文献

現代美術関係	一四三
西洋美術関係	一五〇
東洋古美術関係	一五四
単行図書	一七四

現代美術関係	一七四
西洋美術関係	一七五
東洋古美術関係	一七六

## 附録 (便覧)

美術関係法規	一七七
文化財保護法	一七七
文化財専門審議会令	一九三
文化財専門審議会議事規則	一九四
文化財専門審議会常任委員会設置規則	一九五
文化財専門審議会諮問事項等取扱要領	一九五
文部省組織令抄	一九六

東京国立博物館組織規程	一九	美術関係学会	二三
京都国立博物館組織規程	二〇	美術教育施設	二三
奈良国立博物館組織規程	二〇	学 校	二三
東京文化財研究所組織規程	二〇	実 技 研 究 所	二六
奈良文化財研究所組織規程	二〇	美術観覧施設	二九
文部省社会教育局藝術課	二〇	東京画廊一覽	三六
国立近代美術館	二〇	京都画廊一覽	三八
日本 藝 術 院	二〇	大阪画廊一覽	三八
日本美術展覧会	二〇	美術団体一覽	三九
正倉院評議會規程	二一	美術家及美術関係者名簿	四三
帝 室 技 藝 員	二一	美術関係定期刊行物一覽	四〇
美術関係研究施設	二一		

## 図 版 目 次

日本 画			
1 暮雪(雪月花展)	川合玉堂	22 飛天(37回院展)	太田聽雨
2 新潟旧税関(連作の八)(春の青龍展)	安西啓明	23 美術部にて(37回院展)	片岡球子
3 アイス(3回日月社展)	村松乙彦	24 古墳(37回院展)	羽石光志
4 南の国(3回日月社展)	伊東深水	25 美しき朝(37回院展)	小倉遊龜
5 猫(12回日本画院展)	岩田正巳	26 花(37回院展)	奥村土牛
6 門(12回日本画院展)	東山魁夷	27 石(37回院展)	岩橋英遠
7 つばき(12回日本画院展)	望月春江	28 仔犬(第7回日本美術院小品展)	郷倉千鶴
8 夕焼の秋(2回再興新興美術院展)	安孫子萩聲	29 小壘田宮(37回院展)	眞野 満
9 牡丹瓶(5回清流会展)	安田軾彦	30 朝曦(24回青龍展)	佐々木邦彦
		31 涼露品(右)(24回青龍展)	川端龍子
		32 涼露品(左)(24回青龍展)	川端龍子
		33 華清之浴(37回院展)	中村貞以
10 夏ざしき(5回清流会展)	鍋木清方		
11 奇異鳥(新制作春季展)	稗田一穂		
12 鮎(彩光会展)	福田平八郎		
13 晩秋(37回院展)	酒井亜人		
14 鳥の林(37回院展)	丸木スマ		
15 或る日の太平洋(37回院展)	横山大観		
16 哀歌(37回院展)	松田文子		
17 舊蒲(37回院展)	小林古徑		
18 湯治場(37回院展)	前田青邨		
19 河原(37回院展)	島田訥郎		
20 古代より(2)(37回院展)	中 島 清		
21 万座峠(37回院展)	中島多茂都		



62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34
夜明け(12回美術文化展)	迷子の天使(16回新制作展)	浴室(8回日展)	池(8回日展)	夕映(8回日展)	海芋と岬(8回日展)	雨の海(8回日展)	杜(8回日展)	やぎと猿(8回日展)	涼(8回日展)	女人(8回日展)	群棲(8回日展)	自転車(8回日展)	寂燈(8回日展)	沼のある風景(8回日展)	池畔に立つ(8回日展)	室内(8回日展)	室内(8回日展)	白い馬(8回日展)	蓮池(16回新制作展)	岳(16回新制作展)	働らく人(16回新制作展)	高原(16回新制作展)	入幡平(16回新制作展)	傳説のある森(16回新制作展)	六甲の山(16回新制作展)	雄子(16回新制作展)	夢殿(24回青龍展)	岩崎 鐸
母と子(2回モダンアート展)	岩崎 鐸	橋本明治	徳岡神泉	西山英雄	山口蓬春	小野竹喬	三谷十糸子	西山翠峰	梶原緋佐子	中村正義	麻田辨次	杉山 寧	澁谷江津	加藤榮三	大山忠作	兒玉希望	堂本元次	山口華楊	上村松篁	山本丘人	堀 文子	福田豊四郎	信太金昌	澤 宏毅	吉岡堅二	琴塚英一	夢殿(24回青龍展)	岩崎 鐸

西洋画

91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63
マンジャール(4回立軌会展)	クレタのユーロップ(2回モダンアート展)	残冬(7回行動美術展)	進め(37回二科会展)	蝶々夫人の家(長崎風景)(37回二科会展)	御堂筋の秋(7回行動美術展)	川口(37回二科会展)	足場(37回二科会展)	哀愁(37回二科会展)	静物A(1回日本国際美術展)	人間の構図(1回日本国際美術展)	森(1回日本国際美術展)	白ひ花(1回日本国際美術展)	阿蘇山(1回日本国際美術展)	水辺の牛(26回国画会展)	櫻島(26回国画会展)	夏(26回国画会展)	漁舟帰る時(29回春陽会展)	窓外風景(29回春陽会展)	海辺の遊蝶花(1回日本国際美術展)	展	展	展	展	展	展	展	展	展
有岡一郎	山口 薫	向井潤吉	鈴木信太郎	古 家 新	野間仁根	岡本太郎	東郷青児	林 武	小磯良平	北川民次	梅原龍三郎	仲田好江	田崎廣助	井上三綱	香山義雄	香月泰男	中川一政	木村莊八	岡 鹿之助	三雲祥之助	中 谷 泰	野村千春	齋藤愛子	森田元子	坂本繁二郎	山口 薫	山口 薫	山口 薫

116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92
岩と波(20回独立展)	湖畔の宿(8回日展)	高原(20回独立展)	春閑(8回日展)	街(16回自由美術展)	犠牲者(16回自由美術展)	漁夫(16回自由美術展)	浅間山(20回独立展)	アンチープのテラス(6回二紀会展)	食器と西瓜(6回二紀会展)	地と天と(16回自由美術展)	女(16回自由美術展)	残雪(14回一水会展)	須原の水槽(14回一水会展)	寒村駅前(14回一水会展)	女(14回一水会展)	金太郎(16回新制作展)	海辺の青年(16回新制作展)	立像(14回一水会展)	鳥籠と首(16回新制作展)	橋のある風景(16回新制作展)	出土(4回立軌会展)	開墾地風景(4回立軌会展)	作品(16回新制作展)	河風(4回立軌会展)
小林和作	石井柏亭	兒島善三郎	小糸源太郎	難波田龍起	吉井 忠	井上長三郎	高島達四郎	佐伯米子	鍋井克之	末松正樹	森 芳雄	廣 瀬 功	木下義謙	高 田 誠	中村琢二	脇 田 和	赤 穴 宏	安井曾太郎	三岸節子	太 田 忠	榎戸庄衛	山下大五郎	田中田鶴子	牛島憲之

135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117		
コダマ(6回二紀会展)	ラ・パンセ(16回新制作展)	回新制作展	わたつみのこえ(連作第三部)(16回新制作展)	二人(7回行動美術展)	小学教師像(37回院展)	女(3回六窓会展)	作品(九)(2回モダンアート展)	猫(6回新樹会展)	トルス(37回院展)	裸婦(37回院展)	藤尾像(4回説売アンデパンダン展)	彫刻	滞船B(29回春陽会展)	時間の玩具(29回春陽会展)	夢の中の飛行(26回回画会展)	回画会展)	欽喜顔・柳仰顔板面描技萃屏風(26回回画会展)	凝視(獲物)(2回個展)	残雪の丘(8回日展)	裸婦(8回日展)
松村外次郎	柳原義達	本郷新	建島覺造	石井鶴三	黒田嘉治	植木茂	木内克	山本豊市	千野茂	河内山賢祐		北岡文雄	駒井哲郎	品川工	棟方志功		齋藤清	長谷川潔	田村一男	中村研一

155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	
海女磁製花瓶（8回日展）	張發磁具須絵花瓶（8回日展）	壁面風神雷神（8回日展）	鉄の花さし（8回日展）	螺旋紋花籃（8回日展）	堆朱手元簞笥（8回日展）	「寒山拾得」獨立（8回日展）	花器（8回日展）	展）	クリスタル飾鉢（8回日展）	クリスタル・コンポート（8回日展）	心（8回日展）	芽ぐす（8回日展）	こけし（個展）	孤独（8回日展）	ヨブ（ヨブ記四二章一ノ六）（8回日展）	双眸（8回日展）	憩う（8回日展）	裸婦（8回日展）	半脚像試作（37回院展）	雲の峰（6回二紀会展）
宮之原謙	板谷波山	辻光典	芳武茂介	田邊竹雲齋	吉田株堂	山崎覺太郎	内藤春治	佐藤潤四郎	各務鑑三		朝倉響子	山本稚彦	イサム・野口	加藤顯清	水船六洲	木島正夫	進藤武松	清水多嘉示	新海竹藏	中川為延

175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156
日本相互ビル	産業会館ビル	京都駅	西京風の家	仙台レジヤセンター	新丸ビル	グレースット記念講堂	大阪銀行備後町ビル	産業会館ビル(内部)	成蹊小学校	名取邸	大阪淀川製鋼事務所	日活国際会館	廣島平和記念館	梅原龍三郎画室	モデル・ルーム(新日本工業デザイン展)	事務机と椅子(JIS家具展示会)	虹彩瑠華(8回日展)	四分一水瓶(8回日展)	作品(新日本工業デザイン展)
前川國男設計	竹中工務店設計	設局建築部設計	日本国有鉄道施設局建築部設計	武雄雄設計	三菱地所設計	山口文象設計	株式會社設計	日建設計工務	吉武泰水設計	清水一設計	アントニオ・レイ	竹中工務店設計	丹下健三計画研究	吉田五十八設計	産業工務試験所作品	産業工務試験所作品	山脇洋二	岩田藤七	日本インダストリアル・デザイン協会々員作品

190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176
紙本墨畫親鸞聖人像(鏡御影).....京都西本願寺藏	紙本墨畫李白吟行圖 梁枋筆.....	楞嚴神社拜殿.....(鳥取市)	悦作 樂燒白片身變茶碗 銘不二山 光 東京酒井忠正藏	橘蒔繪手箱.....新潟県西脇濟三郎藏	(近江安土淨嚴院伝来) 金銅透彫尾長鳥唐草文華蓋.....大津市細見亮市藏	智證大師謚号勅書.....国(国立博物館保管)	櫻島絲威肩赤胴丸.....東京秋田重季藏	金銅經箱.....大津市延暦寺藏	塑像彌勒佛坐像.....奈良県當麻寺藏	刺繡釋迦如來說法圖.....京都勸修寺藏	木造智證大師坐像.....大津市園城寺唐院藏	絹本墨畫山水圖.....京都高桐院藏	絹本著色無準師範像.....京都東福寺藏	ローコストハウス(16回 新制作展).....建築綜合研究所 (三輪正弘、植田一豊、山口文象)設計
							(重要文化財)							古美術
														(国宝)

192	191
刺繡三昧耶幡.....滋賀県兵主大社藏	紙本墨畫凍雲隱雪圖 浦上玉堂筆.....鎌倉市川端康成藏
以上	

圖

版





4 南の国 (日月社展) 伊東深水



1 暮雪 (雪月花展) 川合玉堂



5 猫 (日本画院展) 岩田正巳



2 新舊旧税関 (春の青龍展) 安西啓明



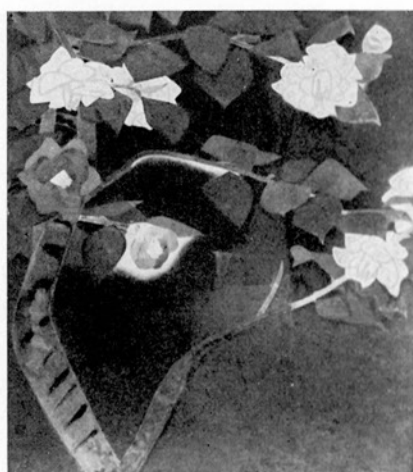
6 門 (日本画院展) 東山龜夷



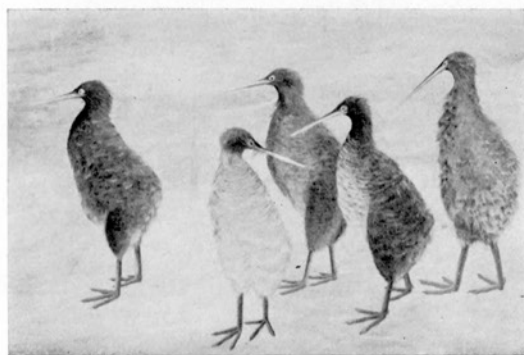
3 アイヌ (日月社展) 村松乙彦



10 夏ざしき (清涼会展) 錦木清方



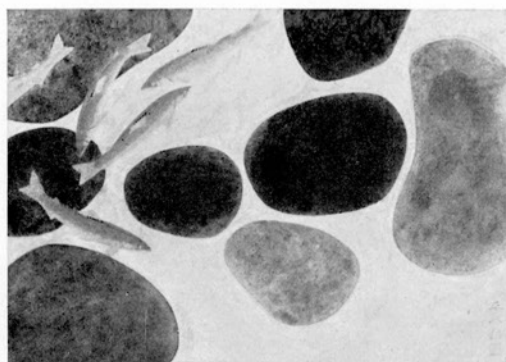
7 つばき (日本画院展) 望月春江



11 奇異鳥 (新制作春季展) 稗田一穂



8 夕焼の秋 (再興新興美術院展) 安孫子萩聲



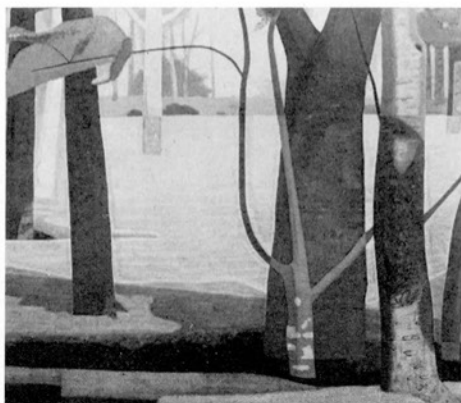
12 鮎 (彩光会展) 福田平八郎



9 牡丹瓶 (清涼会展) 安田靫彦



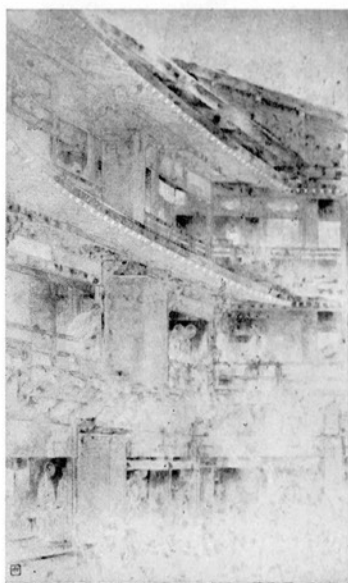
16 哀 歌 (院 展) 松田文子



13 晩 秋 (院 展) 酒井亞人



14 鳥 の 林 (院 展) 丸木スマ



18 湯 治 場 (院 展) 前田青邨



17 菖 蒲 (院 展) 小林古徑



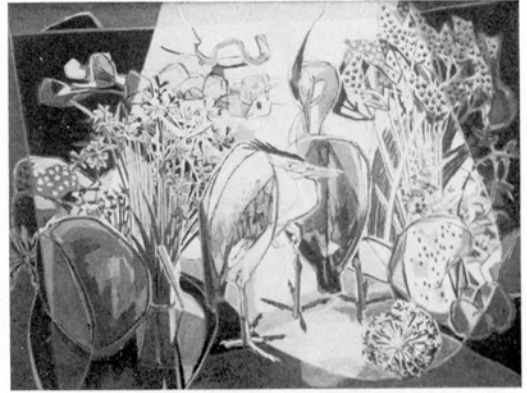
15 或る日の太平洋 (院展) 横山 大観



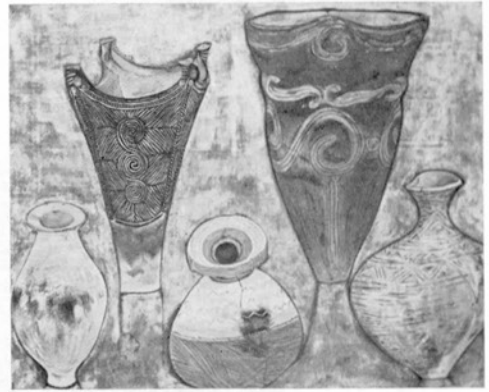
23 美術部にて (院展) 片岡球子



24 古墳 (院展) 羽石光志



19 河原 (院展) 島田達郎



20 古代より2 (院展) 中島清



21 万座峠 (院展) 中島多茂都



22 飛天 (院展) 太田聽雨



28 仔 犬 (院小品展) 郷倉千嗣



25 美しき朝 (院展) 小倉巻龜



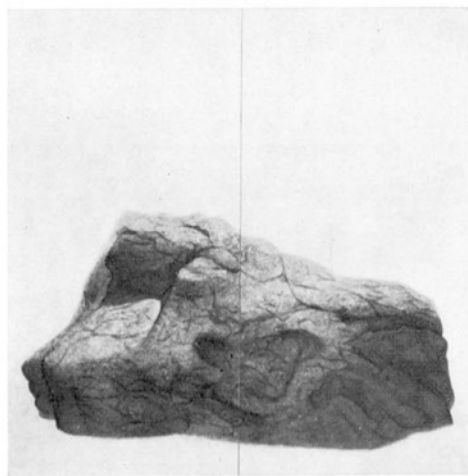
29 小鑾田宮 (院展) 蔵野満



26 花 (院展) 奥村土牛

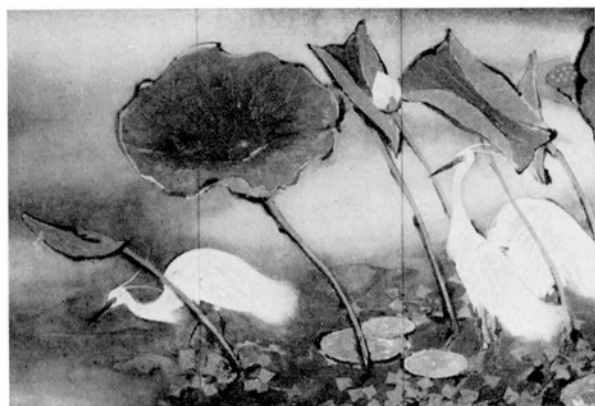


30 朝 曦 (青龍展) 佐々木邦彦



27 石 (院展) 岩橋英遠





32 涼露品(左) (青龍展) 川端龍子



31 涼露品(右) (青龍展) 川端龍子



35 夢殿(青龍展) 吉岡堅二



33 華清之浴(院展) 中村貞以



36 雉子(新制作展) 吉岡堅二



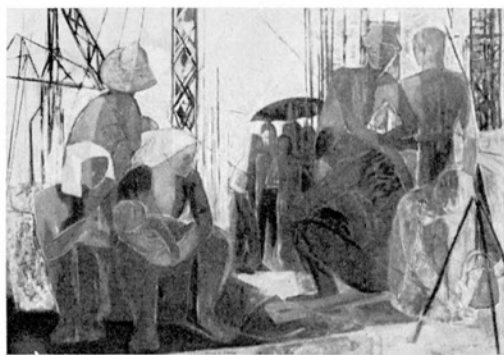
34 迷子の天使(新制作展) 岩崎 鐸



40 高 原 (新制作展) 堀 文子



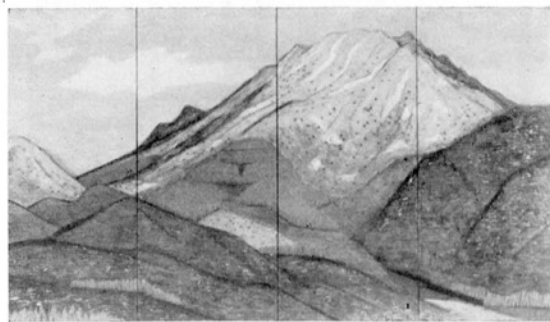
37 六甲の山 (新制作展) 澤 宏毅



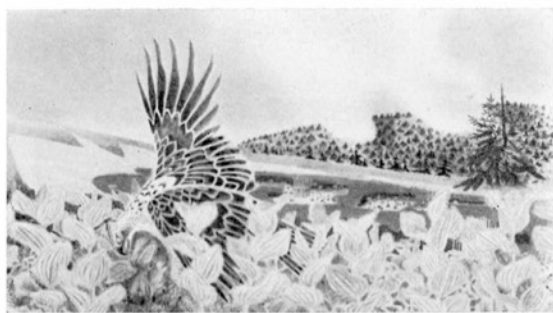
41 働く人 (新制作展) 朝 倉 攝



38 伝説のある森 (新制作展) 信 太 金 昌



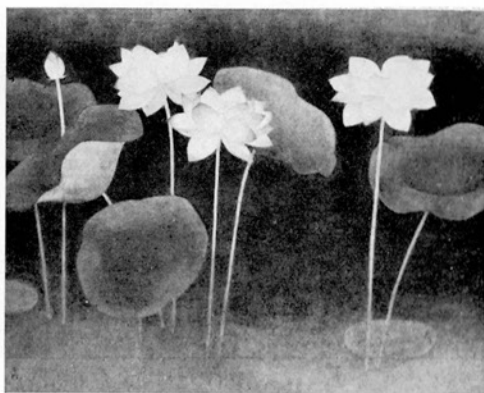
42 岳 (新制作展) 山 本 丘 人



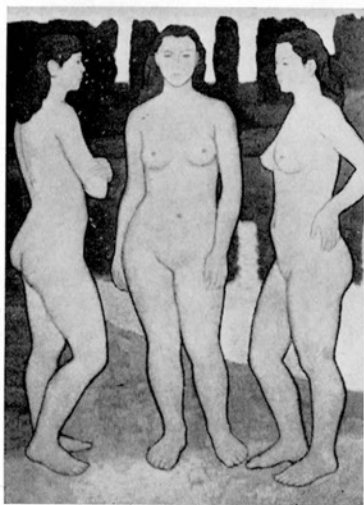
39 八 幡 平 (新制作展) 福田豊四郎



46 室内 (日展) 児玉希望



43 蓮池 (新制作展) 上村松篁



47 池畔に立つ (日展) 大山忠作



44 白い馬 (日展) 山口華楊



48 沼のある風景 (日展) 加藤榮三



45 室内 (日展) 堂本元次





52 女 人 (日 展) 中村正義



49 燈 (日 展) 澁谷江津



53 涼 (日 展) 梶原紳佐子



50 自転車 (日 展) 杉山 寧



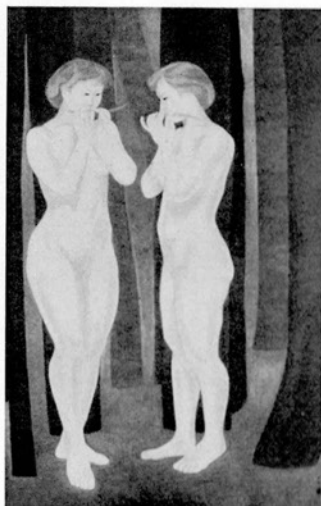
54 やぎと猿 (日 展) 西山翠峰



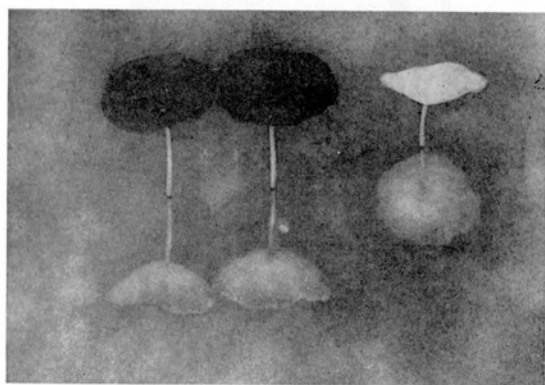
51 群 衆 (日 展) 麻田辨次



58 夕 映 (日 展) 西山英雄



55 杜 (日 展) 三谷十糸子



59 池 (日 展) 徳岡神泉



56 雨 の 海 (日 展) 小野竹露



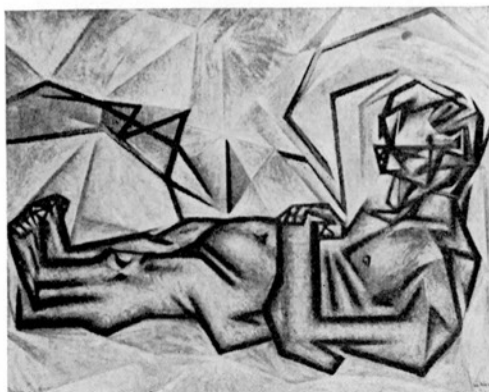
60 浴 室 (日 展) 橋本明治



57 海芋と罌 (日 展) 山口蓮春



64 馬 (三人展) 板本繁二郎



61 夜明け (美術文化展) 阿部展也



65 あるポーズ (日本国際美術展) 森田元子



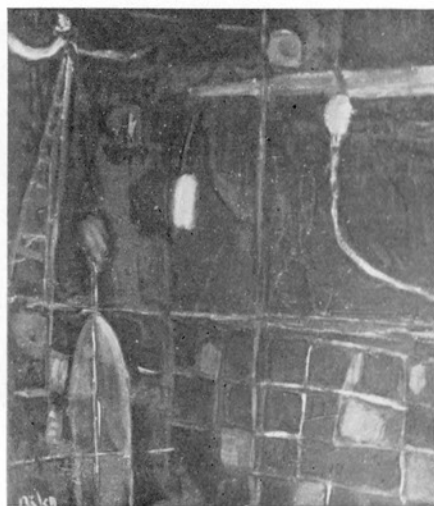
62 母と子 (モダンアート展) 村井正誠



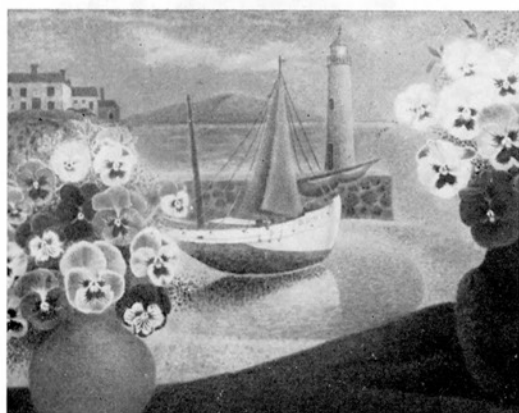
63 クレタのユーロツプ (モダンアート展) 山口 薫



69 にほいあらせいとう (春陽会展) 三雲祥之助



66 夜のカーニバル (女流展) 齋藤愛子



70 海辺の道端花 (日本国楽美術展) 岡 鹿之助



67 冬のたんぼ (女流展) 野村千春



71 窓外風景 (春陽会展) 木村莊八



68 厨 房 (春陽会展) 中谷 泰



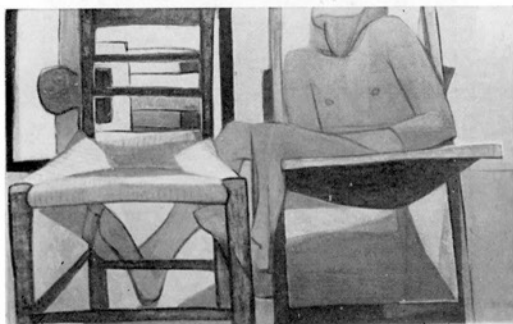
76 阿蘇山 (日本国蒙美術展) 田崎廣助



72 漁舟曙時 (春陽会展) 中川一政



77 白花 (日本国蒙美術展) 仲田好江



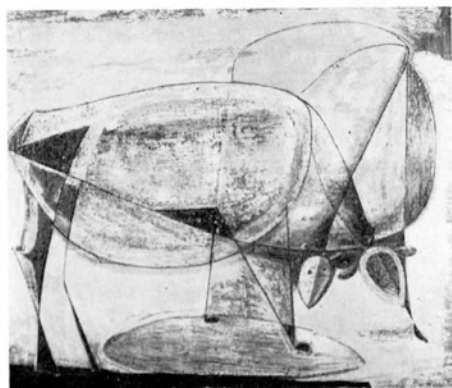
73 二人 (国画会展) 香月泰男



74 桜島 (国画会展) 青山義雄

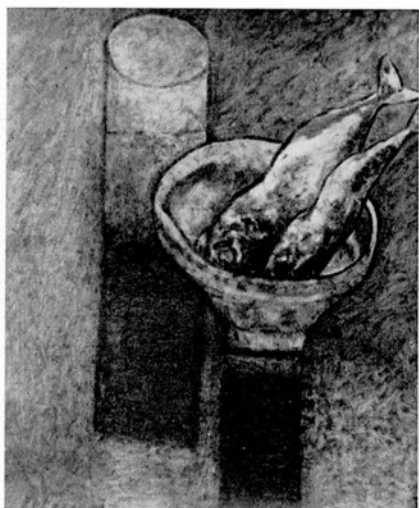


78 森 (日本国蒙美術展) 原勝郎



75 水辺の牛 (国画会展) 井上三嗣





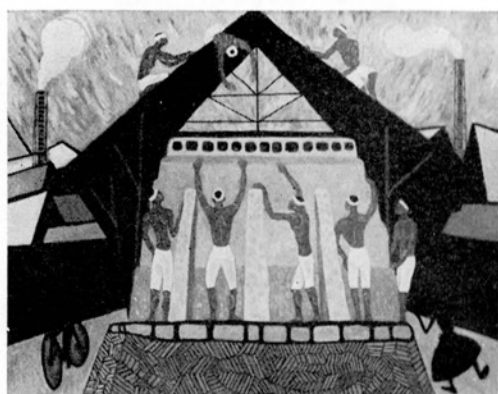
82 静物 A (日本国際美術展) 林 武



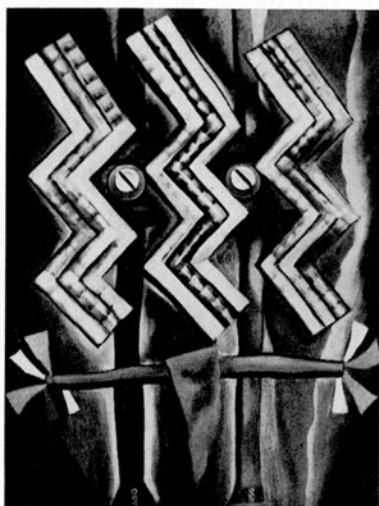
79 ミモザ (日本国際美術展) 梅原龍三郎



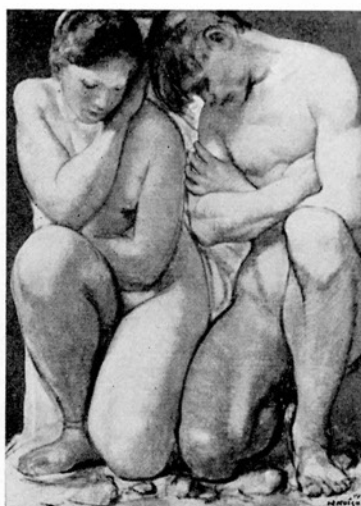
83 哀愁 (二科会展) 東郷青児



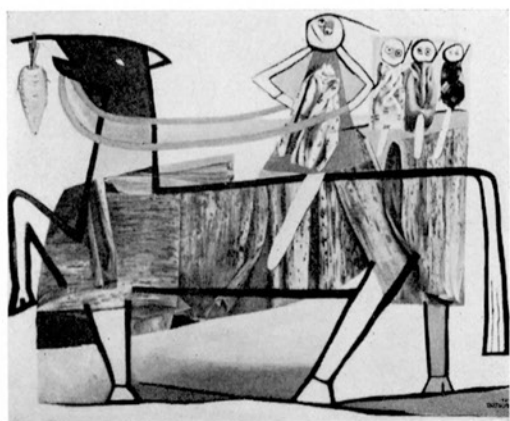
80 窯と働く人々 (二科会展) 北川民次



84 足場 (二科会展) 岡本太郎



81 人間の構図 (日本国際美術展) 小磯良平



88 進め (二科会展) 桂 ユキ子



85 川口 (二科会展) 野間仁根



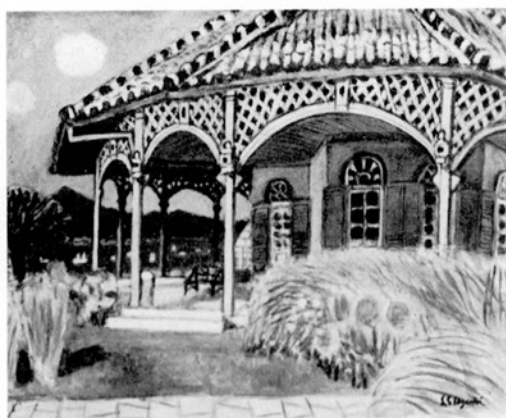
89 ゴルゴダの夜 (行動美術展) 田中忠雄



86 御堂筋の秋 (行働美術展) 古家新



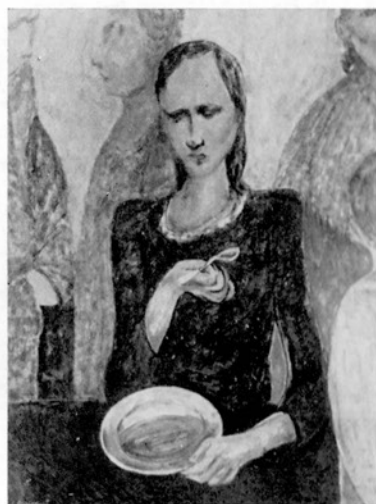
90 残冬 (行動美術展) 向井潤吉



87 蠶々夫人の家 (二科会展) 鈴木信太郎



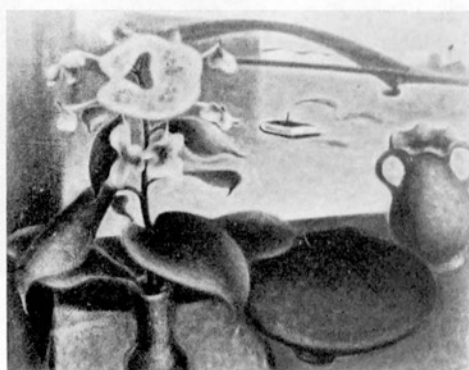
93 作 品 (新制作展) 田中田鶴子



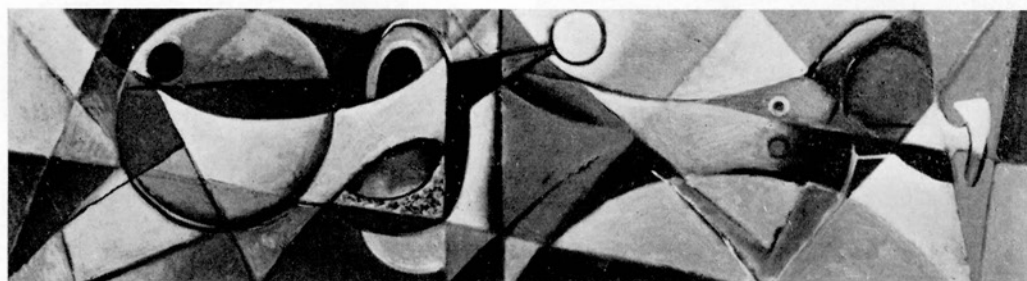
91 マンジャラーレ (立軌会展) 有 岡 一 郎



94 彫塑地風景 (立軌会展) 山下大五郎



92 河 風 (立軌会展) 牛 島 康 之

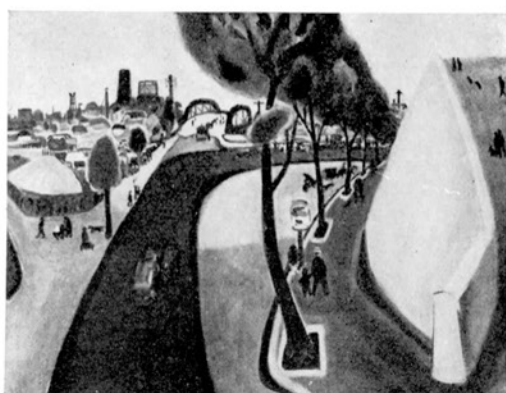


95 出 土 (立軌会展) 榎 戸 庄 衛

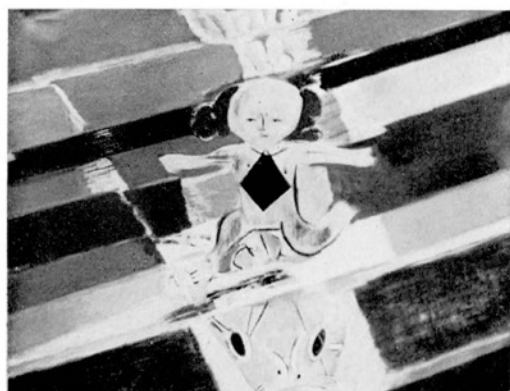




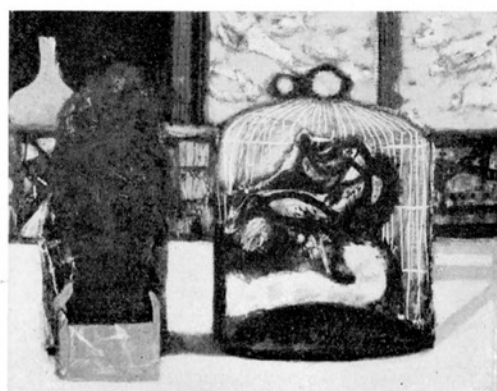
99 海辺の青年 (新制作展) 赤 穴 宏



96 橋のある風景 (新制作展) 太田 忠



100 金 太 郎 (新制作展) 脇 田 和



97 鳥籠と首 (新制作展) 三岸 節子



101 女 (一水会展) 中村 琢二



98 立 像 (一水会展) 安井曾太郎



105 女 (自由美術展) 森 芳雄



102 寒村駅前 (一水会展) 高田 誠



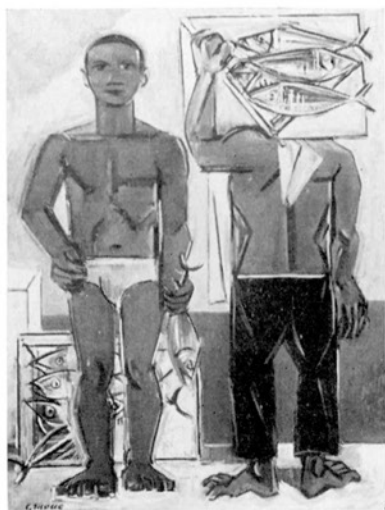
103 須原の水磨 (一水会展) 木下 義謙



106 地と天と (自由美術展) 末松 正樹



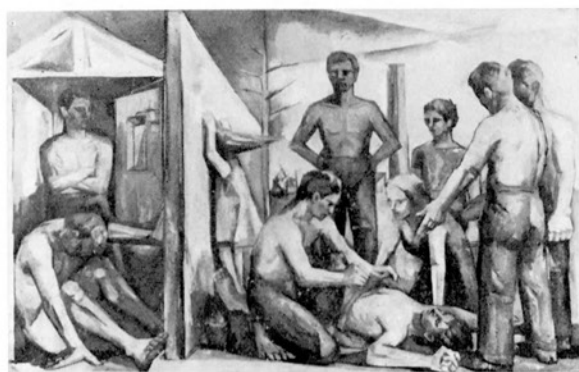
104 残雪 (一水会展) 廣瀬 功



110 漁夫 (自由美術展) 井上長三郎



107 食器と西瓜 (二紀会展) 鍋井克之



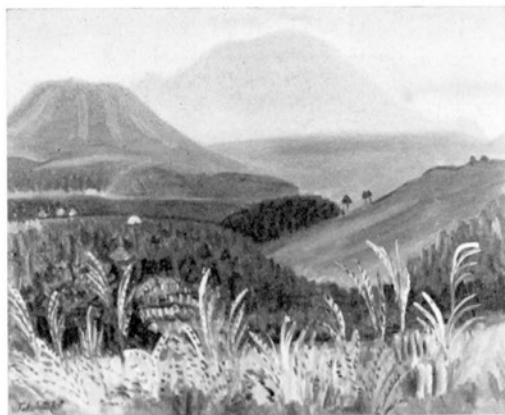
111 犠牲者 (自由美術展) 吉井 忠



108 アンチープのテラス (二紀会展) 佐伯米子



112 街 (自由美術展) 難波田龍起



109 浅間山 (独立展) 高島達四郎



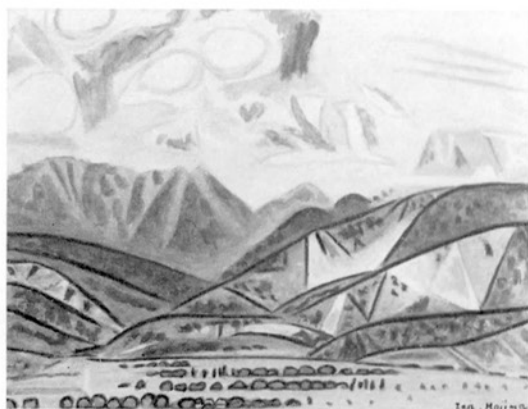
116 岩と波 (独立展) 小林和作



113 春 閑 (日展) 小糸源太郎



117 裸婦 (日展) 中村研一



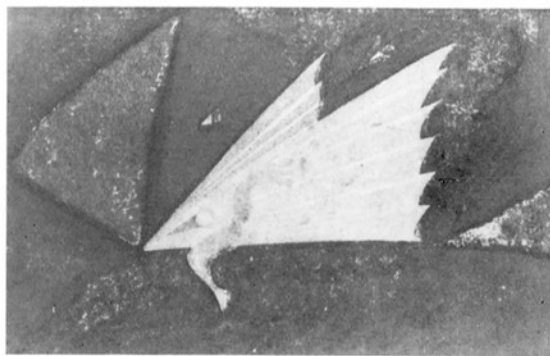
114 高原 (独立展) 児島善三郎



118 残雪の丘 (日展) 田村一男



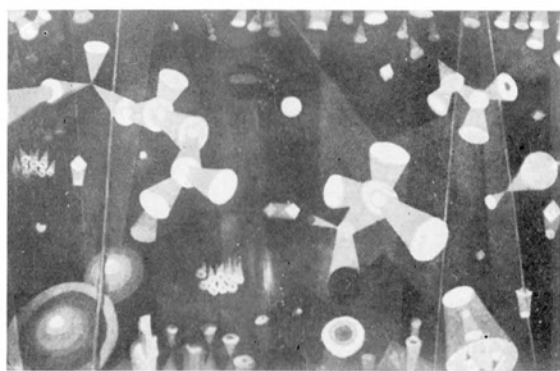
115 湖畔の宿 (日展) 石井柏亭



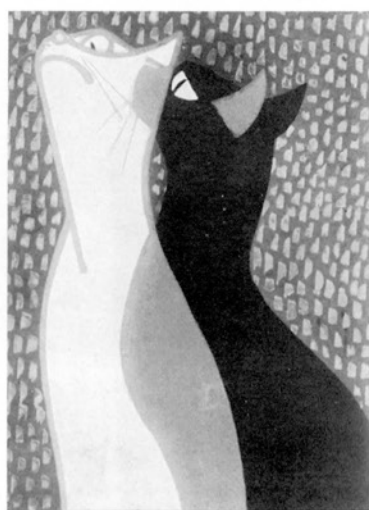
122 夢の中の飛行 (国画会展) 品川 工



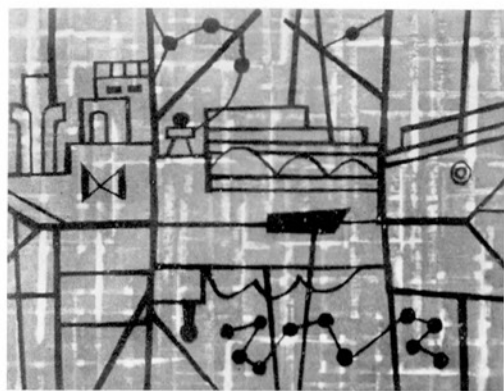
119 コップの中の野花 (日本国際美術展) 長谷川 潔



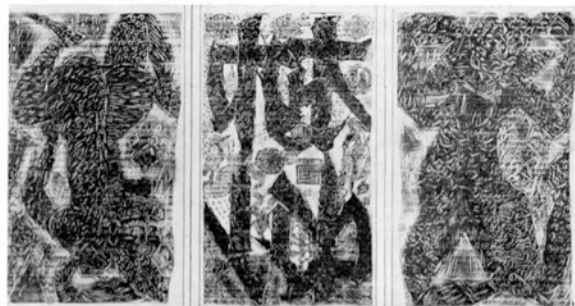
123 時間の玩具 (春陽会展) 駒井哲郎



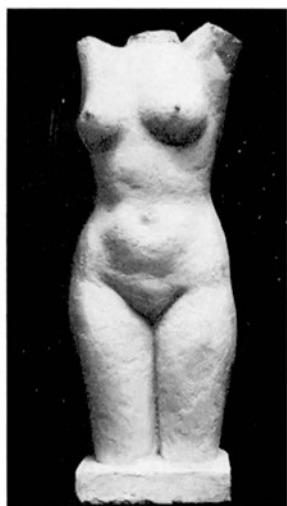
120 凝視 (獲物) (個展) 斎藤 清



124 滞船B (春陽会展) 北岡文雄



121 歡喜頌・佛仰臥 畫板畫屏風 (国画会展) 棟方志功



127 トルス (院展) 山本豊市



126 裸婦 (院展) 千野 茂



125 藤尾峰 (読売アンデパンダン展) 河内山賢祐



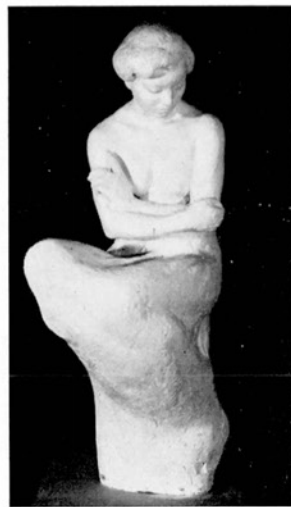
129 作品 9 (モダンアート展) 植木 茂



128 猫 (新樹会展) 木内 克



131 小学教師像 (院展) 石井鶴三



130 女 (六窓会展) 黒田嘉治





135 コダマ (二紀会展) 松村外次郎



132 二人 (行動美術展) 建畠豊造



136 雲の峰 (二紀会展) 中川為延



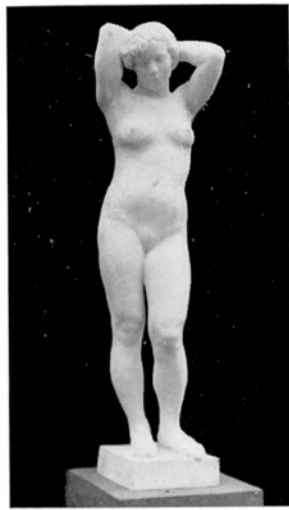
133 わだつみのこえ (新制作展) 木郷新



138 裸婦 (日展) 清水多嘉示



137 半珈琲試作 (院展) 新海竹蔵



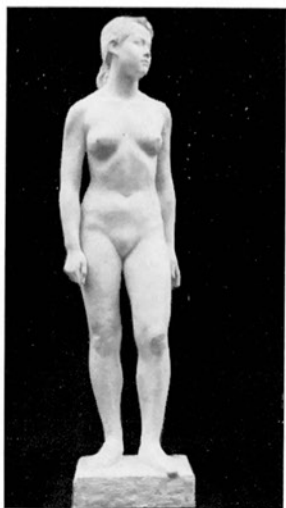
134 ラ・パンセ (新制作展) 柳原義達



142 孤 独 (日 展) 加藤顕清



139 恐 ろ (日 展) 進藤武松



145 心 (日 展) 朝倉響子



143 こ け し (個 展) イサム・野口



140 双 眸 (日 展) 木島正夫

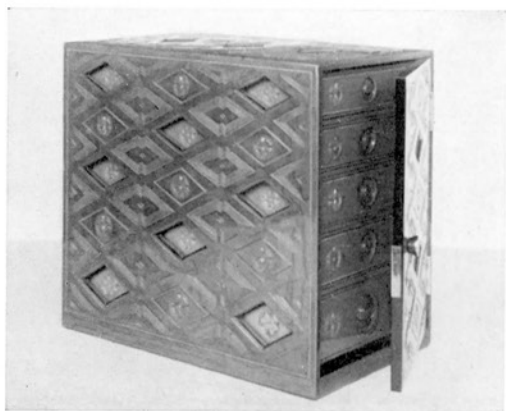


144 芽 ぐ す (日 展) 山本雅彦



141 ヨ ブ (日 展) 水輪六洲





150 推来手元箱（日 展）吉田 模堂



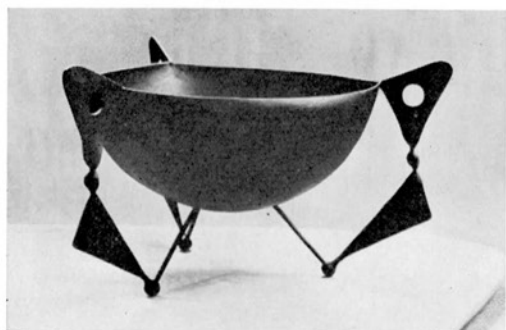
146 クリスタル飾鉢（日 展）各務 鑽三



151 螺旋紋花皿（日 展）田邊竹雲齋



147 クリスタル・コンボート（日 展）佐藤潤四郎



152 鉄の花さし（日 展）芳武茂介



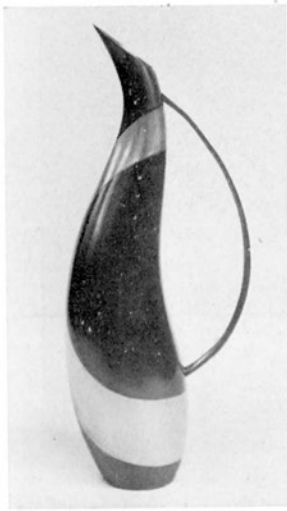
148 花 器（日 展）内藤春治



153 壁画風神雷神（日 展）辻 光典



149 「寒山拾得」躰立（日 展）山崎覺太郎



158 四分一水瓶 (日展) 山脇洋二



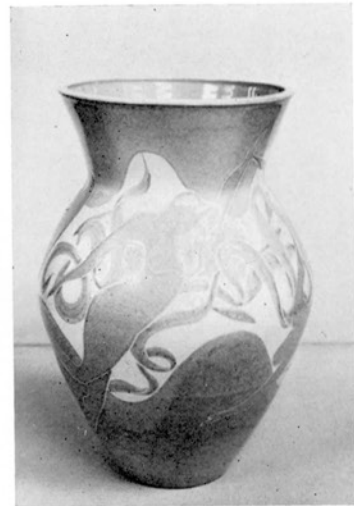
157 虹彩瑠璃華 (日展) 岩田藤七



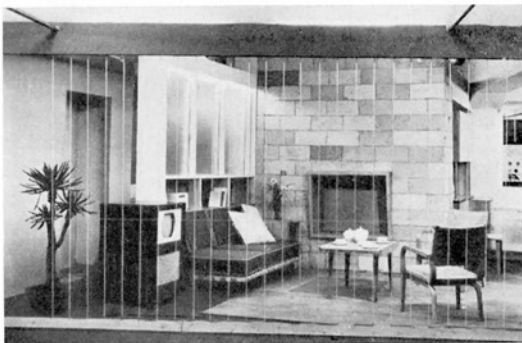
154 蛋殼磁器須絵花瓶 (日展) 板谷波山



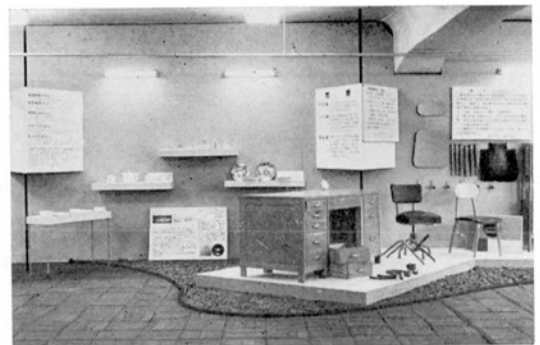
159 事務机と椅子 (JIS家具展示会) 産業工芸試験所作品



155 海女磁製花瓶 (日展) 宮之原 謙



160 モデル・ルーム (新日本工業 デザイン展) 産業工芸試験所作品



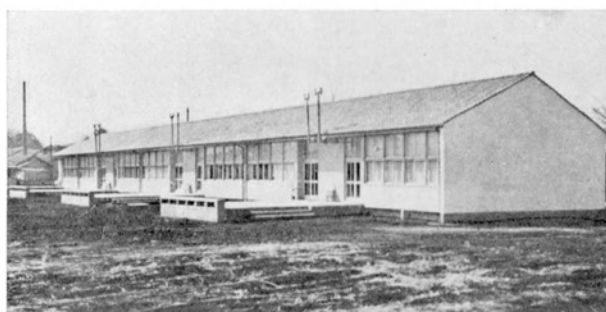
156 作品 (新日本工業) 日本インダストリアル・デザイナー協会々員作品



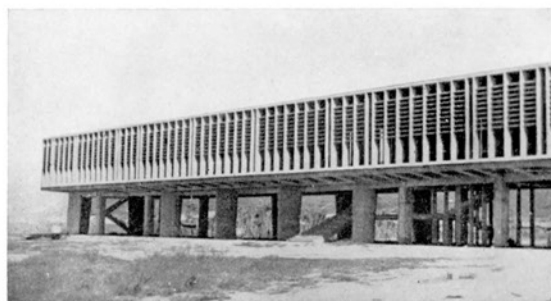
165 名 取 邸 清水一設計



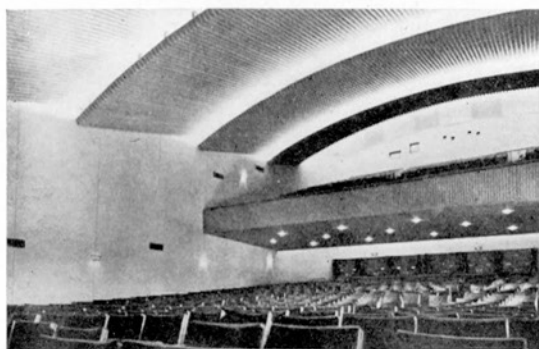
161 梅原龍三郎画室 古田五十八設計



166 成 蹊 小 学 校 吉武泰水設計



162 広島平和記念館 丹下建三計画研究室設計



167 産業会館ビル(内部) 竹中工務店(小川正)設計



163 日 活 国 泰 会 館 竹中工務店設計



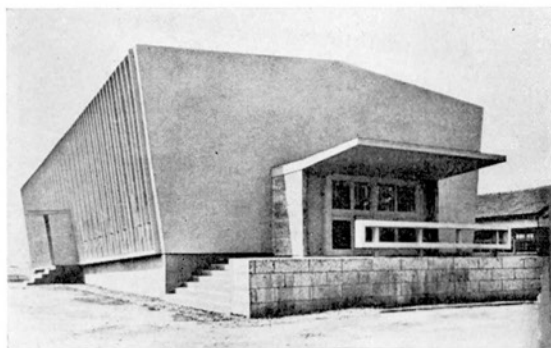
168 大阪銀行備後町ビル 日建設計工務株式会社設計



164 大阪淀川製 鋼事務所 アントニイ・レイ  
モンド事務所設計



173 京 都 駅 日本国有鉄道施設局建築部設計



169 グレセット記念講堂 山口文象設計



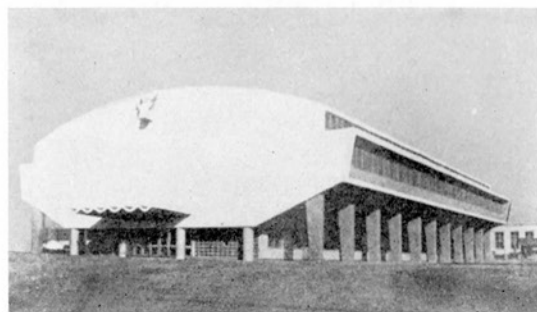
174 産業会館ビル 竹中工務店設計



170 新丸ビル 三菱地所設計部設計



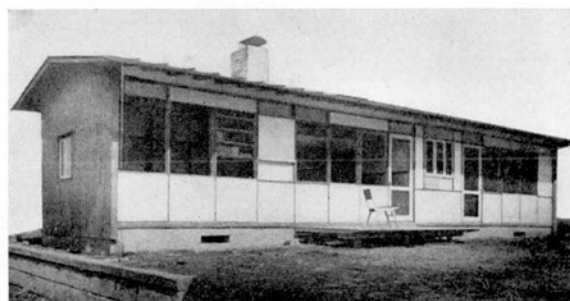
175 日本相互ビル 前川國男



171 仙台レジヤセンター 武 基雄設計



176 ローコストハウス（新制作展）建築総合研究所設計



172 西京風の家 廣瀬謙二設計



179 木造智證大師坐像 (大津市彌城寺唐院藏)



178 絹本墨画 (京都高桐院藏)  
山水圖



177 絹本著色無 (京都東福寺藏)  
準師範像



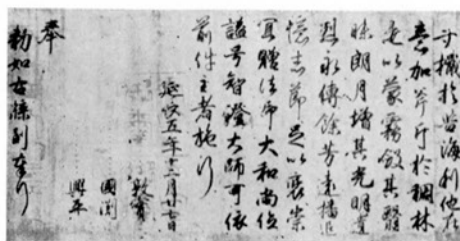
181 聖像彌勒佛坐像 (奈良県當麻寺藏)



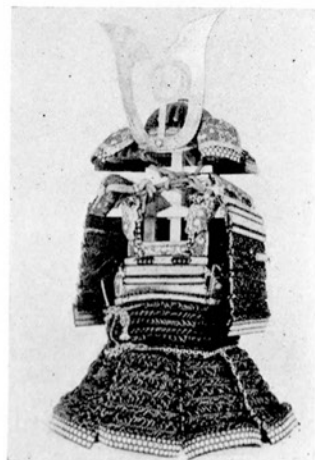
180 刺繡釋迦如來說法圖 (京都勸修寺藏)



182 金銅經箱 (大津市延暦寺藏)



184 智證大師筆号勅書 (国・国立博物館保管)

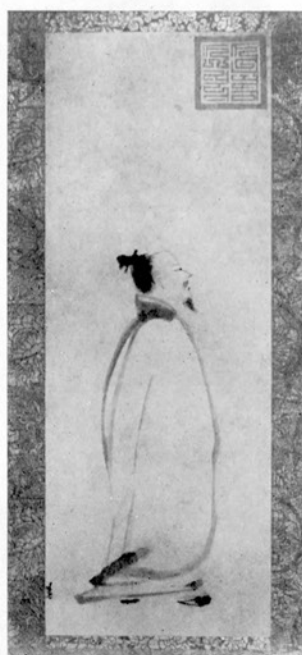


183 櫻島系威肩赤胴丸 (東京秋田重季藏)





191 紙本墨畫連雲帶雪圖 浦上玉堂筆  
(鎌倉市川端康成藏)



189 紙本墨畫 梁楷筆 (國・文化財保  
李白吟行圖 護委員會保管)



192 刺繡三昧耶輪  
(滋賀県兵主大社藏)



190 紙本墨畫 觀音聖人像 (鏡御影)(京都西本願寺藏)



185 金銅透彫尾長鳥唐草文華蓋 (近江安土淨願院傳來)  
(大津市細見亮市藏)



186 橘蒔繪手箱 (新潟県西脇清三郎藏)



187 梁櫛白片身變茶碗 銘不二山光悦作 (東京酒井忠正藏)



188 標谿神社拜殿 (鳥取市)

本

欄

## 昭和二七年美術界概観

### 現代美術

#### 日本画

講和条約発効の年を迎え、美術界全般にわたつて活況を呈したが、日本画もこの情勢の中にあつて近年になく活気を見せた。それは中堅や終戦後あらわれた新人たちの活躍に負うものであつて、一時破局に瀕した日本画の復興のきざしとも考えられる。一般的傾向としては、前年からひき続き洋画的な観照による色彩主義が圧倒的であるが、一方ではわずかながらこれら青年作家の間にわが伝統的な技術の特色を生かそうとする反省の萌芽もあらわれて来ている。また老大家たちの回顧展が盛んであつたことは、観衆が過ぎ去つた時代のわが美術に大きな関心を持つてゐることを語るものであらう。

次に春季の諸展覧会を顧ると、昨年新制作派協会と合体して新制作協会の日本画部となつた旧創造美術の作家たちの活動が目立つてゐる。先ず四月に新制作協会春季展を油絵、彫刻部門と共に開き、更に七月には東京在住の日本画部の作家たちが東京展を開催してそれぞれ研究的な作品を発表した。これらの展覧会では、吉岡堅二の「きじ」、稗田一穂の「奇異鳥」、麻田鷹司の「装蹄場」などが注目された。

春の青龍社は会場藝術を標榜する態度に変わりはなかつたが、全体的に発想が類型におちいり、わずかに川端龍子の「室戸崎」、安西啓明の「新潟旧税関」、市野亨の「五月夜華」、大塚香緑の「千本桜道行」、林心耳の「逆光群像」が個性を示した。日本美術院の小品展は、長老たちの出品がなく、特に挙げるものもなかつたが、郷倉千靉の「仔犬」、小松均の「大原の春」、松田文子の「さすらい」などが話題にのぼつた。再興第二回展を開いた新興美術院の作家

たちはいずれもフオーヴィクな作風をとつて来ているが、それらの中で茨木杉風の「東京百景」、小林巢居人の「新色樹葉」、安孫子荻聲の「夕焼の秋」、岩崎巴人の「情熱の終末」が主なものであつた。

第五回日本美術協会展と第二回日本画院展は、共に特に記すべきものもなかつたが、前者では、前田青邨の「赤絵」、伊東深水の「市場に集うセレベスの女」、兒玉希望の「初夏の花」、後者では望月春江の「つばき」、岩田正巳の「猫」、東山魁夷の「門」などがあつた。

そのほかでは高山辰雄、加藤東一、中村正義などの官展系中堅、新人の研究団体一采社が第一回展を催し、同じく官展系の東山、橋本明治などの六窓会、村松乙彦、奥田元宋などの日月社が、それぞれ第三回展を開いた。六窓会では山田申吾の「山」、橋本の「猫」がすぐれ、日月社展では顧問格の伊東深水の「南の国」が出色であり、そのほか村松の「アイヌ」、奥田の「夕照」が記憶にのこつた。

さらに百貨店や画商の展覧のうちでは、兼素洞の雪月花展の川合玉堂の「暮雪」、清流会の錦木清方の「夏ざしき」、三越の彩光会の福田平八郎の「鮎」などが注目すべきものであつた。また春には数多くの個展が開かれたが、中で奥田元宋、西山英雄、川端龍子、田中案山子などが真摯な努力を示した。

秋季には院展、青龍社をはじめ新制作展、日展が恒例の展覧会をくりひろげた。再興以来三七回の展覧会を迎えた院展では、横山大観の太平洋の龍巻に富士を配した水墨画「或る日の太平洋」をはじめ、小林古徑の「菖蒲」、前田青邨の「湯治場」、中村貞以の「華清之浴」、酒井三良の「海」などがそれぞれ自らの画風を守つてゐるが、いずれも凡作に終つた。同人の作品では郷倉千靉の「春日苑」、奥村土牛の「花」、太田聰雨の「飛天」などが佳作とされた。一般的に院展の作家は形式になじみすぎているが、これらの中に在つて小松均、酒井重人、岩橋英遠、島田訥郎、松田文子、前田暉などが新鮮な息吹を吹きこんでゐる。

青龍社は例によつて大作にあふれたが、中でも龍子の「涼露品」は蓮に驚を表わした六曲一双の大作であつた。そのほか社人の作品としては、加納

三樂の「七夕」、市野亨の「彩夜」、琴塚英一の「夢殿」、竹内未明の「彩雲」などが注目され、新人のものでは加藤輝三、水島裕、佐々木邦彦などの作品があげられた。

続いて開かれた新制作展の日本画部では、山本丘人の「岳」、吉岡堅二の「雉子」に意欲的な作風の発展が見られ、上村松篁は保守的なが静寂な画風の「蓮池」にその本領を示した。そのほか澤宏毅の「六甲山」、福田豊四郎の「八幡平」などが注目されたが、新制作が生んだ稗田一穂、堀文子、岩崎鐸は自己の様式に停滞してしまつた感があつた。新人として信太金昌、朝倉攝、野崎貢などがそれぞれ新様式を開こうと努めている。

日展は、その所屬作家も一般出品も他の団体に比して大世帯であり、殊に本年は中堅以下の作品に努力の大作が多数集つた結果、非常な盛況を呈した。藝術院会員、審査員級の作品としては、徳岡神泉の「池」が群を抜き、本年度日本画壇の収穫とされたのははじめ、小野竹喬の「雨の海」、伊東深水の「夢多き頃」、山口蓬春の「海芋と岬」、山口華楊の「白い馬」、望月春江の「夜の花」、加藤榮三の「沼のある風景」、勝田哲の「更衣」、金嶋桂華の「鯉」、橋本明治の「浴室」、杉山寧の「自転車」、東山魁夷の「谿」などが注目された。ここでも岩田正巳の「秋好中宮」や服部有恒の「をとめと赤駒と」、江崎孝坪の「鉄塔相伝」などのような伝統的な主題や手法はきわめて稀で、近代的な主題と線描をすてた色彩主義が盛んに行われている。これは新人たちの一般的な傾向と言つていい。それらの中で中村正義、麻田辨次、大山忠作、尾山職、堂本元次などの特選は、妥当な授賞と言えよう。

以上の諸展覧会のほか、春には朝日新聞社の主催による古徑、靱彦、青柳の三人代表作展と読売新聞社による小林古徑記念展が同時に開かれ、好評を博した。また初冬には国立近代美術館が開館第一回展として一九〇〇年以降のわが日本画、洋画の主要作品を展覧して多くの観覧者を得たことは意義が深い。

本年度は日本画団体の大きな動きはなかつたが、結城素明、青木大乗等の大日美術院と、京都の耕人社が理事長塚本一洋の逝去を機として解散した。

(隈元謙次郎)

## 洋画

昨年にひきつづき本年度も海外美術の紹介がさかんであつたが、更に今年には外国の諸展覧会から出品の招待をうけて日本の現代画家の作品が多数国外で展覧され、国際的な美術交流がはじまつたことは特筆すべき事柄であつた。国内では六月に毎日新聞社主催の第一回日本国際美術展が、九月には東京国立博物館と読売新聞社共催のブラック展が開催された。前者ではフランス、アメリカ、イタリア、ベルギー、ブラジル等の現代作家の作品と我が国の作家のものが並んで展覧され、後者ではブラックの自選した油絵二一点、彫刻一一点、版画六三点そのほか挿絵と画集などが陳列されて、何れも少なからぬ感銘と示唆を与えた。このほか複製ではあるがアメリカの絵画発展の跡を示したアメリカ絵画展、インド美術展、ベルギー現代美術展も開かれ、各国の今日の動向を伝えて興味を呼んだ。これらの輸入された外国美術に対し、今までのような無批判な追従、形式的な模倣はわりあい少なく、動揺せず落ちついて考える態度が窺われ、後に述べる海外展の批判とともに日本の絵画に対する反省という方向へ向つて来たと思われるのは喜ばしい傾向であつた。一方海外の展覧会から出品招待も多く、日本の現代絵画は国際的な舞台へ進出していつた。先ずパリのサロン・ド・メエの外国部に梅原龍三郎、安井曾太郎及び中堅作家達一九名の作品が送られ、ヴェニスでのビエンナーレ国際美術展には洋画と大観、古徑等の日本画も出品された。更にパリで開かれた文化自由会議主催の二〇世紀傑作展、アメリカの現代日本美術展、同じくアメリカのカネギー国際展などにもそれぞれ招かれて出品した。しかしこうした海外展への出品作が各地で何等の反響も起さず黙過されてしまつた結果については、各々の展覧会の目的や性格に対する知識が充分でなく作品の選択などの出品方法にも手落ちがあつたことが指摘されているが、むしろ問題は作品自体にあること、戦時中の空白、近代性の欠如、日本の現代絵画が世界的な水準に達しているかどうか、など日本の油絵の立場が改めて反省されて来た。パリのサロン・ド・メエで見た日本出品作について渡欧中であつ



た評論家今泉篤男の帰国後の発言（東京新聞八月一・二日、美術批評八月号）は美術界に意外な反響を呼び起した。近代画としての日本の絵のもつ弱点を具体的に例をあげ、更に作家、批評家への反省をうながしたものに、けに美術ジャーナリズムのとり上げるところとなり、多くの作家、批評家が各自の立場を述べるなど活潑な論争が展開されたのは注目すべきことであつた。海外展で好評を博したのはスイスのルガーノで開かれた第二回国際版画展に出品した棟方志功、恩地孝四郎、齋藤清、駒井哲郎の版画で、中でも棟方の木版画、駒井の銅版画は受賞した。いずれにしてもこのような海外との交流が大きな刺激を与えたことは本年中の収穫といわなければならない。

画家や評論家の渡欧も多く、ヴェニス、のビエンナーレ展の審査員として梅原龍三郎が、ヴェニス国際藝術家会議の美術代表として益田義信が、第四回世界美術評論家会議に富永惣一が出発した。このほかにも青山義雄、福澤一郎、宮本三郎、佐伯米子などが渡欧したが、いずれも既に一家をなした人達が国際的な用務をおびて渡航する場合などが多く、戦前画学生の留学が多かつたのに比べて、一つの特徴をなしている。

数多い各団体の公募展は例年の如く行われたが、既に創立当時の意義もすれ、性格も比較的似かよつたものになつてきた現在、むしろ団体の特殊関係からくる弊害が多く、解消すべしとの意見もあらわれてきている。今年の団体展の一般的傾向としては情性的な描写主義や表面の華やかなモダニズムに停滞していた面もあるが、近代絵画への反省からきびしい今日の現実へぶつかるという態度がきざしてきたことは今後を期待させよう。本年は圧倒的な評価をうけた作品はなかつたが、主な展覧会にふれてゆくと――

春陽会ではかつての重苦しい暗い春陽会調を脱け、明るい近代的表現に向つてゆき国画会も中堅作家によつて新しい歩みが始まつてきたことは一般に迎えられた。しかしこうした傾向とは別に好評であつた作品は、春陽会で中川一政「漁舟帰る時」、木村莊八「窓外風景」、中谷泰「厨房」、水谷清「西瓜のある静物」、版画では北岡文雄「滞船」、駒井哲郎「時間の

玩具」などで、国画会では青山義雄「櫻島」、川口軌外「花」、久保守「男」、宇治山哲平「静物」が注目された。第一回国際美術展の日本作品としては梅原龍三郎「ミモザ」、海老原喜之助「ボンサマルタン」、林武「静物」等があげられる。九月に入ると二科会や行動美術協会、新制作協会、一水会などの公募展が華々しく開かれた。前年にひきつづき二科会の前夜祭、福引きなどのアトラクションはそろそろひんしゆくをかい、又二科、行動に向けられた期待は近代派の形式主義的態度の批判となつた。二科展では岡本太郎「足場」、北川民次「窯と働く人々」、桂ユキ子「進め」等があげられ、立軌会展では牛島憲之「河原」が取りあげられた。新制作展は会の方針として生活への結びつきを意図する方向に向つてゐるが、ここでも形式だけの安易なモダニズムに陥り易い因子を含んでゐるのが危惧された。脇田和「金太郎」「捕虫網」、三岸節子「鳥籠と首」、田中田鶴子「作品」、玉置正敏「非安息日」が好評であつた。描写主義をつづける一水会は例年とさした変りもなく安井曾太郎「立像」、木下義謙「須原の水槽」等がめだち、二紀会では鍋井克之「食器と西瓜」、独立展では高島達四郎「浅間山」、兒島善三郎「高原」、小林和作「岩と波」、またいろいろと期待がかけられてゐる自由美術展では森芳雄「女」、井上長三郎「漁夫」等が注目された。日展では田村一男「残雪の丘」、小糸源太郎「春閑」、田崎廣助「阿蘇山の晩秋」、森田元子「春の婦人像」、木下孝則「少女読書」が話題となつた。そのほかに本年は個展や小さなグループ展の開催が昨年の倍近くといつてよいほど著しく多くなり、しかも相当数の観賞者を集めてゐることは注目される。各団体の数多く並んだ狭い壁間に僅か一、二点の作品を発表する以外に、数点の作品を連ねて自己の意図を明確にうち出そうとして個展発表が企図されるようになったと思われ、作家の意欲を示すものとして喜ばしい傾向と考えられる。評判となつた個展には三雲・小川二人展、古茂田守介、福澤一郎、今井俊満、荒井龍男、難波田龍起、漆原英子、川口軌外、高島達四郎、杉全直、山口薫、菅野圭哉等がある。また神奈川県立近代美術館の海老原喜之助・福澤一郎展、佐伯祐三展等の回顧展が各作家の代表的な作品を集めて体系的に見ることが出来、意義のある催しとなつた。



本年の文化勲章受賞者には美術界から洋画家の梅原龍三郎と安井曾太郎が選に入り、その榮譽をうけた。

なお長い間その実現を期待された国立近代美術館が一二月開館し、その第一回展に「日本近代美術展」を開いて、明治以後の日本画、洋画の回顧と展望を可能にしたことは大きな朗報であつた。(岡 畏三郎)

## 彫 刻

都市や建築の復興とともに、彫刻が広場や建築の装飾として進出して来たことは前年のことであるが、新制作展をはじめその他の展覧会でもかような意図のモニュメンタルな作品が次第にあらわれて来ている。また自然主義的な作風を守る日展は別として、各展覧会に抽象的な作風のものが目立つて増加して来たことは絵画や工藝の場合と同様であり、中には創造的なものもあらわれて来た。さらに近來絵画を主体とした団体展にも彫刻部が置かれ、本年はそれぞれその特色を示しはじめたことは、彫刻発展のために喜ぶべきであらう。

次に春の展覧会を瞥見すれば、新樹会では引き続き木内克がたくましい制作意欲を示した。出品の中では木内の「猫」、清水多嘉示の「女の首」、山本豊市の「女の首」がすぐれていた。モダン・アート展では植木茂の「作品(九)」が独創的なものであつた。

秋の院展では、新海竹藏の「半跏像試作」、石井鶴三の「小学教師像」、山本豊市の「トルス」、中村直人の「南泉斬猫」、大内青圃の「摩利支天女」や辻晋堂、宮本重良が注目され、また新人櫻井祐一、千野茂、田中太郎なども将来を嘱目された。二科展では非具象的な作品が増加してその特色をなしているが、全体としては笠置季男の「力」がその本領を示し、そのほか關谷充の「爪切る女」、淀井敏夫の「立像」、堀内正和、植木力がそれぞれ注目された。行動美術展の彫刻部も漸く充実して来たが、中では林是の「うずくまる」や野崎一良の「エチュード」、モダニ派の建昌覺造の「二人」、中島快彦の「群」、阿井正典の「作品」などが挙げられる。

新制作展では、佐藤忠良の「群馬の人」が好評を博したほか、柳原義達

の「ラ・パンセ」、伊東傀の「首」、本郷新の「わだつみのこえ(3)」や新人西常雄、永田大石などの作品があり、二紀展では松村外次郎の「コダマ」、中川為延の「雲の峰」が注目された。

年度内掉尾の日展の彫塑部は、その人員においてまた出品において他に比して規模が大きい。また本年は従来若くして屢々特選をかち得た女流作家朝倉響子が、二六歳で審査員に選ばれたことは彫刻における新人たちの輩出を象徴するかのようで、喜ばしいことである。さて日展の傾向は著しい変化はなく、穏和な自然主義或は写実主義的な作風が大半であるが、本年は木影が陳列品の約三分の一を占めたことは、わが伝統的な木彫の甦生を語っている。出品中主なもの挙げると朝倉文夫の「平和来」、清水多嘉示の「裸婦」、加藤顕清の「孤独」、山本豊市の「イウ」、澤田晴廣の「三華」や畝村直久、黒田嘉治、古賀忠雄、朝倉響子、野々村一男、木島正夫、山本稚彦、進藤武松、安田周三郎、佛子泰夫、綿引司郎、富永良雄などがあつた。

また秋にはイサム・ノグチが鎌倉近代美術館において個展を開き、わが国の伝統を生かした独自の作風で話題を呼び、また新設の中央公論社画廊がその開館第一回展として高村光太郎の回顧展を催した。

本年中の個展としては、森野圓象、大須賀力、黒田嘉治、河内山賢祐などがあつた、それぞれ努力のあとを示した。(隈元謙次郎)

## 工 藝

昨年来次々に入つて来た外国美術の影響や海外工藝の情況に刺激されて工藝の中にモダン・アート、特にアブストラクトの傾向が強くなつて来たこと、更にインダストリアル・デザインが重要視されて来たこと、及び貴重な伝統的工藝技術が文化財保護委員会から無形文化財の選定をうけて保護の対象となつたこと等が昭和二十七年の工藝界の大きな出来事であつた。

アブストラクトの傾向は中堅作家達によつて押し進められ、六月創立第一回展を開いた創作工藝協会、新制作協会建築部の会員達が活潑な動きを示した。日展の工藝は個々の美的要求から発した様式と手堅い技術を求め

る方向に向つてゐるが、ここでも伝統の技術とともに一方ではモダン・アートの試みが浸透して來てゐることは否めない。先年來日して注目をうけたイサム・ノグチの神奈川県立近代美術館における第二回目の個展やレイモンド夫妻の工藝作品展等に見られる簡潔な表現、日本固有のものを近代化した方法等による影響も見逃せない。

インダストリアル・デザインの研究は一そう盛んとなり、毎日新聞社の主催による新日本工業デザイン賞が設定され、コロンビアの電著及びラジオ・キヤベネットを設計した柳宗理が推薦となつた。更に新日本工業デザイン展示会、第四回中小企業輸出振興展、美と産業展等が開催され、工業デザインやディスプレイに対する関心が高まつて來た。一〇月には劍持勇、柳宗理等により日本インダストリアル・デザイナー協会が設立されたが、これもこの氣運の一つのあらわれといえる。

一方、高度の技術と多年の熟練を要するために次第に減少しつつある工藝技術に対して文化財保護法によつて保存がはかられることになり、本年はじめてその選定が行われた。漆藝の河面冬山、塗の松波多吉、木画の木内省古、上絵付の加藤土師萌、織部焼の加藤唐九郎等の個人の技術と東京都八丈島の黄八丈、東京都一円の木版画等多人数に及ぶものなど各方面にわたつてゐる。これらの技術はこの機会に秘法を公開されたものもあり、今後この無形文化財選定に期待されるものがある。

本年の展覧会に発表された作品の主なものを見ると、創作工藝協会展の佐藤潤四郎、佐治正の作品、新制作協会展吉村順三「食卓と椅子」、日展田邊竹雲齋「螺旋文花瓶」、吉田樸堂「堆朱手元簞笥」、宮之原謙「海女磁製花瓶」、山崎覺太郎「寒山拾得衝立」、板谷波山「蛋殼磁具須絵花瓶」、内藤春治「花器」、岩田藤七「虹彩瑠華」、各務鑛三「クリスタル鉢鉢」、芳武茂介「鉄の花さし」、山脇洋二「四分一水瓶」、辻光典「壁画風雷神神」等がある。

日本から海外へ出かけたのは、デザイン研究に渡米した劍持勇と、八月イギリスのダートンで開かれた国際陶工染織工大会に出席のため渡英した民藝関係の柳宗悦、濱田庄司である。濱田庄司はバーナード・リーチとともにイギリスやアメリカで陶器展を開き、好評をうけた。

技術尊重と同時にデザインの近代化の方向が強く浮び上つて來た年といえよう。(古谷涼子)

## 建築

終戦後簡易建築による商店街が先ず復興したが、建設省をはじめ各都市の住宅政策にもかかわらず最も払底してゐる住宅の建設は思うように進捗を見ずに今日に至つてゐる。然るに前年來東京、大阪をはじめ各都市に銀行、会社等のビルが續々と建ちはじめ、街の様相を一変しつつある。この現象に対しては建築家側からもきびしい批判の声が興つてゐる。

しかし、それはそれとして、これらのビル建築の表現が明快な立方体となり、窓や入口なども極端に簡略化され、その壁の色も淡緑や淡青を用いるなど建築そのものが極めて輕快になつて來てゐる。設計上からは合理的、実質的となり、われわれの近代生活に合致するものとなつて來た。このことはアメリカ、フランスなどの影響もあるが、わが建築界の進歩とも言えよう。

住宅建築は、住宅公庫や各都市の補助による一戸建住宅のほか、わずかながら建設省その他のアパート建築が進められて居り、その建築も明快な合理的なものとなりつつあつて、将来のわが住宅建築のあり方を示している。

次に本年中に完成した主な建築を挙げると、東京では、竹中式基礎工法によつて建築学会賞、毎日工業技術賞を受けた日活国際会館(竹中工務店設計)、外観、構造に清新な表現を試みたものとして好評の日本相互銀行本店(前川國男設計)をはじめ、新丸の内ビル(三菱地所設計部設計)、日本楽器銀座ビル(アントニイ・レイモンド設計)、ミキモトビル(同上)、千代田電話局(郵政省施設局設計)、新光ビル(三菱地所設計部設計)、三共菊秀ビル(佐藤武夫設計)や松坂屋(日建設計工務会社設計)、高島屋(村野、森建築事務所設計)などの増築が主なものである。

京都では、京都駅(国鉄施設局設計)、大阪では産業会館ビル(竹中工務店設計)大阪銀行備後町ビル(日建設計工務会社設計)淀川製鋼事務所(アン

トニイ・レイモンド設計)がある。また地方では広島平和記念会館(丹下健三計画研究室設計)、横浜関東学院内のグレースット記念講堂(山口文象設計)、仙台のレジヤ・センター(武英雄設計)などがある。

また学校建築として注目されたものに成蹊小学校(吉武泰水設計)があり、住宅建築として画家梅原龍三郎の住宅及び画室(吉田五十八設計)、西京風の家(廣瀬謙三設計)、竹田教授の家(清家清設計)、名取邸(清水一設計)などがあつた。

なお、新制作展建築部では、山口文象が試作ローコースト・ハウスを發表して注目された。

(隈元謙次郎)

## 古 美 術

古美術の保存行政を担当する文化財保護委員会の組織改正が新年度とともに実施され、同委員会事務局の総務、保存の二部制は撤廃され、同時に同委員会所轄の機関として、東京、京都、奈良の三国立博物館及び東京、奈良の二文化財研究所が発足した。従来の国立博物館を東京国立博物館とし、市立京都博物館を移管し京都国立博物館、国立博物館奈良分館を独立せしめて奈良国立博物館とした。また従来の美術研究所に保存科学、藝能の二部を加えて東京文化財研究所を構成、奈良文化財研究所を新設した。わが古美術の淵藪である京都、奈良にそれぞれ独立の国立博物館及び文化財研究所が設置されたことは、立地条件として適切であり、その運営が古美術界に資するところ多きを期待されよう。

文化財保護委員会は、二十七年三月第二回一二六件、同一年第三回一一一件の国宝、同年三月第一回一一五件、同七月第二回七六件の重要文化財の指定を行つた。同時に文化財の修理及び防災施設等も進行し、その主要な例を挙げれば、五月法隆寺五重塔、一〇月薬師寺東塔が落成、一〇月平等院鳳凰堂の解体に着手、一二月法隆寺金堂の立柱が行われるなど、いずれもわが建築史、美術史上第一級の遺構の修理として留意に値する。

しかし民間における古美術品、特に未指定のものの海外流出、或は指定

のもの、の屈出ない転売は、終戦以来の傾向で、本年屢々新聞紙上にも文化財保護行政の致命的な欠陥として指摘されたが、現在の法制及び予算の枠内で如何ともなし得ない状態であることは、歴史乃至民俗資料の散佚の場合とも軌を一にするところで、適切な対策を講ぜられる必要があろう。また七月一八日奈良県下の地震によつて薬師寺金堂本尊の脇侍月光菩薩像が傾き、且つ頸部の亀裂甚しく危険な状態となつたため、文化財保護委員会では調査の係り官が頭部と胴体とを通して存した鉄心を切つて、頭部を外して像を横たえた。この処置に対して、寺側及び同委員会の専門審議会委員側から重大な抗議が提出されて世上物議を醸したが、一二月に至り、修理委員会が成立、今後修理の対策に當るべく決定した。

国際的な活動としては、同委員会は七月パリで開催されたユネスコの「武力紛争時における文化財保護に関する国際条約」草案審議のために、事務局より建造物課長岡野克を派遣し、わが文化財の特異性とその状況を説明、条約に参加すべく準備するところがあつた。更に八月米国からフリア美術館のウエンレイ、メトロポリタン博物館のブリスト、フオグ美術館のワアナア三氏が来朝して、かねて懸案であつた米国における日本古美術展の具体化の要請があつた。一八八一年一カ年に亘り、ワシントン、ニューヨーク、シヤアトル、シカゴ、ボストンの五カ所で開催されるべきわが古美術展のために、国宝を含んで代表的な絵画七七点及び彫刻一四点が撰定され、一二月米国に向けて発送された。この長期間に亘りしかも著しく異なる風土における古美術品の展覧及び輸送に関しては、懸念される点多く、万全の処置を要望されるが、前年のサンフランシスコにおける展覧につづき、よりよき日本古美術の紹介として、未曾有の企画であるこの展覧が、日本文化の国際的な認識を高めることを切に期待される。

国内にあつても、奈良その他地方の諸寺が、有力な新聞社等を後援として、東京のデパートに進出してその所蔵文化財の展覧を開催することが盛行した。主なものとして、二月三越における春日神社、興福寺展、八月高島屋における東大寺展、一一月三越における法隆寺展があつた。これら遠隔の地にあつて容易に接し得ない古文化財の大都市における紹介は、多数



の観衆の注意を喚起しその反響大である利点は見逃し得ないと同時に、文化財保存との相反性については、海外の展覧とおなじく幾多の問題を含むものであらう。

博物館、美術館で行われた留意すべき展覧としては四月東京国立博物館の日本染織美術展、一〇月同館八〇周年記念所蔵名品展、一〇月大仏開眼一二〇〇年にちなむ奈良国立博物館の正倉院御物展等が挙げられ、民間のコレクシヨンとして七月箱根美術館の開館、一二月大和文華館所蔵品の奈良国立博物館における初公開が注目される。多くの展覧が、相当規模の下に定石的な陳列を常套とする間にあつて、ともに秋行われた大阪市立美術館の原始美術展、鎌倉近代美術館の中国黒陶展が、いずれも僅少な陳列点数ながら、選ばれた作品そのものの示す近代美術と共通する感覚が、観衆の共感と呼び好評を博したことは、今後古美術の展覧に関して多くの示唆を含むものとして、付記すべき要があらう。

古美術の研究面にあつては、五月京大人文科学研究所の水野、長廣兩教授の「雲崗石窟第八洞、第九洞の研究」に対して、恩賜賞が授与されたことを先ず挙げなければならない。ひきつづき刊行中の「雲崗石窟」の一部をなす成果であるが、この背後に兩教授の昭和十三年から一九年に及ぶ北支那石窟寺群の調査と研究の業績があることはここに云うまでもない。おなじく大陸関係の出版として、京大田村教授の「慶陵」の図版、また顧闕中筆韓熙載夜宴図巻の複製などの刊行は、学界に希観の資料を提供するものとして注目される。

わが古美術の図録として、東京国立博物館の「宗達光琳派図録」寫楽版面全集」第一巻等は本年の標準的な出版であり、堀口博士の「桂離宮」川島織物研究所の「日本上代織技の研究」等は、従前とかく図版その他の点で制約を免れなかつた古美術研究書の出版がようやく順調となつた本年の代表的な刊行と云えよう。

研究の実際については、東京文化財研究所が本年度機関研究として文部省科学研究費を受けて、Xレイ以下古美術品の光学的鑑識に要する機械的施設をほぼ完備しうることとなり、その成果は今後に俟たざるを得ないが、

全国唯一の設備として期待されることであり、同研究所として多年従事した光学的研究に一段階を劃するものがある。また、一月行われた、平泉無量光院址の発掘によつてそのプランが鳳凰堂と相似て更に大規模な事実を確認されたが、古美術の研究方法が、従来の範囲に止まらず、次第に技術的にも総合的となり、且つ拡大化する傾向の必然性を、これらの例に徴して認められるところである。

普及面にあつては、昨年創刊された東京国立博物館の月刊「ミュゼアム」と大和文華館の季刊「大和文華」の二誌が、在来の専門誌に伍して古美術を対象としながら一般教養と研究発表の中間線に沿つて、新しい立場を確立し、また本年毎日出版を得た美術出版社の「日本の彫刻」岩波の「少年美術館」東洋館など、一般鑑賞の出版も盛である。更に東京国立博物館では、先の「美の殿堂」、「上代の彫刻」につづいて本年「桃山時代の美術」の映画制作を完成した。他にも廣重の東海道五十三次の映画化が企画されたが、多大の経費を要する映画制作は、その発展を予約し得ない現状にある。

古美術を保存、展観、研究、出版等の各面から概観して、国民生活の安定とともにいずれも一応の順調な歩みを進めたといひ得る本年の傾向ではあるが、その内幾多の問題を含み、将来の解決に俟つべきものの多いこともまた付言しなければならないところであらう。

(熊谷 宣夫)

## 昭和二七年美術界年史

一月

○土曜会創立 大阪在住の工藝家の研究団体として昭和二五年一月発足した土曜倶楽部は、更に京都からの作家八名を加えて土曜会として一月から新発足した。工藝の新しい研究と京都大阪の作家の連携親睦を趣旨としている。

○「美術批評」創刊 「みづる」美術手帖を発行している美術出版社から月刊雑誌「美術批評」が創刊された。一般的な啓蒙、鑑賞を目的とした雑誌とはちがつて美術界の問題が批評的に取扱われている。

○一九五二年サロン・ド・メエ出品発表 表展開催 毎年五月パリで開かれるサロン・ド・メエは昨年我が国でも展覧され注目を受けたが、今年からその外国部に我が国の作家も出品することになった。毎日新聞社の斡旋により一九名の作家の作品が集り、その国内発表展が一〇日から一八日まで日本橋高島屋で開かれた。

○ブリッヂストン美術館開館 昭和二六年東京の京橋に新築されたブリッヂストンビルの一階に常設近代美術館としてブリッヂストン美術館が一日開館した。西洋近代絵画と日本洋画の蒐集

で著名な石橋正二郎のコレクションを主に展覧する。

○国立近代美術館の建物決定 昭和二五年の九月に原案が作られ、二六年度に一億円の予算で建設される予定であった国立近代美術館は敷地の問題で捗らなかつたが、一五日京橋の日活本社を買上げることに決定した。改装して美術館として使用することになった。

○アメリカ絵画展開催 国立博物館表慶館において一月二四日より二月二四日までの一ヶ月間、複製によるアメリカ絵画展を開催した。CIEの企画にもとづき現在までのアメリカ絵画の発展史を原色複製によつて展示したものである。

○第三回毎日美術賞授賞式行わる 第三回毎日美術賞の授賞式が二六日毎日新聞社において行われた。受賞者は第五回美術団体連合展出品の「暮色」による高島達四郎、第五回新樹会出品の彫塑作品による木内克の二人である。

○ルガーノ第二回国際版画展出品展示 会開催 四月一〇日から六月二日までスイスのルガーノにおいて開催される第二回国際版画展に我が国からも出品することとなり、国際文化振興会によつて恩地孝四郎、棟方志功、齋藤清、駒井哲郎の四人の作品が送られた。国

内展示会は日本橋三越において一月二九日から二月三日まで開かれた。

○ユネスコから浮世絵複製の希望 ユネスコ事務局文化活動部のビータ・ベリウから日本政府ユネスコ常駐代表萩原徹に対し、浮世絵版画の複製五〇セット（一セット一〇〇枚）を購入し、希望するユネスコ加盟国に一セットないし二セットずつ貸し出し、これを博物館や学校などで展示させたいという趣旨の依頼があつた。文化財保護委員会、国立博物館が協力して、作家を指定するなど準備をはじめた。

○ロサンゼルス中国陶磁展へ我が国からも出品 アメリカ、ロサンゼルスのカウンティ・ミュージアムで三月一五日から四月二七日まで開かれる予定の中国陶磁展にわが国にある最高級の陶磁器一五点が特別出品されることになり三十一日送り出された。国立博物館のほか細川、岩崎、長尾各家所蔵の宋明時代の作品である。

○第二回アトリエ新人賞決定 第二回（昭和二六年度）アトリエ新人賞は自由美術家協会々員森芳雄に決定した。

二月

○カーネギー国際展出品作決まる アメリカピッツバーク市のカーネギー美術館で一〇月一六日から一二月四日まで開かれるカーネギー国際美術展に日本から出品される油絵作品がカーネギー

美術委員会によつて決定された。日本美術家連盟と在米の国吉康雄を通して日本から送つた作品写真によつて選ばれたものである。招待作品は阿部展也「アダムとイヴ」他一六点で、国内展は六月三日から八日まで神奈川県立近代美術館、同一日から二五日まで日本橋三越において開催した。

○チャールス・ワーグマンの六〇年祭行わる イラストレーター・ロンドン・ニュースの特派員として幕末に來朝し、油絵の実技を伝えて明治初期洋画に貢献したチャールス・ワーグマンの歿後六〇年祭が行われた。ワーグマン終焉の地である横浜の市長平沼亮三、有島生馬、宮尾しげを等が發起人となつて八日横浜山手外人墓地の墓前行つた。

○水野・長廣共著「雲崗石窟第八洞・第九洞」恩賜賞に決定 一二日の学士院月例総会で昭和二六年度の恩賜賞、学士院賞が決定した。恩賜賞には京大教授水野清一・長廣敏雄共著の「雲崗石窟第八洞・第九洞」が選ばれた。大同石仏の調査を集成した一五巻三〇冊のうちの最初に刊行されたものである。授賞式は五月一二日日本学士院において行われた。

○ロンドンの国際彫刻コンクールに参加招待さる イギリスの現代美術協会の主催で、世界各国の彫刻家が参加する「国際彫刻コンクール」へ日本も正式に招待された。昭和二八年三月からロン



ドンで開かれる予定で、「知られざる政治囚」という課題である。

○観光宣伝用カレンダー、アメリカでのコンクールに受賞 ニューヨークで行われた米国旅行業界紙「トラベル・アイテム」主催の美術カレンダー・コンクールで日本交通公社が出品した一九五二年版海外向カレンダーが一等賞を受けた。日本画家の作品一二点を色刷にしたもので、他の受賞カレンダーとともにニューヨークの近代美術館に飾られた。

○京都新彫刻家クラブ創立 京都在住の若い彫刻家によつて京都新彫刻家クラブが組織された。二月京都大丸において第一回展を開催した。

○東京都文化財保護条例制定 一二日東京都教育委員会は、一九一八年東京府告示「東京府史的記念物勝地保存心得」によつて指定された約二五〇種の文化財について検討し、新たに「東京都文化財保護条例」を制定することを決定提案した。この条例案は都議会を経て四月一日公布即日施行となつた。東京都文化財専門委員を置き、文化財保護法で指定されたものを除く都内の文化財、都重宝、都技藝、都史跡、都天然記念物を指定保護する。

○春日興福寺国宝展開催 我が国へ仏教が伝来して今年は一四〇〇年に当るのでこれを記念して、毎日新聞社、春日大社、興福寺主催によつて、奈良春日興福寺国宝展を二日から三月九日まで

日本橋三越において開催した。

### 三 月

○第二回上村松園賞決まる 上村松園を記念し、日本画女流作家の育成と奨励のために設けられた上村松園賞の第二回（一九五一年度）は新制作協会々員堀文子に決定し、二日発表された。第一五回新制作協会展出品の「山と池」、および今日までの業績に対して授賞されたものである。授賞式は一八日、毎日新聞大阪本社において行われた。

○東京藝術大学洋画科教授に林武決定 東京藝術大学洋画科教授梅原龍三郎、安井曾太郎は二六年一月辞表を提出したが、その後任として独立美術協会々員林武（本名武臣）が主任教授に決定し、三月七日発令された。

○昭和二十六年度文部省買上美術品決定 文部省の昭和二十六年度買上美術品、日本画五、洋画五、彫刻四、工藝四、書一、合計一九点が決定し、一九日発表された。作品は次の通りである。

▽日本画 「Y氏の像 前田青邨」、「孫中村岳陵」、「白雨 堅山南風」、「花 梶原緋佐子」、「山河 福田豊四郎」

▽洋画 「アルプスへの道」 児島善三郎、「ゆく春」 小林和作、「外輪山」 崎廣助、「殉教者」 海老原亨之助、「親子」 山口薫

▽彫刻 「裸婦 藤井浩佑」、「ポーズ」 北村正信、「寝ている女」 木内克、「婦人像」 柳原達彦

▽工藝 「鶯花瓶」 松本佐吉、「飛天透篋」 飯田喜代鏡、「ふり」 堀柳女、「青銅盤」 會田富康

▽書 「春閑」 松本芳翠

○金閣再建起工式行わる 京都鹿苑寺の金閣は昭和二十五年七月二日放火によつて全焼したが、再建資金の一部がまとまつたので、二二日午前一時から起工式を行い、再建にとりかかった。予算一五〇〇万円、三ヶ年計画とし、原型どおり、とりあえず白木造りのものを造る。

○藝能選奨文部大臣賞決まる 昭和二十六年度の藝能選奨文部大臣賞の受賞者が決定し、二四日発表された。美術部門では次の通りである。

▽日本画 橋本明治（第七回日展出品「赤い椅子」に對し）

▽洋画 岡鹿之助（第五回美術団体連合展出品「遊蝶花」その他に對し）

▽彫刻 澤田晴廣（第七回日展出品「五木之精」その他に對し）

▽工藝 楠部彌式（第七回日展出品「白磁四方花瓶」に對し）

授賞式は四月九日文部省で行われた。

○恩賜賞、藝術院賞決定 日本藝術院の恩賜賞、藝術院賞の受賞者を選び、二六日その決定を発表した。

恩賜賞 洋画 白瀧幾之助、洋画における多年の業績、また三井高精をたすけ

て三井コレクションを完成したことに對し

日本藝術院賞

第一部 美術

洋画 中山巍、「マチス礼讃」（第五回美術団体連合展出品作）に對して

彫塑 加藤鬼頭太（顯清）、「人間」（第七回日展出品作）その他彫塑界への功績に對して

工藝 山鹿健吉（清華）、「手織錦」無心壁掛（第七回日展出品作）と燃糸、染法などに新生面を開いた功績に對し

建築 吉田五十八、日本建築の近代化研究と独創的革新に成功したことに對し

他部門略。

六月二五日日本学士院講堂において授賞式が行われた。

○国宝第二次、重要文化財第一次指定発表 二六日から四日間開かれた文化財専門審議会の決定にもとづき、文化財保護委員会は二九日、第二次指定国宝一二六件、第一次指定重要文化財一一五件を発表した。国宝の主なものには「鳥獸戯画」、東大寺の「日光、月光立像」などがあり、また重要文化財の指定は文化財保護法公布以後はじめてで、すでに重要美術品に認定されたもののうちから選ばれたものと全然未指定であつたものから選ばれたものと二種ある。四月三日より一二日まで国立

博物館表慶館においてその一部が展覧された。

○史跡、名勝、無形文化財の選定 文化財保護委員会では二十九日、特別史跡名勝天然記念物七八件、史跡四件、無形文化財四七件の選定を発表した。無形文化財は戦前にはなく文化財保護法によつて新たに保護の対象となつたもので、そのはじめての選定である。工芸技術三十六件、藝能一件で、中村吉右衛門のセリフ、や各種の郷土藝能、詩絵の技術、織物等がその対象となつた。予算による保存事業の実施は五月十七日その計画を発表した。

○信濃美術会創立 信州出身者の親睦団体であつた信濃美術協会を一層強力なものにするために機構を改め、新に在京信州出身美術家と在郷有力美術家によつて信濃美術会を結成した。

#### 四 月

○京都博物館国立に移管 大正一三年帝室より京都市へ御下賜になり、それ以来京都市の経営下にあつた恩賜京都博物館は四月一日より国立に移管され、文化財保護法の規定により京都国立博物館として新しく発足した。館長事務代理は文化財保護委員会委員細川護立の兼務、次長は前館長富岡益五郎に決まり発令された。移管記念として「東京国立博物館保管国有東洋美術名画展」を五月一日より二〇日まで開催した。

○国立博物館の名称東京国立博物館となる 文化財保護法の一部改正により国立博物館は四月一日より東京国立博物館となつた。

○東京文化財研究所設置 文化財保護法の一部改正に伴い、東京文化財研究所が設置されることになり、従来文化財保護委員会の附属機関であつた美術研究所は東京文化財研究所の美術部として、新設された藝能部・保存科学部とともに新発足した。所長事務代理として文化財保護委員会委員矢代幸雄の兼務、美術部長松本榮一、藝能部長事務代理犬丸秀雄、保存科学部長事務代理關野克が四月一日発令された。なお、従来の美術研究所の所掌した調査研究と同一のものについては美術研究所の名称を併称出来ることになつてゐる。

○奈良文化財研究所設置 四月一日から一部改正の文化財保護法により奈良文化財研究所が設置されることになつた。奈良市春日野町五〇に置かれ、所長事務代理として黒田源次が任命された。

○サロン・ド・ブランタンの幹旋によりアメリカで日本現代美術展開催 在日外国外交官夫人達によつて日本の美術家を育成し外国に紹介しようとする目的で作られたサロン・ド・ブランタンではアメリカの各地で現代日本美術展をするために準備をしていたが、日本画、洋画、版画の作品が集つたので、四月五日から九日まで東京リーダース・

ダイジェスト社で展示会を開いた。六月からサンフランシスコで、その後セントルイス、ロスアンゼルス、シヤトル、サンタバーバラで展覧会を開く。

○日本染織美術特別展開催 東京国立博物館は今年創立八〇周年に當るのでその記念事業の一つとして四月六日から五月五日まで日本染織美術特別展を開催した。

○矢代幸雄帰国 文化財保護委員会委員矢代幸雄は戦後の欧米美術界の実情調査のため昭和二十六年十一月インド経由で渡欧し、イギリス、フランス、イタリア、オランダ等を歴訪、帰途アメリカに渡り各地を旅行、ハワイを経て一〇日帰国した。

○棟方志功と駒井哲郎国際版画展で受賞 四月一〇日から六月二日までスイス、ルガーノで開かれた第二回国際版画展で、棟方志功と駒井哲郎の作品が優秀賞に入選し、賞金が贈られた。

○新潟県刈羽貝塚発掘 日本考古学協会縄文式文化編年特別委員会は昭和二十六年調査の一つとして新潟県刈羽郡刈羽村西谷所在の刈羽貝塚を四月一〇日から一〇日間発掘した。八幡一郎が調査を主宰し、多くの遺物を発見したがこの貝塚はおおよそ縄文式前期末から中期初めのころに遺されたものとされた。

○大日美術院解散 昭和二十二年三月結城素明、川崎小虎、青木大乗の三名を同人とし、明日の日本画を創造するという趣旨を掲げて創立した大日美術院はそ

の使命を一応果たしたものとして四月一五日解散の声明を発表した。

○祝壽七〇年記念小林古徑展開催 小林古徑の古稀を記念してその作品展が読売新聞社の主催により一六日から五月四日まで日本橋三越において開催された。

○古徑・観彦・青邨三人展開催 日本美術院同人、藝術院会員の小林古徑、安田観彦、前田青邨の三人の代表作展が、朝日新聞社の主催、東京国立博物館の後援によつて一八日から二九日まで銀座の松坂屋で開かれた。

○東京目黒圓融寺釋迦堂修復 東京都目黒区碑文谷一丁目にある重要文化財建造物圓融寺釋迦堂は昭和二十四年以来、文部省、東京都、目黒区等の援助によつて復原修理工事を行つていたが、完成し、一九日落慶式を挙行した。

○パリの二〇世紀展に日本からも出品 フランスの文化自由会議国際委員会では四月二九日から六月一日までパリで二〇世紀展を開催するが、日本の出品を日本文化自由委員会へ依頼して来たので、日本画と洋画一八人の作家の作品を送つた。国内展は三月四日から八日まで上野松坂屋で開催した。なお、この会議に出席のため美術部門の代表として福澤一郎が五月一四日渡仏した。これらの作品は到着が遅れたため、二〇世紀展とは別に六月中旬パリにおいて展覧された。

五月

○神田喜一郎京都国立博物館長に任命さる 京都国立博物館長は文化財保護委員会委員細川護立の兼務であつたが、五月一日神田喜一郎が任命発令された。

○高野山明王院焼失 赤不動像の所蔵で著名な和歌山県高野山別格本山明王院は二日夜本堂から出火し、本堂庫裡などを全焼した。赤不動像は無事であつた。

○法隆寺五重塔解体復原工事完成 昭和十七年にはじめられた法隆寺五重塔の解体復原工事は一〇年の期間をかけ、ようやく三月二日塔上の水煙相輪をとりつけ大体の工程を完了した。四月末までに一切の準備を終え、五月一八、一九の両日落慶法要を行つた。法隆寺では落慶を記念して五月一〇日から六月一〇日まで聖徳太子奉讃展、飛鳥文化展などの特別展を行つた。

○第一回日本国際美術展開催 毎日新聞社主催の第一回日本国際美術展が五月二日から六月一四日まで東京都美術館で開かれた。フランス、アメリカ、イギリス、イタリア、ベルギー、ブラジルの現代作家の出品に、日本の代表的作家の作品約四五〇点を集めた大規模な展覧会であつた。

○柳宗悦・濱田庄司渡欧 八月イギリスのダーティントンで開かれる第一回国

際陶工染織工大会に出席するため、また志賀直哉とともに毎日新聞社の文化使節として欧米各地を歴訪するために、日本民藝館長柳宗悦と国画会々員濱田庄司は三一日空路出発した。

○梅原龍三郎・益田義信渡欧 六月一四日からイタリアのヴェニスで開かれるビエンナーレ国際美術展の日本側審査員として梅原龍三郎は三一日空路渡欧した。同じくビエンナーレ展日本側委員と九月にヴェニスで開かれる国際美術家会議に美術部門代表として出席する国画会々員益田義信が同行した。

○中央美術協会創立 中央美術学園の指導者と卒業生をもつて中央美術協会が結成された。九月二六日より三〇日まで第一回展を日本橋白木屋において開催した。

○日本板画院創立 版画家陳方志功、笹島喜平、下澤木鉢郎等六名によつて版画団体日本板画院が創設された。十一月一八日より二三日まで渋谷の東横において第一回展を開いた。

六月

○歌麿生誕二〇〇年祭行わる 江戸時代の浮世絵師喜多川歌麿の生誕二〇〇年祭が一日、菩提寺の世田谷区島山町専光寺で行われた。七日から二五日まで記念浮世絵展が銀座の松坂屋で開かれた。

○創作工芸協会創立 工芸の新しい傾向

を代表し、デザインに主点を置いた制作をしようとしている佐治正、佐藤潤四郎、芳武茂介等九名の工芸家によつて創作工芸協会が設立された。六月二日から六日まで第一回展を資生堂において開いた。

○ヴェニスのビエンナーレ国際美術展に参加 六月一四日から一〇月一九日までイタリアのヴェニスで開かれる第二六回ビエンナーレ国際美術展に日本も参加することとなり、横山大観、小林古徑、安井曾太郎、梅原龍三郎ら一作家の作品一八点を送つた。

○日本藝術院長に高橋誠一郎再選 二六日東京国立博物館で行われた日本藝術院の今年度総会において、次期日本藝術院長に、任期満了の現院長高橋誠一郎が再選された。

七月

○箱根美術館開館 世界救世主教では昨年一〇月から箱根強羅に美術館を建設していたが完成、六月一五日落成式を行つた。東洋古美術の蒐集が多く、財団法人東明美術保存会所属として七月三日から一般に公開した。

○世界美術評論家会議に参加 七月七日から一一日までスイスのチューリッヒ、ベルヌ、ローザンヌで第四回世界美術評論家会議が一五ヶ国代表五八名が参加して開催された。わが国からはじめて富永惣一が出席し、本年から、

日本、ドイツ、トルコが正式に加入することになった。

○能登調査の開始 言語学、民俗学、考古学など九学会連合によつて能登半島を総合調査することになり、一〇日から石川県七尾市和倉に調査本部を設けて約一ヶ月半の予定で調査を行つた。考古学関係では東大教授駒井和愛が班長となつて参加した。

○光風会美術会館落成 光風会々員全部の努力によつて東京都港区芝新松田町一九に光風会美術会館が完成した。美術家自身の手による美術館としてはわが国はじめてのもので、一階はギャラリー、二階はアトリエと集会所になつてゐる。一〇日から一五日まで落成記念展を開いた。

○第二次重要文化財指定発表 文化財保護委員会では一四日、重要文化財七六件の指定を発表した。重要美術品の中から選ばれたもので、いままですべて指定であつたもので、箱根美術館蔵「樹下美人図」、細川護立蔵「宋白地黒搔落牡丹文瓶」などがあり、そのうちの一は二二日から二七日まで東京国立博物館において展覧された。重要文化財の新指定はこれが二回目である。

○白鳥会創立 流派にとられず友誼的な洋画研究団体として、熊谷守一、野口彌太郎、伊藤彪らによつて一五日日鳥会が結成された。第一回展は一〇月一日から一五日まで日本橋白木屋に



において開催された。

○吉野地震で文化財に被害 一八日午前一時一〇分から約一三分間にわたつて近畿東海北陸中国四国の各地方広範囲にわたる地震があつた。この地震は吉野地震と名付けられたが、奈良薬師寺東大寺の仏像、橿原神宮の土器、兵庫県中山寺の山門等に被害があつた。

○ユネスコ文化財保護条約案作成に日本も参加 七月二日から三週間パリで開催されるユネスコ第七回特別委員会で文化財保護の国際条約案が作成されるが、これに日本側からユネスコ常駐日本政府代表永井三樹三が代表として、また文化財保護委員会建造物課長関野克が顧問として出席することになった。昭和二十五年以来懸案となつてゐるもので、二六年ユネスコ国際記念物委員会で作成した「武力衝突時における文化財保護に関するユネスコ条約案」一〇章四五条を一層検討する。関野克は一八日朝出発した。

○インド美術展開催 二二日から八月一日まで東京国立博物館表慶館において、インド大使館と東京国立博物館の共催でインド美術展を開催した。インドの絵画など約三〇〇点を展覧した。

○日本の商業デザイン海外へ紹介する 日本の商業デザインが外国の商業美術雑誌に相次いで掲載された。ドイツのゲブラウス・グラフィック誌の七月号は伊藤憲治の作品を八ページにわたつて紹介した。これは日本の商業デザイン

ナーとして最初のことと、引きつづき各種のデザインが紹介された。

○瓜破遺跡発掘 日本考古学協会弥生式文化特別委員会では三一日から大阪府中河内郡瓜破村大和川一帯の発掘を開始した。委員長杉原莊介が主宰し、堅穴の遺跡多数の土器などを発見してゐる。

## 八月

○東京国立博物館奈良分館、奈良国立博物館となる 東京国立博物館奈良分館の名称は文化財保護法の一部改正により八月一日から奈良国立博物館となつた。

○薬師寺の月光菩薩修理のため首を切断 奈良薬師寺の国宝月光菩薩は七月一八日の吉野地震で首にひびが入つたので、これを修理することとなり、文化財保護委員会から担当技官が赴いたが、八月四日首と胴をつないでいた鉄の心棒を切断した。文化財保護委員会の内部でもこの措置が問題となり、一二月新たに修理委員会が設けられた。

○東大寺名宝展開催 大仏開眼一二〇〇年を記念して、東大寺名宝展が、東大寺、大仏奉賛会、朝日新聞社の主催、文化財保護委員会、東京国立博物館の後援によつて二日から二四日まで日本橋の高島屋において開催された。

○アメリカで開く日本古美術展の準備はじまる 昨年サンフランシスコで開催

された日本古美術展の好評によつて、アメリカでは更にワシントン、ニューヨーク、ボストン、シカゴ、シヤトルで日本古美術展を開催することを希望し、その折衝に前ハーバート大学教授ウオーナリー、メトロポリタン博物館東洋美術部長アラン・ブリスト、ワシントンフリーヤーマuseum館長ウエンレイが来日した。文化財保護委員会との第一回会合を二日東京国立博物館で開催した。

○梅原龍三郎帰国 ヲエニスの第二六回ビエンナーレ国際美術展のコンクール審査員として渡欧した梅原龍三郎は一二日帰国した。

○第一回新日本工業デザイン懸賞入選発表 毎日新聞社では産業の興隆と輸出の促進に寄与するために新日本工業デザインの懸賞を設定したが、一五の入賞者を決定発表した。推薦に柳宗理、入選奨励賞に福田眞知子のほか入選五、佳作八が発表された。

## 九月

○ベルギー現代美術展開催 九月一六日から二二日まで日本橋三越においてベルギー現代美術展が開催された。ティトガット・デルボーをはじめ現代ベルギー画壇を代表する七作家の作品八二点を展覧した。

○レアル美術会創立 福田新生、野崎利喜男など一水会々員の有志により「新

しい内容と様式によるレアリズムの研究・創作・発表」を目標としてレアル美術会が結成された。

○ブラック展開催 九月二〇日から一〇月二六日まで東京国立博物館表慶館においてブラック展が開催された。東京国立博物館、読売新聞社の主催、フランス大使館の協賛で、絵画・彫刻・版画等一九五二年に至る代表的作品をブラック自身選択したものである。

○阿部展也・神谷信子・杉全直など美術文化協会脱退 美術文化協会々員の阿部展也、神谷信子、杉全直等は美術文化協会を脱退した。

## 一〇月

○東京文化財研究所美術部長に田中一松任命 東京文化財研究所美術部長に田中一松が決定し、一日発令された。

○東京国立博物館創設八〇周年記念事業行わる 明治四年九月文部省に博物館を置き、湯島聖堂大成殿を博物館として一〇月一日より一〇日間博覧会を開いたが、これが今日の東京国立博物館のもとになつており、今年で満八〇年を迎えた。博物館では二日記念式典を行い、また記念特別展として一日から三〇日まで館の収蔵品だけで普段陳列されない日用品までを含めた広範囲な展覧を行つた。記念出版としては博物館所蔵品の総目録を刊行する。

○在外公館へ美術品送付を決定 海外各

地にある大使館、公使館、領事館等から美術品を送つてほしいという要望が多いので、外務省では優秀作品を買上げて送ることになった。装飾用とするとともに日本美術を紹介する意味で日本人的な特色の濃い絵画、版画、工芸品を選ぶ方針である。

○アメリカでの日本古美術展出品目録決定 来年アメリカの五都市で開かれる予定の日本古美術展の出品については八月以来日米合同選択委員会々々議を重ね、九月五日文化財専門審議会を開いて第一次公式案を作成し、更に修正を重ねて一〇月九、一〇両日の専門審議会で可決した目録が一〇日文化財保護委員会から発表された。高山寺の鳥獸戯画や神護寺の源頼朝像などが含まれている。

○薬師寺東塔落慶式法要行わる 薬師寺東塔の相輪屋根など修理工事を行つていたが、工程を完了し一日落慶式法要が行われた。

○平泉無量光院発掘 文化財保護委員会では岩手県教育委員会と合同で岩手県南磐井郡平泉村の無量光院跡を発掘調査することになった。二〇日から三十一日まで、考古学、建築史、庭園等各方面から調査した。

○文化勲章受賞者決定 昭和二十七年、第一一回目の文化勲章受賞者が決定し二日発表された。美術関係者では梅原龍三郎と安井曾太郎がこの榮譽をうけた。一月三日文化の日に授賞式が

皇居で行われた。

○中尊寺華嚴盜難にあう 岩手県西磐井郡平泉村の中尊寺金色堂にあつた同寺蔵重要文化財の華嚴四個と清衡観音菩薩の璽珞、地藏菩薩の宝玉等計九点が盗まれているのを二七日前発見した。

○「日本の彫刻」毎日出版文化賞を受け 一九五二年度、第六回の毎日出版文化賞が決定し、二九日発表された。美術書関係では岡鹿子助、今泉篤男、瀧口修造編、美術出版社発行の「日本の彫刻」が選ばれた。一月一二日毎日新聞社において授賞式が行われた。

○美術映画「桃山美術」完成 東京国立博物館では「美の殿堂」「上代彫刻」と美術映画を作製して来たが、その第三作として「桃山美術」が完成した。二巻で、製作三井美術プロダクション、脚本近藤市太郎、演出水本莊也、撮影川村清衛、音楽松平頼則である。

○京都朝日会館の壁面完成 京都三条河原町朝日会館の外壁二〇〇坪の壁面に東郷青児に依頼して壁面を製作中であつたが、完成した。「平和と団結」という主題のものである。

○「原爆の図」映画化さる 丸木位里、赤松俊子作の「原爆の図」が新星映画社、監督今井正で二巻の映画に作製された。幽霊、火、水、虹、少年少女の五部によつて出来ている。

○日本インダストリアル・デザイナー協会創立 工業意匠の重要性が最近社会的にも認められてきた折からこのほど

飯持勇、柳宗理、金子徳次郎等二五名のデザイナーによつて日本インダストリアル・デザイナー協会が結成された。

一 一月

○エスプリ会創立 近代絵画の研究会として長谷川三郎、西田信一、村井正誠ら七名によつてエスプリ会が結成された。

○大和文華館第一回名宝展開催 古美術の蒐集によつて著名な大和文華館はまだ美術館の建物が完成しないため一般に公開されていないが、一月三日から三〇日まで奈良国立博物館において第一回名宝展として収蔵品を公開した。

○岡倉天心の切手発行 一月三日文化の日に岡倉天心の肖像をかけた一〇円切手が発行された。青味がかった灰色の地に横向きの肖像をかけたものである。

○国宝法隆寺展開催 一月六日から三〇日まで日本橋三越において、毎日新聞社主催、東京国立博物館、文化財保護委員会の後援によつて開催された。

○第一回全国美術館協議会開催 一四、一五、一六日東京都美術館において、第一回全国美術館協議会が行われた。全国公立美術館から約二〇名が出席し、全国美術館会議規約の作製や意見の交換を行つた。

○中央公論社画廊開設 東京駅前丸ビルの一階にイサム・ノグチの設計による中央公論社画廊が出来た。一七日第一回展に高村光太郎小品展を以て開いた。

○第三次国宝指定発表 文化財保護委員会では二〇日第三次国宝新指定を発表した。雪舟筆破墨山水図、法隆寺蔵夢違観音など一三八件で、その一部は二五日から三〇日まで東京国立博物館において展覧された。

○重要文化財建造物指定 第三次国宝指定と同時に重要文化財建造物一〇件の指定が発表された。秋田県神明社観音堂、山形県八幡神社鳥居などである。

○無形文化財第二次選定発表 二〇日文化財保護委員会は第二次の無形文化財選定を発表した。京都の祇園祭や前大峰の沈金技術等五件である。

○文化功労年金受領者決定 本年度の文化功労年金受領者は文部省文化功労者審査会で選考の上二一日閣議で正式決定し発表された。美術関係者では本年度文化勲章受賞者の梅原龍三郎、安井曾太郎と日本藝術院会員の山崎朝雲が選ばれた。

○アメリカで開く日本古美術展出品物発送 来年アメリカの各地で開かれる日本古美術展出品の美術品九一点は東京国立博物館に集められ荷造りの上、二七日横浜へ送られた。アメリカ陸軍用船ゼネラル・M・M・パトリック号に積み込み、二九日横浜を出港する。



一二二

○国立近代美術館開館 東京都中央区京橋三ノ一の旧日活本社を買上げ（一月の項参照）、建築家前川國男に設計を依頼して改装した国立近代美術館は、準備を完了し、一日開館した。開館第一回展として「日本近代美術展—日本近代絵画の回顧と展望」を開いた。

館長岡部長景、次長今泉篤男である。○法隆寺金堂立柱式行わる 昭和二四年四月解体工事に着手した法隆寺金堂の立柱式が一二日行われた。工事に着手してから三年六ヶ月目で、昭和二九年四月に完成の予定である。

○ユネスコによって浮世絵展開催決定 一月一二日から二月一日までパリで第七回ユネスコ総会が開かれたが、この会合で、今春日本へ依頼のあった浮世絵複製を買い上げ、世界各国においてユネスコ主催の展覧会を開催することが正式に決定された。この複製は文化財保護委員会の斡旋により製作中である。

○第一回接新人賞決定 財団法人教育美術振興会と接商会は本年度から接新人賞を設定した。光風会、春陽会、国画会、二科会、行動美術協会、一水会、新制作協会、第二紀会、独立美術協会、自由美術家協会、東光会の一団体のその年の展覧会、洋画作品中から各一名を選び、賞金五万円を贈るもので、受賞者の年齢を満三五歳以下に限つて

いる。第一回、二七年度は、西尾毅、市川晃、横田鑿士、佐藤陸郎、江見絹子、廣瀬功、玉置正敏、中西勝、坂上榮治、野見山曉治、松永和夫に決定した。二七日から三一日まで日本橋三越においてこれら受賞者の作品展を開催した。

○耕人社解散 山元春舉門下の早苗会解散後、そのうちの有志によつて昭和一八年結成された耕人社は、理事長家本一洋の死去によつて一二月解散した。

〔附 表〕

新指定国宝一覽

国宝目録 第二集

凡 例

- 一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和二十七年三月、国宝に指定された物件を収録した。
- 一、この目録に収録した国宝の種別は、絵画、彫刻、工芸、書跡、考古民俗資料、建造物である。
- 一、この目録に収録した国宝は、第二次指定によるもので、なお将来の指定をまつて目録編集の完璧を期している。

昭和二十七年三月

文化財保護委員会

絵 画 の 部

名 称	員 数	所 有 者
紙本着色扇面法華經冊子 (巻第八 (二十二面))	一幅	国 (国立博物館保管)
紙本着色餓鬼草紙 (繪十回)	一卷	同 右
絹本着色一遍上人繪傳 法眼圓伊筆 卷第七	一卷	同 右
紙本淡彩雪松圖 圓山應舉筆 六曲屏風	一雙	東京都港区麻布井町三井高公
紙本墨畫淡彩天橋立圖 雪舟筆	一幅	同 渋谷区代々木上原三三三山内豊景
紙本着色源氏物語繪卷 繪十五面 詞二十八面	四十面	同 豊島区目白町四ノ四二 財団法人黎明会

新指定国宝一覽(絵画の部)

絹本淡彩蘭溪道隆像 文永八年の自賛がある	一幅	神奈川県鎌倉市山ノ内八建長寺
紙本着色源氏物語繪卷 繪四面 詞九面	十三面	同 小田原市板橋益田太郎
紙本着色病草紙	十面	愛知県名古屋市中西区南鷹匠町二ノ一 關戸有彦
絹本着色眞言七祖像	七幅	京都府京都市下京区四ツ塚通大宮西入ル九条町 教王護國寺
絹本着色十二天像	十二幅	同 同 右
絹本着色五大尊像	五幅	同 同 右
絹本着色不動明王二童子像	一幅	同 東山区栗田口三条坊町 青蓮院
絹本着色一遍上人繪傳 法眼圓伊筆 正安元年聖戒の奥書がある 但し巻第七の絵は後補である	十二卷	同 東大路通五条上ル遊行 歡喜光寺
紙本金地著色松に草花圖 床貼付四	二十面	同 堀小路通大和路東入ル東瓦町 智積院
紙本金地著色櫻楓圖 壁貼付九 床貼付二	二面	同 同 右
紙本金地著色松に梅圖 襖貼付四 床貼付四	五面	同 同 右
附 違棚貼付、袋棚小襖等二十六面		
紙本金地著色松に草花圖二曲屏風	一雙	同 同 右
紙本金地著色風神雷神圖 俵屋宗達筆 二曲屏風	一雙	同 大和路通四下ル四丁目小松町 建仁寺
絹本着色無準師範像 嘉熙二年の自賛がある	一幅	同 本町通東福寺北門前本町十五丁目 東福寺
絹本着色釋迦如來像	一幅	同 右京区梅ヶ畑高雄町 神護寺
紙本墨畫鳥獸人物戲畫	四卷	同 梅ヶ畑梶尾町 高山寺
絹本着色阿彌陀三尊及童子像	三幅	奈良県奈良市法華寺町 法華寺

新指定国宝一覽(彫刻、工藝品の部)

紙本着色山水人物畫 池野大雅筆 模貼付	十面	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 遍照光院
紙本墨畫六祖挾擔圖「直翁」の印がある 假谿黄閣の賛がある	一幅	岡山県倉敷市新川町一〇〇三 大原總一郎

彫刻の部

名	称	員数	所	有	者
木造五大明王像	(講堂安置)	五軀	京都府京都市下京区四ツ塚通大宮西入ル九条町	教王護國寺	
木造阿彌陀如來坐像	(阿彌陀堂安置)	一軀	同 伏見区日野西大道町	法界寺	
木造阿彌陀如來坐像	(講堂安置)	一軀	同 右京区大秦蜂岡町	廣隆寺	
木造五大虚空藏菩薩坐像	(多宝塔安置)	五軀	京都府京都市右京区梅ヶ畑高雄町	神護寺	
乾漆不空羼索觀音立像	(法華堂安置)	一軀	奈良県奈良市雜司町	東大寺	
乾漆梵天立像	(法華堂安置)	二軀	同 同	同	
乾漆四天王立像	(法華堂安置)	四軀	同 同	同	
乾漆金剛力士立像	(法華堂安置)	二軀	同 同	同	
塑像 日光佛立像	(所在法華堂)	二軀	同 同	同	
塑像 月光佛立像	(所在法華堂)	四軀	同 同	同	
塑像 四天王立像	(所在戒壇院)	二軀	同 同	同	
木造金剛力士立像	(運慶、快慶等作 所在南大門)	二軀	同 同	同	
木造維摩居士坐像	(定慶作 所在東金堂)	一軀	同 同	同	
木造文殊菩薩坐像	(所在東金堂)	一軀	同 同	同	
木造金剛力士立像		二軀	同 同	同	
元年の修理銘がある					

工藝品の部

名	称	員数	所	有	者
木心乾漆藥師如來立像	(金堂安置)	一軀	同	同	五条町唐招提寺
木心乾漆千手觀音立像	(金堂安置)	一軀	同	同	生駒郡斑鳩町大字法隆寺
鋼造藥師如來坐像	(金堂安置)	一軀	同	同	法隆寺
光背裏面に丁卯年仕奉の銘がある					
木造四天王立像	(金堂安置)	四軀	同	同	右
廣目天像の光背裏面に「山口大口費上而次木間二人作也」多聞天像の光背裏面に「藥師德保上而鏡師乳古二人作也」の銘がある					
乾漆行信僧都坐像	(所在夢殿)	一軀	同	同	右
塑像彌勒佛坐像	(金堂安置)	一軀	同	同	北葛城郡当麻村大字当麻寺
木造釋迦如來立像	(金堂安置)	一軀	同	同	宇陀郡室生村大字室生寺
金銅經箱	叡山横川如法堂埋納	一合	滋賀県大津市坂本	延暦寺	
梵鐘	貞觀十七年八月二十三日治工志我部海繼以銅一千五百斤令鑄成、橋廣相之詞、菅原是善銘、藤原敏行書在銘	一口	京都府京都市右京区梅ヶ畑高雄町	神護寺	
梵鐘		一口	京都府宇治市宇治	平等院	
華原磬		一基	奈良県奈良市登大路町	興福寺	
梵鐘	道澄寺、延喜十七年十一月三日在銘	一口	同	同	宇智郡宇智村大字小島寺
縣守		七懸	大阪府大阪市天王寺区元町	四天王寺	

書跡の部

天壽國續帳殘闕 附 同殘片 二	一帳	奈良県生駒郡斑鳩町 中宮寺
秋野鹿詩繪手箱	一合	島根県鏡川郡大社町 出雲大社
飛青磁花生	一口	大阪府大阪市東区今橋二ノ七 鴻池善右衛門
太刀銘 信房作 附 糸巻太刀拵	一口	山形県鶴岡市家中新町 酒井忠明
太刀銘 國宗 附 糸巻太刀拵	一口	栃木県上都賀郡日光町 東照宮
太刀銘 正恒	一口	東京都中央区木挽町七ノ七 青山孝吉
太刀銘 無銘一文字(名物日光一文字) 附 備前國友成造 打刀拵	一口	東京都港区福吉町一 黒田長禮
太刀銘 正恒	一口	同 新宿区下落合二ノ八四一 岡野光弘
太刀銘 正恒 附 糸巻太刀拵	一口	同 世田谷区鶯谷町三二 山本達郎
太刀銘 正恒 附 糸巻太刀拵	一口	同 豊島区椎名町六ノ三八六 本阿彌澄代
太刀銘 正恒 附 糸巻太刀拵	一口	同 神奈川縣鎌倉市雪ノ下 鶴ヶ岡八幡宮
太刀銘 正恒 附 糸巻太刀拵	一口	石川県石川郡河内村 白山比咩神社
太刀銘 正恒 附 糸巻太刀拵	一口	大阪府大阪市天王寺区元町 四天王寺
太刀銘 正恒 附 糸巻太刀拵	一口	同
太刀銘 正恒 附 糸巻太刀拵	一口	山口県防府市大字東佐波令二 三七八
太刀銘 正恒 附 糸巻太刀拵	一口	同 毛利元道
太刀銘 正恒 附 糸巻太刀拵	一口	同 広島県佐伯郡嚴島町 嚴島神社
太刀銘 正恒 附 糸巻太刀拵	一口	同 愛媛県越智郡宮浦村大字宮浦 大山祇神社
太刀銘 正恒 附 糸巻太刀拵	一口	同

新指定国宝一覽(書跡の部)

名	称	員数	所	有	者
虚堂智愚墨蹟 法語		一幅	国(国立博物館保管)		
無準師範墨蹟 尺牘		一幅	同		
寬平御時后宮歌合(十卷本)		一卷	同		
圓珍贈法印大和尚位並智證大師證號勅書 (延長五年十二月二十七日)		一卷	同		
紺紙金字一切經(内十五卷金銀交書經) 附 漆塗箱二百七十五合		二百二十七卷 九卷	岩手県西磐井郡平泉町大字中 尊寺	同	大長壽院
一字蓮華法華經 開結共(卷第六欠)		九卷	福島県大沼郡高田町大字高田 龍興寺	同	
宋刊本文選(金澤文庫本) 永祿三年北条氏政寄進記並九華識語		二十一冊	栃木県足利市 足利市	同	(足利学校遺蹟圖書館保管)
法華經一品經 阿彌陀經 般若心經 附 筆者目録一卷 補寫目録一卷		三十三卷	埼玉県比企郡平村大字西平 慈光寺	同	
觀心本尊抄 日蓮筆 文永十年卯月二十五日奥書 附 添狀一卷 春日山詩繪宮 一合		一帖	千葉県市川市中山町 法華經寺	同	
立正安國論 日蓮筆 文永六年十二月八日書寫奥書		一卷	同		
手鑑「藻壇草」(二百四十一葉)		一帖	東京都新宿区若宮町三〇 古河從順	同	
毛詩 卷第六殘卷 紙背 兩部儀軌斷簡		一卷	同 文京区駒込富士前町二四七 財団 東洋文庫	同	
春秋經傳集解 卷第十 保延五年清原賴業受訓點了奥書		一卷	同		
稿本北山抄 卷第十 紙背 長徳長保年間文書		一卷	同 品川區上大崎五ノ六三九 三條實春	同	
秘府略 卷第八百六十八 紙背 秀房對策案等		一卷	同 目黒区駒場町八六一 財団 前田育徳会	同	



新指定国宝一覽(書跡の部)

廣田社二十九番歌台 藤原俊成筆  
承安二年二月十七日加判奥書

歌合(十卷本)  
卷第一、二、三、八、十

大覺禪師墨蹟 法語規則

歌仙歌合

普勸坐禪儀 道元筆

天福元年中元日書寫奥書  
附 普勸坐禪儀撰述記 道元筆 一幅

聖武天皇勅書 (天平感寶元年  
閏五月二十日)

翰林學士詩集

紙背 正廣智三藏表制集卷第五

玉篇卷第二十七 後半

紙背 如意輪陀羅尼經

天台法華宗年分緣起 傳教大師筆

金剛般若經開題殘卷 弘法大師筆  
(六十三行)

虛堂智愚墨蹟 達磨忌拈香語

日本書紀神代卷 (吉田本)  
上中下

弘安九年卜部兼方奥書

千手千眼陀羅尼經殘卷  
(天平十三年七月十五日玄昉願經)

教行信証 親鸞筆  
(坂東本)

觀無量壽經註 親鸞筆

阿彌陀經註 親鸞筆

三卷	同	右	後宇多天皇宸翰東寺興隆條々事書 御添狀(二月十二日)	一卷	同	四ツ塚通大宮西入ル九
五卷	同	右	三寶繪詞 文永十年八月八日書寫奥書	三冊	同	教王護國寺
二幅	神奈川縣鎌倉市山ノ内 建長寺	同	菩薩處胎經 (魏大統十六年陶件虎願經)	五帖	同	東山区新橋通大和 大路東入ル林下町 知恩院
一卷	同	比	大樓炭經 卷第三 (唐咸亨四年蘇慶節敬造一切經)	一冊	同	同
一卷	福井縣吉田郡志比谷村大字志 比	永平寺	無準師範墨蹟 圓爾印可狀(絹本) (丁酉歲十月)	一幅	同	本町通本福寺北門前 本町十五丁目 東福寺
一卷	静岡縣榛原郡相良町大字大江 寺	平田寺	古今和歌集 (色紙) (曼殊院本)	一卷	同	左京区一乘寺竹ノ内 曼殊院
一卷	愛知縣名古屋市中区門前町四 ノ四〇	寶生院	春秋經傳集解 卷第二殘卷 紙背 雙林菩薩大士小錄	一卷	同	岡崎四勝寺町四四 財團 藤井齊成會
一卷	滋賀縣大津市石山辺町五七六 寺	石山寺	一品經懷紙(西行、寂蓮等十四枚)	一幅	同	南禪寺草川町六〇 上田堪一郎
一卷	同	延下坂本町 曆寺	花嚴經音義 卷上下	二卷	同	鹿ヶ谷宮ノ前町 小川廣巳
一卷	京都府京都市上京区西賀茂神 光院町	神光院	狸毛筆奉獻表 傳弘法大師筆 寛永二年六月十九日義演奥書	一卷	同	伏見区醍醐本大路町 醍醐寺
一幅	同	紫野大德寺町 寺	後宇多天皇宸翰當流紹隆教誡(三通)	一卷	同	報恩院
二卷	同	室町通今出川上ル 大橋理祐	藤原忠通筆書狀案	一卷	同	深草車坂町五 九條道秀
一卷	同	中京区東洞院通丸太町 南入ル三本木町 守屋孝藏	大椋國師墨蹟 關山字號 (嘉暦己巳仲春)	一幅	同	右京区花園妙心寺町 妙心寺
六冊	同	下京区烏丸通七条上ル 本願寺	新修本草 卷第四、第五、第十二 第十七、第十九	五卷	同	御室大内 仁和寺
一卷	同	堀川通花屋町下ル本願 寺前町 本願寺	玉篇卷第二十七 前半 紙背 護摩科文六種	一卷	同	梅ヶ畑榊尾町 高山寺
一卷	同	同	神樂和琴秘譜 元祿七年近衛基熙跋	一卷	同	宇多野上ノ谷町 財團 陽明文庫
一卷	同	同	後二條殿記 自筆本 古写本 二十九卷	三十卷	同	同



歌合 卷第六(十卷本) 附 歌台目錄 一卷	一卷	同 右
一字蓮臺法華經(普賢勸發品)	一卷	大阪府大阪市天王寺区上本町六ノ一 近畿日本鐵道株式會社
四天王寺緣起 根本本 後醍醐天皇宸翰本	二卷	同 元町 四天王寺
後鳥羽天皇宸翰御手印置文(曆仁二年二月九日)	一卷	同 三島郡島本村大字広瀬水無瀬神宮
世説新書卷第六 殘卷 紙背 金剛頂蓮花部心念誦儀軌	一卷	同 伊丹市伊丹三四〇小西新右衛門
大字法華經(第三卷欠)(明算白点本) 附 經帙 一枚	七卷	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 龍光院
紫紙金字金光明經 附 經帙 一枚	十卷	同 右
紫紙金字金光明經	十卷	広島県尾道市久保町西國寺

考古民俗資料の部

名 称	員 数	所 有 者
金銅石川年足墓誌 天平寶字六年十二月二十八日、葬于摂津国嶋上郡白影郷酒垂山墓在銘 附 木櫃殘闕(銅釘付)一拵 大阪府高槻市大字真上出土	一面	大阪府高槻市大字真上 田中伊久
宮地岳古墳出土品		福岡県宗像郡津屋崎町大字宮司 宮地岳神社
一、金銅鞍金具殘欠 前後両橋覆輪、海磯金具鞍等	一背	
一、金銅壺鐙	一双	
一、金銅鏡板附轡	一箇分	
一、金銅杏葉殘欠	二枚分	
一、銅 鎖	一連	

一、金銅裝頭椎太刀(大形)殘欠 柄頭、鐔、刀身斷片、韃金具等	一口分
一、金銅裝頭椎太刀殘欠 柄頭、鐔、刀身斷片等	一口分
一、金銅透彫冠殘欠	一拵
一、金 環	一箇
一、綠瑠璃丸玉	一連
一、綠瑠璃丸玉	一拵
一、蓋付銅鐔	一口
一、銅盤殘欠	一枚分
一、土師器盃	一口
一、長方形綠瑠璃板殘欠	三枚分
一、綠瑠璃板斷片	一拵
附 各種金具等殘片	一拵

建造物の部

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 住 所	所 在 の 場 所
一	阿彌陀堂 (白水阿彌陀堂)	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、寶形造、とち葺 附 棟札 安政六年屋根組替修覆造営の記がある	阿彌陀堂	福島県石城郡内郷村大字 白水	福島県石城郡内郷村大字 白水
二	正福寺地藏堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重もこし附、入母屋造、こけら葺 附 棟札 安政六年屋根組替修覆造営の記がある	正福寺	東京都北多摩郡東村山町 大字野口	東京都北多摩郡東村山町 大字野口
三	松本城 天守 乾小天 渡小 月見附	五棟	五重六階、本瓦葺 三重四階、本瓦葺 二重二階、本瓦葺 一重、地下一階附、本瓦葺 八角三重塔婆、初重もこし附、こけら葺 附 佛壇 棟札 貞享元年三月廿三日の記がある	国(文部省所管)	長野県小県郡別所村大字 内大門	長野県松本市大字北深志 二ノ丸
四	安樂寺八角三重塔	一基	外陣 桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、檜皮葺 内陣 桁行一間、梁間一間、一重もこし附、入母屋造、檜皮葺 相の間を含む	安樂寺	岐阜県多治見市虎溪山町	岐阜県多治見市虎溪山町
五	永保寺開山堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重もこし附、入母屋造、檜皮葺	永保寺	岐阜県多治見市虎溪山町	岐阜県多治見市虎溪山町
六	永保寺觀音堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重もこし附、入母屋造、檜皮葺	永保寺	岐阜県多治見市虎溪山町	岐阜県多治見市虎溪山町
七	犬山城天守	一棟	三重四階、地下二階附、本瓦葺	成瀬正勝	東京都渋谷区幡ヶ谷笹塚 町一〇六八番地	愛知県丹羽郡犬山町大字 犬山
八	彦根城天守	二棟	天守 三重三階、地下階段室・玄關附、本瓦葺 附 櫓及び多聞櫓 各一重櫓、本瓦葺	彦根市	滋賀県彦根市	滋賀県彦根市金亀町
九	二條城一の丸御殿 遠侍及び車寄	六棟	遠侍 桁行八間、梁間八間、一重、入母屋造、本瓦葺 車寄 桁行五間、梁間三間、一重、入母屋造、檜皮葺 桁行正面三間、背面五間、梁間右側面四間、左側面六間 一重、入母屋造、本瓦葺 桁行右側面八間、左側面七間、梁間正面七間、背面五間 一重、入母屋造、本瓦葺	京都市	京都府京都市	京都府京都市中京区二条 通堀川西入る二条町

蘇鐵間  
黒書院(小廣間)  
白書院(御座間)

十 大報恩寺本堂  
(千本釋迦堂)

十一 大德寺唐門

十二 蓮華王院本堂  
(三十三間堂)

十三 東福寺三門

十四 宇治上神社本殿

十五 淨瑠璃寺本堂  
(九體寺本堂)

十六 淨瑠璃寺三重塔  
(九體寺三重塔)

十七 海住山寺五重塔

十八 觀心寺金堂

十九 淨土寺淨土堂  
(阿彌陀堂)

二十一 一乘寺三重塔

二十一 東大寺金堂  
(大佛殿)

桁行右側面八間、左側面九間、梁間正面一間、背面三間  
一重、入母屋造、本瓦葺  
桁行正面七間、背面八間、梁間右側面六間、左側面八間  
一重、入母屋造、本瓦葺  
附行六間、梁間六間、一重、入母屋造、本瓦葺  
附屬の間 桁行三間、梁間二間、一重、入母屋造、  
本瓦葺  
黒書院白書院間渡廊 梁行六間、梁間一間、一重、  
兩下造、本瓦葺

桁行五間、梁間六間、向拝一間、一重、入母屋造、本瓦葺

四脚門、前後軒唐破風附、檜皮葺  
桁行三十五間、梁間五間、向拝七間、一重、入母屋造、  
本瓦葺  
附棟札 一枚  
慶安四年卯ノ八月修覆の記がある

五間三戸二階二重門、入母屋造、本瓦葺、両山廊附、  
各切妻造、本瓦葺

桁行五間、梁間三間、一重、流造、檜皮葺、内殿三社、  
各一間社流造

桁行十一間、梁間四間、向拝一間、一重、寄棟造、本瓦葺

三間三重塔婆、檜皮葺

三間五重塔婆、本瓦葺

桁行七間、梁間七間、向拝三間、一重、入母屋造、本瓦葺  
附棟札 一枚  
奉上葺慶長十八曆十一月吉日の記がある

桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、本瓦葺

三間三重塔婆、本瓦葺

桁行五間、梁間五間、一重もこし附、寄棟造、本瓦葺、  
正面唐破風附、銅板葺  
附棟札 一枚  
宝永二年乙酉四月十日上棟の記がある

大報恩寺

大德寺

妙法院

東福寺

宇治上神社

淨瑠璃寺

淨瑠璃寺

海住山寺

觀心寺

淨土寺

一乘寺

東大寺

京都府京都市上京区五辻  
通六軒町西入ル溝前町

京都府京都市上京区紫野  
大徳寺町

京都府京都市東山区東大  
路渋谷下ル妙法院前側町

京都府京都市東山区本町  
通東福寺北門前本町

京都府宇治市宇治山田

京都府相楽郡加茂町大字  
西小

京都府相楽郡加茂町大字  
西小

京都府相楽郡加茂町大字  
例幣

大阪府南河内郡川上村大  
字寺元

兵庫県加東郡小野町大字  
淨谷

兵庫県加西郡下里村大字  
坂本

奈良県奈良市雜司町

京都府京都市上京区五辻  
通六軒町西入ル溝前町

京都府京都市上京区紫野  
大徳寺町

京都府京都市東山区東大  
路渋谷下ル妙法院前側町

京都府京都市東山区本町  
通東福寺北門前本町

京都府宇治市宇治山田

京都府相楽郡加茂町大字  
西小

京都府相楽郡加茂町大字  
西小

京都府相楽郡加茂町大字  
例幣

大阪府南河内郡川上村大  
字寺元

兵庫県加東郡小野町大字  
淨谷

兵庫県加西郡下里村大字  
坂本

奈良県奈良市雜司町

二十二	東大寺轉害門	一棟	三間一戸八脚門、切妻造、本瓦葺	東大寺	奈良県奈良市雜司町	奈良県奈良市雜司町
二十三	興福寺北圓堂	一棟	八角圓堂、一重、本瓦葺	興福寺	奈良県奈良市登大路町	奈良県奈良市登大路町
二十四	興福寺三重塔	一基	三間三重塔婆、本瓦葺	興福寺	奈良県奈良市登大路町	奈良県奈良市登大路町
二十五	興福寺五重塔	一基	三間五重塔婆、本瓦葺	興福寺	奈良県奈良市登大路町	奈良県奈良市登大路町
二十六	興福寺東金堂	一棟	桁行七間、梁間四間、一重、寄棟造、本瓦葺	興福寺	奈良県奈良市登大路町	奈良県奈良市登大路町
二十七	極樂院五重小塔	一基	三間五重塔婆、本瓦形板葺	極樂院	奈良県奈良市中院町	奈良県奈良市中院町
二十八	室生寺金堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、寄棟造、正面一間通りすが る破風附葺きおろし、こけら葺	室生寺	奈良県宇陀郡室生村大字 室生	奈良県宇陀郡室生村大字 室生
二十九	室生寺本堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、入母屋造、檜皮葺 附 厨子及び佛壇、各一基	室生寺	奈良県宇陀郡室生村大字 室生	奈良県宇陀郡室生村大字 室生
三十	當麻寺東塔	一基	三間三重塔婆、本瓦葺	當麻寺	奈良県北葛城郡當麻村大 字當麻	奈良県北葛城郡當麻村大 字當麻
三十一	當麻寺西塔	一基	三間三重塔婆、本瓦葺	當麻寺	奈良県北葛城郡當麻村大 字當麻	奈良県北葛城郡當麻村大 字當麻
三十二	當麻寺本堂	一棟	桁行七間、梁間六間、一重、寄棟造、本瓦葺、關枷欄を 含む 附 厨子 扉に仁治三年歲次 壬寅五月廿三日の記がある	當麻寺	奈良県北葛城郡當麻村大 字當麻	奈良県北葛城郡當麻村大 字當麻
三十三	榮山寺八角堂	一棟	八角四堂、一重、本瓦葺 附 旧石露盤殘欠(寶珠) 一箇	榮山寺	奈良県宇智郡宇智村大字 小島	奈良県宇智郡宇智村大字 小島
三十四	金剛峯寺不動堂	一棟	桁行三間、梁間四間、一重、入母屋造、右側面一間通り 庇、左側面一間通り三間庇、すがる破風造、向拜一間、 檜皮葺	金剛峯寺	和歌山県伊都郡高野町大 字高野山	和歌山県伊都郡高野町大 字高野山
三十五	三佛寺奥院(投入堂)	一棟	奥院(投入堂) 舞臺造、桁行一間、梁間二間、一重、 附 愛染堂 流造、両側面に庇屋根及び隅庇屋根附、檜皮葺 舞臺造、桁行一間、梁間一間、一重、 切妻造、檜皮葺 棟札 一枚 永和元年乙卯七月廿五日檜皮造始の記がある	三佛寺	鳥取県東伯郡三徳村大字 門前	鳥取県東伯郡三徳村大字 門前



三十六	神魂神社本殿	一棟	大社造、とち葺 附 内殿 一間社切妻造、妻入、こけら葺 心御柱古材 一箇 正平元丙十一月 日の記がある	神魂神社	島根県松江市大庭町	島根県松江市大庭町
三十七	出雲大社本殿	一棟	大社造、檜皮葺 附 内殿 一間社切妻造、一基、檜皮葺 棟札 一枚 慶長十四己酉年春三月修造の記がある	出雲大社	島根県簸川郡大社町大字 杵築	島根県簸川郡大社町大字 杵築
三十八	吉備津神社本殿及び拜殿	一棟	本殿 桁行正面五間、背面七間、梁間八間、一重、比翼 入母屋造、檜皮葺 拜殿 桁行三間、梁間一間、一重、正面切妻造、背面本 殿屋根に接続、檜皮葺 三方もこし附、もこし本瓦葺 棟札 一枚 御上葺修造明和六己丑年成就の記がある	吉備津神社	岡山県吉備郡真金町	岡山県吉備郡真金町
三十九	嚴島神社	六棟	本殿 桁行正面八間、背面九間、梁間四間、一重、両流造、檜 皮葺 附 玉垣 右九間、左十一間、不明門を含む 桁行一間、梁間一間、一重、両下造、檜皮葺 桁行十間、梁間三間、一重、両端すがる破風附入母屋 造、檜皮葺、背面両端庇間附 附 左右内待橋 各桁行一間、梁間一間、切妻造、檜皮 葺 桁行六間、梁間三間、一重、入母屋造、妻入、背面拜殿 屋根に接続、檜皮葺 附 高舞台、高欄真々正面十七尺二寸、側面二十一尺 平舞台 百六十七坪 左右樂房 各桁行六間、梁間二間、一重、切妻造、 檜皮葺	嚴島神社	広島県佐伯郡宮島町	広島県佐伯郡宮島町



[illegible]

国宝目録 第三集

凡 例

- 一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和二十七年十一月、国宝に指定された物件を収録した。
  - 一、この目録に収録した国宝の種別は、絵画、彫刻、工藝、書跡、考古民俗資料、建造物である。
  - 一、この目録に収録した国宝は、第三次指定によるもので、なお将来の指定をまつて目録編集の完璧を期している。
- 昭和二十七年十一月

文化財保護委員会

絵 画 の 部

名	称	員数	所 有 者
紙本墨畫山水圖 雪舟筆 明應四年の自賛がある 月翁周鏡等六僧の賛がある	一幅	国(東京国立博物館保管)	

廻廊老間	天正十五年	亥丁二月吉日の記があるも	二
廻廊老間	天正十六季八月吉日の記があるもの	一	一
廻廊老間	天正十七季三月吉祥日の記があるもの	一	一
廻廊老間	天正十八季十一月吉祥日の記があるもの	一	一
廻廊老間	慶長貳丁曆十一月吉日の記があるもの	一	一
廻廊老間	慶長七年	寅壬九月吉祥日の記があるもの	一

紙本墨畫松林圖 長谷川等伯筆 六曲屏風	一雙	同	同
紙本金地著色樓閣山水圖 池野大雅筆 六曲屏風	一雙	同	同
紙本墨畫寒山圖 可翁筆	一幅	神奈川縣鎌倉市深沢町笛田 財団法人 長尾美術館	右
紙本著色繪因果經	一卷	京都府京都市上京区鷹野町十 二坊町	上品蓮台寺
絹本墨畫山水圖 右幅に「李唐畫」とある 附 絹本墨畫楊柳觀音圖 一幅	二幅	同	紫野大徳寺 高桐院
紙本著色華嚴宗祖師繪傳(華嚴縁起) 卷第二に元龜元年の裏書がある	六卷	同	右京区梅ヶ畑樽尾町 高山寺
紙本著色明恵上人像	一幅	同	同
絹本著色普賢延命像	一幅	同	東舞鶴市大字松尾 松尾寺
紙本著色寢覺物語繪卷	一卷	大阪府大阪市天王寺区上本町 六丁目	近畿日本鉄道株式会社 財団法人 大和文華館保管
紙本墨畫柴門新月圖 應永十二年玉崎梵芳の序並に大因良由 等十八僧の賛がある	一幅	同	都島区綱島町四〇 財団法人 藤田美術館

彫刻の部

絹本着色慈恩大師像	一幅	奈良県奈良市西ノ京町薬師寺
絹本着色十二天像	十二幅	同 生駒郡伏見町大字西大寺寺
絹本着色五大力菩薩像 (金剛吼、龍王吼、無畏十力吼)	三幅	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 有志八幡講十八箇院
絹本着色阿彌陀三尊像	一幅	同 蓮華三昧院
絹本着色普賢菩薩像	一幀	鳥取県八頭郡智頭町大字新見寺
絹本着色宮女圖(傳桓野王圖) 「錢選之印」の印がある	一幅	岡山県倉敷市新川町一〇〇三 大原總一郎
紙本淡彩納涼圖(久閑守景筆 二曲屏風)	一隻	福岡県飯塚市柏森 麻生多賀吉

木造智證大師坐像(御廟安置)	一軀	滋賀県大津市別所園城寺
木造智證大師坐像(御骨大師)	一軀	同 同 右寺
木造千手觀音立像	一軀	京都府京都市東山区本町通東福寺北門前本町十六丁目法性寺
木造毘沙門天及吉祥童子立像 (本堂安置)	三軀	同 左京区鞍馬本町鞍馬寺
木造彌勒菩薩半跏像	一軀	同 右京区太秦蜂岡町廣隆寺
木造不空羂索觀音立像(所在講堂)	一軀	同 相模郡加茂町大字西小
木造阿彌陀如來坐像(本堂安置)	九軀	同 同 淨瑠璃寺
木心乾漆千手觀音坐像(本堂安置)	一軀	大阪府南河内郡藤井寺町大字藤井寺
木造十一面觀音立像(本堂安置)	一軀	同 道明寺町大字道明寺

工藝品の部

銅造誕生釋迦佛立像(一面)	一具	奈良県奈良市雜司町東大寺
銅造灌佛盤(康慶作)	一軀	同 登大路町興福寺
木造不空羂索觀音坐像(南圓堂安置)	一軀	同 同 右寺
木造四天王立像(所在東金堂)	四軀	同 芝新屋町興寺
木造藥師如來立像	一軀	同 同 同 隆寺
銅造觀音菩薩立像(夢違觀音)	一軀	同 生駒郡斑鳩町大字法隆寺
木造藥師如來及兩脇侍坐像(講堂安置)	三軀	同 同 右寺
木造聖德太子山背王、殖栗王、卒末呂王、惠慈法師坐像 (聖靈院安置)	五軀	同 同 右
附 銅造觀音菩薩立像(一軀) 木造燕菜山及龜座付(一軀) 紙本墨書(妙法蓮華經二卷)(維摩經並勝鬘經一三卷)(木製經筒入) 奥に筆師法隆寺住僧隆暹敬白とある	一軀	同 宇陀郡室生村大字室生寺
木造十一面觀音立像(所在金堂)	一軀	同 同 右寺
木造釋迦如來坐像	一軀	同 同 右寺

片輪車螺鈿時繪手箱	一台	国(文化財保護委員會保管)
太刀銘來國光嘉曆二年二月日	一口	国(東京国立博物館保管)
太刀銘備前國長船住景光(小龍景光) 元享二年五月日	一口	同 同 右
太刀銘熊野三所權現長光	一口	埼玉県行田市佐間二三五一郎
短刀無銘正宗(名物日向正宗)	一口	東京都港区麻布井八郎
短刀無銘貞宗(名物德善院貞宗)	一口	同 三井高公
短刀無銘正宗(名物庖丁正宗)	一口	同 文京区関口台町二六 細川護立





史記 夏本紀第二、秦本紀第五  
(高山寺本)  
秦本紀 天養二年書寫奥書

古林清茂墨蹟 別源圓旨送別偈  
泰定二年九月二日

倭漢朗詠抄卷下殘卷(彩箋)

古今集 傳藤原清輔筆

寶積經要品 足利尊氏、同直義  
夢窓疎石合筆  
應永三年十月八日直義奥書

紙背短冊 百二十葉

萬葉集卷第九殘卷(藍紙本)

催馬樂譜

禮記子本疏義卷第五十九

藤原佐理筆詩懷紙

法華經(久能寺經)

竺仙梵唄墨蹟 明叟齊哲開堂諸山疏  
(絹本)

傳藤原行成筆假名消息(十二通)  
紙背 三寶感應要錄卷下

入唐求法巡禮行記 圓仁記  
兼胤筆  
正統四年十月廿六日奥書

後宇多院宸記(文保三年具注曆)  
御自筆本

類聚名義抄

二卷	同	右
一幅	世田谷区玉川上野毛町 一二二 五島慶太	
二卷	同	
同	岡本町九二二 財団法人 嘉堂	
二帖	同	
同	目黒区駒場町 財団法人 前田育徳会	
一帖	同	右
一卷	同	
同	渋谷区南平台町六 中村美佐子	
一冊	同	
同	神山町五一 鍋島直泰	
一卷	同	
七	新宿区戸塚町一ノ六四 早稲田大学	
一幅	同	
同	豊島区駒込四ノ一五 松平頼明	
十九卷	同	
同	静岡県清水市村松 鐵舟寺	
二幅	同	
同	京都府京都市上京区紫野大徳寺町 龍光院	
一卷	同	
同	中京区寺町通御池下ル 本能寺前町 株式會社 鳩居堂	
四帖	同	
同	入ル九条町 下京区四ツ塚通大宮西 教王護國寺	
一卷	同	右
十一帖	同	觀智院

一幅	同	東山区今熊野泉山町寺
一卷	同	右
十二冊	同	本町通東福寺北門前本町十五丁目 東福寺
一六卷	同	左京区浄土寺真如町 眞正極樂寺
二十六卷	同	右京区御室大内町 仁和寺
五帖	同	右
一幅	同	右
一幅	同	右
三卷	同	梅ヶ畑梶尾町 高山寺
六冊	同	右
一卷	同	大阪府東住吉区平野上町 大念佛寺
一卷	同	南河内郡長野町大字天野山 金剛寺
三卷	同	右
十一冊	同	兵庫県神戸市東灘区住吉町手崎 武田長兵衛
一卷	同	芦屋市平田町五九 上野精一
三十九冊	同	奈良県山辺郡丹波市町大字杣之内 天理大学図書館

法華經卷第六(色紙)

史記 呂后本紀第九  
延久五年正月大江家國書寫加點奥書

考古資料の部

一卷	和歌山県伊都郡高野町 金剛峯寺
一卷	山口県防府市東佐波令二三七八 毛利元道

名	称	員数	所 有 者
文彌麻呂墓出土品			国(東京国立博物館保管)
一、銅板墓誌	慶雲四年九月廿一日卒在銘	一面	
一、銅箱		一合	
一、緑瑠璃壺		一口	
一、金銅壺	奈良県宇陀郡内牧村大字八滝出土	一口	
崇福寺塔心礎納置品			滋賀県大津市錦織町 近江神宮
一、舍利		三粒	
一、舍利容器		一具	
① 金蓋碧瑠璃壺		一口	
② 金製内箱		一口	
③ 銀製中箱		一口	
④ 金銅外箱		一口	
一、瑠璃玉		一括	
一、硬玉丸玉		三顆	
一、金銅背鐵鏡		一面	
一、無文銀錢		十一枚	
一、水晶粒		二顆	
一、銅鈴(殘闕共)		二口	

新指定国宝一覧(考古資料の部)

一、金箔木片其他伴出物一切																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
---------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

番号	名	称	員数

番 号	名 称	員 数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 住 所	所 在 の 場 所
一	大崎八幡神社	一棟	桁行五間、梁間三間、一重、入母屋造、こけら葺 桁行一間、梁間一間、一重、両下造、こけら葺	大崎八幡神社	宮城県仙台市八幡町	宮城県仙台市八幡町
本	石の殿		桁行正面七間、背面五間、梁間三間、一重、入母屋造、 正面千鳥破風附、向拜五間、軒唐破風附、こけら葺 附棟札 慶長拾二年丁未八月十二日造立の記がある			
拜	殿					
二	輪王寺大猷院靈廟	一棟	桁行三間、梁間三間、一重もこし附、入母屋造、銅瓦葺 附厨子 桁行三間、梁間一間、二重、入母屋造、妻入、初 重軒唐破風附、本瓦形板葺	輪王寺	栃木県上都賀郡日光町大字日光	栃木県上都賀郡日光町大字日光
本	殿		桁行三間、梁間一間、一重、両下造、銅瓦葺			
相	の					
拜	殿		桁行七間、梁間三間、一重、入母屋造、正面千鳥破風附、 向拜三間、軒唐破風附、銅瓦葺 附棟札 奉修造元祿第三歲庚午夏五月廿四日の記がある			
三	光淨院客殿	一棟	桁行七間、梁間六間、一重、入母屋造、妻入、正面軒唐 破風附 中門 桁行一間、梁間一間、一重、切妻造 總こけら葺	園城寺	滋賀県大津市園城寺町	滋賀県大津市園城寺町
四	勸學院客殿	一棟	桁行七間、梁間七間、一重、入母屋造、妻入、正面軒唐 破風附 中門 桁行一間、梁間一間、一重、切妻造 總こけら葺	園城寺	滋賀県大津市園城寺町	滋賀県大津市園城寺町
五	石山寺本堂	一棟	本堂 桁行七間、梁間四間 相の間 桁行七間、梁間四間 礼の間 桁行七間、梁間四間 舞台造、桁行九間、梁間四間 本堂及び礼堂寄棟造、両棟を相の間の屋根でつなぎ礼堂 の棟をこえて破風をつくる 總檜皮葺	石山寺	滋賀県大津市石山寺辺町	滋賀県大津市石山寺辺町

六	御上神社本殿	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、向拜一間、檼皮葺 附 厨子 一基 一間厨子、宝形造、板葺	御上神社	滋賀県野洲郡野洲町大字三上	滋賀県野洲郡野洲町大字三上
七	金剛輪寺本堂	一棟	桁行七間、梁間七間、一重、入母屋造、檼皮葺 附 厨子 一基 桁行一間、梁間一間、一重、入母屋造、檼皮葺	金剛輪寺	滋賀県愛知郡秦川村大字松尾寺	滋賀県愛知郡秦川村大字松尾寺
八	西明寺本堂	一棟	桁行七間、梁間七間、一重、入母屋造、向拜三間、檼皮葺	西明寺	滋賀県犬上郡東甲良村大字池寺	滋賀県犬上郡東甲良村大字池寺
九	西明寺三重塔	一基	三間三重塔婆、檼皮葺	西明寺	滋賀県犬上郡東甲良村大字池寺	滋賀県犬上郡東甲良村大字池寺
十	本願寺書院 (對面所及び白書院)	一棟	桁行百二十七尺、梁間九十七尺三寸、一重、入母屋造、妻入、庇及び濡縁附、本瓦葺	本願寺	京都府京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町	京都府京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町
十一	教王護國寺五重塔	一基	三間五重塔婆、本瓦葺	教王護國寺	京都市京都市下京区四ッ塚通大宮西入ル九条町	京都市京都市下京区四ッ塚通大宮西入ル九条町
十二	教王護國寺蓮花門	一棟	三間一戸八脚門、切妻造、本瓦葺	教王護國寺	京都市京都市下京区四ッ塚通大宮西入ル九条町	京都市京都市下京区四ッ塚通大宮西入ル九条町
十三	清水寺本堂	一棟	本宇桁行九間、梁間七間、一重、寄棟造、東西北にもこし附、正面阿彌廊及び庇、舞台、西面翼廊附、檼檼皮葺 附 厨子 三基 各一間厨子、寶形造、板葺	清水寺	京都府京都市東山区清水一丁目	京都府京都市東山区清水一丁目
十四	宇治上神社拜殿	一棟	桁行六間、梁間三間、一重、切妻造、両妻一間通り庇附、向拜一間、檼皮葺 附 棧唐戸 四枚 藝股 一個	宇治上神社	京都府宇治市宇治山田	京都府宇治市宇治山田
十五	鶴林寺本堂	一棟	桁行七間、梁間六間、一重、入母屋造、本瓦葺 附 棟札 二枚 宮殿上棟永二年丁卯月十五日の記があるもの一 寛政九丁巳載十一月七日上棟の記があるもの一	鶴林寺	兵庫県加古川市加古川町	兵庫県加古川市加古川町
十六	鶴林寺太子堂	一棟	桁行三間、梁間三間、正面一間通り庇附、一重、宝形造、庇葺きおろし、檼皮葺	鶴林寺	兵庫県加古川市加古川町	兵庫県加古川市加古川町



十七	新藥師寺本堂	一棟	桁行七間、梁間五間、一重、入母屋造、本瓦葺 附 東三條の九墨書があるもの 西三條の九墨書があるもの	新藥師寺	奈良県奈良市高畑町	奈良県奈良市高畑町
十八	唐招提寺講堂	一棟	桁行九間、梁間四間、一重、入母屋造、本瓦葺 附 東三條の九墨書があるもの 西三條の九墨書があるもの	唐招提寺	奈良県奈良市五条町	奈良県奈良市五条町
十九	法隆寺聖靈院	一棟	桁行六間、梁間五間、一重、切妻造、妻入、本瓦葺、正面一間通り庇附、向拝一間、檜皮葺 附 棟札 慶長十一年丁午仲秋吉祥日の記がある	法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺
二十	法隆寺食堂	一棟	桁行七間、梁間四間、一重、切妻造、本瓦葺	法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺
二十一	法隆寺東大門	一棟	三間一戸八脚門、切妻造、本瓦葺	法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺
二十二	根來寺多寶塔(大塔)	一基	五間多寶塔、本瓦葺	根來寺	和歌山県那賀郡根來村大字西坂本	和歌山県那賀郡根來村大字西坂本
二十三	金剛三昧院多寶塔	一基	三間多寶塔、檜皮葺 三間五重塔婆、檜皮葺 附 嘉吉二年二月六日の墨書がある	金剛三昧院	和歌山県伊都郡高野町大字高野山	和歌山県伊都郡高野町大字高野山
二十四	瑠璃光寺五重塔	一基	三間一戸樓門、本瓦葺	瑠璃光寺	山口県山口市大字上宇野	山口県山口市大字上宇野
二十五	石手寺二王門	一棟	三間一戸樓門、本瓦葺	石手寺	愛媛県松山市大字石手町	愛媛県松山市大字石手町
二十六	豐樂寺藥師堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、入母屋造、こけら葺	豐樂寺	高知県長岡郡西豐永村寺内	高知県長岡郡西豐永村寺内
二十七	富貴寺大堂	一棟	桁行三間、梁間四間、一重、寶形造、本瓦葺 本殿は第一殿より第三殿に至る三棟よりなる各棟	富貴寺	大分県西国東郡田染村大字路	大分県西国東郡田染村大字路
二十八	宇佐神宮本殿	三棟	内院 桁行三間、梁間二間、一重、切妻造、檜皮葺 外院 桁行三間、梁間一間、一重、切妻造、向拝一間(但し第二殿なし)、檜皮葺 造り合を含む	宇佐神宮	大分県宇佐郡宇佐町大字南宇佐	大分県宇佐郡宇佐町大字南宇佐

# 重要文化財一覽

## 重要文化財目録 第一集

### 凡 例

- 一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百四十四号)により、昭和二十六年九月及び昭和二十七年三月、重要文化財に指定された物件を収録した。
- 一、この目録に収録した重要文化財の種別は、絵画、工芸、書跡、考古民俗資料、建造物である。
- 一、この目録に収録したものは、重要美術品等の保存に関する法律(昭和八年四月一日法律第四十三号)によつて認定された、重要美術品あるいは未指定の物件を保護法施行後新たに重要文化財として指定されたものの外、すでに指定されているものに未指定のものを加えて一件の重要文化財として名称を変更したもの、また従来の指定を一応解除し、一件を数件に分割して指定したものを含んでいる。
- 一、今回重要文化財に指定され、さらに国宝として指定をみたものは、この目録の外国宝目録第二集にも収録されている。

昭和二十七年三月

### 絵 画 の 部

名	称	員数	所 有 者
紙本淡彩公家列影圖		一卷	国(文化財保護委員会保管)
紙本墨畫李白吟行圖	梁楷筆	一幅	同 右
紙本金地著色秋草圖	依屋宗雪筆 六曲屏風	一雙	同 右
紙本著色扇面法華經册子	卷第八 (二十二面)	一帖	国(国立博物館保管)
紙本著色鐵鬼草紙	(繪十圖)	一卷	同 右

重要文化財一覽(絵画の部)

絹本著色千山萬水圖	渡邊崋山筆 丁酉六月初五日 の年記がある	一幅	秋田県秋田郡金足村小泉 奈良磐松
紙本著色西行法師行狀繪詞	西 依屋宗達筆 詞 鳥丸光廣筆	六卷	東京都千代田区一番町一六三 渡邊 昭
唐繪手鑑筆耕園(六十圖)		一帖	港区赤坂福吉町一 黒田長 禮
紙本金地淡彩梅に鴉圖	傳雲谷等顔筆 模貼付	六面	同 右
紙本淡彩耕作圖	久閑守景筆 六曲屏風	一雙	同 港区芝車町一二 森村市左衛門
紙本墨畫淡彩四季山水圖	六曲屏風	一雙	同 港区麻布飯倉片町二五 松平康 昌
紙本著色洋人奏樂圖	六曲屏風	一雙	同 文京区関口台町二六 細川護 立
絹本著色市河米庵像	渡邊崋山筆 天保九年九月米庵の自題がある	一幅	同 世田谷区二ノ一四二六 片倉五 郎
附 紙本著色市河米庵像畫稿	一幅	同	同 世田谷区岡本町九二 財團 嘉 堂
紙本金地著色四條河原遊樂圖	二曲屏風	一雙	同 豊島区目白町四ノ四二 財團 黎 明 会
紙本著色源氏物語繪卷	繪十五面 詞二十八面	四十面	同 法人 同 会
紙本著色物語繪卷	繪六面 詞六面	十二面	同 同 右
紙本著色西行物語繪卷		一卷	同 同 右
紙本著色破來頓等繪卷		一卷	同 同 右
紙本墨畫寒山拾得圖	松谿筆	一幅	同 同 右
紙本墨畫遠浦歸帆圖	自賛がある	一幅	同 同 右
絹本墨畫廬山圖	玉潤筆 自賛がある	一幅	同 西多摩郡吉野村柚木 吉川文子
紙本墨畫山市晴嵐圖	玉潤筆 自賛がある	一幅	同 同 右
紙本著色源氏物語繪詞	繪四面 詞九面	十三面	神奈川県小田原市板橋 益田太 郎
紙本著色病草紙		十面	愛知県名古屋市区南隣匠町 二ノ一 關戸有彦

紙本着色藤原敏行像 (佐竹本三十 六歌仙切)	一幅	滋賀県彦根市松原町五一五 井伊直愛	右
紙本金地著色風俗圖 (彦根屏風)	六枚	同	
絹本着色佐々木高氏像 (貞治五年六月 の自賛がある)	一幅	同 犬上郡東甲良村正楽寺 勝榮寺	
絹本着色親鸞聖人像 (安城御影) 願生偈、大無量壽經及び正信偈の要文 の書入れがある	一幅	京都府京都市下京区烏丸通七 条上ル 本願寺	
紙本墨畫親鸞聖人像 (鏡御影) 「專阿彌陀佛 信實朝臣息也 (略奉 圖畫云々)」の延慶三年の裏書がある	一幅	同 堀川通花屋町下ル本願 寺前町 本願寺	
絹本着色親鸞聖人像 (安城御影) 願生偈、大無量壽經及び正信偈の 要文の自筆書入れがある	一幅	同	
紙本墨畫半圖 俵屋宗達筆 烏丸光廣の賛がある	二幅	同 左京区二王門通川端東 入ル 頂妙寺	
絹本淡彩毛詩大雅蕩之什圖 傳馬和之筆	一卷	同 岡崎円勝寺町四四 財団法人 藤井齊成会	
紙本墨畫幽竹枯槎圖 王庭筠筆 鮮于樞趙孟頫等十二家の跋文がある	一卷	同	右
絹本着色即休契了像 (七十六歳の自賛がある 応永七年八月愚中周及の書入れがある)	一幅	同 天田郡上川口村大字大呂 寧寺	
紙本金地著色日月山水圖 六曲屏風	一雙	大阪府南河内郡長野町 金剛寺	
紙本墨畫淡彩鐘秀齋圖 祥啓筆 永正寅之秋玉隱英環の序 並に子明紹俊の賛がある	一幅	兵庫県芦屋市平田町五九 上野精一	
紙本着色鬼道朝敵圖 青木木米筆	一幅	岡山県倉敷市新川町一〇〇三 大原總一郎	

工 藝 品 の 部	名 称	員 数	所 有 者
金銅蓮華花瓶 内一口元徳二年二月在銘		一對	大阪府南河内郡川上村大字寺 元觀心寺

刺繡大日如來掛幅 鍍金装具付	一幅	同 泉大津市助松ノ浜 細見亮市
蒔繪二重短刀箱 内箱 桐 外箱 歌所菱	一組	山形県酒田市浜畑町一二 本間眞子
秋野蒔繪硯箱	一合	石川県金沢市十間町四四 谷村良治
櫻山鵲蒔繪硯箱	一合	兵庫県神戸市東灘区住吉町観 音林 武藤金太
鳳凰鍍金硯箱	一合	同 芦屋市東山町 山本清雄
井戸茶碗 銘柴田	一口	東京都港区青山南町六ノ二五 財団法人 根津美術館
白樂片身戀茶碗 銘不二山 光悦作	一口	同 新宿区戸塚町二ノ八八 酒井忠正
井戸茶碗 銘越後	一口	同 世田谷区岡本町九一二 財団法人 静嘉堂
古九谷色繪竹呷々鳥文大皿	一枚	同 渋谷区羽沢町一〇二 塩原又策
古九谷色繪牡丹文八角大皿	一枚	同
色繪花鳥文大深鉢 傳酒井田柿右衛門作	一口	同
金欄手花鳥文瓢形花生	一口	神奈川縣鎌倉市深沢町笛田 財団法人 長尾美術館
金欄手透彫花鳥文仙臺瓶	一口	同 材木座 高梨仁三郎
砧青磁鳳凰耳花生 銘千聲	一口	京都府京都市右京区宇多野上 谷町 財団法人 陽明文庫
太 刀 銘來國光	一口	国(国立博物館保管)
太 刀 銘吉房	一口	同
薙 刀 銘備州長船住景光 元享二年八月日	一口	同
梨子地螺鈿金裝飾太刀	一口	同

太刀 銘兼氏	一口	山形縣鶴岡市家中新町
刀 折返銘備州長船住元重	一口	菅 實 苞 右
太刀 銘備前國長船兼光 延文元年十二月日	一口	山形縣南村山郡上山町十日町 長谷川兼三
太刀 銘備州長船住兼光 應應二年正月日	一口	東京都港区今井町 三井 高 公
太刀 銘吉家	一口	同 文京区西原町二ノ四一 比 毛 關
短刀 銘清綱	一口	同 新宿区牛込若宮町三〇 古 河 從 純
短刀 銘山城國西陣住人理忠明壽 慶長拾三年八月吉日 所持新藏重代	一口	同
短刀 銘國吉(西運)	一口	同 下落合二ノ八四一 岡 野 光 弘 右
太刀 銘國行	一口	同
短刀 銘山城國西陣住人理忠明壽 慶長十三年三月日 所持理忠彦八郎重代	一口	同 岡 野 勝 野 右
刀 無銘傳國行	一口	同
刀 無銘傳當麻	一口	同 品川區小山町八ノ五一 大 久 保 寛 一
刀 無銘傳貞宗(幅廣貞宗)	一口	同 大田區田園調布四ノ一 篠 原 省 三
太刀 銘備中以下切	一口	同 世田谷區喜多見町二〇 石 島 護 雄
太刀 銘長元	一口	同 八五 豐島區雜司谷六ノ一一 遠 藤 初 治 郎
刀 無銘光忠	一口	同 椎名町六ノ二二八六 本 阿 彌 省 三
刀 無銘傳義弘(名物村雲江)	一口	同 神奈川縣鎌倉市大町 島 田 和 昌

太刀 銘安清	一口	同 鎌倉山住吉 森 榮 一
太刀 銘備前國長船住長光作 正安二年二月吉日	一口	愛知縣碧南市鶴見芝四七ノ十二 岡 島 太 十
黒漆太刀 刀身無銘	一口	同 西加茂郡猿投町 猿 投 神 社
太刀 銘吉信 附糸卷太刀拵	一口	三重縣宇治山田市 神 宮 司 庁
太刀 銘俊忠 附糸卷太刀拵	一口	同
刀 銘住東叡山忍岡邊長曾禰虎入道 寛文拾一年二月吉祥日	一口	京都府京都市上京區一条通御 前通西入ル 高 津 義 家
太刀 銘長光	一口	同 右京區宇多野上谷町 財 團 法 人 陽 明 文 庫
太刀 銘備前國宇甘郷雲生 八幡大菩薩	一口	同
錦包藤卷太刀	一口	同
錦包藤卷腰刀(刀身欠)一	二口	同
刀 金象嵌銘貞次(名物小青江)	一口	同
櫻島系威鎧 大袖付 附鎧櫃 長祿二年二月吉日墨書 一合	一領	大分縣別府市上田ノ湯二七 淺 原 健 三
紺糸威胴丸 兜、大袖付	一領	愛知縣西加茂郡猿投町 猿 投 神 社
澤瀉威鎧 兜付	一領	岡山縣岡山市東古松町 林 原 一 郎
淺葱系妻取鎧 大袖付	一領	同
紫綾威鎧 大袖付	一領	同
萌黃威腰取鎧 大袖付	一領	同
紫系威鎧 大袖付	一領	同
紫革威鎧 大袖付	一領	同
黄糸威鎧 大袖付	一領	同



白糸妻取鑑	一
藍革威鑑	一
色々威大胸丸 兜、頬當、大袖、小手付	一
色々威大胸丸 兜、大袖付	一
藍革威胸丸 鍛大袖付	一
色々威胸丸 大袖付	二
藍革威胸丸 大袖付	三
紫革威胸丸 大袖付	一
肩白腰白胸丸 大袖付	一
藍革威胸丸 大袖付	二
紫革威胸丸 壺袖付	一
紫革威胸丸 大袖一隻付	一
藍革威胸丸	一
藍革威胸丸	四
紅綾威肩腰萌黃綾胸丸	一
藍革包胸丸	一
紺糸威胸丸	一
藍革威腰白胸丸	一
紫革威胸丸	二
茶糸威鉄腹巻 兜、頬當、袖、小手付	一
色々威腹巻 兜、喉輪、大袖付	一
色々威腹巻 大袖付	三
藍革威腹巻 大袖付	一
色々威鐵腹巻 小手付	一

五十領

愛媛県越智郡宮浦村大字宮浦  
大山祇神社

書跡の部			
名	称	員数	所有者
色々威腹巻		四	
紫糸威鐵腹巻		一	
藍革威腹巻		二	
藍革肩紅威腹巻		一	
崩黄糸威鐵腹巻		一	
圓珍贈法印大和尚位 (綴紙) 並智證大師謚号勅書 (延長五年十月廿七日)	大休正念墨蹟 (舍利敬白文 建治四年佛涅槃辰)	一卷	国(国立博物館保管)
法華經 法師品、安樂行 品、無量義經	(久能寺經)	三卷	同 右
禪院額字 潮音堂		一幅	山形県鶴岡市家中新町戌ノ一 酒井忠明
後撰和歌集 天海寄進奥書		一帖	栃木県上都賀郡日光町 二荒山神社
觀心本尊抄 日蓮筆 文永十年卯月廿五日奥書 附 添狀一卷 春日山蔭繪箱 一台		一帖	千葉県市川市中山町 法華經寺
立正安國論 日蓮筆 文永六年十二月八日書寫奥書		一卷	同右
一山一寧墨蹟 (後字多法皇和韻詩 正和乙卯七月晦)		一幅	東京都中央区蠣殼町四ノ一 英小
崔子玉座右銘斷簡 (傳弘法大師筆 懷人以下十六字)		一卷	同 港区芝新橋七ノ一二 東京美術俱樂部内 大 師 会
禪院額字 釋迦寶殿		一幅	同 新宿区市ヶ谷加賀町二 ノ一二 梅原龍三郎



## 建造物の部

名	称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 住 所	所 在 の 場 所
旧因州池田屋敷表門	一棟	両番所附門、入母屋造、両番所唐破風造、總本瓦葺	国(大蔵省所管)	滋賀県彦根市	東京都港区高輪西台町	
彦根城天守、附櫓及び多聞櫓	二棟	天守、三重三階、地下階段室・玄關附、本瓦葺 附櫓及び多聞櫓、各一重櫓、本瓦葺	彦根市	滋賀県彦根市	滋賀県彦根市金亀町	
彦根城太鼓門及び續櫓	一棟	太鼓門、一重櫓門、本瓦葺 続櫓、一重棟、本瓦葺	彦根市	滋賀県彦根市	滋賀県彦根市金亀町	
彦根城天秤櫓	一棟	中央部一重櫓門、両端二重二階閣櫓、両閣櫓背面続櫓、各本瓦葺	彦根市	滋賀県彦根市	滋賀県彦根市金亀町	
彦根城西の丸	一棟	三重櫓、三重三階櫓、本瓦葺	彦根市	滋賀県彦根市	滋賀県彦根市金亀町	
彦根城及び續櫓	一棟	東北及び東南続櫓、各一重櫓、本瓦葺	彦根市	滋賀県彦根市	滋賀県彦根市金亀町	
彦根城二の丸	一棟	矩折一重櫓、東南端二重二階櫓、各本瓦葺	彦根市	滋賀県彦根市	滋賀県彦根市金亀町	
佐和口多聞櫓	一棟	三間一戸樓門(二階を欠く)、切妻造、こけら葺	開善寺	長野県下伊那郡龍丘村大字上川路	長野県下伊那郡龍丘村大字上川路	
開善寺山門	一棟	桁行四十七尺六寸、梁間三十八尺、舞台造、一重、入母屋造 玄關 桁行十二尺六寸、梁間十二尺三寸、唐破風造 總こけら葺	小笠原六男	長野県下伊那郡三穂村大字伊豆木三、九四二番地	長野県下伊那郡三穂村大字伊豆木三、九四二番地	
小笠原家住宅	一棟	桁行六十四尺九寸、梁間四十尺四寸、一重、入母屋造、檜皮葺	定勝寺	長野県西筑摩郡大桑村大字須原	長野県西筑摩郡大桑村大字須原	
定勝寺本堂	一棟	桁行六十一尺一寸、梁間四十六尺一寸 一重 切妻造、檜皮葺(勝手元を除く) 附 玄關廊 一棟	定勝寺	長野県西筑摩郡大桑村大字須原	長野県西筑摩郡大桑村大字須原	
定勝寺庫裡	一棟	四脚門、切妻造、檜皮葺 附 棟札 一枚 萬治四春 辛 丑三月吉辰の記がある	定勝寺	長野県西筑摩郡大桑村大字須原	長野県西筑摩郡大桑村大字須原	
白山神社本殿	一棟	一間社流造、とち葺 附 棟札 一枚 應永卅二乙巳八月十二日の記がある	白山神社	長野県上水内郡岡山村大字照岡	長野県上水内郡岡山村大字照岡	
園城寺毘沙門堂	一棟	正面一間、側面二間、一重、宝形造、棧瓦葺	園城寺	滋賀県大津市別所	滋賀県大津市別所	

重要文化財一覧(建造物の部)



重要文化財目録 第二集

凡 例

- 一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百四十四号)により、昭和二十七年七月、重要文化財に指定された物件を収録した。
- 一、この目録に収録した重要文化財の種別は、絵画、工芸、書跡、考古民俗資料、建造物である。
- 一、この目録に収録したものは、重要美術品等の保存に関する法律(昭和八年四月一日法律第四十三号)によつて認定された重要美術品等あるいは未指定の物件を、保護法施行後新たに重要文化財として指定したものの外、すでに指定されているものに重要美術品等認定物件又は未指定のものを加えて一件の重要文化財として名称を変更したものを含んでいる。

昭和二十七年七月

文化財保護委員会

絵画の部

名	称	員数	所 有 者
絹本着色日蓮聖人像		一幅	千葉県市川市中山 浄光院
紙本着色祭禮草紙		一卷	東京都目黒区駒場町八六一 財団法人 前田育徳会
紙本着色花鳥圖	傳雪舟筆 六曲屏風	一双	同 世田谷区岡本町二四一 小坂順造
紙本墨畫東雲籠雪圖	浦上玉堂筆	一幅	神奈川県鎌倉市長谷二六四 川端康成
紙本着色紫式部日記繪詞	繪三面 詞三面	六面	同 鎌倉市乱橋材木座 高梨仁三郎
絹本着色不動明王二童子像		一幅	新潟県新潟市沼垂寺町 法光院
紙本着色樹下美人圖(伝トルファン出土)		一面	静岡県熱海市東山一七三ノ五 岡田茂吉

彫刻の部

名	称	員数	所 有 者
紙本金地著色四季草花圖	田中訥言筆 六曲屏風	一双	愛知県名古屋市中区鉄砲町一ノ七 岡谷惣助
紙本着色紫式部日記繪詞殘闕		一幅	同 名古屋市中種区菊坂町三ノ一六 森川馨
紙本着色柿本人麿像	(佐竹本三十) 六歌仙切	一幅	同 同 右
紙本着色七難七福圖	圓山應舉筆 附七難圖畫稿 應舉筆 七難七福圖注文畫稿 祐常筆	三卷	滋賀県大津市別所 圓満院
紙本着色八橋圖	尾形乾山筆	一幅	京都府京都市上京区室町中立売南入 藤井太一
絹本墨畫秋山蕭寺圖	傳許道寧筆	一卷	同 寺町四四 左京区岡崎四勝 財団法人 藤井齊成会
紙本墨畫三教圖	傳如拙筆 空臘叟及正宗龍經の賛がある	一幅	同 四条下ル四丁目小松町 東山区大和大路 兩足院
絹本着色山崎架橋圖	附紙本墨書繪縁起詞書寫 伊藤若冲筆 七十五歳の款記がある 模貼付	一幅	同 乙訓郡向日町大字寺戸 寶積寺
紙本金地著色群鶏圖		六面	大阪府豊中市小曾根 西福寺
鐵造藥師如來坐像	背面に建治三年十二月十日の銘がある	一軀	栃木県上都賀郡西方村大字金井部落 藥師堂
木造十二神將立像(巳神戌神)		二軀	東京都世田谷区松原町一ノ一二五 中村庸一郎
銅造藏王權現立像		一軀	奈良県南葛城郡葛城村鳥井戸 幸田彌太郎

工藝品の部

名	称	員数	所 有 者
鐔口 極樂寺、長保三年在銘 蝶形磬 附板金具 一箇 長野県松本市大字宮淵出土		一口	国（東京国立博物館保管）
梵鐘 飯高郡上寺金、貞元二年正月十一日在銘 伝伊勢國出土		一口	東京都世田谷区世田谷二ノ一〇八九 井上恒一
金銅透彫尾長鳥唐草文華蓋 近江安土淨観院傳來		一面	大阪府泉大津市助松松ノ浜市 細見亮市
刺繡三昧耶旗（納入文書九枚付） 附旗殘片六枚、旗頭金具八箇 木箱 一合 蓋裏に天正三年六月日修幅の墨書がある		十七旒	滋賀県野州郡兵主村 兵主大社
錦旗 二旒（旗頭金具四箇付）		一脊	神奈川県小田原市幸町一丁目 浅野長武
櫻螺鈿鞍 橋時繪手箱		一合	新潟県北魚沼郡小千谷町九六 西脇濟三郎
南宋官窯青磁鉢 短刀 銘左 筑州住（名物小夜左文字）		一口	国（東京国立博物館保管） 秋田県雄勝郡西馬音内本町 柴田政太郎
太刀 銘國吉		一口	同 山形県山形市旅籠町 鈴木清助
太刀 無銘傳光忠		一口	埼玉県行田市佐間 松本近太郎
太刀 銘來國光		一口	東京都千代田区丸の内一ノ一 八幡製鉄株式会社 渡邊義介
太刀 銘弘 附打刀拵		一口	同 中央区明石町五二 青山孝吉
刀 無銘傳貞宗 附打刀拵		一口	同

重要文化財一覧（工藝品の部）

太刀 銘備前國長船兼光 延文三年二月日	一口	同	右
短刀 銘備中國住守次作 延文二年八月日	一口	同	右
薙刀 銘一 銘備前長船住景光 元亨三年三月日 附腰刀拵	一口	同	港区麻布今井町四二 三井高公
刀 銘津田越前守助廣 延寶七年二月日	一口	同	新宿区下落合二ノ八四一 岡野多郎松
宋白地黒掻落牡丹文瓶	一口	同	岡野勝野
太刀 銘高綱 附打刀拵	一口	同	文京区関口台町二六 細川護立
檜島糸威肩赤胴丸 兜大袖付 短刀 銘來國光名物塩川來國光 附銘 銘うめたゝ壽齋	一口	同	世田谷区岡本町九一二 財団法人 嘉堂
短刀 銘相模國住人廣光 延文五年八月日 附小刀拵	一口	同	世田谷区経堂町三二四 秋田重季
宋白地黒掻落龍文瓶	一口	同	神奈川県静岡市馬淵町六ノ一五 石居昌己
太刀 銘大和則長作	一口	同	兵庫県神戸市東灘区住吉町 財団法人 白鶴美術館
刀 無銘傳行光	一口	同	同 芦屋市打出春日町三四 財団法人 黒川古文化研究所
刀 無銘傳行光	一口	同	同
太刀 銘國光	一口	同	同
刀 銘長曾禰興里入道虎徹	一口	同	香川県坂出市明神町 津島惣平
刀 銘國廣 慶長七年十二月十四日	一口	同	福岡県田川郡川崎町 大森小太郎

書跡の部

名	称	頁数	所 有 者
圓珍關係文書 圓珍自筆書狀(五月廿七日) 圓珍戒牒(天長十年四月十五日) 圓珍充内供奉治部省牒(嘉祥三年三月二日) 附圓珍自筆添記(一紙) 圓珍太宰府公驗(仁壽三年三月十一日) 圓珍福州公驗(大中七年九月十四日) 圓珍台州温州公驗	一卷 一卷 一卷 一卷 一卷 一卷 一卷	八種	国(東京国立博物館保管)
台州牒(大中七年十二月三日) 温州公驗三通(大中七年十月、十一月、十二月) 台州公驗三通(大中七年二月、三月、四月) 讃岐國司解(貞觀九年二月六日) 卷首藤原有年申文 大友氏屈請(貞觀三年二月九日)	一通 一卷 一卷 一卷 一通	十二卷	同 右
紺紙金銀字大唐西域記(中尊寺經) 天正遣歐使節記(伊太利レツジオ刊) 西曆一五八五年	一冊	一冊	東京都文京区駒込上富士前町 財団法人 東洋文庫
ドチリーナ・キリシタン (吉利志丹版天章刊) 西曆一九三三年	一冊	一冊	同 右
ジョン・セーリス日本航海記 (自筆本) (西曆一六四四年)	一冊	一冊	同 右
明月記 定家自筆本 天福元年七月、八月	一卷	一卷	同 新宿区諏訪町三三 反町十郎
ドチリーナ・キリシタン (吉利支丹版) (西曆二〇〇一年)	一冊	一冊	同 世田谷区玉川瀬田町五一 德川 昭順
清原家學書	一種	三十三種	同 大田区大森上池上町一 〇四五 舟橋 清賢
御注孝經殘卷 紙背建保五年承久三年文書等	一卷		
古文孝經 延文元年十月廿三日敦氏傳授奥書	一卷		

易學啓蒙抄 上下 宣賢筆	二冊	
易學啓蒙通釋 上下 宣賢筆	二冊	
易學啓蒙通釋口義 上ノ二 宣賢筆	一冊	
命期秘傳 宣賢筆	一冊	
尚書聽塵 宣賢筆	五冊	
毛詩(清家證本)宣賢本の写本 第一冊、慶長二年書寫奥書	九冊	
左傳聽塵 宣賢筆 卷第五、第三十抄出加點奥書	十二冊	
大學 宣賢筆 永正十一年十月書写、並に大永 天文年間講義奥書	一冊	
論語 良枝筆 天文十九年四月枝賢奥書	二冊	
論語(清家證本)枝賢筆 第一冊、天正四年六月枝賢奥書 第二冊、天文八年二月業賢奥書	二冊	
論語義疏 卷第二、第四、第五 第六、第七、第八 卷第八奥良兼朱花押	六冊	
孝經抄 業賢筆 大永八年八月書寫奥書	一冊	
史記抄 一部宣賢、業賢筆	二十冊	
漢書抄 一部宣賢、業賢筆	六冊	
標題補注蒙求 業賢筆 各冊享祿天文年間宣賢講義奥書	三冊	
六韜 業賢筆 宣賢注	一冊	
六韜秘抄 宣賢筆	二冊	
司馬法 宣賢筆	一冊	
三略秘抄 宣賢筆 天文三年抄、同五年、九年講義奥書	一冊	

三略抄 第一冊國賢筆  
天正四年、十三年奥書 六冊

三略講義 自卷三十一至卷三十三  
內一部宣賢筆 一冊

孝子傳 枝賢筆 一冊

天正八年正月書寫奥書

長恨歌並釋行秘抄 宣賢筆  
天文十二年八月講義奥書 一冊

拾芥抄 上中下 三冊

上卷枝賢 國賢、宣賢筆

天正九年國賢奥書

中卷葉賢筆

永正七年書寫奥書

下卷國賢筆 一冊

年中行事 宣賢筆

宣賢加點奥書

新古今注 宣賢筆 一冊

塵芥 宣賢筆 二冊

聚分韻略(先到嚴) 宣賢筆 一冊

宣賢卿字書 宣賢筆 一冊

子元祖元高峰顯日間答語(但來相叫)

孤峯覺明墨蹟 與保樹大姉法語

注法華經(開結共)  
日蓮自注

撰時抄 日蓮筆

貞觀政要卷第一 日蓮筆

法華證明鈔 日蓮筆

子元祖元高峰顯日間答語(你且來)

神奈川縣鎌倉市山の内一二三  
○ 齋藤 俊  
富士山西礪波郡福光町六五六  
九 波多 康明  
静岡縣三島市玉沢一番地  
妙法華寺  
同 右  
同 富士郡北山村大字北山寺  
同 本 芝富村大字西山寺  
京都府京都市上京区金閣寺町  
鹿苑寺

子元祖元高峰顯日間答語(我要你)

一山一寧墨蹟(雪夜作  
正和乙卯臘月)

東大寺奴婢見來帳  
天平勝寶三年三月、八月、十二月、  
同八年八月、十月

越前國田使解(桑原庄券第二、第三)  
天平勝寶八年、九年

おらしよの翻譯(吉利支丹版長崎刊)  
慶長五年

落葉集殘卷(吉利支丹版)  
(西曆一五九八年)(十二枚)

ぎやどべかどる上巻(吉利支丹版)  
(慶長四年)

こんてむつすむんち(吉利支丹版京都刊)  
(慶長十五年)

東大寺寫經文書(天平勝寶六年八月八日)  
(天平寶字二年七月廿日)

珠冠のまぬある(吉利支丹版長崎刊)  
(慶長十二年)

同 鳥丸東入相國寺門前町 寺

同 通四条下ル四丁目小松原 寺

奈良縣奈良市雜司町 大 寺

同 山辺郡丹波市町袖之内 寺

同 天理大學圖書館 右

同 香川縣大川郡志度町一二二 右

同 松岡茂 春

長崎縣長崎市南山手町二 山口愛次郎

文福麻呂墓出土品  
銅板墓誌  
文福麻呂 慶雲四年九月廿二日卒 一面  
銅箱 在銘  
綠琉璃壺 一口  
金銅壺 一口  
奈良縣宇陀郡内牧村大字八滝出土  
安藝福田木ノ宗山出土青銅器  
一、一、銅戈 細形銅劍

國(東京國立博物館保管)  
廣島縣安佐郡福木村  
光明英太郎



## 建造物の部

名	称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
立石寺	三重小塔	一基	一間三重塔婆、こけら葺	立石寺	山形県東村山郡山寺村大字山寺	山形県東村山郡山寺村大字山寺
大法寺	観音堂	一具	厨子一間厨子、入母屋造、本瓦形板葺 須彌壇 唐様須彌壇 高欄附	大法寺	長野県小県郡浦里村大字当郷	長野県小県郡浦里村大字当郷
健御名方富命彦	末社	一棟	一間社流造、板板葺(元こけら葺)	彦御名方富命彦神社	長野県下水内郡太田村大字豊田	長野県下水内郡太田村大字豊田
神宮八幡神社	本殿	一棟	正面三間、背面四間、側面四間、一重、寶形造、向拜一間、本瓦葺	如意寺	兵庫県神戸市垂水区檀谷町	兵庫県神戸市垂水区檀谷町
如意寺	阿彌陀堂	一棟	三間三重塔婆、本瓦葺	如意寺	兵庫県神戸市垂水区檀谷町	兵庫県神戸市垂水区檀谷町
如意寺	三重塔	一基	桁行五間、梁間四間、一重、高床、入母屋造、本瓦葺 附 厨子、入母屋造、板葺	如意寺	兵庫県神戸市垂水区檀谷町	兵庫県神戸市垂水区檀谷町
如意寺	文珠堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、寄棟造、本瓦葺 附 厨子、寄棟造、板葺 棟 札 二枚	如意寺	兵庫県美濃郡奥吉川村大字福吉	兵庫県美濃郡奥吉川村大字福吉
東光寺	本堂	一棟	天和二稔癸亥八月吉日再興の記があるもの 宝永七庚寅年七月吉日宮殿再興の記があるもの	東光寺	兵庫県美濃郡奥吉川村大字福吉	兵庫県美濃郡奥吉川村大字福吉
圓成寺	本堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、正面入母屋造、背面切妻造、向拜三間、本瓦葺 附 厨子、寶形造、板葺	圓成寺	奈良県添上郡大柳生村大字忍辱山	奈良県添上郡大柳生村大字忍辱山
楊谿神社	本殿	三棟	桁行三間、梁間二間、一重、入母屋造、向拜一間、檜皮葺 一間一戸平唐門、檜皮葺	楊谿神社	鳥取県鳥取市上町	鳥取県鳥取市上町
唐殿及び幣殿	門	一棟	幣殿 桁行三間、梁間二間、一重、入母屋造、向拜一間、こけら葺 幣殿 桁行二間、梁間一間、一重、後面入母屋造、前面拜殿に接続、こけら葺	不動院	広島県広島市牛田町	広島県広島市牛田町
不動院	鐘樓	一棟	桁行三間、梁間三間、袴腰附、入母屋造、茅葺	不動院	広島県広島市牛田町	広島県広島市牛田町

昭和 27 年度補助金交付表（4 半期別補助額）

文化財保護委員会昭和二七年度補助金交付一覧

目	補助額	第1—4半期 交付額	第2—4半期 交付額	第3—4半期 交付額	第4—4半期 交付額	備考
法隆寺国宝其他保存 修理費補助金	49,000,000	14,700,000	14,700,000	15,000,000	4,600,000	
日光二社一寺国宝其 他保存修理費補助金	12,500,000	5,000,000	4,500,000	3,000,000	—	
国宝其他建造物保存 修理費補助金	187,360,000	75,987,000	55,102,000	37,535,000	18,736,000	
国宝其他宝物類保存 修理費補助金	15,500,000	5,812,000	3,875,000	3,951,000	1,862,000	
史跡名勝天然記念物 保存修理費補助金	6,900,000	1,700,000	2,600,000	2,100,000	500,000	
重要文化財建造物震 災復旧費補助金	5,936,000	—	—	3,900,000	2,036,000	
国宝宝物類震災復旧 費補助金	2,228,000	—	—	1,058,000	1,170,000	
特別史跡災害復旧費 補助金	189,000	—	—	189,000	—	
国宝其他防災施設費 補助金	52,400,000	4,070,000	17,498,500	19,621,000	11,210,500	
無形文化財助成金	1,900,000	—	—	1,444,000	456,000	
文化財公開費交付金	475,000	—	—	400,000	75,000	
計	334,388,000	107,269,000	98,275,500	88,198,000	40,645,500	

文化財保護委員会昭和二七年度補助金交付一覧

補助金交付表（府県別補助額及件数）

国宝宝物類 震災復旧費補助 金		特別史跡災害 復旧費補助金		国宝其他防災 施設費補助金		無形文化財助 成金		文化財公開費 交付金		合 計	
										交 付 額	件数
										300,000	1
										3,637,000	2
				1,900,000	3	50,000	1			1,950,000	4
				300,000	1					450,000	2
				190,000	2	30,000	1			4,926,000	5
						50,000	1	50,000	1	5,200,000	3
				300,000	1	330,000	1			685,000	3
				796,000	2					896,000	3
				8,660,000	4					24,970,000	7
										0	0
				530,000	3					2,980,000	5
				394,000	3	30,000	1			844,000	5
						230,000	2	375,000	2	5,949,000	6
				2,708,500	11	196,000	1			3,179,500	16
				50,000	1	30,000	1			3,912,000	5
				50,000	1					50,000	1
										5,880,000	4
										8,330,000	4
				671,000	1					10,611,000	4
				2,940,000	7	50,000	1			6,505,000	14
				600,000	1	274,000	2			7,009,000	9
				2,177,000	3					2,314,000	5
				850,000	1	80,000	1			15,372,000	14
				1,100,000	1	100,000	1			1,308,000	3
				1,632,000	4			50,000	1	13,934,000	10
				9,036,000	15	210,000	2			50,862,000	53
				1,000,000	1	50,000	1			4,849,000	8
		189,000	1	3,130,000	5	50,000	1			14,704,000	14
2,228,000	1			3,767,000	17					77,624,000	39
				50,000	1					2,463,000	10
				60,000	1	30,000	1			90,000	2
				1,817,500	5	30,000	1			9,007,500	9
										1,100,000	3
				400,000	1					4,424,000	3
				770,000	2	50,000	1			4,309,000	13
										0	0
				820,000	2					7,365,000	8
				1,315,000	3					8,665,000	6
				50,000	1					7,050,000	3
				2,176,000	5	30,000	1			8,303,000	11
										0	0
				2,060,000	2					2,210,000	3
				50,000	1					121,000	2
										0	0
										0	0
				50,000	1					50,000	1
2,228,000	1	189,000	1	52,400,000	113	1,900,000	22	475,000	4	334,388,000	323

文化財保護委員会昭和二七年度補助金交付一覧

昭 和 2 7 年 度

	法隆寺国宝其 他保存修理費 補助金	日光二社一寺 国宝其他保存 修理費補助金	国宝其他建造 物保存修理費 補助金	国宝其他宝物 類保存修理費 補助金	史跡名勝天然 記念物保存修 理費補助金	重要文化財建 造物震災復旧 費補助金
北海 道					300,000	1
青森			3,500,000	1	137,000	1
岩手					150,000	1
宮城			4,706,000	2		
秋田			5,100,000	1		
山形					55,000	1
福島					100,000	1
茨城		12,500,000	3,700,000	1	110,000	1
栃木			2,450,000	2		
群馬			420,000	1		
埼玉			5,344,000	2		
東京			3,832,000	3	275,000	4
神奈川						
新潟			4,480,000	2		1,400,000
富山			8,000,000	2	180,000	1
石川			9,940,000	3		
福山			3,190,000	3	175,000	1
山梨			5,925,000	2	110,000	1
長野					137,000	2
岐阜			13,177,000	6	465,000	5
静岡					108,000	1
愛知			12,110,000	4	192,000	2
三重			33,315,000	10	6,651,000	22
滋賀			3,624,000	3	175,000	3
京都			9,930,000	2	905,000	4
大阪	49,000,000	1	16,430,000	7	1,463,000	9
兵庫					2,413,000	9
奈良			7,000,000	1	110,000	1
和歌山			1,100,000	3		
鳥取			3,960,000	1	64,000	1
岡山			338,000	2	851,000	5
広島					2,300,000	3
山口			5,800,000	1	745,000	5
徳島			7,260,000	2	90,000	1
香川			7,000,000	2		
愛媛			5,729,000	2	18,000	1
高松					350,000	2
福岡					150,000	1
佐賀						
長門						
熊大					71,000	1
宮鹿						
総 計	49,000,000	1	12,500,000	1	187,360,000	71
					15,500,000	85
					6,900,000	20
					5,936,000	4



法隆寺国宝其他保存修理費補助金

名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
法 隆 寺	奈良県生駒郡斑鳩町	49,000,000	

日光二社一寺国宝其他保存修理費補助金

名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
東 照 宮 廻廊外 3 件	栃木県上都賀郡日光町	6,250,000	
輪 王 寺 大猷廟外 3 件	〃	4,550,000	
二荒山神社 拜 殿	〃	1,700,000	
計	3 件	12,500,000	

国宝其他建造物保存修理費補助金

名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
長 勝 寺 山 門	青森県弘前市大字西茂森町	3,500,000	
慈 恩 寺 本 堂	山形県西村山郡醍醐村	5,100,000	
瑞 巖 寺 本 堂	宮城県宮城郡松島町	4,106,000	
國 分 寺 本 堂	〃 仙台市木の下	600,000	
西 明 寺 樓門及塔婆	栃木県芳賀郡益子町	3,700,000	
喜 多 院 庫 裡	埼玉県川越市大字小仙波	750,000	
高 倉 寺 觀 音 堂	〃 入間郡豊岡町	1,700,000	
寶 殊 院 觀音堂(光堂)	千葉県印旛郡永治村	420,000	
根 津 神 社 拜 殿	東京都文京区根津須賀町	3,000,000	
觀 音 寺 本 堂	〃 青梅市塩船	2,344,000	
平 等 寺 藥 師 堂	新潟県東蒲原郡三川村	240,000	
乙 寶 寺 塔 婆	〃 北蒲原郡乙村	2,800,000	
蓮 華 峯 寺 金堂及弘法堂	〃 佐渡小木町小比叡	792,000	
尾 崎 神 社 社 殿	石川県金沢市四番丁	4,000,000	
妙 成 寺 開 山 堂	〃 羽咋郡上甘田村滝谷	480,000	
神 宮 寺 本 堂	福井県小浜市神宮寺30の4	4,000,000	
丸 岡 城 天 守	〃 坂井郡丸岡町	4,000,000	
富士浅間神社 東宮本殿	山梨県富士吉田市	380,000	
窪入幡神社 拜殿外四棟	〃 東山梨郡入幡村	3,560,000	
大 善 寺 本 堂	〃 勝沼町	6,000,000	
中 禪 寺 藥 師 堂	長野県小県郡西塩田村	1,370,000	
智 識 寺 本 堂	〃 更級郡上山田町	1,460,000	
安 樂 寺 塔 婆	〃 小県郡別所村	360,000	
新 長 谷 寺 本 堂	岐阜県武儀郡関町	3,525,000	
國 分 寺 本 堂	〃 高山市総和町	2,400,000	
名古屋城 東南隅櫓	名古屋市中区南外堀町	2,642,000	
密 藏 院 塔 婆(多)	愛知県春日井市熊野町	2,415,000	
大 恩 寺 念 佛 堂	〃 宝飯郡御津町	2,150,000	
伊賀八幡宮 拜殿外三棟	〃 岡崎市伊賀町	920,000	
金 蓮 寺 彌 陀 堂	〃 幡豆郡横須賀村	1,050,000	

名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
高田寺本堂	愛知県西春井郡師勝村	4,000,000	
圓滿院宸殿	滋賀県大津市別所	1,150,000	
延暦寺根本中堂廻廊	〃 滋賀郡坂本村	8,000,000	
西明寺樓門	〃 犬上郡東甲良村	2,000,000	
石山寺鐘樓	〃 大津市別所	960,000	
平等院鳳凰堂	京都府宇治市宇治	3,800,000	
曼殊院書院及附茶室	京都市左京区一乗寺竹内町	1,710,000	
教王護國寺南大門	〃 下京区九条町	2,950,000	
妙心寺小方丈	〃 右京区花園妙心寺町	2,100,000	
勸修寺書院	〃 東山区山科勸修寺	2,620,000	
大報恩寺本堂	〃 上京区五辻通六軒町	6,000,000	
教王護國寺講堂	〃 下京区九条町	6,500,000	
妙法院大書院	〃 東山区妙法院前側町	1,660,000	
西本願寺黑書院	〃 下京区堀川通花屋町	3,000,000	
二條城西南隅櫓及北米藏	〃 下ル本願寺門前町	2,975,000	
住宅(吉村邸)	〃 中京区二条通堀川西入	900,000	
金剛寺本堂及樓門	大阪府南河内郡高鷲村島泉	1,380,000	
長野神社本殿	〃 南河内郡長野町天神山	1,344,000	
太山寺仁王門	〃 〃	2,930,000	
圓教寺大講堂	神戸市垂水区伊川谷町	7,000,000	
藥師寺南門及三重塔	兵庫縣飾磨郡曾左村	2,300,000	
唐招提寺經藏	奈良縣奈良市西ノ京町	360,000	
室生寺五重塔	〃 五条町	250,000	
十六所神社本殿	〃 宇陀郡宝生村	1,470,000	
春日神社廻廊	〃 生駒郡富雄村	2,050,000	
極樂院本堂	奈良市春日野町	6,000,000	
法華寺本堂	〃 中院町	4,000,000	
松江城天守	〃 法華寺町	7,000,000	
西明院外五ヶ院塔婆	島根縣松江市	500,000	
妙本寺鎮守堂	岡山縣和氣郡香登町	300,000	
閑谷疊校門(鶴鳴門)	〃 吉備郡大和村	300,000	
嚴島神社廻廊外四棟	所有者東京都港区池田宣政	3,960,000	
本山寺本堂	広島縣佐伯郡宮島村	5,800,000	
大山祇神社本殿	香川縣三豐郡本山村寺家	2,260,000	
太山寺本堂	愛媛縣越賀郡宮浦村	5,000,000	
高知城天守	〃 松山市和氣	5,000,000	
土佐神社本殿外三棟	高知縣高知市	2,000,000	
功山寺佛殿	〃 土佐郡一宮村	124,000	
瑠璃光寺塔婆(五)	山口縣下関市長府町	214,000	
宗像神社本殿	〃 山口市木町	2,509,000	
英彦山神社奉拜殿銅鳥居	福岡縣宗像郡田島村	3,220,000	
計	71 件	187,360,000	

## 国宝其他宝物類保存修理費補助金

所 有 者	名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
八幡宮	唐櫃入赤糸威鑑兜丈袖付	青森縣三戸郡館村	137,000	

所 有 者	名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
龍興寺	一字蓮臺法華經	福島県大沼郡高田町	55,000	
二荒神社	後撰和歌集	栃木県上都賀郡日光町	110,000	
建長寺	大覺禪師像	神奈川県鎌倉市山ノ内	13,000	
光觸寺	阿彌陀如來及兩脇土像	〃 十二所	89,000	
傳宗庵	地藏菩薩坐像	〃 山ノ内	87,000	
眞福寺	釋迦如來立像	横浜市港北区荏田町	86,000	
知識寺	十一面觀音立像	長野県更級郡上山田村	95,000	
戸隠神社	法華經殘闕	〃 上水内郡若槻村	80,000	
西福寺	觀經變相曼荼羅圖	福井県敦賀市松原	180,000	
平田寺	聖武天皇勅書	静岡県榛原郡相良町	57,000	
北山本門寺	貞觀政要卷第 1 日蓮筆	〃 富士郡北山村	80,000	
本證寺	聖德太子繪傳	愛知県碧海郡桜井村	57,000	
法住寺	千手觀音立像	〃 宝飯郡大塚村	86,000	
龜翁寺	虚空藏菩薩坐像	〃 中島郡大里村市場	71,000	
林光寺	藥師如來坐像	〃 八名郡八名村	163,000	
眞福寺	慈恵大師坐像	〃 額田郡岩津村	88,000	
東圓寺	藥師如來坐像	岐阜県恵那郡中津町	22,000	
横藏寺	大日如來坐像	岐阜県掛妻郡横藏村	58,000	
白山神社	瀬戸瓶子	〃 郡上郡北濃村	30,000	
佛勝寺	藥師如來座像	三重県上野市猪田	108,000	
兵主神社	金銅華鬘	滋賀県野洲郡兵主村	32,000	
常明寺	大般若經	〃 甲賀郡上山町	160,000	
禪林寺	釋迦十大弟子像	京都市左京区永觀堂町	205,000	
眞正極樂寺	普賢菩薩像	〃 浄土寺真如町	40,000	
南禪寺	南禪寺方丈障壁畫	〃 南禪寺福地町	480,000	
京都市	地藏菩薩立像		34,000	
三千院	不動明王立像	京都市左京区大原来迎院町	55,000	
醍醐寺	如意輪觀音坐像	〃 伏見区醍醐東大路町	55,000	
向日神社	日本書紀神代下卷	京都府乙訓郡向日町	90,000	
陽明文庫	知足院關白記(殿曆)	京都市右京区宇多野上ノ谷町	420,000	
〃	類聚歌合殘卷 附原表紙目錄等	〃		
長法寺	釋迦金棺出現圖	京都府乙訓郡長岡町	70,000	
清涼寺	十六羅漢像	京都市右京区嵯峨 釈迦堂藤木町	162,000	
龍光院	燿變天目茶碗	〃 上京区紫野大徳寺町	15,000	
頂妙寺	牛 圖	〃 左京区仁王門通川端 東入ル	54,000	
神護寺	一切經附經帙外	京都市左京区梅ヶ畑高雄町	770,000	
仁和寺	孔雀明王像	〃 御宝	45,000	
觀智院	三寶繪詞	〃 下京区四つ塚通	170,000	
東福寺	無準師範墨跡	〃 東山区本町	38,000	
觀音寺	乾漆十一面觀音像	京都府綴喜郡田辺町	274,000	
清涼寺	十六羅漢像	京都市右京区嵯峨 釈迦堂藤ノ木町	186,000	
高山寺	高僧像	〃 右京区梅畑梅尾町	14,000	
〃	玉 篇 卷第 27	〃	48,000	
教王護國寺	不動明王臺座	〃 下京区九条町	223,000	
妙法院	千手觀音像	〃 東山区妙法院前側町	2,780,000	
歡喜光寺	一遍上人繪傳	〃 東大路五条上ル	423,000	

所 有 者	名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
久米田寺	星曼荼羅圖	大阪府岸和田市池尻町	73,000	
水無瀬神社	後鳥羽天皇像	三島郡島本町	84,000	
大 阪 市	金銅装眉庇付鐵冑		18,000	
薮岩窓神社	薮岩窓命坐像 豊岩窓命坐像 大宮比賣命坐像	兵庫県多紀郡畑村畑宮	201,000	
大 乘 寺	襖壁貼付繪	城崎郡香住町	440,000	
鶴 林 寺	聖德太子繪傳 慈惠太子像	加古川市加古川町	230,000	
太 山 寺	愛染曼荼羅圖外3件	神戸市垂水区伊川谷町	34,000	
大 蔵 寺	木造薬師如來立像	奈良県宇陀郡宇陀町	145,000	
〃	天部形立像	〃	25,000	
法 華 寺	阿彌陀三尊像	奈良市法華寺町	520,000	
秋 篠 寺	救脱菩薩立像	〃 秋篠町	26,000	
〃	梵天立像	〃	90,000	
極 樂 院	木造阿彌陀如來坐像	〃 中院町	253,000	
興 福 寺	華 原 磬	〃 登大路町	133,000	
下 永 区	阿彌陀如來坐像	奈良県磯城郡川西村	216,000	
〃	地藏菩薩立像	〃	55,000	
寶 壽 院	地藏菩薩像	和歌山県伊都郡高野町	26,000	
西 南 院	五大虚空像	〃	66,000	
金 剛 峯 寺	妙法蓮華經	〃	112,000	
〃	法華一品經	〃		
〃	一切經(荒川經)3575卷の内	〃		
〃	〃(中尊寺經)經宮	〃	1,770,000	
普 門 院	勤操僧都像	〃	110,000	
寶 壽 院	文館詞林	〃	14,000	
正 智 院	〃	〃	160,000	
龍 光 院	紫紙金泥 金光明最勝王經	〃	155,000	
〃	紙本墨書 法華經	〃		
出 雲 大 社	秋野鹿蒨繪手箱	島根県簸川郡大社町	110,000	
佛 通 寺	大通禪師像	広島県豊田郡高坂村	64,000	
西 長 寺	阿彌陀如來坐像	山口県大島郡沖浦村	393,000	
國 分 寺	四天王立像	〃 防府市東佐波令	144,000	
二 尊 院	釋迦如來立像 阿彌陀如來立像	〃 大津郡向津具村	93,000	
龍 藏 寺	大日如來坐像	山口市大字吉敷	142,000	
二 尊 院	釋迦如來立像	〃 大津郡向津具村	79,000	
水 主 神 社	倭迹々日百襲姫命坐像 倭國香姫命坐像 大倭根子彥太瓊命坐像	香川県大川郡誉水村	68,000	
〃	大般若經	〃		
〃	〃	〃		
觀 音 寺	琴彈八幡本地佛像	〃 三豊郡観音寺町	20,000	
善 通 寺	一字一佛妙法蓮華經	〃 仲多度郡善通寺	70,000	
荻 原 寺	急 就 章	〃 三豊郡荻原村	40,000	
伊 曾 乃 神 社	與州新居系圖	愛媛県西条市中野	90,000	
聖 德 寺	有栖細形銅劍 内行花文鏡	福岡市御供所町	18,000	



所有者	名称	所在地	補助額	備考
大慈寺	寒巖義尹文書	熊本市野田町	71,000	
	計	85件	15,500,000	

## 史跡名勝天然記念物保存修理費補助金

名称	所在地	補助額	備考
五稜郭跡	函館市亀田	300,000	
舊有備館及庭園	宮城県玉造郡岩出山町	150,000	
常磐公園	水戸市常磐町	100,000	
栗野村柴田氏庭園	福井県敦賀郡栗野村	150,000	
龍岡城跡	長野県南佐久郡田口村	150,000	
高山陣屋跡	高山市	100,000	
名古屋屋城跡	名古屋市西区南外堀町	800,000	
鹿苑寺(金閣寺)庭園	京都市上京区金閣寺町	1,000,000	
荷田東満舊宅	〃 伏見深草藪之内	300,000	
大覺寺御所跡	〃 右京区北山嵯峨名古屋町	300,000	
姫路城跡	姫路市本町	500,000	
森野舊薬園	奈良県宇陀郡大宇陀町	50,000	
平城宮跡	奈良市	150,000	
今市大念寺古墳	出雲市	50,000	
明神池	萩市	200,000	
錦帯橋	岩国市	2,000,000	
常葉寺庭園	山口市	100,000	
御塚古墨	福岡県三潞郡大善寺町	200,000	
王塚古墳	福岡県嘉穂郡桂川町	150,000	
出島和蘭商館跡	長崎市出島町	150,000	
計	20件	6,900,000	

## 重要文化財建造物震災復旧費補助金

名称	所在地	補助額	備考
江沼神社長流亭	石川県江沼郡大聖寺町	350,000	
那谷寺鐘樓	〃 那谷村	1,050,000	
松屋寺本堂	奈良県生駒郡矢田村	3,136,000	
十輪院本堂及南門	奈良市十輪院町	1,400,000	
計	4件	5,936,000	

## 国宝宝物類震災復旧費補助金

所在地	名称	所在地	補助額	備考
薬師寺	日光、月光菩薩	奈良市西之京町	2,228,000	

特別史跡災害復旧費補助

名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
姫路城跡 石 垣	姫路市	189,000	

国 宝 其 他 防 災 施 設 費 補 助 金

名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
中 尊 寺	岩手県西磐井郡平泉村	400,000	
東 照 宮	栃木県上都賀郡日光町	5,020,000	
輪 王 寺	〃	2,578,000	
二 荒 山 神 社	〃	622,000	
圓 建 寺	鎌倉市扇ヶ谷山ノ内	102,000	
窪 八 幡 神 社	〃	156,000	
善 光 寺	山梨県東山梨郡八幡村北	671,000	
東 照 宮	長野市長野元善町	1,640,000	
三 明 寺	静岡市根古屋	1,877,000	
延 暦 寺	豊川市豊川町	850,000	
都 久 布 須 麻 神 社	滋賀県滋賀郡坂本村	1,272,000	
寶 巖 巖 寺	〃 東浅井郡竹生村	75,000	
大 通 寺	〃	75,000	
龍 光 院	長浜市御堂前町	210,000	
妙 心 寺	京都市上京区大徳寺町	630,000	
愛 宕 念 佛 寺	〃 右京区花園妙心寺町	630,000	
建 仁 寺	〃 嵯峨鳥居本深谷	630,000	
大 覺 寺	〃 東山区大和大路通	630,000	
廣 隆 寺	〃 四条下ル四丁目小松町	329,000	
石清水 八 幡 宮	〃 右京区嵯峨大沢町	420,000	
淨 瑠 璃 寺	〃 太秦蜂岡町	2,629,000	
仁 和 寺	京都府綴喜郡八幡町 八幡荘	443,000	
二 條 城 外	〃 相楽郡加茂町	1,235,000	
三 寶 院 外	〃 京都市右京区花園妙心寺前	400,000	
孝 恩 寺	〃 中京区二条通堀川	330,000	
鶴 林 寺	〃 西入ル二条町	1,000,000	
春 日 大 社	大阪府貝塚市木積	200,000	
極 樂 院	兵庫県加古川市加古川町	350,000	
矢田坐久志玉比古神社	奈良県奈良市春日野町	350,000	
慈 光 院	〃 中院町	300,000	
金 峯 山 寺	〃 生駒郡矢田村	180,000	
唐 招 提 寺	〃 片桐町	350,000	
寶 幢 寺	〃 吉野郡吉野町	110,000	
南 明 寺	〃 奈良市五条町	356,000	
宇 太 水 分 神 社	〃 生駒郡南生駒村	182,000	
大 神 神 社	〃 添上郡宇太町	210,000	
出 雲 大 社	〃 宇陀郡宇太町	200,000	
	奈良県磯城郡三輪町	450,000	
	島根県松江市大庭町	778,000	
	〃 簸川郡大社町		

名	称	所在地	補助額	備考
嚴島神社	島谷神社	廣島県佐伯郡宮島町	400,000	
石手隆寺	浪像神主堂	香川県綾歌郡松山村	720,000	
興風宗大崇春大薬中清天寶覺清乙市陽薬長大櫛清西二大東戒伊頼荷小都舊寶覺寶壽光長長大無長走大薬	島谷神社	愛媛県松山市石手町	350,000	
	浪像神主堂	〃 周桑郡徳田村	290,000	
	浪像神主堂	福岡県三潞郡大川町	770,000	
	浪像神主堂	〃 宗像郡田島村	556,000	
	浪像神主堂	長崎県長崎市南山手町	1,200,000	
	浪像神主堂	〃 今籠町	860,000	
	浪像神主堂	奈良市春日野町	90,000	
	浪像神主堂	奈良県磯城郡三輪町	64,000	
	浪像神主堂	奈良市西ノ京町	25,000	
	浪像神主堂	岩手県西磐井郡平泉村	1,400,000	
	浪像神主堂	栃木県宇都宮市清水町	440,000	
	浪像神主堂	埼玉県北埼玉郡荒木村	400,000	
	浪像神主堂	神奈川県中郡高部屋村	356,500	
	浪像神主堂	〃 鎌倉市二階堂	500,000	
	浪像神主堂	長野県埴科郡西条村	1,000,000	
	浪像神主堂	岐阜県稲葉郡鏡島村	600,000	
	浪像神主堂	三重県度会郡古山村	1,100,000	
	浪像神主堂	京都市右京区宇多野上ノ谷町	70,000	
	浪像神主堂	奈良市西ノ京町	150,000	
	浪像神主堂	奈良県磯城郡柳本村	650,000	
	浪像神主堂	兵庫県城崎郡香住町	800,000	
	浪像神主堂	〃 多紀郡大芋村	500,000	
	浪像神主堂	島根県能義郡安来町	474,500	
	浪像神主堂	山口県大島郡沖浦村	470,000	
	浪像神主堂	〃 大津郡向津具村	300,000	
	浪像神主堂	愛媛県越智郡宮浦村	675,000	
	浪像神主堂	福岡市上小山町	500,000	
	浪像神主堂	福岡県筑紫郡水城村	250,000	
	浪像神主堂	千葉県佐原市	350,000	
	浪像神主堂	京都市上京区東三本木南町	230,000	
	浪像神主堂	〃 伏見区深草藪之内町	150,000	
	浪像神主堂	島根県松江城北堀町	90,000	
	浪像神主堂	宮崎県南那珂郡都井村	300,000	
	浪像神主堂	水戸市北三の丸	650,000	
	浪像神主堂	神奈川県中郡高部屋村	456,000	
	浪像神主堂	〃 鎌倉市二階堂	137,000	
	浪像神主堂	〃 小町	96,000	
	浪像神主堂	〃 扇ヶ谷	123,000	
	浪像神主堂	〃 乱橋材木座	256,000	
	浪像神主堂	〃 長谷	123,000	
	浪像神主堂	〃 深沢町笛田	403,000	
	浪像神主堂	兵庫県城崎郡香住町	1,600,000	
	浪像神主堂	岩手県西磐井郡平泉村	100,000	
	浪像神主堂	秋田県北秋田郡矢立村	90,000	
	浪像神主堂	秋田県鹿角郡大湯町	100,000	
	浪像神主堂	福島県相馬郡福浦村	300,000	

名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
常陸國分寺跡	茨城県新治郡石岡町	146,000	
常陸國分尼寺跡	埼玉県北足立郡野田村	80,000	
野田村鷺藩殖地	〃 北埼玉郡荒木村	50,000	
小見眞觀寺古墳	千葉県香取郡良文村	14,000	
良文村貝塚	〃 長生郡太東村	30,000	
成東町食肉植物群落	新潟県中頸城郡春日村	50,000	
春日山城跡	富山県魚津市	50,000	
魚津埋没林	長野県諏訪郡豊平村	100,000	
尖石石器時代遺跡	〃 南安曇郡安曇村	40,000	
安曇村噴湯丘及球状石	〃 東筑摩郡宗賀村	100,000	
石平出遺跡	〃 小県郡滋野村	30,000	
戌立石器時代遺跡	〃 下伊那郡龍江村	30,000	
天龍峽	静岡県磐田市中央町	200,000	
遠江國分寺跡	〃 静岡市	100,000	
登呂遺跡	京都市下京区唐橋門脇町	280,000	
西寺跡等	唐橋川久保町		
藤原宮跡	奈良県高市郡鶴公村	120,000	
鷺塚古墳	奈良市春日野町	80,000	
新宮蘭澤浮島植物群落	和歌山県新宮市	50,000	
建屋のヒダリマキガヤ	兵庫県養父郡建屋村	30,000	
ハマナス自生地南限地帯	鳥取県気高郡末恒村	60,000	
關の五本松	島根県八束郡美保岡町	25,000	
寶生院のシンバク	香川県小豆郡湍崎村	100,000	
土佐のオナガドリ	高知県	50,000	
國分瓦窯跡	福岡県筑紫郡水城村	100,000	
相良のトビカヅラ	熊本県鹿本郡内田村	50,000	
出水郡のツル及びその渡来地	鹿児島県出水郡	50,000	
計	113 件	52,400,000	

## 無 形 文 化 財 助 成 金

申 請 者	名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
(芸 能)				
大日靈貴神社	大日堂祭堂	秋田県鹿角郡宮川村	30,000	
黒川能保存会	黒川能	山形県東田川郡黒川村	50,000	
相馬野馬追保存協会	野馬追	福島県相馬郡原町	330,000	
鬼來迎保存協会	鬼舞	千葉県匝瑳郡南条村虫生	30,000	
綾子舞保存会	綾子舞	新潟県刈羽郡鶴川村	30,000	
旦開村	雪祭	長野県下伊那郡旦開村	50,000	
高山祭屋台保存会	高山祭	岐阜県高山市川原町	100,000	
愛知県教育委員会	田樂 躍祭	名古屋市	80,000	
毛越寺	延年	岩手県西磐井郡平泉村	50,000	
蹴鞠保存会	蹴鞠	京都市上京区烏丸通 今出川上ル御所八幡町	30,000	



申請者	名称	所在地	補助額	備考
雅亮会	舞樂	大阪市天王寺区元町四天王寺	50,000	
春日古樂保存会	舞樂	奈良市春日野町春日大社	50,000	
倉田村円通寺 人形芝居保存会	人形芝居	鳥取県岩美郡倉田村円通寺	30,000	
佐陀大社古伝会 神事保存協会	佐陀神能	島根県八束郡佐太村	30,000	
神舞保存会	神舞	山口県熊毛郡上関村祝島	50,000	
幸若舞保存後援会 (工藝技術)	幸若舞	福岡県山門郡瀬高町大江	30,000	
日本漆協会	河面冬山 漆松波多吉塗	東京都	100,000	
黄八丈技術保存会	黄八丈	東京都八丈島	130,000	
加藤土師蒔 荒川豊藏	上繪付 志野ゆ	横浜市港北区日吉町 岐阜県多治見市大畑	196,000 174,000	
伊勢型紙彫刻組合	江戸小紋紙	三重県鈴鹿市寺家	100,000	
石黒宗磨	天目ゆ	京都市左京区八瀬町	180,000	
計		22 件	1,900,000	

## 文化財公開費交付金

申請者	名称	所在地	補助額	備考
(藝能)				
山形県教育委員会	郷土藝能	山形県	50,000	
日本青年館	シ	東京都	300,000	
京都市	シ	京都市	50,000	
(工藝技術)				
文化財協会	工藝技術展	東京都	75,000	
計		4 件	475,000	

# 日展関係諸表

第四、五、六、七、八回日本美術展覧会出品申込並びに陳列点数比較(備考 第六回から参事加わる)

会期別 科別	申 込 点 数					陳 列 点 数				
	第一科	第二科	第三科	第四科	第五科	第一科	第二科	第三科	第四科	第五科
第四回	六四	一〇七	三〇八	三八	三六	一五七	二五	三〇	一八四	二一七
第五回	五七	一四七	二七〇	八五	四八	二八	三四	一五	二五	一八
第六回	六〇	一五七	二九	七〇	五二	二八	四九	一六	三	二
第七回	六七	二〇九	二七	七九	六三	二五	四七	一七	三	一
第八回	六九	二四七	三三	九二	六四	二六	五〇	一八	二九	一五
計	二六八	五〇六	一〇	二九四	二二九	一〇	二二	三〇	二二	二
計	二六八	五〇六	一〇	二九四	二二九	一〇	二二	三〇	二二	二

第四、五、六、七、八回日本美術展覧会、会期、観覧人員、政府買入品数調比較

会期別	会 期	観 覧 人 員	同 上	政 府 買 入 品					計
				第一科	第二科	第三科	第四科	第五科	
第四回	三〇日	一〇八、五八〇	三、六〇〇	五	六	四	三	三	二一
第五回	二四日	七六、〇二二	三、二〇〇	一	一	三	二	三	一〇
第六回	三一日	一四六、四七五	四、七二五	三	〇	一	三	一	八
第七回	三二日	一六四、六一〇	五、一四四	二	三	三	二	二	一二
第八回	三四日	一七八、三八九	五、二四六	二	三	三	二	二	一二

第五、六、七、八回日本美術展覧会入選人員及び新入選人員数比較

会期別 新舊の科別	第一科		第二科		第三科		第四科		第五科		計
	入 選	内新入選	入 選	内新入選	入 選	内新入選	入 選	内新入選	入 選	内新入選	
第五回	二一八	四四	三〇四	七四	一五三	一九	二五三	五四	一九〇	一〇一、一一八	二九二
第六回	二一八	四七	四八九	一二四	一六八	一一	三一五	六二	一二八	三六、三一八	二八〇
第七回	二五五	四一	四七五	一〇一	一七三	二〇	三八五	七九	一四二	四四、一四三〇	二八五
第八回	二六八	三三	五六二	一三六	一八〇	二〇	二九四	五八	二三九	九六、一五四三	三四二

# 第八回日本美術展覽會審査員一覽

## 第一科(日本画)一五名

會員 西山翠嶂

野田九浦

福田平八郎

山口蓬春

參事 兒玉希望

徳岡神泉

服部有恒

森白甫

山口華楊

我妻碧宇

加藤榮三

橋本明治

濱田觀

三谷十糸子

吉田登穀

## 第二科(西洋画)二二名

會員 有島生馬

石井柏亭

川島理一郎

辻弘永

中澤弘光

中村研一

山下新太郎

參事 大久保作次郎

木下孝則

小絲源太郎

小山敬三

齋藤與里

參事 鈴木千久馬

三上知治

安宅安五郎

池部鈞

大澤海藏

緒方亮平

田中繁吉

富田溫一郎

中村善策

耳野卯三郎

## 第三科(彫塑)一五名

會員 石井鶴三

北村西望

齋藤知雄

山崎朝雲

參事 雨宮治郎

加藤顯清

國方林三

澤田晴廣

朝倉響子

北村正信

中川清弘

畫間正弘

藤野舜正

森野圓象

柚月芳

## 第四科(工藝)二二名

會員 香取秀眞

高村豐周

會員 堆朱楊成

參事 大森光彦

岸本景春

二橋美衡

山崎覺太郎

吉田醇一郎

伊東翠壺

音丸耕堂

鴨幸太郎

河合榮之助

佐藤潤四郎

高橋勇

長野埜志

中村鵬生

般若佑弘

三田村自芳

森野嘉光

山室百世

## 第五科(書)一五名

會員 尾上柴舟

參事 豐道春海

石井雙石

辻本史邑

松本芳翠

安東聖空

上田桑鳩

大池晴嵐

鈴木梅溪

園田湖城

津金鶴仙

中村春堂

松丸東魚

柳田泰雲

山崎節堂

## 各大学美術関係講義題目

### 〔官立〕

#### 東京大学

「文学部美学美術史学科」(美学)「美学概論」「アリストテレスの藝術理論」「美学演習」教授竹内敏雄、「藝術意思の問題」講師谷田岡次、「日本の音楽と文藝」講師吉川英士、「美学演習」Lipps: Aesthetik」講師山本正

#### 東北大学

「文学部美学美術史学科」(美学)「演習」E. Uitz: Geschichte der Ästhetik」教授村田潔、「近代美学史」演習 Goethe: Schriften über die Kunst」講師西田秀穂、「近代音楽史」講師加藤成之、「(美術史)西洋美術史」オリエント研究」演習 Heinrich Wölfflin: Die Klassische Kunst」教授村田潔、「東洋藝

男、(美術史)「西洋美術史(キリスト教美術)」「ベルシヤ美術史研究」「美術史演習」教授矢崎美盛、「近代フランス美術史」講師富永惣一、「日本彫刻史」講師田澤坦、「東洋陶磁史」講師小山富士夫

(在學員數)「美学」七六名、「美術史」三二名

「考古学」(東西考古学発達史)「アイヌ関係の遺跡と遺物」演習 Behn: Vorgeschichte Europas」教授駒井和愛、「西南アジア考古学」講師杉勇、「日本考古学」講師八幡一郎、「野外考古学」助教授關野雄(在學員數)六名

#### 京都大学

「文学部美学美術史学科」(美学序論)「西欧藝術思潮研究」演習 Kant: Kritik der Urteilskraft」演習美学の諸問題」教授井島勉、「西域の美術」教授上野照夫、「日本美術史」講師源豊宗、「文藝学概論」講師竹内敏雄

(在學員數)「本科」三三名、「聴講生」二名、「内地研修員」七名、「内地留学」一名

「考古学」鏡鑑の研究」演習東洋考古学の諸問題」教授梅原末治、「朝鮮考古学」演習 G.V. Child: What Happend in History」教授有光教一、「演習 Albert Grünwedel: Buddhistische Kunst in Indian」講師教授長廣敏雄、「演習考古学実習」小林行雄(在學員數)六名

術史「日本美術史」「絵巻物」演習 画論画史」教授亀田孜(在学員数)美学美術史科二三名、東洋美術史科九名「考古学」「日本考古学概説」講師伊東信雄(在学員数)専攻学生ナシ

#### 九州大学

「文学部美学美術史学科」「演習 Kant, Kritik der Urteilskraft」「演習 Wölfflin, Gedanken zur Kunstgeschichte」「日本美術史」「美術史の理論」教授谷口鐵雄、「音楽美学」講師辻莊一(在学員数)九名

「考古学」「日本考古学概説」「演習考古学」教授鏡山猛助

#### 東京藝術大学

「美術学部」人体美学」教授西田正秋、「美的構成」水谷武彦、「美学概論」「美学演習」助教授西本順、「色彩学」講師上原之節、「漆工史」講師吉野富雄、「工藝論」「東洋工藝史」「金屬工藝史」助教授前田泰次、「西洋美術史概説」「二十世紀絵画史」教授吉川逸治、「西洋美術史演習」「西洋美術史特殊講義」教授新規短男、「ルネッサンス絵画史論」教授摩壽意善郎、「東洋美術史演習」「東洋美術史概説」「日本美術史演習」「絵巻の諸相」教授脇本十九郎、「日本工様史」教授小場恒吉、「書道史」講師尾上柴舟、「日本東洋建築史」「西洋建築史」講師太田博太郎、「西洋建築史」講師蔵田周忠、「考古学」教授藤田亮策(在学員数)美術学部七〇四名

#### 東京工業大学

「美術史」講師北川桃雄

#### 神戸大学

「文学部文科学科藝術学科」「世界藝術史」「実証藝術学」

各大学美術関係講義題目

「藝術学藝術史演習」教授小林太市郎、「日本美術史概説」「現代絵画論」「東洋水墨画史」教授谷信一、「日本近世絵画史」「藝術学藝術史演習」助教授山根有三、「藝術ジャンル論」「西洋美術史」講師辻部政太郎、「藝術学藝術史講義」講師岩山三郎

#### 京都工芸繊維大学

「工芸学部」美学概論」美学特論」西洋美術史教授河本敦夫、「日本美術史」「東洋美術史」「美術史特論」教授土居次義

#### 京都大学

「美術科」(美学美術史)「美学概論」講師井島勉、「西洋近代絵画」講師河本敦夫、「日本美術史概説」「西洋美術史概説」「美学美術史特講」教授中村二柄

#### 〔公立〕

##### 盛岡短期大学

「西洋美術史」「藝術概論」教授森口多里、「日本東洋美術史」講師小杉一雄(在学員数)三三名

##### 金沢美術工芸短期大学

「美学」「西洋美術史」教授板垣慶穂、「東洋美術史」教授秋山光夫、「日本美術史」講師田中一松(在学員数)一七三名

##### 岩手県立美術工芸高等学校

「美学」校長森口多里、「美術史」松本總

#### 〔私立〕

##### 早稲田大学

「文学部美術史学科」(学部)「美術概論」「西洋美術史」「演習」教授坂崎坦、「日本美術史」「日本美術研究」講師安藤正輝、「美学」講師青柳正廣、「東西美術研究」講師矢崎美盛、「東洋美術史」「東洋美術研究」教授小杉一雄「日本建築史」「東洋建築史」「西洋建築史」教授田邊泰、「日本工芸研究」講師中川千咲、「考古学」講師駒井和愛、「大学院」西洋美術史学科特論「文獻一」「演習」教授坂崎坦、「美学特論」「文獻二」講師矢崎美盛、「東洋美術史学科特論」「文獻三」講師田中一松、「建築学特論」教授田邊泰(在学員数)学部一文(昼)七八名、二文(夜)五六名、大学院旧制五名、新制六名

##### 慶応義塾大学

「文学部美学美術史学科」「美学概論」「西洋美術史概説(ルネサンス美術)」「西洋美術史演習 H. Wölfflin "Das Erklären von den Kunstwerken"」「原典講読 H. Read "The Meaning of Art"」教授守屋謙一、「美学特殊藝術学の基本問題」「美学演習 Lipps "Grundlegung der Aesthetik"」教授金田廉、「建築藝術学」講師谷口吉郎、「東洋美術史概説」上代日本美術史概説及び印度中国「東洋美術史演習(山中人饒舌)」講師菅沼貞三、「近世日本美術史(浮世絵)」講師澁井清、「考古学」講師藤田亮策、「考古学演習」助教授清水潤三、(在学員数)八三名

##### 同志社大学

「文学部文化学科美学及藝術学専攻」「美学概論」教授園頼三、「美学史」「藝術学概論」「西洋近世美術史概説」助教授金田民夫、「西洋古代、中世美術史概説」講師ポールラインガー、「日本古代、中世美術史概説」「日本近世美術史概説」講師土居次義、「演劇学概論」講師辻部政太郎、「東洋美術史概説」講師下店静市、「映画学概論」講師野淵和

「文学部文化学科文化史学専攻」「考古学」講師角田文衛





藝術新潮

三三 林 武 A 子 像

三ノ一 梅原龍三郎 作 者 浅間山初雪

三ノ二 安井曾太郎 作 者 葡萄園

三ノ三 ゴーギャン (市場) 浴みする女達

三ノ四 モジリアニ 子 聖アソナの下絵

三ノ五 ビカソ 風 像

三ノ六 シヤガール 夢遊病者

三ノ七 ベン・ニコルス 魚

三ノ八 シュナイダー 静物

三ノ九 富岡鐵齋 漁夫のシンドバッド

三ノ一〇 プラッソ 百東披図

三ノ一一 安井曾太郎 立像

三ノ一二 酒井亜人 秋像

三ノ一 三ノ二 三ノ三 三ノ四 三ノ五 三ノ六 三ノ七 三ノ八 三ノ九 三ノ一〇 三ノ一一 三ノ一二

美術手帖 作 者 セザンヌ

五二 スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

スーテン 莫子

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五 五五

主要美術雑誌色刷一覧

五九	セザンヌ	風景	みづゑ	作者	道	五六一	ヴィヤール	カルタ遊び
六〇	ムンク	自画像	五五七	セザンヌ	道	五六一	斎藤清	壺の
	小糸源太郎	三つの立像のためのスケッチ			道		マッドソン	北の
	ゴッホ	オージェルの村寺			道		レモン	繪
	デュフィ	競馬場にて			道		※ 藤田嗣治	ミニアチュール(ペリ公の豪華な祈禱書から)
	シロニイ	壁の断片			道		坂本繁二郎	馬
	コロニイ	マンドリンを弾く女人形を持てる少女			道		※ ルオ	受難のキリスト一部(ステンドグラス)
六一	ゴッソ	ブルターニュの水車			道		モジリアニ	吾等のジャンヌ
	メローニ	深夜の雄鶏			道		セザンヌ	勤く女
	ベン・シャーン	盲目のアカデオ			道		サザラランド	風
	ビカソ	瀕死の馬を運ぶミノトウル			道		ファイニ	十字架より降すキリスト
	ブラツク	クラリネット			道		ラビ	室
	北川民次	少女とキリギリス			道		ゴキ	見知らぬ女の像
	シスレー	古バカビーへの道			道		クイト	苦
六二	モディリアニ	横たわる女			道		マシオン	反影のないハープ
	ブラツク	二つの窓			道		ニコルソン	桜は花ざかり
	金魚	神話の題材			道		マシオン	陽光の砂丘
	青峰重倫	ACROBACY			道		スベンス	魚
六三	ルンドン	花人			道		ゴットリブ	復活の飲(部分)
	小山田二郎	二			道		キャラハン	グレイナ
	高島達四郎	浅間山			道		川端実	燃けた世界
	シヤガール	アクロバット			道		ポニエリ	とじられた群形
	セザンヌ	玉葱と瓶			道		※ 東方の賢者(部分)	枯草の車(部分)
	カンディンスキ	コンボジション			道		※ 煙草を喫ふ人	
	富岡鐵齋	貽嘆墨戯の中			道		タマヨ	

五六八	タマヨ	狂走者	五
五六五	エルニ	競走者	三
ナツシユ	ひまはりの日蝕	三	五
リユルサ	作	号数	七
ミツジエ	ベルガム模様	五	七
ルツソ	花	五	七
ラ・グーリユ	花	五	七
コンボジシ	花	五	七
メンデルゾ	花	五	七
ブラツク	花	五	七
五六六	テ	五	七
緑色の掛布	花	五	七
赤いテーブル	花	五	七
静	花	五	七
黒いテーブル	花	五	七
花の化粧台	花	五	七
窓辺の化粧台	花	五	七
キリスト洗札	花	五	七
フランチェスカ	花	五	七
五六七	シヤガール	花	五
脇田和	花	五	七
安井曾太郎	花	五	七
織田廣喜	花	五	七
ブラツク	花	五	七
シロニ	花	五	七
五六八	シロニ	花	五

主要美術雑誌色刷一覽

五六八	三岸節子	静	一六五
五	小林古徑	つば	一六六
五	安田靉彦	窓	美術手帖
五	徳岡神泉	柿	五七
五	川端龍子	夢	佛教藝術
五	加山又造	原	一五
五	川端龍子	涼	一六
五	奥村土牛	涼	一七
五	山口蓬春	花	みづゑ
五	山口華丘	花	五六四
五	加藤文子	花	大和文華
五	松田文子	花	五
五	朝倉	花	五
古美術	朝倉	花	五
七二八	椿	花	五
七二九	椿	花	五
七三〇	椿	花	五
七三一	椿	花	五
七三二	椿	花	五
七三三	椿	花	五
七三四	椿	花	五
七三五	椿	花	五
七三六	椿	花	五
七三七	椿	花	五
七三八	椿	花	五
七三九	椿	花	五
七四〇	椿	花	五
七四一	椿	花	五
七四二	椿	花	五
七四三	椿	花	五
七四四	椿	花	五
七四五	椿	花	五
七四六	椿	花	五
七四七	椿	花	五
七四八	椿	花	五
七四九	椿	花	五
七五〇	椿	花	五
七五一	椿	花	五
七五二	椿	花	五
七五三	椿	花	五
七五四	椿	花	五
七五五	椿	花	五
七五六	椿	花	五
七五七	椿	花	五
七五八	椿	花	五
七五九	椿	花	五
七六〇	椿	花	五
七六一	椿	花	五
七六二	椿	花	五
七六三	椿	花	五
七六四	椿	花	五
七六五	椿	花	五
七六六	椿	花	五
七六七	椿	花	五
七六八	椿	花	五
七六九	椿	花	五
七七〇	椿	花	五
七七一	椿	花	五
七七二	椿	花	五
七七三	椿	花	五
七七四	椿	花	五
七七五	椿	花	五
七七六	椿	花	五
七七七	椿	花	五
七七八	椿	花	五
七七九	椿	花	五
七八〇	椿	花	五
七八一	椿	花	五
七八二	椿	花	五
七八三	椿	花	五
七八四	椿	花	五
七八五	椿	花	五
七八六	椿	花	五
七八七	椿	花	五
七八八	椿	花	五
七八九	椿	花	五
七九〇	椿	花	五
七九一	椿	花	五
七九二	椿	花	五
七九三	椿	花	五
七九四	椿	花	五
七九五	椿	花	五
七九六	椿	花	五
七九七	椿	花	五
七九八	椿	花	五
七九九	椿	花	五
八〇〇	椿	花	五

源氏物語絵巻	源氏物語絵巻	源氏物語絵巻	源氏物語絵巻
執金剛神像	執金剛神像	執金剛神像	執金剛神像
光琳筆楓図	光琳筆楓図	光琳筆楓図	光琳筆楓図
獸面文の繡	獸面文の繡	獸面文の繡	獸面文の繡
鞆石窟菩薩像	鞆石窟菩薩像	鞆石窟菩薩像	鞆石窟菩薩像
美女風俗圖	美女風俗圖	美女風俗圖	美女風俗圖
桃山時代草花模様	桃山時代草花模様	桃山時代草花模様	桃山時代草花模様
宋黒牡丹文割花瓶	宋黒牡丹文割花瓶	宋黒牡丹文割花瓶	宋黒牡丹文割花瓶
信貴山縁起繪卷	信貴山縁起繪卷	信貴山縁起繪卷	信貴山縁起繪卷
伊勢集	伊勢集	伊勢集	伊勢集
遼緑釉牡丹文鳳首瓶	遼緑釉牡丹文鳳首瓶	遼緑釉牡丹文鳳首瓶	遼緑釉牡丹文鳳首瓶
光琳筆中村内蔵之助像	光琳筆中村内蔵之助像	光琳筆中村内蔵之助像	光琳筆中村内蔵之助像
紫紙金銀泥般若心經見返し繪	紫紙金銀泥般若心經見返し繪	紫紙金銀泥般若心經見返し繪	紫紙金銀泥般若心經見返し繪
大威徳明王圖	大威徳明王圖	大威徳明王圖	大威徳明王圖
宣徳青花魚藻文大皿	宣徳青花魚藻文大皿	宣徳青花魚藻文大皿	宣徳青花魚藻文大皿
光悦不二山茶碗	光悦不二山茶碗	光悦不二山茶碗	光悦不二山茶碗
石杖	石杖	石杖	石杖
平治物語繪六波羅合戰卷	平治物語繪六波羅合戰卷	平治物語繪六波羅合戰卷	平治物語繪六波羅合戰卷
彫三鳥茶碗	彫三鳥茶碗	彫三鳥茶碗	彫三鳥茶碗
唐藍緑彩壺	唐藍緑彩壺	唐藍緑彩壺	唐藍緑彩壺
萬曆五彩花鳥文小壺	萬曆五彩花鳥文小壺	萬曆五彩花鳥文小壺	萬曆五彩花鳥文小壺
宗達筆伊勢物語芥川圖	宗達筆伊勢物語芥川圖	宗達筆伊勢物語芥川圖	宗達筆伊勢物語芥川圖
光琳筆八橋圖團扇	光琳筆八橋圖團扇	光琳筆八橋圖團扇	光琳筆八橋圖團扇
草花圖團扇	草花圖團扇	草花圖團扇	草花圖團扇
奥高麗安井唐津	奥高麗安井唐津	奥高麗安井唐津	奥高麗安井唐津
明初釉裏紅鳳文瓶	明初釉裏紅鳳文瓶	明初釉裏紅鳳文瓶	明初釉裏紅鳳文瓶



# 助成の措置を講ずべき無形文化財一覽

(昭和二十七年二月現在)

## 工藝技術關係

名 称	氏 名	住 所
漆 藝	河 面 冬 山	東京都渋谷区代々木富ヶ谷町一四六八
用 具	小 宮 又 兵 衛	東京都目黒区中目黒三ノ一〇九二
塗 画	松 波 多 吉	東京都世田谷区上北沢町一ノ九五 椎名方
木 画	木 内 省 古	東京都豊島区長崎四ノ二七
江戸小紋	小 宮 康 助	東京都葛飾区上平井町二三七一
黄 八 丈		東京都八丈島
長板中型		東京都一円
木 版 画	加 藤 土 師 萌	東京都一円
上 繪 付 (黄地紅彩)	神 奈 川 県 横 浜 市 港 北 区 日 吉	
銅 羅	魚 住 安 太 郎	石川縣金沢市長町五
沈 金	前 大 峰	石川縣鳳至都輪島町
墨 流 し	廣 場 治 左 衛 門	福井縣武生市逢来町三七
志 野 ゆ	荒 川 豊 藏	岐阜縣多治見市大畑町二丁目
揚子のり	山 田 榮 一	愛知縣愛知郡鳴海町神明三七
七 宝		愛知縣名古屋市、同海部郡七宝村
織 部 焼	加 藤 唐 九 郎	愛知縣東春日井郡守山町翠松園
伊勢型紙 紋紙 紋小 紋小 紋小	六 谷 紀 久 男 兒 玉 博	伊勢型彫刻組合 三重縣鈴鹿市寺家町

表 装 金 欄	森 村 清 太 郎	京都府京都市左京区下鴨上川原町七九 京
唐 組	隈 田 定 治 郎	京都府京都市左京区八瀬町
天 目 ゆ	廣 瀬 信 次 郎	京都府京都市上京区出水通烏丸西入
藍 染	深 見 重 助	京都府京都市中京区油小路通夷川上ル
辰 砂	伊 藤 富 三 郎	京都府京都市東山区泉湧寺東林町三七
鳥 梅	宇 野 宗 太 郎	奈良縣添上郡月瀬村桃香野
規 矩 術	井 尾 淺 次 郎	奈良縣奈良市北袋町
備 前 焼	吉 田 種 次 郎	岡山縣和氣郡伊部町伊部
日 本 刀	金 重 陶 陽	愛媛縣松山市道後石手一
上 繪 付 (色 鍋 島)	高 橋 金 一	佐賀縣西松浦郡有田町赤絵地区
	今 泉 今 右 衛 門	

# 美術展覧会

一月

中部示現会洋画展 2—9 京  
都・丸物  
現代作家クレバス画展 2—9  
京都・丸物  
出雲安来新作民藝展 3—7  
京都・やまと  
2回全日本学生油絵コンクール  
5—13 日本橋・三越〔批〕  
毎日10(田近憲三)  
アンデルセン挿絵世界コンク  
ル 国内予選出品児童画展  
5—13 日本橋・三越  
個展の集い(高橋忠彌、松島正  
人、本田たけを、山本正、吉岡  
憲) 5—13 日本橋・三越  
〔批〕美術批評2月(田近憲  
三)、アトリエ3月(藤代榮、  
美術手帖3月(大河内信敬))  
日本現代美術展 5—14 大  
阪・市立美術館  
2回緑樹会作品展 5—13 大  
阪・大丸  
三煌会日本画展 5—13 京  
都・丸物  
彩牛会油絵展 8—13 大阪・

美術展覧会(1月)

阪急  
一九五二年サロン・ド・メエ出  
品作発表展 10—18 日本  
橋・高島屋〔批〕毎日10(土  
方定一)、東京15(田近憲  
三)  
出品目録  
(絵画)  
一 人と 麻生三郎  
裸 ひとり 猪熊弦一郎  
猫と二人の子供 猪熊弦一郎  
子供と猫 猪熊弦一郎  
坐れる二人 梅原龍三郎  
姉妹併座 梅原龍三郎  
長安街 梅原龍三郎  
ヨーロッパの掠 梅原龍三郎  
奪 海老原喜之助  
殉教者 海老原喜之助  
騎馬 海老原喜之助  
工場の馬 鹿之助  
夜明け 岡本太郎  
墮天使 岡本太郎  
コンボデシオン 大澤昌助  
魚屋 大澤昌助  
海辺の家 大澤昌助  
道と箱 香月泰男  
人と箱 香月泰男

章魚と玉葱 香月泰男  
胸像と折尺 香月泰男  
厨 鉄川端 實  
ガラス屋の店 鉄川端 實  
基礎工事 林武  
静物 B 林武  
静物 A 林武  
顔 白と黒の卓三岸節子  
白と黒の卓三岸節子  
白と黒の卓三岸節子  
静物 村井正誠  
黄色い太陽 村井正誠  
藝術家肖像 森芳雄  
女の顔 森芳雄  
二人の顔 森芳雄  
女の像 安井曾太郎  
孫の像 安井曾太郎  
静物 安井曾太郎  
大観先生像 山口薫  
花子誕生 山口薫  
子供の遊び場 吉原治良  
牧歌 吉原治良  
作品 吉原治良  
原作 吉原治良  
花と少女 脇田和  
顔と少女 脇田和

(版画)  
時間の迷路 駒井哲郎  
「夢」三連作  
「マルドロオル」  
の歌「五連作」  
藝術頌「運命」棟方志功  
鐘溪頌「此中彼」  
岸柳仰頌「天妃妙」  
長谷川善四郎個展 10—12 丸  
善  
瀧川美一彫刻個展 10—14 資  
生堂  
モダン・アート・グループ展  
11—20 タケミヤ  
森村惟一個展 11—13 伊勢  
崎・商工会議所  
青木大乗近作展 11—17 大  
阪・淀屋敷  
開館記念美術展 12(常陳)  
ブリヂストン美術館  
12回(一九五二年)国際写真サロ  
ン 12—20 日本橋・三越  
藤川勇造遺作展 13—31 鎌  
倉・近代美術館  
2回一九五〇年協会展 14—19  
日本橋・丸善  
貞以、松篁、小磯、田村新作展  
14—21 大阪・松坂屋  
3回無名会展 15—24 日本  
橋・三越〔批〕毎日23  
横山隆一、泰三兄弟展 15—20  
日本橋・三越

古田十郎、榎倉省吾作品展  
15—19 資生堂〔批〕アト  
リエ3月(藤代榮)  
九谷名家陶藝展 15—20 名古  
屋・松坂屋  
船木道忠、研志父子新作陶展  
15—19 大阪・阪急  
梶本喜久代個展 15—20 大  
阪・大丸  
彩々会洋画展 15—20 京都・  
大丸  
3回秀作美術展(一九五一年度  
選抜) 16—2月3 日本橋・  
三越〔批〕朝日20(瀧口修  
造)、夕朝日20、毎日25(杉  
本)  
出品目録  
(西洋画)  
炉 辺 佐伯米子  
母 子 山口薫  
犬の埋葬 川端實  
毛糸をたばねた 中谷泰  
静物 森芳雄  
母と娘 森芳雄  
か 娘 森芳雄  
背を向けた裸婦 古茂田守介  
江戸川風景 齋藤長三  
ガルドのある風 太田忠  
風景 高橋忠彌  
水汲み 高橋忠彌  
風 景 馬越祐一  
巖 坑 野見山曉治  
ひばりの丘 北川民次  
座せる群像 猪熊弦一郎

雨	太	神	夏	SAKE	恋人	凶	工	恋	春	裸	鏡	花	アル	静	ゆ	遊	静	丘	花	鍋	山	女	石	た	煙	灯	子	卓	緑	外	議
			の	の	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
陽	村	阿	子	玉	神	兆	場	達	畑	婦	女	像	の	井	春	花	物	川	口	宮	高	荻	宇	井	牛	寺	須	森	田	金	
上	井	部	牧	置	谷	鶴	荒	井	海	原	仲	田	児	上	小	岡	高	勝	本	三	田	太	治	上	島	田	田	元	子	子	子
田	井	展	源	正	信	政	井	龍	青	精	武	好	善	三	林	鹿	橋	外	郎	郎	誠	郎	平	憲	憲	敬	壽	子	助	衛	
哲	正	也	太	敏	子	男	男	男	兒	一	江	三	郎	郎	作	助	一	郎	郎	郎	郎	郎	網	之	明	明	明	明	明	明	明
娘	漁	楊	鮎	鍋	魚	眠	花	聖	白	Y	窓	春	黑	北	立	仙	丸	山	婦	落	ガ	夕	夜	校	花	の	子	鳥	母		
		貴		木			堂	風	氏	氏	像	宵	雪	越	秋	石	之	之	女	ラ	ス	搖	倉		の	地	濕	地	集	内	
		妃	先生	先生			の	風	氏	氏	像	宵	雪	越	秋	石	之	之	女	ラ	ス	搖	倉		の	地	濕	地	集	内	
小	横	火	伊	伊	山	岩	養	春	雨	雨	前	安	西	酒	中	中	高	福	松	葉	堂	加	三	濱	長	齋	小	小	親		
倉	山	妃	東	東	口	橋	岡	伊	津	堅	田	田	山	井	村	島	橋	田	杉	本	藤	谷	十	田	谷	藤	野	野	園		
遊	大	古	深	深	蓬	英	本	坂	澤	山	青	山	三	貞	多	周	豐	田	山	印	榮	谷	台	台	井	忠	忠	和			
龜	觀	徑	水	水	春	遠	彌	静	末	南	邨	翠	良	以	都	桑	四	文	寧	象	三	十	兒	兒	哲	重	重	三			
			郎	郎	春	遠	壽	雄	枝	風	郎	嶂	良	以	都	桑	四	文	寧	象	三	十	兒	兒	哲	重	重	三	郎		

娘	漁	楊	鮎	鍋	魚	眠	花	聖	薰	白	窓	春	黒	北	立	仙	丸	山	婦	落	ガ	夕	夜	校	花	子	樹	黒	検
火	貴	紀	先生	木	先生	供	養	春	譜	雨	像	怨	約	信	中	島	高	福	松	杉	堂	加	三	倉	長	井	野	小	工
小	横	小	伊	伊	山	岩	岡	津	堅	前	安	錦	西	酒	中	高	福	松	杉	堂	加	三	倉	長	井	野	小	工	藤
倉	山	林	東	東	口	橋	本	坂	山	田	田	木	山	井	村	橋	田	田	堂	加	三	倉	長	井	野	小	工	藤	甲
遊	大	古	深	深	蓬	英	彌	静	南	青	靑	清	翠	三	貞	周	豐	文	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本

わだつみの声 (新)	本郷新	婦人像トルソー	柳原義達	青年	櫻井祐一	少年トルソー	新海竹藏	首	朝倉響子	少	清水多嘉示	裸	女	土谷武	寝ている女	木内克武	バイラス	舟越保武	S氏の像	華河内山賢祐	山口落春素描展	16—22	弥生	西廊	セモフ洋西展	19—24	京都・丸善	アメリカ絵画複製展	20—2月	24 表慶館〔批〕	東京タイムズ2月2(石垣榮太郎)	古澤岩美デッサン展	21—30	タケミヤ	3 回水彩展(丸山東美男、小山良修水彩作品展)	21—25	資生堂	二見利節デッサン展	21—26	フォルム	三雲祥之助、小川マリ子油絵二人展	22—26	日本橋・丸善	〔批〕美術批評2月、アトリエ3月(藤代榮)、美術手帖3月(柳亮)	国立陶磁器試験所新作品展示会	22—27	日本橋・三越	新制作協会地方展(小倉)	22—
---------------	-----	---------	------	----	------	--------	------	---	------	---	-------	---	---	-----	-------	------	------	------	------	--------	---------	-------	----	----	--------	-------	-------	-----------	-------	-----------	------------------	-----------	-------	------	-------------------------	-------	-----	-----------	-------	------	------------------	-------	--------	----------------------------------	----------------	-------	--------	--------------	-----

28 小倉・井筒屋デパート	佐伯祐三展	23—2月25 鎌倉・近代美術館	松山雅英作陶展	23—25 日本橋・高島屋	三四舎展	25—30 日本橋・高島屋	飯島一次個展	25—31 日本橋・三越	荒木由三油絵・陶器展	25—29 大阪・阪急	井上三綱個展	26—31 資生堂〔批〕朝日29〔河北倫明〕、読売30〔中河興一〕	太平洋画会春季展	26—31 銀座・三越	東京画廊4回展	28—2月2 東京画廊	鬼頭曄個展	28—2月2 日本橋・丸善	〔批〕アトリエ3月〔藤代榮〕	(一九五二年)国際写真展サロン	28—2月2 大阪・三越	2回ルガーノ国際版画展出品作展示会	29—2月3 日本橋・三越	現代米国画展	29—2月3 日本橋・三越	石橋よし郎個展	29—31 サエグサ	三煌会展	29—2月3 大阪・大丸	大石仁鳳油絵展	30—2月3 大阪・阪急
---------------	-------	------------------	---------	---------------	------	---------------	--------	--------------	------------	-------------	--------	-----------------------------------	----------	-------------	---------	-------------	-------	---------------	----------------	-----------------	--------------	-------------------	---------------	--------	---------------	---------	------------	------	--------------	---------	--------------



春生会展 30—2月6 弥生画廊

二月

朔日会春季展 1—6 資生堂  
5回 汎美術家協会展 2—7  
大阪・松坂屋

物故大家日本西鑑賞会 2—7  
大阪・松坂屋

5回日本アンデパンダン展(日本美術会) 3—14 都美術館  
館(批)アトリエ4月(藤代榮)

草人社三人展 3—4 久留米・久我方

新制作協会地方展(福岡) 3—9 福岡・岩田屋デパート

横山樂水日本画展 4—9 日本橋・丸善

3回無名会展 4—9 大阪・三越

棟方志功倭画板画展 5—10 渋谷・東横

吉浦鈴子個展 5—9 サエグサ

高台寺蒔絵特別展覧 5—3月 31 国立博物館

古美術展 5—9 壺中居

3回デモクラート美術展 5—9 大阪・阪急

市川鐵琅木彫作品展 5—10 大阪・大丸

小坂素泉日本画展 7—12 資生堂

東北民藝展 7—12 たくみ川島理一郎滯仏制作と模写展

9—13 大阪・松坂屋  
横田仁郎泰・仏印・馬來風景風俗画展 10—18 銀座・松坂屋

真島建三油絵展 10—15 大阪・阪急

武蔵野会展 10—17 日本橋・三越

3回青尚会小品展 11—16 弥生画廊

集団昂(スバル)小品展 11—20 タケミヤ [批]美術批評3月(植村騰千代)、アトリエ4月(藤代榮)

新作日本画展 12—16 サエグサ

武者小路實篤日本画展 12—17 上野・松坂屋

勁草会展 12—17 京都・大丸

青丘会油絵展 12—17 名古屋・松坂屋

古茂田守介個展 13—18 資生堂 [批]美術批評3月(大久保泰)、アトリエ4月(藤代榮)

近代洋画展(小磯、三岸、兒島、鈴木、林) 13—19 大阪・淀屋画廊

現代日本陶器展 15—25 鎌倉・近代美術館

久保田耕民日本画展 15—17 大阪・阪急

鈴木信太郎日本画近作展 15—21 京都・土橋画廊

12回美術文化協会展 16—26 都美術館 [批]毎日22(徳大寺公英)、朝日26(植村騰千代)、美術批評3月(北園克衛)、アトリエ4月(藤澤健二)

主要出品目録

○印会員、△印会友

(油画)

坊さんかんざし 小牧源太郎

(2)デッサン

(1)デッサン

坊さんかんざし

初夜

西風(倭人)多賀谷伊徳

踊(夕)

ひとりうた 佐伯和美

作品(A)大崎秀利

作品(B)音吉川三伸

低ノスタルジャ

顔 スキヤンダル

立退命令

天 使 北園八一郎

人生の重荷 北園八一郎

伸 展 千田健次

小 女 堀尾 實

耳 語

福 子

金 乃

谷 心

有 心

塵 々

無 題

空 田 島 康

3(油画)

1(版画)

2(油画)

天使 富ノ井政文

顔 スキヤンダル

天 使 北園八一郎

一人相撲 阿部展也

裸 像

春 明

静 物 ナンシー・ダ

其の時の出苑

陽の下に 笹川由為子

祭典

祈り 放 早瀬龍江

戲 年 古澤岩美

少 年

像 年

裸 婦 (黒)

女 三 代

冬のねむり 池原正男

冬の窓 熊白木正一

生 態

留 クリスマスイブ 石井玲一

星 座

回 合

待 礼 脱 逃 八木澤茂作

巡 下 工 作

地 下 工 作

荒 寥 地 方

バチン コミノ

あいまい 坤士

六七



眼	寫真	一△田島二男	砂文	衣△小林勇	給仕さん	神谷信子	コスモポリタン	あやつり	断食	男	高橋琢二	壺	鏡	合	化	かたりぐさ	かたりぐさ	からくり	いたわり	奏でられつ	△柳田美代子	影	ある岩について	冷	冬	自	たえなる調べ	原始力の恐怖	人	餓鬼	地球の子	ネムル夢	△浅井昭
---	----	--------	----	-------	------	------	---------	------	----	---	------	---	---	---	---	-------	-------	------	------	-------	--------	---	---------	---	---	---	--------	--------	---	----	------	------	------

眼	二△田島二男	三	四	五	六	七	一	二	三	三	二	一	三	二	一	三	二	一	二	一	熊	店	明	青	紅	盲	作品(B)	作品(A)	春	阿	自
像	滋	金子	植木	大辻清司	高林	德山暉芳	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林	高林

生	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ
き	レ	吹	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き
ぬ	く	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸
幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸

苦	北脇昇	遺作特別陳列	肖像(デッサン)	一九五一年	北脇昇肖像写真	植木昇作	新偶像	一九三七年	空	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
文化	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	熙章	
貝	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	
眠	られぬ夜のた	一九三八年	眠	られぬ夜のた	一九三八年	眠	られぬ夜のた	一九三八年	眠	られぬ夜のた	一九三八年	眠	られぬ夜のた	一九三八年	眠	られぬ夜のた	一九三八年	眠	られぬ夜のた	一九三八年	眠	られぬ夜のた	一九三八年	眠	られぬ夜のた	一九三八年	眠	られぬ夜のた	一九三八年	眠	られぬ夜のた	一九三八年

週刊朝日表紙原画展	18—23	大阪・三越	三橋健個展	18—23	東京画廊	〔批〕アトリエ4月(藤代榮)	4回子春会展	18—23	大阪・三越	4回野村東山個人展	18—23	大阪・三越	奈良興福寺春日大社展	19—3	月9	日本橋・三越	自由美術六人展	19—24	資生堂	〔批〕アトリエ4月(藤代榮)	田中案山子日本画個展	19—24	日本橋・三越	2回創藝協会展	19—24	渋谷・東横	3回女子美展	19—24	日本橋・三越	4回現代人形美術展	19—24	上野・松坂屋	芝浦美好染色工藝展	19—24	大阪・大丸	英国ボスターの内見会	19	大阪・大丸	松田尚之彫刻と素描回顧展	19	1—28	京都ギャラリー	4回京都美術懇話会展	19—24	京都・大丸	伊谷賢藏個展	20—25	大阪・梅田画廊	木内克リトグラフ・デッサン、木内岬彫刻展	21—30	タケ
-----------	-------	-------	-------	-------	------	----------------	--------	-------	-------	-----------	-------	-------	------------	------	----	--------	---------	-------	-----	----------------	------------	-------	--------	---------	-------	-------	--------	-------	--------	-----------	-------	--------	-----------	-------	-------	------------	----	-------	--------------	----	------	---------	------------	-------	-------	--------	-------	---------	----------------------	-------	----

ミヤ〔批〕アトリエ4月

(藤代榮)

2回ジャン洋画展 22—27 大

阪・阪急

6回美術研究所展 23—28 大

阪市立美術館

京都独立美術展 23—28 京

都・大丸

2回日吉ヶ丘美術コース展

23—28 京都・丸物

アメリカ美術品展 23—29 京

都・やまと

壬辰会人形展 24—29 日本

橋・高島屋

堀内規次個展 25—3月1日

本橋・丸善〔批〕毎日28(杉

本)・アトリエ4月(藤代

榮)

雪月花展 25—28 兼素洞

〔批〕朝日27(河北倫明)

齋藤博之個展 25—28 資生堂

立軌会春季展 26—3月1日

エグサ

福澤一郎個展 26—3月2日

本橋・三越〔批〕アトリエ4

月(藤代榮)

藝術人形展 26—3月2日 浅

草・松屋

週刊朝日表紙原画展 26—3月

2 京都・大丸

高橋周桑日本画個展 26—3月

2 大阪・大丸

4回日本アンデパンダン展(説

売主催) 28—3月18 都美

術館〔批〕説売3月3(土方

定一、植村騰千代、瀧口修

造、柳亮、嘉門安雄、田近憲

三、河北倫明、安部公房、中

村傳三郎)、毎日3月8(徳大

寺公英)、東京タイムズ 3月

8(柳亮)、日本経済 3月10

(福島繁太郎)、美術批評 4月

(安部公房)、美術手帳 4月

(柳亮)

京都画壇新作展 28—3月5

大阪・淀屋画廊

藤本東一良洋画展 28—3月4

大阪・阪急

高橋虎之助個展 29—3月5

資生堂

### 三月

示現会三越展 1—7 日本

橋・三越

2回緑日会展 1—5 日本

橋・高島屋

1回柏風会展 1—5 白木屋

〔批〕朝日4(河北倫明)、東京

4(宮)

二科春季展 1—12 銀座・松

坂屋〔批〕毎日8(杉本)、東

京8(大河内信敬)、日本経済

10(福島繁太郎)、美術批評 4

月(植村騰千代)

2回青丘会小品展 1—6 大

阪・松坂屋

2回ジャン展 1—9 京都・

丸物

武者小路實篤日本画展 1—7

名古屋・松坂屋

三木翠山ワシントン、ニューヨ

ーク個展作品発表会 1—6

京都・丸物

現代絵画鑑賞展 3—8 壺中

居〔批〕東京7(宮)

パリ二十世紀藝術展参加作品展

4—8 上野・松坂屋

多摩造形美術専門学校・同美術

短期大学卒業制作展 4—9

銀座・三越

欧米商業ボスター展 4—9

銀座・三越

本宮龍太郎個展 4—8 フォ

ルム

中筋幹彦個展 4—8 サエグ

サ

6回三光会日本画展 4—9

日本橋・三越

双全会日本画展 4—9 大

阪・大丸

匠染色工藝展 4—10 京都・

大丸

木村莊入挿画展 5—15 虎ノ

門・商工会館

1回弥生会絵画展 5—9 大

阪・高島屋

森英個展 6—10 資生堂

松本弘二作品展 6—9 日本

橋・高島屋〔批〕毎日7(杉

本)

1回赤光会展 7—12 日本

橋・白木屋

1回草人社三人展 8—13 大

阪・三越

現代日本陶磁器展 10—25 鎌

倉・近代美術館

谷角日沙春個展 10—15 日本

橋・丸善

福澤一郎・海老原喜之助展 10

4月10 鎌倉・近代美術館

〔批〕アトリエ5月

池田道夫・名坂千吉郎・濱田台

児・三輪良平・森公孝作品発

表会 10—16 京都ギヤラリ

1

澤田哲郎個展 11—15 資生堂

風間完個展 11—20 タケミヤ

北村徳齋作品展 11—16 日本

橋・三越

1回信濃美術会展 11—16 日

本橋・三越

渥美美峰個展 11—16 日本

橋・三越

山本櫻月富嶽展 11—16 大阪

・大丸

大野純阿遺作品展 11—16 日

本橋・三越

週刊朝日表紙原画展 11—16

金沢・大和百貨店

双全会日本画展 11—16 京

都・大丸

青木大乗近業展 12—16 日本

橋・高島屋

青山二郎装幀展 12—18 壺中

居

國盛義篤遺作展 12—19 京都

・丸物

1回弥生会絵画展 12—16 京

都・高島屋

第一美術協会小品展 13—18

上野・松坂屋

牧野義雄個展 13—15 丸の内

・工業クラブ

降旗俊三郎水墨展 15—16 道

瀧山・清勝寺

現代日本画新作二五人展 15—

24 池袋・西武

小松均・中村直人二人展 15—

23 大阪・三越

日本画新作展 15—21 京都・

土橋画廊

ベ・ベ・コンチャローフスキイ

絵画展 17—22 日本橋・丸

善〔批〕美術手帖5月

2回未更会展 17—20 兼素洞

行元美智枝個展 17—21 資生

堂

原鼎個展 17—20 フォルム

草人社三人展 18—23 日本橋

・三越

平塚運一創作版画展 18—23

日本橋・三越

1 回創型会彫刻展 18—23 日	二科京都作家展 21—27 京
本橋・三越	都・大丸
林重義遺作洋画展 18—19 市	3 回奥田元宋個展 22—27 資
立神戸美術館	生堂
草間彌生個展 18—25 松本市	飯島一次洋画個展 22—25 大
・第一公民館	阪・梅田画廊
研象工藝会 18—23 大阪・高	京都独立美術展 23—28 京
島屋	都・大丸
小松均・中村直人二人展 18—	瀧田項一作陶展 24—30 たく
23 大阪・松坂屋	森野圓象木彫作品展 24—29
東都日本画七人展 18—23 大	日本橋・丸善
阪・大丸	1 回弥生会展 25—30 日本
東郷青児新作個展 18—23 京	橋・高島屋
都・大丸	向井久万素描展 25—31 京都
2 回モダンアート展 19—29	ギヤラリ
都美術館 (批) 毎日25 (徳大	島田訥郎個展 26—30 上野・
寺公英、朝日27 (植村鷹千	松坂屋
代)、みづる5月 (植村鷹千代)	蒔会展 26—29 壺中居
秀作美術展 19—30 名古屋・	建築展 26—30 名古屋・松坂
松坂屋	屋
2 回一線美術展 20—29 都美	1 回デモクラート美術展 27—
術館	4月2 松島ギヤラリ
28 回白日会展 20—29 都美術	古版画 (古代印仏と摺仏) 展観
館	27—28 京都・達磨堂
5 回示現会展 20—4月1 都	清水鍊徳個展 28—4月1 資
美術館	生堂
1 回漆原英子個展 21—31 タ	石井柏亭古稀記念回顧展 28—
ケミヤ (批) 毎日26 アトリ	4月6 日本橋・三越 (批)
エ5月、美術手帖5月 (瀧口	アトリエ5月
修造)	双線美術展 28—4月1 京
藤井達吉日本画展 21—26 白	都・丸善

小松均個展 29—4月2 白木	春の青龍展 1—13 日本橋・
屋	三越 (批) 毎日8 (鈴木進、
東京藝術大学東京美術学校卒業	朝日10 (河北倫明)
制作展 29—31 藝大陳列館	出品目録
東京美術学校回顧展 29—30	春 興 岡 川 端 龍 子
藝大陳列館	猪苗代 湖 崎 崎
3 回京都美術研究所展 29—4	室 戸 崎 崎
月6 京都・丸物	片 浜 坂 加 納 三 樂
四月	牡 右 衛 門 福 岡 青 嵐
春の青龍展 1—13 日本橋・	柿 右 衛 門 福 岡 青 嵐
三越 (批) 毎日8 (鈴木進、	湖 右 衛 門 福 岡 青 嵐
朝日10 (河北倫明)	五月 夜 華 市 野 亭
出品目録	少女 立 春 安 西 啓 明
春 興 岡 川 端 龍 子	新作の八
猪苗代 湖 崎 崎	新潟旧税 関 々
室 戸 崎 崎	紅 梅 小 島 鼎 子
片 浜 坂 加 納 三 樂	錦 鯉 時 田 直 善
牡 右 衛 門 福 岡 青 嵐	お お ば 々 亀 井 藤 兵 衛
柿 右 衛 門 福 岡 青 嵐	遊 園 地 琴 塚 英 一
湖 右 衛 門 福 岡 青 嵐	小 憩 佐 藤 土 筆

春 雪 因 渡 邊 不 二 根	熊 岳 遠 望 加 藤 輝 三
逆 光 群 像 林 心 耳	江 面 風 景 高 山 晴 雄
藥 師 寺 風 景 竹 内 未 明	千 本 棧 道 行 大 塚 香 緑
冬 め かし 高 佐 々 木 邦 彦	黄 静 境 入 江 臥 水
鶴 小 島 鼎 子	静 境 入 江 臥 水
窓 梅 小 島 鼎 子	千 本 棧 道 行 大 塚 香 緑
蓬 春 白 堀 吉 兆	黄 静 境 入 江 臥 水
孔 雀 山 岡 良 文	千 本 棧 道 行 大 塚 香 緑
鯉 牛 鈴 木 光 英	千 本 棧 道 行 大 塚 香 緑
鯉 牛 鈴 木 光 英	千 本 棧 道 行 大 塚 香 緑

豊 秋 富 田 保 和	30 回光風会展 1—16 都美術
谿 富 永 一 布	館 (批) 東京5 (田近憲三)、
早 春 三 浦 打 魚	東京タイムズ9 (田近憲三)、
狐 天 紅 石 崎 昭 三	毎日11 (徳大寺公英、美術批
南 天 女 堀 口 幸 子	評5月 (田近憲三)、アトリエ
少 天 女 堀 口 幸 子	5月
秋 茶 花 垣 丹 青 子	会員出品目録
山 茶 花 垣 丹 青 子	黒い服の女 金子 徳 衛
工 場 裏 英 賀 田 憲 二	裸 婦 西 山 眞 一
菊 来 紅 皆 川 久 代	瓦 斯 発 生 炉 竹 岡 良 太 郎
雁 来 紅 皆 川 久 代	裸 婦 A 高 光 一 也
30 回光風会展 1—16 都美術	裸 婦 B 高 光 一 也
館 (批) 東京5 (田近憲三)、	裸 婦 C 高 光 一 也
東京タイムズ9 (田近憲三)、	み かん 畑 井 手 宣 通
毎日11 (徳大寺公英、美術批	りん ぐ と 女 森 田 元 子
評5月 (田近憲三)、アトリエ	赤 の マ フ ラ 山 喜 多 二 郎 太
5月	は と ば 山 喜 多 二 郎 太
会員出品目録	二 窓 辺 の 静 物 足 代 義 郎
黒い服の女 金子 徳 衛	窓 辺 の 静 物 足 代 義 郎
裸 婦 西 山 眞 一	ガ ラ ス 器 々
瓦 斯 発 生 炉 竹 岡 良 太 郎	卓 上 静 物 々
裸 婦 A 高 光 一 也	裸 婦 習 作 南 政 善



河豚	小宮	草花	洋花	街裏	壁面	壁面	水	壁面	河豚	燭台	花挿	初挿	陶漆	黒い	鉢銅	燭台	緑の	陶漆	冬	鱈	坐	朝	窓	早	秋	人	風
灰皿	A・B	A	蘭	裏山	壁面	壁面	水	壁面	河豚	燭台	花挿	初挿	陶漆	黒い	鉢銅	燭台	緑の	陶漆	冬	鱈	坐	朝	窓	早	秋	人	風
中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村	中村
董一	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介	俊介
裸	初	裸	小	風	赤	壺	人	風	早	ひ	虹	新	鶏	貴	田	薪	桑	少	宿	柏	風	赤	エ	ガ	ガ	乳	松
冬	の	裸	小	風	赤	壺	人	風	早	ひ	虹	新	鶏	貴	田	薪	桑	少	宿	柏	風	赤	エ	ガ	ガ	乳	松
体	朝	婦	菊	景	服	物	景	春	た	牧	昭	昭	昭	昭	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
中	中	寺	長	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
村	村	内	原	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方
研一	永	萬	治	坦	平	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
静	一	黒	椅	立	ス	半	静	春	北	ス	街	朝	室	脱	林	青	春	秋	葡	晩	花	初	朝	晩	待	静	裸
恵	さん	衣	上	像	ド	裸	春	北	ス	街	朝	室	脱	林	青	春	秋	葡	晩	花	初	朝	晩	待	静	裸	裸
物	櫻	井	悦	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
向	K	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比
風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風	風
景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小
林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林	林
易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易
夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫
裸	雪	早	雪	花	風	梅	窓	春	室	建	カ	鴨	人	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石
伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊
香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香
保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪	輪
孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝
太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎



雪 後古屋浩藏  
太 海荒井邦朝  
春 の 古屋浩藏  
髪 舎伊藤鎗一  
紫 鈴木三五郎  
少 鮎田彌生  
黒い 窓子飯田彌生  
北 女田中實一  
黒服の 村足立真一郎  
漁 相馬其一郎  
座 星野正三  
ウソ 白川一郎  
座 庄司榮吉  
明るき室にて 森山肇  
雪の黒斑 梶原貫五  
黄色いセーター 宇城時志  
K氏の像 清原重以知  
二 月 高田正二郎  
赤いマフラー 市ノ木慶治  
飯面と 須田太郎個展 1-5  
生 賀 阿田又三郎  
少 女 市ノ木慶治  
青い 室 阿田又三郎  
教 室 阿田又三郎  
徳川山住宅地 中條茂  
植木鉢のある室 益山英吾  
内 春 反町博彦  
早 春 反町博彦  
粧 ひ 伊藤應九  
グレイのオーバ 伊藤應九  
共榮君とアンナ 伊藤應九  
静 物 中島音次郎

猿 小屋西岡義一  
校 内 大倉克次  
八重洲通A 大倉克次  
春 近し 神保和幸  
赤いカーディガ 神保和幸  
K 教 官 大原省三  
I 君 像 大原省三  
静 物A 花 嚴 巖  
風 景 戸塚孝三郎  
雪 景 戸塚孝三郎  
1 回サロン・ド・ジュワン展  
1-6 銀座・三越 (批)  
美術批評5月(植村鷹千代)  
3 回田中健三個展 1-10  
ケミヤ (批)アトリエ5月、  
美術批評5月(難波田龍起)  
青龍社々人展 1-13 日本  
橋・三越  
須田太郎個展 1-5 サエ  
グサ (批)美術手帖5月(河  
北倫明)  
17回デッサン社春季展 1-5  
壺中居  
宮脇公實個展 1-5 日本  
橋・丸善 (批)アトリエ5月  
6 回アンデパンダン女流画家協  
会展 1-16 都美術館  
[批] 毎日6(徳大寺公英)、  
東京タイムズ9(田近憲三)、  
美術批評5月(田近憲三)

5 回春光会日本画展 1-6  
日本橋・高島屋  
勝田寛一展 1-15 大阪・ド  
ガ  
春潮会日本画展 1-6 日本  
橋・高島屋  
御正仲個展 2-5 資生堂  
11 回創元会展 3-16 都美術  
館 (批) 東京タイムズ9  
(田近憲三)、毎日11(徳大寺  
公英)  
静 物A 名村定志  
水 物B 木下幹一  
静 物B 木下幹一  
人物コンボジ 木下幹一  
コンボジ 木下幹一  
冬の貯油所B 青地秀太郎  
シ A 青地秀太郎  
画 室 嶺龍之助  
室 内 川口雄男  
受難キリスト 小野彦三郎  
樹 小野彦三郎  
海 小野彦三郎  
大谷石作業場 戸谷賀一  
画 室 古川昌一  
静 物 深谷徹  
岩 山 小泉繁  
裸婦とカラヂウ 小泉繁  
静 物 齋藤彌平  
風 景 齋藤彌平  
静 物 齋藤彌平

マチスによる 東海林 廣  
池 荒明 實  
晩 犬飼 尚  
風 景 益永 端  
静 物 佐々木眞夫  
瀬戸の渦潮 大槻達二  
窓越しの雪 堀内孝恵  
陳列 堀内孝恵  
陳瓦工場 堀内孝恵  
庭室にて 堀内孝恵  
人 物 河本一男  
街 物 金田新治郎  
橋のある風景 石塚三郎  
桑をもつ子供 野々垣甚一郎  
鏡の 前平野逸郎  
い ち 川口四郎  
二 人 川口四郎  
池 大橋 城  
あ 龍 城  
山 麓 城  
風 景 内田一郎  
或 日 倉橋英男  
室 内 高橋北修  
山 村 景 宮地 享  
桑 村 景 宮地 享  
こ 景 安藤信哉  
風 景 安藤信哉  
岩 女 小川勝藏  
岩 女 小川勝藏  
残 雪 田中繁吉

静 物 山野 正  
凝 上 花 鈴木千久馬  
卓 上 花 圓城寺 昇  
岩 花 西池秀武  
黄 景 藤 正枝  
景 根の見える風 藤 正枝  
アトリエ 中野 高  
工場と坂道 中野 高  
静 物 高橋正人  
塔 館B 若山八十氏  
枯れすゝきの頃 金澤重治  
鎌倉妙本寺 倉員辰雄  
硫黄 倉員辰雄  
静 物 出口龍一  
舟 廣本季與丸  
太 海 景 廣本季與丸  
水 運 景 廣本季與丸  
春 大 附 近 長谷川龍甫  
商 歩 風 景 長谷川龍甫  
散 歩 風 景 長谷川龍甫  
郊 外 幕 色 橋本花子  
漁 村 幕 色 橋本花子  
室 内 色 橋本花子  
早 春 井上 助  
こ 景 井上 助  
山の手風景 石山松一  
風の 景 三浦暹爾  
小 山 景 戸田郁郎  
猫 山 景 戸田郁郎  
花 山 景 戸田郁郎  
池 山 景 戸田郁郎  
上野維信

風 景 上野維信  
裸 婦 中 敬子  
少 女 三浦暹爾  
早 春 物 安武芳男  
運 安 武 芳 男  
庭 春 洗 春 海  
教 會 增 田 常 吉  
靜 物 長 谷 川 政 子  
物 さぐさのある静  
雅 樂 面 内 山 市 郎  
河 岸 風 景 豊 千 里  
魚 干 場 進 藤 清  
盛 夏 進 藤 清  
雪 原 栗 原 七 三  
高 の 不 忍 池 恩 田 孝 德  
雪 の 不 忍 池 恩 田 孝 德  
布 と レ モ ン 三 橋 兄 弟 治  
芽

沖繩工藝品特別展 1—5月30  
日本民藝館  
新国宝展 3—12 表慶館  
6 回西川純洋画展 4—9 京  
都・丸善  
サロンド・プランタン 5—  
9 リーダーズ・ダイジェス  
ト  
今井俊満個展 5—9 白木屋  
〔批〕美術批評5月(和田定  
夫)、アトリエ6月  
横田仁郎泰・仏印・マレー風俗  
風景画展 5—10 大阪・大

美術展覧会(4月)

丸  
日本染色美術特別展 6—5月  
5 国立博物館  
1 回薔薇会展 7—12 資生堂  
佐藤敬小品展 7—12 東京画  
廊  
京都中堅作家新作日本画展 7  
—15 大阪・松阪屋  
竹人会展 8—13 上野・松坂  
屋  
新制作協会春季展 8—13 日  
本橋・三越 〔批〕朝日12  
(植村鷹千代)、毎日13(杉本)  
日本水彩画会會員展 8—13  
銀座・三越  
青山辰雄油絵展 8—12 サエ  
グサ 〔批〕美術批評5月(岡  
鹿之助)  
3 回秀作美術展 8—17 大  
阪・三越  
毎日美術賞七作家自選展 8—  
16 大阪・阪急  
2 回春風会日本画展 8—13  
大阪・大丸  
水清公子油絵展 8—14 大  
阪・三越  
澤田宗山新作陶藝展 8—13  
京都・大丸  
週間朝日表紙絵原画展 8—13  
日本橋・三越  
西山眞一個展 9—11 丸の  
内・工業クラブ  
11 回一采社展 9—13 日本

橋・高島屋  
正宗得三郎油絵展 9—13 岡  
山・金剛荘画廊  
5 回竹杖会作品展 9—16 京  
都・丸物  
小山敬三近作洋画展 10—16  
大阪・美交社  
宇治山哲平個展 11—17 フォ  
ルム 〔批〕アトリエ6月  
青峰重倫個展 11—20 タケミ  
ヤ 〔批〕美術批評5月(脇田  
和)、アトリエ6月(江川和彦)  
御物若冲動植彩画展 11—20  
京都・国立博物館  
古美術展 11—16 壺中居  
長谷川利行遺作展 12—16 白  
木屋  
近代フランス絵画展 12—5月  
25 鎌倉・近代美術館  
福田翠光新作画展 12—13 京  
都・美術倶楽部  
2 回新工藝展 14—19 サエグ  
サ  
安井曾太郎滯歐作習作素描展  
14—19 東京画廊  
春日部たすく水彩画個展 15—  
20 日本橋・三越  
3 回月日社展 15—20 日本橋・  
三越 〔批〕毎日20(鈴木進)  
現代フランス作家素描・淡彩画  
特別陳列 15—24 兜屋  
荒井龍男個展 15—19 資生堂

〔批〕美術批評5月(田近憲  
三)、アトリエ6月  
2 回卯月会日本画展(東西の中  
堅一〇人) 15—20 大阪・  
大丸  
佐野猛犬蠟燭染作品展 15—20  
大阪・高島屋  
2 回春風会展 15—20 京都・  
大丸  
祝寿七十年記念小林古徑展  
16—5月4 日本橋・三越  
〔批〕美術批評5月(河北倫明)  
3 回六窓会展 16—20 日本  
橋・高島屋  
美術文化中部グループ展 16—  
20 名古屋・ガスビル画廊  
米原二郎小品展 16—30 大  
阪・ドガ  
京都美術の卒業生を送る展  
16—20 京都・高島屋  
明治・大正・昭和美人画展  
16—23 渋谷・東横  
世界写真展出品作品展 17—20  
日本橋・三越  
古徑・靱彦・青邨代表作展  
18—29 銀座・松坂屋 〔批〕  
美術批評5月(河北倫明)、ア  
トリエ6月(河北倫明)  
京都巧匠会工藝展 18—23 日  
本橋・白木屋  
歌舞伎発達史展 18—24 国会  
図書館

26 回国画会展 18—5月4 都  
美術館(受賞)(国畫賞)  
絵画—和田忠志、故三津谷理  
與子、版画—金守世士夫、写  
真—松田静夫(国画新人賞)  
絵画—堀内康司、小橋康秀、鎌  
田雛子、版画—小谷祐三、工  
藝—原田麻那、写真—板谷六  
郎(新會員)絵画—尾田龍、  
写真—吉川富三、錦古里孝治  
(新会友)絵画—石原安策、小  
泉富司、東真美、横田鑑士、  
渡邊貞一、版画—黒木貞雄、  
写真—安藤不二夫、清水武  
甲、船山克、岡島帝吉 〔批〕  
朝日21(植村鷹千代)、東京24  
(富永惣一)、東京タイムズ26  
(田近憲三)、毎日27、日経29  
(福島繁太郎)、美術批評5月  
(柳亮)、美術手帖6月(大久  
保泰)

出品目録  
○印会員、△印会友  
(絵画)  
木 株 A 小泉富司  
シ B 大西博文  
牛 供 森田義男  
子 内 森田義男  
構 内 森田義男  
櫛 内 森田義男  
料理された鶏 鎌田雛子  
水の 中 小橋康秀  
遠くで誰か笑つ  
てゐる

〔批〕美術批評5月(田近憲  
三)、アトリエ6月  
2 回卯月会日本画展(東西の中  
堅一〇人) 15—20 大阪・  
大丸  
佐野猛犬蠟燭染作品展 15—20  
大阪・高島屋  
2 回春風会展 15—20 京都・  
大丸  
祝寿七十年記念小林古徑展  
16—5月4 日本橋・三越  
〔批〕美術批評5月(河北倫明)  
3 回六窓会展 16—20 日本  
橋・高島屋  
美術文化中部グループ展 16—  
20 名古屋・ガスビル画廊  
米原二郎小品展 16—30 大  
阪・ドガ  
京都美術の卒業生を送る展  
16—20 京都・高島屋  
明治・大正・昭和美人画展  
16—23 渋谷・東横  
世界写真展出品作品展 17—20  
日本橋・三越  
古徑・靱彦・青邨代表作展  
18—29 銀座・松坂屋 〔批〕  
美術批評5月(河北倫明)、ア  
トリエ6月(河北倫明)  
京都巧匠会工藝展 18—23 日  
本橋・白木屋  
歌舞伎発達史展 18—24 国会  
図書館

人間の世界(6)	チエス	小橋康彦	魚	名井玲	春の静物	馬	海	馬	人
誘惑の手	東貞美	酒井嘉也	静物A	堀川	机の上の静物	水辺の牛	水辺の牛	水辺の牛	ミ
作品	藤健一	榎 弦	ある静物	かなしい日	鈴木正二	シヤモ	シヤモ	シヤモ	ミ
ガスタンクのある自画像	石原宏策	倉本照子	冬の木	馬車	天三枝茂雄	油送	花送	花送	ミ
静物	稲架木	中道久	稲架木	夜の	棚衛藤壽一	パンチエール	パンチエール	パンチエール	ミ
裸婦(2)	積田鯉士	木内 廣	ラツパ手イスラ	花	A青木達彌	アモン像	アモン像	アモン像	ミ
目覚まし時計	山 父	子	父と	月	夜柏木俊一	夕	夕	夕	ミ
月	A故三津谷理與子	静	父と	静	物南風原朝光	静物	静物	静物	ミ
焰と	鈴木健一	坊勢	物細谷重雄	春	漫長谷川春子	昇	昇	昇	ミ
ふうけい	石井佐一	女と	森 掬生	風	A池邊貞喜	昇	昇	昇	ミ
椅子の集り	石井茂雄	女と	御前崎燈台	御前崎燈台	會宮一念	残	残	残	ミ
網のある風景	矢岡 勲	室	桜	波	島青山義雄	オンストラクシ	オンストラクシ	オンストラクシ	ミ
黒い鳥の母子	大須賀政一	婦と	菊地辰幸	波	大谷房吉	滞	滞	滞	ミ
水溜り	佐伯信夫	上通点(B)	二見利節	窓	芳平	静	静	静	ミ
近ける子	鈴木良夫	上通点(A)	張替正次	窓	朝宮 貞雄	作	作	作	ミ
作品十一「風景」	佐々木嘉夫	河	口	窓	朝宮 貞雄	魚	魚	魚	ミ
標本のとり	高木國藏	静物(C)	龍	窓	朝宮 貞雄	魚	魚	魚	ミ
二人(A)	正田 壤	静物	龍	窓	朝宮 貞雄	魚	魚	魚	ミ
漁村	河村千代三	女	龍	窓	朝宮 貞雄	魚	魚	魚	ミ
早春	村 史	牛	龍	窓	朝宮 貞雄	魚	魚	魚	ミ
作品	A本田克己	人	龍	窓	朝宮 貞雄	魚	魚	魚	ミ
作品	E高橋美則	瓶	龍	窓	朝宮 貞雄	魚	魚	魚	ミ
作品	F能登正智	灰色の魚	堀内康司	窓	朝宮 貞雄	魚	魚	魚	ミ
風景	B岡島吉郎	死んだ山羊	三戸了一	窓	朝宮 貞雄	魚	魚	魚	ミ
と	B吉野不二太郎	死んだ山羊	三戸了一	窓	朝宮 貞雄	魚	魚	魚	ミ
静物	B原田成大	死んだ山羊	三戸了一	窓	朝宮 貞雄	魚	魚	魚	ミ



花 殺 門のある風景。中村好宏	舟 瓶 谷間の若葉。松浦清次	裸 はなと小島渡邊貞一	窓外早春。小林邦報	窓熱帯の海。眞垣武勝	窓邊靜物	四月の飾棚	人々 (B)喜多村知	白と黒。福井敬一	雪 いのある靜物。中島宜矩	室 裸婦紅布。原精一	靜 裸婦紅布。原精一	青椅子裸婦	鬼押出。熊谷九壽	うめもどき	早 窓 邊。濱田邦男	漁具とランプ	ランブ(B)別所明芳	マネキン工房。内堀勉	家 瀬戸夕暮。松田正平	内海夕陽						
黄 花。澁川榮志	庭 山。村上巖	工 場。遠藤未滿	工 場。正延正俊	湖 畔。栗田熊雄	貝 殼。土井六郎	作 品。藤原徳太郎	お茶の水風景。故山脇信徳	疎 山の雪	雪の停車場	上野広小路夜景	日本橋雪景	夕陽	暮 土佐海岸	膳所風景	湖畔の雪景	マナー模写	巴里郊外	南 風。風景	ウ ラル山	工 場。小畑忠男	まむし酒のある	静物A	橋 山。野田一男	静 物。城福一男		
玉ねぎと八つ手	静 未完成の街	骨 と葉。佐々木節雄	花 と葉。佐々木節雄	静 物(赤の花)	風 景。渡邊宗作	飯 睡。北村綱義	青 衣。伊藤彌太	梟 と女。藤井恒治	牧 神の首。後藤壽一	NAMIKI 少女像	供 リソを抱く子	井 戸。片野三雄	女 裸婦。壺井進二	椅子 裸婦。佐藤哲夫	月 厨子の静物	春 の植木鉢。妹尾昭雄	泥炭朝炭坑風景	街 森本三郎	樹 荒木寛	門 の街。石ヶ森恒蔵	秋 崎の丘。池田甚三郎	窓 そのII	街 内野清一	教 通。佐々木節雄		
馬 小憩(2)	カンナと墓B	トルソーと道化	花 のある風景	船 のある風景	海 辺。黒澤普子	静 裸婦。長野静司	ガ ード附近。北口正治	竹 林。宮本宏	美 術教室。吉留要	運 河と工場。河野通明	道に椿の花が落	裏 杉山昌三	工 場。秋山満	移 霧島山(B)	雨 後農夫。大貫第二	木 荒金透	風 景。杉本賢司	静 物。鳥野大作	馬 と母子。梅宮馨四郎	中 之島風景。有光直記	水 居。佐藤俊郎	鳥 居。富田民治	風 景。栗橋正次郎	田 園。多田昌平	残 雪。佐藤哲三	桜 草。松本一夫
金 川。越昭子	水 野。英夫	鳥 雄。たけし	内 ヶ崎。光枝	古 賀。鉄知郎	黒 澤。普子	長 野。静司	北 口。正治	宮 本。宏	吉 留。要	河 野。通明	杉 山。昌三	秋 山。満	伊 藤。昌二	中 尾。義隆	大 貫。第二	荒 金。透	杉 本。賢司	鳥 野。大作	梅 宮。馨四郎	有 光。直記	佐 藤。俊郎	富 田。民治	栗 橋。正次郎	多 田。昌平	佐 藤。哲三	松 本。一夫
浦 野。汎	橋 谷。治	首 藤。敦子	辻 本。友子	山 本。友子	松 野。良治	松 原。武雄	峰 村。ユキエ	石 川。雅也	田 中。安子	瀧 田。哲子	金 子。幸正	小 林。孝爾	井 上。美知子	中 村。太一郎	田 邊。竹次	森 典。子	福 井。克	宮 川。孝	吉 田。勇	阿 部。祐工	本 道。忠	江 治	江 治	江 治	江 治	江 治



「呪文の周囲」の著者日夏先生像	「たよりない希望」の作者	鹿	食	貝	躍	木	椿	魚屋の店頭	からだにも顔があつた	踊りブガノ	脱	頭	シグナル	夢の中の飛行	現われるもの	風景の目	腫	創	火	抒情	プロファイル	肘掛椅子に坐る女	扉のそばで	嫉	無	林	早	初	グ
關野準一郎	希	園	卓	族	前	蓮	河	小	品	出	出	シ	シ	シ	シ	シ	シ	跡	跡	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典	小谷祐三	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
岩田覺太郎	玉	井	栗	山	伊東健乃典	伊東健乃典																							

バナナ 稲垣知雄  
 裏町 越野義郎  
 手袋のある静物 繁田博  
 岩 磯江渡益太郎  
 窓 辺野津佐吉  
 眼 力萩原榮一  
 光 山小坂龍二  
 赫日 像伊藤勉  
 揚州の塔 宮崎元  
 物語ヨブの苦業 金守世士夫  
 物語エリコの街 探る二兵士  
 静 物 川上澄生  
 鶏 志賀高原前田政雄  
 上高地大正池 英  
 かとれ 窓 川西  
 船 窓 英  
 だり 窓 英  
 逆光裸婦 平塚運一  
 コンボジション 山口源  
 ・海港にて(A) 山口源  
 同(B) 山口源  
 冬の底(孔版画) 星裏一  
 裏町の水辺 奥井友子  
 私 橋本興家  
 五 月 橋本興家  
 冷やかなる夜明 塚本哲  
 冷やかなる夜明 塚本哲  
 (B) 冷やかなる夜明 塚本哲  
 酣秋(上高地) 川西祐三郎  
 夜の俯瞰 長谷川富三郎  
 大山遠望 長谷川富三郎

裸婦 上田富丈  
 ジャワ人形(侍 永禮孝二  
 夜 墨 黒木貞雄  
 刀 夏 金田政之助  
 飲喜顔柳仰板 棟方志功  
 画欄抜萃屏風 下澤木鉢郎  
 津軽の農婦 島 勉  
 胸像のある校苑 救仁郷和一  
 岩 友の兄の顔 棟方令明  
 (写真)  
 河岸一景 濱田得一  
 山荘の一隅 高橋富路  
 白の印象 外川朝次  
 高原残雪 今井篁之助  
 椿 安藤榮一  
 忍村にて1立場 木村伊兵衛  
 3街道 木村伊兵衛  
 2側様 木村伊兵衛  
 白浜の印象 鈴木高光  
 無題 松原重三  
 レオニード・ク 中島直二  
 ロイツァー氏 中島直二  
 雪国の夜 山下實  
 鶴 畑井智裕  
 春 清水武甲  
 朝の湖畔 菅野清兵衛  
 風 假谷六郎  
 雪 (一) 岡島菅吉  
 積 雪 岡島菅吉  
 樹 雪 岡島菅吉  
 水 氷 岡島菅吉  
 温 氷 岡島菅吉  
 銀婚旅行 氷 岡島菅吉

ヌード A 内田美胤  
 つらら B 中居正躬  
 ヌード B 中居正躬  
 花 老 中居正躬  
 垢石 老 中居正躬  
 樹 天 入江泰吉  
 目 天 入江泰吉  
 木 其一 島田貫一郎  
 木 其二 島田貫一郎  
 当 主 長演慶三  
 洋子さん 主 長演慶三  
 アクトの女 門世潜  
 眠る女 小野由行  
 水溜りの光る歩 片倉安雄  
 道 田中信次  
 ねこやなぎ 田中信次  
 黎 明 佐藤元臣  
 レスリング 山田慶次郎  
 作品五番 柿沼和夫  
 菊 花 松山隆一  
 フォトデザイン 松田静夫  
 コンボジション 松田静夫  
 男の顔 弘田仲昭  
 朽 木 池宮清二郎  
 レンコンバター 池宮清二郎  
 日 輪 北角玄三  
 水 文 北角玄三  
 チューリップ 安藤不二夫  
 作 肌 安藤不二夫  
 雪 肌 安藤不二夫  
 竹 肌 安藤不二夫  
 塔ノ写真的重合 小林廣

印 象 中山亮  
 水鉢の花 中山亮  
 処女 雪 高道夕咲人  
 雪 日 伊東常雄  
 花 中 伊東常雄  
 熊谷守一画伯 船山克  
 雷神(九品山) 竹見義雄  
 夢 加藤悦二  
 石 加藤悦二  
 木 加藤悦二  
 早 春 田中嘉美  
 夕 春 田中嘉美  
 横丁にて作品其 〆ハナヤ勘兵衛  
 の一 〆ハナヤ勘兵衛  
 レモ 今西武利  
 木 蓮 海老原一雄  
 砂 丘 吉田畔夕  
 万植生 假谷仁三郎  
 尖 端 塚本彌八  
 寄 舟 武田真  
 夕 岡 俊亮  
 灘祭(獅子が舞 三浦悠  
 つてゐる) 三浦悠  
 墓 地 八尾忠治  
 29回春陽会展 18-5月4 都  
 美術館(受賞)(春陽会賞)  
 絵画 市川晃、出岡實、版画  
 一平田康(会員推挙)川隅路  
 之助、野村千春、村山密(準  
 会員推挙)絵画 笠木實、福  
 田庸一、友田みね子、西尾

節子、荒木市三、木本晴三、  
 版画 古川龍生、舞台美術  
 北川勇、河野國夫(批朝日  
 21(植村鷹千代)、東京24(富  
 永徳一)、東京タイムズ26(田  
 近憲三)、毎日27、日経29(福  
 島繁太郎)美術批評5月(柳  
 亮)、美術手帖6月(大久保  
 泰)  
 出品目録  
 印会員、印準会員  
 (油絵)  
 朝の祈り 小川 緑  
 卓 上 小柳秀太郎  
 ラン 上 小柳秀太郎  
 コスモ 上 小柳秀太郎  
 木 上 小柳秀太郎  
 スト 上 小柳秀太郎  
 風景 中村芳郎  
 西洋梨とレモン 村山 密  
 室 内 村山 密  
 青いコンボチイ 村山 密  
 漂 着 川島昇太郎  
 曲 馬 加山四郎  
 蛙の静物 加山四郎  
 秋の庭 加山四郎  
 チューリップ 中村徳三郎  
 秋 中村徳三郎  
 花 中村徳三郎  
 魚 中村徳三郎  
 海の静物 中村徳三郎  
 小鳥のいる船 島内三郎

夜の魚島内三郎	GARAGE 木原康行	枯船所 A 枝。南大路 一	森にささよう魚	造船所 B	枯葉	菜の花 楠原三枝子	三人の女 A 越智雄二	静物 B A 吉田 穰	肉と人 B 市川 晃	魚と人 屋	静物 A 石井光楓	魚と B 笠木 實	静物 女	ぶど 瓜寺島正敏	工事 木本晴三	風 景	お茶の水の橋	希い 森村惟一	夜 森村惟一	パンチール	露 店 廣野股生	運 動 松村禎夫	風 景	静 景	街 景	丸の内風景				
静物 A 上田春夫	窓辺の静物 B 二見和男	はるかな想い 阿部平臣	卓上静物 萩原 洵	白のリズム 原 義雄	ガリ 松藤二 郎	向日葵の静物 上原欽二	区役所正面	人 物 深見 隆	道のある風景 武田光良	故郷 大久保一郎	鮭とトラバ 蟹 藤田周平	水 源 地 川隅路之助	白い壺	製氷会社	ゆきやなぎ	山城 花	赤城 山	木の葉 伊藤 善	化 石	手をくむ三人	代々木山谷 角南松生	庭 田	春 川	花 流	花 花	卓 卓	丘の校舎 伊藤 勲志	鉄塔のある風景 野村千春	早春八王子	横たわる女
開拓 地 野村千春	風景 出岡 實	静物 壺	能面と 壺	静 崎の街 松島正男	長崎の街 村上ひとえ	景 タンクのある風	鯉 田邊謙輔	にわとり	窓 辺 静物 門 岡 鹿之助	水 門 岡 鹿之助	苺 リ ヤ	湖 リ ヤ	天主堂の見える 小西郁夫	天主堂の丘から 中田政夫	花 物 南城一夫	静 物 横堀角次郎	椿 物 横堀角次郎	橋 物 横堀角次郎	御苑の秋	白い雑草の花 福田庸一	海 辺の家 四方れい	花 咲く丘 高橋辰雄	庭 庭	花 庭	花 庭	花 庭	花 庭	花 庭	花 庭	花 庭
海庭 浜 細田孝	漁 港 井上重生	物 とんがらしの静	パイプの通つて 照井 明	牛と子 供 佐野秀二	静 物 遠藤敏也	ザ ク ロ 三橋玲子	花 井上千鶴子	雨 井上千鶴子	蝶 井上千鶴子	小 井上千鶴子	花 東 静物 新沼杏一	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子	母 セイブツ子
静物 上 賀茂牛之輔	静物 A 川島 滋	座 女 八木保次	建 物 柳原達男	静 物 B 小見辰男	工 場 野口正二	食 卓 大野あや子	風 景 中野 敏	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅	赤い建物 鶴 毅

変電所	花電	ボソン	ひまわり	けし	モ	病児と母親	無花果	向日	木立	虹	水郷	朝	鶏を配る静物	鶏とランブ	白と紫の花	花と果物	花の静物	復活(光を)	花と子	静物	ガーベラ	野外静物	帆	聖セバスチャン	木株の花	森の男の肖像	犬と花壇	M 婦人
遠藤典太	松ノ谷美枝子	友田みね子	中谷泰	秦	秦	秦	秦	秦	秦	秦	秦	秦	川上尉平	三吉雅子	中	田中	西尾節子	物村杉	加藤秀夫	五味秀夫	三井永一	荒木市三	荒木市三	荒木市三	荒木市三	荒木市三	荒木市三	

裸婦	腰掛ける女	造船	麦秋	長崎の歌は忘れじ	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模	美術模
荒木市三	中西	濱田辰雄	柴田篤二	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	大船撮影所	

ロウランの白楊	樹(ボアノトセツシユ)	漁船と張られた	ブレグーの寺院	夜十二時に生る	ウエレ	お祭り	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ	風景(オーフオ
ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	ローゼー・カイテ	

静物(造花)	マザン風景(オ	開かれたる窓	グオニエルの村	コッパにさした	ユラン	南仏の古村(マ	コッパにさした	ユラン	南仏の古村(マ	コッパにさした	ユラン	南仏の古村(マ	コッパにさした	ユラン	南仏の古村(マ	コッパにさした	ユラン	南仏の古村(マ	コッパにさした	ユラン	南仏の古村(マ	コッパにさした	ユラン	南仏の古村(マ	コッパにさした	ユラン	南仏の古村(マ
ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ	ミール・ラプ		

箱の中の蒐集	迷	ル	フット・ライト	人	露	海の調	里芋の葉	卓上草花(けい	春	春	春	春	春	春	春	春	春	春	春	春	春	春	春	春	春	春
前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	前田藤四郎	



女の静物	森本光子	人といと花	櫻井幸子	山麓住宅地(苦)	田川勤次	窓外風景	木村莊八	レースの静物	山本朝子
厨の静物	吉田達磨	フラスコ	丹下年男	公園の池畔にて	大坂住吉	静物(ふどう)	三雲祥之助	アカシヤの花	中村巽
古から	川端彌之助	花と果物	小川マリ子	壺と少輪	横尾丈夫	静物(はさみ)	像	いわし	黄碧
天主堂	中川一政	花と魚	仲村勇	壺の春	伊川騰治	婦人(はさみ)	像	そてつの庭	中村洋吉
漁舟	時中川一政	竹と林	水谷清	薄日の朝	伊川騰治	とう	小栗哲郎	小さな漁港	加藤尚
漁村	石井鶴三	彫刻のある建物	水谷清	紅梅の庭	谷口一芳	大滝	小栗哲郎	金魚と少女	松下忠
着衣	女①	西瓜のある静物	倉田三郎	雪景の街	谷口一芳	窓	辺田武男	たんぽ	成田英一
裸	女②	花と庭	倉田三郎	春近きビル	社(精麦工場)	立	木土屋義郎	牟礼風	前田清子
雙雄飛	翔	裏庭	倉田三郎	卵のある静物	鈴木和市	花と果物	土屋義郎	アバ	前田鋼平
山中新緑	中川一政	静物	倉田三郎	貝細工と花	内西澤清	山間之	伊藤慶之助	葉の牡丹	田中重治
相風爐先屏風	中川一政	八伏	雪関四郎五郎	室画	瓜卷本辰夫	雪	伊藤慶之助	葉の牡丹	田中重治
金目鯛	中川一政	かざぐるま	石川武彦	南	山田陸三郎	白布と果実	伊藤慶之助	花壇	櫻井邦彦
雪中児童	飯田顯	湖への道	秋口保波	描く少女	山田陸三郎	青衣の少女	伊藤慶之助	水門	櫻井邦彦
青い水差のある	飯田顯	山麓	佐藤篤郎	鎌倉八ヶ峯	足立源一郎	谷間の風景	鬼塚金華	花壇	櫻井邦彦
盆	久保田恒男	山麓	佐藤篤郎	穂高深谷の断壁	北穂高南峯	金せん花	上野春香	菜の花	三根孝子
川岸の洗濯屋	増永直樹	山下	牛塚宏一	北穂高南峯	北穂高南峯	東中洲(博多)	上野春香	葉の牡丹	田中重治
静物	増永直樹	シクラメン	牛塚宏一	静	物若山為三	銀	座	アバ	前田鋼平
静物	岩崎又二郎	運	河井出實	母	子若山為三	映	横丁(博多)	葉の牡丹	田中重治
百	草	横浜	風景	風	子若山為三	映	横丁(博多)	葉の牡丹	田中重治
静	長岡忠三郎	工	風景	静	子若山為三	映	横丁(博多)	葉の牡丹	田中重治
みしんのある	佐藤昌胤	福	浦	桑	物藤野嘉市	映	横丁(博多)	葉の牡丹	田中重治
ンボジョーシ	菅谷麗子	レ	ス	樹木と工場	畑高田力蔵	映	横丁(博多)	葉の牡丹	田中重治
橋のある風景	宮本義雄	柿	ス	庭	木村莊八	映	横丁(博多)	葉の牡丹	田中重治
水門	宮本義雄	水門のある風景	高山西葉子	庭	木村莊八	映	横丁(博多)	葉の牡丹	田中重治
黒いオーバーの	松原鐵之	水門のある風景	高山西葉子	庭	木村莊八	映	横丁(博多)	葉の牡丹	田中重治
少	松原鐵之	水門のある風景	高山西葉子	庭	木村莊八	映	横丁(博多)	葉の牡丹	田中重治
緑	大谷俊治	水門のある風景	高山西葉子	庭	木村莊八	映	横丁(博多)	葉の牡丹	田中重治

ガソリンスタン 鈴木一弘  
河 畔 森 治 樹  
椅子による女 森 川 鎧  
ピンクの服 森 川 鎧  
手を組む女 清水源太郎  
庭 炭 鉄 道 川 邊 萬 滋  
棄器とランプ 森 松 治  
雉と果物皿 森 松 治  
卓 上 市 川 治  
梅 林 小 雲 越 智 正 人  
樹 間 竹 崎 三 峯  
風 景 重 松 建  
少 女 眞 野 岩 夫  
厨 房 静 物 中 野 満 男  
野 島 夕 景 關 瀬 武  
キヤバレー裏街 島 原 敏 美  
大 温 室 水 野 豊 彦  
ボエジー A 加 藤 芳 雄  
静 物 A 河 野 昭 二  
玉 葱 土 屋 義 朗  
風 景 ① 石 田 正 典  
ミ 風 景 鈴 木 敏 董  
街 工 場 住 吉 弘 人  
春 近 し 大 西 江 二  
タンクのある風 植 村 榮 生

陽 春 北 川 清 臣  
静 物 佐 々 重 雄  
木 蓮 上 田 健 一  
港 の 夜 景 長 森 敏  
川ぞいの洋館 大 橋 賢 造  
魚 堀 池 隆 一  
(舞台美術)  
シエルクスピア作  
「十二夜」デザイン  
公爵の館、オリー  
グヤ邸内の一室他  
の一室 吉 岡 裕 二  
オリーグヤ邸の他  
の一室庭園、邸前  
模型、公爵の館 多 賀 敬 二  
模 型、公爵の館 岩 崎 令 兒  
木下順二作「蛙昇  
天」デザイン、第  
一幕第一場 加 藤 彰 亮  
第一幕第二場、第  
五幕 多 賀 敬 二  
第二幕、第四幕 多 賀 敬 二  
第三幕 多 賀 敬 二  
幕 型、第二幕、第四  
幕 岩 崎 令 兒  
エルマライス作  
「街の風景」模型  
久保田万太郎作  
「カール・フツセ」  
模型 鈴 木 利 夫  
(照明 瀧 尾 輝 雄)

田中澄江作「千田是  
也」演出「天使」模  
型 北 川 勇  
第一幕 北 川 勇  
俳優座四月公演於三越劇場  
(照明 篠 木 佐 夫 瀧 尾 輝 雄)  
三島由紀夫作「綾  
の鼓」模型(俳優座  
公演於三越劇場)  
古 賀 宏 一  
(照明 篠 木 佐 夫 原 英 二)  
三島由紀夫作「綾  
の鼓」平面図 多 賀 敬 二  
内村直也作「阿蘇」  
模型 多 賀 敬 二  
(照明 多 賀 敬 二)  
「阿蘇」平面図 多 賀 敬 二  
泉鏡花作「海神別  
荘」模型 中 嶋 八 郎  
デザイン、平面図 中 嶋 八 郎  
井戸」模型 伊 藤 嘉 朝  
(照明 篠 木 佐 夫)  
マスク「老人」試  
作 篠 木 佐 夫  
「若者」 篠 木 佐 夫  
衣裳デザイン「老  
人」 篠 木 佐 夫  
衣裳デザイン「鷹」  
篠 木 佐 夫  
衣裳デザイン「若  
者」 篠 木 佐 夫

福田恒存作「龍を  
撫でた男」模型 河 野 國 夫  
(照明 穴 澤 喜 美 男)  
模 型、第一幕、第  
三幕 原 英 二  
(照明 原 英 二)  
T・S・エリオット  
作「カクテル・パ  
ーティ」デザイン、  
第一幕、第三幕 小 林 雅 夫  
第二幕 小 林 雅 夫  
ボオマルシエ作  
「セビリアの理髪  
師」デザイン、第  
一幕 金 子 和 一 郎  
模 型、第一幕 川 上 健 次  
(照明 川 上 健 次)  
田中小太郎作「爆  
風」模型 江 馬 福 男  
(照明 川 上 健 次)  
J・Pサルトル作  
「恭々しき娼婦」模  
型 一 條 龍 夫  
(照明 篠 原 久)  
ゲオルグ・カイザ  
ー作「朝から夜中  
まで」模型 長 尾 實  
ミユツセ作「マリ  
アヌスの気紛れ」  
模型 矢 嶋 正 二 郎  
創作バレエ、フア  
リア作曲「スベイ  
シンの庭の夜」模  
型 高 田 一 郎  
創作日本舞踊「夢  
の笛」模型 大 星 肇  
(照明 柘 植 貞 輝)

カミユ作「誤解」模  
型 林 芳 雄  
木下順二作「夕鶴」  
模型 板 坂 晋 治  
「山小屋」模型 小 見 辰 男  
北条秀司作「恋文」  
模型 小 見 辰 男  
(「恋文」デザイン  
「猫」La Chat  
te) 柘 植 貞 輝  
「猫」衣裳デザ  
イン 柘 植 貞 輝  
バレエ「白い斜面」  
衣裳デザイン 小 寺 緋 紗 子  
バレエ「熱帯魚」衣  
裳デザイン 小 寺 緋 紗 子  
対話「死者との  
對話」衣裳デザイ  
ン 長 瀬 幸 子  
舞踊「蝶恋花」衣裳  
デザイン 長 瀬 幸 子  
「地獄のドンファ  
ン」デザイン 長 尾 實  
モルナール作「リ  
リウム」デザイン 長 尾 實  
第一幕 長 尾 實  
ドオデ作「アル  
ルの女」デザイン 田 中 吉 雄  
真船豊作の舞踊  
「新羽衣」デザイン 鈴 木 雅 博  
第一景、第二景 鈴 木 雅 博  
第三景、第四景 鈴 木 雅 博  
真船豊作舞踊「雪  
女郎」 鈴 木 雅 博  
岡本綺堂作「蟹満  
寺縁起」デザイン 織 田 音 也  
その一 織 田 音 也

歌マルドロオルの  
五点 駒井哲郎

香月泰男個展 19—25 フォル

リエ6月

濱田庄司・棟方志功展 19—26

春の青龍展 19—27 名古屋・

1 回戦光会展 9  
| 24  
京都・

丸物

田中健三個展 20—24 大阪・  
海田画廊

ロジェ・ヴァン・エック作品展

20—30 名古屋広小路・青柳家「此」美術手帖8月

白鳳・天平文化展 20—5月31

奈良博物館

資生堂

丸善  
4 回梟会展  
21—26  
日本橋・

小山敬三近作展 21—26 名古屋

屋・美交社

21—30 タケミヤ

皆川泰藏民家和染展 21—27

歌麿展 22—5月9 鎌倉・近

代美術館

大阪・大丸

東西大家春の新作展 22—30

大阪・高島屋

3 回羽陽美術クラブ展 22—27

上野・松坂屋

風水会展 23—27 日本橋・高島屋

小山壽夫個展 24—30 京都・画夷堂

農工会工藝展 25—5月4 伊勢丹

九品庵春季展 25—28 壺中居

六曜社六人展 25—30 京都・丸善

東陶会展 25—5月4 都美術館

7 回日本美術院小品展 26—5月4 日本橋・三越

眞野誠二個展 26—30 資生堂

日本画新作展 26—30 白木屋

春季連立展 26—30 茨城会館

6 回赤光社日本画展 26—30 大阪・松坂屋

創人社展 26—5月1 京都・丸物

3 回全國陶藝展 27—5月3 都美術館

武者小路實篤個展 28—5月3 大阪・藤川画廊

1 回大同会漆藝展 29—5月4 日本橋・三越

6 回露露社展 29—5月9 都美術館

清香会鍍金工藝會展 29—5月4 名古屋・松坂屋

とも会展 29—5月4 大阪・大丸

新作日本画展 29—5月4 京都・大丸

毎日美術賞七作家自選展 30—5月8 上野・松坂屋 (批)

浅野彌衛個展 30—5月4 名古屋・丸善

五月

黒田頼綱個展 1—6 資生堂

小山田二郎個展 1—10 タケミヤ (批) 東京タイムズ 8 (瀧口修造)、美術批評 6 月 (森芳雄)

岩田藤七個展 1—4 日本橋・高島屋

仙崎会展 1—4 日本橋・高島屋

中国古书画展示会 1—3 東京国立博物館

国有東洋美術名品展 1—20 京都国立博物館

光風会展 1—7 名古屋・松坂屋

木内克作品展 1—11 大阪・阪急

農島社小品展 1—5 京都・土橋画廊

春草・大観名作展 1—21 酒田・本間美術館

3 回日月社展 1—8 大阪・三越

水彩連盟同人展 1—6 大阪・梅田画廊

關雪回顧展 2—11 銀閣寺・橋本邸

1 回明星会展 2—7 日本橋・白木屋

譚の美術展 3—10 銀座・松坂屋

土俗美術特別陳列 3—6月15 東京国立博物館

7 回尚技会展 4—5 京都・高台寺

12 回日本画院展 5—19 都美術館 (批) 東京タイムズ 15 (大河内信敬) 朝日 18 (河北倫明)

主要出品目録

望月春江

東山魁夷

鳥岡春徑

故吉村忠夫遺作

源氏物語「御別れ」

源氏物語「桐壺の帝」

寫經

樂園

燈籠大臣

故矢澤弦月遺作

採果

水園戲

室生の夕映 (小下園)

雪の間の町田曲江

鏡の森村宜永

鳩の根上富治

赤い花の川崎小虎

六の月松本姿水

寿の相野田九浦

猫の岩田正巳

特急の車穴山勝堂

青峰重倫個展 5—10 大阪・堂島画廊

古徑・靱彦・青柳三人展 5—19 大阪・松坂屋

4 回難波田龍起個展 6—12 フォルム (批) 美術批評 6 月 (江川和彦)、アトリエ 6 月

18 回東光会展 6—19 都美術館 (批) 東京タイムズ 15 (大河内信敬)

河内信敬

会員出品目録

裸婦 A 奥野康春

裸婦 B 石本秀雄

裸婦を描く A B 石本秀雄

静の物塩津誠一

女の居る部屋 山本日子士良

煙突の屋 松本富太郎

春の庭 嶺松本富太郎

新樹の庭 嶺松本富太郎

海木立 森田茂

花の森田茂

室内の静 河井達海

物いんの静 筒井茂雄

画室の一部 大歳曉

緑卓の静 大歳曉

石の静 大歳曉

公園の静 大歳曉

姉妹の静 大歳曉

梅と農家の静 高田肇三

真鶴風景 清水昌一

尾白川 清水昌一

志摩浜島港 水野一好

果物の静 青木正春

橋の静 青木正春

水の静 青木正春

白い椅子 新本燦根

溪流 A 三田村築

溪流 B 三田村築

野良犬のゐる風 河野磐

景の殿 河野磐

大仏殿 河野磐

二月堂風景 河野磐

高座の静 河野磐

座の静 河野磐

カーボリーイに扮 河野磐

せる少年 河野磐

食の静 河野磐

伊豆の静 河野磐

紙の静 河野磐

お盆の静 河野磐

ひばりの静 河野磐



庭草	五月の部屋	北海の雪	霧の朝	庭と鶏舎	赤の卓	早の春	四月の溪間	冬の阿蘇	貝焼場	人焼物	画室にて	春室	群像	鉢みわりと金魚	静物	つぼと女	編む女	城址の春	浅春耕	座の像	街と花	街と服	風の裸	森の裸	三の人	梅河村俊子	龍宮山の春	椿と太夫										
田代順七	桑原福保	佐藤一章	利平	利平	利平	多田俊彦	松岡正直	松岡正直	岩下三四	岩下三四	江島哲	柳田久	柳田久	松岡正	松岡正	小早川篤四郎	橋詰英一郎	橋詰英一郎	松永芳夫	松永芳夫	松永芳夫	松永芳夫	松永芳夫	松永芳夫	松永芳夫	松永芳夫	松永芳夫	河原修平										
平和の丘(A)	島村剛生	松本曉周	齋藤英一	石見セン	石見セン	能登靖幸	小野政吉	山根修二	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎	妹梅津五郎											
酒井三良個展	6—11	名古	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越	6—11	日本橋・三越											
7 回院展小品展	10—19	大阪	丸善	9—14	京都・丸善	9—14	京都・丸善	9—14	京都・丸善	9—14	京都・丸善	9—14	京都・丸善	9—14	京都・丸善	9—14	京都・丸善	9—14	京都・丸善	9—14	京都・丸善	9—14	京都・丸善	9—14	京都・丸善	9—14	京都・丸善											
5 回女流総合美術展	6—11	大阪・大丸	東丘社小品展	6—11	大阪・大丸	春の青龍展	6—11	京都・大丸	鳳会展	7—11	日動画廊	4 回装幀美術展	7—12	銀座	創美会展	7—11	新宿・二幸	10 回古美術展	7—17	壺中居	7 回春季新匠会展	7—11	大阪・高島屋	2 回五沐会新作工藝品展	7—13	京都・丸物	13 大阪・松坂屋	7—13	京都・丸物									
屋・松坂屋	6—11	大阪・大丸	東丘社小品展	6—11	大阪・大丸	春の青龍展	6—11	京都・大丸	鳳会展	7—11	日動画廊	4 回装幀美術展	7—12	銀座	創美会展	7—11	新宿・二幸	10 回古美術展	7—17	壺中居	7 回春季新匠会展	7—11	大阪・高島屋	2 回五沐会新作工藝品展	7—13	京都・丸物	13 大阪・松坂屋	7—13	京都・丸物									
手藝工作美術展	10—19	都美	1 回赤穴宏個展	11—20	タケ	ミヤ [批] アトリエ 7 月 (江川和彦)	徳力五竹・小川長水作水墨画展	11 京都・小川邸	3 回佐藤泰治作品展	12—17	日本橋・丸善	新造型協会小品展	12—18	新宿・ウイスタリヤ	村嶋西一個展	12—25	上野・松坂屋	近藤吾朗・黒田外喜男油絵二人展	13—17	資生堂 [批] 美術批評 6 月 (大久保泰)	3 回日本硝子絵協会展	13—17	サエグサ	6 回墨心会展	13—18	上野・松坂屋	三木明太郎・宮下貞之介油絵二人展	13—18	京都・大丸	1 回現代工芸美術展	14—22	日本橋・高島屋	4 回京都陶藝家クラブ新作陶展	14—21	京都・高島屋	1 回緑風会展	15—18	京都・大丸

鈴木治・山田光陶器展 16—20  
京都ギヤリ  
17回清光会展 16—19 京都・土橋画廊  
西川宗悦竹藝の会 17—22 大阪・松坂屋  
1回勁草会展 17—22 大阪・三越  
38回光風会展 17—29 京都・丸物  
東洋美術品展覧 18 京都・有鄰館  
矢部連兆蠟染展 19—24 日本橋・丸善  
6回六人展 19—24 資生堂  
一九五二年歐米商業美術展 20—25 銀座・三越  
春季行動展 20—25 日本橋・三越  
神保俊子個展 20—24 サエグサ  
杉本健吉個展 20—25 日本橋・三越〔批〕アトリエ7月  
〔江川和彦〕  
48回太平洋商会展 20—6月1 都美術館  
1回青龍会展 20—24 名古屋・美交社  
17回清光会展 20—22 大阪・淀屋画廊  
1回緑風会展 20—25 大阪・大丸  
西澤富義近作展 20—24 大

美術展覧会(5月)

阪・美交社  
池田遊子新美術展 20—24 大阪・尚美堂  
1回錚々展 20—25 京都・大丸  
野外創作彫刻展 20 日比谷公園〔批〕東京19〔中村恒夫〕  
2回彩尚会展 21—24 壺中居多賀谷伊徳個展 21—31 タケミヤ〔批〕美術批評6月北園克衛、アトリエ7月〔江川和彦〕  
春の青龍展 21—29 大阪・三越  
再興2回新興美術院展 21—6月1 都美術館〔批〕夕朝日30〔河北倫明〕  
会員出品目録  
新色樹葉(一) 小林巢居人  
(二) 女鬼原素俊  
(三) 奥久 恋 松永光玉  
青陽舞鶴 田中案山子  
バレエを習ふ 上田臥牛  
女達 茨木杉風  
東京百景の内1 日本橋  
2 浅草  
3 銀座  
4 府中  
5 浜町

画室 林部主宰  
壺の湯 岩崎巴人  
情熱の終末 岩崎巴人  
火は凍結するの 彩苑 箱山精一  
山二題 1 樹氷 高島祥光  
同 2 木魂 夕焼の秋 安孫子荻聲  
捕鯨図の内 1 一路漁場 横田仙草  
2 解剖  
3 集団追尾  
校庭の残雪 箱山精一  
落日の丘 安孫子荻聲  
鯨屏風 岩崎巴人  
向日葵 保尊良朝  
春 浅し 鑑兒玉三鈴  
魚 鑑 岡田鍊石  
歴史を追ふ 岡田鍊石  
1回日本国際美術展 22—6月13 都美術館〔批〕東京25  
〔柳亮〕、毎日26〔合評〕田近憲三・佐波甫・吉川逸治・徳大寺公英・嘉門安雄・富永惣一、毎日27〔石川達三〕、毎日28〔徳大寺公英、日経6月2〔福島繁太郎〕、朝日6月6〔植村鷹千代〕、毎日6月6〔荒城季夫〕、東京タイムズ6月8〔四宮潤一〕、読売6月9

出品目録(フランス)  
逆さに映る水の女王 ジャン・オー  
リッソ 反響のないハーレーを編む女 リュシアン・クリト  
山二題 1 樹氷 高島祥光  
同 2 木魂 夕焼の秋 安孫子荻聲  
捕鯨図の内 1 一路漁場 横田仙草  
2 解剖  
3 集団追尾  
校庭の残雪 箱山精一  
落日の丘 安孫子荻聲  
鯨屏風 岩崎巴人  
向日葵 保尊良朝  
春 浅し 鑑兒玉三鈴  
魚 鑑 岡田鍊石  
歴史を追ふ 岡田鍊石  
1回日本国際美術展 22—6月13 都美術館〔批〕東京25  
〔柳亮〕、毎日26〔合評〕田近憲三・佐波甫・吉川逸治・徳大寺公英・嘉門安雄・富永惣一、毎日27〔石川達三〕、毎日28〔徳大寺公英、日経6月2〔福島繁太郎〕、朝日6月6〔植村鷹千代〕、毎日6月6〔荒城季夫〕、東京タイムズ6月8〔四宮潤一〕、読売6月9

海上の紅鶴 アルシンドレ・マル  
花のある静物 アンソンドレ・ミ  
魚の静物 ウイリー・ム  
ドル港のスペイ チャン・ピ  
帆船 内実在 奥リーヴ・ツ  
バグアース(孔雀) エドアル・ビ  
オリ・ヴ・ツ マルコ・プラ  
家畜の群 カプリエル・ロバン  
明日の風景 ジョルジュ・ル  
博士達に開かれた幼児イエスのための習作 ジョルジュ・ル  
プロファイル コンボジション  
コンボジション ヒー  
ダナイド ギュスター  
岩 デイエップの港 ビエル・タル  
静物 エナール  
桜は花ざかり ヴィヤク  
放翁 心 ヴィヤク  
農夫 達 アンリ・ウ  
T・48—21 ハンス・アル  
陽光の砂丘 ラビエル・ス



[illegible]



若き女の像	久保守	陽気な娘	桃安井曾太郎	H嬢の像	山本正	長崎風景	山口薫	木と紐	山口薫	春の鳥	山口蓬春	初夏(日本画)	山本丘人	父と子	山本敬輔	審判	松島正人	花崎の山	破船のある風景	餓鬼	古澤岩美	嘆息	清里八重子	(日本画)	福田平八郎	閑鶏(タ)	福田豊四郎	浅間山有明月	小山敬三	裸婦	高野三三男	飯装	兒島善三郎	芦之湖秋暉	小林和作	雪光後	小糸源太郎	人間の構図	小磯良平	坊さんいけばな	小牧源太郎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
ポンスマルタン	A 海老原喜之助	B 麻生三郎	C 阿部展也	D 朝井閑右衛門	E マジョリカ台鉢	F やんげ跡	G シャンパンとプロンズとテラコッタ	H ツダ	I レダ	J 荒井龍男	K 七ツ	L 愛タ	M 魚供と(日本画)	N 夜中川ベリの工場	O 斎藤義重	P 酒田風景	Q 佐藤敬	R 森村三田康	S 杏の内	T 肖像画家の妻	U 仏物花	V 静輪A齋藤清	W 土器B齋藤清	X 猿々面坂本繁二郎	Y 少女像木下孝則	Z 山麓の農家木下義謙	山国の春	瀬戸の工場裏	北川民次	窓外雲	庭園	家人愛猫宮田重雄	女と動物	座インカの二つの壺	うなぎと鯛	花と魚	白い壁(日本画)	壁かけと女	あるボーイズ	人森芳雄	柿葉鈴木信太郎	アネモネ	荒れる海の鈴木保徳	岩と海	静人物須田國太郎	少女の像	鵜を抱く少年	大仏殿遠望	別族杉全直	坂口一草新作個展	阪・高島屋	梅原龍三郎作品展	阪・梅田画廊	富岡益太郎油絵個展																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	23—29	

綜合展) 1—9 大阪・松坂

芦屋市展 1—6 芦屋・仏教

會館 1—11 大阪・十合

開店記念東西大家日本画新作展

文人画展 1 京都・聖護院北

御殿 綜合美術展 1—15 室蘭・富

士製鉄會館 晨光會展 2—4 黒田陶苑

1 回創作工藝協会展 2—6 資生堂

狩野壽一個展 2—7 日本

橋・丸善 4 回新水彩展 2—13 都美術

館 平和のための美術展(前衛美術

展) 2—13 都美術館 日本画子春會展 2—7 大

阪・淀屋廊 4 回工彩會工藝展 3—8 日

本橋・高島屋 京都大家新作日本画展 3—8

上野・松坂屋 初夏の二紀展 3—8 日本

橋・三越 カネギ一國際展出品作品展示

會 3—8 鎌倉・近代美術

館(批) 毎日13(徳大寺公

英) 大林天洞個展 3—8 日本

美術展覽會(6月)

創元會岡山展 3—8 岡山・

天満屋百貨店 21 回阪急工美會展 3—8 大

阪・阪急 田邊竹雲齋竹藝新作展 3—8

大阪・高島屋 日本彫刻會関西1 回展 3—8

大阪・大丸 5 回無厭會展 3—8 京都・

大丸 春の青龍展 3—8 神戸・大

丸 5 回清流會展 4—7 兼素洞

山東洋・三枝守正・山崎佐一郎

油絵展 4—7 サエグサ 3 回3 a 會洋画展 4—8 福

岡・朝日新聞社 明治時代日本画大作展 5—7

藝大陳列館 春陽會名古屋展 5—12 名古

屋・松坂屋 片岡銀藏油絵個展 5—13 大

阪・ニュー・アサヒ 3 回京都職美協会展 6—11

京都・丸善 歌麿生誕二百年祭浮世絵展

7—25 銀座・松坂屋 藤田慎治個展 7—12 資生堂

(批)美術批評7月(植村鷹千

代) 8 回明治會展 7—10 日動画

廊 三雲祥之助・小川マリ子二人展

7—13 大阪・フジカワ画廊

5 回日本美術協会展 7—12

大阪・三越 京洛新作陶展 7—12 大阪・

三越 5 回関西新制作展 7—12 京

都・丸物 前衛作家集団1 回展 7—12

京都・丸物 原精一個展 9—14 フォルム

(批)美術批評6月(大久保

泰)・アトリエ8月 八木正風個展 9—14 日本

橋・丸善 京都創人社漆藝展 10—15 日

本橋・三越 2 回槐風會展 10—14 サエグ

サ モダンアート協会展 10—19

大阪市立美術館 岩田藤七新作工藝硝子展 10—

22 大阪・高島屋 3 回関西独立美術作家展 10—

15 大阪・阪急 赤膚焼大塩正人個展 10—15

大阪・大丸 一新會日本画展 10—15 京

都・大丸 田中簞齋竹藝展 10—14 京都

ギヤラリー きぬた會(野口道方)染色工藝展

11—15 日本橋・高島屋 榎戸庄衛個展 11—20 タケミ

ヤ(批)美術批評7月(植

村鷹千代)・アトリエ8月

5 回清流會展 11—14 京都・

土橋画廊 橋口五葉展 12—30 鎌倉・近

代美術館 日本刀劍・甲冑・金工名作展

12—29 酒田・本間美術館

高間惣七個展 13—18 資生堂

カネギ一國際美術展日本出品

作展 13—25 日本橋・三越

(批)毎日13(徳大寺公英) 西洋近代美術名作展 13—25

大阪・三越 11 回春泥會展 14—19 大阪・

三越 1 回松静會山水画展 14—19

大阪・松坂屋 入江泰吉大和古寺佛像写真展

14—19 大阪・三越 4 回自主連立展 15—24 都美

術館(批)美術批評7月(植

村鷹千代) 小磯良平自選展 15—7月27

神戶・白鶴美術館 中国陶器染付展 15—7月27

神戶・白鶴美術館 ヴァン・エック個展 15—17

大阪・梅田画廊 東洋美術品展観 15 京都・有

隣館 12 回日本彫会展 17—21 日

本橋・高島屋 3 回白土會展 17—22 日本

橋・三越 2 回青晴會展 17—21 フォル

ム 西山英雄作品展 17—21 サエ

グサ(批)朝日20(河北倫

明) 自由美術六月展 17—22 日本

橋・三越(批)毎日19(徳

大寺公英)・アトリエ8月

彩交會展 17—22 日本橋・三

越 新星會展 17—21 大阪・フジ

カワ画廊 京都新彫刻家クラブ展 17—22

大阪・大丸 8 回武石勇・武石匡漆画・漆工

藝展 17—22 大阪・阪急

1 回工人展 19—24 資生堂

東貞美・赤羽恒男二人展 19—

22 大阪・梅田画廊 須田昶太素描陶器展 20—29

大阪・阪急 錦義一郎洋画個展 20—24 京

都・土橋画廊

10 回白鳳會展 21—30 タケミ

ヤ 山口華楊個展 22—27 日本

橋・高島屋 白帆會展 23—28 日本橋・丸

善 鈴木信太郎近作展 23—28 弥

生画廊

八九

△石原政之  
△石井四郎三

裸婦

海 魚  
三 重 林 小 込

頁 木  
青 公  
山  
夏

山石原の秋  
立原全秀

初夏の小豆島

籐椅子に猫△櫻井知足

漁船 B △玉ノ内滿雄

荒街の一隅

静物 B。堀田清治

池畔

切  
り  
通  
し  
＝

卷二

青物 A 冬見鳥三

入 口

山麓の道△田中常太郎

瓦斯タンクのあ

る風景

新録也。伴高野真美

静  
物  
A  
木  
良  
晴

B

新緑の東宮御所  
△黄尾尼每男

安 妻  
宅  
風  
是  
木  
喜  
代  
吉

庭の春

早  
春  
△酒井嘉久

竹林

静物 B  
△川西通夫

A

アパンの照明室 大久保四郎



静物 A 市川加久一  
 樹 B 宮平清一  
 もくれん  
 新緑 坂松次  
 港のある静物 脇坂松次  
 さるすべりの木  
 と家達  
 黄色のある静物  
 静物 村口辰明  
 布を配した静物 田邊義雄  
 灯 下  
 風 景 永野燐夫  
 かんこちゃん 遠藤 巖  
 こけし人形  
 スキートビート 佐野釘治  
 果物  
 新緑 村道  
 花 豊田壽久  
 波 村 A  
 漁 秋中村達朗  
 麦 葵  
 向 日 物 霜田公子  
 静 物 霜田公子  
 花 坂屋  
 港 1 回工藝連合展 1—6 日本  
 ポートの干して 合原 創三郎  
 ある湖畔  
 つるばら  
 パンジー  
 月 日の朝 岡野正樹  
 台湾 風景 景 大西豊次郎  
 風 景 大西豊次郎  
 早春 (湯村温泉) 中村 宗久

七月

サロン・ブルーバード 1 回西洋美術特別展 29—7 月 3 日 日本橋・高島屋  
 高澤七郎個展 1—6 日本橋・三越  
 美と産業展 1—6 日本橋・三越  
 クロード・岡本油絵展 1—6 日本橋・三越  
 峰村リツ子個展 1—5 東京画廊  
 マハニ工藝小品展 1—7 銀座・セキネ洋装店  
 ロスアンゼルス展出品中国陶磁展 1—10 東京国立博物館  
 米澤蘇峰新作陶展 1—6 日本橋・三越  
 6 回墨心会日本画展 1—7 大阪・松坂屋  
 油絵大家展 1—6 上野・松坂屋  
 1 回工藝連合展 1—6 日本橋・三越  
 4 回加藤藤山新作陶展 1—6 大阪・高島屋  
 西山英雄雄展 1—6 京都・大丸  
 5 回彩交会日本画展 1—10 大阪・三越  
 松田忠一洋画個展 1—6 大

阪・阪急  
 中澤弘光喜寿記念油絵新作展 1—7 大阪・梅田画廊  
 東西作家新作展 2—5 壺中居  
 尚美展 2—5 壺中居  
 松本富太郎油絵個展 4—8 日本橋・高島屋  
 古唐津名品展 4—9 日本橋・高島屋  
 日本国際美術大阪展 4—14 大阪・そごう百貨店  
 1 回北陸光風会展 4—9 高岡市美術館  
 加山四郎個展 5—6 丸ノ内・工業クラブ (批) アトリ  
 エ 9 月 (江川和彦)  
 都竹伸政個展 7—10 資生堂  
 潮会美術展 7—10 日動画廊  
 14 回連袖会展 8—13 日本橋・三越 (批) アトリエ 9 月 (嘉門安雄)  
 6 回能影会展 8—13 日本橋・三越  
 1 回金曜会展 8—12 サエグサ  
 大須賀力・黒田嘉治彫刻展 8—12 日本橋・丸善  
 根津美術館特別展 (乾隆時計と清氏陶磁) 8—30 根津美術館  
 磯部草丘個展 8—13 日本橋・三越

小倉遊龜新作展 8—13 大阪・大丸  
 酒見恒平個展 8—13 大阪・阪急  
 古屋新油絵展 8—12 大阪・丸善  
 雅陶古たんば展 8—13 大阪・阪急  
 杉本健吉個展 9—13 名古屋・松坂屋  
 東西大家新作「日本画と工芸」双趣展 9—15 日本橋・高島屋  
 光風会美術会館落成記念展 10—15 光風会美術会館  
 21 回朔日会展 10—22 都美術館  
 2 回独立十人の会展 10—15 日本橋・高島屋 (批) アトリエ 9 月 (江川和彦)  
 2 回墨洋会水墨展 11—15 日本橋・白木屋  
 サークル 52 作品展 11—20 ケミヤ  
 6 回職場美術展 11—22 都美術館  
 合田小三郎・齋藤正夫二人展 11—15 資生堂 (批) アトリエ 9 月  
 春陽会展 11—21 大阪市立美術館  
 青甲社試作展 11—16 大阪・そごう百貨店

國盛義篤遺作展 12—18 大阪・梅田画廊  
 川端龍子奥の細道連作展 12—20 大阪・三越  
 水彩連盟大阪展 13—20 大阪市立美術館  
 小林清親木版画展 1—13 鎌倉・近代美術館  
 1 回 NON 展 14—19 日本橋・丸善 (批) アトリエ 9 月 (仔馬)  
 金山平三近作展 14—19 大阪・美友社  
 水彩連盟展 14—20 大阪市立美術館  
 惠爾会日本画展 15—20 日本橋・三越  
 現代創作版画六人展・古代ガラス展・英米版画展 15—8 月 31 鎌倉・近代美術館 (批) 夕朝日 29 (植村鷹子代)、東京 13 (今泉寛男)  
 現代日本陶藝展 15—20 京都・高島屋  
 2 回西山英雄雄作品展 15—20 大阪・大丸  
 新制作協会日本画部東京展 15—23 日本橋・三越  
 紫潮会洋画展 16—19 資生堂  
 光風会六人展 16—23 光風会館  
 5 回大彩会木工藝作品展 17—20 日本橋・高島屋







中井重男油絵展 19 | 24 大

二、服部正一郎、織田廣喜、

（終）

三

トリオ井上賢

愛情

都会佐藤睦郎

影 踏伊藤研之

森で迷つた児供

影。織田廣喜

(絵画部)

女

希望。荻野康兒

街

山A  
青山龍水

B

ま  
ち  
の  
夜  
酒  
見  
敏  
雄

また、首七巻

迷宮物語

春潮

黒 生。高岡徳太郎

外川

犬 吠

時計の静物。米良道博

美術展覽會(9月)

田筒型の風景大澤寛  
向日葵間葉子  
瀬戸風景末永一夫  
花をくわえた女山本不二夫  
二 人々  
作 品 品A波江勘次郎  
ク Bク  
住居跡の裸婦狩野守  
哀愁大石隆  
我は死者にして墓掘人 原誠  
織 女川原マサ子  
裏 街新田稻實  
噴 煙名嘉眞武雄  
矛盾な裁き伊賀勇高  
港の丘原良次  
人・動物田川覺三  
二 人月館れい  
仲よし澁谷光典  
つな渡り金子三藏  
一九五二年安藤幹衛  
連 想原田直康  
FUE DU  
TEMPs  
(流れる時)  
開墾の丘C 石川新二  
聖女の群高橋悦夫  
都會風景石田隆一  
人々金原昌平  
自由像利根川沈  
横 向 像 相澤義和  
広 場 八重垣逸郎  
無 題 戸川串田  
工 場 杉浦正美



牧歌	青木一利	静物	橋野松恵	二人の犬童次夫	わらべ	少年坐像	境家善高
姉妹	郭仁植	教会の見える丘	棚橋俊彦	母と子	裸婦立像	はにかむ女像	浅井正治
夜	田中君子	遊園地	桐原五郎	遊園地	無垢の碑	青い年三宅五穂	
SPONSOR	高橋満壽男	青い太陽	青木秀夫	海	作品二七A	立像	
(スポンサー)	黒木耀治	満月	吉野正明	風	或る女	水	
港町にて	小島詰治	作	榊山勝	姥と幼女	裸婦	横臥の鳥	
パンチユール	上田民子	K河	西村龍介	(彫塑部)	無?	裸女	
珈琲挽きのある室内	猪田七郎	海	鳴谷卓朗	坐せる女	寝て空を見る	男	
泉	中谷輝造	ランプと毛皮と	鈴木青太郎	力	裸婦	白	
手術室	星野美雄	五男	鈴木澄子	女の立像	線ノ力	男	
夕	高根澤政子	自	中井澄子	女の臥像	裸	裸	
麦	因藤	母情	矢澤伸一	首の臥像	ビエロ	八	
裸婦A	山田優紫	竹と	池上隆昭	立像	習作	五	
旅	加藤若榮	立	葛西丁一	泉	蛋の歌	四	
瀬戸風景A	加藤孝一	乳牛と	倉橋寛	バラ色の髪	立像	三	
ケンタウロス	松下明治	朝	深見一	作	胸像	二	
或の日の憧憬	岩田安郎	夢	内田系一	対	少女立像	一	
工場風景	内藤道廣	愛のシルエット	上野富蔵	形	少女の首	三	
日のあと	荻原ひろ子	うじゅ	石橋泰幸	顔	横臥の首	三	
苦	近藤長三郎	うじゅ	鍛冶艶子	裸婦臥像	男の立像	三	
水	生方晴人	薄	橋本	愛	立像	三	
夜	佐野允子	青の海	佐々木	情	黒い汗と白い風	三	
患	川邊萬滋	歴史は神の名に	澤山卓爾	夢	ヘルシンキ・オリンピックの競	三	
黒い太陽	松次弘義	井	宗	泳	山	三	
情	廣瀬	街の中の女	花村典人	少	首	三	
アルキヤン	藤川宏	工場の裏道	寺田健一郎	撫	首	三	
黄昏の裸婦	新開盛壽	海	山本甚吉	子	裸	三	
協	岡本一	貝と人体	指田由米	母	裸	三	
夢	清水映鳳	魚群を訪ねて	磯村利雄	子	裸	三	
作	伊勢谷圭						

三

点

(高橋正良)

二

点

一

点

点

点

あ

く

び

Oh Wonderful

Japan

今

三喜

能勢節郎

大羽誠一

田澤清見

吉塚章弘

浅井道次

上田恒

西田一徳

篠田卓果

西島伊三雄

木村武司

竹内清

岩田正

大淵陽一

岩崎恭輔

中島師津夫

柴田初次

堀賢三

加藤容康

竹内和夫

栗田鉦三

藤平清次

小松崎假弘

足立祐之

大橋桃之輔

見付謙藏

河村久子

西本滋

日置勝駿

加藤けん

伊東俊平

松本眞也子

田川肇象

長尾守

森田包幸

森田周平

増田謙二

津江篤郎

奥島啓二

島田一實

八尾武郎

水野光雄

五辻勉

柴谷吉一郎

小坂和夫

石川茂

末永京治

高橋安茂

今田清一

田中祥三

仲田乙比古

鏡光雄

鳥居秀雄

高頭栄一

佃正夫

横田昭次

中江藤三郎

緒方武志

山田良正

新居信二

中村誠

原正彌

松田國秀

藤重信

今村主税

平田圭藏

渡邊卓熙

山崎達雄

小園井一郎

石毛正一

安部幸

山崎弘

加藤武

卷田志朗

君島養夫

酒井龍

白田計

河村逸平

松井万里子

草刈順

水野朝彦

濱野一雄

友枝翁太郎

坪井鶴吉

赤土政太

黒田短彰

森島健次

前島誠一

岸井喜義

小川英夫

藤坂瓢介

平野通夫

漫画部

Gomenasai、

こめんなやう

Hotoke-sama、

ほとけやま

終電車(子供電

車にあらず)

岸本繁次郎

山下紀一郎

山下紀一郎

小野佐世男

象使ひの女

富士の怒りと麓

の歌

泉

政界オリンピック

ク

四十世紀の日本

人(メンデル先

生に捧ぐ)

沈鬱な売子、清水コソ

どこかでみたやうな

なかほだ

静物

放課後

やまとなでしこ

文

武者小路實篤氏。近藤日出造

像

天野貞祐氏像

正白鳥氏像

志賀直哉氏像

辰野隆氏像

不安

前下りの政治家

悪夢

三聖児

独立に残された

歴史

銃

藤井傳

柿本八郎

東京の空の下

森田成男

今三喜

修学旅行近忠

象徴森田成男

観念派田村幸助

奈良基地説片寄貢

(国際混血児二

題の内)

淡き日本陸上の

今三喜

夢

白か黒か黄色か

平和への対話

内村幸助

あいびき

松下紀久雄

うた

宮下森

破防法罷り通る

若林カズオ

たそがれ抒情

37回院展 1-19 都美術館

【受賞】(絵画) 新同人一中

島清、片岡球子、中島多茂都

新院友一渡邊安友、於保有

明、若林陽子、南春兆、常盤

大空、馬場不二、杉原笛邦、

入江正己、横山善信、小市美

智子、持田卓人 日本美術院

賞・大観賞一 片岡球子、酒井

亜人 日本美術院賞・白寿賞

一前田 奨励賞一 島田納

郎、直野満、松田文子、伊坂

静雄、清原齊、津田時子、羽石

光志、莊司福、岡本彌壽子、菊

川多賀子、三村石邦 (彫塑)

新院友一 半藤政衛、山本兼文

日本美術院賞・大観賞一 櫻

井祐一、笹村草人、日本美術院賞、白寿賞、千野茂、基俊太郎、奨励賞、土井要輔、矢形勇、長濱虎雄、松村秀太郎、青柳謹衛、保田春彦	〔批〕夕朝日5(河北倫明)、東京6(野間清六、中村恒夫)、夕毎日8(鈴木進)、日経11(江川和彦)、東京タイムズ12、美術批評10月(鈴木進)、美術手帖10月(対談)植村鷹千代、徳大寺公英	出品目録。印同人	テラスにて	麦の丘	花実郷	香実坂	阿弥陀坂	月昇ル	哀歌(無鑑査)	石(シ)	河原島	古墳	天狗	晩秋	メデル嬢と犬	行春青々	雨の窓	公園風景	能登の魚市	三河の海	船									
美術部にて片岡球子の頭塔の杜吉田善彦	黒門伊坂静雄	紅型村田瑞恵	本ノ芽時上垣候鳥	古代より(一)	(無鑑査)	古代より(二)	瀟々	ひとゝき	紅葉藤井白映	花菖蒲伊藤元子	大原雨後小松均	洋舞関津田時子	朝顔山田武嗣	秩父の山大野百樹	夏の風景日田中廣	奈良風景三村石邦	うら盆佐藤耕寛	運河の工場田中圭一	朝菊川多賀子	牡丹山本大慈	小壱田宮眞野満	春日范郷倉千靱	華清之浴中村貞以	菖蒲小林古徑	湯治場前田青邨	花或る日の太平洋奥村土牛	庭前宿雪大智勝観	美しき朝小倉遊龜	道成寺北澤映月	洋蘭富取風堂
芍薬の は 葉 島 船田三千枝	花 堀川公子	古墳(筑前王塚) 高橋玄輝	瀬戸の浮島 堀出英雄	五月の庭 郷倉和子	風景 井上陵華	万座峠(無鑑査) 中島多茂都	飛鳥龍を配せる 天太田聴雨	鳥籠(机上静物) 岩崎玲千	雪 林 横山善信	K 婦 浅池大憲二	小田井風 景渡邊 茂	道 戸 本間莞彩	童 女 持田卓人	立 葵 若林 卓	家 染 谷祐通	古 陶 後藤杏場	浄 瑠 璃 光田中嘉三	水 江尻十五郎	み どり 野甲斐己八郎	浅 池 新井勝利	鏡 海 酒井三良	笛 小谷津任牛	芍 薬 木下 春	聖 歌 野村 鋭	精 工 歌 野村 鋭	立 冬 関口正男	初 杉原 邦	山 峽 原 邦		
陶 笠 間 風 景 月岡榮貴	景 渡邊美知夫	陰 綿谷行四郎	日 渡邊安友	雲 まこ 山 齋藤俊文緒	室 内 吉岡美枝	緑 景 金子敏信	少 女 大塚堅二郎	外 海 小島一谿	首 日 寺門昭治	閑 景 後藤純男	秋 雨 岡本彌壽子	夏 日 於保有明	晴 日 土生勝宜	夢 桜 中庭煖華	雪 嶺 宮澤日出夫	愛 犬 豊秋半次	保 津 川手青郷	竹 嶺 木村武夫	初 里 本多 茂	吉 靖 染 付 四夷星乃	小 春 鈴木三朝	白 今 井 映方	炎 勾 原田美智恵	ひと 昼 佐藤白鶴	こ 間 並 木 端 穂	風 角 相 藤 義二	街 の 一 池田廣榮	鑑 賞 池田廣榮		
渡 頭 暮 色 星野楚人	郷 生 風 景 長谷川朝風	稲 池の友だち 丸木スマ	せみが鳴く 林	鳥 の 藤井観文	柿 近 里 松山春秋	春 錦 神田英僊	天 津 丹 鶴 節 夫	牡 丹 松尾泉華	牛 鈴 木 麻古等	初 夏 四田淳三	緑 藤 山 余 禰	厨 房 澤田 育	秋 杉のある風景 今野忠一	蓮 小 景 笠井利光	横 浜 小 景 米本豊司	田 家 高 橋 萬年	初 冬 高 村 草 樹	涙 壺 小 西 國 葉	緑 苑 大 矢 黄 鶴	麦 港の見える外人 大島哲以	街風景 若 木 山	海 女 河 村 双 舜	桃 花 村 河 村 双 舜	水 韻 吉 川 朝 衣	裏 沢 入 江 正 己	蒼 丹 眞 上 條 水 初	ま ど い 眞 島 元 枝			



九九





ジョージ・フイーネー個展 3—  
 7 日本橋・高島屋〔批〕  
 夕読6(黒光待夫)、東京タ  
 イムス10  
 4 回現代日本民衆展 3—10  
 上野・松坂屋  
 菁々会日本画展 3—10 上  
 野・松坂屋  
 寅樞寅平・夏江遺作展 5—10  
 日本橋・白木屋  
 大日登個展 5—9 資生堂  
 プラスチック工藝展 5—10  
 大阪・そごう  
 李田たけを油絵個展 5—10  
 京都・丸善  
 瀧龍之助個展 8—13 日本  
 橋・丸善〔批〕アトリエ11  
 月(江川和彦)  
 牧野虎雄遺作展 8—14 大  
 阪・梅田画廊  
 恩地孝四郎版画新作展 9—14  
 日本橋・三越〔批〕アトリエ  
 11月(江川和彦)  
 山喜多二郎太水墨画展 9—14  
 日本橋・三越  
 藪野正雄裸婦展 9—14 名古  
 屋・松坂屋  
 日本水彩画会々員小品展 9—  
 14 大阪・大丸  
 村上華岳遺作鑑賞展 9—14  
 大阪・大丸  
 光風会油絵展 9—14 大阪・  
 阪急

摺仏特別陳列 9—28 京都国  
 立博物館  
 内海加壽子遺作展 10—13 資  
 生堂  
 井戸茶碗展 10—30 根津美術  
 館  
 9 回青葉会展 10—14 日本  
 橋・高島屋  
 榎山七重・毛利武士郎絵画彫刻  
 展 11—20 タケミヤ〔批〕  
 アトリエ11月(江川和彦)  
 たのしい舞台美術家展 11—17  
 松島ギヤラリー  
 藤澤典明・東俊二・勝田寛一三  
 人展 12—13 日本橋・白木  
 屋〔批〕夕毎日17、アトリエ  
 11月(江川和彦)  
 4 回重陽会絵画展 12—14 京  
 都・高島屋潤心寮  
 東洋古美術展及び現代日本創作  
 版画展 12—10月12 神戸・  
 白鶴美術館  
 造型版画協会展 13—21 酒田  
 ・本間美術館  
 1 回ING展 15—20 日本橋  
 ・丸善〔批〕夕毎日18  
 1 回同素社展 15—20 日本橋  
 ・丸善  
 ベルギー現代美術展 16—21  
 日本橋・三越〔批〕夕毎日15  
 (和田定夫)  
 田村一男個展 16—20 光風会  
 館〔批〕アトリエ11月(江川

和彦)  
 5 回中村眞新作発表展 16—21  
 大阪・高島屋〔批〕アトリエ  
 11月(江川和彦)  
 宇田萩邸新作発表展 16—21  
 大阪・大丸  
 和田三造個展 16—21 日本橋  
 ・三越  
 1 回渥美美峰門日本画展 16—  
 21 新宿・三越  
 長谷川昇裸婦作品展 17—21  
 日本橋・高島屋  
 刀剣展 17—21 名古屋・松坂  
 屋  
 丸木スマ近作展 18—25 京都  
 ギヤラリー  
 弦田英太郎個展 19—24 日本  
 橋・白木屋  
 ブラック展 20—10月26 表慶  
 館〔批〕日経29(福島繁太郎)、  
 東京10月6(野口彌太郎)、夕  
 毎日10月15(徳大寺公英)  
 出品目録  
 (油絵)  
 レスタック風景 1906  
 マンドリン 1908—9  
 ヴァイオリンのある 1910  
 静物  
 クラリネット 1913  
 静物 1924  
 裸婦 1925  
 テーブル 1928  
 静物 1933

パン  
 窓辺の化粧卓(青) 1940  
 肉炙りのある静物(緑) 1942  
 静物 1943頃  
 椅子 1947  
 撞球台 1944—52  
 ダリヤの花 1952  
 大きな花束 〃  
 二つの窓 〃  
 アトリエ 〃  
 海景 〃  
 横たわる女 1930—52  
 (彫刻)  
 石膏刻画 〃  
 車 1935  
 ナイル 1936  
 横向きの顔 1939  
 小さな馬 〃  
 狩り(小) 〃  
 花瓶 1940  
 横向きの顔(台付) 〃  
 魚 1942  
 狩り 1943  
 馬の頭部 〃  
 イビス(朱鷺) 1945  
 版画(グラヴェール) 〃  
 BASS 1910  
 静物 〃  
 構図 〃  
 静物 1912

横にわたる裸婦 1932 ドライ・  
 『テオゴニー』 〃 ボイント  
 連作一六枚 〃 エッチン  
 故ウオラールの未刊の書『神  
 代記』(ヘシオドス作)のため  
 の挿絵  
 青空の衣を着たレトー  
 力強い巨人たち  
 アルテミス  
 濃き髪のアリスデ  
 美しき裸のアソフイトリート  
 人間の災神ネメシス  
 レトーと勝利の女神  
 エレブと闇夜  
 美しきデイオニス  
 ヘラとデミス  
 エーテルと日の光り  
 エリアード  
 勇ましきボルキス  
 射手アポロン  
 獅子の心をもてるアシル  
 美しき髪の下リス  
 坐る女 1933 エッチン  
 テオゴニー 〃  
 テオゴニーの横顔 〃  
 横顔(バックのな  
 い) 〃  
 シ(バックのある) 〃  
 横顔 〃  
 楕円形の中の鳥 〃  
 花瓶 〃  
 大きな頭部 〃  
 少女の頭 〃

燈 下 德田良仁

オホーツク海の

まつりかと猫△仲田好江

静物

静  
物  
越  
智  
宗  
茂

胡少  
女  
伴  
高  
田  
誠

寒村駅前

静物

中村琢二

白と黒

赤い天主堂。納富進

雙橋

冬長崎  
の  
可  
崎  
子  
天

緑衣

あつ子ちやん△尾崎正章

殘雪△廣瀨功

橋松野輝彦

内海の島々

天龍川畔

對 訓  
姿 △幸 二

輕井沢早春



姉妹田坂乾  
坂の上大津鎮雄  
長崎の家小野末  
白壁を抱く女々々  
阿弥陀岳寺田春式  
I子像  
老教師の像伊藤正  
雪の大通り附近  
二人物  
静人物  
人負師(關)池部鈞  
潮勝の鳴門石川眞五郎  
春の鳴門石川眞五郎  
雄の鳴門石川眞五郎  
紅の鳴門石川眞五郎  
浅間の山石井柏亭  
山湖雲日石井柏亭  
自画像  
妙高秋晴木下孝則  
裸家の露路有島生馬  
農家の花々  
少女と屏風山下新太郎  
来之宮風景安井曾太郎  
立像  
天津桃  
腰かける裸女  
真夏の静物木村辰彦  
横むきの女々々  
小娘  
夏奥田郁太郎

中学生奥田郁太郎  
朝露矢野雄藏  
平和運動者の訪永井潔  
問を翳す源川雪  
花を翳す源川雪  
庭と花林貞子  
飯能の秋田崎廣助  
早春の武蔵野  
阿蘇山  
静人物  
早春の東京三彩亭  
早オロ君安宅虎雄  
花と少女  
踊りたる女子  
横たわる女子  
椅子と花々  
復興上松木下義謙  
須原の水槽  
大桑風景  
米神風景  
池畔高橋五郎  
座の最上峽眞下慶治  
冬の最上峽眞下慶治  
雪の最上峽眞下慶治  
連雲港山川勇二郎  
帆の運河小竹義夫  
雪の早河  
北国早春  
雪後の朝兼松哲覺  
鳥の標本樋口哲覺  
魚の標本樋口哲覺  
氣象台附近松本一郎  
静物

橋の上黒松秀志  
夏の朝高橋卯八  
神苑の朝高橋卯八  
静苑の朝高橋卯八  
アネモネ森下照子  
計器のある室内  
師崎港藤島獎  
室内母子久富邦夫  
子供術岡勇  
手供術岡勇  
ガード下岡勇  
秋候果実群田代光  
敵氏の少女加藤清江  
病気の少女加藤清江  
秋の花吹田有徳  
冬山吹田有徳  
松原湖秋景佐藤功茂  
玉蜀黍のある静牛島節子  
物花々  
秋の花々  
裸婦習作片山芳樹  
花咲く家々  
金魚荒井一郎  
静物魚荒井一郎  
浜港的风景B林達川  
湖畔の夏尾澤勝朗  
冬の並木朝倉力男  
晴れ間々  
山村初秋小平鼎  
故郷初夏矢崎重信  
藤咲く頃小野藤一郎  
溪流

禅林酒見恒平  
庭園里々  
庫羽駅構内林鶴雄  
鳥羽の朝二宮雪夫  
鳥羽の朝二宮雪夫  
煙製のある静物二宮雪夫  
乾魚静物二宮雪夫  
踊子達名取明德  
姿見名取明德  
静物坂本正春  
やよひ々  
鬼怒川風景狩野壽一  
精進湖の朝々  
棧橋鈴木良三  
碇泊々  
漁港々  
一碧湖畔三浦俊輔  
夏間風景甲斐仁代  
座間風景甲斐仁代  
M荷車のある雪景渡邊祐一郎  
凌波船松田忠一  
石窟の仏松田忠一  
法隆寺々  
湖畔の庭松村三冬  
秋晴れ々  
ロブ、ブルー岡田行一  
マーガレット々  
横浜風景野村光司  
外房漁村々  
山紫水明河上一也  
義父の像加藤水城  
函館夏景池谷寅一

駒ヶ岳池谷寅一  
潤沼川本郷惇  
朝の山湖鍋谷傳一郎  
庭前大館健三  
庭緑々  
室の内塔笑子  
T嬢像  
花々  
片瀬風木下壽々子  
倉のある風景木下米子  
風景末松勇  
S夫人像  
金魚鉢澤崎恵子  
こだちの家吉原義彦  
頭骨のある静物々  
安堂秋景吉本義夫  
選果一本萬壽三  
化物屋敷黒田外喜男  
玄峽の春元川嘉津美  
山峽の春元川嘉津美  
蒙古服の前に立服部保  
てる裸婦  
ショウの人々菅沼金六  
犀川春晴日堀忠義  
片山津温泉街々  
門絵をかく子供須山計一  
伊那谷の生家々  
堀端風景古市幸利  
名張川神谷正信  
初冬風景松田晃八  
無題森島澄子  
松林三角嘉壽男



[illegible]

婦人 像 柴崎和夫  
湖岸 早出守雄  
沿線風景  
白いドレス 荒谷直之介  
赤い上衣の女  
小公園眺望 齋藤州外  
水 辺 荻原 實  
菅 沼 山中仁太郎  
夏衣の少女 浦野昭二  
機関車根拠地 西澤今朝夷  
構内風景  
晩 夏 石井ゆたか  
裸婦 田邊朋子  
道(田園) 街 青野馬左奈  
裏 船 所  
燈下自画像 不破 章  
山麓の家  
アメリカン・サ 上田哲農  
アメリカーン・サ 上田哲農  
氷上カーニバル  
ボーズする裸婦 富田通雄  
人 物 越川信義  
工場街の家 別車博資  
益子陶工場 古壕壽一  
卓上静物 阿部和三  
樹陰の憩 宮部 進  
山吹咲くポート  
秋 景 伊藤清武  
霜 佐原泰治  
雪の 日 小山周次

鎌倉風景 岡崎祇容  
都市の午後 岡田正志  
雑木時 小林守村  
或る 家 鈴木鏡平  
八ヶ岳初秋 鈴木農夫男  
窓 辺 高橋政子  
街 角 神谷嘉利  
漁村風景 中西正己  
梨 父 像 城戸清登  
神 父 像 城戸清登  
灰色の婦人像 泉 治作  
画室の一隅 岡崎陽子  
静 物 岡崎陽子  
室 支那のマドモアゼル  
早 春日邊良雄  
曇り日の段丘 齋藤政一  
風 景 橋元正一  
炭礦町の朝 川島誠司  
巴 川 望月清作  
白 い 家 松本久雄  
台 所 鈴木貴司  
浴 後 鈴木貴司  
越 賀の 海 松本貴司  
男 子 像 土井昌子  
下 宿 部 像 北村富三  
長 女 像 櫻井恵美子  
風 景 小田幸枝  
S 娘 小田幸枝  
郊 外 篠原昭登  
少 飛矢崎和彦  
ビルデング 飯尾 啓

人 形 今西壽子  
窓 人 物 武石幹樹  
跡 人 物 益子昭雄  
婦 人 像 塩見榮一  
麦 秋 阿部七郎  
青衣の娘 川端哲雄  
引 込 線 内田 修  
魚のある静物 横田達明  
休 息 牧田東子  
三ッ石海岸 串田良方  
海 近 中村慎伸  
女 止 野北晏照  
波 止 場 瀧田祐川  
新 潟 の 家 村山 陽  
富士の塔 飛矢崎直守  
夏 賀 高 原 飯島敏三  
志 賀 高 原 飯島敏三  
赤 松 の 山 松山善一  
志賀高原の夏 島羽宗雄  
踏切のある風景 宮田三郎  
谷 間 竹内梶夫  
春のテーブル 薩摩増子  
裸 婦 石田正敏  
工 場 内 相川昭二  
門のある風景 河野 浩  
マリヤ学園の見 今村春吉  
静 風 景(長崎) 与志美登野  
垂 水 附 近 皆吉志郎  
工場裏の朝 高木岸助  
夕 桜 島 花田正美  
雪 国 の 娘 志田繁治  
潮 岬 風 景 深山鎮男  
奈良公園の藤 鳴澤徳夫

鏡 の 前 吉田 新  
16 回新制作協会展 21-10月7  
都美術館「受賞」(日本  
画) 新作家賞—上野泰郎、信  
太金昌、野崎貢(洋画) 新会  
員—太田忠、川端實、田中修、  
瀬島好生 新制作協会展—田  
中田鶴子 新作家賞—安保健  
二、大國章夫、大住閑子、加  
藤金一郎、山東洋、深尾庄介  
(彫刻) 新会員—久保孝雄、武  
二郎、山本格二 新制作協会展  
賞—永田大石 新作家賞—小  
坂圭二、内田英也、岡本庄三  
(建築) 新建築賞—松村勝男  
(批) 夕朝日24(植村鷹千代)、  
東京26(中村恒夫)、毎日29(徳  
大寺公英)、日経29(福島泰太  
郎)、東京タイムズ29(田近憲  
三)、東京10月3、4(合評—  
中村謙二、福田豊四郎、今泉  
篤男)、夕読光10月7(瀧口修  
造)、美術批評11月(植村鷹千  
代)、アトリエ11月(植村鷹千  
代)、美術手帖11月(徳大寺公  
英)、みづる11月(植村鷹千代)  
出品目録。印会員  
(油絵部)  
コンボジョン 行木正義  
B 品 小林義範

アパートの人た 糸田芳雄  
夜の構図 室田豊四郎  
危険なスポーツ 水 川 端 實  
三 人 水 川 端 實  
鏡 水 川 端 實  
海 辺 山 東 洋  
鳥 籠 田中田鶴子  
作 品 田中田鶴子  
ス 1 2 3  
ス 安 息 日 玉置正敏  
非 ACRYBACY 青峰重倫  
水 柱 魚 大谷克己  
泳 ぐ 魚 上田鷹市  
踊る水兵 島田 潮  
少女と風船 田中登代子  
白の作品 加藤金一郎  
白と黒の作品 加藤金一郎  
曲 馬 石川 勇  
パベルの塔建設 油野誠一  
水 門 浅野敏昭  
群 像 木庭喜久男  
妄 想 相 澤 正  
月 夜 相 澤 正  
板 と 裸 婦 山崎佐一郎  
倉 庫 山崎佐一郎  
寄 港 地 高田一郎  
黄色い船 高田一郎  
八 月 西村元三朗  
舟 と 女 赤 穴 宏  
海浜の青年 赤 穴 宏  
舟 と 子 供 赤 穴 宏

黄色いバツカ	黒いバツカ	幼女の服部勝	木の葉安田高行	造船所草野敏夫	船とランブ	少年H今井麗子	踏切のある風景	赤練瓦の家	山本通り風景	鑑戸のある風景	北野町より	江戸町懐古	山本通小松益喜	レストラン相原久太郎	和装D B	和装C A	須磨風景網谷義郎	林磨風景	少年木山	大通風景村岡誠	大人物村岡誠	女と子供矢島金子	静浜風景大木達雄	横濱風景大木達雄	馬田中修	牛街の印象	彫刻と男神吉定	コンボジョン村上安雄
--------	-------	--------	---------	---------	-------	---------	---------	-------	--------	---------	-------	-------	---------	------------	-------	-------	----------	------	------	---------	--------	----------	----------	----------	------	-------	---------	------------

花籠と魚	鳥籠と魚	花とインカ壺	魚とインカ壺	金太虫網	捕虫網	魚太郎	桃太郎	夜の卓上萩野喜弘	緊張米倉正弘	おのり山戸恒晴	建の山境須藤和夫	つばと裸婦	哀歌	馬を呼ぶ子供	私と静物	水たまり	橋はたつた一つ	テラスC A B	海赤穴桂子	フネ堀越政寺	春車場	駐車場	秋工場	油工場	人静物	静物	裸婦	白いはだか
------	------	--------	--------	------	-----	-----	-----	----------	--------	---------	----------	-------	----	--------	------	------	---------	----------	-------	--------	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	-------

三詩人桑田道夫	作品大島吾郎	森の中大山英夫	杜の土居邦	静物2荒井茂雄	静物1荒井茂雄	魚と遊ぶ子供	ぬいぼ	お月さん野中曜子	ミシンの触感小山タロ	静物後藤歌子	暮色加治屋陸	四ツ山風景	海浜の詩	市場の女達	家品竹谷富士雄	作品前江戸健	絵画以前江戸健	窓辺の片岡美代子	はりもの瀬島好正	ミシンの屋	作品鎌田正藏	婦人像	子内達	室人像	街人像	橋人像	裸婦二	裸婦と街	窓によせる歌
---------	--------	---------	-------	---------	---------	--------	-----	----------	------------	--------	--------	-------	------	-------	---------	--------	---------	----------	----------	-------	--------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	--------

牛静物	魚のある静物	風太郎植竹邦良	良き友ら長坂やす子	キャンブ地田中弘毅	裸婦加藤孝	黒い風景大江孝	家風	港の人々小関利雄	S市の風景	魔市の人々	河岸鈴木房子	宮島	回廊	陽明門	寮ブルターニュの角	とおり雨	子供と舟	二供	子供	子供	負傷有安隆	夜の鐘	郷愁	踊り	雨後の街	壊れた自動車	立てる女	手を組み合わせ
-----	--------	---------	-----------	-----------	-------	---------	----	----------	-------	-------	--------	----	----	-----	-----------	------	------	----	----	----	-------	-----	----	----	------	--------	------	---------

風景	マス	コンボジョン	夜の静物	森に立つ裸女	人	少女と猫の肺臓	ラ・ビエール	貝と魚	人	一	月	湖	工事	海藻を運ぶ人	藤椅子の女	二	牛	午	歌う子供達	雌	孤人	滯人	樹	並	低石のある静物	海邊の休息	腰かけた女
----	----	--------	------	--------	---	---------	--------	-----	---	---	---	---	----	--------	-------	---	---	---	-------	---	----	----	---	---	---------	-------	-------



聖子像 西村昭二郎  
母子像 橋本誠吉  
カンナと海平岩郁郎

真昼の坂大幸宣元  
自画像小松暢子  
三つの船加藤正

秋盛白  
り  
場  
野々山省吾  
久保田秀爾

舟工場 加藤惠太郎  
窓 梅村宗徹

新 靜 二  
川  
堰 物 人  
白 々 石  
藤 本  
是 正

ビルの窓吉川啓示  
タ焼河部貞夫

笛 或る 草の 郊外 上村園子

山門川上三郎  
黒潮に住む渡邊 翠  
鳥のオリーブ園 岸本聖四郎

風 景 中 野 弘 齋

板のある風景 平川敏夫  
壺と少女  
鶏  
城 貞里

不	森	大
安	中	日
蔣	井	里
池	浩	大
武	一	力

六甲ノ山。澤宏  
老婦座像。片岡彦次郎  
仔山。羊小谷久子

みちのくの鋤山 成田伸彦  
一〇七



ラ・パンセ	柳原義達	わだつみのこえ	本郷新	アカンサス	舟越保武	ドクターK氏	早川巍一郎	青	山本格二	作品	H	後藤光行	石頭	試作	永田大石	浮遊	試作A	山内壯夫	ク	(試作B)	裸	婦	二口雪子	K	嬢	濱岡登美子	C	子	K	さん	二口雪子	習	作	婦	岡本庄三	首	久保孝雄	彫刻家	N	農	H	高井四郎	幼	児	習	作	女の首	嘉野稔	習	作	男の首	(建築部)	食卓と小椅子	吉村順三	グレセツト記念	講堂(関東学院)	山口文象	三春台講堂)	高橋周桑の住居	とアトリエ	リビングルーム	所	建築総合研究所	セツト	子供室セツト	山口文象	植田一豊	森田良夫
-------	------	---------	-----	-------	------	--------	-------	---	------	----	---	------	----	----	------	----	-----	------	---	-------	---	---	------	---	---	-------	---	---	---	----	------	---	---	---	------	---	------	-----	---	---	---	------	---	---	---	---	-----	-----	---	---	-----	-------	--------	------	---------	----------	------	--------	---------	-------	---------	---	---------	-----	--------	------	------	------

ローコストハウ 建築総合研究  
 実験第一号実物。山口文象  
 ス第二号 植田一豊  
 O博士邸 三輪正弘  
 新茶室。谷口吉郎  
 慶義塾普通部  
 二戸建鉄筋コン  
 クリート住宅 池邊 陽  
 N市共同商店街  
 寝 椅子。猪熊弦一郎  
 第8回CIAM 丹下健三  
 出品広島計画  
 広島平和会館の  
 内記念陳列館と  
 慰霊碑  
 レストラン(日  
 比谷公園内) 岡田哲郎  
 PHOTOGRAPHIC  
 STUDIO 毛利武信  
 RESIDENCE FOR MR.&  
 MRS. LEONARD  
 BRUCE GOLF  
 家具(チーマ・マ  
 ル)Aテーブル  
 Bスツール二脚 渡邊壽美子  
 組合せ洋服タン  
 ス 松村勝男  
 小 イ ス 渡邊 力  
 ス ト ウール 渡邊 優  
 画廊 共同製作 森野正清  
 産業会館ビルデ  
 イング 小川 正

大阪・松坂屋 23—28 日本  
 齋藤清版画展 橋・三越  
 イサム・ノグチ展 23—10月26  
 鎌倉・近代美術館(批)夕毎  
 日4(徳大寺公英)、夕説売15  
 (瀧口修造)、東京11月4、  
 5、6(林房雄)、墨美19(須  
 田勉太、長谷川三郎)  
 日本山岳画協会展 23—28 日  
 本橋・三越  
 入江泰吉写真展 23—28 日本  
 橋・三越  
 青龍社展 23—28 名古屋・松  
 坂屋  
 魯山人雅陶展 23—28 大阪・  
 高島屋  
 三砂良哉漆藝展 23—28 大阪  
 ・阪急  
 全日本民藝品展 23—28 京都  
 ・大丸  
 重陽会展 24—28 日本橋・高  
 島屋  
 3回春陽会日本画展 24—28  
 日本橋・高島屋  
 松島正人個展 25—29 資生堂  
 (批)美術批評11月(江川和彦)  
 西山眞一個展 26—30 光風会  
 館  
 1回中央美術協会展 26—30  
 日本橋・白木屋  
 和田三造新作日本画展 27—10

月2 大阪・三越  
 新興美術秋季小品展 29—10月  
 4 日本橋・丸善  
 向井潤吉個展(民家を主として  
 の第三集展) 30—10月4 資  
 生堂  
 眞下慶治個展 30—10月5 酒  
 田・本間美術館  
 水野修造個展 30—10月1 大  
 阪・阪急  
 田中墨外公画展 30—10月5  
 日本橋・三越  
 一〇月  
 北斗会展 1—8 上野・松坂  
 屋  
 陶山完義個展 1—10 タケミ  
 ヤ  
 ルノアル複製展 1—15 光  
 風会館  
 第二紀会小品展 1—5 きや  
 んどろ  
 浮世絵大展覽会 1—26 京都  
 市立美術館  
 仏教美術展 1—20 名古屋・  
 徳川美術館  
 魯山人作陶研究二五年紀念展  
 2—5 日本橋・高島屋  
 中国殷・周・戦国時代銅器特陳  
 3—25 根津美術館  
 1回双主会展 3—7 日本橋  
 ・白木屋

國松登個展 3—9 フォルム  
 国立博物館創設八〇周年記念名  
 品展 3—11月5 国立博物館  
 7回行動美術展 3—12 大阪  
 市立美術館  
 2回セモブ展 3—8 京都・  
 丸善  
 生活の歴史展 3—11月5 国  
 立博物館  
 37回二科展 4—16 京都・丸  
 物  
 原始美術展 5—11月9 大阪  
 市立美術館  
 3回権会油絵展 6—11 資生  
 堂(批)東京11(岡本謙次郎)  
 朝倉綱・村尾絢子二人展 日本  
 橋・丸善(批)東京11(岡本  
 謙次郎)  
 中川一政新作展 7—12 大阪  
 ・高島屋  
 青龍社展 7—12 京都・大丸  
 春陽会秋季展 8—12 日本橋  
 ・高島屋(批)東京11(岡  
 本謙次郎)  
 河井寛次郎新作陶磁器展 8—  
 12 日本橋・高島屋  
 田邊三重松洋画個展 8—23  
 大阪・三越  
 6回第二紀会展 8—26 都美  
 術館(受賞)(絵画)新同  
 人・森本健二、崎元八十八、  
 堀江萬壽男、國松伽耶、中西

絹子、加藤秋夫、中谷ミユキ、  
 小島眞佐吉 佳作賞—小島  
 謙、小林研三、進藤信一 褒賞  
 —川上義男、結田信、中原四十  
 二、中島敏男 奨励賞—普勝  
 信夫、田中恒夫、赤地清一、  
 西尾武雄、鈴木博 同人優賞  
 —兒玉幸雄 同人努力賞—藤  
 田禮、中西勝、岡田登志男、  
 萩森久朗、戸島幸雄、岩月虎  
 雄(彫刻) 新同人—瀧川英  
 一、眞鍋忠 褒賞—齋藤聖香、  
 藤島茂(批)夕毎日13(徳大  
 寺公英)、朝日15(植村鷹千  
 代)、東京16、17(合評—中川  
 紀元、大久保泰、田近憲三)、  
 日経19(福島繁太郎)、夕説売  
 23(瀧口修造)、美術批評11月  
 (柳亮)、美術手帖12月(対談  
 —富永憲一、徳大寺公英)、  
 アトリエ12月(合評—阿部展  
 也、田中忠雄、徳大寺公英、  
 みづゑ12月(徳大寺公英)  
 出品目録  
 ○印同人  
 ランプのある A 河津嘉三  
 静物 品。高階重紀  
 作 バルコニーのあ 崎元八十八  
 卓上のひまわり シ  
 レモンと黄い服 シ  
 の女  
 夏の 静物 細井 孝

白	工	場	高橋健太郎
秋	品	近藤延治	
作	人	楢原祥太郎	
唱	う	残	
残	存	G A O G A O	中西勝
去	来	マンゴロブと	近藤嘉男
盗	み	鏡	
不	和	島と戦	
伝	説	古賀	肇
夜	の	ロンゲ	
撞	球	佐々木	孔
板	ガラス	店	
ガ	ラス	器	B
と	り	魚の静物	
ラン	プ	など	
魚	と	花	
野	菜	か	
水	族	館	
裸	婦	B	
ス	A	普勝	信夫
ス	A	鈴木	猛人
ス	A	Harbour	
ス	A	Theatre	
ス	A	Green-Room	
賭	島	岡	實
黒	鳥		
昇	天		
退	屈		

ラ	グ	タイ	ム	中	川	タ	マ	オ
雲	居	余	所	熱	尾	艶	男	
燈	下	食	卓	タ				
自	画像	(かまき)	戸	田	信	孝		
黒	い	上	衣	兒	玉	幸	雄	
画	室	の	親	子	タ			
働	く	家	族	タ				
南	街	の	夜	中	原	四	十	二
朝	の	七	ッ	森	タ			
土	瓶	な	ど	國	松	伽	耶	
雞	の	ある	静	物	タ			
画	室	タ						
漁	あ	おい	建	物	川	上	杉	一
植	物	園	A					
黄	色	の	建	物	瀬	尾	暹	
白	い	建	物	タ				
み	ど	り	の	森	結	田	信	
室	の	峰	彫	刻	中	川	為	延
雲	の	峰	彫	刻	中	川	為	延
鷹	(シ)	松	村	外	次	郎		
コ	ダ	マ	(シ)	タ				
彫	刻	と	絵	画	の	区	分	に
手	影	刻	と	絵	画	の	区	分
雞	だ	み	花	タ				
毒	二	秋	森	久	朗			
海	二	秋	森	久	朗			
裸	一	秋	森	久	朗			
織	婦	向	井	俊	平			
織	婦	坂	宗	一				
コ	ン	ス	ト	ラ	(赤)	山	口	操
ク	シ	ヨ	ン					

ク	ン	ス	ト	ラ	(黄)	山	口	操	助
二	つ	の	彫	刻	鳥	取	敏		
無	湖	畔	秋	保	正	三			
お	ん	作	タ						
試	膳	井	上	虎	雄				
食	上	の	カ	ニ	堤	正	人		
卓	上	の	カ	ニ	堤	正	人		
サ	ツ	チ	ヤ	家	の	人	濱	田	信
タ	ハ	ル	ビ	ン					
シ	ロ	チ	ン	カ	と	古	タ		
本	屋								
川	添	の	ビ	ル	石	腸	悦	三	
三	人				鈴	木	博		
四	人				小	川	智		
IN	RI	(A)	皿	中	谷	ミ	ユ	キ	
黄	い	畑	大	宮	弘				
夏	黒	の	コ	ス	チ	ユ	千	葉	七
黒	の	コ	ス	チ	ユ	千	葉	七	郎
花	裸	(A)	森	村	恒	男	英		
秋	裸	(B)	森	村	恒	男	英		
白	い	船	の	い	る	河	小	島	眞
岸	の	倉	庫				小	島	眞
河	岸	の	倉	庫			小	島	眞
果	物	の	あ	る	風	景	松	村	三
三	人						松	村	三
二	人						松	村	三
群	像	早	川	文	彦				
画	室	に	て	松	岡	寛	一		
二	人								
静	物	中	野	信	良				

行	品	A	白	銀	功				
裸	婦	二	薮	野	正	雄			
三	三	三							
海	女	宮	永	岳	彦				
い	け	ば	な	展	タ				
虚	無	の	花	束	伊	東	市	太	郎
女	と	犬	(彫	刻)	八	柳	恭	次	
少	女	(シ)	丹	羽	康	晴			
女	の	首	(シ)	眞	鍋	忠			
青	年	S	君	(シ)	眞	鍋	忠		
サ	ロ	メ	(シ)	瀧	川	美	一		
女	兒	像	北	川	薰				
牛	君	中	村	竹	雄				
S	君	澤	田	隆	志				
菊	梯	山	正	宗	得	三	郎		
姉	梯	山	正	宗	得	三	郎		
大	平	峠	の	若	葉	タ			
小	野	川	湖	と	盤	梯	タ		
大	平	峠	の	藤	タ				
卓	上	静	物	上	野	民	夫		
果	物	水	清	公	子				
グ	ラ	デ	オ	ラ	ス				
岸	ヨ	ット	の	あ	る	海	鍋	井	克
港	の	夜	の	雨	タ				
食	器	と	西	瓜	タ				
初	秋	の	窓	タ					
燈	下	静	物	タ					

海	辺	原	勝	四	郎				
樹	蔭	タ							
海	岸	風	景	タ					
友	の	像	中	川	紀	元			
春	浅	し	黒	田	重	太	郎		
で	ざ	あ	と	タ					
薔	水	石	組	タ					
枯	山	水	石	組	タ				
裸	女	習	作	タ					
窓	際	ら	松	田	豊				
紫	陽	花	藤	本	か	を	り		
露	草	タ							
ク	ロ	ワ	ー	トル	大	兼	實		
ブ	ル	タ	ニ	ユ	タ				
ビ	ス	ト	ロ	タ					
古	い	街	(サ	ルト)	タ				
金	母	さん	兼	行	紀	子			
お	母	さん	兼	行	紀	子			
競	輪	場	加	藤	た	か	子		
池	と	静	物	タ					
車	エ	ビ	な	ど	横	井	禮	市	
バ	ニ	タ							
満	ハ	ニ	ワ	タ					
赤	柄	の	バ	ラ	ソ	ル	兒	玉	さ
み	ぎ	わ	渡	邊	ヨ	シ			
赤	い	屋	根	の	土	蔵	佐	々	木
ア	ン	チ	ー	ブ	・	テ	佐	伯	米
ラ	ス						子		
バ	リ	二	十	区	タ				
ケ	ル	メ	ス	祭	の	前	タ		
夜	山	の	ホ	テ	ル	A	タ		



ガチエル村(ニス)	スイスの村	山のホテル	森動物園(A)	虫	室内	街	人	花	卓上	煙製のある静物	少	街	雨	冬	裸	西	農	岬	たそがれの街	画家とモデル	家	東京という舞台	室	静
佐伯米子	村	B	小林研三		内	A	A	A	物上	女時岡恵委子	裏峰岸義一	後	日の	狐人と山水	婦坪内正	築港	農村夕景	朝山本秀臣	市野長之介	族	宮川仁	内中野安治郎	物	
		船栗原信			島田静子	曾我芳子	物庄司道子	物上西良一								加藤秋夫	中島秀夫							

窓	夏	白	コドモ	A	B	C	影	髪	蘇	夕	村	海	静	夜	団	宇	能	ど	裸	窓	造	陶	雨	キ	乗	跨	開	水	風	朝
の午後	い工場	ドモ(彫刻)	(タ)	(タ)	(タ)	(タ)	(タ)	鉄	ぐれ	の祭典	の祭典	の祭典	の店	の店	治	治	ん	婦底	(大浦天守堂)	園術	器工場	のはれ間	キャンブ村	鞍の大雪	線	ミーズの女	辺(堀川)	景(箱根)	の工場	
際中野安治郎	高橋健太郎	齋藤聖香	菅沼五郎	知部真千	秋山英美	小西一	瀧とも子	伊藤泰造	山本末雄	木下淳子	久野隆作	鎮西忠行	品川祐治郎	林健造	中島敏男	吉田富士夫	岡澤虎二郎	井上安男	堀江萬壽男	竹内静子	西尾武雄	吉田茂嘉								

朝の噴水 山田一雄	三芳園主人像 々々	晩夏風景 タ	作品A 住吉良康	四山人 細川弘司	枯蓮 山田首	夜の停車場 伊藤幸二	黄色い扇子のある静物 平岩夏子	夕暮村重勝人 兌	白道齋藤静枝 一	木辺有田徳一 事	水佐藤初榮 一	湖風景 井野秀一	メカニツクC 西村眞治	聖堂長尾純 博	静物眞鍋 純	静物豊川和子 治	床の間の椅子 鈴木健治	鬼怒川風景 江蓮正	目黒風景 水上敬司	選炭婦 平林明友	ガラス器のある静物 片岡誓	早春新宮豊三 明	静物吉田正明 夫	家の見える風景 橋本純夫	稽古場 細川長三郎	静物小山一二 子	静物小林陽子 之	作品竹添信之 博	静物河端博 博
--------------	--------------	-----------	-------------	-------------	-----------	---------------	--------------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	----------------	------------	-----------	-------------	----------------	--------------	--------------	-------------	------------------	-------------	-------------	-----------------	--------------	-------------	-------------	-------------	------------

[illegible]

天使魚	津田周平	Bread of Life	白バラの咲く庭	嘉藤昭三	風景(A)	管久	収獲	伊藤八郎	竿さす人	黒澤三郎	港の貝	黒い花瓶と貝	赤いテーブルの飾物	風景	苗村武雄	弱者	内村九郎	海辺の家族	室内	遠山陽子	静物	少女	藤島茂	女(彫刻)	八柳五兵衛	エチユウド(3)	小野寺峰	ラフ(2)	水野善吉	N子の首(2)	田淵勝章	裸婦(2)	田中松慶	婦人像(2)	小溝二郎	丘の人々	浅井博司	水面町の子供	とまり船(1)	神保俊子	姉妹(2)	石川欣也	子供たち	小林正六	花	尾崎寛道
-----	------	---------------	---------	------	-------	----	----	------	------	------	-----	--------	-----------	----	------	----	------	-------	----	------	----	----	-----	-------	-------	----------	------	-------	------	---------	------	-------	------	--------	------	------	------	--------	---------	------	-------	------	------	------	---	------



[illegible]

藥屋の踊子。上原綾子  
 勝浦 久本初太郎  
 湖 畔。丸樹長三郎  
 山 湖  
 ウィンド 安藤五郎  
 自由美術九人展 9—14 上  
 野・松坂屋  
 山喜多二郎太水墨展 9—14  
 日本橋・三越  
 20回独立展 9—26 都美術館  
 [受賞] 新会員—松崎眞一、  
 吉川清 新準会員—西田藤次  
 郎、織田彩子、櫻井濱江 独  
 立賞—池田林一、安田謙、若  
 林和夫 新人賞—小原稔、西  
 田哲郎、吉田俊雄 桜新人賞  
 —坂上菜治  
 [批] 夕毎日13(徳大寺公英)、  
 朝日15(植村騰千代)、東京  
 16、17(合評—中川紀元、大  
 久保泰、田近憲三)、日経19  
 (福島繁太郎)、夕読光23(瀧  
 口修造)、美術批評11月(植村  
 騰千代)、美術手帖12月(対談  
 —富永惣一、徳大寺公英、ア  
 トリエ12月(合評—阿部展也、  
 田中忠雄、徳大寺公英、みづ  
 る12月(徳大寺公英))  
 出品目録  
 ○印会員、△印準会員  
 静 物 富士本 昇  
 二人のアダム△松崎眞一  
 メトセラシ

美術展覧会(10月)

海	群	聖	串	造	農	供	ス	秋	石	静	聖	曲	樹	倉	ひ	山	樹	畑	飯	静	月	ア	八	窓	魚	工	静	盆	室	
辺	像	堂	風	所	具	ケ	ケ	炭	炭	物	衆	馬	間	庫	ま	麓	間	倉	倉	物	物	リ	月	外	市	房	物	内	赤	
空	岩	飯	景	風	下	木	高	高	高	佐	吉	芝	井	上	廣	瀨	上	井	井	鳥	海	中	鈴	鈴	安	水	伊	伊	星	
野	間	田	鐵	指	川	下	崎	崎	崎	藤	川	田	上	上	通	通	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	
末	正	實	藏	藏	郎	郎	文	文	文	朗	清	耕	信	秀	秀	秀	信	信	信	信	信	信	信	信	信	信	信	信	信	
人	男	雄	藏	藏	郎	郎	文	文	文	朗	清	耕	信	秀	秀	秀	信	信	信	信	信	信	信	信	信	信	信	信	信	
静	屠	公	静	屠	川	物	曼	街	風	大	正	浜	沈	工	風	道	馬	壩	壩	壩	壩	壩	壩	壩	壩	壩	壩	壩	壩	
物	景	堂	物	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	景	
木	山	横	木	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	
村	村	田	村	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	
立	立	三	立	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
三	三	喜	三	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	
静	待	う	伊	寿	昭	春	静	ダ	裸	ひ	木	静	花	あ	風	少	花	東	壱	壱	コ	夜	煙	木	子	魚	御	兄	ウ	
物	合	す	香	美	和	雪	物	リ	リ	ま	の	物	物	ぢ	ぢ	女	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	
(花)	室	日	保	子	新	風	物	ヤ	婦	ま	実	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	
大	高	高	春	房	山	景	伴	吉	近	ま	と	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	
同	橋	橋	登	熊	岡	岡	勝	安	藤	ま	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	
弘	弘	弘	久	登	部	部	文	弘	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	
弘	二	二	平	平	之	之	之	子	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
寒	崎	飛	静	枯	お	ズ	マ	お	た	休	チ	海	風	工	竹	望	静	二	夕	静	し	初	ア	風	台	花	夫	市	上	
村	風	田	附	れた	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	
景	景	近	物	花	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	モ	
山	江	九	齋	入	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	
本	一	谷	藤	江	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	
鐵	子	次	準	一	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	
男	郎	郎	郎	郎	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	

鉄塔のある風景	岡田宏美	人	物	櫻井濱江	小	菊	樋口加六	女	伊東郁三郎	静	物	加來保
静	藤岡一	ダリヤの花	織田彩子	静	物	大沼亮之助	流	れ	赤堀佐兵	静	物	下良範
根府川	原	ガラス器と果物	芝田米三	風	人	内島淑行	静	物	宮崎精一	業	物	宮崎精一
千石原	高	夏	中德次	池	の	蓮山田康雄	多	摩	陵	戒	池	四宮禮吉
新橋	河	暮れる漁港	山井静江	雨後の船着場	物	坂本康男	河	風	童	山と工場	池	西條茂
新橋	風	煙	高井静江	窓の	花	穴見清	干	風	潮	静	石	濱田重雄
青	い	静	西村伊勢松	都会の	景	宮崎美明	搾	乳	山道榮助	雲	静	猪股勇
農	家	静	後藤快依	日	向	葵林口悦子	酒	庫	田中憲一	鏡	卓	江田幸子
白	い	静	若林和夫	浜	の	家	赤	い	家	風	鏡	石橋幸子
女	優	あぢさいの花	河村春	潮	の	岬	勤	く	人	海	桜	影
三	つ	南紀の	明石最	静	しだ	と	人	と	馬	海	桜	影
横	浜	静	米原二	鶴	だ	と	鶴	と	馬	海	桜	影
落	合	漁	米原二	鴨	の	秋	の	と	馬	海	桜	影
公	会	サ	田中密	標	上	静	牛	と	子	魚	河	静
木	都	岩	渡邊修	高	原	島善三郎	子	と	子	魚	河	静
女	二	長	三瓶昭藏	百	合	島善三郎	子	と	子	魚	河	静
二	の	横	大坂三千司	浅	間	山	子	と	子	魚	河	静
魚	の	蝶	佐野久	八	ッ	岳	子	と	子	魚	河	静
静	の	阿	中安徹	浅	間	山	子	と	子	魚	河	静
有	楽	街	岡部繁夫	夜	の	物	子	と	子	魚	河	静
裏	街	住	三村行雄	夜	の	物	子	と	子	魚	河	静
裸	土	堀	三村行雄	夜	の	物	子	と	子	魚	河	静
作	品	織	佐田憲一郎	夜	の	物	子	と	子	魚	河	静
裸	品	織	佐田憲一郎	夜	の	物	子	と	子	魚	河	静
タ	カ	と	猪間二	春	の	雪	大	通	店	風	景	三浦洋一
消	風	像	櫻井濱江	二	の	雪	大	通	店	風	景	三浦洋一



風	静	港	初	浅	さ	初	魚	人	白	水	海	静	風	壺	馬	池	姉	風	静	風	花	静	郊	建	海	日	水	崖	小	物	古
山	街	街	間	間	な	夏	夜	人	桃	門	岸	物	景	市	市	妹	景	物	景	景	物	物	秋	物	作	曜	蓮	四	西	大	菅
福	中	川	山	岩	松	花	大	米	佐	吉	齊	高	山	三	大	平	山	高	今	杉	岡	香	西	工	佐	梶	四	西	大	菅	
山	村	越	淵	淵	原	市	泉	山	藤	平	藤	木	田	上	石	井	本	岡	村	崎	本	川	山	藤	木	梶	四	西	大	菅	
登	弘	誠	丈	徹	久	村	い	信	洋	明	洲	幸	貞	隆	和	忠	正	陸	安	正	孝	康	孝	一	一	三	長	良	野	原	

露	街	奈	朝	花	裏	愛	夜	昼	日	樹	景	花	マ	長	門	雪	秋	風	早	静	立	ガ	黒	物	枯	赤	母	街	堀
天	(	良	朝	花	町	夜	夜	暮	暮	間	景	花	リ	崎	司	の	の	の	春	物	女	ド	い	枯	花	い	子	と	割
街	駅前	良	朝	花	町	夜	夜	暮	暮	間	景	花	リ	崎	司	の	の	の	春	物	女	ド	い	枯	花	い	子	と	割
今	久	保	大	佐	青	荒	加	河	小	谷	高	須	矢	崎	小	大	藤	倉	小	宇	根	福	木	村	西	岸	松	鈴	
井	保	晃	垣	藤	木	井	藤	口	田	島	須	崎	崎	串	内	川	田	田	橋	根	富	村	木	西	岸	松	鈴		
憲	一		泰	ゆ	四	勝	陽	淳	正	由	子	廣	世	の	九	三	郎	平	平	元	榮	健	村	西	岸	松	鈴		

月	海	山	習	厨	札	夏	海	稲	牛	静	静	庭	花	静	田	静	初	犬	隅	日	群	風	母	母	染	朝	檻	尾	大	南	露	
夜	山	辺	所	作	花	通	辺	市	物	物	樹	藤	木	浅	大	物	容	岩	川	傘	像	景	子	新	場	の	海	道	宰	田	天	
山	田	堀	水	菊	宮	砂	市	久	吉	原	湯	吉	木	田	坪	物	容	岩	川	傘	像	景	子	新	場	の	海	道	宰	田	天	
二	榮	内	原	地	城	田	保	保	島	直	浅	田	村	欣	ひ	武	三	水	水	佳	一	三	枝	大	二	妙	公	勝	山	平	佐	
	二	誠	次	忠	輝	友	一	雄	昭	種	一	照	武	三	三	男	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

稲	海	岩	F	A	横	海	裸	橋	馬	扇	スト	街	志	鹿	仏	土	露	谷	海	花	静	風	北	工	唐	花	花	魚	桐
取	辺	と	子	子	顔	女	女	風	風	風	と	景	物	船	殿	平	石	間	景	物	内	景	街	工	津	と	女	実	
港	丘	波	像	像	林	武	口	野	坂	古	藏	小	杉	鈴	南	田	崎	崎	斑	内	萩	吉	工	津	と	女	実		
八	八	小	林	林	武	口	野	坂	古	藏	小	杉	鈴	南	田	崎	崎	斑	内	萩	吉	工	津	と	女	実			
木	木	林	林	林	武	口	野	坂	古	藏	小	杉	鈴	南	田	崎	崎	斑	内	萩	吉	工	津	と	女	実			
昌	昌	和	和	和	武	口	野	坂	古	藏	小	杉	鈴	南	田	崎	崎	斑	内	萩	吉	工	津	と	女	実			
一	一	作	作	作	武	口	野	坂	古	藏	小	杉	鈴	南	田	崎	崎	斑	内	萩	吉	工	津	と	女	実			

静	る	マ	グ	人	画	倉	水	錦	島	港	鯉	カ	鍬	静	悪	風	新	腰	か	道	八	人	男	黒	漁	子	町	動
物	静	ン	アイ	人	画	倉	水	錦	島	港	鯉	カ	鍬	静	悪	風	新	腰	か	道	八	人	男	黒	漁	子	町	動
小	物	ン	アイ	人	画	倉	水	錦	島	港	鯉	カ	鍬	静	悪	風	新	腰	か	道	八	人	男	黒	漁	子	町	動
林	物	ン	アイ	人	画	倉	水	錦	島	港	鯉	カ	鍬	静	悪	風	新	腰	か	道	八	人	男	黒	漁	子	町	動
信	物	ン	アイ	人	画	倉	水	錦	島	港	鯉	カ	鍬	静	悪	風	新	腰	か	道	八	人	男	黒	漁	子	町	動
子	物	ン	アイ	人	画	倉	水	錦	島	港	鯉	カ	鍬	静	悪	風	新	腰	か	道	八	人	男	黒	漁	子	町	動



静	風	石	婦	坂	水	母	河	静	炊	教	風	ダ	裸	青	裸	少	あ	静	か	小	さ	日	夏	丘	裸	青	窓	き	静	喫	月	正
物	景	像	像	道	像	像	像	物	場	会	景	ヤ	婦	衣	猫	女	い	物	い	ま	ま	向	丘	女	女	女	物	物	物	店	子	山
古	菊	小	倉	田	東	鎌	内	浮	木	上	佐	長	坂	タ	大	久	藏	秋	秋	藤	藤	丘	岡	岡	島	島	江	江	藤	伊	川	
賀	敏	島	澤	中	儀	田	公	島	村	野	野	谷	井	久	保	田	田	田	三	求	求	求	芳	芳	三	三	三	三	三	三	三	
猛	雄	三	夫	瀾	一	子	雄	行	茂	朗	賢	子	雄	泰	亨	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	

A	B	ホ	仕	石	砂	上	少	長	け	裸	風	窓	園	裸	黒	港	月	貯	婦	裸	静	箱	笛	御	二	画	静				
ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ
ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ
ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ

裸	運	店	つ	丘	朝	春	日	雨	札	山	漁	S	ア	婦	夜	中	屋	ラン	漁	橋	F	橋	収	風	雪	野	王	静	浦	憩	猫	C
河	吉	永	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松
河	吉	永	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松
河	吉	永	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松

母	風	黄	返	宇	工	漁	向	静	丘	風	桜	笛	椅子	水	子	海	海	津	木	16	術	公	朝	福	口	島	富	ト	田	玄	
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子

コン	波	ブ	つ	浮	花	眠	デ	人	裸	壺	湖	リ	裸	湧	運	道	念	立	芽	青	風	二	磔	い	一	デ	会	
ボ	の	リ	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な
ボ	の	リ	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	
ボ	の	リ	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	な	

魚	はりつ	幻	壺	漁	トールソ	海	結友	夜	裸婦	K嬢	一夜	屠	肉	朝	夕	山	片	島	裸婦	はじまり	住	実	花	工	母	子	サザレ	捕	街
達	影	影	井上長三郎	清希卓	田中健三	新田實孝	(彫刻)	抄	明	殺	曲鬼頭曄	清水七太郎	隅中山一郎	仲村俊夫	B	鶴岡政男	居藤澤友一	実	場	A	B	山中豊喜	小林良曹	難波田龍起					

黒い屍	富成忠夫
曲り道のある風	池田 榮
海	(A) 川合喜二郎
街	(B) 藤間 清
出発	三井滋夫
食卓	上原二郎
いたましい友達	長野誠之助
五つ目の机産	小谷博貞
雑木林・冬秋	佐藤美代子
静物	山口英哉
母	岡田岡因
おめ	西村保史郎
坐像	末松正樹
大都会	地と天
三里	人
杜	今井繁三郎
海辺	寺田球一
風景	吉本時昌
虫歯	小野忠弘
いかる虫歯	
マリオネット	
真夜中	竹中三郎
イブ作らる	糸園和三郎
黎明と黄昏	渡力敷唯信
双生児	
鳩	

神谷信子個展	橋・白木屋	1回白鳥会展	川・海晏寺	素仙洞絵画展示会
11—20	11—15	11—15	11—12	11—12
タケミ	日本	日本	品	品

浮世絵と印象派・新発見の浮世  
絵特別陳列 14—19 ブリヂ

春陽四人展	15—19	日本橋・高島屋	1回点滴会絵画展	20—25	大
ING展	15—20	日本橋・丸善	阪・淀屋町廊	20—25	大
正倉院展	15—28	奈良国立博物館	三木巖絵画展	20—25	大
中川一政新作展	15—19	岡	阪・堂島町廊	20—25	大
山・金剛荘	15—21	名古屋・松坂屋	1回浮世絵展	20—11月10	茨
新制作展	15—21	名古屋・松坂屋	城東立美術館	20—11月10	茨
梶会新作展	15—22	大阪・丸善	街頭美術展(野外展)	20—11月10	茨
行動美術展	15—26	京都市立美術館	池袋駅東口広場	20—11月10	茨
中国古陶展	15—11月30	京都国立博物館	降旗俊三郎水墨画展	21—25	大
高台寺詩絵と桃山染織展	15—11月20	京都国立博物館	壺中居	21—25	大
光風会工藝展	16—23	光風会館	川端實個展	21—31	タケミヤ
北原千鹿遺作展	16—26	高松美術館	川口軌外個展	21—25	資生堂
美術館	17—22	大阪・高島屋	〔批〕美術批評12月(瀧口修造、アトリエ12月(合評)阿部展也、田中忠雄、徳大寺公英)	21—25	資生堂
河内山賢祐彫刻小品展	17—22	日本橋・白木屋	北斗会展	21—26	名古屋・松坂屋
2回熊倉順吉陶器展	17—23	フオルム	坂屋	21—26	名古屋・松坂屋
三岸節子油絵近作個展	20—26	丸屋画廊	24回青龍社展	21—26	大阪・大丸
早大七〇周年記念展	20—11月	早大演劇博物館	青龍社々々人小品展	21—26	大
15 早大演劇博物館	20—11月	早大演劇博物館	阪・大丸	21—26	大
			13回半弓会洋画展	21—30	大
			阪・阪急	21—30	大
			二科関西会員小品展	21—25	大
			大阪・高島屋	21—25	大
			柏原覺太郎個展	21—25	大
			阪・梅田画廊	21—25	大
			米原二郎・渡邊修・江川平三三人展	21—26	大阪・阪急
			京都新国宝展	21—11月15	京都国立博物館
			清水一家三人展	22—26	日本橋・高島屋
			3回創藝協会展	22—27	日比谷画廊
			西山眞一・柳瀬俊雄合同展	23—26	光風会館
			N・Y塾油絵展	24—26	光風会館
			小川千穂絵画展	24—26	岡
			山・金剛荘	24—29	大阪・そごう
			4回デモクラート展	24—29	大阪・そごう
			奈良一刀彫展	25—30	大阪・三越
			3回日向裕油絵展	25—31	フオルム
			清和会古美術展観	26	京都・相国寺
			岩田工藝ガラス新作発表会	26	日本橋・高島屋
			2回北岡文雄創作版画個展	27—30	資生堂
			石塚三郎個展	27—31	光風会館
			會津八一書入陶器展	27—31	壺中居
			五都連合展	27—29	東京美術倶楽部
			5回紫潮会展	27—11月1	大阪・美交社
			石川宣假個展	27—11月1	日本橋・丸善
			清瓊会日本画展	28—11月2	日本橋・三越
			山口矩子個展	28—11月1	サエグサ
			河井達海油絵展	28—11月2	大阪・大丸
			福島金一郎小品展	28—11月3	大阪・阪急
			青木大乗個展	28—11月2	大阪・高島屋
			37回二科展	28—11月16	大阪市立美術館
			24回青龍社展	28—11月2	神戸・大丸
			8回日展	29—12月1	都美術館
			〔批〕東京タイムズ4(田近憲三)、産経4(柳亮)、日経5(福島繁太郎)、夕毎日7(徳大寺公英)、東京7(久富實)、朝日8(河北倫明、植村鷹千代)、東京8(隈元謙次郎、柳原義達)、朝日11(植村鷹千代)、朝日12(岡田譲)、日経12(鈴木進)、毎日13(鈴木進)、東京タイムズ14、日本婦人新聞24(田中一松、柳田伊秀、隈元謙次郎)、読売29(瀧口修造)		

は	つ	夏永井繁男	室	内	(特)堂本元次
山	下	徑竹内一起	燈	下	(依)伊東萬耀
馬車	のゆく風景	棚田泰生	池畔に立つ	(特)白寿賞	大山忠作
群棲	(特)白寿賞	麻田辨次	採	集	(依)岩淵芳華
寂	燈	(特)澁谷江津	室	像	(無)野島青枝
室	戸	(依)奥田元宋	白	蓮	鈴木由太郎
室	内	(依)高山辰雄	清	崎	風景伊藤弘
芦	沢	新秋遠藤桑珠	仏伝降魔ニ依ル人間群像	(白寿賞)	中谷光炎
蒼	苑	(特)尾山	森	に沿う	道三尾雄治
水	影	望月定夫	緑	影	有元一雄
カ	ン	ナ都路華明	高	原	池塘間宮正
鉄塔	相伝	(依)江崎孝坪			



砂丘 關主税  
八ヶ岳 河合勉二  
西芳寺林泉 黒光茂樹  
維司ヶ谷風景 佐藤園夫  
戸隠 山田申吾  
公園の花店 永山富士太郎  
谷川 倉光 博  
港 (無) 曲光男  
幻想の明神礁 (参) 池田遙邨  
庭の花 (参) 望月春江  
秋好中宮 (参) 岩田正巳  
簾の池 (特) 加藤美代三  
睡蓮 (参) 佐藤太清  
三 (参) 人三谷青子  
山の池 (無) 嶋谷自然  
牽船のある港 濱田昇兒  
晩 夏笠原可於  
面河峽 (参) 矢野橋村  
新涼 (参) 堅山南風  
松樹 (参) 宇田萩邨  
孔明秋夜祭漁水 (依) 菅 楯彦  
爽 籟 (会) 結城素明  
やぎと猿 (会) 審西山翠嶂  
香 橙 (会) 松林桂月  
薄暮 (参) 大智勝觀  
沼のある風景 (審) 加藤榮三  
海芋と罌 (会) 審山口蓬春  
雨の海 (会) 小野竹喬  
池 (参) 審徳岡神泉  
をとめと赤駒と (参) 服部有恒

魚槽 (参) 審森 白甫  
浴の海 (依) 田中以知庵  
春の映 (参) 西山英雄  
杉木立の風景 川本末雄  
ジャック (参) 川崎小虎  
室内 (参) 審兒玉希望  
白い馬 (参) 山口華楊  
夢多き頃 (参) 伊東深水  
鯉 (参) 金嶋桂華  
杜 丹 (参) 審三谷十糸子  
牡 丹 (参) 濱田 觀  
初振袖 (依) 寺島紫明  
彩 映 太田稻吉  
雞 映 猪田青以  
緑くる 朝 福王寺法林  
瀑 泉 (依) 水田竹圓  
果園 新 秋中瀬 昂  
茶 房 樋口辰志  
水田ノ 頃 木村廣吉  
竹林 初 冬坂倉半徑  
鷹 遠 藤立圓  
坂 道 堀田保雄  
千山万水 (依) 橋田永芳  
モデルと作家 村上哲究  
朝 (依) 山本倉丘  
港 下 保 昭  
残 照 谷野圭一  
苔 伊藤石華  
窓 融 紅鸞  
風 景 西村文男

河 港 松本精三  
安治川所見 五十棲子元  
初 秋 山本桃丘  
集 津野風景 遠峰光遙  
宇津野風景 遠峰光遙  
休 憩 室 石曾根貞龜  
青 田 (依) 松本姿水  
変 遷 (依) 西澤笛吹  
海に 沿う 龜 割 隆  
風 森 正 元  
緑 藤 (依) 松久休光  
夏 日 坂口一 草  
家 夫人 (依) 小堀安雄  
橋 夫人 (依) 荒木天立  
椿 中 澤 一 僑  
鶴 花 武 藤 嘉亭  
花 ざ かり 田之口青見  
陽 址 (特) 大平華泉  
城 瑠 璃 溪 (依) 三輪晃勢  
夏 女 (特) 白寿賞 中村正義  
女人 (特) 白寿賞 中村正義  
谿 雲 影 (審) 我妻碧宇  
花 影 (審) 我妻碧宇  
榻による (無) 白寿賞 加藤晨明  
草 原 (特) 加藤東一  
自 転 車 (依) 杉山 寧  
緑 蔭 河原勇夫  
街 路 樹 大宮俊興

金 魚 (無) 村松乙彦  
舞妓点茶図 磯田又一郎  
聴 M氏の部屋 樋口富麻呂  
綾 夏 渡邊阿以湖  
海 (無) 松浦 滿  
店 粧 加藤士郎  
或る 建物 中田草春  
陶 瓷 正井和行  
花 園 山下 薰  
奈良の 新 秋 水野深草  
太鼓をうつ舞妓 板倉星光  
川崎 風景 高橋澄爽  
涼 (依) 白寿賞 梶原緋佐子  
ひまわり 福井宗之助  
淀川夕照 (依) 山本紅雲  
更 衣 (依) 勝田 哲  
工事する家 河田賢三  
少女と時計 大嶽智弘  
秋 暮 清水石溪  
蜜柑の実る頃 川合 清  
雨の造船所 海野旭世  
好 日 白鳥映雪  
鯉 河野華涯  
結 緑 北村明道  
牛 浦田正夫  
岩 那波多目煌星  
向日 葵 西野新泉  
山中人語響 (依) 横尾深林人  
かぐや姫 森戸果香

秋 陽 太田龍一  
踊り子 (依) 田代正子  
工 場 岡田青慶  
足 摺 岬 川島 浩  
A氏の店 戸島光基  
ガスタンク 太田歳夫  
雪のお茶の水 水野陽翠  
庭 先 佐々木與條  
室内 (依) 白寿賞 木本大果  
岩 風 呂 (無) 立石春美  
ニコライ堂 日比野嘉徑  
教 使 像 濱倉清光  
八坂の塔 (依) 小川翠村  
七 面 鳥 野村一生  
熊 野 森村宜永  
里村 風景 櫻井觀水  
池 畔 秋元節朗  
真昼の小溪 加藤彩華  
遊 牧 (依) 西村卓三  
山の 池 後藤貞之介  
森 子 安島雨晶  
茄 子 新山晃司  
秋 石田重子  
山 莊 之 夏 篠崎之男  
二 人 川崎鈴彦  
魔 工 場 陳 永 森  
波切風景 鬼頭 篁  
カンナと七面鳥 (依) 根上富治  
雲峰隔谷深 (参) 白井烟崑





朝 熊澤欽三

K牧師の像 (特)庄司榮吉

基 地後藤純史

だんらん (特)中谷龍一

ビニロン工場 高谷重夫

裸婦 (依)高光一也

山と溪流 (審)中村善策

風景 (依)井手宜通

諏訪湖風景

古風な椅子 (依)新道 繁

睡蓮のある池 大坪 實

午 後 (依)平松 讓

画 室 (依)村岡平 藏

装 室 (特)小泉 繁

夏 日 (依)竹澤 基

雪 の 日 (依)橋本花子

踊子 (岡田賞)藤井芳子

裸婦とちわ (依)西尾善積

田 植伴庄兵衛 茂

靴みがき (依)森田 功

林 の ぼりがま (依)廣瀬 一

滝を見る (依)桑原福保

或る 日 (依)藤應久

連 坂田虎一

仁 王田原輝夫

ポーズする女達

調 理 (無)柳瀬俊雄

東京随処 (依)新保兵次郎

校 庭津下濱子

椅子による女 (依)藤本東一良

調音之図 (依)西村愿定

土 蔵 (依)青地秀太郎

街 初夏朝 鴨飼幸雄

潮来風景 大崎善生

女の教員 中村民夫

夏の教室 黒澤信夫

海岩教会 田中君弘

秋 燈 (依)古川 弘

土塀のある道 阿部廣司

爽 タンクの有る風 宮部 淳

男 の 像 越川信義

大正池 (依)小堀 進

黄色いスカート 新井邦雄

の少女 (依)荒谷直之介

仔猫と少女 辺難波榮子

水 CIRCUS (無)上田哲農

川沿の古い家 柴田祐作

うすれ 篠原新三

街 の 庭 青野馬左奈

秋 橋 別車博次

聖 橋 伊東正明

秋 の 山 望月省三

河 岸 石井ゆたか

雨風機のある静

物 早 春の池 水野以文

綾 瀬 川千ヶ崎梯六

裸 椅上の少年 (岡田賞)

婦 小林哲夫

アトリエの女 細島昇一

地 下 道 栗原七三

紀州路風景 内山市郎

葉 師 如來 漆畑廣作

尾瀬沼の雪 恩田孝徳

恵 子 山田鶴左久

駅頭の朝 牧原萬之助

浅 春 暖 日 西澤今朝夷

会津磐梯山 (依)三宅克己

工 場 B 東 一 雄

風 景 山本彪一

春 雪 渡邊義一

河 岸 (木版) 馬淵 聖

漁 船 内田進久

百貨店うら (エ 武藤完一

クレシンのある 宮下登喜雄

風景 (エツチン

静 物 松岡雄三

「自画石版」金と銀

夏 は 躍る 永瀬義郎

牛 子 雲 守 洞 春

母 子 依 前川千帆

創作木版図 耕 勝平得之

土 鎗ヶ岳 征服 山口 進

文 卓上みづく 武田由平

軍 版画 オレンジ 木和村創爾郎

の花咲く島 鶏 朝井 清

大岩山、不動滝 泉田康治

雨 の 日 青木 勲

公園の秋 向井良三

盛夏茶店風景 鈴木貞造

青衣座像 乾 一 雄

自 転 車 A 川口 竊

内 海 の 秋 氏家秀之進

街 極、並 木 山田 篤

初 秋 木 場 寺居健一

す す 木 島崎清海

銀座 展望 富田通雄

ホームの人達 長谷川彰一

朝 伊豆早春 板倉國臣

商工会議所風景 中岡恒雄

室内午後 不破 章

高原初秋 (依)早出守雄

柴の花と青リン 齋 藤 誠

婦人像 (審)田中繁吉

室内 (審)大澤海蔵

二人のバレーナ (参)鬼頭鍋三郎

岩 風 呂 (参)石川寅治

みすずの貯水池 (依)木下義謙

少女読書 (参)木下孝則

裸 婦 (会)審)中村研一

奈良公園新緑 (会)審)山下新太郎

淡路霞む (会)審)辻 永

初夏の朝 (会)審)有島生馬

祭 礼 (審)池部 鈞

長江三遊洞 (依)白瀧幾之助

静 物 (審)安宅安五郎

冬 H・S・夫人像 (依)清水良雄

(参)審)小山敬三

春 閑 (参)審)小絲源太郎

園 花 (会)審)中澤弘光

湖畔の宿 (会)審)石井柏亭

静 物 (審)耳野卯三郎

婦人像 (依)中村琢二

室内 (審)緒方亮平

夏の朝 (参)審)藤 興里

窓 (会)審)川島理一郎

新 緑 (審)富田温一郎

尾ノ道附近 (依)小寺健吉

裸 婦 (依)武田政美

夏の石山 武田芳男

サンドレスの女 富山治彦

窓 辺 泉 治 彦

みつ 豆 (依)矢島堅土

初 信州金沢村の秋 章

早 春 風 景 開道傳左衛門

初 秋 (依)樽松正利

パイプを持つ男 鳥居 昇

花 菖 蒲 (依)高宮一榮

ほ お づ え 大道健治

磐 梯 (依)西山眞一

犬 山 風 景 林 泰二

支那服の女 (依)江藤純平

受難のキリスト (無)川口雄男

下田風景 (依)奥瀬英三

青 衣 橋 詰 英一郎

本みる婦人像 (依)土佐林豊夫

望郷	(依)中川力	越路吹雪のサロメ	(依)高野三三男	秋日	(依)島野重之	樓門	(特)福田義之助	橋	三澤覺藏		
ゆかたの女	松尾正己	裸婦	(依)渡邊浩三	七面	鳥戸塚孝三郎	立像	(依)園地信二	靜	物	甲谷喜久子	
夏休み	(依)遠山清	芭蕉	(無)山口猛彦	朝のレックスン	(依)河井清一	雪の運河	(特)渡邊祐一郎	靜	婦	(依)弦田英太郎	
田	植矢野雄藏	魚見る子供	岡田又三郎	汐罉の岩々	益山英吾	黒いテーブルのある室内	(無)大内田茂士	ひまわりのある庭			
朝	(依)胡桃澤源人	穴道湖上舟遊	鳥屋尾孝吉	稽古前	(依)平通武男	残室にて	(岡田賞)長屋	武藏野の秋	高橋重吉		
母	像	津田克巳	青の婦人像	鏡	による	飯田彌生	長崎の庭	山田正孝	冬の水門	(依)櫻田精一	
靜	物	(依)安達眞太郎	雪の	入	江池田功	室	並木	道石橋武治	坐	坂元一男	
漁村	風景	林鶴雄	花園の鳥	座	内	(無)足代義郎	立	森の	雨後の給油所	松本正夫	
魚河岸の家	(依)近岡善次郎	春中條茂	二	雞	座	頭	森	道	長尾眞佐榮	花長原坦	
早	(特)辻朗	犀川雪晴日	(依)堀忠義	妻の座像	(依)藤江理三郎	桂一	神	戸	(依)朝比奈文雄	政善	
残雪の丘	(依)田村一男	つゆばれ	(參)鈴木千久馬	水	青い服	(依)水上信雄	眉	壽	(依)南	政善	
街	(依)安藤信哉	阿蘇山の晩秋	依田崎廣助	教會堂の建つ丘	野平上	雄	雪の一隅	(依)市ノ木慶治	殘	雪	(依)倉員辰雄
人	(無)三尾文夫	湖畔	(依)高田誠	三人	(岡田賞)池邊一郎	朗	鑊戸の前	(依)橋原健三	盤光燈のある静物	(依)伊藤四郎	
湖	(依)高田誠	花のある静物	(依)岩井彌一郎	坐	鳩と仁王門	(特)大沼静嚴	髪	門	(依)小野彦三郎	立	炭田幸一郎
窓辺に寄す	(依)有馬三斗枝	城ヶ島の眺め	(依)鈴木良三	新宿零時	(依)福田新生	泰	木	妙高山秋色	(依)樋口一郎		
奈良	橋	(依)西岡義一	N夫人	(依)笹鹿彪	赤い花	秋山上文	Composition	(依)河井達海	風景	近藤吾朗	
雪	憩	(參)長谷川昇	小	奥入瀬	(依)佐竹德	雄	雪	枯れた花	(依)黒田頼綱	網	
海峡の見える風	松野輝彦	庭の雪	(依)藤一章	春	裏通り	春	庭	(依)深谷徹	M嬢	(依)金子徳衛	
とりかごのある静物	(特)深谷徹	画房静物	(依)高橋庸男	高	原	新	緑	さ	さ	や	き
ヨットの姉妹	(依)山田新一郎	流	手塚義三郎	さ	さ	や	き	(無)石本秀雄			



蟹と子	裸	庭	うしぶせ	炭坑風景(2)	室の一隅	花と少女	旧居留地の街角	茂庭雪景	晴れた日	病院裏通り	黒衣(岡田實)	雲り日の橋	憩り小舎	千曲河畔	窯結伊藤	古堂藤島	海浜(依)	工場のある風景	室内(依)	読書岩本	古い喫茶店	夜の喫茶店	相模の早春	坐朝の憂愁(ヒロシマ)	婦人梅澤	母子像	カレン	
供川端謹次	鈴木貫司	杉山一正	齋藤彌平	久原弘	熊岡まゆみ	佐野猛	三樹保	山川忠義	村上鐵太郎	梶浦朗	舟木徳重	杉本重則	山口惣四郎	末原晴人	萬羽章	伊藤鎗一	藤島獎	高橋武哲	依幸嶋重雄	原田史郎	舟田亨	松本富太郎	杉山卓	新延輝雄	梅澤慶子	田代順七	江藤璽子	
土間に立つ娘	鴨南風景B	寺原爆を受けた唐	室の内	池畔	画面の窓	食器戸棚の前	蒙古の夢	建物のB	食後の境	麦秋阿部七郎	浜秋阿部七郎	アトリエ	金沢風景	疏安を造る工場	寺へいく道	造船所一隅	壺の蒐集	赤い椅子のある	早春(無)	M氏の像	故郷の老人達	日向葵と海のラン	豚(依)	室戸	婦人	江人	魚の窓	
澁川盛利	市山時一	藤田義雄	多田俊彦	福谷光磨	斎藤久子	石野安親	常重親	後境保	阿部七郎	加藤義雄	石田隆司	村秀夫	犬村秀夫	松村秀夫	細川浩	荒川節	杉山元輝	松田澄夫	高木春太郎	山折行雄	石崎五郎	長見昭夫	佐川忠金	近藤喜義	北宮地亨	中村新次郎		
静物(2)	浴後寺島龍一	晩夏漁村花嚴	あ・うん・猫	夏から日星野正三	へやから君家三郎	田園閑日和	は園閑日和	林間の放牧	静子の像	裸婦(依)	都心の朝	若き日の朝	山崎朝	放課後の朝	立秋鶴	風景竹内	小風内	学風	読物	静生	梅生	横庭	花咲く庭	工場	磯人	坐像	紫陽花	横須賀風景
杉本貞一	大歳龍一	草光信成	星野正三	章名芳夫	君家三郎	和田秀雄	和田秀雄	東田典男	松本典男	朝村省藏	奥野浩行	奥野浩行	朝村省藏	奥野浩行	鶴飼順司	二男	梶二男	風内	藤野信雄	秋田久治	秋田久治	井上友直	佐竹正紀	大屋正良	吉田道良	山名武	湯浅嘉彦	川口説義
天草風景	杉原武則	小野政吉	小寺明子	圓城寺昇	庭邊(母子)	窓辺(母子)	自画像による最後の晩餐	郊外電車	セーターの女	一二九号館	微醺守屋千之	朝顔飯田實	仲通(無)	展覧望	獲物	レイ子	婦人	緑のスエーター	街の展望	裸婦(依)	理髮屋	肖像	少丘の村	砂丘の村	伊豆の海岸	瓜弾	秩父の農家	
奥入瀬溪流(依)	刑部永森	父氷室幸吉	憩飛矢崎和彦	冬河(依)	駒ヶ岳	鏡と女	百草鹿島よし子	大石田風景	黒屏風(依)	花(ばら)	馬と壺	鋪道	街下北半島の杓夫達	蒙古	九月の穂高連峰	長閑(依)	初秋風景	自画像	朝の湖	横谷(依)	幽人立像	とあみ(依)	春間近か	雪の郵便局	花壇にて	樹草の像	河岸の家	
奥入瀬溪流(依)	刑部永森	父氷室幸吉	憩飛矢崎和彦	冬河(依)	駒ヶ岳	鏡と女	百草鹿島よし子	大石田風景	黒屏風(依)	花(ばら)	馬と壺	鋪道	街下北半島の杓夫達	蒙古	九月の穂高連峰	長閑(依)	初秋風景	自画像	朝の湖	横谷(依)	幽人立像	とあみ(依)	春間近か	雪の郵便局	花壇にて	樹草の像	河岸の家	



室 内 婦 人 鶴 甫	金 魚 鉢 の あ る 室	内 田 風 景 田 中 太 郎	有 都 初 秋 長 谷 川 進	陶 都 初 秋 井 上 武	船 本 戸 棚 樋 口 哲	自 画 像 中 井 重 男	N 駅 の 一 隅 青 井 幸 雄	白 い 壁 の あ る 部 宮 脇 憲 三	屋 農 家 横 山 義 雄	相 国 寺 中 川 義 憲	内 海 の 漁 港 和 田 貢	残 三 輪 車 の 静 物 多 和 薫	入 江 土 井 六 郎	桃 中 敬 子	静 武 永 楓 雄	村 道 神 保 和 幸	母 と 子 達 山 川 利 夫	火 留 岡 彬	靈 南 坂 左 近 司 八 重	室 原 風 景 佐 藤 繁 雄	玄 関 より 伊 庭 康 雄	静 山 田 キ ミ	画 室 物 山 田 キ ミ	溪 流 清 水 昌 一	門 千 し 場 倉 橋 英 男	糸 の 部 落 渡 邊 良 雄	雪 の あ る 風 景 小 間 政 男	倉 敷 風 景 岡 本 肇	婦 山 田 敏 郎	
秋 の あ る 庭 景 菊 池 義 泰	門 の あ る 庭 景 高 倉 一 二	夏 樹 間 齋 藤 國 雄	漁 村 の 午 後 松 澤 茂 雄	早 春 の 山 里 錦 織 保 久	黄 色 い 花 西 光 寺 亨	室 の 静 物 足 立 眞 一 郎	べ ん け い 草 の あ る 静 物 森 田 芳 治	房 總 風 景 秋 山 進	斑 鳩 寺 中 門 由 里 明	卓 上 静 物 伊 藤 利 行	タ ヘ コ 伊 藤 利 行	あ る デ ザ イ ナ ー の 店 野 村 光 司	曇 り 日 佐 藤 ふ さ 子	秋 の 色 江 崎 寛 友	八 月 の 那 須 山 灰 野 文 一 郎	緑 蔭 静 物 鈴 木 三 五 郎	黄 色 い コ ス チ 柳 澤 淑 郎	古 川 夕 景 仏 廣 本 了	河 畔 夕 景 千 葉 精 三	多 治 見 風 景 西 尾 毅	雪 の あ る 風 景 飛 田 昭 喬	櫓 の あ る 風 景 林 男	休 息 林 義 雄	窓 の 風 景 岡 本 由 郎	養 沢 の 巖 長 谷 川 龍 甫	黒 い 上 衣 海 老 澤 嚴 夫	坐 像 根 津 莊 一	池 北 川 劉 三	ヨ ッ ト 猪 瀬 踏 花	
井 戸 ば た 豊 岡 稔	ライ ラ ック 岡 田 行 一	湖 畔 の 秋 島 戸 繁	工 場 竹 岡 良 太 郎	カ ー デ イ ガ ン の 少 女 根 岸 秀 雄	ロ シ ア の 教 会 酒 見 恒 平	雨 後 松 本 邦 博	山 羊 奈 良 岡 正 夫	朝 山 (B) 遠 山 義 春	東 山 植 物 園 温 室 小 村 平 八	内 風 景 慶 田 喜 一	秋 風 燈 景 徳 田 良 仁	静 物 松 本 曉 周	煙 物 上 月 信 二	オ ー ブ ン セ ッ ト 寺 田 屋 上 月 信 二	土 器 を な ら べ て 下 り 安 武 芳 男	午 下 二 重 作 龍 夫	静 物 中 島 音 次 郎	長 崎 港 名 島 好 三	橋 夜 明 け の あ ず ま 五 味 悌 四 郎	庭 長 椅 子 の 女 御 正 伸	塩 魚 静 物 辻 利 平	画 壇 魚 静 物 丸 山 豊 一	神 楽 坂 ヲ 望 ム 室 許 長 貴	朝 風 景 大 村 淨 一	黒 衣 の 婦 人 武 内 和 夫	ニ コ ラ イ 堂 森 清 治 郎	門 中 村 勝 美			
漁 船 に て (特 港 龍 清)	醸 造 場 巻 島 友 治	お 茶 の 水 部 落 大 橋 城	婦 人 像 梶 田 英 一	室 の 隅 千 田 徹 夫	す す 黒 田 尚 文	母 子 像 松 岡 正	雪 国 の 娘 杉 三 郎	静 物 藤 田 静 子	靱 物 小 泉 政 孝	閑 日 木 村 ひ か る	樹 氏 写 生 島 田 四 郎	T 氏 写 生 荒 井 邦 朝	鉄 塔 の 丘 森 新 一	登 り 道 (姫 路 城) 森 新 一	読 書 水 野 一 好	夏 の 木 曾 駒 岡 田 高 平	丘 の 茶 店 大 瀧 斗 良 樹	K ホ テ ル 上 田 輝 七 郎	湖 岸 の 煙 成 田 浩 子	静 物 (A) 梅 林 文 夫	グ ラ ジ オ ラ ス 泉 治 作	坐 像 加 藤 春 景	夜 の 室 内 大 和 富 子	禪 寺 室 内 善 浪 迪	高 架 線 の ホ ー ム 松 木 重 雄	機 関 庫 風 影 渡 邊 一 美	小 手 の 教 会 村 山 俊 夫	蓮 山 の 教 会 松 本 正 人	瀬 戸 内 風 景 河 本 一 男	室 造 船 所 風 景 金 山 慶 子
登 り 窯 場 閑 日 兼 松 寛	初 の 一 隅 秋 大 森 榮 八 郎	庭 の 池 圖 石 原 政 之	漁 村 小 林 重 三	雪 の 山 村 加 藤 五 郎	海 近 山 田 所 義 信	勘 太 郎 山 内 藤 秀 因	東 北 の 山 景 齋 藤 英 一	海 の 風 景 玉 小 合 保 一 郎	初 魚 秋 伊 藤 博	海 の 見 え る 部 屋 松 永 和 夫	練 習 す る 人 々 井 上 正 勝	少 女 山 尾 平	漁 村 井 上 正 勝	温 室 梅 林 金 子	廃 墟 居 關 良 一	工 場 裏 中 島 研 介	午 陽 池 野 壽 彦	白 衣 坐 像 小 木 會 和 夫	姉 妹 手 島 貢	千 曲 川 小 林 昭	あ さ な ぎ 藤 原 昇 一	老 船 廣 井 邦 一	お ぢ い さ ん 櫻 井 慶 治	清 水 港 森 正 一	路 傍 鈴 木 滿	シ エ ー バ 等 の 工 藤 井 軍 三 郎	田 中 芳 谷 居 士 金 田 新 治 郎	造 船 所 風 景 兒 玉 正 信	室 内 西 田 亨	

静かなる池畔 宮平清一  
 石の窟 松田忠一  
 傘の店 長江兼次  
 画室の一隅 久本弘一  
 支那服の女 篠田喜與志  
 婦人 北村 巖  
 善福寺池初秋 後藤秋生  
 樹 江口 明  
 裏庭 盛 忠七  
 港のかけ橋 岡崎勇次  
 大樹のある風景 青木春見  
 ぶどう 井口ふさ  
 鉄 奥田憲三  
 豊 農 長内 亮  
 黄色いスカート 齋藤 齊  
 唐招提寺 松浦莫章  
 朝の庭 宮島武男  
 倉庫裏風景 川村嘉久  
 棚の前で 野村貞子  
 武田尾流 三田村 築  
 裏 口 尾崎 侃  
 槍ヶ岳 等々力 巳吉  
 窓 川田 茂  
 厨房の一隅 石原義武  
 川辺の庵 木下 霽久  
 子 金子千恵子  
 花なき温室 新庄拳吾  
 竹 林 大槻達二  
 湖畔の庭 尾澤勝朗  
 聴 泉 祇園卓志  
 Y 氏 工藤靖彦  
 川 氏 反町博彦  
 花 道 小又 光

雪 景 西川 信一  
 私の家 榊 松田 藤兵衛  
 オランダ屋敷 岩田 順三  
 五月の森 東海 林廣  
 薔薇のある静物 三上 アエ  
 朝 涼 塚本 張夫  
 赤縞の裸婦 矢田 清四郎  
 春 柏木 治子  
 屋根葺き(無高橋五郎  
 鏡の 前 廣本 季與丸  
 川原畑のねぎぼ 齋藤 政一  
 うず 倉庫の船溜り場 石塚 三郎  
 静 地蔵 物 川口 四郎  
 海 蔵 堂 岩月 光眞  
 ね 女 吉原 甲蔵  
 防波堤 白井 幸一  
 高 堤 熊井 惇  
 語 ら い 熊井 惇  
 初 幕の河岸 真木 宜武  
 夕 暮の河 西教 寅吉  
 秋 立つ 頃 石河 彦男  
 午 役 森喜 久雄  
 村 役 鈴木 貞二  
 瀬戸 風景 柴田 達彦  
 壺 村 小川 武雄  
 漁 村 小川 武雄  
 二 花をさす 大木 茂  
 花をさす 大木 茂  
 静 太海の漁家 境元 資  
 修理工場 矢口 久洋

集 少 閑 眞野 俊久  
 娘々 祭 三輪 孝公  
 晩 家K君とその 山本 茂郎  
 モデル達 緑 能登 靖幸  
 新 じやこうえんど 家永 隼三郎  
 う 修繕船とランチ 池田 隆  
 淡路 人形 大藏 敏秋  
 川端 暮色 高橋 伯治  
 裸 婦 森谷 重夫  
 静 物(A) 筒井 茂雄  
 室内 婦人像 千名 恒  
 盆 踊 早田 嘉之  
 本 前 三宅 次郎  
 (彫塑) 知多の漁夫(依古賀忠雄  
 少女立像(依後藤清一  
 詞梨帝母(依大内青圃  
 浴 女(依藤井浩佑  
 裸 婦(依喜多武四郎  
 杜 若(依後藤 良  
 Nさんの顔 田中 昭  
 曲線と裸婦(依關谷 充  
 勝馬(依池田 勇八  
 花と共に(依柚月 芳  
 裸婦坐像(依倉持 芳  
 裸婦(依清水多嘉示  
 人身柱(依富永朝堂  
 習 流 藻(依和田金剛  
 作 黒田嘉治

少女立像 新免 弘男  
 静 立(特)綿引 司郎  
 女の胸像 佐藤 親光  
 鹿がみ(依赤堀 信平  
 かみ(依赤堀 信平  
 荆棘の道(依横江 嘉純  
 牛頭(依杉本 宗一  
 レスラーS君の 草野 睿三  
 像 大野 信藏  
 馬 生翁頭像(依小倉 右一郎  
 瓜生翁頭像(依小倉 右一郎  
 小 君の首 竹田 貞郎  
 K 切 ち 阿部 正基  
 は 切 ち 阿部 正基  
 仕 切 ち 阿部 正基  
 シヤ 切 ち 阿部 正基  
 若 切 ち 阿部 正基  
 浴 後 横山 文夫  
 七 慈観世音 鶴本 初太郎  
 不 動 戸 新  
 無 牙(依都賀田 勇馬  
 裸 婦 堀江 起二  
 胸像 堀江 起二  
 慈 像 難波 聖爾  
 習 作 池上 舜  
 三 塚の種馬 三井 高義  
 ベレ帽のM女 新井 喜惣次  
 藝 精 翁 朝盛  
 裸 女立像 小池 藤雄  
 前 途 水野 猛  
 新 炭 夫 大村 清隆

道重上人像 早川 朝洋  
 立てる女 小西 竹太郎  
 工人の像 後藤 俊太郎  
 常陸の女 潮田 皓哉  
 牡 牛 岩田 千虎  
 裸 婦 本田 晶彦  
 実 婦 佐伯 留守夫  
 麗 日 矢田 常和  
 瀟 着 高橋 剛  
 水 着 高橋 剛  
 若い 女 宮本 光庸  
 青 年 像 分部 順治  
 おどり(依森山 朝光  
 F君の裸像 館山 詠粹  
 美 美子さん 佐藤 助雄  
 作品F(依長谷川 義起  
 双 眸(依木島 正夫  
 ヨブ(ヨブ記四十二章一ノ六)  
 髪 依(依北村 治禱  
 主 将(依特富 永良雄  
 木 蔭(依吉田 三郎  
 裸 蔭(依吉田 三郎  
 清 流(依参雨宮 治郎  
 暖をとる人(依萩山 三穀  
 浦島長寿の舞(依寄北村 西望  
 い づ 山 畑阿利一  
 米 寿 長嶺 武四郎  
 坐 像 押田 政男  
 智 三 枝惣太郎  
 牛 石 井 滋  
 女と子供 古川 順三  
 す ず め 西 俊夫

石狩の娘(審森野圓象)	粧い(特齋藤吉郎)	人間告訴(特野々村一男)	憩立てる	胸片山義郎	合掌小川大系	顔堀義雄	無題井戸義夫	男の立像浅井行雄	男の首倉澤興世	男の品A山本民二	二人の裸女(參)松田尚之	虹の服の女中西明史	支那の女中島敦	夏像小島克也	立像小島克也	ル・スペクトル山脇正邦	ドロ・ズトル山脇正邦	清流中村青田	浴女矢野判三	マデ三坂歌一郎	女小笠原安兵衛	女習作緒方敏雄	女藤本美弘	豊に立つ像林勘五郎	青年坐像真下梅吉	裸女日下寛治	曉霧市之瀨廣太	婦人佐藤義重			
少農村の女	新晴高藤鎮夫	女長江録彌	建設服部仁郎	いづくしみ田村審火	平和(浮影三部作の2)永原廣	明(會・審藤知雄)	風習作(女依)高道夕咲人	憩作(女依)石川確治	鹿人原田新八郎	若人遠藤松吉	岳友花田一男	山頂熊谷幸太郎	C神父の像(依)小笠原貞弘	少年像石原昂	立像石原昂	日午に立つ松野伍秀	若き彫刻家渡邊弘行	立像中野素昂	女像安藤俊介	女上條勝美	女年上條勝美	女婦稲垣勝美	裸丘笹野惠三	砂憶横山豊介	追立像松田喜三郎	女におやか長谷川塊記	山羊加納三造	未成小田寛一	農靜眞海徳太郎	少悠西田秀	南風茂木弘次
裸立	像龜貝保	限宮崎辰夫	男清水源可	裸立像南庄作	あさつゆ矢野秀徳	稚牛柳沼曹雲	牡牛伊奈重孝	空に翳す横山五郎	小憩飛岡文一	裸にわたり伊藤芳雄	裸く人の顔中村博直	男坐像中野五一	平和の誓い(依)岡本錦朋	裸像岡本錦朋	女夢遊(依)毛利教武	夢の像(依)佐藤静司	女の像(依)中野桂樹	太陽の子(依)霜田大次郎	おんな草江川丈平	秋望大村正成	希性(依)矩幸成	女茫(特)三木貞雄	蒼茫(特)三木貞雄	憩風堤達男	なぎさ水島弘一	寛やかに立てる手塚又四郎	卓球神野義衛	裸婦岸崎夜光	平和来(會)朝倉文夫		
裸婦(依)大須賀力	ヘルシシキの感激(依)長沼孝三	女華(參)審澤田晴廣	裸婦(依)柴田佳石	裸婦(依)中川直久	曙の人間像(依)畝村直弘	女月光(無)佛子泰夫	月黒い女(依)圓鏑勝二	芽ざす(無)特山本稚彦	裸婦(無)木下繁	一粒の生命(無)木村圭二	初夏の頃(無)佐藤義信	少年二人中西重久	緑釣りの少年板橋一步	潮釣りの少年板橋一步	潮釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步	綿釣りの少年板橋一步
雄牛福井庸賢	S子岡田好枝	おんな林健	少女上田薫	裸女遠山静夫	春曉橋本高昇	初姿北地莞爾	習作長谷川和幸	老農山口榮太郎	女綿引弘	叫ぶ人(參)堀進二	首吉田曉禾	やぎ(無)島田改助	首宮田卓二	壺像藤川基	少女像藤川基	裸婦(無)特立川義明	素足の修道女太田良平	雲のまぼろし(依)羽下修三	無の方(參)佐々木大樹	妻の首小森邦夫	心(審)朝倉響子	少女頭像池邊瑠璃子	或少女頭像池邊瑠璃子	ト或るモニユメノ宮地寅彦	孤獨(參)審加藤顯清	女の首根澤伸行	坐像久原濤子	イザ(依)山本豊市	信濃の娘(依)瀬戸團治	母と子高久茂雄	



首 (依安永良徳)

凝視 (審北村正信)

ITALO BORGINI (無特安田周三郎)

憩 (特進藤武松)

(美術工藝)

空 (そら) 三苦正雄

漆 卓 山本春雄

花 器 坂井誓徳

萬葉都全二曲屏 木母正一

花と壺のコレク ション(壁面飾) 三田村秀雄

衣笠草詩絵小 (依河合秀甫)

屏風 漆バネル静動之 松谷春峰

影 漆 衝立 目黒順三郎

友簾漆二曲屏 (依談議所榮二)

風 水辺図 武内信弘

八つ手盛鉢 松風榮一

染付花瓶 (橋もどき) 本田尹信

彫漆夕顔紋飾宮 山下恒雄

打出し狐置場 河村又次郎

陶器夏夏の花 市川廣三

水草の春 千村昭重

蝕葉文四方皿 岡とよ

紙塑人形 彩 山本 曠

硝子鉢 松尾忠次

初夏の宵 (彫金 巴色) 米澤久

流線花瓶 三上猛郎

鍛鉄鳥置物 里見土亜

夕顔形黄釉壺 小峠秀夫

花瓶「う」

浅春意 壺 加藤英一

川 瀬 關谷浩二

寄木造透彫小屏 永見晃堂

木 蔭 (皮装) 山本十絲

灰釉線刻花瓶 西川 實

青銅蠟文花瓶 塩原文二

遊環鑄銅花瓶 伊藤忠雄

銅打出花瓶 槻尾宗一

海魚図飾皿 宮川哲治  
連環紋花瓶 野本星黄  
象嵌花瓶 篠田義一  
草絵象嵌花瓶 篠田義一  
華甲 釜 宮崎卯一  
鉄地象嵌四方花 小林尚珉  
芥子紋変形花瓶 大谷玲石  
線彫草花紋花瓶 横山朝陽  
印花文皿 杉浦芳樹  
踊 宮崎明治郎  
染色屏風(夕陽) 喜多村榮太郎  
アブストラクト 大島一畝  
小スクリーン (木象嵌) 漆器浜木綿バ (依堂本漆軒)

藍染之図刺繡屏 酒井榮一

風 染二曲屏風 秋 成竹登茂男

の譜 染二曲屏風 温 牛坂源吾

室ノ図 山 勝井八郎

和染つみ荷 中堂憲一

染屏風(厨舎) 春日井秀雄

手織つづれ壁掛 松井よし子

芋の 葉 大野玉枝

漆彩文飾欄 平石晃祥

額 彫金白狐透釣 (依介川芳秀)

欄間 春雪 松井朝鈴

待宵隅屏風 山田 豊

書 欄 溪流 山崎立山

小屏風月ノ影 佐藤貞一

寿紋 衝立 今藤晴一

瑞鳥 衝立 横山一夢

春の夜 (依福澤健一)

新 秋渡邊道善

漆器浜木綿バ (依堂本漆軒)

ネル 先屏風 藤垣壁掛 栗原義子

独染 藤垣壁掛 栗原義子

打出し 小屏風 田中長次郎

漆器集鶏衝立(無) 小森克己

十字華高杯形盛 生野祥雲齋

籃 色絵熱帯の花、 武腰善太郎

花器 彫漆花瓶 酒井 敬

鰐 角 壺 林平八郎

秋草之壺 濱 達也

鑄黃銅「軍鶏」置 辻 菊介

物 鑄銅白貝貝殻の 岸澤武雄

ある花瓶 磁器鑄手魚文水 松本佩山

盤 霜華結昌文花瓶 古宇田正雄

八角無花果飾宮 大下行雄

貝文模様飾箱 若林作司

朱塗分盛器 矢島正明

青銅水盤 中條青香

扁形花瓶 (依井上良齋)

陶置物「羊」 中里忠夫  
鍍金雄子置物 三井安盛夫  
盛 籃 東竹園齋  
紅萱草象嵌花瓶 河合喜燕  
蝶文 釜 伊東松壽  
貝紋色紙箱 窪田良次  
彫漆水禽飾盆 小口正二  
彫金鳩飾宮 (依小川英鳳)  
双海老の箱 太田誠二  
草花文花瓶 小林照雲  
白瓷花瓶 井上治男  
鴨地紋線口釜 角谷一圭  
青子九谷台鉢 谷口 勇  
箱 いとり紋様手 小林 茂  
噴水人魚 染川鐵之助  
鑄銅猿耳花瓶 木村庄太郎  
歌う女人達花 大森信比古  
青銅飾壺 板坂辰治  
水辺文具宮 竹園自耕

漆器桐ノ夷平宮 張間麻佐緒

線紋花瓶(連作) 清水 洋

秋晴藍九谷花 (特松本佐吉)

瓶 八卦紋独楽釜(鈴木盛久)

花 籃 (參)飯塚琅玕齋

龜甲型銀鍍起花 藤本長邦

盛器 壺を持つ児 (依野口光彦)

鉄牛置物 大谷春彦

雪 兩端双龍硯 雨宮靜軒

蛾 裝金具 大木秀春

四季の葛喰籠 須田清治

聖林宝石箱 帖佐美行

陶彫金魚伏香爐 大樋年郎

黃銅打出し花器 香取宏臣

銀四分一切嵌 (依小川友衛)

水盤 爽 朝野口園生

白峰華 簞 大島唯史

黃銅 壺 村上直行

柿花瓶 (無)新開寛山

磁器長角水盤 淺藏五十吉

志野偏 壺 加藤嶺男

黃銅象嵌透宮ほ 伊澤功吉

口ザリオ (依福田三郎)

黄銅鳩置物 (八井孝二)

染織壁掛鹿 長沼豐子

魚 葉 竹田文江

水 堂本捷二

刺繡衝立(閑 (依平野利太郎)

庭) 野ノ幸、小屏風 松田正治

美術展覧会(10月)

二二七



染織 手編デール・センター 齋田 あさ  
 壁面裝飾洗木 丹羽 昭司  
 漆器 飾棚 大西 忠夫  
 製 材 宮崎 白鷺  
 竹 の 子 竹 澤 伸 幸  
 染二曲屏風瓦工 村田 與一  
 雕漆昌蒲華文簠 明石 朴景  
 酸漿ノ図花瓶(無淺見隆三  
 竹 炭 斗 中 島 鳳 窓  
 水文花器(依)丸谷 端堂  
 鞍馬火祭屏風 来野 月乙  
 漆レコードボツ 山下 悦夫  
 染色着物「つわ 奈良 東明子  
 遺」 大久保 婦久子  
 「月」人 形 鶴 卷 三 郎  
 紋リ染向日葵の 岩 下 洋  
 着物 影漆鉄線華ノ図 今井 盛太郎  
 手箱 真鍮結晶変型水 南部 勝之進  
 人 形 雲 武田 三千子  
 素文黒四分一(依)原 直 樹  
 花瓶 霜葉文長盆(シ)島 野 三 秋  
 板金迦樓羅天(シ)中 野 惠 祥  
 水瓶 彫金透宮(無)飯田 喜代鏡  
 青銅花 生 森 達 男  
 つる草文花瓶 北村 暢 男  
 蠟型鑄造線条文 須賀 正 佐  
 花挿

魚文象嵌箱 本田 義明  
 花ノ影香爐盆(依)大下 雪香  
 鑄銅水盤 齋 藤 明  
 雪白瓷扁壺 宮下 善壽  
 漆々釜(依)根來 實三  
 樟文様彫漆喫煙 高橋 耕南  
 宮 姥 口 釜 名和 光夫  
 染織磁秋野文花 寺池 旬 杯  
 竹 図 手 宮(依)結城 哲雄  
 陶製「おぼろ」狐 眞鍋 知道  
 置物 漆 卓「清寂」富士野 灯舟  
 透し文様盛花器 鈴木 幸平  
 柘榴文花瓶 大垣 正人  
 双猫染付大鉢 縣 多須良  
 糊拔蠟染屏風衣笠山のほとり  
 漆器(依)楠田 撫泉  
 ハト時計のある 岸田 宗三郎  
 洋室染屏風 藤 齋 屏風「太陽  
 とその子」 佐 野 猛 夫  
 花 器(依)丸山 不 忘  
 飾 壺 松 原 春 男  
 漆器枇杷文飾箱 萩原 青 陵  
 双魚游心彫金(特)龜倉 蒲舟  
 箱 釉彩花瓶(依)土肥 刀 泉  
 鳩と花文沈金彫 手宮(北斗宮)藤井 觀 文  
 蠟型鑄銅潮騒文 宮田 藍 堂  
 花器 鶴 文 庫 村田 義 忠  
 釉嵌草葉文花瓶 勝尾 青龍洞  
 花 器(依)河村 喜太郎

萩焼シマ文花瓶 吉賀 大 眉  
 八重山吹(依)富樫 光 成  
 鉄打出野牛置物 小林 美 春  
 朝戸出(無)五味 文 郎  
 服 飾 樹々横山 茨 明  
 飾 鏡 台 金田 紅 鯨  
 蝶紋様着物 二口志保 子  
 染屏風「曙」(依)大坪 重 周  
 染附葛清紋花瓶 伊 東 奎  
 螺旋紋花籃(特)田邊 牛雲齋  
 鑄銅臥牛置物(依)佐々木 象堂  
 水 運 壺 中村 翠 恒  
 染織裂象嵌水運 永澤 煌 月  
 保津峽捕染屏風 西出 宗 雄  
 萬葉集之図二 河 合 冽  
 曲屏風 染屏風「キャベツと蓮根」(特)青木 滋 芳  
 飾 標「白夜」八 木 一  
 手織錦羅「うすもの」図懸掛 參)山鹿 清 華  
 染色屏風「縞緋」(依)山岸 堅 二  
 錦之秋 晚秋盛鉢(無)德田 魁 星  
 柘榴ノ図花瓶(審)伊東 翠 壺  
 魚文彫金花瓶(參)大須賀 喬  
 月見草之図四方 岡田 章 人  
 青銅蟬耳花瓶(審)長野 埜 志  
 彫金水瓶(依)信田 洋  
 截金燦魚衝立 駒井 直 堂  
 萬葉牛小舎二(特)村田 博 三  
 曲屏風「やばう」花の 安達 勝 二  
 表情」

縞馬図陶製パネル 依)北出 塔次郎  
 漆 秋小型 參)前 大 峰  
 衝立 花器連作方印(依)加藤 土師 萌  
 芦の花飾宮(シ)小松 芳 光  
 漂流文乾漆花(シ)本間 薺 華  
 器 風蕨の朝詩絵(審)三田村 自 芳  
 硯箱 彫金黒四分一金彩瑞鳥置物  
 參)密二橋 美 衡  
 鑄銅耳付花瓶 渡 邊 正  
 彩坡彩釉花心(參)楠部 彌 弍  
 花瓶 推朱手元簞笥(特)吉田 棟 堂  
 海女磁製花瓶(參)宮之原 謙  
 彫漆月兎手宮(審)音丸 耕 堂  
 箱 黒釉獅子文陶(依)米澤 蘇 峰  
 蠟型鑄銅花器 宮田 宏 平  
 彫金象嵌宮(依)三井 義 夫  
 板金人物置物(シ)岡部 達 男  
 青銅水鳥花瓶(シ)會田 富 康  
 蛙と水草水指(審)鴨 幸 太 郎  
 鑄 銅 盤(依)北原 三 佳  
 象嵌雄の香爐(審)高橋 介 州  
 鑄銅瑞鳥香爐 渡邊 紫 鳳  
 燒畧野花瓶(參)清水 六 兵 衛  
 鑄銅得鈕香爐(參)杉田 禾 堂  
 平 壺(審)河合 榮之助  
 「寒山拾得」衝立 參)密)山崎 覺 太 郎  
 刺繡生育之図、四扇屏風 參)密)岸本 景 春  
 陶 額 流(審)森野 嘉 光

漆西瓜之図小屏 山田 義 雄  
 凍朝手織錦壁(審)中村 鷗 生  
 掛 染彩繡衣裳陽(依)皆川 月 華  
 光 布目象嵌彫金花 三村 昌 弘  
 瓶、菱坊主の図 填輪文壺(依)鹿島 一 谷  
 緑 葉 紗 淺野 廉  
 白銅、遊魚文盤 能勢 政 雄  
 飾瓶表情(依)宮坂 房 衛  
 蛙 萩模樣盛器(參)高野 松 山  
 貓 燒ノ花瓶(シ)清水 六 和  
 燒ノ花瓶(シ)板谷 波 山  
 蛋殼磁具須絵(シ) 鶴首花生(シ)高村 豐 周  
 花 器(參)内藤 春 治  
 彩 雲(依)堀 柳 女  
 棕呂文彫漆手宮 山下 楊 哉  
 彫漆色紙箱(依)佐藤 陽 雲  
 黒味銅壺(シ)海野 建 夫  
 冠鶴之図スク リン(依)磯井 如 眞  
 「寂」衝立 吉岡 勝 二  
 虫之譜フライン 宮窪 博 蕙  
 やたけ屏風(參)吉田 源 十 郎  
 染織壁掛(參)廣川 松 五 郎  
 なかこ 朝顔染屏風(審)般若 佑 弘

魚紋小屏風 尾長 保  
 染色壁面裝飾初 納谷 愛子  
 秋 鑄銅雙獅子浮 飯塚小玕齋  
 鑄銅面時計 (無) 蓮田脩吾郎  
 漆スイトビー小 牧野岩次  
 屏風 朗秋 壁飾 今雪浩三  
 初夏漆衝立 南部吉英  
 ぶどうの函 岩田久利  
 モザイク飾皿 (依) 板谷梅樹  
 友次郎霰鉄瓶 横倉友次郎  
 光のある裝飾 鈴木貫爾  
 (玄関又はテラスの為に)  
 花の 曜 榎木 盛  
 蠟型鑄銅扁壺 池田逸堂  
 (思秋) 織部末立文四方 鈴木生林自庵  
 鐵部木立文四方 鈴木生林自庵  
 攀龍壺 (參) 香取正彦  
 羊齒文花瓶 (依) 伊東陶山  
 青瓷花瓶 (參) 密大森光彦  
 虹彩瑠華 (參) 岩田藤七  
 クリスタル飾鉢  
 (依) 北斗賞 各務鐵三  
 鉄の花さし (審) 芳武茂介  
 トカゲと蝶紋 (特) 政雄  
 花瓶 鑄銅花瓶 小野常雄  
 黒 絵 鉢瀧 一夫  
 クリスタルグラ 吉田 煥人  
 ス花器 カットとグラビールのための  
 即興曲的構成  
 四分一水瓶 (審) 山脇洋二

金胎漆器花瓶き 米納泰三  
 んの窓 銀燐付線文様花 井尾敏雄  
 瓶 磁製扁壺 (特) 内田邦夫  
 黒い花器 西大由  
 クリスタルコンポート (審) 佐藤潤四郎  
 さ ぎ 伊藤 豊  
 花 器 田中千山  
 黒線花瓶 谷口良三  
 砂張盛器 横谷久由  
 白瓷線紋盛器 (依) 岡本為治  
 ボータブルラジ 長谷川惠一  
 鑄銅花器 (依) 松崎福三郎  
 うず盛器 清水卯一  
 青銅華文花器 米田博俊  
 クリスタル花器 各務 満  
 花 挿 (依) 安原喜明  
 やかた花盛器 松原貞嗣  
 牛 置 場 池垣阿久於  
 蝶文銀四方花 (依) 平松宏春  
 瓶 クリスタル花器 青野武市  
 扁 壺 久保駒太郎  
 はないかだ (釣) 森棟澄子  
 花瓶 四ツ耳花瓶 田沼起八郎  
 人形「月」野口晴朗  
 淡青釉花器 桶谷定一  
 唐銅花器 (依) 山本純民  
 芽ばえ(北斗賞) 中島光雄  
 釉彩介子の実花 山澤義輔  
 器 木葉文様大皿 鈴木 茂

八方面取壺 松原保廣  
 トロフキ 田中 勇  
 青い壺 加藤舜陶  
 憩の図パネル 村田吉生  
 蝸牛の曲 瀬賀義雄  
 「たわむれ」壁 (無) 横山白汀  
 面裝飾パネル (無) 横山白汀  
 影漆鴉の風呂先 彼谷芳水  
 屏風 壁面風神雷神(特) 辻 光典  
 夕映小屏風 藤村豊秋  
 風呂先屏風竹垣 冬木理紗男  
 之図 黒釉流線文鈎花 市川通三  
 生 截金風爐先屏風 齋田梅亭  
 裝飾壁面ノ部分 吉岡道隆  
 昼ト夜 漆パネル「街」(無) 高橋節郎  
 と花火 瓦小屏風 池田喜一  
 月明に善を聞く (審) 山室百世  
 雨上り小屏風 大井見太郎  
 女人図漆三曲 (依) 佐治 正  
 屏風 間仕切りスク リン「人と人」 (作品B) 漆器 パネル 小田原俊雄  
 菜景・漆衝立 (依) 番浦省吾  
 漆アジサイ棚 音丸 謙  
 漆 飾 棚 横山玉抱  
 茄子文飾壺 中川鐵男  
 陶器の図花瓶 城戸夏男  
 染附静物花瓶 新開 晃  
 鉄 瓶 宮昌太郎

綿壺 綠 蔭 下口宗美  
 青銅花瓶(アブ 青銅花瓶) 米田美昭  
 色絵葉紋飾皿 松本佐一  
 銀打込貝文花瓶 土屋杏平  
 玉蜀黍花器 加藤庄造  
 漆器栗の春秋沈 眞保由齋  
 金花筒 大場松魚  
 りり鳥詩絵宝石 須賀松園  
 箱 蠟型鑄造水盤幻 舟掛道雄  
 蠟型 漆平宮 酒井静女  
 えんどう 漆平宮 酒井静女  
 花器 蠟型鑄造清流文 松下秀紅  
 瓶 花「浮心」無線七宝 竹島金次  
 花瓶 黄銅打出花瓶(依) 河内宗明  
 切株ノ図花瓶 小川武雄  
 たとば文陶器 伊豆藏壽郎  
 釉裏紅葉紋花器 中里重利  
 猫柳文彫金花瓶 後藤 學  
 白瓷指頭文扁壺 叶 光夫  
 寂 笥 筥 光 家里美千子  
 霰 笥 筥 目黒清光  
 漆「残潮」飾宮 上田哲三  
 布目象嵌菱文宮 い た ち 金田正士  
 鉄緒磁器文花瓶 館野善次郎  
 かんな漆宮 井波唯志  
 「初秋」磁器花瓶 大丸谷南峰  
 波 文 皿 加藤瀧川  
 青銅象嵌花瓶 金森榮一

釉彩 壺 加藤賢三  
 四方形葉文様花 明石義祐  
 樹林図花瓶 高田傳一郎  
 かずら草四曲屏 西村友吉  
 風 二枚折屏風 朝山浦 等  
 「馬」スクリーン 三谷吾一  
 螢光燈照明 石川義夫  
 「びわ」壁面裝飾 藤井 昭  
 漆松竹屏風 武石 勇  
 漆蓮譜二曲屏風 三村比呂志  
 染色二曲屏風 (依) 高久空木  
 卓と柿 松の図染屏風 金丸水明  
 糊染水禽之図 山出守二  
 花 小屏風 藤澤淳二  
 塗装せる船 山形駒太郎  
 や 贈花文染屏風(無) 梶山 伸  
 染屏風湖畔 今西良夫  
 刺繡二曲屏風(さ) 村田彌藏  
 金工半壁面裝飾 加藤宗嚴  
 かべかけ(猿) (依) 木村雨山  
 (書)  
 当 建 詩 山田一郎  
 公子 行 奥村龍雲  
 李白詩二首 高木大鳩  
 過香積寺 淺野貞雄  
 座 右 銘 淺田蓬村  
 春夜宴桃李園亭 近藤壽男  
 白樂天詩 中林子鶴

鳥子才詩燕思亭	中平南海	李白詩送儲邕之	神崎紫峰	春江花月夜	藤田蒼頤	韓昌黎盆池五首	角谷芳齋	李白長干行	谷村喜齋
白樂天詩閑居	津田翠岱	武昌	歸田園居	望月祥堂	良寬詩二首「秋夜」	安原旱雲	公行	淺見錦龍	
李太白詩三田清白		節	田中海庵	五言絕句	杉本長雲	高木俊夫	高青邱詩	工藤祖淵	
正信念仏偈松崎嘉一		李太白詩	宇高示穹	李青蓮之詩二首	泉原壽石	大澤碧	遊黃華山	佐々木坡唐	
萬葉樓秋山一		葉根譚	岩谷長右衛門	李青蓮詩	篠塚新峰	和鮮千子駿鄴州	藍田山石門精舍	大森稚水	
長塚節の歌吉田繁		白頭を悲む翁に	加藤末子	公行	荒井君石	唐詩五律二首	散	中一	
明河篇阿部翠惠		墨水秋夕	長谷川悟石	正信念仏偈	阿部金正	韓愈の詩	月下獨酌	鈴木景堂	
壺中則有天中村淳		秋風辭	林錦洞	白樂天五言古詩一首	永田一華	錄沈佺期游少林詩	王維偶然作四首	前川靜堂	
斷齋画粥金山鑄齋		高青邱之詩	柿沼若石	秋一首	曾根將史	寺詩	白詩二首	川浪青連	
千里贈鴻毛石川南溪		李太白詩古風一	小林典子	白香山庭松詩	真島雄山	杜詩一首	杜詩(五言古詩)	船橋碩城	
存養讀書心田丸方城		良寬詩(五言)	森下南窓	暮過山村	中澤春柳	悲歌高青邱詩	幽人	關	
一徑入幽竹富樫休軒		南圃中題	宮川武弘	觀音經	北垣元康	李頎詩	飲中八仙歌	小西翠山	
曉窓和墨亨(新篇)		杜甫五律四首	大内枝翠	高青邱詩	三村秀竹	寒山詩	後拾遺集	橫田益子	
臨河洗耳土谷益信雲廬		蘇東坡司馬溫公	中村旭坡	普門經	大橋曉山	萬丈潭	なつうた	猶原保昌	
与塵事冥(審松丸東魚		獨樂園	後撰和歌集	訓崔五郎中	藤岡正悟	把酒問月	林和靖詩	綾村勝次	
南船北馬山崎祥石		白秋歌集抄	吉仲ふき	かねすけ集抄	下前香溪	白樂天池上篇	白牡丹	小森玉陽	
掩耳偷鈴小松貫城		金銅仙人辭漢歌	竹澤丹一	飲中八仙歌	川北春江	黃庭堅松風閣詩	拾遺抄	清水影邨	
孤帆一片日邇來伊藤蘇城		李賀	藤	あきのうた	宗田虎藏	李太白詩「流夜郎贈辛判官」	古今和歌集卷第	六	
老子語長而不幸		(依)中村蘭台	將蝦釣鰓(篆刻)	新古今和歌集卷	山下仁輔	杜甫詩	崔子玉座右銘	小出聖水	
展冊乘道言吉益昱堂		十四	古今和歌集卷第	第七賀歌抄	渡邊求古	良寬詩「早秋作」	寒山詩二首	安藤楊石	
洵肝且乘殿木春洋		散りのこり	小山隆	送「秘書丞監還日本」	源元芳子	七言律詩	卜	小菅秩嶺	
窗紙風敲修行(依)藤香石		七言絕句	龜井清堂	小	日本	歸去來辭	草書遊函嶺(依)西脇吳石	太室作	
石欄月印疎桐		白樂天二首「池上閑詠」	八代常山	說書	入山東石	寒山詩三首	早交崖山邊	小川南流	
息以題中原野呂		白樂天二首「池上閑詠」	上田晚雲	伊勢物語抄	杉岡正美	瀧の音	把酒問月	黑川研水	
志在煙波田淵眞澄		白	太乙	杜詩五言古天池	山本激堂	自作七絶六首	山獄重疊(依)大澤雅休	李太白詩山田松鶴	
頂門一針水野東洞		客	太乙	杜詩五言古天池	鈴木天城	哀王孫	劍掃之語(特)菅谷幽峰	夜夫奈美(參)相澤春洋	
唐詩玉華宮岸本太郎		客	太乙	拾遺和歌集抄	東野美周	葉根譚	張謂之詩	小川瓦木	
宋詩四首村瀬昭壽		客	太乙	良寬詩	萩原冬珉	小隱自題(林逋)	湖中对酒作	天石東村	
歸去來辭岡本白濤		客	太乙	後撰和歌集卷第	岡田秋翠	晚			
韓昌黎詩桃源圖		客	太乙						



嘯石詩 岡本松堂  
 石蒼舒醉墨堂 島津半仙  
 望廬山瀑布 中平南谿  
 江上吟 西村桂洲  
 唐詩八首 神谷葵水  
 述 懷 戸田提山  
 紫筍茶歌 高橋蒼峰  
 杜甫秋興四首 伊東參州  
 春題湖上長 依炭山南木  
 安晚秋  
 月 海 (特) 今井凌雪  
 航 水 秋 夕 兼松泛香  
 猛 虎 行 杉本竹俤  
 佐々木如空  
 誦大方広仏華嚴 花山清子  
 經 初冬の和歌 (依) 吉澤義則  
 自作 憶旧遊三首 (依) 小坂奇石  
 常建作 西山詩 墨谷鶴村  
 秋 風 辭 野中鳴雪  
 北門行 (特) 河田一丘  
 寒山詩 (無) 北村九阜  
 古 栢 行 内田鶴雲  
 黃庭 經 藤本竹香  
 幾山河 (無) 桑田笹舟  
 杜少陵詩 三首 (無) 高木哲洲  
 山家集 抄 墨谷フヲワ  
 豐 旗 雲 宮本竹逕  
 雅 歌 太田京子  
 潮 音 (依) 内田鶴雲  
 李白詩 將進酒 水本愛堂

李白 江上吟 井野大雲  
 白樂天詩 勸酒 德野太雲  
 萬法歸一 (審) 津金雀仙  
 翁叔戴平題文 (參) 西川 寧  
 節顯顯詩  
 定 頼 集 抄 前島孝太郎  
 若山牧水歌集抄 難波正明  
 無 題 青山杉雨  
 近江入景 (審) 中村春堂  
 嘉道金石家八 (審) 山崎節堂  
 截句  
 はぎ歌 (依) 羽田春林  
 五言二句 (會) 審豊道春海  
 古 歌 (審) 鈴木梅溪  
 秋 望 (參) 審松本芳翠  
 卷 物 (會) 審尾上柴舟  
 月 陸放翁曉嘆詩 (特) 村上三島  
 大 江 横 (依) 高塚竹堂  
 唐 董 詠 (審) 大池晴嵐  
 骨 董 詠 (參) 川村驥山  
 易 辭 上 伝 (參) 奥田光太郎  
 古今集 序 奧田光太郎  
 寒山詩 (審) 柳田泰雲  
 萬葉の歌 (依) 鈴木翠軒  
 秋 風 (シ) 松井如流  
 沈休文長行歌 (シ) 印南溪龍  
 拾遺和歌集抄 松田英治  
 白詩七律 (參) 審辻本史邑  
 青山近 (審) 上田桑鳩  
 曙 覽 の 歌 出口艸露  
 小大君集 西谷喜一

現代名歌集 鴨居 道  
 元義歌抄 馬場儀一  
 金 槐 集 抄 増田節堂  
 一 後撰和歌集抄 浮乘水郷  
 小大君の歌 池内(艸舟)  
 あはただ集 深山龍洞  
 古今和歌集 岡田英範  
 なかふむのしふ 西井林亭  
 後撰和歌集 坪井信市  
 古今和歌集卷第 二宮重徳  
 十 石川啄木歌集 桑田 和  
 (二) 握の砂  
 後撰和歌集 秋歌 東山一郎  
 山家集 抄 渡邊華風  
 つきかげ帳 倉富康人  
 千載和歌集卷第 留田タニコ  
 三 松 の 戸 奈良島ます子  
 子 供 (無) 日比野 信  
 松 風 集 (特) 谷邊橋南  
 苔 の 袖 (シ) 大石隆子  
 小大君集 山本御舟  
 雲井の月 赤石道子  
 海人の刈藻 松本 直  
 奈 良 平 田 稔  
 山 家 集 抄 石井清川  
 拾遺和歌集抄 村上翠亭  
 新古今集抄 有城英一  
 杜甫詩 (無) 特 赤羽雲庭  
 杜甫歌懷古跡三 (依) 山口蘭溪  
 首 三原研田

杜甫の詩 (無) 廣津雲仙  
 淹 題漁楽図 (特) 森田翠香  
 胡茄の歌 (無) 上條信山  
 七律二首 (依) 平尾孤佳  
 松灯賦詩 (シ) 鈴木汪亭  
 杜甫對(七言律對) 安井壽泉  
 秋興八首中(三詩) 貞廣春山  
 詠懷(白樂天詩) 貞廣春山  
 下天龍川詩 (依) 沖 六 鷗  
 杜甫詩 (シ) 近 藤 秋 簾  
 故郷の古歌 (シ) 田中塊堂  
 虞美人 草 殿村藍田  
 李商隱詩 (依) 宇野雪村  
 養之懷袖 大久保翠洞  
 黃 鷄 啄 黍 伊東快堂  
 老 通 伴 鶴 (審) 園田湖城  
 稽首頌拜 乙部吞海  
 一丘之貉 三田秀泉  
 輕舟已過萬重山 松谷石韻  
 鳴響無留響 叢雅 梅 舒 適  
 吟 善 若 始 ク  
 追涼竹徑 吉川雨邨  
 古 經 照 心 山田桃源  
 有竹不俗 柳澤小舟  
 崇 鬼 神 野阪叫星  
 心無所住而生 (依) 山田正平  
 其心 蓄素守中 (無) 保田孝三  
 朝木蘭飲露夕 河野晶苑  
 秋菊鬱落英  
 滴之如海 森田糸山  
 湖中水色似琅 (依) 高畑翠石

騷 虞 如小林斗雲  
 天 工 人 拙 中澤歸雲  
 無 分 曉 定 森雪堂  
 橫身三界外 廣瀬加陽  
 熊渠射虎 (特) 佐藤桃巷  
 陶犬瓦雞 (參) 審 石井雙石  
 水 淺 沙 平 中 靜 魯 公  
 孤雲去住無定 市村听堂  
 經 國 不 朽 吉野松石  
 出交天下士 説古  
 人書  
 弥勒同龜 (依) 生井子華  
 茶 能 散 悶 内藤江月  
 要樹平個展 30—11月3 京  
 都・土橋画廊  
 ミュウ洋画展 30—11月5 京  
 都ギヤラリ  
 高島達四郎個展 31—11月4  
 資生堂 (批) 美術批評12月  
 (徳大寺公英)  
 印度古代藝術特別展・ガンダー  
 ラ美術展 31 丸の内・  
 工業クラブ  
 一一月  
 片谷隲子個展 1—10 タケミ  
 ヤ (批) 美術批評12月 (植村  
 鷹千代)  
 ブラック展 1—20 大阪市立  
 美術館  
 中央アジア展・表現派展 1—  
 30 鎌倉・近代美術館



武蔵野美術創立記念作品展 1—3 武蔵野美術 北斗会展 1—6 大阪・松坂 屋	一宮藝術祭現代大家洋画展 1—4 名古屋・美交社 松野奏風新作能画展 1—6 大阪・三越	彫刻・いけばな野外展 1—3 京都国立博物館 新制作展 1—13 京都市立美 術館 東洋美術品展観 2 京都・有 鄰館	1 回大和文華館名宝展観(絵画・ 陶磁) 3—30 奈良国立博 物館 笹川由子個展 4—10 フォ ルム	九品庵展 4—8 壺中居 白木正一個展 4—8 サエグ サ	野外彫刻展 4— 池袋駅東 口広場 全国名陶展 4—9 名古屋・ 松坂屋	野間仁根個展 4—10 大阪・ 梅田画廊 6 回第二紀会展 4—9 大阪・ 阪急 陶磁器意匠展 4—9 京都・ 大丸	初霜会展 4—9 日本橋・三 越	4 回西村憲定個展 5—8 資 生堂〔批〕産経28 現代大家十撰展 5—12 新橋 画廊	18 回墨蹟と茶器展 6—9 根 津美術館 国宝法隆寺展 6—30 日本 橋・三越	琉球工藝文化展 6—16 浜 谷・東横 白寿会絵画展 6—9 日本 橋・高島屋〔批〕産経28 薩摩焼並に民藝陶器展 7—15 日本橋・白木屋	21 回 JAN 展 7—12 日本 橋・丸善 大聖寺古郷個展 8—14 上 野・松坂屋	2 回柏風会展 8—12 日本 橋・白木屋〔批〕産経28 小堀進個展 8—10 茨城県商 工会館 麓原会展 8—10 埼玉県本庄 高女	三木翠山在米近作展 8—14 大阪・阪急 1 回デフォルメ会展 9—10 鎌倉・湘南観光会社 6 回南画展 10—12 東京美術 倶楽部	坂口一草個展 10—15 日本 橋・丸善〔批〕産経28	田中佐一郎油絵鑑賞会 10—15 有楽町・山紫 薔薇会展 10—14 資生堂 〔批〕産経28 二葉会展 10—13 黒田陶苑 齋藤博之個展 11—15 サエグ サ	酒井三良日本画展 11—16 日 本橋・三越〔批〕産経28 霜月会展 11—16 日本橋・高 島屋〔批〕産経28 2 回野見山曉治個展 11—20 タケミヤ〔批〕美術批評12月 (福島肇太郎)	3 回現代大家新作日本画展 11—16 大阪・大丸 3 回ジャン洋画小品展 11—16 大阪・阪急 安藤平庵作品展 11—16 松島 ギャラリー 杉全直個展 12—18 フォルム 〔批〕美術批評12月(北園克 衛)	37 回院展 12—23 名古屋・松 坂屋 寺田春式個展 12—16 横浜・ 商工奨励館 美術文化秋季展 12—16 名古 屋・ガスビル画廊 保地謹哉個展 12—19 大阪・ ギャラリー御門	2 回京都版協会展 14— 20 京都・土橋画廊	長岡忠三郎油絵展 15—19 日 本橋・白木屋 6 回榎会洋画展 15—20 資生 堂〔批〕産経28 本年度日展特選・岡田賞受賞作 家展 15—19 光風会館 南米インカ裂展 15—30 根津 美術館 大観・玉堂双璧展 15—30 銀 座・松坂屋〔批〕産経28 丁亥会展 15—22 上野・松坂 屋〔批〕産経28 京都工藝美術展 15—20 京 都・丸物 自由美術京都研究所展 15—22 京都・八木書店ギャラリー 16 回自由美術展 15—24 京都 市立美術館 創立25周年産業工藝試験所公開 展 16—18 産業工藝試験所 第一グループ展 16—20 日比 谷画廊 瑛九個展 16—20 宮崎図書館 画廊 高村光太郎小品展 17—27 丸 ビル・中央公論画廊〔批〕 産経28 2 回梵人展 17—22 日本橋・ 丸善 眞垣武勝個展 17—22 東京画 廊 独立展 17—26 大阪市立美術 館	日本版画院展 18—23 渋谷・ 東横 木村鐵雄個展 18—22 サエグ サ 高村豊周作品展 18—23 日本 橋・三越 2 回五水会展 18—23 渋谷・ 東横〔批〕産経28 日本硝子絵協会硝子絵展 18— 23 渋谷・東横 日月社日本画小品展 18—23 名古屋・松坂屋 美術文化秋季展 18—19 四日 市・三洲百貨店 橋口五葉版画展 18—22 並木 画廊 河井寛次郎陶展 18—23 大阪 ・高島屋 彩々会洋画展 18—23 大阪・ 大丸 伊藤藤郎淡彩画展 18—23 大 阪・阪急 千種会日本画展 18—23 京都 ・大丸 古唐津展 19—21 日本橋・高 島屋 7 回新匠会秋季展 19—23 日 本橋・高島屋〔批〕東京日々 23 6 回造形会展 19—22 大阪・ 丸善 尚美堂展 19—22 壺中居
--	---	--	--	-------------------------------------	---	---	---------------------	---	--	---	---	--	---	--------------------------------	---	--	---	--	-----------------------------	---	---

黒田久美子 個展(第二会場)

20—25 光風会館

鈴木重夫 洋画展

20—21 丸の内・工業クラブ

2 回松田正平 油絵展

20—26 フォルム

上田愚朗 作陶展

20—24 黒田陶苑

五一年協会展

20—27 大阪・ギヤラリー御門

鳳会美術展

20—24 日動画廊

黒田久美子 個展(第一会場)

21—25 資生堂

寺田政明 デッサン展

21—30 タケミヤ [批] 産経 28

2 回竹中三郎 グラフィック展

21—23 京都・土橋画廊

室内構成美術家連盟展

22—26 日本橋・白木屋

酒井三良 新作日本画展

22—27 大阪・三越

小川芋銭 遺作展

23—29 上野・松坂屋

7 回走泥社展

23—25 京都・毎日ホール

1 回独立美術協会六人展

24—29 大阪・フジカワ画廊

武者小路實篤 個展

24—29 壺中居

弥生会展

24—29 弥生画廊

4 回日本現代美術展

25—12月 高松美術館

太田喜二郎 遺作展

27—12月4 京都・市立美術館

新興美術秋季展

27—12月2 銀座・三越

9 回バンリアル展

28—12月7 大阪市立美術館

3 回コンリアル展

28—12月7 大阪市立美術館

主潮社展

28—12月7 大阪市立美術館

庫田登油 絵展

29—12月4 フォルム

日本近代美術展—近代絵画の回顧と展望—

1—1月25 国立近代美術館

伊東深水 新作展

1—4 兼素洞

九品庵展

1—4 壺中居

9 回明治会展

1—4 日動画廊

2 回河内山賢祐 彫刻展

1—6 日本橋・丸善

田原太郎 個展

1—10 タケミヤ

7 回青季会展

1—5 光風会館

3 回安孫子荻隆 個展

1—4 資生堂

小出卓二 近作個展

1—6 大阪・丸善

川瀬竹春 陶藝展

6—9 黒田陶苑

東陶会新作展

6—11 大阪・三越

室町・桃山・江戸時代茶湯釜展

7—20 根津美術館

2 回芝英会展

7—12 日本橋・高島屋

齋藤三郎 作陶展

7—13 上野・松坂屋

佐伯米子 個展

7—10 日動画廊

レオナルド・ダ・ヴィンチ複製画展

7—日比谷・第一生命ホール

3 回百二会展

8—11 兼素洞

工藝洋和会展

8—14 銀座・和光

香月泰男 近作個展

8—13 大阪・フジカワ

萌木会展

9—14 日本橋・三越

京都工藝美術展

9—14 日本橋・三越

水明会日本画展

9—14 日本橋・三越

水彩連盟展

9—14 日本橋・三越

東陶会新作陶展

9—14 日本橋・三越

新作日本画展

9—13 日本橋・丸善

1 回白鳥會洋画展 9—14 大

阪・阪急

田中以知庵新作画展 9—14

大阪・高島屋

伊東深木新作発表展 9—14

大阪・大丸

橋本節哉油絵展 9—15 京都

ギャラリー

尚美展 10—13 臺中居

3 回三浦小平作陶展 10—16

黒田陶苑

田中忠雄個展 10—13 資生堂

鼎会展 10—14 日本橋・白木

屋

山口薫一九五二年作品展 10—15

15 フォルム (批)美術批評

28年1月(植村鷹千代)

ベルギー現代美術展 10—25

酒田・本間美術館

古代東洋鏡鑑賞展 11—12 早

大東洋美術陳列室

8 回日展 11—28 京都市立美

術館

辻利平個展 12—16 大阪・梅

田画廊

下總大慈恩寺所藏中世仏展

12—13 早大隈講堂

大森啓助個展 12—16 大阪・

梅田画廊

桐野江節雄油絵小品展 13—18

光風会館

菅野圭哉油絵近作個展 13—19

兜屋画廊 (批)美術批評28年

1月(植村鷹千代)

美術家連盟年末助け合い運動展

13—17 銀座・松坂屋

寺田春武個展 13—16 横浜・

商工奨励館

京都陶藝大家展 13—18 大

阪・阪急

春泥会小品画展 13—19 大

阪・三越

古柏会展 13—17 日本橋・高

島屋

太平洋画会秋季展 14—19 上

野・松坂屋

朔日会展 15—18 資生堂

走泥社作陶展 15—20 和光

歳末美術小品展 15—26 中央

公論画廊

橋本花子近作個展 15—18 大

阪・フジカワ

古作工藝特別展 15—2月28

大阪・日本工藝館

刑部人油絵展 16—21 日本

橋・三越

井上良齋新作陶展 16—21 日

本橋・三越

飯山勇・白根光夫油絵展 16—

21 日本橋・三越 (批)毎日

伊東翠壺・奎文子新作陶藝展

16—21 大阪・大丸

山本正個展 17—22 フォルム

(批)美術批評28年1月(植

村鷹千代)

3 回色鳥会展 17—19 京都・

土橋画廊

桃山美術研究所展 17—22 京

都ギャラリー

香取秀真贊助出品佐藤大寛個展

18—21 日本橋・高島屋

35 周年尚美展 18—20 黒田陶

苑

古美術歳末展 18—30 臺中居

郭仁植新作展 18—20 サエグ

サ

永田精二洋画展 19—23 資生

堂

8 回現代美術展 19—25 都美

術館

光風会々員小品油絵展 19—25

光風会館

高田誠新作油絵小品展 19—24

大阪・阪急

牛島憲之近作展 19—25 大

阪・フジカワ

水明会日本画展 20—25 大

阪・三越

國井應祥茶掛展 20—22 京

都・土橋画廊

城所昌夫個展 21—31 タケミ

ヤ

沈雁女士画展 21—22 中国大

使館

日本古工藝品展 22—25 日本

橋・高島屋

真赤土工藝展 22—26 日本

橋・三越

第二紀会展 22—29 名古屋・

松坂屋

赤松麟作大阪名所版画展 22—

31 大阪・阪急

濱田稔個展 22—26 サエグサ

野口謙次郎中国スケッチ展

22—23 日比谷・第一生命

三岸節子個展 23—27 大阪・

梅田画廊

和田英作近作展 23—27 大

阪・美交社

武者小路實篤個展 24—29 壺

中居

大須賀喬・渡辺弘行・横山義雄

三人展 24—26 資生堂

桜新人賞作品展 27—31 日本

橋・三越

商業美術新興運動展 27—31

日本橋・三越

「物故者」 ページ (135～140 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the Articles of the Deceased (pp.135-140)

Cut for protection of the personal information



# 美術文献目録 (昭和二十七年)

## 凡 例

一、ここに採録した文献はわが国において昭和二十七年中に発行された単行図書、定期刊行物、および諸新聞に掲載されたものである。但し二十六年の文献の補遺も適宜組み入れた。

二、単行図書の形で刊行されたもののうち多数の論文を集録したものは単行図書としてあげた他、その内容を定期刊行物中にも組み入れた。

三、現代美術文献目録は明治大正以後の美術に関するものを集めた。

四、定期刊行物所載の西洋美術に関する文献は別に一括してまとめた。

五、東洋古美術文献目録では編輯の都合上刀剣等を割愛した。

六、建築ならびに工藝の範囲は本文最初の凡例に記した範囲にとどめた。

七、現代美術文献目録と西洋美術文献目録において各項目内の配列は、単行図書では内容別により、定期刊行物所載文献では主として所載雑誌名による五〇音順、同一雑誌の配列はその発行順とし、古美術関係では内容別によつた。

八、この目録をつくるために採録した定期刊行物および新聞は下のとおりである。但し例外の特殊刊行物等は記載しなかつた。

九、雑誌の号数は主として通巻番号を採用した。尚三〇三—三〇五は三〇三号、三〇四号、三〇五号に亘ることを示し、八・一一は昭和二十七年八月一日と二日附の新聞を示す。

朝日新聞	アサヒ・ニュース	アトリエ
羽陽文化	藝術新潮	建築学会研究報告
建築技術	建築雑誌	建築史研究
建築と社会	考古学	考古学雑誌
工芸ニュース	国華	古代
古代学	古代学研究	古文化財之科学
三彩	史学雑誌	史観
史迹と美術	上代文化	書品
新建築	神道史学	世界
淡交	中央公論	刀剣美術
東京新聞	東京タイムズ	東方学
東方学報(京都)	東洋史研究	日本経済新聞
日本の茶道	日本美術工芸	日本史研究
日本歴史	博物館ニュース	美術学
美術研究	美術史	美術手帖
美術批評	佛教藝術	佛教史学
文化財月報	文化史学	文藝
文藝春秋	墨美	毎日新聞
みづゑ	ミューゼウム・	明治大正文学研究
大和文華	読売ウイクリー	読売新聞
龍谷史壇	歴史学研究	歴史評論

(五〇音順)

# 目次

## 〔定期刊行物所載文獻〕

### 現代美術關係文獻

總說 雜誌別五〇音順……………一三

洋画……………一四

日本画……………一四

版画……………一四

彫刻……………一四

工藝……………一四

建築……………一五

作家 人名別五〇音順……………一五

時評 雜誌別五〇音順……………一五

隨筆……………一七

雜……………一八

明治大正以降美術……………一九

行政・教育……………一九

### 西洋美術關係文獻

總說 雜誌別五〇音順……………一五

繪画 雜誌別五〇音順……………一五

彫刻……………一五

建築……………一五

工藝……………一五

展覽會其他……………一五

### 東洋古美術關係文獻

總說……………一五

繪画……………一五

日本……………一五

中国、其他……………一五

書蹟、篆刻、文房具……………一五

日本……………一五

中国……………一五

彫刻……………一六

日本……………一六

朝鮮、中国、其他……………一六

建築・庭園……………一六

日本……………一六

中国、其他……………一六

工藝……………一六

總說……………一六

陶磁工……………一六

金工……………一六

木漆工……………一六

染織工……………一六

硝子工……………一六

其他……………一六

考古學關係……………一六

歷史關係……………一七

### 〔單行圖書〕

現代美術關係 西洋美術關係……………一七

東洋古美術關係……………一七

# 定期刊行物所載文献

## 現代美術関係文献

### 総説

表現の世界的性と民族性——若い画家達に——  
川島理一郎 アトリエ 三〇七

絵画と装飾(座談会)  
阿部 展也 三〇八  
勝見 雄策 三〇八

藝術と人生(座談会)  
阿部 展也 三〇一  
他四人 藝術新潮 三〇一

藝術批評について(座談会)  
小林 秀雄 三〇九  
吉田 恒存 三〇九  
福田 逸治 三〇九

純粹美術と生活美術  
和田 定夫 二〇ノ  
今泉 篤男 八・一

日本の美術界に訴える  
久野 亮 五五  
柳 亮 五五

東西美術略史(三)  
持丸 一夫 五五  
山田 智三郎 五五

東西美術略史(四)  
持丸 一夫 五五  
山田 智三郎 五五

東西美術略史(五)  
持丸 一夫 五五  
富永 惣一 五五

東西美術略史(六)  
鈴木 多里 五九  
森口 多里 五九

東西美術略史(七)  
鈴木 多里 六〇  
嘉門 安雄 六〇

東西美術略史(八)  
鈴木 多里 六一  
嘉門 安雄 六一

東西美術略史(九)  
河北 倫明 六三  
植村 鷹千代 六三

美術文献目録

近代画における遠近法について  
松原 久人 美術手帖 五七

藝術と実験  
瀧口 修造 美術批評 五

美術に加えられた弾圧と抵抗の歴史  
柳 亮 六

批評精神とはなにか  
花田 清輝 九

藝術の社会的責任  
岡本謙次郎 二〇二  
和田 定夫 二一三

一九〇〇年以後  
小林太市郎 佛教藝術 一六

自然女神と藝術——アジア的信仰の歐洲的表現について——  
河本 敦夫 五六〇

シュールレアリスムの宗教性  
宮本 三郎 みづゑ 五六〇

### 洋画

古いものと新しいもの  
富永 惣一 アトリエ 三〇二

マチエールとはどういうものか  
阿部 展也 三〇三

古い絵と新しい絵  
川口 軌外 三〇三

グアッシュ絵の材料に就いて  
古茂田守介 三〇六

ペインティングナイフの使用法  
伊原宇三郎 三〇六

下塗について  
森田 元子 三〇六

絵具の使用  
山下 登 三〇六

油絵の疾患を避ける根本問題  
小山 良修 三〇六

水彩画の描き方  
中村 善策 三〇六

油絵筆のこと  
久保 守 三〇六

私はこの点に苦心する  
岡 鹿之助 アトリエ 三〇六

オブジェと作品  
南大路 龍男 三〇七

溶油について  
桂 ユキ子 三〇七

超現実主義絵画の技法と鑑賞  
山口 薫 三〇七

緑色の扱い方  
古澤 岩美 三〇七

洋画家への提言——新しがりにについて——  
石井 柏亭 三〇七

新緑風景の描き方  
川端 龍子 三〇七

前衛絵画の国際性とクリマの問題  
足立源一郎 三〇八

夏の静物のモチーフ  
松本 弘二 三〇八

肖像画  
植村 鷹千代 三〇八

鉛筆で描くこと  
伊藤慶之助 三〇八

裸体画について  
奥野信太郎 三〇八

着衣人物の描き方  
三田 康 三〇八

群像について  
吉岡 憲 三〇八

構図の話  
木下 孝則 三〇八

点景人物の扱い方  
大澤 昌助 三〇八

国際美術展を語る  
寺田 竹雄 三〇八

日本国際美術展の感想  
野口彌太郎 三〇八

グラッッシに就て  
諸 氏 三〇八

国際美術展ベスト・テン(座談会)  
麻生 三郎 三〇八

ローマの日本人画家  
黒田重太郎 三〇八

近代絵画の見方  
諸 氏 三〇八

国際美術展の感想  
長谷川路可 三〇八

技法ノートーデッサンについて	林 武	美術手帖	五四
技法ノートーパステル画の描き方	脇田 和	〃	五五
技法ノートー水彩(静物を例にして)	鈴木信太郎	〃	五六
技法ノートー油絵(1)人物画について	安井曾太郎	〃	五七
技法ノートー油絵(2)風景の場合	野口彌太郎	〃	五八
技法ノートー油絵(3)静物画の場合	中谷 泰	〃	五九
技法ノートー構図と感動(1)	三雲祥之助	〃	六一
技法ノートー構図と知性	三雲祥之助	〃	六三
超近代的絵画はどう発展するか	岡本 太郎	美術批評	七
日本でのフォーヴィズム	徳大寺公英	〃	〃
抽象絵画への道	川口 軌外	〃	〃
近代絵画の批評	今泉 篤男	〃	八
光・影・物体	阿部 展也	〃	〃
近代絵画の土壌	裕 伊之助	〃	九
日本のフォーヴ再論	寺田 透	〃	〃
徳大寺公英に答える	梅原龍三郎	〃	一〇
近代絵画の性格(対談)	今泉 篤男	〃	〃
油絵の線	須田國太郎	墨 美	一三
一九五二年サロン・ド・メエ出品発表	吉川 逸治	みづゑ	五五九
表現と描写	海老原喜之助	〃	五六〇
近代絵画	吉川 逸治	〃	五六三
日本のモダンアート	植村騰千代	読売ウイ	七・六
日本におけるフ	瀧口修造	読売夕刊	サヤハ
ランス美術	瀧口修造	〃	〃

日本画

世界から見た日本の画―ビエンナーレ国際展出品をめぐる	瀧口 修造	読売夕刊	九・六
日本画の新人と課題	河北 倫明	朝日夕刊	七・三
日本画家への提言―古徑展を見て	古澤 岩美	アトリエ	三〇七
日本画の再発見(座談会)	山口端 龍子	〃	〃
伊東 深水	福田平八郎	藝術新潮	三ノ八
河北 倫明	矢代 幸雄	〃	三ノ三
現代と宗教画―日本の仏教画について	河北 倫明	三 彩	五七
現代日本画の批評的展望	北川 桃雄	〃	〃
創造と伝統―現代日本画	河北 倫明	〃	五九
秋の日本画展望	柳 亮	〃	〃
最近の日本画とその近代意識	日本 画 白 書	水澤 澄夫	〃
現代日本画の問題(座談会)	現代日本画の問題	画家三氏他	博物館
日本 画 白 書	河北 倫明	墨 美	一三
日本画の現状	河北 倫明	読売夕刊	九・三
銅版画の作り方	濱口 陽三	アトリエ	三〇三
子供の描画の導き方	倉田 三郎	〃	三〇六
日本国際美術展の版画など	恩地孝四郎	〃	三〇八
絹 版 画 の 話	石垣榮太郎	〃	三〇九
現代版画について	藤懸 静也	アルス・グラフィック	四
小林 清 親	近藤市太郎	〃	〃

彫刻

版 画 とは 何 か	恩地孝四郎	藝術新潮	三ノ五
版 画 談 義	石井 鶴三	〃	〃
版 画	石井 哲郎	美術手帖	五三
ミヨコ・イトウの石版画	柏田 泰次	〃	〃
対話	瀧口 修造	〃	〃
現代版画の問題―座談会―	小野 忠重	みづゑ	五六一
現代版画の躍進	恩地孝四郎	〃	〃
現代版画の躍進	駒井 哲郎	読売夕刊	八・四
吉川 逸治	〃	〃	〃

工 藝

彫刻の見方、その影刻の中には何があるか	本郷 新	アトリエ	三〇一
誰にでも出来るセラコッタの焼き方	木内 岬	〃	三〇七
石膏の正しい使用法	金成 旭峰	美術手帖	六三
国際彫刻競技	朝倉 文夫	毎日夕刊	七・三
日本のよさを―家具によせて―	石垣 綾子	アトリエ	三〇八
染 色 の 話	異 勇	〃	三一一
モダンリビングとインダストリアルデザインを語る	諸 氏	工芸ニュース	三〇一
一九五一年インダストリアル・デザイン展の展望	明石 一男	〃	〃
一九五一年の輸出と工芸(対談)	服部 茂夫	〃	〃
希むたい工芸の認識と理解	兼坂 隆一	〃	〃
リビング・デザイン	松崎福三郎	〃	〃
剣持 勇	〃	〃	〃



自動車のデザイン 森本真佐男 工芸ニユ

デザインの新しい泉を求めて 勝見 勝 三ノ三

包装デザインへのメ 松川 泰二 三ノ三

新しい模様への追求 工芸指導所 調査課 三ノ三

贈られたイームズ・チエアについて 剣持 勇 三ノ三

イームズ氏のプラスチックを使用した椅子 小杉 二郎 三ノ三

色覚における褪色現象について 大島 正光 三ノ三

ハーバード・リードとD・R・U (デザイン探究団) 勝見 勝 三ノ四

狭い室内の配色計画 星野 昌一 三ノ五

日本のデイスプレー 勝見 勝 三ノ五

デイスプレー・デザインについて 山脇 巖 三ノ五

コマ・シヤル・デイスプレー 橋本 徹郎 三ノ六

駅の デザイン 菊池 重郎 三ノ六

国鉄とP・R・デザイン 龜倉 雄策 三ノ六

交通機関のデザインを語る 諸 氏 三ノ六

交通機関の車両デザイン 工芸指導所 意匠課・調査課 三ノ六

Organic Inorganic 有機的と無機的 水谷 武彦 三ノ七

形態的にみたカメラとそのデザイン 金丸 重嶺 三ノ七

デザインと商品の固有 山崎 幸雄 三ノ八

美しきもの之工芸なり 山崎覺太郎 三ノ八

包装デザインを語る 西川 友武 工芸ニユ 三ノ九

デザインエッセンスとしての巨視的現象 日本の金具 山口 正城 三ノ九

職業としてのインダストリアル・デザイナ 山脇 洋二 三ノ九

フランスへ出陳された現代日本陶藝展 勝見 勝 三ノ九

名工天狗久 加藤 増夫 工芸 一六二

漆藝家・名人良哉 朝日・現代日本陶藝展 館林唐一郎 一六六

展示描 新しい古備前 加藤 増夫 一六七

染織と生活 岡田 譲 博物館 ニュース 一六八

きものに憑かれる人ときもの ガ ラ ス 花柳章太郎 五九

日本にきたイームズの椅子 津口 三郎 六三

新日本感覚の建築・美術工芸展示会について 剣持 勇 美術手帖 五三

タイル・モザイクの壁面について 吉田五十八 五八

モダン・デザイン モダン・デザイン 龜倉 雄策 六〇

やさしい工芸(打ち出しの応用) 北代 省三 六三

リーチの工房で 山本 常一 六三

商品近代化と工業デザイン 里見 肇 六三

新日本感覚の展示会 剣持 勇 毎日 二・八

柴田是真作、鳥鷲 吉村 順三 みづゑ 五五八

蒔絵小箱 吉岡 道隆 アム ミューゼ 一六

建 築

建築絵画彫刻のレ・ユニオン 丹下 健三 アトリエ 三〇八

塔のボエム 藤島亥治郎 藝術新潮 三ノ二

モデル・ハウス 河村幸次郎 三ノ三

建築の近代主義的傾向 稲垣 榮三 建築雑誌 七八八

一九五二年建築界展望(特輯) 田邊 泰他 七九三

現代建築とモダン・アート 西川 曉 建築文化 六二

新日本茶道展の茶室について 堀口 捨巳 六三

鎌倉近代美術館を観る 岸田日出刀 六三

日本の建築家諸君に 梅原龍三郎アトリ 九ノ二

神奈川県立近代美術館 吉田五十八 九ノ二

慶 応 塾 坂倉建築研究所 新建築 二ノ一

建築と絵画の協力について(1)住宅と美術 谷口 吉郎 新建築 二ノ二

橋の美しさについて 野口イサム 新建築 二ノ二

橋の美しさについて 池邊 陽 六〇

建築と絵画の協力について(2)壁面・その他 対話 展也 六一

都心のビル 吉村 順三 毎日 六・元

表慶館と明治の洋風建築 阿部 公正 アム ミューゼ 一七

新建築評判記 藤島亥治郎 読 売 二・三

## 作家

青山義雄を語る	別府貫一郎	アトリエ	三〇七
アトリエ訪問、朝井	小泉 清	美術手帖	五六
閑右衛門	金重 陶陽	日本美術	一六八
ノグチ氏の仕事に訓	文六	文藝春秋	三〇一
えるもの	岡本 太郎	美術手帖	六三
イサム君	高見 順	美	一九
イサム・ノグチの仕事	吉川 逸治	墨	美
アトリエ訪問 イサ	山口 淑子	美術新潮	三ノ六
ム・ノグチ	瀧口 修造	みづゑ	五六八
ノグチ・イサムの藝	徳大寺公英	美術手帖	五五八
術	荒垣 秀雄	美術手帖	五八
日本に生きたる(対談)	吉田五十八	美術新潮	三ノ六
ふしぎな藝術の旅	柳 亮	東京タイ	二・三
イサム・ノグチ小	徳大寺公英	東京タイ	二・三
論	柳 亮	東京タイ	二・三
梅原龍三郎試論	徳大寺公英	東京タイ	二・三
アトリエ訪問 梅原	徳大寺公英	東京タイ	二・三
龍三郎の印象	徳大寺公英	東京タイ	二・三
梅原龍三郎新画室応	徳大寺公英	東京タイ	二・三
答	徳大寺公英	東京タイ	二・三
梅原龍三郎と安井曾	徳大寺公英	東京タイ	二・三
太郎(文化殿堂の受	徳大寺公英	東京タイ	二・三
賞に際して)	徳大寺公英	東京タイ	二・三
梅原、安井氏と画風	徳大寺公英	東京タイ	二・三
展覧会散歩(漆原英	徳大寺公英	東京タイ	二・三
子)	徳大寺公英	東京タイ	二・三
海老原喜之助のこと	徳大寺公英	東京タイ	二・三
海老原喜之助の「騎	徳大寺公英	東京タイ	二・三
馬」など	徳大寺公英	東京タイ	二・三
人物評海老原喜之助	徳大寺公英	東京タイ	二・三
福澤一郎・海老原喜	徳大寺公英	東京タイ	二・三
之助展の示唆するも	徳大寺公英	東京タイ	二・三

太田忠氏の作品	太田 忠	アトリエ	三一〇
私の絵について	小磯 良平	アトリエ	三一〇
太田忠君の藝術	今泉 篤男	美術手帖	六三
ニューヨークの岡田	和田 定夫	みづゑ	五五八
謙三氏	東郷 青児	アトリエ	三一二
スイスに於ける萩須	麻生 三郎	美術手帖	五四
高徳個展	中井 太郎	美術手帖	五四
織田廣喜のこと	中井 太郎	美術手帖	五四
小山田二郎の藝術	中井 太郎	美術手帖	五四
創作版画家 恩地孝	中井 太郎	美術手帖	五四
四郎氏を訪ねる	中井 太郎	美術手帖	五四
アトリエ訪問 恩地	中井 太郎	美術手帖	五四
孝四郎	中井 太郎	美術手帖	五四
名人と語る 香取秀	中井 太郎	美術手帖	五四
眞(対談)	中井 太郎	美術手帖	五四
アトリエ訪問 川口	中井 太郎	美術手帖	五四
軌外(対談)	中井 太郎	美術手帖	五四
川口軌外の藝術	中井 太郎	美術手帖	五四
或る風景の場合 風	中井 太郎	美術手帖	五四
間完の絵について	中井 太郎	美術手帖	五四
菅野圭哉	中井 太郎	美術手帖	五四
木内克さんのこと	中井 太郎	美術手帖	五四
プロフェッサー・ク	中井 太郎	美術手帖	五四
ニヨシ	中井 太郎	美術手帖	五四
熊谷守一論	中井 太郎	美術手帖	五四
黒瀬英雄の人と作品	中井 太郎	美術手帖	五四
名人と語る 黒田辰	中井 太郎	美術手帖	五四
秋(対談)	中井 太郎	美術手帖	五四
アトリエ訪問 小絲	中井 太郎	美術手帖	五四
さんとの四時間	中井 太郎	美術手帖	五四
小杉二郎の人と作品	中井 太郎	美術手帖	五四
アトリエ訪問 古茂	中井 太郎	美術手帖	五四
田守介	中井 太郎	美術手帖	五四
齋藤清との対話	中井 太郎	美術手帖	五四
齋藤愛子の藝術	中井 太郎	美術手帖	五四
高品達四郎の近業	中井 太郎	美術手帖	五四

高村光太郎氏を訪ね	國安 芳雄	アトリエ	三一二
て	宮崎 稔	アトリエ	三一二
高村光太郎きき書	谷口 雅春	美術新潮	三の六
日本画のピカソ(谷	吉井 忠	アトリエ	三一二
角日沙春のこと)	鈴木 道次	工芸ニユ	二〇ノ
鶴岡政男について	富永 惣一	アトリエ	三〇八
中井太郎君の家具	山口 蓬春	美術批評	一
中川一政論	山口 蓬春	美術批評	一
名人氣質を語る 野	山口 蓬春	美術批評	一
口眞造(対談)	山口 蓬春	美術批評	一
野間仁根を語る	山口 蓬春	美術批評	一
裕伊之助論	山口 蓬春	美術批評	一
長谷川路可氏の壁画	山口 蓬春	美術批評	一
板東君枝	山口 蓬春	美術批評	一
福澤一郎論	山口 蓬春	美術批評	一
画家の祖国意識フ	山口 蓬春	美術批評	一
ジタと萩須のこと	山口 蓬春	美術批評	一
パリの返り新参ー藤	山口 蓬春	美術批評	一
田嗣治・パリ放談ー	山口 蓬春	美術批評	一
フジタの近作より	山口 蓬春	美術批評	一
マドリッドにおける	山口 蓬春	美術批評	一
フジタの個展をみて	山口 蓬春	美術批評	一
アトリエ訪問 村井	山口 蓬春	美術批評	一
正義	山口 蓬春	美術批評	一
柳宗理の人と作品	山口 蓬春	美術批評	一
素描・山口薫論	山口 蓬春	美術批評	一
アトリエ訪問 山口	山口 蓬春	美術批評	一
薫氏のこと	山口 蓬春	美術批評	一
東西の感性交流	富永 惣一	朝	一・二〇
生活造形の歴史	今 和次郎	朝	一・三
美術交流と伝統	河北 倫明	朝	一・三
歴史は繰かえす	近藤市太郎	朝	三・二

## 時評



何から何を学んだか (わが画歴)	三雲祥之助	アトリエ	三一二	静物画家の希い	三岸 節子	工藝ニユ	三ノ二	色のない暮し	花森 安治	アトリエ	三〇六
巴里四十年前の追憶	長谷川 昇	タ	タ	食欲と色彩	大智 浩	タ	三ノ五	三つの無理(児童画)	宮脇 公實	タ	タ
暗い風景と明るい風	井上 靖	タ	三一一	私のガラス器	山脇 道子	タ	三ノ六	夏の服装美	谷 長二	タ	三〇七
何から何を学んだか (わが画歴)	鳥海 青兒	タ	タ	大きな発端	青野 季吉	博物館 ニュース	五八	洋画家への提言	川端 龍子	タ	タ
パリ便り	佐藤 敬	タ	タ	フランスから帰つて	秋山 光和	タ	五九	絵画と装飾 座談会	勝見 展也	タ	三〇八
梅	安田 鞆彦	藝術新潮	三ノ一	父と博物館	水原 徳言	タ	六二	画家と舞台装置	伊藤 嘉朔	タ	三〇九
グエスヴィオから浅	梅原龍三郎	タ	タ	不幸な絵	小堀 杏奴	タ	六五	アンケート・諸家の	西田 武雄	タ	三一一
巴リの画学生たち	田淵 安一	タ	タ	アメリカ三等旅客	三岸 節子	文藝春秋	三	絵具・筆・油・画布	日本美術書考そのI	タ	タ
湯河原雑話	前田 青邨	タ	タ	美術館と私	白龍幾之助	タ	六	そのII	日本美術書考そのII	タ	三一二
コレクシヨンの理想	安井曾太郎	タ	タ	私のパリ土産	石橋正二郎	タ	七	国際美術展ばやり	竹田道太郎	藝術新潮	三ノ五
夫婦あかき親子あか	石橋正二郎	タ	三ノ二	美人画	植村麗千代	タ	八	お光さま美術館	末松 正樹	タ	三ノ六
永遠の女性	三岸 節子	タ	タ	画家の領分	石井 柏亭	タ	一一	写真美術の水準と理	徳川 夢聲	タ	三ノ八
伴のアブスト	東郷 青兒	タ	三ノ三	巴里通信	三岸 節子	タ	タ	想(座談会)	木村伊兵衛	タ	三ノ三
在米日本人画家の生	中川 紀元	タ	三ノ四	ボッセイドからスエ	佐野繁次郎	タ	タ	終戦後の書道団体の	土門 恵子	タ	タ
活法	石垣榮太郎	タ	三ノ五	深みの感覚	川島理一郎	(別冊)	二五	動き—現代書道のあ	阿部 展也	タ	タ
シュールレアリスト	阿部 展也	タ	タ	私のこと	富永 惣一	タ	五六〇	り方(一—III)	松丸 東魚	書 品	三—言
阿修羅幻想	古澤 岩美	タ	タ	私の素描	福澤 一郎	みづゑ	五六二	明治大正文墨譚(一)	宇野 雪村	タ	タ
画をかく自分	武者小路實	タ	三ノ六	雑	安井曾太郎	タ	タ	児童画と芸術	松井 如流	タ	タ
私の美学	香月 泰男	タ	タ	ネオンサインの表情	河野 鷹思	朝日夕刊	七・二	素人画家のことも	高畑 翠石	東京タイ	三四
遊欧雑記	梅原龍三郎	タ	三ノ二	パリの行き方	福島繁太郎	タ	七・三	漫画のこころ	佐藤 敬	東京タイ	五・二
独立独歩—小自叙伝	北大路魯山人	タ	タ	商業美術の方向	新井静一郎	タ	九・四	映画「上代彫刻」—企	植村鷹千代	東京日	八・七
小自叙伝	イサム・ノ	タ	三ノ二	新しい美術の映画	土方 定一	アトリエ	三〇二	画から完成まで—	岡部 冬彦	東京日	タ
右と左の両眼(二科	グチ	タ	タ	神奈川県立近代美術	三雲祥之助	タ	タ	回想の博物館	矢島 恭介	博物館	五六
理論部員の展覧会散	菊岡 久利	タ	タ	文庫本とデザイン	土方 定一	タ	三〇三	ブリヂストン美術館	嘉田 安雄	タ	タ
八十の手習ひ	丸木 スマ	タ	タ	ブリヂストン・ギヤ	勝見 勝	タ	三〇四	美術映画製作への希	奥平 英雄	タ	五七
巴リの留学決算書	船戸 洪	タ	三ノ三	新聞のカットに就て	土方 定一	タ	タ	美術・藝術・実験映	望 英雄	タ	タ
機関士画家の記	太田 忠	タ	タ		勝見 勝	タ	三〇五		小池 新二	タ	タ



神奈川県立近代美術館	小山富士夫	博物館	五七
九州の博物館施設	鎌原 正巳	ニユース	五八
美術映画に望む	原田 實	シ	シ
地方博物館ルポル	シ	シ	五九
タージユ(白鶴)神	シ	シ	六四
戸市立(倉敷)大原、高	シ	シ	六四
松市立各美術館	シ	シ	六五
祇園会	竹内 逸	シ	六五
関西博物館連盟につ	望月 信成	シ	六五
いて	浅野 長武	シ	六五
博物館創立八十周年	安倍 能成	シ	六五
を迎えて	久保貞次郎	美術手帖	五三
博物館への私のねが	勝見 勝	シ	五四
い	大久保 泰	シ	五七
児童画の独立	佐田 勝	シ	五九
原子模様とF・P・	三輪 福松	シ	六〇
G「科学と美術の結	伊藤 嘉朗	シ	六〇
婚	大久保 泰	シ	六〇
ブリヂストン美術館	安藤 更生	シ	六〇
案内	池田 榮	シ	六〇
たのしい硝子絵	天羽 義安	シ	六〇
美術書について	瀧口 修造	シ	六〇
舞台装置の話 対談	瀧口 修造	シ	六〇
古代彫刻の写真作家	瀧口 修造	シ	六〇
たち	瀧口 修造	シ	六〇
「多士子供アトリエ	瀧口 修造	シ	六〇
の実態	瀧口 修造	シ	六〇
バステル画の保存に	瀧口 修造	シ	六〇
ついて	瀧口 修造	シ	六〇
演奏会と造形・実験	瀧口 修造	シ	六〇
工房現代作品演奏	瀧口 修造	シ	六〇
会	瀧口 修造	シ	六〇
シヴザリエと画家	瀧口 修造	シ	六〇
たち	瀧口 修造	シ	六〇
児童と美術	瀧口 修造	シ	六〇
童心美術をめぐる	瀧口 修造	シ	六〇
児童画の諸問題	瀧口 修造	シ	六〇

ユーモアについて	岡本謙次郎	美術批評	七
第四回世界美術評論	富永 惣一	シ	一一
家会議	高島達四郎	文藝春秋	二五
額 縁	谷口 吉郎	(別冊)	二六
近代美術館	原 弘	毎日夕刊	二・一
日本商業美術の現況	山名 文夫	シ	三・七
ひやかし半分の鑑賞	藤澤 典明	シ	三五
鎌倉近代美術館につ	池田 克己	みづゑ	五五八
いて	矢島 恭介	シ	一六
博物館の庭園	飯島 勇	シ	一九
応挙館と九条館	嘉門 安雄	シ	一九
博物館有名コレクシ	小西 彦磨	読 売	三・六
ョン原家旧蔵近代日	今 日出海	読売夕刊	二・二
本画と三越蔵納画	シ	シ	二・二
夜の色彩批判	シ	シ	二・二
漫画について	シ	シ	二・二
ワグマンより現代	木村 莊八	朝 日	二・八
漫画まで	佐伯 米子	アトリエ	三〇四
佐伯祐三よもやま	隈元謙次郎	シ	三六八
日本洋画発達史	長野 亘	羽陽文化	一五
(一―三)	廣津 和郎	藝術新潮	三ノ四
高橋由一と山形県	林 武	シ	三ノ五
小出の「Nの家族」	山本 正男	国 華	七三、七
先覚者 萬鐵五郎	下	シ	七三、七
明治時代の美術思想	河北 倫明	日本の美	七三、七
上、中の一、中の一	中吉 桐軒	日本美術	一六一
下	工藝	シ	一六一
狩野芳崖の藝術	工藝	シ	一六一

明治大正以降美術

行政・教育

博物館八十年略史	矢島 恭介	博物館	六二一
私はこうみる「黒田	中村傳三郎	ニユース	六六
清輝」	徳大寺公英	シ	六三
国立博物館建築の思	内田 祥三	シ	六四
い出	久富 貢	美術手帖	五二
フエノロサについて	佐伯 米子	シ	五二
おもい出	中川 紀元	シ	五二
困ったこと(古賀春	竹田道太郎	シ	五二
江)	隈元謙次郎	シ	五二
青春譜(岸田、古賀	河北 倫明	シ	五二
佐伯)	木村 莊八	シ	五二
美校の二教授(黒田、	土方 定一	みづゑ	五五九
藤島)	河北 倫明	シ	五五九
ヒューマニズムの誕	今村紫紅の藝術	シ	五五九
生(青木、森田、萬、	今村紫紅の藝術	シ	五五九
小出、前田)	今村紫紅の藝術	シ	五五九
二人の先輩(岸田と	今村紫紅の藝術	シ	五五九
萬)	今村紫紅の藝術	シ	五五九
佐伯祐三について	今村紫紅の藝術	シ	五五九
明治大正の日本画と	今村紫紅の藝術	シ	五五九
原家コレクシオン	今村紫紅の藝術	シ	五五九
今村紫紅の藝術	今村紫紅の藝術	シ	五五九
児童美術教室に関し	藤澤 典明	アトリエ	三〇二
ての問題	庄司 浅水	シ	三〇二
児童美術のあり方	野間 清六	東京	二二、
ヴィオラの「児童	佐々木利三	日本美術	一六〇
美術」による	宇野 俊郎	工藝	一六〇
文化財保護の現状	矢代 幸雄	博物館	六〇
新定々博物館法につ	矢代 幸雄	ニユース	六三
いて	矢代 幸雄	シ	六三
国立近代美術館の開	矢代 幸雄	シ	六三
設	矢代 幸雄	シ	六三
東京文化財研究所の	矢代 幸雄	シ	六三
構想	矢代 幸雄	シ	六三

博物館法のこと	田内 静三	博物館	六三
国立近代美術館の機	宇野 俊郎	ニユース	六七
欧米の児童美術教育	久保貞次郎	美術批評	四
名古屋児童美術学校	北川 民次	シ	シ
その後の報告			
「習字」における「藝	三原 研田	墨 美	一二
能科」的色彩			

西洋美術関係文献

総説

世界美術地理 (スベ	和田 定夫	アトリエ	三〇六
イン巡り)			
ツ・オーストリー巡	シ	シ	三〇七
り)			
エーデン巡り) (ス	野村 良雄	シ	三〇八
メキシコの最近の美	北川 民次	シ	三〇七
術			
西洋美術史	高橋 忠彌	シ	三〇九
世界美術地理 (オラ	山田智三郎	シ	三〇九
ンダ巡りII)			
ン・小亜細亞 (イラ	和田 新	シ	三一
リス巡り)			
現代面の悲劇	岡本謙次郎	シ	三二
現代美術の心理学に	西脇順三郎	シ	三二
就て	エルネス	シ	三二
近代藝術の心理學に	ト・ガン	シ	シ
就て	山本太郎	シ	シ
古典と近代	富永 惣一	シ	三二三
東西美術論 (一八一	アンドレ・	シ	三二三
二九)	マルロ・	シ	三二三
	小松 清沢	シ	三二三

イタリア美術紀行	田淵 安一	美術新潮	三ノ五
アブストラクト・	瀧口 修造	シ	シ
エー・ジ			
アブストラクト・	岡本 太郎	シ	三ノ九
アーティストの面影	富永 惣一	シ	三ノ三
現代の宗教美術	富永 惣一	シ	三ノ三
真に使える形態の創	富永 惣一	シ	三ノ三
造への考察	富永 惣一	シ	三ノ三
英国美術界の現状	今泉 篤男	東京	一・六
イギリス美術界の巨	今泉 篤男	東京	一・六
匠を訪う(ニコルソ	今泉 篤男	東京	一・六
ン、ヘッパワース、	今泉 篤男	東京	一・六
ンリー・ムーア、バ	今泉 篤男	東京	一・六
ナード・リーチ)	今泉 篤男	東京	一・六
近代絵画とは何か	今泉 篤男	東京	一・六
東西美術略史(1) B	今泉 篤男	東京	一・六
BC三〇〇年まで	今泉 篤男	東京	一・六
東西美術略史(2) B	今泉 篤男	東京	一・六
三世紀 AD八世紀	今泉 篤男	東京	一・六
ノン・フィギラチフ	今泉 篤男	東京	一・六
藝術の形成	今泉 篤男	東京	一・六
絶対の探究	今泉 篤男	東京	一・六
位置についての反省	今泉 篤男	東京	一・六
パリ通信(緊張する	今泉 篤男	東京	一・六
パリ美術界)	今泉 篤男	東京	一・六
イタリアの現代美術	今泉 篤男	東京	一・六
現代絵画の問題—座	今泉 篤男	東京	一・六
談会—	今泉 篤男	東京	一・六
メキシコの現代美術	今泉 篤男	東京	一・六
世界画壇の現状と日	今泉 篤男	東京	一・六
本画壇の位置—座談	今泉 篤男	東京	一・六
会	今泉 篤男	東京	一・六

絵画

海外美術の動き	嘉門 安雄	ミューゼ	二〇二
パリの美術界	植村鷹千代	読売ウイ	二・七
セザンヌに於ける人	吉井 忠	アトリエ	三〇二
間的なもの			
ルオーの三つの作品	福島繁太郎	シ	三〇三
ピカソへの課題	植村鷹千代	シ	三〇四
ゴッホと色彩に就て	荻 太郎	シ	三〇五
我がゴッホ	小泉 清	シ	シ
ゴッホ、モンドリア	長谷川三郎	シ	シ
ン			
ゴッホ略譜	清水 将夫	シ	三〇六
ゴッホに扮して			
ゴッホの手紙—ベ	式場隆三郎	シ	シ
ルナールへの書簡—			
ゴッホは毒殺され	大森 啓助	シ	シ
たか?			
ル・ボタール—初	マン・リッ	シ	シ
期アメリカの画家—	加山 四郎	シ	三〇七
アンリ・ルソーの絵			
アンリ・ルソーの素	花田 清輝	シ	シ
朴さ			
最近のメキシコ美術	北川 民次	シ	シ
「エチヤウリとベニ			
ヤについて			
空に戯れる奇術師	高橋 忠彌	シ	シ
シヤガールについ			
て			
フィンランドの美術	森本 覺丹	シ	シ
「紅茶入れ」	富永 惣一	シ	シ



ボナール「風景」(解説)	脇田 和 美術手帖	五五	ヘンリー・ムアを訪ねる	今泉 篤男 美術手帖	六〇	フォーヴィズムの再検討	寺田 透 美術批評	六
マネ「テオドール・デュレーの肖像」(解説)	木下 義謙	〃	宿命への抵抗—ゴッパンの生涯—	柳 亮	六一	マチスの絵	宮田 重雄 文藝春秋	二
パウル・クレエ	瀧口 修造	〃	「クラリネット」(解説)	岡本 太郎	〃	底知れぬセザンヌ	福島繁太郎 (別冊)	二五
ステイナ礼拝堂天井画(解説)	山田智三郎	五六	アメデオ・モディリアニ「女の顔」(解説)	岡 鹿之助	〃	ドランの安定感	川島理一郎	二六
近代画家たちの自画像	江川 和彦	〃	ギノ・メローニの作品	今泉 篤男	〃	マチスの言葉	大久保 泰	二七
モネ「チューリップの畠」(解説)	裕 伊之助	〃	ブラック小論	瀧口 修造	六二	デュファイの巴里祭	富永 惣一	二八
ドンゲン「仔馬」(解説)	窪田 啓作	〃	ジョルジュ・ブラック「横たわれる女」(解説)	麻生 三郎	〃	現代の藝術(一)のクラインの近業	長谷川三郎 墨	九一、二
ジヤン・デュビュッフ「ハムと男」(解説)	植村鷹千代	〃	ジョルジュ・ブラック	柳 亮	〃	クラインの近作を観る—一書作家の感想—	森田 子龍	一二
ピエール・ボンナールの思出	柳 亮	五七	ブラックの思想と技術(座談会)	植村鷹千代	〃	ヘイターにあり	吉川 逸治	一三
ボナール「果物籠」(解説)	中谷 泰	〃	ブラック訪問	山口 薫	〃	ウイリアム・ヘイターの銅版画と素描	長谷川三郎	〃
シセロ・ディアズ「午睡」(解説)	三雲祥之助	〃	ブラックと本	脇田 守介	〃	書と新しい絵画(アルコブレの作品にふれて)	リケ・ワン	一六
ブリウゲルの絵と「青髭」	久保貞次郎	五八	ブラックの版画	瀧口 修造	〃	L・アルコブレ	三輪 福松	一八
サン・キルセ・ベドレの壁画「十字軍説教の寓意画」(解説)	三雲祥之助	五九	立体主義とブラック	福永 武彦	〃	セザンヌの略年譜	富永 惣一	五五七
ガッシー寄贈のルーヴルのゴッホ	土方 定一	〃	オデイル・セザンヌ「玉葱と瓶」(解説)	岡 鹿之助	六三	セザンヌの色	吉川 逸治	〃
パウル・クレエ「青の顔」(解説)	鶴岡 政男	〃	ワシリー・カンディンスキ「コンボジチオン」(解説)	裕 伊之助	〃	セザンヌの藝術	アル・ロ	〃
ハンス・エルニ	瀧口 修造	〃	ピカソの場合	仲田定之助	〃	セザンヌの構図の分析	内田太郎	〃
セザンヌの造型	海老原喜之助	六〇	ブラックの立体デッサン	レオン・ウエルト	美術批評	ピカソに会う	吉川 逸治	五五八
アンリ・ルソー「人形を持てる少女」(解説)	井上 靖	〃	現代イタリア画壇の特色	植村鷹千代	三	クリトオのアトリエ訪問	和田 定夫	〃
マリオ・シロニ「壁の断片」(解説)	三雲祥之助	〃	マチスについて—方法的考察—	野上 素一	五	アンリ・ルッソー	長谷川三郎	五五九
				福島 辰夫	〃	ピカソ論	佐藤 潮沢	〃





ソヴィエト建築の課  
エス・チエ  
ルヌイシエ  
国際建築  
一九〇七

ザアンスの礼拝堂  
一九〇二

建築に於ける近代運動の終末  
オスバート・ランカスター  
一九〇三

コルビュジエと現代建築  
坂倉 準三 東京  
一九〇六

工 藝

フィンランドの工藝  
勝見 勝 アトリエ  
三三三

フランス・タベスト  
リノルネ・サンス  
藝術新潮  
三〇二

アメリカ商品市場とインダストリアルデザイン  
ヘンリ・ドリス  
工藝ニユ  
三〇一

躍進する世界の技術  
工藝指導所  
三〇一

イームズの変貌  
研究部  
三〇一

ジャロリスの陶器  
勝見 勝  
三〇二

レイモンド・ロー  
式場隆三郎 日本美術  
一六七

ロマネスクのステンドグラス  
高山 底 美術手帖  
五六

柳 亮 みづゑ  
五六一

展覧会其他

サロン・ド・メエ  
の出品  
吉川 逸治 アトリエ  
三〇四

グロメールの見たニ  
ユイヨーク  
江川 和彦  
三〇五

巴里のアメリカ人  
瀧口 修造  
三〇七

国際展出品  
英・伊主要作家一覽  
三〇八

眼の表現の歴史

木内 克  
田近 惠  
嘉門 安雄  
寺田 政明  
柳部 展也  
阿部 亮  
植村 鷹千代  
石川 達三  
宮本 三郎  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

パリの美術研究所  
最初の肖像写真家ナ  
ダール  
サロン・ド・メエ  
一九五二  
パリのスタイン嬢  
世紀の亮立  
水兵コレクシヨン  
(鎌倉美術館の古代  
ガラス展)  
フランク・ビツクと  
ロンドン交通営団  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

船戸 洪  
瀧口 修造  
石原 龍一  
H・マツク  
クラウド  
勝見 勝  
ジョージ・ネルソン  
展覧会用の組立式枠  
組  
アメリカ二題  
奇妙な質問  
便利な生活  
印度美術展寸感  
ソ連の博物館を觀て  
詩と音楽によりて  
フランス・タベスト  
の復興  
戦後のアカデミー・ド・ラ・グラン・ドシ  
ヨミエール  
ベンデューム・フォ  
ト(振子写真)  
立ちあがるイタリー  
古文化財の戦災と  
修理  
イタリアの展覧会の  
あり方

イタリアのポスター  
美術映画「オーピ  
ツ・ソニ・ジャン・リ  
ユルサ」について  
日本国際美術展特集  
アメリカ・フラン  
ス・ブラジル・ベル  
ギー・イギリス・  
イタリー・日本  
グレコの家・トレード  
紀行  
モダン・デザイン  
(構成の可能性)  
ベルギーのポスター  
巴里の絵のお値段  
秋のバリ美術展  
ポスターについて  
フランスのポスター  
から学ぶもの  
春のバリ美術展  
フランス・ボンジ  
ユ氏について  
アムステルダム  
の美術館

船戸 洪 美術手帖 五七

末松 正樹 五八

植村 鷹千代 五九

和定 安雄 六〇

大久保 泰 六一

関口 俊吾 六二

中村 真 六三

船戸 洪 六四

石原 龍一 六五

関口 俊吾 六六

植村 鷹千代 六七

関口 俊吾 六八

今泉 篤男 六九

土方 定一 七〇

諸藝術の独立と限界  
について  
藝術的表現について  
藝術上の革新について  
美術鑑賞の道程  
美の類型  
かたちの心理

井島 勉 七一

吉岡健二郎 七二

井島 勉 七三

長興 善郎 七四

井島 勉 七五

井島 勉 七六

関原 太郎 七七

東洋古美術関係文獻

総 説

形の問題—造形藝術における—	井島 勉 墨 美 一一
科学と藝術	〃 〃 〃 一六
人と技術	〃 〃 〃 一二
新しさについての一考察	宮川 翠雨 〃 一七
原始美と洒脱美	井島 勉 〃 一九
アルカイックにおける人体表現の問題	松島 道也 美 学 一一
絵画の線と書の線	井島 勉 墨 美 一三
美術史学方法論(一) —根本問題への試論—	下店 静市 文化史学 五、六
美術史学の対象—家永教授に問ふ—	中村 二柄 美術史 五
何故か美術史—家永三郎氏の「美術史の方法」の批判に寄せて	運實 重康 美 学 七
座談会—私達はどうか進むか—美術史をどうするか—博物館の若い世代は語る—	博物館 ニュース 六〇
日本美術の空間表現の問題一、二	鼓 常良 美 学 二、二
日本美術史一七	下店 静市 交 五—五五
日本美術史概説(四)	長野 亘 羽陽文化 一三
天平美術に於ける民族的形式の発展—民族文化の問題に寄せて—	柏瀬清一郎 歴史学研 一五八
仏教美術東漸と固有美術	小杉 一雄 綜合世界 四
仏教藝術に於ける経軌とその表現	佐和 隆研 美 学 七
動物めぐり一—二六	野間 清六 アサヒ・グラフ 七・二一—三・三四
歎美抄—万曆赤絵小壺—	矢代 幸雄 大和文華 七

歎美抄	矢代 幸雄 大和文華 八
新古寺巡礼	〃 〃 〃 〃
1 会津の勝常寺	野間 清六 ミュージアム 一七
2 白水阿弥陀堂	溝口 三郎 〃 一八
古都巡礼	〃 〃 〃 〃
1 京都博物館	竹山 道雄 藝術新潮 三〇一
2 古き庭のチチエローネ	〃 〃 〃 三〇二
3 古都は警戒する	〃 〃 〃 三〇三
4 精神の現世化	〃 〃 〃 三〇四
5 続精神の現世化	〃 〃 〃 三〇五
6 都市美と伝統	〃 〃 〃 三〇六
古都を撮す—正倉院・興福寺・慈光院	渡邊 義雄 〃 三〇二
奈良日記—思ひ出—	矢代 幸雄 大和文華 五
四季の奈良	鍋井 克之 〃 八
天平の秋(奈良博物館近況)	蓮實 重康 博物館 突、宅
大和の古美術	北島 葎江 大和文華 五
大和の尼寺—法華寺・中宮寺・円成寺—	西村 貞 藝術新潮 三〇八
東大寺綺譚	上 海雲 〃 三〇六
知られざる東大寺	〃 〃 〃 三〇九
正倉院	和田 軍一 東大寺 〃
法隆寺	福山 敏男 日本美術 〃
薬師寺綺譚	橋本 凝胤 藝術新潮 三〇七
鳳凰堂	藤田 經世 日本美術 〃
随筆高台寺	桑田 忠親 ミュージアム 一二

琉球の文化財を想う	田邊 泰 文化財月報 七
美術品の光学的研究	秋山 光和 ミュージアム 一四
美術品の光学的研究	〃 〃 〃 一四
光学器械の威力	〃 〃 〃 〃
古美術品の治療と診断	秋山 光和 毎日 三・三
古文化財の保存	大槻 虎男 夕朝 日 七・三
文化財保存と合成樹脂	蓮實 重康 博物館 ニュース 六四
古文化財の虫害防止に関する研究Ⅱ 滅菌の殺虫機 1 乾燥致死作用に就いて	森 八郎 古文化財科学 三
柱根の防腐処理方法に関する研究 1 木材防腐防虫の研究 3	森 義理 〃 四
第二次新国宝抄	河北 倫明 藝術新潮 三〇六
愛蔵あり	邑木 千以 日本美術 三〇一
1・中島 陽三	〃 〃 〃 〃
3・4・眞野 毅	〃 〃 〃 〃
研一 7・前田 青邨	〃 〃 〃 〃
小原 勝守 10・神崎 丈二	〃 〃 〃 〃
鎌倉文士骨董自慢	大岡 昇平 藝術新潮 三〇七
カメラ・ルボルター	米田 太郎 〃 〃
ジュ東京国立博物館	〃 〃 〃 〃
博物館収蔵品蒐集の歴史	矢島 恭介 〃 〃
歴史の部	野間 清六 〃 〃
美術の部	〃 〃 〃 〃
博物館有名コレクション	〃 〃 〃 〃
原家田蔵近代日本画と三越蔵納画	キリシタン遺物
松方コレクション	松永コレクション
納御物 豊姫婚礼調度	那智発掘仏像遺物 仏印交換品

グラフ・博物館八十 年の歩み	矢島恭介	ミューゼ アム	一九	座談会・古美術品の 海外流出とその対策 はれし名作	美術批評	八	ガンダーラ美術編年 問題の発展	樋口 隆康	佛教藝術	一七
故瀧精一博士の思い 出―古美術自然科学 研究会と当麻曼茶羅 に関する研究の一展 望―	大賀 一郎	古文化財 之科学	三	葉師寺の月光菩薩問 題―その経過と見透 しについて	美術新潮	三ノ三	タクシラの発掘とガ ンダーラ美術の始原 問題	高田 修	考古学雑誌	三八ノ 五・六
一九五二年の美術界	岡田 持丸	ミューゼ アム	二一	葉師寺として 嚴肅な批判を 蒙る寺月光像の吉 野地震による被害 文化財は保護されて いるか―葉師寺月光 菩薩の問題をめぐつ て―	橋本 凝胤 本間 順治 倉田 文作 松原 正業	ニユース 六六	スメールの藝術	富永 惣一	美術新潮	三ノ六
博物館展観	持丸 一夫	ミューゼ アム	二一	美術史は出なおよ まなくてはなるまい 染色と生活	上野 直昭	ニノ三	名画の若返り 博物館の模本	秋山 光和 鷹巢 豊治	朝 日 ミューゼ アム	三・一〇 一九
現代美術	河北 倫明	ニユース	五六	美術映画製作への 希望	野間 清六 P・C・ スワン	三ノ七	近代と宗教画―日本 の仏教画について― 座談会・法隆寺壁画 の跡をどうするか	矢代 幸雄	美術新潮	三ノ三
海外美術界	嘉門 安雄	ニユース	五七	美術史は出なおよ まなくてはなるまい 染色と生活	矢代 幸雄	一六五	樹下美人図の問題	春山 武松	夕 日 ニユース	二・七 一六八
美術思潮	浅野 長武	ニユース	五八	科学研究費の諸問 題	中村 恒夫	三ノ七	東大寺の絵画	望月 信成	日本美術 工芸	一六八
年頭に寄す	奥平 英雄	ニユース	五九	国宝再指定に望む 古美術品の海外流 出と価格の問題	藤田 経世	一五九	東大寺の絵画 華嚴五十五所絵卷 香象大師像	吉澤 嘉圃	東大寺	
美術映画製作への 希望	藤田 経世	ニユース	六〇	博物館法のこと	岡田 宣夫	六四	来迎藝術―五色の糸 をめくつて―	大串 純夫	ミューゼ アム	一六
美術史は出なおよ まなくてはなるまい 染色と生活	熊谷 宣夫	ニユース	六一	美術品国際交換の 問題	近藤 静三	六六	美術史研究講座・4 浄土教美術主として 来迎図に於ける自然 描写の展開	石田 一良	文化史学	五
科学研究費の諸問 題	飯島 勇	ニユース	六二	創立八十周年を迎 えて	浅野 長武	一〇	博物館名品集・普賢 菩薩像	野間 清六	ミューゼ アム	一九
国宝再指定に望む 古美術品の海外流 出と価格の問題	田内 静三	ニユース	六三	近代美術館への期 待	田中 雅夫	一一	博物館蔵普賢菩薩像 解説	松下 隆章	ニユース	六四
博物館法のこと	杉村 勇三	ニユース	六四	社寺名宝のデバ ー	石澤 正男	一〇	赤不動	青蓮院蔵	ニユース	五六
美術品国際交換の 問題	浅野 長武	ニユース	六五	座談会・古美術に 関する最近の諸問題	鈴木 進	一一	不動明王二童子像	黄不動拝観記	ニユース	六一
創立八十周年を迎 えて	田中 雅夫	ニユース	六六	古美術界の逆コース について	古吉 開城	一一	黄不動拝観記			
近代美術館への期 待	石澤 正男	ニユース	六七	時評・美術品の海外 輸出	逸見 梅榮	一七				
社寺名宝のデバ ー	鈴木 進	ニユース	一七							
座談会・古美術に 関する最近の諸問題	古吉 開城	ニユース	一七							
古美術界の逆コース について	逸見 梅榮	ニユース	一七							
時評・美術品の海外 輸出	逸見 梅榮	ニユース	一七							



醍醐寺の大威徳明王 図について	佐和 隆研	大和文華 六
妙音天図解説 仁和寺蔵	島田修二郎	國華 七二四
智光變相拾遺 附智光伝及び智光曼荼羅關係資料抄	龜田 孜	東北大文部研究 二
異形の春日鹿曼荼羅解説	景山 春樹	國華 七一九
笠置曼荼羅私見	堀池 春峰	大和文華 八
再び熊野曼荼羅に就て	近藤 喜博	國華 七一九
平安朝障壁圖	家永 三郎	アム ミューゼ 一〇
藤原時代のあしであしでとやまと絵	春名 好重	墨 美 一八
蘆手	白畑 よし	アム ミューゼ 一五
扇面法華經冊子	松下 隆章	國華 七二〇
扇面法華經冊子下絵の研究に就て	藤懸 静也	國華 七二〇
神光院藏紫紙金銀泥般若心經の見返絵	龜田 孜	大和文華 六
繪巻物	田中 一松	日本の美術
隆能源氏「柏木」の表現について	白畑 よし	美術研究 一六五
風俗から見た信貴山縁起絵詞	鈴木 敬三	國華 七二五
信貴山縁起絵巻の大仏殿図	木下 龍也	大和文華 五
風俗から見た伴大納言絵詞―作者と筆者	鈴木 敬三	美術史 七
風俗から見た平治物語絵詞	國華 七二七	
平治物語絵六波羅合戦巻について	秋山 光和	大和文華 七

承久本北野天神縁起繪巻の詞書について	源 豊宗	佛教藝術 一六
石山寺縁起絵考	梅津 次郎	美術史 六
法然上人伝法絵残欠解説 矢野宗粹氏蔵	檜崎 宗重	國華 七二八
一遍上人絵伝成立年代私考	大橋 俊雄	史迹と美術 二二八
滝口縁起絵解説 清涼寺蔵	梅津 次郎	國華 七二八
清國寺縁起絵解説 清國寺蔵	島田修二郎	國華 七二八
病草紙解説	奥平 英雄	博物館 ニューズ 六〇
病草紙	ス	アム ミューゼ 一五
人麿像の成立と東寺山水屏風	大串 純夫	美術研究 一六四
人麿像解説	白畑 よし	國華 七二二
鳥羽上皇の御影について 満願寺蔵	森 暢	國華 七二五
歌仙絵について	田中 一松	アム ミューゼ 一七
上疊歌仙に就て	白畑 よし	國華 七二二
釈教歌仙切に就いて 弘法大師像によせて	梅津 次郎	大和文華 五
室町時代の絵画	上野 照夫	淡交 五二
東山時代の絵画	藤懸 博士	日本の茶道 二〇七
東山時代の花鳥画	源 豊宗	淡交 五二
禅宗と絵画	高崎富士彦	アム ミューゼ 二二
東山水墨画の性格―禪武両様の総合―	谷 信一	一七
水墨画の成立とその性格	蓮實 重康	墨 美 一三
美術史は再検討を要す―竹斎説書によせて―	博物館 ニューズ 六〇	
伝周文筆山水図屏風	中村 秀男	アム ミューゼ 一四
可翁から雪舟へ	蓮實 重康	日本の美術
美術史研究講座・5 美術史に於ける雪舟の意義―藝術社会学批判―	中村 二柄	文化史学 六
雪舟筆天之橋立図	熊谷 宣夫	アム ミューゼ 一五
松梅住処図	松下 隆章	大和文華 七
伝能阿彌筆三保松原図に就て	藤懸 静也	國華 七二九
相阿彌筆廬山觀瀑図	田中 一松	國華 七二三
愚極才贊渡唐天神解説	近藤 喜博	國華 七二八
殊牧筆蔬菓図解説	檜崎 宗重	國華 七二三
藤岡薫氏蔵	ス	
桃山時代の画家と肖像画	土居 次義	アム ミューゼ 二二
障壁面と風俗画	近藤市太郎	アム ミューゼ 一〇
桃山時代の水墨障壁画	松下 隆章	アム ミューゼ 一〇
桃山時代の極彩色障壁画	持丸 一夫	アム ミューゼ 一〇
名古屋城障壁面筆者考	ス	
洛中洛外図屏風	ス	
松花堂と狩野山楽	土居 次義	淡交 四八
京都御所伝来立花図屏風について―アートリエ博物館	大河内信敬	アトリエ 三三〇
近世写生帳	ス	
探幽・常信	ス	
光琳	ス	
應舉・華山・椿山	中村 秀男	アム ミューゼ 一八
文晁・華山・椿山	大西 芳雄	アム ミューゼ 一八
鈴木 進勇	ス	

日本美術史講座 江戸時代の確立——江 戸時代の絵画(一)	飯島 勇	博物館 ニユース	五八	美術用語 米点山水	鈴木 進	ミューゼ アム	一七	棒椿山筆高久露屋像	鈴木 進	華 七二八
狩野與以筆仙人図屏 風解説	橋崎 宗重	國 華	七二八	人物素描木村葵霞堂	瀧川 義一	日本歴史	四四	郎氏藏	橋崎 宗重	七二九
狩野山卜について	土居 次義	史迹と美 術	二二一	大雅と應 舉	吉澤 忠	日本の美術		棒椿山筆竹石水仙花 図	橋崎 宗重	七二三
木村探元筆墨山水 図解説 飯本莊五郎 氏藏	橋崎 宗重	國 華	七二三	池大雅筆山水図解説	橋崎 宗重	國 華	七二九	棒椿山筆花鳥虫魚册 解説 細見良氏藏	橋崎 宗重	七二七
日本美術史講座 大和絵系の展覧——江 戸時代の絵画(二)	飯島 勇	博物館 ニユース	五九	池大雅筆六遠山水図 解説	藤懸 静也	ミューゼ アム	七二一	中林竹溪筆柳陰野馬 図解説	橋崎 宗重	七二一
宗達光琳派の画境—— 江戸時代の絵画(三)	千澤 植治	國 華	六〇	大雅筆後閑山水図屏 風	飯島 勇	アム	一五	岸連山筆雪中竹ニ雀 図解説	坂崎 坦	七一九
伝宗達筆扇面画解説 里見忠三郎氏藏	中村 秀男	書 品	二六	謝蕪村筆山村深趣図 竹林茅舍図解説	橋崎 宗重	國 華	七二三	橋大枝「絵事空言」 解説上、下	橋崎 宗重	七二二
宗達筆下絵光悦書歌 卷について	相見 香雨	大和文華	八	謝蕪村筆墨梅図解説 中川徳右衛門氏藏	加藤 増夫	日本美術 工藝	一六四	田中訥言筆勿来閣図 解説	橋崎 宗重	七二二
光琳筆中村内蔵助像	菅沼 貞三	國 華	五	浦上玉堂筆山紅於染 図解説	橋崎 宗重	國 華	七二六	冷泉為恭筆秋月枕賞 図解説	藤懸 静也	七二八
日本美術史講座 光琳以後の推移——江 戸時代の絵画(四)	千澤 植治	博物館 ニユース	六一	野呂介石筆那智滝図 解説	橋崎 宗重	國 華	七二六	浮世絵小史	吉田 映二	四
圓山・四條派の写実 ——江戸時代の絵画(五)	鈴木 進	國 華	六二	田能村竹田筆花卉果 蔬図解説 大森小太 郎氏藏	藤懸 静也	國 華	七二五	浮世絵とは—— その庶民性と世界性	吉澤 忠	日本の美術
圓山應舉筆大夫図解 説 中川徳右衛門氏藏	橋崎 宗重	國 華	七二四	高橋草坪筆青緑山水 図解説 大森小太郎 氏藏	橋崎 宗重	國 華	七二四	浮世絵の線	源 豊宗	美 一三
具春筆松間法堂図解 説	藤懸 静也	國 華	七一九	立原杏所筆観瀑図解 説	橋崎 宗重	國 華	七二七	日本美術史講座 初期肉筆風俗画と浮 世絵の発生——江戸時 代の絵画(六)	近藤市太郎	博物館 ニユース
日本美術史講座 南宋文人画——江戸時 代の絵画(七)	鷹巢 豊治	博物館 ニユース	六二	山本梅逸筆風雨薔薇 図解説	橋崎 宗重	國 華	七二八	浮世絵美人画の隆盛 と風景画への展開—— 江戸時代の絵画(七)	橋崎 宗重	六六
大雅蕪村の追隨者—— 江戸時代の絵画(八)	橋崎 宗重	國 華	六三	渡辺華山の画論につ いて——近世画壇に 於ける教育の一面——	木代 修一	桐朋女子 学園紀要	二	浮世絵版画の出来る まで	橋崎 宗重	六七
南 画 の 傑 作	田中 一松	藝術新潮	三ノ九	渡辺華山筆花鳥画册 解説 三瓶末松氏藏	藤懸 静也	國 華	七二三	江戸社会と浮世絵 浮世絵と江戸文藝 歌舞伎と浮世絵	高橋誠一郎 木村 莊八 金澤 康隆	四

## 美術

研究

山水臥遊  
矢代 幸雄  
大和文華

書に就いての雑感 武者小路實篤

## 日本

山本發次郎翁書話(一)	有田 光甫 墨 美 九
白隱と寂庵	一〇
書道問答—良寛・寂庵・戦後派の書について	一二
石橋 翠楓 墨 二	
伊東 參州 墨 一九	
出口 艸露 墨 一六	
春名 好重 書 品 二九	
藤田 經世 日本美術 二九	
飯島 春敬 ミュージ 一五	
春名 好重 書 品 二八	
堀江 秋菊 墨 一六	
春名 好重 墨 一五	
堀江 知彦 ミュージ 一三	
上田 桑鳩 墨 九	
江川 吟舟 墨 一三	
淡川 康一 墨 九	
春名 好重 書 品 二六	
高畑 翠石 墨 二七	
井上 春谿 墨 二六	
藤原 楚水 墨 三〇	
井上 春谿 墨 三三	
三田 清白 墨 三三	
西川 寧 墨 三三	
藤田 經世 東大寺 墨 三三	

伊勢二見の大般若經 佐藤 虎雄 史迹と美術 二二三

西園寺公衡書写の不空罽索神呪經 近藤 喜博 國華 七二五

伝嵯峨天皇宸翰李嶠雜詠 春名 好重 墨 美 九

伊都内親王願文 松井 如流 書 品 二九

空海の大日經開題 神田喜一郎 墨 美 九

弘法大師筆大日經開題について 佐和 隆研 墨 九

智證大師謄号勅書 堀江 知彦 ミュージ 一九

智證大師謄号勅書 堀江 知彦 ミュージ 一九

伝小野道風筆白氏文集断簡 春名 好重 墨 美 一五

伝道風筆天台大師讚文 田中 塊堂 書 品 二七

高枝王と十五番歌合解説 春名 好重 墨 美 一〇

近衛朗詠 堀江 秋菊 書 品 三三

関戸古今 堀江 秋菊 ミュージ 一二

紙色紙解説 吉澤 義則 書 品 二四

西本願寺三十六人集と平安時代の仮名藝術 堀江 秋菊 墨 二

三十六人集の筆者と書風 堀江 秋菊 墨 二

西本願寺本三十六人集について 堀江 秋菊 墨 二

元永本古今集とその時代 堀江 秋菊 墨 二

元永本古今の鑑賞 堀江 秋菊 墨 二

伝藤原公任筆大色紙 堀江 知彦 墨 一九

伝公任筆大色紙 堀江 知彦 墨 一九

新国宝の古筆 堀江 知彦 墨 一九

財津 永次 淡交 五〇

財津 永次 淡交 五〇

財津 永次 淡交 五〇

財津 永次 淡交 五〇

財津 永次 淡交 五〇

財津 永次 淡交 五〇

財津 永次 淡交 五〇

一六〇

伝西行筆白河切後鳥羽天皇宸翰熊野懷紙 春名 好重 墨 美 八

藤原定家筆詠草切 田中 塊堂 墨 一七

伏見院御製(廣澤切)秋歌一卷の出現 田中 塊堂 墨 一四

大覺禪師画像・墨蹟の由来 古田 紹欽 墨 一七〇

大燈國師墨蹟 伊東 卓治 書 品 二七

大燈國師誹謗のこと 古田 紹欽 墨 一六三

利休の真蹟一—九 田山 方南 墨 二六

光悦の書 堀江 秋菊 墨 二六

中山法花經寺と光悦 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六

良寛の書 堀江 秋菊 墨 二六



文字簿について	水野 清一	墨 美 一七
親魏倭王と親晉倭王	松丸 長	書 品 三一
龍門古陽洞の小品	西川 寧	書 品 三四
李北海の書碑	谷村 義雄	書 品 三〇
忘れられた顔真卿の名蹟——鮮于氏離堆記	神田喜一郎	墨 美 一六
宋代の書道——特に革新派について	シ	一〇
流れ鬘の墨蹟	田山 方南	ミューゼ アム 一四
密庵感傑の墨蹟	神田喜一郎	墨 美 八
王庭筠の幽竹枯槎図	西川 寧	書 品 三〇
金冬心の年譜(一)——呉昌碩について	内藤淳一郎	墨 美 一五
呉昌碩先生伝	順羽 源一	墨 美 一五
伊墨卿	西川 寧	書 品 二四
趙之謙の書	松井 如流	書 品 二五
趙之謙「篆刻と金石学を中心として」	西川 寧	書 品 二五
中国人の墨蹟	シ	アム ミューゼ 二一
篆刻、文房具	西川 寧	書 品 二八
天明期の印学	小林 庸浩	書 品 二八
阿漢・新莽印について(一)	太田孝太郎	書 品 二八
「漢委奴国王」印文考	杉村 勇造	書 品 二八
漢委奴国王印私見	後藤 守一	書 品 二八
漢委奴国王印の問題	シ	二八
金印の刻法	岩井 大慈	書 品 二八
漢委奴国王金印を贋物と疑う説を讀みて	杉村 勇造	日本歴史 四七
金印は果して偽物か	矢島 恭介	博物館 ニュース 五七
「漢委奴国王」印の研究小史1・2	矢島 恭介	書 品 六、元

美術文献目録

金印問題・後記	西川 寧	書 品 二九
汪啓淑の旧藏印——印譜解説	シ	三二
廖如清風室藏印(一)	シ	三二
顧氏印藝考	太田孝太郎	書 品 三三
銭叔蓋の刻印一、二	西川 寧	書 品 三三
墨を語る	坂東 貫山	日本の茶 二一〇
唐墨の起原	シ	二〇八
東北地方新発見の陶硯二面について	内藤 政恒	考古学雑誌 二〇八
彫刻	本	六
彫刻とその表情——喜と哀——	澁江 三郎	アルス・グラフィック 六
怒の表情	野間 清六	書 品 六
彫刻の材料と技法	野間 清六	書 品 六
塑像及び乾漆の製作と装微に対する一解	本間 正義	美術史 五
上代の盛技法に就て	金子 良運	國華 七二三
美術用語・乾漆像	金子 良運	アム ミューゼ 一六
日本彫刻史	石井 鶴三	藝術新潮 三ノ四
日本彫刻小史	田澤 坦	アルス・グラフィック 六
日本彫刻史略年表	金子 良運	書 品 六
用語解説	野間 清六	書 品 六
各時代の日本彫刻	小林 剛	東大寺 六
飛鳥時代	シ	六
天平時代	シ	六
天平彫刻	シ	六
各時代の日本彫刻	久野 健	アルス・グラフィック 六
貞観時代	松本 雅明	國華 七三
弘仁彫刻の起原(一)	毛利 久	アルス・グラフィック 六
各時代の日本彫刻	久野 健	書 品 六
鎌倉時代	林 文雄	歴史評論 三六
鎌倉彫刻における古代と中世——慶派の作品を中心として——	岡 直巳	アルス・グラフィック 六
仏像彫刻	山本 智教	佛教藝術 一七
仏像の起原について	守屋 謙二	書 品 一一
仏像の人体表現	上野 昭夫	墨 美 一三
仏像の線	西川 新次	アルス・グラフィック 六
日本の彫刻作家たち	谷 信一	書 品 六
仏所と仏師	望月 信成	古代学 一ノ一
止利仏師と北魏様式との関係に対する疑問	本間 正義	佛教藝術 一六
天平時代の仏師と造仏所	小林 剛	美術史 五
国中連公麻呂	大原 性宜	龍谷史壇 三七
仏師康尚について	運慶と快慶——鎌倉彫刻の写実について——	東大寺 ミューゼ 一四
運慶と快慶——鎌倉彫刻の写実について——	埋もれた仏たち	藝術新潮 三ノ八
名刹巡礼	近藤市太郎	アルス・グラフィック 六
寄せたる眉根上、下	壽岳 文章	交 三、三
日本上代の四天王像と邪鬼の表現上	辻合喜代太郎	史迹と美術 三三
国立博物館蔵虚空蔵菩薩像	吉澤 忠	博物館 ニュース 五九

相模永勝寺の仏像	大橋 俊雄	史迹と美術	二二五	阿修羅解説	西川 新次	博物館	六二	熊野の牡丹雪—速玉神社の古神像—	丸尾彰三郎	大和文華	五
江島弁天像及び江島縁起絵巻に就て	楠崎 宗重	國華	七二四	興福寺の阿修羅像	山本 豊市	美術手帖	五六	高山寺の春日・住吉明神像—梶尾の鎮守社とその遺宝—	景山 春樹	美術史	七
元亨二年銘の阿闍婆像	澁江 二郎	大和文華	七	藥師寺塔本尊建立新考	田村 青永	佛教藝術	一五	肖像彫刻	千澤 植治	アルス・グラフィック	六
慈眼寺聖觀音立像—滋賀県蒲生郡玉緒村瓜生津	小川 晴鳴	文化史學	五	藥師寺と本尊像師像上、下	松本 橋重	日本美術工藝	一六八	唐招提寺影堂と鑒真像	毛利 久	史迹と美術	二二五
淨瑠璃寺の吉祥天像	小林 剛	博物館ニオース	五八	代受苦の菩薩	千澤 植治	博物館ニオース	五六	青龍寺維摩像解説	千澤 植治	美術史	七
東大寺の彫刻	上野 直昭	図説東大寺		青龍(金銅浮彫)藥師寺金堂	岡 直巳	佛教藝術	一五	伝頼朝像解説	千澤 植治	アルス・グラフィック	二二
奈良の大仏	小林 剛	日本の美術		唐招提寺の佛像について	岡 直巳	博物館ニオース	五六	仮面彫刻	野間 清六	アルス・グラフィック	六
不空羂索觀音 東大寺藏	略 伊之助	アトリエ博物館	三三三	救世觀音像—映画上代彫刻より	久野 健	博物館ニオース	五六	木彫白狐像の弁	中吉 桐軒	日本美術工藝	一六五
日光・月光菩薩像—東大寺三月堂—	久野 健	ミュージアム	一六	西大寺釈迦如來像解説	岡 直巳	美術史	七	江戸時代の人形彫刻	源 豊宗	アルス・グラフィック	六
東大寺執金剛神像解説	堀池 春峰	美術研究	一六六	大安寺仏門廻廊の安置像について—所謂大安寺式伽藍配置の検討—	毛利 久	古代學	一〇三	大和三谷の地蔵阿彌陀磨崖石仏	河原 純一	史迹と美術	二二六
法華堂地藏菩薩像に就いての一考察(研究資料)	柏瀬清一郎	名大文学部研究論集		長谷寺千仏多宝仏塔銅板に見えるイラン的要素について	石田幹之助	上代文化	二三	馬頭觀音の薄肉彫石仏	川勝政太郎		二二五
東大寺戒壇院の四天王像(副題略)	久野 健	美術研究	一六六	鎌倉彫刻の名品—播磨淨土寺の阿彌陀三尊像—	小林 剛	ミュージアム	一四	朝鮮、中国、其他	駒井 和愛	古代	七・八
東大寺の塑像—光學的方法による古美術品の研究—	菅原 安男	美術史	五	備前日應寺の仏像	岡本 虎一	史迹と美術	二二五	高麗朝の觀音像	長廣 敏雄	アルス・グラフィック	六
東大寺南大門金剛力士像の構造とその製作法	菅原 安男	美術史	五	善教寺阿彌陀立像と多度神社千手觀音立像	太田 古朴		二二四	中国の彫刻と日本	水野 清一	藝術新潮	三ノ五
南大門の仁王	小林 剛	日本の美術		善教寺阿彌陀像補記	川勝政太郎			大同の石仏	長與 善郎	藝術新潮	三ノ五
興福寺彫刻の諸問題	毛利 久	佛教藝術	一五	肖像・神像の表情	上野 昭夫	アルス・グラフィック	六	雲岡石仏	水野 清一	アトリエ	三一
興福寺金堂の弥勒淨土像とその源流(下)	福山 敏男	考古學雜誌	三ノ一	神像彫刻	西川 新次			唐代龍門仏頭二種	水野 清一	東方學報	京都三
阿修羅幻想—興福寺國宝展をみて—	古澤 岩美	藝術新潮	三ノ五	玉依姫像と造立結縁者	川勝政太郎	史迹と美術	二二六	鞆泉石窟の脇侍菩薩像解説	北野 正男	佛教藝術	一六
				吉野水分神社蓮慶作嘉祿元年神像	太田 古朴			インド仏教彫刻史要	高田 修		一七
								わが国に所蔵されているインド彫刻	千澤 植治	博物館ニオース	六六
								ガンダーラ仏像解説			
								東京国立博物館藏			

# 建築・庭園

日本

一九五二年建築學界  
展望・建築史

(H) 古建築への入門(一)

重要文化財(建造物)  
指定並びに現状変更  
説明

重要文化財(建造物)  
現状変更説明

日本に於ける古代的  
建築生産構造とその  
中世への発展過程に  
ついて

藤原時代における貴  
族の「心たくみ」を  
めぐって

鎌倉の古建築

甲倉という名称の解  
釈

甲倉名義論について

床の意義とその変遷

棧瓦葺について

神宮正殿の成立の間  
題

厳島神社社殿

日本の塔婆文獻の古  
代尺について(続完)

塔のボエム

天竺様と重源

昭堂について

藤岡 通夫 建築雑誌 七九三

近藤 豊 史迹と美 三九一

重要文化財(建造物)  
指定並びに現状変更  
説明 九

重要文化財(建造物)  
現状変更説明 七八八

渡邊 保忠 建築雑誌 七八八

小林 文次 日本歴史 四五

森 蘊 史迹と美 二二三

村田 治郎 建築史研 二二五

藪田 曜山 建築史研 一〇

野地 修左 建築史研 一〇

太田博太郎 建築史研 一〇

福山 敏男 神道史学 三

シ ミニューゼ 二〇

加藤 泰 華 七六一

藤島亥治郎 藝術新潮 三〇二

伊藤 延男 建築雑誌 七八八

川上 貢 建築史研 九

法隆寺建築に関する  
今後の課題 浅野 清 佛教藝術 一五

法隆寺金堂焼損壁体  
の修理に就て 櫻井 高景 古文化財 四

法隆寺五重塔内床面  
並びに塔及び金堂上  
層基壇に塗られた黒  
色物質について 山崎 一雄 三

再建法隆寺の塔  
修理成つた法隆寺五  
重塔 岸田日出刀 藝術新潮 三〇八

四天王寺講堂と伽藍  
の復原 竹島 卓一 ミニューゼ 二〇

薬師寺再転考 藤島亥治郎 建築史研 七

薬師寺東塔相輪  
について 田村 吉永 史迹と美 二一九

薬師寺東塔新考 町田 甲一 ミニューゼ 一一

薬師寺東塔新考 田村 吉永 考古学雑誌 三二五

薬師寺「水煙」の修理  
長さ 丸山 不忘 毎日新聞 八・七

唐招提寺金堂 山本 榮吾 史迹と美 二一九

唐招提寺経蔵の諸問  
題 鶴飼 峯生 佛教藝術 一五

東大寺伽藍の成立 浅野 清 考古学雑誌 三八〇

東大寺の建築 福山 敏男 東大寺 一五

東大寺大仏殿の第一  
期形態 藤原 義一 図説東大寺 一五

法華堂と転書門 福山 敏男 佛教藝術 一五

南大門と鐘樓 關野 克 東大寺 一五

東大寺の諸倉と正倉  
院宝庫 太田博太郎 美術研究 一六六

正倉院勅封藏式建築  
の研究(二)(一七) 福山 敏男 美術研究 一六六

室生寺金堂解説 伊藤 延男 博物館 六一

法成寺抄 鶴飼 峯生 史迹と美 三二七

平等院鳳凰堂の修理  
について 服部 勝吉 博物館 六七

六勝寺建立の意義  
上、下 藪田嘉一郎 史迹と美 二二二

廣澤池の遍照寺 川勝政太郎 史迹と美 二二三

如意寺跡特集 川勝政太郎 史迹と美 二二八

如意寺とその古図 川勝政太郎 中村 直勝 日本歴史 五一

如意寺の一史料 中村 直勝 大和文華 六

如意岳山上の石組 佐々木利三 勝野 隆信 史迹と美 二二六

如意寺跡をたずね  
て 竹村 俊則 考古学 一〇八

金閣と銀閣 勝野 隆信 日本歴史 五一

山村圓照寺と修学院  
離宮 森 蘊 史迹と美 二二六

撰津伊丹庵寺考 田岡 香逸 考古学 一〇八

常陸国小田三村山清  
冷院極楽寺址の研究 中村 盛吉 博物館 六七

無量光院の発掘調査 伊藤 延男 ミニューゼ 一五

高畠の家形塔婆と肥  
前采鳥居 佐藤 榮太 羽陽文化 一五

古瓦についての一・  
二の覚書 梅原 末治 史迹と美 二二六

大津市膳所の一庵寺  
址出土古瓦について 西田 弘 上代文化 二二

武蔵国分寺瓦の布目  
について 大賀 嘉子 古文化財 三

武蔵国分寺跡出土の  
在瓦面の布目につい  
て(布目瓦の研究第  
二報) 大賀 嘉子 古文化財 三

武蔵国分寺古瓦の  
二・三に就いて 原田 良雄 考古学雑誌 三八〇



後鳥羽上皇の院宮に就いて(鎌倉時代に於ける寝殿造の実例)

太田 静六 建築史研 八

城と模範

林屋辰三郎 日本の美術

彦根城天守

伊藤 延男 博物館 ニュース 六〇

わたくしのみる桂離宮

森 蘊 建築史研 六二

桂離宮古図について

建築史研 八

應舉館補遺

飯島 勇 アムニューゼ 二〇

文化財としての民家

藤島玄治郎 文化財月報 二

山村住居の成立根拠

稲垣 榮三 建築史研 一〇

(1)河内の民家吉村邸

浅野 清 大和文華 七

建築としての茶室

藤島玄治郎 淡交 四九

住宅と茶室との文化交流

村田 治郎 淡交 四九

日本美術史講座

森 蘊 博物館 ニュース 五六

江戸時代の建築と庭園(下)

堀口 捨巳 淡交 五〇

利休の建築

小早川秋聲 淡交 四三

桜下亭の茶室—東本願寺の—

左勝手茶亭 素勝軒—大徳寺山内瑞峯院—

利休愛惜の茶亭—紫野大徳寺山内聚光院の—

東陽坊—洛中建仁禪苑の—

昨夢軒—京都紫野大徳寺塔頭—

茗席好文亭—洛東粟田口青蓮院—

茗席密庵—紫野大徳寺龍光院の—

茗席庭玉軒—洛西紫野大徳寺山内真珠庵の—

孤蓬庵の忘筌—紫野大徳寺の—

龍安寺の茗席咸六庵—洛西龍安寺御陵町—

海福院の茶室—妙心寺の塔頭洛西京花園—

興聖寺の雲龍軒—洛中堀川頭鞍馬口の—

大和の茗席

茶室耕雪菴

小早川秋聲 淡交 四九

矢島 恭介 淡交 一八

古田 紹欽 日本美術 一六二

西村 貞 日本美術 五三

いちみのや 工藝 五三

松岡 敏衛 淡交 五四

松岡 敏衛 淡交 五三

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

松岡 敏衛 淡交 五二

森 蘊 日本歴史 五二

村田 治郎 佛教藝術 一六

福山 敏男 建築史研 七

森 鹿三 東洋史研 二〇四

安藤 更生 古代 七・八

大串 純夫 建築史研 九

福山 敏男 建築史研 九

村田 治郎 佛教藝術 一七

岡田 讓 図説東大寺 五二

満岡 忠成 日本美術 一六六

東大寺の工藝

光悦風の感覚

民藝品とその国際性

陶磁工

川崎 浩良 羽陽文化 一五

G・ゴムバ 日本美術 一六三

大河内正敏先生追悼録

焼物の話—東洋陶磁史—

用語解説・染付

窯変と蕎麦

久志 卓眞 日本美術 一六八

工 藝

総 説

中国、其他

中国伽藍配置の溯源

敦煌石窟編年試論

北魏洛陽城の規模について

洛陽大福先寺考

ソヴィエト領中央アジアの古代住居跡

ミシシプスキ地方の古代住居跡

インド建築史の一素



形物香合番附	柴松居	日本美術	一六二	(3)唐津小服 口紅	加藤義一	日本美術	一六六	日本の古陶磁―サン	小山富士夫	淡交	四四
染附の香合	加藤義一郎	淡交	四五	(4)古丹波	〃	〃	一六七	フランシスコ展出陳	〃	〃	〃
文房香合と「形物香合」附交趾香合について	久志卓真	日本美術	一六二	(5)長次郎赤楽 再	〃	〃	一六八	日本の緑釉出土地名表	景山春樹	上代文化	二一
文房具としての香爐	〃	工藝	一六一	(6)黄瀬戸 筒	〃	〃	一六九	補遺―南紀の緑釉陶片	〃	〃	〃
水器の涼味	〃	日本の茶	二一四	(7)白織部磨手筒	〃	〃	一七〇	下伊那繁跡踏査紀行	久志卓真	日本美術	一五九
茶器苦勞帳(四)―(七)	高原杓庵	日本美術	二五九	東都茶盤譜	佐藤進三	淡交	四三	美濃の古窯址	小山富士夫	日本の茶	二一六
昭和和新名器を拾う	〃	工藝	二五二	是閑手唐津	〃	〃	四四	陶祖美濃加藤由来記	〃	日本美術	一六七
光悦東茶盤	高原慶三	淡交	四四	火計茶盤	〃	〃	四五	(上)(下)	加藤義一郎	淡交	四四
仁清一文字香合	〃	〃	四五	織部香茶碗	〃	〃	四六	黄瀬戸	有聲庵	日本の茶	二一八
雲堂染村「高野」茶盤	〃	〃	四六	古秋茶碗	〃	〃	四七	志野・織部・黄瀬戸	有聲庵	日本の茶	二一五
朝鮮唐津「白妙」茶盤	〃	〃	四七	古刷毛目茶碗	〃	〃	四八	(対談)	有聲庵	日本の茶	二一八
浄清作遠州好牡丹唐草金襴地文釜	〃	〃	四八	彫三鳥茶碗	〃	〃	四九	志野窯初期の発掘	天青	日本の茶	二一六
絵唐津網の絵茶盤	〃	〃	四九	呉須鶴の絵茶碗	〃	〃	五一	志野の問題	久志卓真	日本の茶	二一七
仁清信楽平丸水指	〃	〃	五一	繪唐津平茶碗	〃	〃	五二	織部について	中川千咲	ミューゼ	二〇
呉須唐山水絵茶盤	〃	〃	五二	本手瀬戸唐津茶碗	〃	〃	五三	織部を語る	内島北朗	日本美術	一六二
黒田家伯座茶盤	〃	〃	五三	四つの茶碗―記念茶会に寄せて	〃	〃	五四	九谷焼	林屋晴三	ミューゼ	一九
安南四方割高台茶盤	〃	〃	五四	白天眼と紹鴨の佗茶	〃	〃	五五	仁清談義	水戸幸	日本の茶	二二三
ちやわん抄	加藤義一郎	日本美術	一五九	光悦不二山茶碗	林屋晴三	大和文華	六	色絵月梅図茶壺	松本橋重	日本美術	一六七
(36)曳木鞘	工藝	〃	一六〇	名盤「次郎坊」	林屋晴三	日本の茶	二一一	楽窯代々の展観	佐々木三味	淡交	四五
(37)志野 橋の葉	〃	〃	一六一	観阿作苦楽銘の茶盤	中井浩水	日本美術	一六四	「木吏」究明される	加藤義一郎	日本美術	一六四
(38)織部志野	〃	〃	一六二	彫三鳥茶碗・銘外花	満岡忠成	大和文華	七	古伊賀耳附花入	桂又三郎	工藝	一六三
(39)黄伊羅保	〃	〃	一六三	井戸と青井戸	山田萬吉郎	日本美術	一六〇	伊賀の花生	〃	日本美術	一六四
(40)元寶(在銘)	〃	〃	一六四	馬蝗絆は修内司窯	梅澤曙軒	日本の茶	二一二	古備前について	〃	工藝	一六三
(41)河浜焼片口	〃	〃	一六五	馬蝗絆対面	小山・栗田	〃	二一三	備前焼はこうして生	〃	〃	〃
(42)疵とゝや	〃	〃	一六五	馬蝗絆天目合せ鏡	満岡忠成	〃	二一五	〃	〃	〃	〃
				坤寧殿茶盤	佐藤進三	日本美術	一七〇	〃	〃	〃	〃
				日本の陶磁	工藝	〃	〃	〃	〃	〃	〃

古備前の観賞	久志 卓眞	日本の茶	二二一	支那の工芸に現れた龍のうつりかはり(補上、中、下、補)について	内藤 匡	日本美術工芸	一九一	砧青磁筋花入	佐々木三味	淡 交	四七
古備前名品展	久志 生	二二二	「龍のうつりかはり」について	三上 次男	タ	一六四	宣徳青花瓷	谷田 閔次	大和文華	六	
備前焼と須恵器・土師器の併用時代	桂 又三郎	日本美術工芸	黒陶・彩陶き、書(座談会)	藤岡 了一	美術史	六	染附高砂花入	佐々木三味	淡 交	四六	
古備前花入	佐々木三味	淡 交	漢緑釉輪彫鸚鵡尊解説	奥田 誠一	ミューゼ	一八	釉裏紅鳳文梅瓶	谷田 閔次	大和文華	八	
備後の古陶磁(一)	村上 正名	日本美術工芸	唐三彩	小山富士夫	大和文華	七	萬曆赤絵	加藤義一郎	淡 交	四三	
〓(二)姫谷焼	タ	一六〇	唐藍緑彩壺	久志 卓眞	タ	一六二	清朝の単色陶磁解説	久志 卓眞	日本美術工芸	一六八	
〓(三)柄とつくり	タ	一六二	唐三島と唐三彩の珍種	米内山庸夫	日本美術工芸	一六三	雍正銘豆彩唐草文花入と染附花鳥文懸花生	小山富士夫	アトリエ	三〇六	
〓(四)近世末期諸窯一、土生窯と洞山焼	タ	一六四	唐宋南方古窯について(上、下)	谷田 閔次	墨 美	一三		清久 卓眞	工芸	一六〇	
〓(五)近世末期諸窯一、二、岩谷焼	タ	一六七	宋磁の線	館林唐一郎	日本美術工芸	一五九	遼緑釉牡丹文鳳首瓶	小山富士夫	大和文華	五	
源内の春駒	タ	一六三	宋磁のニユアンス	O・カールベック	タ	一六一	三尾の魚—安南染附大皿—	奥田 誠一	日本美術工芸	一七〇	
唐津焼について	佐藤 進三	タ	焦作窯?修武窯?	米内山庸夫	日本美術工芸	一五九	交趾角阿古陀香合	いちみ	タ	一六四	
朝鮮唐津耳附花入	佐々木三味	淡 交	極東の友へ	田中作太郎	ミューゼ	一〇	ペルシャ古陶解説	敷浪 迪	博物館	六	
奥高麗安井唐津	満岡 忠成	大和文華	南宋官窯の研究—その中間報告—(一)(二)	梅澤 曙軒	日本の茶	二二一	銅鐸は発音器	敷浪 迪	博物館	六	
二人柿右衛門	火野 葦平	日本美術工芸	南宋官窯の陶片	久志 卓眞	日本美術工芸	一六九	「石上神宮の七支刀」再補	福山 敏男	美術研究	一六五	
渋右衛門手色銅島	矢田三千男	日本美術工芸	修内司窯座談会	小山富士夫	博物館	五八	龍首水瓶	蔵田 蔵	ミューゼ	一九	
			青磁と修内司窯	田中作太郎	アム	一〇	金銅蓮華磬	立田 三朗	大和文華	七	
			景定壬戌銘定窯合子	久志 卓眞	日本美術工芸	一六九	華原磬—新国宝より	蔵田 蔵	ミューゼ	一六	
			宋白地黒撞落牡丹唐草文瓶解説	田中作太郎	アム	一五	金銅蓮華文金剛盤	蔵田 蔵	史迹と美術	二二二	
			青瓷の認識の限界(一)(二)	久志 卓眞	日本美術工芸	一六九	金銀塗銅製宝塔軸部—古器過眼録—	梅原 末治	史迹と美術	二二二	
			飛青磁花生	田中作太郎	アム	一五	梵鐘見聞録	坪井 良平	史迹と美術	二二八	
				田中作太郎	アム	一五	東大寺大仏殿の前庭と金銅燈籠	外山 英策	史迹と美術	二二九	
				田中作太郎	アム	一五	室生寺御影堂の鉄燈籠	川勝政太郎	史迹と美術	二二五	
中国古陶磁概説	小山富士夫	三 彩									
神奈川県立近代美術館の中国古陶磁展について	タ	タ									
アメリカに於ける中国古陶磁界	蔵山 順吉	日本美術工芸									

若狭高浜町佐伎治神 社の鐘	坪井 良平	史迹と美 術	二二〇
和鏡	藏田 藏	ミューゼ アム	一四
画文帯四仏四獸鏡に 就いて	梅原 末治	史迹と美 術	二二四
南都久怡作興福寺釜	山 樵 亭	日本美術 工藝	一六二
南都天下一作久怡	村治圓次郎	ミューゼ アム	一六三
釜二題 五四馬	林 屋 晴三	ミューゼ アム	一二
平蜘蛛	立田 三朗	ミューゼ アム	二二
古銅龍耳の花入	佐々木三味	淡 交	四三
砂張釣舟花入	谷川 徹三	アトリエ	五〇
鐔の話	本阿彌光博	刀剣美術	三二二
宗珉の藝術	宮崎富次郎	ミューゼ アム	一七
宗珉論	紋 洋	ミューゼ アム	一四
宗珉と安親	佐藤 貫一	ミューゼ アム	一七
土屋安親と庄内金工	本間 順治	ミューゼ アム	一五
銘染谷知信兜尻大小	佐藤 貫一	ミューゼ アム	一一
日本美術史講座 創造的な鍛造へー江 戸時代の刀剣	佐藤 貫一	博物館 ニュース	五七
古代日本人とシナ鏡	梅原 末治	聖心女大 論叢	二
漆金の漢六朝鏡	大和文華	大和文華	六
近時所見の本邦での 唐式鏡	古代学	一ノ三	

## 木 漆 工

平文の変遷附白錫平 文の事	吉野 富雄	大和文華	七
正倉院密陀絵の研究 1―漆・油及びラッ クによる顔料の変色 について	上村 六郎	古文化財 之科学	三

## 染 織 工

用語解説密陀絵	岡田 讓	ミューゼ アム	一五
一閑張の一閑	溝口 三郎	日本美術 工藝	一六八
博物館工芸品の模造	岡田 讓	ミューゼ アム	一九
高台寺蒔絵―その性 格と作品―	岡田 讓	ミューゼ アム	二二
菊にすき蒔絵提燈	溝口 三郎	博物館 ニュース	五八
高台寺蒔絵展より	岡田 讓	ミューゼ アム	一
寺蒔絵展より	溝口 三郎	ミューゼ アム	一一
繪扇紋散蒔絵手箱解 説	岡田 讓	ミューゼ アム	一九
入橋蒔絵硯箱光琳作	岡田 讓	美術研究	一六六
東大寺藏青漆塗沈金 彫雲鳳文経櫃解説	ミューゼ アム		
日本染織美術展につ いて	山邊 知行	染織美術	一四
近世染織美術史9	明石 染人	ミューゼ アム	一二
染織品の保存法に就 いて	毛利 登	古文化財 之科学	三
無形文化財と染織技 術(座談会)	染織美術	一四	
人ときもの	溝口 三郎	博物館 ニュース	五九
色彩の魔術	明石 染人	淡 交	四七
織について	北村 哲郎	ミューゼ アム	一三
上代契断想	佐々木信三郎	染織美術	一四
上代の錦―獅子狩文 錦を中心に―	原田 淑人	ミューゼ アム	一三
中尊寺金棺中の二・ 三の染色品残欠の植 物染料について	林 孝三 涼野 元	古文化財 之科学	三

中尊寺金棺内発見の服 飾品	山邊 知行	博物館 ニュース	五九
熱田神宮神服	日野西資孝	ミューゼ アム	一三
熊野神宮の神服	ミューゼ アム	博物館 ニュース	五九
名物裂	明石 染人	ミューゼ アム	一三
茶道の織物美(5)―利 休居士の頃―	龍村 謙	淡 交	四四
能衣裳	山際 靖	ミューゼ アム	一三
つむぎ考	館林唐一郎	日本美術 工藝	一六九
染について	毛利 登	ミューゼ アム	一三
日本の染色	富永 惣一	みづゑ 博物館 ニュース	五六四 五九
染色用語解説	山際 靖	ミューゼ アム	一三
古代の染料	上村 六郎	ミューゼ アム	一三
古代裂に於ける植物 染料の同定(補遺)	林 孝三	古文化財 之科学	三
螢光による染料色素 の鑑別について	涼野 元	ミューゼ アム	一六
上代染色技術の現代 へのつながり	野口 眞造	ミューゼ アム	一九
天文小袖	山邊 知行	ミューゼ アム	一三
辻ヶ花染	大道 弘雄	博物館 ニュース	五九
桐箆模文様辻ヶ花染 羽織(伝太閤所用)	北村 哲郎	博物館 ニュース	五九
豊太閤の辻ヶ花染羽 織	藤田 謙	染織美術	一四
京の友禅	山際 靖	博物館 ニュース	五九
白地蛇籠に曝し布模 様振袖	山邊 知行	ミューゼ アム	一三
江戸小紋(小宮老人 開書き)	明石 染人	ミューゼ アム	一三
東京小紋と伊勢型	明石 染人	染織美術	一三



刺繍について	山邊 知行	ミューゼ	一三
天寿国繡帳	毛利 登	ミューゼ	一三
刺繍阿弥陀三尊種子	望月 信成	國華	七三二
曼荼羅解説 細見良氏蔵	太田 英藏	佛教藝術	一五
獸面文の繡解説	日野西資孝	ミューゼ	二〇
用語解説繡箔	北村 哲郎	ミューゼ	一八
ジャバ更紗			

硝子工

ガラス	澁井 清	博物館	六三
典鑄司ガラス製造考	瀧川政治郎	大和文華	五
西琳寺旧蔵の白瑠璃碗に就いて	石田 茂作	ミューゼ	一八
乾隆ガラス	岡田 讓	ミューゼ	一八

其他

唐物耳附籠花入	佐々木三味	淡交	四九
宗全籠	岡田 讓	アルス・グラフィック	六
工藝彫刻	山邊 知行	ミューゼ	二一
博物館収蔵の人物	林 謙三	大和文華	五
飛鳥奈良時代の美術に現れた楽器	高原 慶三	日本美術工藝	一六九
名物茶杓一覽	朝比奈貞一	古文化財	三
和時計の鐘			

考古学関係

日本古代文化展によせて	エリセエフ	ミューゼ	一〇	東京都国分寺町熊ノ郷殿ケ谷戸遺跡―南関東地方縄文式文化以前の研究1―	吉田 格	考古学雑誌	三ノ二
日本考古学の根本問題―その方法論に於ける一試論として―	前澤 輝政	古代学	七・八	東京都世田谷区千歳遺跡調査報告	野口 義麿	上代文化	二一
日本始原文化の起原問題	江坂 輝彌	古代学	一ノ二	伊豆大島大久保遺跡予報	大川 清	古代学	四
日本に於ける初期石器時代の文化と住民	清野 謙次	考古学雑誌	三ノ二	千葉県香取郡八都村向油田貝塚発掘概報	西村 正衛		七・八
縄文式文化について(1)―(3)―	江坂 輝彌	歴史評論	三一・三二	千葉県銚子市栗島台石器時代遺跡調査報告	大場 盤雄	上代文化	二二
関東地方の縄文式文化研究参考文献目録	海老原 幸	考古学	一ノ八	銚子市松岸町原史時遺跡について	萩原 弘道		二三
北浦をめぐる古き代々岐・対島考古調査の記	藤田 國雄	博物館	六七	滋賀県醍醐縄文式遺跡について	小江 慶雄	文化史学	五
住居址に於ける焼土について	大川 清	古代学	七・八	大阪府南河内郡玉手村安福寺境内横穴調査報告	川端 眞治	考古学雑誌	三ノ三
日本に於ける巨石記念物(続々)	駒井 和愛	考古学雑誌	三ノ一	高槻市天神山弥生式遺跡	免山 篤	古代学研	六
(続々々)				紀伊国岡山遺跡予報	舟田 左門	上代文化	二一
カマイコタンのストーン・サークル	河野 廣道		五・六	南紀串本の祭祀遺跡	伊勢田 進		二三
根室半島カツラムイに於ける堅穴発掘	北構 保男	上代文化	二一	山口県島田川流域における遺跡調査報告	小野 忠照	考古学雑誌	三ノ三
東北地方の祭祀遺跡(上下)	大場 磐雄	古代学	四・五	土佐入田遺跡調査概報	岡本 健兒		五・六
青森県森田村附近の遺跡調査概報	西村 正衛		五	北九州ドルメン見聞記	八幡 一郎		三ノ四
編年上より見た貝塚(概説)―特に関東地方の貝塚について	酒詰 仲男	日本民族		古墳の発生	後藤 守一	戦台史学	二
栃木県葛生会沢の一遺跡	直良 信夫	古代学	七・八	古墳時代文化の成因について	小林 行雄	日本民族	
葛生前河原洞窟と同一出土の人類化石骨	川島 守一	考古学雑誌	三ノ二	上代の古墳について	梅原 末治		
栃木県に於ける仏教遺跡		考古学	一ノ七	古墳と古墳群(上)―古墳と史料の把握への一試企	森 浩一	古代学研	六
				同範鏡による古墳の年代の研究	小林 行雄	考古学雑誌	三ノ三



支石墓雜記 藤田 亮策 考古學雜 二ノ四

ある古墳の覺書 大場 磐雄 考古學 一ノ八

永樂通宝を出土した 櫻井 清彦 考古學雜 二ノ一

岩手県江刺郡玉里村 櫻井 清彦 考古學雜 二ノ一

概報 櫻井 清彦 考古學雜 二ノ一

群馬県古墳文化 川島 守一 考古學 一ノ九

横浜古墳発掘調査報告 石野 瑛 古 代 六

千葉県印旛郡酒々井 小出 義治 上代文化 二一

町新堀横穴第一号墳 神尾 明正 古 代 六

調査報告 金鈴塚の砂と石とに 玉口 時雄 七・八

上総飯野村西谷古墳 大場 磐雄 上代文化 二一

信濃国の古墳とその 高堀 勝喜 歴史評論 三六

性格 石川県加賀国南部の 原田 大六 考古學雜 二ノ四

古墳研究 福岡県石ヶ崎の支石 伊原宇三郎 文化財月 四

墓を含む原始墓地 丸茂 武重 上代文化 二二

鬼塚古墳原始壁画 齋藤 和夫 古代学研 六・七

土器文様の表現技術 宇佐 晉一 古代学研 六・七

についてトロボロ 岡本 太郎 みづゑ 五五八

ギョーの考察 金谷 克巳 古代学研 六

直弧文の研究(一) 椎名 仙卓 上代文化 二二

縄紋土器論 八幡 一郎 考古學雜 三八ノ

千島の土器 下総国菅田村発見の 御船 恭平 古代学研 六

所謂「日土器」 長野県野沢発見の弥 近藤 義郎 考古學雜 五・六

生式遺物 岡山県三明寺の押型 分銅形土製品 近藤 義郎 考古學雜 五・六

土偶と埴輪 長谷川三郎 アルス・ 六

諸磯式文化の土偶 野口 義麿 考古學雜 二ノ三

男性土偶の新例 永峯 光一 上代文化 二一

相模国真鶴発見の土 金谷 克巳 考古學雜 二ノ三

偶 埴輪 和鳥 誠一 日本美術 四

埴輪 埴輪 桂甲をつけた 三木 文雄 アム・ 一九

男子 埴輪 鏡山 猛 史 淵 五三

埴輪 埴輪 合口 埴輪について 佐野 大和 上代文化 二一

埴輪 埴輪 備中国都窪郡庄村出 近藤 義郎 古代学 一ノ二

土の弥生式壺形埴輪 武田 好吉 羽陽文化 一四

本県出土の炭手刀(山形市附近より出土の刀) 瀧口 宏 史 観 三八

鳥首刀考 瀧口 清三 上代文化 二二

腕飾考―石器時代身 山崎 一雄 古代文化財 三

体裝飾品之研究内 三輪 房子 之科学 二一

古墳出土ガラス小玉 大橋 直子 上代文化 二二

の化学成分について 石橋 次雄 上代文化 二二

千葉県八木村発見の 麻生 優 大和文華 六

堅魚節型玉器 加曾利貝塚発見の玉 末永 雅雄 考古學雜 二ノ一

器 玉杖 野口 義麿 史 淵 五三

丹波周山経塚につい 河原 純一 史 淵 五三

て 新発見の奈良朝墓誌 今谷 文雄 日本歴史 五四

銘 新発見の山代忌寸真 田村 吉永 史 淵 五三

作の墓誌について 高山寺の金銅墓誌に 景山 春樹 佛教藝術 一六

ついて 平安時代の金石文 竹内 理三 日本歴史 五四

板碑藝術 加藤 増夫 日本美術 一六三

上代に於ける方位の 瀧口 宏 古代 七・八

決定について 洞 富雄 四

母系制より父系制へ 後藤 守一 日本民族 四

の推移―大化前代の 原田 淑人 史 淵 五三

族制 上代に於ける貴族社 松本 信廣 史 淵 五三

会の出現 日本に於ける倚坐の 大邱大鳳町支石墓群 榎本 杜人 考古學雜 二ノ四

習俗 古代理人と舟 中国古代学界の近況(一) 佐藤 武敏 史 淵 五三

大邱大鳳町支石墓群 河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

中国古代学界の近況(一) 河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

河南省瀋陽市諸遺 河南省瀋陽市諸遺 跡の調査 佐藤 武敏 史 淵 五三

四川発見の陶象石塚 西支那の漢代墓飾藝術 の浮彫集	藤田 國雄	博物館 ニュース	六二	北嵯峨の史迹と伝説 上、中、下	竹村 俊則	史迹と美術	三三二
四川出土の漢代陶象 石塚	栗原 明信	古 代	一七	鴨川と防鴨河使	川勝政太郎	史	二二九
伝阿房宮故基出土瓦 当の製作時代について	三上 次男	考古学雑誌	五ノ四	わびさびの現れと思 ひ	保田與重郎	淡 交	五一
満州における支石墓 の在り方	小川 貫式	龍谷史壇	三七	茶の湯における自然 茶道俗生とその時代 の風俗一三	植田 壽蔵	史	五三
西本願寺の西域探險 西アジア古代学界の 展望	三森 定男	古代学	一ノ二	千利休	江馬 務	史	五二
ベルト洞窟とホト ウ洞窟遺跡	角田 文衛	水枝	一ノ三	佗茶人道六(一)	太田博太郎	日本の美術	五〇、一
ハッスーナ文化	梅田 良忠	史	一ノ三	不昧公の父君 松平 宗衍公(一)	鈴木 半茶	工藝	五七
シユメル人の労働 組織と社会機構	高橋 水枝	史	一ノ三	不昧公と勝軍木庵	桑原 雙蛙	史	七〇
ヒッタイト文化北 上の問題	梅田 良忠	史	一ノ三	藤原実重に就いて	司田 純道	史迹と美術	一六四
北方古代学界の展望(一) セレンガ河流域の 古代文化	角田 文衛	史	一ノ三	蝦夷の文化とその種 族一文献に基づく文化 の復原を中心として	清水 潤三	史 学	二五ノ三
内蒙に於ける丁抹 考古学者の調査	田淵義三郎	史	一ノ三	古代の大和人の生活	肥後 和男	大和文華	六六
セミレーチエの古 拙文化(上)	梅田 良忠	史	一ノ三	古代の国際競技打毬 活	原田 淑人	博物館 ニュース	六六
スターラヤ・リヤ ザンの文化	清水 睦夫	史	一ノ三	東山時代と民衆の生 活	林屋辰三郎	淡 交	五一
ジャルモ文化につい て	角田 文衛	考古学雑誌	三ノ二	わたしたちの郷土研 究一府中と国分寺を 中心にして	武蔵野児童 文化会	歴史評論	三四
フォルソム型石器の 諸問題	八幡 一郎	史	一ノ三	春日の飛火野	瀧川政治郎	大和文華	七
古代印度支那北部で 行われた二種の青銅 製の楽器	梅原 末治	東方学	四	「花」の展開	春日 順治	桐朋女子 学園紀要	二

歴史関係

典籍の保護 浄土教教理受容の史 的考察一来迎引接を 中心として一	伊藤 芳夫	羽陽文化	一五	周漢文化の基盤	宮崎 市定	墨 美	一一
大仏開眼	生江 義男	桐朋女子 学園紀要	二	宋代文化の一面	岡本 敬二	史 潮	一〇
東大寺建立と文学	西田直二郎	図説東大寺	二	アジア北方諸民族の 婦人帽「宇墨塔」	史 潮	史 潮	四六
大仏造願とその思想 信仰	澤瀉 久孝	史	二	ホラズムの時代区分	V・エリセ エフ	東洋史研	二ノ四
お水とりと青衣の女 人	飯島 幡司	史	二				
東大寺の創立	家永 三郎	東大寺	二				
平安時代の教学	川崎 唐之	史	二				
治承の炎上と重源の 再興	藤田 經世	史	二				
鎌倉時代の教学	川崎 唐之	史	二				
永祿の兵火と元祿の 再興	森末 義彰	史	二				
東大寺文書	中村 直勝	史	二				
東大寺の経済	永島福太郎	史	二				
東大寺の行事	堀池 春峰	史	二				
伎 楽	林 謙二	大和文華	八				
唐招提寺用度帳(研 究資料)	福山 敏男	美術研究	一六五				
元海記醍醐経蔵目録 について	佐和 隆研	史迹と美術	二二二				
瓦経の整理	中村 直勝	史	二二〇				
瓦経に就いての二三 の覚書	梅原 末治	史	二二〇				
京都市左京区榎原盆 山出土瓦経(報告)	棚橋 信文	史	二二〇				
榎原発見瓦経の考察 問題	川勝政太郎	史	二二七				
平城京条坊機構の諸 問題	田村 吉永	史	二二七				
平城京堀川の一坊中 央大路の一資料	大井重二郎	史	二二八				
平安京の創設	川勝政太郎	史	二二八				

パクトリアよりタキ  
シラまで—印度古代  
交通路の研究 樋口 隆康 佛教藝術 一五

インド古代の歴史と  
文化 辻 直四郎 佛教藝術 一七

## 現代美術 西洋美術 関係単行図書

美学 阿部 次郎 勁荒書房  
藝術学 矢崎 美盛 弘文堂  
藝術論 甘粕 石介 三笠書房  
藝術論(創元文庫) ドラクロア 植村鵬千代 創元社

鑑賞、評価、生活美術  
藝術のみかた(智慧の実  
教室) 美術教育学  
会編 美術出版社  
谷川 徹三 磯部書房

藝術論(要選書) ワイルド 吉田健一 要書房

美術の歴史と見方(学生  
教養新書) 富永 惣一 至文堂

藝術論 ヨクトオ 堀口大学 人文書院

西洋美術—歴史と鑑賞—  
ぼくらの世界美術史 谷 信一 東京堂

藝術社会学(創元文庫) フリーチエ 昇 曙夢 創元社

世界の美術(教養叢書)  
英国の美術及詩に於ける  
風景 ビニヨン 三輪 正廣 実業之日本社

階級社会の藝術(三笠文  
庫) プレハノ 蔵原惟人 三笠書房

絵の歴史(西洋1)  
絵画の歴史(文庫クセジ  
ユ) 嘉門安雄編 美術出版社  
ワイルド 白 水 社

経験としての藝術 デュウイ 鈴木康司 春秋社

絵画の歴史(西洋1)  
絵画の歴史(文庫クセジ  
ユ) 三輪 啓三 関口俊吾 白 水 社

現代の藝術(角川文庫) 上田 敏 角川書店

絵画読本(創元文庫)  
ルネッサンス絵画史 内田 巖 創元社

藝術と人生(現代教養文  
庫) 小宮豊隆 社会思想研究  
会出版部

北村忠夫 弘 文 堂

藝術とはなにか(要選書) 福田 恒存 要書房

別冊アトリ  
エ(第一三) アトリエ社

藝術民俗学研究 森口 多里 東峰書房

別冊アトリ  
エ(第一五) アトリエ社

美術概論 シラー 小栗孝則 創元社

印象派時代  
印象派の話(みづる文庫)  
印象派・後期印象派  
集 別冊アトリ  
エ(第一五) アトリエ社

シラー美的教養論 シラー 清水 清沢 玉川大学出版  
部

印象派時代  
印象派の話(みづる文庫)  
印象派・後期印象派  
集 別冊アトリ  
エ(第一五) アトリエ社

造形感情(早稲田選書) 今 和次郎 早稲田大学出版  
部

印象派・後期印象派  
集 別冊アトリ  
エ(第一五) アトリエ社



- ゴッホの手紙(2)(3)(5)  
式場隆三郎 創 藝 社
- テオ・ヴァン・ゴッホの手紙(近現代文庫)  
兄ヴィンセントへの手紙  
ス 三 笠 書 房
- ある藝術家への手紙  
ス 三 笠 書 房
- ゴッホの手紙  
小林 秀雄 新潮 社
- 妻と友人に宛てたゴーガンの手紙  
マラング(モリス) 美術出版社
- ユトリロ(アテネびじゅつ文庫)  
田近 憲三 弘 文 堂
- 風景画家ユトリロ  
別冊アトリエ(第一六集) アトリエ社
- ルオー(アテネびじゅつ文庫)  
福島 慶子 弘 文 堂
- マチス(アテネびじゅつ文庫)  
佐藤 敬 弘 文 堂
- ピカソ(青木文庫)  
吉井 忠編 青木書店
- ピカソ—藝術の五十年(アルフレッド・ド・植村鷹千代訳)  
岡本 太郎 弘 文 堂
- ピカソ(アテネびじゅつ文庫)  
レイベン 嵯峨 公業 三 杏 社
- 宿命の画家達  
大久保 泰 中央公論社
- 巴里の藝術家たち(三笠文庫)  
福島 慶子 三 笠 書 房
- フランスの若き画家達  
和田 定夫 美術出版社
- 岸田劉生  
鈴木信太郎 美術出版社
- 劉生絵日記(1)(2)  
解説 岸田 劉生 龍 星 閣
- 藝術の無限感  
中村 彝 四 季 社
- 梅原龍三郎(三笠文庫)  
眞船 豊 三 笠 書 房
- 安井曾太郎(日本現代画家選)  
石井柏亭 石井柏亭氏古稀記念会編  
ス 三 笠 書 房
- 随筆ヴィナス  
南欧藝術紀行  
パリの窓  
眼の引越  
画家を訪ねて  
構図の話  
構図の研究  
画家のテクニク  
ス 三 笠 書 房
- 美術出版社  
編 美術出版社
- 矢代 幸雄 朝日新聞社  
田中耕太郎 文藝春秋新社  
碓 伊之助 読売新聞社  
青山 二郎 創 元 社  
難波専太郎 美術探求社  
倉田 三郎 教育美術振興会
- 別冊アトリエ(第一七集) アトリエ社
- グーリナ 大森啓助訳 美術出版社
- 中川一政・野口彌太郎・他洋画家10氏 アトリエ社
- 横井 弘三 信 友 社
- 水谷 清 文雅堂書店
- 別冊アトリエ(第一九集) アトリエ社
- 別冊アトリエ(第一八集) ス
- 荻野 康兒 教育美術振興会
- 細島昇一編 美術研究社
- 高島達四郎 美術研究社
- 別冊アトリエ(第二集) アトリエ社
- 大田 耕士 青 銅 社
- 中谷 健次 藝術科学社
- 村上 柁夫 藝術科学社
- 世界の名画Ⅱ5・6  
ピカソ(ピカソ展作品集)  
名作版全集  
現代日本水彩画作品集  
原爆の図(青木文庫)  
藝術年鑑 一九五二年版  
現代美術事典  
図画新辞典  
略画・図案新事典  
図案辞典  
工作新辞典  
ス 三 笠 書 房
- 今泉篤男 美術出版社  
岡鹿之助編 アトリエ社  
北原義雄編 美術研究社  
平塚 運一 美術研究社  
細島昇一編 ス  
丸木 位里 青木書店  
赤松 俊子 教育弘報社  
文部省藝術課監修  
瀧口修造他 白 楊 社  
野ばら社編 野ばら 社  
小野寺秋風 文 海 堂  
寺内萬治郎 小池 喜雄 一步社書店  
監修 野ばら社編 野ばら 社  
岡登 貞治 国民図書刊行  
公榮元一郎 会
- すぐ上達する図画の handbook  
なんでも 子供の画の handbook  
かける 子供の画の handbook  
絵をかきましよう(小学生学習文庫)  
少年の画室  
絵と生治(目で見る社会科)  
版画の教室  
絵を描く子供たち(岩波新書)  
工作教室(中学生全集)  
子供の設計  
中学生の工作  
宮崎 純一 むさし書房  
新井 八郎 湯川弘文堂  
長谷喜久一 あかね書房  
宮本 三郎 東峰書房  
上野照夫編 毎日新聞社  
大田耕士編 青 銅 社  
北川 民次 岩波書店  
室 靖 筑摩書房  
青木 好意 有 明 堂  
松田 義之 旺 文 社



工芸  
実用色彩学  
色彩の話  
意匠学

図画工作研  
究所編  
宮下 孝雄  
和田 三造  
宮下 孝雄  
光生館  
美術出版社  
光生館

沖繩織物裂地の研究  
世界家具裝飾図案集  
室内裝飾の常識

# 東洋古美術関係単行図書

## 総説、総録

世界美術全集 3 古代西  
アジヤ 7 中国(1) 9 日  
本(1)  
少年美術館 東洋篇一  
三

平凡社

岩波書店

野間清六編  
谷信一編  
東京堂

日本美術辞典  
小林 剛編  
創元社

日本美術史年表  
藤田經世編  
美術出版社

日本美術史年表  
中井 正一  
宝文館

日本美術の語  
上野 直昭  
美術出版社

日本の美術  
田中一松編  
毎日新聞社

日本の美術  
金原 省吾  
牧書店

世界に於ける日本美術の  
位置(三笠文庫)  
矢代 幸雄  
三笠書房

日本美術史図版(1)  
文化史学会  
美術史資料刊  
行会

国宝図録第一集  
石田茂作監修  
誠文堂新光社

文化のあけぼの(博物  
館文化史シリーズ)

妙義出版社

## 美術文献目録

田中 俊雄  
田中 玲子  
家具意匠研  
究会編  
山本 隆敏  
佐伯 忠敬  
相模書房

明治書房  
森地出版K K  
相模書房

栃木県文化財  
神奈川県文化財目録  
新潟県文化財目録第一  
福井県の概要  
福井県文化財調査報告書  
奈良県文化財要覧26—27年版  
奈良県総合文化調査報告  
書・都介野地区  
和歌山県文化財目録  
京都の新旧宝2  
京都史跡名勝紀要  
京都府の自然と名勝  
大阪府文化財一覽  
兵庫縣國宝重要文化財  
解説(一)(建造物篇)  
広島縣國宝選・続  
香川縣文化財調査報告  
土佐の文化財  
佐賀縣文化財調査報告書1  
福岡縣重要文化財解説(國宝篇)  
大分縣古地圖目録

西洋文化の伝来(博物  
館文化史シリーズ)  
東大寺と正倉院(博物  
館文化史シリーズ)  
繪巻物の話(博物館文  
化史シリーズ)  
きもの歴史(博物館  
文化史シリーズ)  
日本の名匠  
京・大和の美をたづねて  
東大寺  
図説東大寺  
岩波写真文庫 平泉日  
光千代田城 京都御所  
と二條城 比叡山 正倉  
院(二) 宮島  
東京国立博物館収藏品目録  
文化財要覧・昭和26年版  
重要文化財目録(美術工藝品)  
学習指導における文化財  
の手引  
北海道の文化財  
宮城県の文化財

石田茂作監修  
妙義出版社

横川毅一郎  
久保田正衛  
小林 剛編  
筑摩書房  
創元社  
毎日新聞社  
朝日新聞社  
岩波書店  
東京国立博物  
館  
文化財保護委  
員会  
日本教育新聞  
社  
北海道教育委  
員会  
宮城縣教育委  
員会

栃木縣教育委  
員会  
神奈川縣教育  
委員會  
新潟縣教育委  
員会  
福井縣  
福井縣教育委  
員会  
奈良縣教育委  
員会  
和歌山縣教育  
委員會  
京都國立博物  
館  
京都市役所  
京都市土木部  
都市計画課  
大阪府教育委  
員会  
兵庫縣教育委  
員会  
広島縣教育委  
員会  
香川縣教育委  
員会  
高知縣教育委  
員会  
佐賀縣教育委  
員会  
福岡縣教育委  
員会  
大分縣教育委  
員会

## 絵画

絵の歴史(日本1)  
奥平英雄編  
美術出版社

美術カード 7 絵画・日本(上古・鎌倉) 8 絵画・日本(室町・江戸)

奥平英雄編 美術出版社

法隆寺金堂壁面

便利堂 法隆寺金堂壁面集刊行会

源氏物語絵巻

櫻井 清香 徳川美術館

信貴山縁起絵巻(岩波写真文庫)

岩波書店

宗達光琳派図録

国立博物館 便利堂

光琳派厨面画集1

京都書院

浮世絵(アルス・グラフ) 歌麿

藤縣静也編 アソカ書房

韓熙載夜宴図巻

便利堂

慶陵2

田村 實造 京大文学部

書蹟・文房具

日本古筆名葉集

吉澤義則編 白水社

安田文庫古経清鑒

石田茂作編 日本海外商事株式会社

わかたけ帖

飯島春敬編 東京美術倶楽部

古名硯

東京国立博物館

彫刻

日本彫刻

小林 剛 創元社

日本の彫刻 1・上古時代 2・飛鳥時代 5・平安時代 6・鎌倉時代

美術出版社

日本の国宝・彫刻篇(アルス・グラフ)

野間 清六 アールス 便利堂

奈良の大仏(岩波写真文庫)

岩波書店

雲岡石窟 第一巻 第四巻 第七巻

水野 清一 京大人文科学研究所

建築・庭園

美しい建築 建築史ノート

岡田 哲郎 ポプラ社

社寺建築

西山 卯三 相模書房

国宝圓覺寺舍利殿昭和修理報告書 重文三明寺塔婆修理工事報告書

廣江 文彦 地球出版 文化財保護委員会

肥後国古塔調査録

熊本女子大 郷土文化研究所編

稲佐庵寺趾調査報告

田邊 哲夫 日本談義社

住まいの歴史

直良 信夫 福村書店

日本の民家(岩波写真文庫)

岸田日出刀 岩波書店

京都御所

堀口 捨巳 相模書房

桂離宮

龍居松之助 彰国社

茶と家と庭

前田巳之助 楓書店

茶庭

重森 三玲 河原書店

石庭林泉

北川 桃雄 筑摩書房

工芸・其他

桂離宮の庭燈籠

丹羽 鼎三 彰国社

世界人物図案資料集成 世界植物図案資料集成

杉浦非水編 技報堂

美術カード 12・日本工芸(全期)

美術出版社

日本工芸図録

朝日新聞社

古備前陶器1

岡田 讓 日本陶磁協会

日本色絵古陶集(5)

京都書院編 京都書院

日本の楽茶碗

水戸 幸

楽茶盤

佐々木三味 河原書店

国焼茶盤

唐物茶盤

釜 鐔 日本上代鐵技の研究(川島織物研究所報告2)

加藤義一郎 彰国社

沖繩織物製地の研究・附録

田中 俊雄 川島織物研究所

茶杓

田中 玲子 明治書房

Ancient Chinese Bronzes of the Shang and Chou Dynasties

Hensden W.V. 研究社

考古学関係

原始美術

大阪市立美術館

日本考古学概況 日本考古学年報1 昭和23年版

小林 行雄 創元社

石器時代の文化

吉田 格 誠文堂新光社

貝塚の話 日本古墳文化資料綜覧 第一分冊

酒詰 仲男 彰考書院 吉川弘文館

古墳のはなし

古墳時代の文化

裝飾古墳の研究

文化財調査報告2 江刺郡稻瀬村礪山遺跡調査予報

甲斐考古資料

甲斐石器時代遺跡遺物発見地名表

加茂遺跡

上総金鈴塚

(早稲田考古学研究报告1)

吉胡貝塚

(埋蔵文化財発掘調査報告1)

兵庫県赤穂郡西野山第三号墳

(有年考古館 研究报告1)

福岡県糸島郡一貴山村銚子塚古墳研究

古閑貝塚調査抄報

(熊本県文化財調査報告書6)

東亜考古学

中国考古学研究

殷時代の文化

曲阜魯城の遺跡

半瓦当の研究

尾崎喜佐雄 世界社

直良 信夫 さえら書房

齋藤 忠 吉川弘文館

岩手県教育委員会

山梨県教育委員会

山本壽々雄

三田史学会

千葉県教育委員会

文化財保護委員会

有年考古館

日本考古学協会

熊本県教育委員会

弘文堂

世界社

黒川古文化研究所

梅原 末治

駒井 和愛

東大考古学教室

駒井 和愛

室波書店

關野 雄

日本民族

日本歴史

新日本史図録

日本史

日本文化史研究

日本文化史(下)

日本生活史

日本仏教史・近世篇之一

聖徳太子

和漢書の印刷とその歴史

日本歴史事典

史学文献目録 1949-1960

大日本史料 五ノ十四、六ノ二十九、七ノ十、十一ノ八、九

大日本古文書 家わけ十七・大徳寺文書之二家わけ十八・東大寺文書之二十三

大日本古記録 御堂関白記上 新井白石日記上

国史大系 日本書記・後篇

史料日本史

金沢文庫古文書 1武將書狀篇 2僧侶書狀篇上 3僧侶書狀篇下 4關名書狀篇一

史料館所蔵史料目録1

平安遺文3

仙台市史5、6

仙台民俗誌

信濃史料2

日本人類学会編 岩波書店

和歌森太郎 弘文堂

西岡虎之助 中央公論社

井上 光貞 学生社

内藤虎次郎 創元社

サンゾム

福井利吉郎訳

江馬 務 世界思想社

辻 善之助 岩波書店

龜井勝一郎 創元社

長澤規矩也 吉川弘文館

和歌森太郎 実業之日本社

史学会編 山川出版社

東京大学

福井県所在別郷土誌料綜合目録

三重史談

備中国新見庄史料集

大宰府小史

大分県史料1

自昭和21年至25年東洋史研究文献類目

東洋史論叢

朝鮮史概況

和田博士還曆記念東洋史論編纂委員会編

三品 彰英

弘文堂

講談社

大分県教育研究会

大宰府天満宮

瀬戸内海総合研究会

三重郷土会

福井県立図書館・図書館協会

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

福井県立図書館

歴史関係

歴史と文化

世界歴史事典 7-13

東大教授学  
部史学研究  
室編  
共立出版株式  
会社

平凡社

附  
録

便

覽

(昭和二八年一二月現在)



# 美術関係法規

## 文化財保護法

昭和二十五年五月三十日  
法律第二百十  
四号

### 沿革

昭和二十六年法律第三百十八号(第一次改正)  
昭和二十七年法律第二百七十七号(第二次改正)

### 第一章 総則

#### (この法律の目的)

第一条 この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。

#### (文化財の定義)

第二条 この法律で「文化財」とは、左に掲げるものをいう。

一 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、筆跡、典籍、古文書、民俗資料その他の有形の文化財の所産でわが国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いもの及び考古資料(以下「有形文化財」という。)

二 演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化財の所産でわが国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いもの(以下「無形文化財」という。)

三 史跡、名勝及び天然記念物(以下「史跡名勝天然記念物」という。)

2 この法律の規定(第二十一条第二項、第一号、第二十七條第一項、第二項、第二十八條第一項、第三項、第二十九

美術関係法規

条第一項、第四項、第三十七條第二項、第五十五條第一項第四号、第八十八條第一項、第二項、第九十四條及び第九十五條の規定を除く。中「重要文化財」には、国宝を含むものとする。

3 この法律の規定(第二十一条第二項、第九号、第六十九條第一項、第二項、第七十條第一項、第七十一條第一項、第二項、第七十七條第二項、第八十三條第一項第四号、第八十八條第三項及び第九十四條の規定を除く。中「史跡名勝天然記念物」には、特別史跡名勝天然記念物を含むものとする。

(政府及び地方公共団体の任務)

第三条 政府及び地方公共団体は、文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存が適切に行われるように、周到の注意をもつてこの法律の趣旨の徹底に努めなければならない。

(国民、所有者等の心構)

第四条 一般国民は、政府及び地方公共団体がこの法律の目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない。

2 文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等その文化的活用を努めなければならない。

3 政府及び地方公共団体は、この法律の執行に当つて関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならない。

## 第二章 文化財保護委員会

### 第一節 総則

#### (設置)

第五条 国家行政組織法(昭和二十三年法律第二十号)第三條第二項の規定に基いて、文部省の外局として、文化財保護委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会の委員は、独立してその職権を行う。

#### (任務)

第六条 委員会は、文化財の保存及び活用、文化財に関する調査研究その他第一条の目的を達成するため必要な事務を行うことを任務とする。

#### (権限)

第七条 委員会は、その所掌事務を遂行するため、左に掲げる権限を有する。但し、その権限の行使は、法律(これに基く命令を含む。)に従つてなされなければならない。

一 予算の範囲内で、所掌事務の遂行に必要な支出負担行為をすること。

二 収入金を徴収し、所掌事務の遂行に必要な支払をすること。

三 所掌事務の遂行に直接必要な事務所の施設を設置し、及び管理すること。

四 所掌事務の遂行に直接必要な業務用資材、図書その他研究用資材、事務用品等を調達すること。

五 職員任免及び賞罰を行い、その他職員の人事を管理すること。

六 職員の厚生及び保健のために必要な施設をなし、及び管理すること。

七 所掌事務の監察を行い、法令の定めるところに従い、必要な措置をとること。

八 所掌事務の周知宣伝を行うこと。

九 委員会の公印を制定すること。

十 広く利用に供する適當な記録を整備すること。

十一 所掌事務に関する法人の設立を認可すること。

十二 所掌事務に関する国庫支出金を割り当て、配分すること。

十三 所掌事務に関する物資の確保について援助すること。

十四 所掌事務に関する統計調査の資料及び結果を収集し、解釈し、及び刊行頒布すること。

十五 所掌事務に関する国家的又は国際的関心のある題目について会議、研究会、討論会等を主催すること。

十六 文化財の保護に関する法令案を作成すること。

十七 前各号に掲げるものの外、法律(これに基く命令を含む。)に基き委員会に属せしめられた権限

2 委員会は、その権限の行使に當つて、法律(法律に基く命令を含む。)に別段の定めがある場合を除いては、行政上及び運営上の監督を行わないものと

する。

(構成)

第八条 委員会は、五人の委員をもつて組織する。

(委員の任命及び欠格事由)

第九条 委員は、文化に関し高い識見を有する者のうちから両議院の同意を経て、文部大臣が任命する。

2 左の各号の一に該当する者は、委員となることができない。

一 禁治産者もしくは准禁治産者又は破産者で復権を得ない者

二 禁こ以上の刑に処せられた者

3 委員は、そのうち三人以上が同一政党に属する者となることとなつてはならない。

4 委員(委員長である委員を除く)は、非常勤とする。

(委員の任期)

第十条 委員の任期は、三年とする。但し、補欠の委員は、前任者の残任期間に任ずる。

2 委員は、再任されることができる。

3 第一項の規定にかかわらず委員は、国会の閉会又は衆議院の解散の場合に任期が満了したときは、その後最初に召集された国会において両議院の同意を経て文部大臣が委員を任命するまでの間、なお在任するものとする。

(委員の失職及び罷免)

第十一条 委員は、第九条第二項各号の一に該当するに至つた場合及び既に委員中二人が所屬している政党にあらた

に所屬するに至つた場合においては、その職を失う。

2 文部大臣は、委員が心身の故障のため職務の執行ができないと認める場合又は委員に職務上の義務違反その他委員たるに適しない行為があると認める場合においては、両議院の同意を経て、これを罷免することができる。

3 文部大臣は、両議院の同意を経て、左に掲げる委員を罷免する。

一 委員中何人も所屬していなかつた一の政党にあらたに三人以上の委員が所屬するに至つた場合、これらの者のうち二人をこえる員数の委員

二 委員中一人が既に所屬している政党にあらたに二人以上の委員が所屬するに至つた場合、これらの者のうち一人をこえる員数の委員

4 両議院は、前項各号に規定する事実があると認めるときは、同項各号の規定により罷免すべき員数の委員の罷免の同意を与えるべきものとする。

5 国会の閉会又は衆議院の解散のため、第二項又は第三項の規定による罷免につき両議院の同意を経ることができないときは、その後最初に召集された国会において両議院の承認を得れば足りる。

(委員長)

第十二条 委員会に委員長を置く。委員長は、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員会は、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときにその職務を代理する委員を、あらかじめ、定めて置かなければならない。

(委員の給与)

第十三条 委員長及び委員は、別に法律の定めるところにより相当額の給与を受ける。

(會議)

第十四条 委員会は、委員長が招集する。二人以上の委員から請求があるときは、委員長は、委員会を招集しなければならない。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ會議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(委員会規則)

第十五条 委員長は、この法律の執行に關し必要な事項について、委員会の議決を経て委員会規則を定めることができる。

2 委員会規則は、官報で公布する。

第二節 事務局

(事務局)

第十六条 委員会に、その所掌事務を遂行するため、国家行政組織法第七條第四項の規定に従い、事務局を置く。

第十七条及び第十八条 削除

(事務局長及び次長)

第十九条 委員会の事務局に事務局長及び次長一人を置く。

2 事務局長は、委員長の指揮監督を受けて事務局の事務を掌理し、所屬職員を指揮監督する。

3 次長は、事務局長を助け、事務局の事務を整理する。

第三節 附屬機關及び事務局出張所

(附屬機關)

第二十条 委員会の附屬機關として、文化財専門審議會、国立博物館及び文化財研究所を置く。

(文化財専門審議會)

第二十一条 文化財専門審議會は、委員会の諮問に應じて文化財の保存及び活用に関する専門的及び技術的事項を調査審議し、且つ、これらの事項に關し必要と認める事項を委員会に建議する。

2 委員会は、左に掲げる事項については、あらかじめ、文化財専門審議會に諮問しなければならない。

一 国宝又は重要文化財の指定及びその解除

二 重要文化財の管理及び修理に關する命令

三 国宝の修理及び滅失又はき損の防止の措置の施行

四 重要文化財の現状変更及び輸出の許可及び許可の権限の都道府県の教育委員会への委任

五 重要文化財の環境保全のためにする行為の制限、禁止及び必要な施設の命令

六 重要文化財の買取

七 埋蔵文化財の発掘の施行

八 助成の措置を講ずべき無形文化財の選定

九 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定及びその解除

十 史跡名勝天然記念物の管理又は復旧に関する命令

十一 特別史跡名勝天然記念物の復旧及び滅失、き損又は喪亡の防止の措置の施行

十二 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可及び許可の権限の都道府県教育委員会への委任

十三 史跡名勝天然記念物の環境保全のためにする行為の制限、禁止及び必要な施設の命令

十四 前各号に掲げるものの外、文化財の保存及び活用に関する重要事項

3 前二項の規定により所掌する事項を分掌させるため、文化財専門審議会に分科会を置く。

4 文化財専門審議会及びその分科会の組織及び所掌事務並びに専門委員、臨時専門委員その他の職員については、他の法律（これに基く命令を含む。）に特別の定がある場合を除く外、政令で定める。

（国立博物館）

第二十二條 国立博物館は、有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに関連する事業を行う。

2 国立博物館の名称及び位置は、左の通りとする。

名	称	位	置
東京国立博物館		東京	都
京都国立博物館		京都	市
奈良国立博物館		奈良	市

3 国立博物館の内部組織は、委員会規則で定める。

（文化財研究所）

第二十三條 文化財研究所は、有形文化財及び無形文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う。

2 文化財研究所の名称及び位置は、左の通りとする。

名	称	位	置
東京文化財研究所		東京	都
奈良文化財研究所		奈良	市

3 文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 文化財研究所及びその支所の内部組織は、委員会規則で定める。

（事務局出張所）

第二十四條 委員会は、その所掌事務の一部を分掌させるため、所要の地に事務局出張所を設置することができる。その名称、位置、所掌事務の範囲は、委員会規則で定める。

第四節 職員

（職員）

第二十五條 委員会に置かれる職員の任免、昇任、懲戒その他の人事管理に関する事務については、国家公務員法（昭和二十二年法律第二十号）の定めるところによる。

（定員）

第二十六條 委員会に置かれる職員の定員は、別に法律で定める。

第三章 有形文化財

第一節 重要文化財

第一款 指定

（指定）

第二十七條 委員会は、有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定することができる。

2 委員会は、重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいしない国民の宝たるものを国宝に指定することができる。

（告示及び指定書の交付）

第二十八條 前条の規定による指定をしたときは、委員会は、その旨を官報で告示し、且つ、国宝又は重要文化財の所有者に指定書を交付しなければならない。

2 指定書に記載すべき事項その他指定書に関し必要事項は、委員会規則で定める。

3 第一項の規定により国宝の指定書を受けたときは、所有者は、二十日以内に国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

（解除）

第二十九條 国宝又は重要文化財が国宝

又は重要文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、国宝又は重要文化財の指定を解除することができる。

2 前項の規定により指定を解除したときは、委員会は、その旨を官報で告示し、且つ、所有者に通知しなければならない。

3 前項の通知を受けたときは、所有者は、二十日以内に指定書を委員会に返付しなければならない。

4 第一項の規定により国宝の指定を解除した場合において当該有形文化財につき重要文化財の指定を解除しないときは、委員会は、直ちに重要文化財の指定書を所有者に交付しなければならない。

第二款 管理

（管理方法の指示）

第三十條 委員会は、重要文化財の所有者に対し、重要文化財の管理に關し必要な指示をすることができる。

（所有者の管理義務及び管理責任者）

第三十一條 重要文化財の所有者は、この法律並びにこれらに基いて発する委員会規則及び委員会の指示に従い、重要文化財を管理しなければならない。

2 重要文化財の所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつて自ら已に代り当該重要文化財の管理の責に任ずべき者（以下「管理責任者」という。）に選任することができる。

3 前項の規定により管理責任者を選任



したときは、重要文化財の所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、当該管理責任者と連署の上二十日以内に委員会に届け出なければならない。管理責任者を解任した場合も同様とする。

4 前二項の規定による管理責任者には、第一項の規定を準用する。

(所有者又は管理責任者の変更)

第三十二条 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、旧所有者に対し交付された指定書を添えて、二十日以内に委員会に届け出なければならない。

2 重要文化財の所有者は、前条の規定による管理責任者を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、新管理責任者と連署の上二十日以内に委員会に届け出なければならない。

3 重要文化財の所有者又は前条の規定による管理責任者は、その氏名若しくは名称又は住所を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、二十日以内に委員会に届け出なければならない。氏名若しくは名称又は住所の変更が重要文化財の所有者に係るときは、届出の際指定書を添えなければならない。

(滅失又はき損)

第三十三条 重要文化財が滅失し、又はき損したときは、所有者(第三十一条の規

規定により管理責任者を定めてある場合は、その者)は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、その事実を知つた日から十日以内に委員会に届け出なければならない。

(所在の変更)

第三十四条 重要文化財の所在の場所を変更しようとするときは、重要文化財の所有者(第三十一条の規定により管理責任者を定めてある場合は、その者)は、委員会規則の定める事項を記入した書面をもつて、且つ、指定書を添えて所在の場所を変更しようとする日の二十日前までに委員会に届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合には、届出を要せず、若しくは届出の際指定書の添付を要せず、又は委員会規則の定めるところにより所在の場所を変更した後届け出ることをもつて足りる。

### 第三款 保護

(管理又は修理の補助)

第三十五条 重要文化財の管理又は修理につき多額の経費を要し、重要文化財の所有者がその負担に堪えない場合その他特別の事情がある場合には、政府は、その経費の一部に充てさせるため、重要文化財の所有者に対し補助金を交付することができる。

2 前項の補助金を交付する場合には、委員会はその補助の条件として管理又は修理に関し必要な事項を指示することができる。

3 委員会は、必要があると認めるときは、第一項の補助金を交付する重要文化財の管理又は修理について指揮監督することができる。

(管理に関する命令又は勧告)

第三十六条 重要文化財を管理する者が不適任なため又は管理が適当でないため重要文化財が滅失し、又はき損する虞があると認めるときは、委員会は、所有者又は第三十一条の規定による管理責任者に対し、重要文化財の管理をする者の選任又は変更、管理方法の改善、防火施設その他の保存施設の設置その他管理に関し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

2 前項の規定による命令又は勧告に基いてする措置のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができ。

3 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、前条第三項の規定を準用する。

(修理に関する命令又は勧告)

第三十七条 委員会は、国宝がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所有者又は第三十一条の規定による管理責任者に対し、その修理について必要な命令又は勧告をすることができる。

2 委員会は、国宝以外の重要文化財がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所

有者又は第三十一条の規定による管理責任者に対し、その修理について必要な勧告をすることができる。

3 前二項の規定による命令又は勧告に基いてする修理のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができる。

4 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、第三十五条第三項の規定を準用する。

(政府による修理等の施行)

第三十八条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、国宝につき自ら修理を行い、又は滅失若しくはき損の防止の措置をすることができる。

一 所有者又は第三十一条の規定による管理責任者が前二条の規定による命令に従わないとき。

二 国宝がき損している場合又は滅失し、若しくはき損する虞がある場合において、所有者又は第三十一条の規定による管理責任者に修理又は滅失若しくはき損の防止の措置をさせることが適当でないとき。

2 前項の規定による修理又は措置をしようとするときは、委員会は、あらかじめ、所有者又は第三十一条の規定による管理責任者に対し、当該国宝の名称、修理又は措置の内容、着手の時期その他必要と認める事項を記載した令書を交付しなければならない。

第三十九条 委員会は、前条第一項の規



定による修理又は措置をするときは、その職員のうちから、当該修理又は措置の施行及び当該国宝の管理の責に任ずべき者を定めなければならない。

2 前項の規定により責に任ずべき者と定められた者は、当該修理又は措置の施行に当たるときは、その身分を証明する証書を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを示し、且つ、その正当な意見を十分に尊重しなければならない。

第四十条 第三十八条第一項の規定による修理又は措置のために要する費用は、国庫の負担とする。

2 委員会は、委員会規則の定めるところにより、第三十八条第一項の規定による修理又は措置のために要した費用の一部を所有者から徴収することができる。

3 前項の規定による徴収については、行政代執行法（昭和二十三年法律第四十三号）第五条から第七条までの規定を準用する。

第四十一条 第三十八条第一項の規定による修理又は措置によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

2 前項の規定による補償額に不服のある者は、訴をもつてその増額を請求することができる。但し、前項の補償の決定の通知を受けた日から六箇月を経過したときは、この限りでない。

（補助等に係る重要文化財譲渡の場合）

### の納付金

第四十二条 国が修理又は滅失若しくは損の防止の措置（以下この条において、「修理等」という。）につき第三十五条第一項の規定により補助金を交付し、又は第三十六条第二項、第三十七条第三項若しくは第四十条第一項の規定により費用を負担した重要文化財のその当時における所有者又はその相続人、受遺者若しくは受贈者（第二次以下の相続人、受遺者又は受贈者を含む。以下この条において同じ。）（以下この条において、「所有者等」という。）は、補助又は費用負担に係る修理等が行われた後当該重要文化財を有償で譲り渡した場合においては、当該補助金又は負担金の額（第四十条第一項の規定による負担金については、同条第二項の規定により所有者から徴収した部分を控除した額をいう。以下この条において同じ。）の合計額から当該修理等が行われた後重要文化財の修理等のため自己の費した金額を控除して得た金額（以下この条において「納付金額」という。）を、委員会規則の定めるところにより、国庫に納付しなければならない。

理等を行った時以後重要文化財の譲渡の時までの年数を控除した残余の年数（一年に満たない部分があるときは、これを切り捨てるとする。）を乗じて得た金額に相当する金額とする。

3 補助又は費用負担に係る修理等が行われた後、当該重要文化財が所有者等の責に帰することのできな事由により著しくその価値を減じた場合又は当該重要文化財を国に譲り渡した場合に、委員会は、納付金額の全部又は一部の納付を免除することができる。

4 委員会の指定する期限までに納付金額を完納しないときは、国税滞納処分の例により、これを徴収することができる。

5 納付金額を納付する者が相続人、受遺者又は受贈者であるときは、第一号に定める相続税額と第二号に定める額との差額に相当する金額を第三号に定める年数で除して得た金額に第四号に定める年数を乗じて得た金額をその者が納付すべき納付金額から控除するものとする。

一 その者が当該重要文化財を譲り渡した時までに納付した相続税額

二 前号の相続税額の課税価格に算入された当該重要文化財又はその部分につき当該相続、遺贈又は贈与の時までに行つた修理等に係る第一項の補助金又は負担金の額の合計額を当該課税価格から控除して得た金額を課税価格として計算した場合の相続

### 税額に相当する額

三 第二項の規定により当該重要文化財又はその部分につき委員会が定めた耐用年数から当該重要文化財又はその部分の修理等を行つた時以後当該重要文化財の相続、遺贈又は贈与の時までの年数を控除した残余の年数（一年に満たない部分があるときは、これを切り捨てるとする。）

四 第二項に規定する当該重要文化財又はその部分についての残余の耐用年数

6 前項第二号に掲げる第一項の補助金又は負担金の額については、第二項の規定を準用する。この場合において、同項中「譲渡の時」とあるのは、「相続、遺贈又は贈与の時」と読み替へるものとする。

7 第一項の規定により納付金額を納付する者の同項に規定する譲渡に係る所得税法（昭和二十二年法律第二十七号）第九条第一項第八号に規定する譲渡所得の計算については、第一項の規定により納付する金額は、同号に規定する譲渡に関する経費とする。

### （現状変更の制限）

第四十三条 重要文化財の現状を変更しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、その維持の措置をする場合は、この限りでない。

2 委員会は、前項の許可を与える場合において、その許可の条件として同項の現状の変更に関し必要な指示をする

ことができる。

- 3 第一項の許可を受けた者が前項の許可の条件に従わなかったときは、委員会は、許可に係る現状の変更を停止し、又は許可を取り消すことができる。

#### (輸出の禁止)

- 第四十四条 重要文化財は、輸出してはならない。但し、委員会が文化の国際的交流その他の事由により特に必要と認めて許可した場合は、この限りでない。

#### (環境保全)

- 第四十五条 委員会は、重要文化財の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることができる。

- 2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

- 3 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

#### (国に対する売渡の申出)

- 第四十六条 重要文化財を有償で譲り渡そうとする者は、譲渡の相手方、予定対価の額(予定対価が金銭以外のものであるときは、これを時価を基準として金銭に見積つた額。以下同じ。その他委員会規則で定める事項を記載した書面をもつて、まず委員会に国に対する売渡の申出をしなければならない。但し、当該譲受人に対して特に譲り渡したい特別の事情がある場合において

委員会の承認を受けたときは、この限りでない。

- 2 前項の規定による売渡の申出のあつた後三十日以内に委員会が当該重要文化財を国において買い取るべき旨の通知をしたときは、前項の規定による申出書に記載された予定対価の額に相当する代金で、売買が成立したものとみなす。

- 3 第一項に規定する者は、前項の期間(その期間内に委員会が当該重要文化財を買い取らない旨の通知をしたときは、その時までの期間)内は、当該重要文化財を譲り渡してはならない。

- 4 委員会が第一項但書の規定による承認をしない旨の処分をした場合において、その処分に不服のある者は、委員会に対し、異議の申立をすることができ。

#### (管理又は修理の受託又は技術的指導)

- 第四十七条 重要文化財の所有者は、委員会の定める条件により、委員会に重要文化財の管理又は修理を委託することができる。

- 2 委員会は、重要文化財の保存上必要があると認めるときは、所有者に対し、条件を示して、委員会にその管理又は修理を委託するように勧告することができる。

- 3 前二項の規定により委員会が管理又は修理の委託を受けた場合には、第三十九条の規定を準用する。

- 4 重要文化財の所有者又は第三十一条の規定による管理責任者は、委員会規

則の定めるところにより、委員会に重要文化財の管理又は修理に関し技術的指導を求めることができる。

#### 第四款 公開

#### (出品)

- 第四十八条 委員会は、重要文化財の所有者に対し、一年以内の期間を限つて、国立博物館その他の施設において国の行方公開の用に供するため重要文化財を出品することを勧告することができる。

- 2 委員会は、国庫が管理又は修理につき、その費用の全部若しくは一部を負担し、又は補助金を交付した重要文化財の所有者に対し、一年以内を限つて、国立博物館その他の施設において国の行方公開の用に供するため当該重要文化財を出品することを命ずることができる。

- 3 委員会は、前項の場合において必要があると認めるときは、一年以内の期間を限つて、出品の期間を更新することができる。但し、引き続き五年をこえてはならない。

- 4 第二項の命令又は前項の更新があつたときは、重要文化財の所有者は、その重要文化財を出品しなければならない。但し、委員会が所有者の申請によりやむを得ない事由があるものと認める場合は、この限りでない。

- 5 前四項に規定する場合の外、委員会は、重要文化財の所有者から国立博物館その他の施設において国の行方公開の用に供するため重要文化財を出品し

たい旨の申出があつた場合において適当と認めるときは、その出品を承認することができる。

- 第四十九条 委員会は、前条の規定により重要文化財が出品されたときは、第一百条に規定する場合を除いて、国立博物館所屬の職員その他委員会の職員のうちから、その重要文化財の管理の責に任すべき者を定めなければならない。

- 第五十条 第四十八条の規定による出品のために要する費用は、委員会規則の定める基準により、国庫の負担とする。

- 2 政府は、第四十八条の規定により出品した所有者に対し、委員会規則の定める基準により、給与金を支給する。

#### (所有者による公開)

- 第五十一条 委員会は、重要文化財の所有者に対し、三箇月以内の期間を限つて、重要文化財の公開を勧告することができる。

- 2 委員会は、国庫が管理又は修理につき、その費用の全部若しくは一部を負担し、又は補助金を交付した重要文化財の所有者に対し、三箇月以内の期間を限つて、その公開を命ずることができる。

- 3 前項の場合には、第四十八条第四項の規定を準用する。

- 4 委員会は、重要文化財の所有者に対し、公開及び公開に係る重要文化財の管理に関し必要な指示をすることができる。

5 重要文化財の所有者又は第三十一条

の規定による管理責任者が前項の指示に従わない場合には、委員会は、公開の停止又は中止を命ずることができ

6 第一項から第四項までの規定による

公開のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができる。

7 第一項から第三項までに規定する場

合の外、重要文化財の所有者から、その所有に係る重要文化財を国庫の費用負担において公開したい旨の申出があつた場合において、委員会が適当と認めてこれを承認したときは、委員会規則の定めるところにより、その公開のために要する費用の全部又は一部を国庫の負担とすることができる。この場合には、第四項及び第五項の規定を準用する。

(損害の補償)

第五十二条 第四十八条又は前条の規定

により出品し、又は公開したことに起因して当該重要文化財が滅失し、又はき損したときは、政府は、その重要文化財の所有者に対し、通常生ずべき損害を補償する。但し、重要文化財が所有者又は第三十一条の規定による管理責任者の責に帰すべき事由によつて滅失し、又はき損した場合は、この限りでない。

2 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(所有者以外の者による公開)

第五十三条 重要文化財の所有者以外の

者がその主催する展覧会その他の催しにおいて重要文化財を公衆の観覧に供しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、あらかじめ、委員会の承認を受けた博物館その他の施設において、委員会以外の国の機関又は地方公共団体が主催する場合は、委員会に届け出ることをもつて足りる。

2 委員会は、前項の許可を与える場合

において、その許可の条件として、公衆の観覧に供する場合における重要文化財の管理に關し必要な指示をすることができ

3 第一項の許可を受けた者が前項の許

可の条件に従わなかつたときは、委員会は、許可に係る公開を停止し、又は許可を取消すことができる。

第五款 調査

(保存のための調査)

第五十四条 委員会は、必要があると認

めるときは、重要文化財の所有者又は第三十一条の規定による管理責任者に対し、重要文化財の現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができる。

第五十五条 委員会は、左の各号の一に

該当する場合において、前条の報告によつてもなお重要文化財に關する状況を確認することができず、且つ、その確認のため他に方法がないと認めると

きは、調査に當る者を定め、その所在する場所に立ち入つてその現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき実地調査をさせることができる。

一 重要文化財の現状変更の許可の申請があつたとき。

二 重要文化財がき損をしているとき

又はその現状若しくは所在の場所につき変更があつたとき。

三 重要文化財が滅失し、又はき損す

る虞のあるとき。

四 特別の事情によりあらためて国宝

又は重要文化財としての価値を鑑査する必要があるとき。

2 前項の規定により立ち入り、調査す

る場合においては、当該調査に當る者は、その身分を証明する証票を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを示し、且つ、その正当な意見を十分に尊重しなければならない。

3 第一項の規定による調査によつて損

害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

4 前項の場合には、第四十一条第二項

の規定を準用する。

第六款 雜則

(所有者変更に伴う權利義務の承継)

第五十六条 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、当該重要文化財に關しこの法律に基いてする委員会の命令、勧告、指示その他の処分による旧所有者の權利義務を承継する。

2 前項の場合には、旧所有者は、当該

重要文化財の引渡と同時にその指定書を新所有者に引き渡さなければならない。

第二節 重要文化財以外の有形文化財

第一款 埋藏文化財

(発掘に關する届出、指示及び命令)

第五十七条 第六十九条又は第七十条の規定により史跡に指定された土地以外の土地において埋藏物たる文化財(以下「埋藏文化財」という。)を発掘しようとするときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、発掘しようとする日の二十日前までに委員会に届け出なければならない。

2 埋藏文化財の保護上特に必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る埋藏文化財の発掘に關し必要な事項を指示し、又はその発掘の禁止、停止若しくは中止を命ずることができる。

(発掘の施行)

第五十八条 委員会は、必要があると認

めるときは、自ら埋藏文化財の発掘を施行することができる。

2 前項の規定により発掘を自ら施行し

ようとするときは、委員会は、あらかじめ当該土地の所有者及び権限に基づく占有者に対し、発掘の目的、方法、着手の時期その他必要と認める事項を記載した令書を交付しなければならない。

3 第一項の場合には、第三十九条及び第四十一条の規定を準用する。



第五十九条 前条第一項の規定による発掘により文化財を発見したときは、委員会は、当該文化財をその所有者に返還する場合を除いて、遺失物法（明治三十二年法律第八十七号）第十三条で準用する同法第一条第一項の規定にかかわらず、警察署長にその旨を通知することをもつて足りる。

2 前項の通知を受けたときは、警察署長は、直ちに当該文化財につき遺失物法第十三条で準用する同法第一条第二項の規定による公告をしなければならない。

(提出)  
第六十条 遺失物法第十三条で準用する同法第一条第一項の規定により、埋蔵物として差し出された物件が文化財と認められるときは、警察署長は、直ちに当該物件を委員会に提出しなければならない。但し、所有者の判明している場合は、この限りでない。

(監査)  
第六十一条 前条の規定により物件が提出されたときは、委員会は、当該物件が文化財であるかどうかを鑑査しなければならない。

2 委員会は、前項の鑑査の結果当該物件を文化財と認めたときは、その旨を警察署長に通知し、文化財でないと認めたときは、当該物件を警察署長に差し戻さなければならない。

(引渡)  
第六十二条 第五十九条第一項又は前条

第二項に規定する文化財の所有者から、警察署長に対し、その文化財の返還の請求があつたときは、委員会は、当該警察署長にこれを引き渡さなければならない。

(国庫帰属及び報償金)  
第六十三条 第五十九条第一項又は第六十一条第二項に規定する文化財でその所有者が判明しないものの所有権は、国庫に帰属する。この場合において、委員会は、当該文化財の発見者及びその発見された土地の所有者にその旨を通知し、且つ、その価格に相当する額の報償金を支給する。

2 前項に規定する発見者と土地所有者とが異なるときは、前項の報償金は、折半して支給する。

3 第二項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(譲渡等)  
第六十四条 政府は、第六十一条第二項に規定する文化財の保存のため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見者又はその発見された土地の所有者に、その者が前条の規定により受けるべき報償金の額に相当するものの範囲内でこれを譲与することができる。

2 前項の場合には、その譲与した価格に相当する金額は、前条に規定する報償金の額から控除するものとする。

3 政府は、発見された埋蔵文化財の保存のため又は、その効用から見て国が

保有する必要がある場合を除いて、当該埋蔵文化財の発見された土地を管轄する地方公共団体に對し、その申請に基き、当該埋蔵文化財を譲与し、又は時価よりも低い対価で譲渡することができる。

(遺失物法の適用)  
第六十五条 埋蔵文化財に對しては、この法律に特別の定めのある場合の外、遺失物法第十三条の規定の適用があるものとする。

第二款 有形文化財に関する技術的指導  
第六十六条 重要文化財以外の有形文化財の所有者は、委員会規則の定めるところにより、委員会に有形文化財の管理又は修理に關し技術的指導を求めることができる。

第四章 無形文化財  
(助成)  
第六十七条 無形文化財のうち特に価値の高いもので国が保護しなければ喪失する虞のあるものについては、委員会は、その保存に當ることを適當と認める者に對し、補助金を交付し、又は資材のあつ、旋その他適當な助成の措置を講じなければならない。

2 前項の補助金を交付する場合には、第三十五条第二項及び第三項の規定を準用する。

(公開)  
第六十八条 委員会は、前条の規定によ

る措置を受けた者に対し、三箇月以内の期間を限つて、当該無形文化財の公開を命ずることができる。

2 前項の場合には、第五十一条第三項から第六項までの規定を準用する。

3 前条に規定する無形文化財の保存に當つている者から、その保存に係る無形文化財を国庫の費用負担において公開したい旨の申出があつた場合には、第五十一条第七項の規定を準用する。

第五章 史跡名勝天然記念物  
(指定)  
第六十九条 史跡名勝天然記念物は、委員会が指定する。

2 委員会は、前項の史跡名勝天然記念物のうち特に重要なものを特別史跡名勝天然記念物に指定することができる。

3 前二項の規定による指定をしたときは、委員会は、その旨を官報で告示し、且つ、指定されたもの所有者及び権限に基く占有者に通知しなければならない。

(仮指定)  
第七十条 前条第一項の規定による指定前において緊急の必要があると認めるときは、都道府県の教育委員会は、史跡名勝天然記念物の仮指定を行うことができる。

2 前項の規定により仮指定を行つたときは、都道府県の教育委員会は、直ちにその旨を委員会に報告しなければならない。



3 第一項の規定により仮指定をした場合合には、前条第三項の規定を準用する。

(解除)

第七十一条 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物がその価値を失つた場合その他特殊の事由のあるときは、委員会又は都道府県の教育委員会は、その指定又は仮指定を解除することができる。

2 前条の規定により仮指定された史跡名勝天然記念物につき第六十九条第一項の規定による指定があつたときは、仮指定はその効力を失う。

3 前条の規定による仮指定が適当でないとき、委員会は、これを解除することができる。

4 第一項又は前項の規定による指定又は仮指定の解除には、第六十九条第三項の規定を準用する。

(管理)

第七十二条 委員会は、適当な地方公共団体その他の団体を指定して史跡名勝天然記念物の管理(復旧を含む。以下本条第二項から第四項まで、第七十三条及び第七十四条において同じ。)をさせることができる。

2 史跡名勝天然記念物に指定(仮指定を含む。以下同じ。)されたものの所有者又は占有者は、正当な理由がなく、前項に規定する管理及び管理のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

3 第一項の規定による管理に要する費用は、この法律に特別の定めのある場合を除いて、当該地方公共団体その他の団体の負担とする。

4 第一項に規定する地方公共団体その他の団体は、その管理する史跡名勝天然記念物につき観覧料を徴収することができる。

5 政府は、第三項の費用の一部を補助することができる。

6 前項の場合には、第三十五条第二項及び第三項の規定を準用する。

第七十三条 前条の規定により地方公共団体その他の団体が行う史跡名勝天然記念物の管理によつて損害を受けた者に對しては、当該地方公共団体その他の団体は、その通常生ずべき損害を補償しなければならない。

2 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

第七十四条 第七十二条に規定する場合を除いて、史跡名勝天然記念物に指定されたものの所有者は、当該史跡名勝天然記念物の管理に当るものとする。

2 前項の規定により史跡名勝天然記念物の管理に当る所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつて自己に代り当該史跡名勝天然記念物の管理の責に任ずべき者(以下「管理責任者」という。)に選任することができる。

3 第一項に規定する所有者には、第三十五条の規定を、前項の規定により管

理責任者を選任した場合には、第三十条第三項の規定を準用する。

第七十五条 第七十二条第一項に規定する地方公共団体その他の団体、前条第一項に規定する所有者及び同条第二項の規定による管理責任者(以上これらの者を「管理者」と総称する。)には、第三十条、第三十一条第一項及び第三十三条の規定を、前条第一項に規定する所有者及び同条第二項の規定による管理責任者には、第三十二条の規定を、前条第一項に規定する所有者には、第五十六条第一項の規定を準用する。

(管理に関する命令又は勧告)

第七十六条 管理が適当でないため史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、又は喪失する虞があると認めるときは、委員会は、管理者に對し、管理方法の改善、保存施設の設置その他管理に關し必要な措置を命じ、又は勧告することとができる。

2 前項の場合には、第三十六条第二項及び第三項の規定を準用する。

(復旧に関する命令又は勧告)

第七十七条 委員会は特別史跡名勝天然記念物がき損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理者に對し、その復旧について必要な命令又は勧告をすることができる。

2 委員会は、特別史跡名勝天然記念物以外の史跡名勝天然記念物がき損し、

又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理者に對し、その復旧について必要な勧告をすることができる。

3 前二項の場合には、第三十七条第三項及び第四項の規定を準用する。

(政府による復旧等の施行)

第七十八条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、特別史跡名勝天然記念物につき自ら復旧を行い、又は滅失、き損若しくは喪失の防止の措置をすることができる。

一 管理者が前二条の規定による命令に従わないとき。

二 特別史跡名勝天然記念物がき損し、若しくは喪失している場合又は滅失し、き損し、若しくは喪失する虞のある場合において、管理者に復旧又は滅失、き損若しくは喪失の防止の措置をさせることが適当でないと認められるとき。

2 前項の場合には、第三十八条第二項及び第三十九条から第四十一条までの規定を準用する。

(補助等に係る史跡名勝天然記念物譲渡の場合の納付金)

第七十九条 国が復旧又は滅失、き損若しくは喪失の防止の措置につき第七十四条第三項で準用する第三十五条第一項の規定により補助金を交付し、又は第七十六条第二項で準用する第三十六条第二項、第七十七条第三項で準用する第三十七条第三項若しくは第七十八

条第二項で準用する第四十条第一項の規定により費用を負担した史跡名勝天然記念物については、第四十二条の規定を準用する。

(現状変更等の制限)

第八十条 史跡名勝天然記念物に関し、その現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、その維持の措置をする場合は、この限りでない。

2 前項の許可を与える場合には、第四十三条第二項の規定を、前項の許可を受けた者には、同条第三項の規定を準用する。

(環境保全)

第八十一条 委員会は、史跡名勝天然記念物の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることができる。

2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(保存のための調査)

第八十二条 委員会は、必要があると認めるときは、管理者に対し、史跡名勝天然記念物の現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができる。

第八十三条 委員会は、左の各号の一に

該当する場合において、前条の報告によつてもなお史跡名勝天然記念物に関する状況を確認することができず、且つ、その確認のため他に方法がないと認めるときは、調査に当る者を定め、その所在する土地又はその隣接地に立ち入つてその現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき実地調査及び土地の発掘、障害物の除却その他調査のため必要な措置をさせることができる。但し、当該土地の所有者、占有者その他の関係者に対し、著しい損害を及ぼす虞のある措置はさせてはならない。

一 史跡名勝天然記念物に関する現状変更又は保存に影響を及ぼす行為の許可の申請があつたとき。

二 史跡名勝天然記念物が、損し、又は喪失しているとき。

三 史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、又は喪失する虞のあるとき。

四 特別の事情によりあらためて特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物としての価値を調査する必要があるとき。

2 前項の規定による調査又は措置によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 第一項の規定により立ち入り、調査する場合に、第五十五条第二項の規定を、前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(古墳、旧跡その他の遺跡発見の届出)

第八十四条 土地の所有者又は占有者が古墳、旧跡その他の遺跡と認められるものを発見したときは、その現状を変更することなく、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、発見の日から十日以内に委員会に届出なければならない。

第六章 補則

(聴聞)

第八十五条 委員会が左に掲げる処分又は措置を行おうとするときは、関係者又はその代理人の出頭を求めて、公開による聴聞を行わなければならない。

一 第三十八条第一項又は第七十八条第一項の規定による修理若しくは復旧又は措置の施行

二 第四十三条第三項(第八十条第二項で準用する場合を含む。)又は第五十三条第三項の規定による許可の取消

三 第四十五条又は第八十一条の規定による制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われるもの。

四 第五十一条第五項(同条第七項並びに第六十八条第二項及び第三項で準用する場合を含む。)の規定による公開の中止命令

五 第五十五条第一項又は第八十三条第一項の規定による立入調査又は調査のため必要な措置の施行

六 第五十七条第二項の規定による発掘の禁止又は中止命令

七 第五十八条第一項の規定による発

掘の施行

2 委員会は、前項の聴聞を行おうとするときは、前項各号に規定する処分又は措置を行おうとする理由、その処分又は措置の内容及び聴聞の期日及び場所をその期日の十日前までに当該関係者に通告し、且つ、聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

3 聴聞においては、当該関係者又はその代理人は、自己又は本人のために意見を述べ、又は釈明し、且つ、証拠を提出することができる。

4 当該関係者又はその代理人が正当な理由がなく聴聞に応じなかつたときは、委員会は、聴聞を行わないで第一項に規定する処分又は措置をすることができる。

(国に関する特例)

第八十六条 国が重要文化財若しくは史跡名勝天然記念物に指定されたものを取得し、又は委員会が国有財産法(昭和二十三年法律第七十三号)に規定する国有財産(同法第三条第二項第二号に規定する公共福祉用財産を除く。)を重要文化財若しくは史跡名勝天然記念物に指定する場合において、同法第十三条の規定にかかわらず、国会の議決を経ることを要しない。その指定を解除する場合も同様とする。

第八十七条 重要文化財又は史跡名勝天然記念物に指定されたものが国有財産法に規定する国有財産であるときは、そのものは、公共福祉用財産として文

部大臣が管理する。但し、そのものが同法第三条第二項に規定する他の行政財産であるとき、国有林野法（昭和二十六年法律第二百四十六号）に規定する国有林野に属するものであるとき、又は他の法律の適用上国有財産法第三条第三項に規定する普通財産として取り扱うべき特別の必要のあるものであるときは、そのものをこれらの財産として関係各省各庁の長（同法第四条第二項に規定する各省各庁の長をいう。以下同じ。）が管理するか、又は公共福祉用財産として文部大臣が管理するかは、文部大臣、関係各省各庁の長及び大蔵大臣が協議して定める。

2 前項但書の規定により協議する場合  
には、文部大臣は、委員会の意見を聞かなければならない。

第八十八条 国の所有に属する有形文化財を国宝又は重要文化財に指定したときは、第二十八条第一項の規定により所有者に交付すべき指定書は、当該有形文化財を管理する各省各庁の長に交付するものとする。この場合においては、国宝の指定書を受けた各省各庁の長は、直ちに国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

2 国の所有に属する国宝又は重要文化財の指定を解除したときは、第二十九条第二項又は第四項の規定により所有者に対し行ふべき通知又は指定書の交付は、当該国宝又は重要文化財を管理する各省各庁の長に対し行ふものとす

る。この場合においては、当該各省各庁の長は、直ちに指定書を委員会に返付しなければならない。

3 国の所有又は占有に属するものを特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に指定し、又はその指定を解除したときは、第六十九条第三項（第七十条第三項及び第七十一条第四項で準用する場合を含む。）の規定により所有者又は占有者に対し行ふべき通知は、その指定又は解除に係るものを管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。

第八十九条 重要文化財又は史跡名勝天然記念物に指定されたものを管理する各省各庁の長は、この法律並びにこれに基いて発する委員会規則及び委員会の勧告に従い、重要文化財又は史跡名勝天然記念物を管理しなければならない。

第九十条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、文部大臣を通じ委員会に通知しなければならない。

一 重要文化財又は史跡名勝天然記念物に指定されたものを取得したとき。

二 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の所管換を受け、又は所屬替をしたとき。

三 所管に属する重要文化財又は史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、又は喪失したとき。

四 所管に属する重要文化財の所在の場所を変更したとき。

五 所管に属する土地において古墳、旧跡その他の遺跡と認められるものを発見したとき。

2 前項第一号及び第二号の場合に係る通知には、第三十二条第一項及び同項を準用する第七十五条の規定を、前項第三号の場合に係る通知には、第三十条及び同項を準用する第七十五条の規定を、前項第四号の場合に係る通知には、第三十四条の規定を、前項第五号の場合に係る通知には、第八十四条の規定を準用する。

第九十一条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、あらかじめ、文部大臣を通じ委員会の同意を求めなければならない。

一 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするとき。（その維持の措置をする場合を除く。）

二 所管に属する重要文化財を輸出しようとするとき。

三 所管に属する重要文化財又は史跡名勝天然記念物に指定されたものの貸付、交換、売却、譲与その他の処分をしようとするとき。

2 委員会は、前項第一号に規定する措置につき同意を与える場合においては、その条件としてその措置に関し必要な勧告をすることができ。

3 関係各省各庁の長は、前項の規定に

よる委員会の勧告を十分に尊重しなければならない。

第九十二条 委員会は、必要があると認めるときは、文部大臣を通じ各省各庁の長に対し、左に掲げる事項につき必要な勧告をすることができ。

一 所管に属する重要文化財又は史跡名勝天然記念物の管理方法

二 所管に属する重要文化財又は史跡名勝天然記念物に指定されたものの修理若しくは復旧又は滅失、き損若しくは喪失の防止の措置

三 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の環境保全のため必要な施設

四 所管に属する重要文化財の出品又は公開

2 前項の勧告については、前条第三項の規定を準用する。

3 第一項の規定による委員会の勧告に基いて施行する同項第二号に規定する修理、復旧若しくは措置又は同項第三号に規定する施設に要する経費の分担については、文部大臣と各省各庁の長が協議して定める。

4 前項の規定により協議する場合に

第九十三条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、国の所有に属する国宝又は特別史跡名勝天然記念物に指定されたものにつき、自ら修理若しくは復旧を行い、又は滅失、き損若しくは喪失の防止の措置をすること



ができる。この場合においては、委員会は、当該文化財が文部大臣以外の各省各庁の長の所管に属するものであるときは、あらかじめ、修理若しくは復旧又は措置の内容、着手の時期その他必要な事項につき、文部大臣を通じて当該文化財を管理する各省各庁の長と協議し、当該文化財が文部大臣の所管に属するものであるときは、文部大臣の定める場合を除いて、その承認を受けなければならない。

一 関係各省各庁の長が前条第一項第二号に規定する修理若しくは復旧又は措置についての委員会の勧告に応じないとき。

二 国宝又は特別史跡名勝天然記念物が、損失し、若しくは喪失している場合又は滅失し、損失し、若しくは喪失する虞のある場合において、関係各省各庁の長に当該修理若しくは復旧又は措置をさせることが適当でないとき。

第九十四条 委員会は、国の所有に属するものを国宝、重要文化財、特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に指定するに当り、又は国の所有に属する国宝、重要文化財、特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に関する状況を確認するため必要があると認めるときは、関係各省各庁の長に対し調査のため必要な報告を求め、又は調査に当る者を定めて実地調査をさせることができる。

第九十五条 国の所有に属する史跡名勝天然記念物を第七十二条の規定により地方公共団体その他の団体に管理させる場合においては、委員会は、当該史跡名勝天然記念物から生ずる収益を当該地方公共団体に帰属させることができる。

第九十六条 委員会は、第五十八条第一項の規定により自ら埋蔵文化財の発掘を施行しようとする場合において、その発掘を施行しようとする土地が国の所有に属し、又は国の機関の占有するものであるときは、あらかじめ、発掘の目的、方法、着手の時期その他必要と認める事項につき、文部大臣を通じて関係各省各庁の長と協議しなければならない。但し、当該各省各庁の長が文部大臣であるときは、その承認を受けなければならない。

第九十七条 第六十三条の規定により国庫に帰属した埋蔵文化財は、委員会が管理する。但し、その保存のため又はその効用から見て他の機関に管理させることが適当であるときは、これを当該機関の管理に移さなければならない。

第九十八条 国の所有に属する重要文化財又は史跡名勝天然記念物については、第三十条から第三十四条まで、第三十六条から第四十一条まで、第四十三、第四十四条、第四十八条から第五十二条まで、第五十四条、第五十五条、第七十四条から第七十八条まで、

第八十条及び第八十二条から第八十四条までの規定は、適用しない。

2 国に対しては、第四十五条第一項中施設の命令に関する部分、同条第二項及び第三項、第八十一条第一項中施設の命令に関する部分並びに同条第二項及第三項の規定は、適用しない。

3 第五十八条第一項の規定により埋蔵文化財の発掘を施行する土地が国の所有に属し、又は国の機関の占有するものである場合には、同条第二項の規定及び同条第三項中第四十一条の規定を準用する部分は、国に対しては、適用しない。

(権限の委任)

第九十九条 委員会は、必要があると認めるときは、左に掲げる委員会の権限の一部を都道府県の教育委員会に委任することができる。

一 第三十五条第三項(第三十六条第三項、第三十七条第四項、第六十七条第二項、第七十二条第六項、第七十四条第三項、第七十六条第二項及び第七十七条第三項で準用する場合を含む。)の規定による指揮監督

二 第四十三条又は第八十条の規定による現状変更又は保存に影響を及ぼす行為の許可及びその取消並びにその停止命令(重大な現状変更又は保存に重大な影響を及ぼす行為の許可及びその取消を除く。)

三 第五十一条第五項(同条第七項並びに第六十八条第二項及び第三項で

準用する場合を含む。)の規定による公開の停止命令

四 第五十三条の規定による公開の許可及びその取消並びに公開の停止命令

五 第五十四条、第五十五条、第八十二条又は第八十三条の規定による調査又は調査のため必要な措置の施行

六 五十七條第二項の規定による発掘の停止命令

2 都道府県の教育委員会が前項の規定による委任に基き同項第二号若しくは第四号に規定する許可の取消又は同項第五号に規定する立入調査若しくは調査のため必要な措置を行う場合には、第八十五条の規定を準用する。

(出品された重要文化財の管理の委任)

第一百条 委員会は必要があると認めるときは、都道府県又は地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第五百五十五条第二項の市の教育委員会に対し第四十八条の規定により出品された重要文化財の管理の事務を委任することができる。

2 前項の規定による委任を受けた場合には、都道府県又は前項に規定する市の教育委員会は、その職員のうちから、当該重要文化財の管理の責に任ずべき者を定めなければならない。

(修理等の施行の委託)

第一百一条 委員会は、必要があると認めるときは、第三十八条第一項又は第九十三条の規定による国宝の修理又は滅失若しくは損の防止の措置の施行、



第五十八条第一項の規定による埋蔵文化財の発掘の施行及び第七十八条第一項又は第九十三条の規定による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損若しくは衰亡の防止の措置の施行につき、都道府県教育委員会に対し、その全部又は一部を委託することができ。

2 都道府県教育委員会が前項の規定による委託に基づき、第三十八条第一項の規定による修理又は措置の施行の全部又は一部を行う場合には、第三十九条の規定を、第五十八条第一項の規定による発掘の施行の全部又は一部を行う場合には、同条第三項で準用する第三十九条の規定を、第七十八条第一項の規定による復旧又は措置の施行の全部又は一部を行う場合には、同条第二項で準用する第三十九条の規定を準用する。

(重要文化財の管理又は修理の受託等)  
第二百二条 都道府県教育委員会は、あらかじめ、委員会の承認を得て、所有者又は第三十一条の規定による管理責任者の求めに応じ、重要文化財の管理若しくは修理につき委託を受け、又は技術的指導をすることができ。

2 都道府県教育委員会が前項の規定により管理又は修理の委託を受ける場合には、第三十九条の規定を準用する。

(書類等の経由)

第二百三条 この法律の規定により文化財

に関し委員会に提出すべき書類その他の書類及び物件の提出は、都道府県教育委員会を経由すべきものとする。

2 都道府県教育委員会は、前項に規定する書類及び物件を受領したときは、意見を具してこれを委員会に送付しなければならない。

3 この法律の規定により文化財に関し委員会が発する命令、勧告、指示その他の処分告知は、都道府県教育委員会を経由すべきものとする。但し、特に緊急な場合は、この限りでない。

4 この法律の規定により委員会に対してなすべき届出、報告、申出又は指定書の返付は、その届書その他の書類又は指定書が第一項の規定により經由すべき都道府県教育委員会に到達した時に行われたものとみなす。

(指揮監督及び経費の負担)

第二百四条 委員会は、この法律の規定により都道府県又は第百条第一項に規定する市の教育委員会に行わせる事務につき、その教育委員会を指揮監督することができ。

2 都道府県又は第百条第一項に規定する市の教育委員会が第九十九条から第百一条までの規定による事務を処理するため要する経費は、国庫の負担とする。

(委員会に対する意見具申)

第二百四条の二 都道府県教育委員会は、当該都道府県の区域内に存する文化財の保存及び活用に関し、委員会に

対して意見を具申することができる。

(教育委員会の文化財専門委員)

第二百四条の三 都道府県教育委員会に文化財専門委員を置くことができる。

2 文化財専門委員は、文化財の保存及び活用に関し、都道府県教育委員会の諮問に答え、又は都道府県教育委員会に意見を具申し、及びこのために必要な調査研究を行う。

3 文化財専門委員に関し必要な事項は、当該都道府県の条例で定める。

4 前項の条例に関する議案の作成及び提出については、教育委員会法(昭和二十三年法律第七十号)第六十一条に規定する事件の例による。

(地方公共団体の補助)

第二百五条 地方公共団体は、地方自治法第二百三十一条の規定により文化財の管理、修理、復旧その他保存に要する経費につき補助をすることができ。

2 前項の規定により補助したときは、当該地方公共団体は、委員会にその補助金の額、補助の比率、補助の方法その他必要な事項につき報告しなければならない。

## 第七章 罰則

(刑罰)

第二百六条 第四十四条の規定に違反し、委員会からの許可を受けないで重要文化財を輸出した者は、五年以下の懲役若しくは禁錮、又は十万円以下の罰金に処する。

第二百七条 重要文化財を損壊し、き棄

し、又は隠匿した者は、五年以下の懲役若しくは禁錮、又は二万五千円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該重要文化財の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮、又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

(行政罰)

第二百八条 第三十九条第一項(第四十七条第三項、第七十八条第二項、第一百一条第二項又は第百二条第二項で準用する場合を含む)、第四十九条又は第百二条第二項に規定する重要文化財又は史跡名勝天然記念物の管理、修理又は復旧の施行の責に任すべき者が怠慢又は重大な過失によりその管理、修理又は復旧に係る重要文化財又は史跡名勝天然記念物を滅失し、き損し、又は衰亡するに至らしめたときは、二万五千円以下の過料に処する。

第二百九条 左の各号の一に該当する者は、二万五千円以下の過料に処する。

一 正当な理由がなく、第三十六条第一項又は第三十七条第一項の規定による重要文化財の管理又は修理に関する委員会の命令に従わなかった者

二 第四十三条の規定に違反して、委員会若しくは都道府県教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないで重要文化財の現状を変更し、又は委員会若しくは都道府県教育委員会の現状変更の停

止の命令に従わなかつた者

三 正当な理由がなくて、第七十六条第一項又は第七十七条第一項の規定による史跡名勝天然記念物の管理又は復旧に関する委員会の命令に従わなかつた者

四 第八十条の規定に違反して、委員会又は都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないで史跡名勝天然記念物の現状を変更し、若しくはその保存に影響を及ぼす行為をし、又は委員会若しくは都道府県の教育委員会の現状変更若しくは保存に影響を及ぼす行為の停止の命令に従わなかつた者

百十條 左の各号の一に該当する者は、一万円以下の過料に処する。

一 第三十八条第一項の規定による国宝の修理又は滅失若しくは損の防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者

二 正当な理由がなくて、第四十五条第一項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者

三 第四十六条の規定に違反して、委員会に国に対する売渡の申出をせず、若しくは申出をした後同条第三項に規定する期間内に、国以外の者に重要文化財を譲り渡し、又は同条第一項の規定による売渡の申出若しくは同項但書の規定による承認の申請につき、虚偽の事実を申立てた者

四 第五十三条の規定に違反して、委

員会若しくは都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないで重要文化財を公開し、又は委員会若しくは都道府県の教育委員会の公開の停止の命令に従わなかつた者

五 第七十八条の規定による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、若しくはその防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者

六 正当な理由がなくて、第八十一条第一項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者

百十一條 左の各号の一に該当する者は、五千円以下の過料に処する。

一 第二十八条第三項、第二十九条第三項又は第五十五条第二項の規定に違反して、重要文化財の指定書を委員会に返付せず、又は新所有者に引き渡さなかつた者

二 第三十一条第三項（第七十四条第三項で準用する場合を含む）、第三十二条（第七十五条で準用する場合を含む）、第三十三条（第七十五条で準用する場合を含む）、第三十四条、第五十七条第一項又は第八十四条の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者

三 第四十八条第二項から第四項まで、第五十一条第二項及び第三項若しくは第六十八条第一項及び第二項の規定に違反して、出品若しくは公開をせず、又は第五十一条第五項

（同条第七項並びに第六十八条第二項及び第三項で準用する場合を含む。）の規定に違反して、委員会若しくは都道府県の教育委員会の公開の停止若しくは中止の命令に従わなかつた者

四 第五十四条、第五十五条、第八十二条又は第八十三条の規定に違反して、報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は当該公務員の立入調査若しくは調査のために必要な措置の施行を拒み、妨げ、若しくは忌避した者

五 第五十七条第二項の規定に違反して、委員会又は都道府県の教育委員会の埋蔵文化財の発掘の禁止又は停止若しくは中止の命令に従わなかつた者

六 第五十八条の規定による埋蔵文化財の発掘の施行を拒み、又は妨げた者

七 正当な理由がなくて、第七十二条第一項の規定による管理（復旧を含む。）又は管理のために必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避した者

（罰則規定）

百十二條 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者がその法人又は人の業務又は財産の管理に關し、第六十六条、第七十七条又は第九十九条から前条までの違反行為をしたときは、その行為者を罰する外、その法人又は人に対し、各本条の罰金刑

又は過料を科する。但し、法人又は人の代理人、使用人その他の従業者の当該違反行為を防止するため当該業務又は財産の管理に對し相當の注意及び監督が尽されたことの証明があつたときは、その法人又は人については、この限りでない。

#### 附則

##### （施行期日）

百十三條 この法律施行の期日は、公布の日から起算して三箇月をこえない期間内において、政令で定める。

##### （關係法令の廃止）

百十四條 左に掲げる法律、勅令及び政令は、廃止する。

国宝保存法（昭和四年法律第十七号）

重要美術品等の保存に関する法律（昭和八年法律第四十三号）

史跡名勝天然記念物保存法（大正八年法律第四十四号）

国宝保存法施行令（昭和四年勅令第二百十号）

史跡名勝天然記念物保存法施行令（大正八年勅令第四百九十九号）

国宝保存官制（昭和四年勅令第二百十一号）

重要美術品等調査審議会令（昭和二十四年政令第二百五十一号）

史跡名勝天然記念物調査会令（昭和二十四年政令第二百五十二号）

##### （法令廃止に伴う経過規定）

百十五條 この法令施行前に行つた国宝保存法第一条の規定による国宝の指

- 定（同法第十一条第一項の規定により解除された場合を除く。）は、第二十七条第一項の規定による重要文化財の指定とみなし、同法第三条又は第四条の規定による許可は、第四十三条又は第四十四条の規定による許可とみなす。
- 2 この法律施行前の国宝の滅失又はき損並びにこの法律施行前に行つた国宝保存法第七条第一項の規定による命令及び同法第十五条前段の規定により交付した補助金については、同法第七条から第十条まで、第十五条後段及び第二十四条の規定は、なおその効力を有する。この場合において同法第九条第二項中「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替えるものとする。
- 3 この法律施行前にした行為の処罰については、国宝保存法は、第六条及び第二十三条の規定を除く外、なおその効力を有する。
- 4 この法律施行の際現に国宝保存法第一条の規定による国宝を所有している者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、この法律施行後三箇月以内に委員会に届け出なければならない。
- 5 前項の規定による届出があつたときは、委員会は、当該所有者に第二十八条に規定する重要文化財の指定書を交付しなければならない。
- 6 第四項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者は、五千

美術関係法規

- 7 前項の場合には、第二百十二条の規定を準用する。
- 8 この法律施行の際現に国宝保存法第一条の規定による国宝で国の所有に属するものを管理する各省各庁の長は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、この法律施行後三箇月以内に委員会に通知しなければならない。但し、委員会規則で定める場合はこの限りでない。
- 9 前項の規定による通知があつたときは、委員会は当該各省各庁の長に第二十八条に規定する重要文化財の指定書を交付するものとする。
- 第百十六條 この法律施行の際現に重要美術品等の保存に関する法律第二条第一項の規定により認定されている物件については、同法は当分の間、なおその効力を有する。この場合において、同法の施行に関する事務は、委員会が行うものとし、同法中「国宝」とあるのは、「文化財保護法ノ規定ニ依ル重要文化財」と、「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と、「国宝保存法第一条ノ規定ニ依リテ国宝トシテ指定シ」とあるのは、「文化財保護法第二十七条第一項ノ規定ニ依リテ重要文化財トシテ指定シ」と読み替えるものとする。
- 2 文化財専門審議会においては、当分の間、委員会の諮問に応じて重要美術品等の保存に関する法律第一条の規定

- による輸出及び移出の許可、同法第二条の規定による認定の取消に関する事項その他重要美術品等の保存に関する重要事項を調査審議し、且つ、これらの事項に關し必要と認める事項を委員会に建議する。
- 3 重要美術品等の保存に関する法律の施行に關しては、当分の間、第百三条の規定を準用する。
- 第百十七條 この法律施行前に行つた史跡名勝天然記念物保存法第一条第一項の規定による指定（解除された場合を除く。）は、第六十九条第一項の規定による指定、同法第一条第二項の規定による仮指定（解除されふに場合を除く。）は、第七十条第一項の規定による仮指定とみなし、同法第三条の規定による許可は、第八十条第一項の規定による許可とみなす。
- 2 この法律施行前に行つた史跡名勝天然記念物保存法第四条第一項の規定による命令又は処分については、同法第四条及び史跡名勝天然記念物保存法施行令第四条の規定は、なおその効力を有する。この場合において同令第四条中「文部大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替えるものとする。
- 3 この法律施行前にした行為の処罰については、史跡名勝天然記念物保存法は、なおその効力を有する。
- 第百十八條 委員会の最初の委員の任命については、国会の閉会又は衆議院の

- 解散の場合に限り、第九条第一項の規定にかかわらず、その後最初に招集された国会において両議院の事後の承認を得れば足りる。
- 2 文部大臣は、前項の規定による両議院の事後の承認が得られないときは、その委員を罷免しなければならない。
- （第一次の委員会の招集）
- 第百十九條 この法律に基き第一次の委員会は、第十四条の規定にかかわらず、文部大臣が招集する。
- （最初の委員の任期）
- 第百二十條 この法律により初めて任命される委員会の委員で委員長及びその職務を代理する委員以外のものの任期は、第十条第一項の規定にかかわらず、一人については一年、二人については二年とする。
- 2 前項の規定の適用を受ける委員の任期は、くじで定める。
- （国家行政組織法の一部改正）
- 第百二十一條 国家行政組織法の一部を次のように改正する。
- 別表第一中「文部省」を「文化財保護委員会」に改める。
- （文部省設置法の一部改正）
- 第百二十二條 文部省設置法（昭和二十四年法律第百四十六号）の一部を次のように改正する。
- 目次中「第三章 職員（第二十五条・



第二十六条を「第三章外局(第二十五条・第二十六条)を」第四章職員(第二十七条・第二十八条)に改める。

第二条第一項第二号中「国宝、重要美術品、史跡名勝天然記念物その他の文化財」を「文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)に規定する文化財」に改める。

同条第三項中「出版」を「文化財保護法に規定する文化財、出版」に改める。

第十条第九号を次のように改める。

九 削除

第十三条中「国立博物館」を削る。

第十四条第一項中「国立博物館」を削る。

第十七条を次のように改める。

第十七条 削除

第二十四条左表中国宝保存会、重要美術品等調査審議会及び史跡名勝天然記念物調査会の項を削る。第三章を第四章とし、第二十五条を第二十七条とし、第二十六条を第二十八条とし、第二章の次に次の一章を加える。

第三章 外局

(外局の設置)

第二十五条 国家行政組織法第三条第二項の規定に基いて文部省に置かれる外局は、左の通りとする。

文化財保護委員会

(文化財保護委員会)

第二十六条 文化財保護委員会の組織、所掌事務及び権限は、文化財保護法の定めるところによる。

(行政機関職員定員法の一部改正)  
第二百三十三条 行政機関職員定員法(昭和二十四年法律第二百六十六号)の一部を次のように改正する。

第二条第一項中

文部省 本省		六三、九八六
うち六一、八四七人は、国立学校職員とする。		を
本省	三六、二〇四	うち六一、八四七人は国立学校の職員とする
本	省	三六、二〇四
文部省	文化財保護委員会	四〇九
計	六四、〇一三	

に改める。

(従前の国立博物館)

第二百二十四条 法律(これに基く命令を含む。)に特別の定のある場合を除く外、従前の国立博物館及びその職員(美術研究所及びこれに所属する職員を除く)は、この法律に基く国立博物館及びその職員となり、従前の国立博物館附置の美術研究所及びこれに所属する職員は、この法律に基く研究所及びその職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

2 この法律に基く東京文化財研究所は従前の国立博物館附置の美術研究所の所掌した調査研究と同一のものについては、「美術研究所」の名称を用いることができる。

(特別職の職員の給与に関する法律の一部改正)

第二百二十五条 特別職の職員の給与に関する法律

する法律(昭和二十四年法律第二百五十二号)の一部を次のように改正する。

第一条十四号の二の次に次の一号を加える。

十四の三 文化財保護委員会の委員長及び委員

別表中「全国選挙管理委員会委員長」を「文化財保護委員会委員長」に、「中央更生保護委員会委員長」を「文化財保護委員会委員長」に改める。

(遺失物法の一部改正)

第二百二十六条 遺失物法の一部を次のように改正する。

第十三条第二項から第四項までの規定を削る。

2 この法律施行前に国庫に帰属した埋蔵物については、前項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(国有財産法の一部改正)

第二百二十七条 国有財産法の一部を次のように改正する。

第三条第二項第二号中「国宝」の下に「その他の重要文化財」を加える。

(屋外広告物法の一部改正)

第二百二十八条 屋外広告物法(昭和二十四年法律第八十九号)の一部を次のように改正する。

第四条第一項第三号を次のように改める。

三 文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)第二十七条の規定に

より指定された建造物の周囲で、当該都道府県が定める範囲内にある地域及び同法第六十九条又は第七十条の規定により指定され、又は仮指定された地域

同項第四号を削り、第五号を第四号とし、以下一号ずつ繰り上げる。

(教育委員会法の一部改正)

第二百二十九条 教育委員会法(昭和二十三年法律第七十号)の一部を次のように改正する。

第五十条第六号を次のように改める。

六 文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)及び重要美術品等の保存に関する法律(昭和八年法律第四十三号)の施行に關すること。

(富裕税法の一部改正)

第三百三十条 富裕税法(昭和二十五年法律第七十四号)の一部を次のように改正する。

第九条第一項第四号を次のように改める。

四 文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)の規定により国宝若しくは重要文化財、特別史跡若しくは史跡、特別名勝若しくは名勝又は特別天然記念物若しくは天然記念物として指定され、若しくは仮指定され、又は重要美術品等の保存に關する法律(昭和八年法律第四十三号)第二條第一項の規定により認定されたもの。



附 則 第一次改正の附則

1 この法律は、公布の日から施行する。

2 この法律施行前にした行為に対する罰則の適用については、改正前の文化財保護法第三十四条の規定は、なおその効力を有する。

3 教育公務員特例法（昭和二十四年法律第一号）の一部を次のように改正する。

第二十二条中「研究所」を「文化財研究所」に改める。

4 建築基準法（昭和二十五年法律第二百一十一号）の一部を次のように改正する。

第三條第一項を次のように改める。

この法律並びにこれに基く命令及び条例の規定は、文化財保護法（昭和二十五年法律第二百一十一号）の規定によつて国宝、重要文化財、特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物として指定され、（若しくは仮指定され、又は旧重要美術品等の保存に関する法律（昭和八年法律第四十三号）の規定によつて重要美術品等として認定された建造物を建築し、修繕し、又は模様替する場合には、適用しない。

附 則 第二次改正の附則

（施行期日）

1 この法律は、昭和二十七年八月一日

美術関係法規

から施行する。但し、附則第三項の規定は、公布の日から施行する。

（東京国立博物館の分館の職員に関する経過規定）

2 この法律施行の際現に東京国立博物館の分館の職員である者は、別に辞令を發せられない限り、同一の勤務条件をもつて、奈良国立博物館の職員となるものとする。

（大蔵省設置法の一部を改正する法律等の施行に伴う関係法令の整理に関する法律の一部改正）

3 大蔵省設置法の一部を改正する法律等の施行に伴う関係法令の整理に関する法律（昭和二十七年法律第二百七十七号）の一部を次のように改正する。

第七條中の特別職の職員の給与に関する法律（昭和二十四年法律第二百五十二号）（以下「法」という。）第一条の改正規定に関する部分中「同条第二十九号」を「同条第三十号」に、「同条第三十号」を「同条第三十一号」に、「同条第三十一号」を「同条第三十二号」に改める。

第七條中の法第一条の改正規定中

「十二 文化財保護委員會の委員長及び委員」を「十二 文化財保護委員會委員長に改め、同条第二十四号を同条第二十五号とし、以下一号づつ繰り下げ、同条第二十三号の次に次の一号を加える。

二十四 文化財保護委員會委員

第七條中の法第九条の改正規定中

「第二十七号」を「第二十八号」に改める。第七條中の法第十条の改正規定中

「第二十八号」を「第二十九号」に改める。

第七條中の法第十条の二の改正規定中「第二十九号」を「第三十号」に改める。

第七條中の法第十条の三の改正規定中「第三十号」を「第三十一号」に改める。

第七條中の法第十三条の改正規定中「第三十一号」を「第三十二号」に改める。

第七條中の法別表第一の改正規定中

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

「中央更生保護委員會委員」を「中央更生保護委員會委員」に改める。

文化財専門審議會令

（昭和二十五年十月十三日政令第三百九十九号）

沿革（昭和二十八年政令第二号）

（第一次改正）

文化財専門審議會令

内閣は、文化財保護法（昭和二十五年法律第二百一十四号）第二十一条第四項の規定に基き、この政令を制定する。

（所掌事務）

第一条 文化財専門審議會（以下「審議會」という。）は、文化財保護委員會（以下「委員會」という。）の諮問に

應じ、左に掲げる事項を調査審議し、及びこれらの事項に関し必要と認める事

項を委員會に建議する。

一 文化財保護法（以下「法」という。）第二十一条第二項に掲げる事項その他文化財の保存及び活用に関する専門的及び技術的事項

二 法第十六条第三項に規定する重要美術品等の保存に関する重要事項

（組織）

第二条 審議會は、専門委員九十人以内で組織する。

2 特別の事項を調査審議するため必要があるときは、審議會に臨時専門委員を置くことができる。

第三条 専門委員及び臨時専門委員は、学識経験のある者のうちから、委員會が任命する。

第四条 専門委員の任期は、二年とし、その欠員が生じた場合の補充専門委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 臨時専門委員は、特別の事項の調査審議が終つたときは、退任するものとする。

3 専門委員及び臨時専門委員は、非常勤とする。

第五条 専門委員より会長として互選された者は、審議會の会務を總理する。

2 専門委員により副会長として互選された者は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

（分科会）

第六条 審議會に置かれる分科会は、左表上欄に掲げる通りとし、それぞれ同表下欄に掲げる事項を分掌する。

分科会の名称	分掌事項
第一分科会	有形文化財（埋蔵文化財を除く。）及び法第百十六条第三項に規定する重要美術品等のうち、絵画、彫刻、工芸品その他建造物及び民俗資料以外のものに関する事項
第二分科会	建造物で多量有形文化財（埋蔵文化財を除く。）及び法第百十六条第三項に規定する重要美術品等に関する事項
第三分科会	史跡名勝天然記念物（特別史跡名勝天然記念物を含む。）民俗資料及び埋蔵文化財に関する事項
第四分科会	無形文化財に関する事項

2 前項の規定中有形文化財その他文化財に関する用語の定義は、法における用語の定義による。

第七條 専門委員及び臨時専門委員は、委員会に指名により、前条の分科会のいずれかに分属するものとする。

第八條 各分科会に属する専門委員により分科会長として互選された者は、各分科会の会務を掌理する。

2 分科会長に事故があるときは、その分科会に属する専門委員のうちから分科会長があらかじめ指名する者がその職務を代理する。

第九條 審議会は、その定めるところにより、分科会の議決又は二以上の分科会の合同の議決をもつて、審議会の議決とすることができる。

（部会）  
第十條 第六條の分科会は、その定める

ところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき専門委員及び臨時専門委員は、分科会長が指名する。

3 各部会に属する専門委員により部会長として互選された者は、各部会の会務を掌理する。

4 分科会は、その定めるところにより、部会の議決又は二以上の部会の合同の議決をもつて、分科会の議決とすることができる。

（議事）

第十一條 審議会は、専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の過半数が出席しなければ、議事を開き議決をすることができない。

2 審議会の議事は、出席した専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の過半数をもつて決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

3 前二項の規定は、分科会又は部会の議事及び二以上の分科会又は部会の合同の議事に準用する。この場合において、二以上の分科会又は部会の合同の議事を整理する会長には、審議会又はその部会を置いた分科会の定めるところにより、その分科会又は部会の会長のうち一人が当るものとする。

（庶務）

第十二條 審議会の庶務は、委員会事務局において処理する。

（雑則）

第十三條 この政令に定めるもののほ

か、審議会の議事の手続その他その運営に關し必要な事項は、審議会が定める。

附則

この政令は、公布の日から施行する。

附則（第一次改正の附則）

この政令は、公布の日から施行し、第十二條の改正規定は、昭和二十七年八月一日から適用する。

## 文化財専門審議会議事規則

（昭和二十五年十二月二十一日決定）

第一條 文化財専門審議会令に規定するもののほか、文化財専門審議会（以下「審議会」という。）の議事の手続その他規則の定めるところによる。

第二條 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

第三條 会長は、会議の議長となり、議事を整理する。

第四條 会長及び副会長にともに事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。

第五條 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

第六條 建議案を提出しようとする者は、案を作り、三人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第七條 修正の動議を提出しようとする者は、案を作り、議長に差し出さなければならない。但し、軽易な修正につ

いては、口頭で述べることができる。

第八條 動議は、賛成がなければ、議題とすることができない。

第九條 議事の採決は、起立又は挙手によつてできる。但し、議決により、記名投票又は無記名投票によつて行うことができる。

第十條 文化財保護委員会委員及び議事に関係のある職員は、審議会において、発言をすることができる。

第十一條 分科会長又は部会長は、分科会又は部会の分掌事項に関する調査審議の経過及び結果を会議に報告しなければならない。

第十二條 審議会に、幹事及び書記を置くことができる。

第十三條 第二條、第三條及び第五條から第十條までの規定は、分科会及び部会について準用する。この場合において、第二條及び第十條中「審議会」とあるのは、「分科会」又は「部会」と、第二條、第三條及び第六條中「会長」とあるのは、「分科会長」又は「部会長」と読み替えるものとする。

2 第四條の規定は、部会について準用する。この場合において、同条中「会長」とあるのは、「部会長」と、「及び副会長にともに事故があるときは」とあるのは、「に事故があるとときは」と読み替えるものとする。

第十四條 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に關し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

# 文化財専門審議会常任委員 員会設置規則

(昭和二十六年三月十五日決定)

第一条 文化財専門審議会(以下「審議会」という。)に、その能率的且つ一体的運営を期するため、常任委員会を置く。

第二条 常任委員会は、前条の目的を達成するため、左に掲げる事項をつかさどる。

一 審議会から附託された事項の調査審議

二 審議会から附託された事項に関する建議案の作成

三 審議会から審議会に代つて議決することを附託された事項についての議決

四 文化財専門審議会令(以下「令」という。)第六条の規定による分科会相互間の連絡調整

第三条 常任委員会は、令第五条の規定による会長及び副会長並びに令第八条第一項の規定による分科会長及び同条第二項の規定より分科会長があらかじめ指名する者をもつて組織するものとする。

第四条 常任委員会の会長及び副会長には、それぞれ審議会の会長及び副会長が当るものとする。

第五条 分科会長である常任委員会の委員は、分科会の分掌事項に関する調査審議の経過及び結果を常任委員会に報告するものとする。

告するものとする。

第六条 文化財保護委員会委員並びに議事に関係のある専門委員及び臨時専門委員並びに職員は、常任委員会の会長の求めに応じ、又はその承認を得て、常任委員会において発言することができ。

第七条 常任委員会の会長は、第二条の事項に関する調査審議の経過及び結果を審議会に報告しなければならない。

第八条 文化財専門審議会議事規則第二条から第九条まで及び第十二条の規定は、常任委員会について準用する。この場合において同規則第二条及び第十二条中「審議会」とあるのは、「常任委員会」と読み替えるものとする。

第九条 この規則に定めるもののほか、常任委員会の運営に関し必要な事項は、審議会の承認を経て、審議会の会長が定める。

## 文化財専門審議会諮問事項等取扱要領

(昭和二十五年十二月二十二日  
総 会 決 定)

一、總會事項及び分科会事項については、それぞれ分科会及び部会において下審議をすることができ、その結果を總會に報告することとする。

二、原則として總會事項とし、緊急を要する場合に限り分科会において措置することと認める事項

1 国宝の指定及び解除(法第二十一

条第二項第一号).....(第一分科会)

2 重要文化財に係る許可の権限の都道府県教育委員会への委任(法第二十一条第二項第四号).....(第二分科会)

3 国宝及び重要文化財の指定の基準.....(第二分科会)

4 特別史跡名勝天然記念物の指定及び解除(法第二十一条第二項第九号).....(第三分科会)

5 特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令(法第二十一条第二項第九号).....(第三分科会)

6 史跡名勝天然記念物に係る許可の権限の都道府県教育委員会への委任(法第二十一条第二項第十二号).....(第三分科会)

7 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定の基準(法第二十一条第二項第十四号).....(第三分科会)

8 助成の措置を講ずべき無形文化財の選定の基準(法第二十一条第二項第八号).....(第四分科会)

三、原則として分科会の事項とし、緊急を要する場合は、あらかじめ分科会の定めるところにより部会で措置することと認めるが、重要な事項については總會の議に附し、また二以上の分科会に關係ある事項については、その都度合同分科会等を設けて審議することとするもの。

1 重要文化財(国宝を除く。)の指定及び解除(法第二十一条第二項第一号).....(第一分科会)

2 重要文化財(国宝を含む。)の管理又は修理に関する命令(法第二十一条第二項第二号).....(第一分科会)

3 国宝の修理及び滅失又は損防止の措置の施行(法第二十一条第二項第三号).....(第二分科会)

4 重要文化財(国宝を含む。)の現状変更及び輸出の許可(法第二十一条第二項第四号).....(第二分科会)

5 重要文化財(国宝を除く。)の環境保全のためにする行為の制限、禁止及び必要な施設の命令(法第二十一条第二項第五号).....(第一分科会)

6 重要文化財(国宝を含む。)の買取(法第二十一条第二項第六号).....(第一分科会)

7 埋蔵文化財の発掘の施行(法第二十一条第二項第七号).....(第二分科会)

8 史跡名勝天然記念物の指定及び解除(法第二十一条第二項第九号).....(第三分科会)

9 史跡名勝天然記念物及び特別史跡名勝天然記念物の管理に関する命令(法第二十一条第二項第十号).....(第三分科会)

10 特別史跡名勝天然記念物の復旧及び滅失、損又は喪失の防止の措置



の施行(法第二十一条第二項第十一号).....(第三分科会)

11 史跡名勝天然記念物及び特別史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可(法第二十一条第二項第十二号).....(第三分科会)

12 史跡名勝天然記念物及び特別史跡名勝天然記念物の環境保全のためにする行為の制限、禁止及び必要な施設の命令(法第二十一条第二項第十三号).....(第三分科会)

13 助成の措置を講ずべき無形文化財の選定(法第二十一条第二項第八号).....(第四分科会)

14 各年度において保護助成すべき無形文化財の種類を選定(法第二十一条第二項第十四号).....(第四分科会)

四、分科会部会処理事項(昭和二十五年十二月二十二日決定)

(一) 次の事項については緊急やむを得ない場合において措置することを認める。

1 重要文化財(国宝を含む。)の管理及び修理に関する命令

2 緊急を要する重要文化財(国宝を含む。)の輸出の許可

3 重要文化財(国宝を含む。)の環境保全のためにする行為の制限、禁止及び必要な施設の命令

3 重要文化財(国宝を含む。)の買取第三分科会部会処理事項(昭和二十五年十二月二十二日第三分科会決定)

て措置することを認める。

1 史跡名勝天然記念物及び特別史跡名勝天然記念物の現状変更のうち緊急を要するもの及び軽微な事項

2 緊急を要する埋蔵文化財の発掘の施行

2 埋蔵文化財の鑑定、譲与等に関する処理

第四分科会部会処理事項(昭和二十五年十二月二十二日第四分科会決定)

(三) 各年度において保護助成すべき無形文化財で各部会に属するものの選定

文化財専門審議会専門委員名簿

会長辻善之助、副会長藤懸静也

【第一分科会】 分科会長和辻哲郎、分科会長代理藤田亮策、(絵画彫刻部会) 一 部長福井利吉郎、部会長代理米澤嘉圃、相見香雨、田澤坦、藤懸静也、源豊宗、和辻哲郎、(兼)安田新三郎、(兼)下村壽一(工藝品部会) 一 部長長松田權六、部会長代理海野清、明石國助、太田英藏、奥田誠一、尾崎洵盛、香取秀治郎、河瀬虎三郎、末永雅雄、溝口三郎、三矢宮松、宮形武次、安田新三郎、吉野富雄、(兼)石田茂作、(兼)田澤坦、(兼)後藤守一、(兼)水町和三郎、(臨)宇佐美毅、(臨)梅澤彦太郎、(臨)畠山一清(書跡部会) 一 部長長尾上八郎、部会長代理石田幹之助、神田喜一郎、武内義雄、辻善之助、禿氏祐洋、(兼)芝葛盛、(臨)田中親美(考古部会) 一 部長長石田茂作、部会長代理八幡一郎、柴田常恵、藤田亮策(兼)梅原末治、(兼)後藤守一、(兼)原田淑人

【第二分科会】 分科会長分科会長藤島亥治郎、分科会長代理堀口捨巳、岸熊吉、岸田日出刀、古宇田實、下村壽一、田邊泰、谷口吉郎、堀山敏男、村田治郎

【第三分科会】 分科会長芝葛盛、分科会長代理鐫木外岐雄、(臨)窪谷直光、(臨)武部英治、(臨)間島大治郎、(臨)柴田榮、(臨)川上為治、(臨)森本潔(史跡部会) 一 部長長原田淑人、部会長代理坂本太郎、芝葛盛、(兼)石田茂作、(兼)後藤守一、(兼)辻善之助、(兼)長谷部言人、(兼)藤島亥治郎(名勝部会) 一 部長吉水義信、部会長代理辻村太郎、石井満吉、関口鎮太郎、龍居松之助、(兼)谷口吉郎、(兼)堀口捨巳(天然記念物部会) 一 部長長鐫木外岐雄、部会長代理本田正次、内田清之助、黒田長禮、佐竹義輔、藤本治義、吉井義次、渡邊武男、(兼)辻村太郎(埋蔵文化財部会) 一 部長(兼)藤田亮策、部会長代理(兼)石田茂作、梅原末治、後藤守一、長谷部言人、(兼)原田淑人(民俗資料部会) 一 部長(兼)長谷部言人、部会長代理岡正雄、金田一京助、今和次郎、瀧澤敏三、柳田國男、(兼)田邊尚雄、(兼)本田安次

【第四分科会】 分科会長長久保田万太郎、分科会長代理河竹繁俊、(藝能部会) 一 部長長河竹繁俊、部会長代理加藤成之、久保田万太郎、小宮豊隆、蘭廣茂、田邊尚雄、新關良三、能勢朝次、野々村成三、花柳芳三郎、本田安次、町田嘉章、南江治郎、三宅周太郎、(兼)柳田國男、(臨)寺中作雄、(臨)兼)宇佐美毅(工藝技術部会) 一 部長長西澤昂一、部会長代理野口眞造、水町和三郎、(兼)明石國助、(兼)海野清、(兼)香取秀治郎、(兼)藤懸静也、(兼)松田權六、(兼)溝口三郎

## 文部省組織令抄

(昭和二十七年八月三十日)  
(政令第三百八十七号)

### 第一章 本省の内部部局

#### 第二章 文化財保護委員会事務局

##### (事務局の分課)

第四十九条 文化財保護委員会事務局に左の七課を置く。

- 一 管理課
- 二 企画連絡課
- 三 会計課
- 四 記念物課
- 五 美術工芸課
- 六 建造物課
- 七 無形文化課

##### (管理課)

第五十条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

一 文化財保護委員会(以下「委員会」という。)の職員の職階、任免、給与、分限、懲戒、服務その他の人事並びに数養及び訓練に関すること。

二 委員会の職員の団体に関すること。

三 委員会に関する栄典及び表彰に関すること。

四 委員会の公印を制定し、並びに委員長、事務局長及び次長の官印及び委員会印を管掌すること。

五 委員会に関する公文書類を接受し、発送し、編集し、及び保存すること。



六 委員会の所掌事務の監察に關すること。

七 委員会の権限の委任に關する事務を處理すること。

八 重要文化財（国宝を含む。以下第五十三条第一号、第五十四条第一号及び第五十五条第一号の場合を除き同様とする。）についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に關すること。

九 史跡名勝天然記念物（特別史跡名勝天然記念物を含む。以下第五十三条第一号の場合を除き同様とする。）についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に關すること。

十 無形文化財についての国庫補助、資料のあつ旋その他の助成及び国庫負担に關すること。

十一 国立博物館及び文化財研究所に關する事務を處理すること。

（企画連絡課）

第五十一条 企画連絡課においては、左の事務をつかさどる。

一 委員会の機密に關すること。

二 委員会の所管行政について総合調整を行うこと。

三 委員会の所掌事務に關する法令案その他の公文書類を審査し、法令の解釈について連絡調整すること。

四 委員会の政策を立案するために必要な資料の収集及び作成に關すること。

五 委員会の政策の普及並びに文化財

に關する知識の普及及び理解の徹底その他広報に關すること。

六 委員会が編集し、又は作成した刊行物、写真、複製品等の頒布に關すること。

七 文化財の保存及び活用に關する一般的統計調査に關すること。

八 文化財の保存及び活用のための国際的諸活動に關すること。

九 委員会の所掌事務に關する會議、研究会その他の催しの主催又はこれらへの参加に關すること。

十 都道府県教育委員会その他の關係機關に対し、委員会の所掌事務に關する一般的、共通的事項について連絡し、及び助言すること。

十一 文化財に關する調査研究委託費に關すること。

十二 委員会の所掌事務に關する民法（明治二十九年法律第八十九号）第三

十四条に規定する法人に關する事務を處理すること。

十三 委員会の行う聴聞に關する事務を處理すること。

十四 委員会の所掌事務に關する事項の官報掲載に關すること。

十五 委員会及び文化財専門審議會の會議その他庶務に關すること。

十六 文化財保護法（昭和二十五年法律第二百一十四号。以下「法」という。）に係る法令案を作成すること。

十七 委員会の所掌事務で他の所掌に屬しない事務を處理すること。

（會計課）

第五十二条 會計課においては、左の事務をつかさどる。

一 委員会の經費及び収入の予算、決算及び會計並びに會計の監査に關すること。

二 行政財産及び物品の管理に關すること。

三 重要文化財又は史跡名勝天然記念物である公共福祉用財産の管理について調整を行うこと。

四 委員会の管理する事務所等の營繕に關すること。

五 委員会の職員の衛生、医療その他福利厚生に關すること。

六 委員会の職員の共済組合に關すること。

七 委員会の職員に貸与する国設宿舍に關する事務を處理すること。

八 庁内の取締に關すること。

九 重要文化財の出品に対する給与金に關すること。

十 重要文化財の買取に關すること。

十一 埋蔵文化財の発見に対する報償金に關すること。

十二 委員会の所掌事務に關する物資の割当及びあつ旋その他物資の確保についての總括に關すること。

（記念物課）

第五十三条 記念物課においては、左の事務をつかさどる。

一 史跡名勝天然記念物又は特別史跡名勝天然記念物の指定及びその解除

並びに民俗資料としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に關すること。

二 史跡名勝天然記念物及び民俗資料である重要文化財の管理、復旧又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に關すること。但し、建造物課の所掌に屬するものを除く。

三 特別史跡名勝天然記念物及び民俗資料である国宝の復旧又は修理及び滅失、き損又は喪亡の防止の措置の施行に關すること。

四 史跡名勝天然記念物及び民俗資料である重要文化財の現状変更等の許可並びにこれらの環境保全のためにする行為の制限、禁止及び必要な施設の命令に關すること。

五 史跡名勝天然記念物及び民俗資料である重要文化財についての調査及び史跡名勝天然記念物の調査のために必要な措置の施行に關すること。

六 史跡名勝天然記念物及び民俗資料である重要文化財の管理についての届出に關すること。

七 古墳、旧跡その他の遺跡発見の届出に關すること。

八 埋蔵文化財の発掘に關する届出、指示及び命令に關すること。

九 埋蔵文化財の発掘の施行に關すること。

十 埋蔵文化財の鑑査に關すること。

十一 埋蔵文化財の譲与及び譲渡に關すること。

十二 民俗資料である重要文化財の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び許可に關すること。

十三 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた民俗資料である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十四 国の所有又は占有に屬する史跡名勝天然記念物及び民俗資料である重要文化財並びに埋蔵文化財の管理並びに修理に關すること。

十五 史跡名勝天然記念物、民俗資料及び埋蔵文化財（以下「記念物」という。）に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十六 記念物に關する台帳の整備に關すること。

十七 記念物の管理、修理及び復旧に必要な資料を刊行すること。

十八 記念物に關する記録、写真及び複製に關すること。

十九 法第百十六條の規定によりなおその効力を有する旧重要美術品等の保存に關する法律（昭和八年法律第四十三号。以下「旧法」という。）の施行に關する事務のうち、民俗資料に關するものを処理すること。

二十 史跡名勝天然記念物及び民俗資料である重要文化財の管理のための防火施設その他の保存施設に關し、建造物課に対し勧告すること。

（美術工芸課）

第五十四條 美術工芸課においては、左

の事務をつかさどる。

一 絵画、彫刻、工芸品、書跡、筆跡、典籍、古文書、考古資料その他建造物及び民俗資料以外の有形文化財（以下「美術工芸品」という。）としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に關すること。

二 美術品若しくは骨とう品として価値のある火なわ銃式火器又は美術品として価値のある刀剣類の登録に關すること。

三 美術工芸品である重要文化財の管理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に關すること、但し、建造物課の所掌に屬するものを除く。

四 美術工芸品である国宝の修理及び滅失又はき損の防止の措置の施行に關すること。

五 美術工芸品である重要文化財の出品又は公開についての、命令、勧告、承認及び許可に關すること。

六 美術工芸品である重要文化財の現状変更等の許可並びにその環境保全のためにする行為の制限、禁止及び必要な施設の命令に關すること。

七 美術工芸品である重要文化財についての調査に關すること。

八 美術工芸品である重要文化財の管理についての届出に關すること。

九 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十 国の所有又は占有に屬する美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十一 美術工芸品に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十二 美術工芸品に關する台帳の整備に關すること。

十三 美術工芸品の管理及び修理に必要な資料を刊行すること。

十四 美術工芸品に關する記録、写真、複写及び複製に關すること。

十五 旧法の施行に關する事務のうち美術工芸品に關するものを処理すること。

十六 美術工芸品である重要文化財の管理のための防火施設その他の保存施設に關し、建造物課に対し勧告すること。

（建造物課）

第五十五條 建造物課においては、左の事務をつかさどる。

一 建造物としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に關すること。

二 建造物である重要文化財の管理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に關すること。

三 建造物である国宝の修理及び滅失又はき損の防止の措置の施行に關すること。

四 建造物である重要文化財の出品又は公開についての命令、勧告、承認

及び許可に關すること。

五 建造物である重要文化財の現状変更等の許可並びにその環境保全のためにする行為の制限、禁止及び必要な施設の命令に關すること。

六 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の管理のための防火施設その他の保存施設に關する命令、勧告、指示及び指揮監督並に委員会の所掌に屬する文化財の防火施設その他の保存施設に關する専門的、技術的な指導と助言に關すること。

七 建造物である重要文化財についての調査に關すること。

八 建造物である重要文化財の管理についての届出に關すること。

九 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた建造物である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十 国の所有又は占有に屬する建造物である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十一 建造物に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十二 建造物に關する台帳の整備に關すること。

十三 建造物の管理、修理及び復旧に必要な資料を刊行すること。

十四 建造物に關する記録、写真及び複製に關すること。

十五 旧法の施行に關する事務のうち建造物に關するものを処理すること。

(無形文化課)

第五十六條 無形文化課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 助成の措置を講ずべき無形文化財の調査及び選定に関すること。
- 二 助成の措置を講じた無形文化財の保存に関する指示及び指揮監督に関すること。
- 三 助成の措置を講じた無形文化財の公開の命令及び承認に関すること。
- 四 無形文化財に関し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。
- 五 無形文化財についての資料の整備及び管理に関すること。
- 六 無形文化財に関する台帳の整備に関すること。
- 七 無形文化財の保護に必要な資料を刊行すること。
- 八 無形文化財に関する記録、写真、複写及び複製に関すること。

- 1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。
- 2 略

文化財保護委員会事務局

- 局長 森田 孝  
次長 岡田 孝平  
管理課長 武井 貞賢  
企画連絡課長 安達 健二  
会計課長 細川 可賀  
記念物課長 平間 修  
美術工藝課長 本間 順治  
建造物課長 関野 克

美術関係法規

無形文化課長 妹尾 茂喜

東京国立博物館組織規程

(昭和二十六年一月三十一日)  
文化財保護委員会規則第四号  
沿革 昭和二十七年文化財保護委員会規則第二号(第一次改正)  
昭和二十七年文化財保護委員会規則第九号(第二次改正)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第二十二條第四項の規定に基づき、国立博物館組織規程を次のように定める。

東京国立博物館組織規程

(東京国立博物館の組織)

第一条 東京国立博物館(以下「東京博物館」という。)の所掌事務を分掌せしめるため、左の二部を置く。

- 庶務部  
学芸部

(庶務部の分課)

第二条 庶務部に左の三課を置く。

- 管理課  
会計課  
普及課

(管理課の所掌事務)

第三条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 機密に関すること。
- 二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における、職員の人事に関すること。
- 三 公文書類の接受、発送、編集及び

保存に関すること。

四 公印を管掌すること。

五 東京国立博物館評議員会に関すること。

六 警備に関すること。

七 翻訳、通訳その他渉外に関すること。

八 他部課の所掌に属さない事務を処理すること。

九 東京博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(会計課の所掌事務)

第四条 会計課においては、左の事務をつかさどる。

一 予算案の準備等予算に関すること。

二 経費及び収入の決算その他会計に関すること。

三 行政財産及び物品の管理に関すること。

四 営繕に関すること。

五 職員の福利厚生に関すること。

第五条 普及課においては、左の事務をつかさどる。

一 この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及に関すること。

二 外国人に対しこの館の事業に関する美術及び歴史資料を解説すること。

三 この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布に関すること。

四 その他この館の事業の普及宣伝に関すること。

2 普及課が前項各号の事務を行うに当たっては、学芸部各課の助言を得、又は学芸部各課と連絡して処理するものとする。

(学芸部の分課)

第六条 学芸部に左の四課を置く。

美術課

工芸課

考古課

資料課

(美術課の四室及び所掌事務)

第七条 美術課に、美術課の所掌事務を分掌せしめるため、絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の四室を置く。

2 絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の四室は、それぞれ絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(工芸課の五室及び所掌事務)

第八条 工芸課に、工芸課の所掌事務を分掌せしめるため、金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の五室を置く。

2 金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の五室は、それぞれ金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。



(考古課の四室及び所掌事務)

第九条 考古課に、考古課の所掌事務を分掌せしめるため、先史室、原史室、有史室及び土俗室の四室を置く。

2 先史室、原史室、有史室及び土俗室の四室は、それぞれ先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(資料課の五室及び所掌事務)

第十条 資料課に、資料課の所掌事務を分掌せしめるため、庶務室、資料室、図書室及び写真室の四室を置く。

2 庶務室は、学芸部の一般庶務をつかさどる。

3 資料室は、図書以外の資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

4 図書室は、図書の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

5 写真室は、写真の作成、収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

6 資料課がその所掌事務を行うに当つては、学芸部各課と連絡して処理するものとする。

第十一条 東京博物館に館長及び次長を置く。

2 館長は、館務を総理する。

3 次長は、館長を助けて館務を処理する。

(東京国立博物館評議員会)

第十二条 東京博物館に東京国立博物館評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に應じて、東京博物館の重要事項について調査審議するのほか、東京博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、二十人以上の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるものの中から、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。

6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十五年八月二十九日から適用する。

附 則 (第一次改正の附則)

この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

附 則 (第二次改正の附則)

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

京都国立博物館組織規程

(昭和二十七年三月二十五日)  
文化財保護委員会規則第三号

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第二十二條第四項の規定に基づき、京都国立博物館組織規程を次のように定める。

京都国立博物館組織規程

(京都国立博物館の組織)

第一条 京都国立博物館(以下「京都博物館」という。)の所掌事務を分掌させるため、左の二課を置く。

管理課  
学芸課

(管理課の所掌事務)

第二条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

一 機密に関すること。  
二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関すること。

四 公印を管掌すること。

五 京都国立博物館評議員会に関すること。

六 翻訳、その他渉外に関すること。

七 予算案の準備等予算に関すること。

八 経費及び収入の決算その他会計に関すること。

九 行政財産及び物品の管理に関すること。

十 営繕に関すること。

十一 職員(の福利厚生)に関すること。

十二 警備に関すること。

十三 他課の所掌に属さない事務を処理すること。

十四 京都博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(学芸課の五室及び所掌事務)

第三条 学芸課に、所掌事務を分掌させるため、左の五室を置く。

普及室  
美術室  
工芸室  
考古室  
資料室

2 普及室においては、この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布、この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及その他この館の事業の普及宣伝に関する事務をつかさどる。

3 美術室においては、絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

4 工芸室においては、金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

5 考古室においては、先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

6 資料室においては、写真の作成並びに図書、写真その他資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。



(館長及び次長)

第四条 京都博物館に館長及び次長を置く。

2 館長は、館務を総理する。

3 次長は、館長を助けて館務を処理する。

(京都国立博物館評議員会)

第五条 京都博物館に京都国立博物館評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に依じて、京都博物館の重要事項について調査審議するのほか、京都博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、十五人以内の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるものの中から、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。

6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則

この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

奈良国立博物館組織規程

(昭和二十七年八月十四日)  
文化財保護委員会規則第八号)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第二十二條第四項の規定に基づき、奈良国立博物館組織規程を次のよう

美術関係法規

に定める。

奈良国立博物館組織規程

(奈良国立博物館の組織)

第一条 奈良国立博物館以下「奈良博物館」という。)の所掌事務を分掌させるため、左の二課を置く。

管理課

学芸課

(管理課の所掌事務)

第二条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

一 機密に関する事。

二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関する事。

三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関する事。

四 公印を管掌すること。

五 奈良国立博物館評議員会に関する事。

六 内外文化の交流その他国際文化に関する事。

七 予算案の準備等予算に関する事。

八 経費及び収入の決算その他会計に関する事。

九 行政財産及び物品の管理に関する事。

十 営繕に関する事。

十一 職員福利厚生に関する事。

十二 警備に関する事。

十三 他課の所掌に属さない事務を処理すること。

十四 奈良博物館の所掌事務の総合調整に関する事。

(学芸課の五室及び所掌事務)

第三条 学芸課に、学芸課の所掌事務を分掌させるため、左の五室を置く。

普及室

美術室

工芸室

考古室

資料室

2 普及室においては、この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布、この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及その他この館の事業の普及宣伝に関する事務をつかさどる。

3 美術室においては、絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

4 工芸室においては、金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

5 考古室においては、先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

6 資料室においては、写真の複製並びに図書、写真その他資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

(館長及び次長)

第四条 奈良博物館に館長を置く。館長は、館務を総理する。

2 奈良博物館に次長を置くことができる。次長は、館長を助けて館務を処理する。

(奈良国立博物館評議員会)

第五条 奈良博物館に奈良国立博物館評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に依じて、奈良博物館の重要事項について調査審議するのほか、奈良博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、十五人以内の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるものの中から、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。

6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

東京文化財研究所組織規程

(昭和二十七年三月二十五日)  
文化財保護委員会規則第四号)

文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第二十三条第四項の規定に基づき、東京文化財研究所組織規程を次のように定める。

### 東京文化財研究所組織規程

#### （東京文化財研究所の組織）

第一条 東京文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の三部及び一室を置く。

美術部

芸能部

保存科学部

庶務室

#### （美術部の三室及び所掌事務）

第二条 美術部に、美術部の所掌事務を分掌させるため、第一研究室、第二研究室及び資料室の三室を置く。

2 第一研究室においては、わが国の近代、中世及び近世の美術並びに東洋美術の調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 第二研究室においては、わが国の近代及び現代の美術並びに西洋美術の調査研究並びにその結果の公表に関する事務のほか、黒田記念室に関する事務をつかさどる。

4 資料室においては、美術研究資料の作成、収集、整理、保管、公表及び閲覧並びに美術研究資料に関する写真の作成及びその原板の保管並びにエツクス線写真、赤外線写真、紫外線写真その他の特殊写真による美術の研究に関する事務をつかさどる。

#### （芸能部の三室及び所掌事務）

第三条 芸能部に、芸能部の所掌事務を分掌させるため、演劇研究室、音楽舞踊研究室及び郷土芸能研究室の三室を置く。

2 演劇研究室においては、演劇及びその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 音楽舞踊研究室においては、音楽及び舞踊並びにその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

4 郷土芸能研究室においては、郷土芸能及びその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

（保存科学部の三室及び所掌事務）

第四条 保存科学部に、保存科学部の所掌事務を分掌させるため、化学研究室、物理研究室及び生物研究部の三室を置く。

2 化学研究室においては、文化財及びその保存に関する化学的及び分析的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 物理研究室においては、文化財及びその保存に関する物理学的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

4 生物研究室においては、文化財及びその保存に関する生物学的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

#### （庶務室の所掌事務）

第五条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。

一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。

二 公文書類の接受及び公印の管守その他の庶務に関すること。

三 経費及び収入の予算、決算その他の会計に関すること。

四 行政財産及び物品の管理に関すること。

五 職員の福利厚生に関すること。

#### 附則

1 この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

2 美術研究所組織規程（昭和二十六年文化財保護委員会規則第五号）は、廃止する。

### 奈良文化財研究所組織規程

（昭和二十七年三月二十五日）  
文化財保護委員会規則第五号

文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第二十三条第四項の規定に基づき、奈良文化財研究所組織規程を次のように定める。

#### 奈良文化財研究所組織規程

#### （奈良文化財研究所の組織）

第一条 奈良文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の四室を置く。

美術工芸研究室  
建造物研究室

#### 歴史研究室

庶務室

#### （美術工芸研究部の所掌事務）

第二条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他の建造物以外の有形文化財並びに工芸技術に関する調査研究並びにその普及及び活用に関する事務をつかさどる。

#### （建造物研究部の所掌事務）

第三条 建造物研究室においては、建造物に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

#### （歴史研究部の所掌事務）

第四条 歴史研究室においては、考古及び史跡に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

#### （庶務室の所掌事務）

第五条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。

一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。

二 公文書類の接受及び公印の管守その他の事務に関すること。

三 経費及び収入の予算、決算その他の会計に関すること。

四 行政財産及び物品の管理に関すること。

五 職員の福利厚生に関すること。

#### 附則

この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

## 文部省社会教育局藝術課

文部省組織規定(省令)抜萃

第二十五条 社会教育局に左の六課を置く。

社会教育課

社会教育施設課

体育課

芸術課

視聴覚教育課

著作権課

(芸術課)

第二十九条 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

一 文学、音楽、美術、演劇その他の芸術及び国民娯楽に関し、左に掲げる事務を行うこと。

イ 情報、資料の収集及び利用に関すること。

ロ 研究会、講習会、展示会その他の催しの主催又はこれらへの参加に関すること。

ハ 向上及び普及のための援助と助言に関すること。

二 国立近代美術館及び日本芸術院に関し、予算案の準備その他の他部署に属しない事務を処理すること。

三 芸術に関する団体との連絡に関すること。

## 国立近代美術館

国立近代美術館関係

文部省設置法抜萃

美術関係法規

## 文部省設置法抄

昭和二十四年五月三十一日  
法律第一四六号

### 第二章 本省

#### 第一節 内部部局

第十条 社会教育局においては、左の事務をつかさどる。

一 国立科学博物館、国立近代美術館及び日本芸術院に関し、予算案の準備その他の他部署に属しない事務を行うこと。

#### (以下省略)

第二節 国立の学校その他の機関

#### (国立の学校等)

第十四条 第二十六条及び第二十七条に規定するもののほか、文部大臣の所轄の下に、国立の学校及び左の機関を置く。

日本ユネスコ国内委員会

国立教育研究所

国立科学博物館

国立近代美術館

緯度観測所

統計数理研究所

国立遺伝学研究所

国立国語研究所

日本芸術院

#### (評議員会)

第十五条 前条の機関のうち、国立教育

研究所、国立科学博物館、国立近代美術

館、統計数理研究所及び国立遺伝学

研究所にそれぞれ評議員会を置く。

2 評議員会は、それぞれの機関の事業

計画、経費の見積、人事その他の運営管理に関する重要事項について、それぞれの機関の長に助言する。

3 それぞれの機関の長は、評議員会の推薦により、文部大臣が任命する。

4 評議員会は、二十人以上の評議員で組織する。

5 評議員は、学識経験のある者のうちから、文部大臣が任命する。

6 評議員の推薦、任期その他評議員会の組織及び運営の細目については、政令で定める。

#### (国立近代美術館)

第二十条 国立近代美術館は、近代美術に関する作品その他の資料を収集、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに関連する調査研究及び事業を行う機関とする。

2 国立近代美術館は、東京都に置く。

8 国立近代美術館の内部組織は、文部省令で定める。

#### 附則

1 この法律は、昭和二十四年六月一日から施行する。

#### (以下省略)

#### 附則

(昭和二十七年六月)

この法律は、公布の日から施行する。

#### (後略)

#### 附則

(昭和二十七年七月)

1 この法律は、昭和二十七年八月一日から施行する。

#### (以下省略)

## 文部省設置法施行規則(抄)

(昭和二十八年一月十三日)  
文部省令第二号

### 第三章 所轄機関

#### 第四節 国立近代美術館

第四十五条 国立近代美術館に館長及び次長を置く。

一 館長は、館務を掌理する。

二 次長は館長を助け、館務を整理する。

#### (内部組織)

第四十六条 国立近代美術館に左の二課を置く。

一 庶務課

二 事業課

(庶務課)

第四十七条 庶務課においては、左の事務をつかさどる。

一 職員的人事に関する事務を処理すること。

二 職員の衛生、医療及び福利厚生に関する事務を処理すること。

三 公文書類を接受し、発送し、編集し、及び保存すること。

四 公印を管理すること。

五 国立近代美術館の所掌事務に関し、連絡調整すること。

六 国立近代美術館評議員会に関すること。

七 予算に関する事務を処理すること。

八 経費及び収入の決算その他会計に



関する事務を処理すること。

九 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。

十 展示品の保全の爲の警備に関すること。

十一 庁内の取締に関すること。

十二 前各号に掲げるものの外、他の所掌に属しない事務を処理すること。

(事業課)

第四十八条 事業課においては、左の事務をつかさどる。

一 近代美術に関する作品その他の資料を収集し、保管し、展示し、解説し、及び修理すること。

二 前号に掲げる資料を館外で展示すること。

三 近代美術に関し、専門的な調査研究を行うこと。

四 近代美術に関する出版物等を作成し、及びこれらを刊行、頒布する等利用に供すること。

五 近代美術に関する展覧会、講演会、講習会、映写会、研究会等の催しを企画し、及び実施すること。

六 第一号に掲げる資料の利用に関し、内外の美術館、博物館、その他関係団体等と連絡協力して、刊行物、情報の交換等の相互援助を行うこと。

附則

1 この省令は、公布の日から施行し、昭和二十八年一月一日から適用する。

2 左に掲げる省令は、廃止する。

(前略)

六 国立近代美術館組織規程(昭和二十七年文部省令第二十一号)

(後略)

文部省組織令(抄)

(昭和二十七年八月三十日政令第三百八十七号)

第一章 本省の内部部局

第四節 社会教育局

(芸術課)

第二十七條 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

一 (省略)

二 国立近代美術館及び日本芸術院に関し、予算案の準備その他の他部局に属しない事務を処理すること。

三 (省略)

附則

1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。

2 (省略)

文部省所轄機関評議員会令(抄)

(昭和二十四年七月十八日政令第二百七十四号  
昭和二十七年六月六日政令第一七五号改正)

第三章 国立近代美術館評議員会

(所掌事務)

第十二条 国立近代美術館に置かれる評議員会(以下「国立近代美術館評議員会」という。)は、左に掲げる事項に関して審議し、国立近代美術館長に助言

する。

一 国立近代美術館の行う毎年の事業の計画

二 国立近代美術館の行う事業の経費その他国立近代美術館の運営に必要な経費の見積

三 国立近代美術館の人事その他の運営管理に関する重要事項

(組織)

第十三条 国立近代美術館評議員会は、評議員二十人以内で組織する。

(準用規定)

第十四条 第一条第二項から第四項まで、第二条第二項及び第三条から第九条までの規定は、国立近代美術館評議員会に準用する。

附則

1 この政令は、公布の日から施行する。

2 この政令施行の際、現に各評議員会の評議員の職にある者は、改正後の文部省所轄機関評議員会令(以下「評議員会令」という。)第三条第一項の規定にかかわらず、残任期間の短い者にあつてはその任期の終るまで、残任期間の長い者にあつては、残任期間の短い評議員の任期の終つた日の翌日から起算して一年間在任するものとする。

3 この政令施行の後最初に任命される国立近代美術館評議員会の評議員のうち、半数の者の任期は、評議員会令第三条第一項の規定にかかわらず、一年とする。

4 前項の評議員のうち、任期を一年とする評議員は、くじで定める。

5 この政令施行後最初の国立近代美術館評議員会の会議は、評議員会令第十四条において準用する同令第五条の規定にかかわらず、文部大臣が招集する。

国立近代美術館評議員会運営規則

(昭和二十八年三月二十四日国立近代美術館評議員会決定)

第一条 文部省所轄機関評議員会令(昭和二十四年七月十八日政令第二百七十四号)に規定するものの外、国立近代美術館評議員会(以下「評議員会」という。)の議事その他運営に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第二条 会長は、会議の会長となり、議事を整理する。

第三条 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

第四条 国立近代美術館長に対する助言の案を提出しようとする者は、案を作り、三人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第五条 動議は、賛成者がなければ、議題とすることができない。

第六条 議事の採決は、起立又は挙手によつて行う。但し議決により、記名投票又は無記名投票によつて行うことができる。

第七条 評議員会に、幹事及び書記を置



くことができる。

2 幹事及び書記は、国立近代美術館職員のうちから国立近代美術館長が任命する。

第八条 この規則に定めるものの外、評議員会の運営に関し必要な事項は、評議員会の承認を経て、会長が定める。

#### 附則

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年九月一日から適用する。

### 国立近代美術館運営委員会規程

#### (運営委員会)

第一条 国立近代美術館（以下「館」という。）の事業運営等について協議するため、館に運営委員会を置く。

#### (議長)

第二条 運営委員会の議事を掌理するため、運営委員会に議長を置く。

2 議長は、館長をもつてあてゐる。

3 館長に事故があるときは、次長が議長の職務を代理する。

#### (運営委員)

第三条 運営委員会に運営委員十五人以上を置く。

2 運営委員は、学識経験ある者のうちから館長が委嘱する。

3 館長は、特に必要と認めるときは、臨時に運営委員を委嘱することができる。

4 次長は、運営委員会に出席して、議事に参加することができる。  
(分科会)

第四条 運営委員会は、館の事業運営上、特に必要と認めるときは、運営委員会の下に、分科会を設けることができる。

2 分科会の委員は、運営委員のうちから議長が委嘱する。

3 次長は、分科会の議長となる。

4 次長に事故があるときは、事業課長が議長の職務を代理する。

#### (資料の提出及び説明)

第五条 運営委員会及び分科会は、議事の必要により、館職員に資料の提出及び説明を求めることができる。

#### (庶務)

第六条 運営委員会の庶務は、館が掌る。

#### (その他)

第七条 前各条に規定する事項の外、運営委員会について必要な事項は、館長が運営委員会と協議して定める。

#### 附則

この規程は、昭和二十七年九月一日から適用する。

### 日本藝術院

明治四十年勅令第二百二十号をもつて美術審査委員会官制が制定され、これに基づき毎年文部省美術展覧会を開催し、美術審査委員会は美術展覧会の出品を審議した。大正八年に本官制が廃止され、新たに勅令第四百十七号をもつて帝国美術院規定が制定された。帝国美術院は文部大臣の管理に属し美術の発達を裨補することを目的とし、文部大臣の諮詢に応じ、美術に関する意見を開示し、その他美術に関する重要事項を建議する機関であつた。

昭和十年勅令第四百十七号をもつて帝国美術院官制が新たに制定され、帝国美術院規定は廃止された。

昭和十二年勅令第二百八十号をもつて帝国芸術院官制が新たに制定され、美術部門の他に文学及び音楽の両部門が加えられ、同時に帝国美術院官制を廃止された。

昭和二十二年政令第二百五十四号をもつて帝国芸術院は日本芸術院と名称が変更され、昭和二十四年六月一日政令第二百八十一号をもつて日本芸術院令が制定せられ、日本芸術院官制は廃止されて今日に至つてゐる。

(文部省設置法抜萃)  
第二節 国立の学校その他の機関  
(国立の学校等)  
第十四条 第二十六条及び第二十七条に規程するもののほか、文部大臣の所轄の下に、国立の学校及び左の機関を置く。

日本ユネスコ国内委員会  
国立科学博物館  
国立近代美術館  
緯度観測所  
統計数理研究所  
国立遺伝学研究所  
国立国語研究所  
日本芸術院

### 国立近代美術館 (日本芸術院)

第二十五条 日本芸術院は、芸術上の功績顯著な芸術家を優遇するために置かれる機関とする。

2 日本芸術院会員には、予算の範囲内で、文部大臣の定めるところにより、年金を支給することができる。

3 日本芸術院の内部組織、会員その他の職員及び運営については、政令で定める。

#### 附則

1 この法律は、昭和二十四年六月一日から施行する。

2 左の勅令及び政令は廃止する。但し、法律（これに基く命令を含む。）に別段の定がある場合を除くほか、従前の機関及び職員は、この法律に基く相當の機関及び職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

文部省官制 (昭和十七年 勅令第七百四十八号)  
日本芸術院官制 (昭和十二年 勅令第二百八十号)

### 日本藝術院令

(昭和二十四年六月一日 政令第二八一号)

内閣は、文部省設置法（昭和二十四年法律第四百十六号）第二十三条第三項の規定に基き、この政令を制定する。

#### (日本芸術院の目的)

第一条 日本芸術院は、芸術上の功績顯著な芸術家を優遇するための榮譽機関とする。

2 日本芸術院は、芸術に関する重要事項を審議し、芸術の発達に寄与する活動を行い、及び芸術に関する重要事項について文部大臣に建議することができ

(組織)

2 日本芸術院は、院長一人及び會員百人以内で組織する。

2 日本芸術院に左の三部を置く

第一部 美術

第二部 文芸

第三部 音楽、演劇、舞踊

3 會員は、いずれかの部に分属する。

3 第三部 會員は、部会が推薦し、總會の承認を経た候補者につき、院長の申出により、文部大臣が任命する。

2 前項の部会の推薦する者は、部会において芸術上の功績顯著な芸術家につき選挙を行い、部會員の過半数の投票を得た者とする。

3 前項の投票において、病氣その他の事故のため出席できない者は、郵便その他の方法により投票することができ

4 第四部 會員は、終身とする。但し、會員が、退任を申し出た場合には、總會の承認を経てこれを認めることができる。

第五部 院長は、芸術に關し卓越した識見を有する者につき、會員の選挙により過半数の投票を得た者を、文部大臣が任命する。

2 前項の場合において、過半数の得票

者のないときは投票の最多数を得た者一人につき、更に會員が投票を行い、多数の得票を得た者をもつて当選者とする。但し、得票数が同数のときは、年長者をもつて当選者とする。

3 第三部第三項の規定は、前項の選挙に準用する。

4 院長の任期は、三年とする。

5 院長は、非常勤とする。

6 院長は、院務を總理する。

7 院長に事故があるときは、部長のうち最年長者が、その職務を代理する。

第六部 各部に属する會員により部長として互選された者は、各部の部務を掌理する。

2 部長は、三年ごとに改選する。

(會議)

第七部 日本芸術院の會議は、總會、部会及び連合部会とする。

2 總會は、年一回、院長が招集する。但し、必要があるときは、臨時にこれを招集することができる。

3 部会は、部長が招集する。

4 連合部会は、關係する部の部長の申出により、院長が招集する。

5 總會は、會員の過半数が出席しなければ、議決をすることができない。但し、あらかじめ通知した議題について、書面をもつて意思を表示した者は、その議題に限り、出席したものと認めることができる。

7 前項の規定は、部会及び連合部会の會議に準用する。

(職員)

第八部 日本芸術院に事務長一人及びその他の職員五人以内を置く。

2 事務長は、院長の指揮をうけ、日本芸術院に關する庶務を整理し、その他の職員は、上司の指揮をうけ、庶務に従事する。

(雜則)

第九部 この政令の定めるもののほか、日本芸術院の運営に關し必要な事項は、總會の議を経て院長が定める。

附則

この政令は、公布の日から施行し、昭和二十四年六月一日から適用する。

日本藝術院會則

(昭和二十五年五月三十日 總會議決)

第一条 日本藝術院各部の定員は、左に掲げる通りとする。

第一部 美術 五十名以内

第二部 文芸 三十名以内

第三部 音楽、演劇、舞踊 二十名以内

第二条 各部に左の分科を置く。

第一部 美術

第一分科 日本画

第二分科 洋画

第三分科 彫塑

第四分科 工芸

第五分科 書畫

第六分科 建築

第二部 文芸

第七分科 小説、戯曲

第八分科 詩、歌

第九分科 評論、翻訳

第三部 音楽、演劇、舞踊

第十分科 洋楽

第十一分科 邦楽(能楽及び雅楽を含む)

第十二分科 演劇(人形劇及び映画を含む)

第十三分科 舞踊(洋舞及び邦舞を含む)

第三条 日本藝術院會員の候補者を選挙するため、日本藝術院に日本藝術院會員選挙委員會を置く。

2 前項の委員會については、日本藝術院會員選挙委員會規則の定めるところによる。

第四部 日本藝術院は卓越した芸術作品と認められるものを製作した者及び芸術の進歩に貢獻する顯著な業績ありと認める者に対して賞を授ける。

2 前項の授賞については、日本藝術院授賞規則の定めるところによる。

第五部 院長は、總會及び連合部会の議長となり、議事を整理する。

2 部長は、部会の議長となり、議事を整理する。

3 總會、部会又は連合部会の議事が、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第六部 一の部において、その部に属する會員の三分の一以上の請求があるときは、その部の部長は部会を招集しな

ければならない。

2 二の部において、それらの部に属する会員の各三分の一以上の請求があるときは、院長は、連合部会を招集しなければならぬ。

第七条 部会または連合部会の議長は、必要があると認めるときは、他の部に属する会員中適当な者を指名して部会または連合部会に出席を求め、その意見を求めることができる。

第八条 会議を公開するか否かは、その都度これを定める。

第九条 この会則の改正は、総会の議決がなければ行ふことができない。

### 日本藝術院会員選考委員会規則

昭和二十五年五月三十日  
総会決議  
昭和二十八年五月二十六日改正

第一条 日本芸術院令（昭和二十四年六月一日政令第二八一号）第三条第二項の規定による部会の行い選挙の候補者（以下「候補者」という）を選考するため、日本芸術院に、日本芸術院会員候補者選考委員会（以下「委員会」という）を置く。

第二条 委員会は、三十人以内の委員をもつて組織し、委員の任期は一年とする。但し、再選を妨げない。

2 委員に欠員を生じたときは、各部において予め定めた順位に従い委員を補充する。

3 補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員会に美術、文芸及び芸能の三選考部会を置く。

第三条 日本芸術院の各部会員はその互選により、各々十人以内の委員を選出する。

第四条 日本芸術院長は、委員会の委員長として、その会務を総理する。

2 委員長に事故があるときは、出席委員により、代理委員長として互選されたものが、委員長職務を代理する。

第五条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決することができない。但し、委員はやむを得ない事情があるときは、自己の属する部会の他の委員に、議決権を委任することができる。

2 前項の規定は、部会の議事に準用する。

第六条 日本芸術院会員は、その所属する部会に属すべき候補者を当該選考部会に対し推薦することができる。但し、他分科に属すべき候補者を推薦する場合、被推薦者の属すべき分科に属する会員が欠けた場合を除き、被推薦者の属すべき分科に属する会員二名（被推薦者の属すべき分科に属する会員の現員数が一名の場合一名）と共同して推薦しなければならぬ。

2 他分科に属すべき候補者を推薦する場合、被推薦者の属すべき分科に属する会員が欠けたとき、またはこれに準ずるときは、その部の選考委員二名と共同して推薦しなければならぬ。

第七条 選考部会は、推薦された候補者につき、選考に必要な調査をしなければならない。

2 選考部会は、推薦者及び被推薦者に対し、選考に必要な資料の提出を求めることができる。

3 選考部会は、日本芸術院会員、会員以外の学識経験者等適当なる者から、候補者の選考に関し、意見を聴取することができる。

第八条 各選考部会は、被推薦者につき、その調査にもとづく調査書を作成し、順位を附して委員会に報告しなければならぬ。

2 委員会は、選考部会の報告にもとづき、候補者に推薦された者について、補充すべき会員数だけの無記名連記投票を行う。

3 前項の場合各部の投票数は同数となるよう取り計い、また候補者が属すべき部会の委員の投票は二倍に計算するものとする。

第九条 委員会は、前条の選挙により、出席委員の過半数の得票を得た者を当選者とする。但し、過半数の得票者が各部につき、その部にて補充すべき会員数の二倍をこえるときは、その限度に達するまで、得票順によつて候補者を決定する。各部につき、過半数の得票者のない場合は、最高点者と次点者につき、決戦投票を行い、過半数を得た者を当選者とする。

第十条 委員会は、候補者を決定した後

選考部会の報告にもとづいて審査報告書を作成しなければならない。

2 前項の報告書には各被推薦者について、選考部会の決定した順位及び委員会の得票数を記載しなければならぬ。

第十一条 委員会は、前条の規定により作成した審査報告書を日本芸術院の各部長に提出するものとする。日本芸術院の各部は前項の審査報告書に記載された候補者について選挙を行う。

### 日本藝術院授賞規則

昭和二十五年五月三十日  
総会決議  
昭和二十八年五月二十六日改正

第一条 日本芸術院は、卓越した芸術作品及び芸術の進歩に貢献する顕著な業績ありと認める者に対して授賞する。

第二条 賞は、恩賜賞及び日本芸術院賞とする。

2 恩賜賞は、毎年一個とし、もしその年度内に授与しないときは、繰越して授与することができる。

第三条 賞は、賞状及び賞金とする。

第四条 賞は、日本芸術院会員でない者に授ける。但し擬賞の決議があつた後会員となつた者は此の限りでない。

第五条 授賞は、日本芸術院会員の推薦による。

2 日本芸術院会員が授賞の推薦をしやうとするときは、その所属する分科に属すべき候補者を毎年十二月その所属



の部会に提議しなければならない。

但し、他科に属すべき候補者を推薦する場合、被推薦者につき指定された科に属する会員二名（被推薦者の属すべき分科に属する会員の現員数が一名の場合は一名）と共同して推薦することを要する。

3 他科に属すべき候補者を推薦する場合、被推薦者につき指定された科に属する会員が欠けたとき、またはこれに準ずるときは、その部の選考委員二名と共同して推薦することを要する。

4 前項の提議のあつた場合は、部会は各部会員により互選された委員をもつて組織する授賞候補者選考委員会（以下委員会という）において授賞候補者又は授賞候補作品の選考審査を行う。

5 委員は、各部より十名以内互選するものとする。委員の任期は一年とする。但し再選は妨げない。

6 委員会は、選考審査につき必要ある場合は、委員以外の日本芸術院会員又は学識経験者の意見を徴することができる。

第六条 委員会の議決は多数決による。

第七條 委員会は、選考並びに審査の経過及び結果を部会に報告しなければならない。

第八條 部会における授賞の議決には、投票総数の過半数の賛成を要する。

第九條 前条の規定によつて授賞の議決のあつたときは、部長は部会における結果について總會に報告しその承認を

得なければならない。

第十條 授賞の議決については、投票は無記名とする。

2 病氣その他の事故で出席することができないものは、封書で投票することができる。

第十一條 賞を受けた者は、受賞の目的である作品又は著書にその旨を表示することができる。

第十二條 授賞の議決があつた後、賞を受くべき者が死亡した場合には、日本芸術院は授賞の旨を告示しその者に授くべき賞の処分を定める。

### 日本藝術院年金支給規則

（昭和二十五年五月三十日決）  
（總會 議）

第一條 年金は区分して六月、九月、十二月、三月の四期にこれを支給する。

第二條 年金を支給する場合は、初年度において、その発令が六月三十日以前にある者は全額を、九月三十日以前にある者はその四分の三を、十二月三十一日以前にある者はその二分の一を、三月三十一日以前にある者はその四分の一を支給する。

2 年金受領者が死亡した場合の支給額は、その月の属する受給期分までとする。

### 日本藝術院会員

院長

昭和二三、八、一一 高橋誠一郎  
第一部 会員

昭和二三、六、二四 鈴木 健一（清方）

川合芳三郎（玉堂）

菊池 完爾（契月）

小林 茂（古徑）

西山卯三郎（翠嶂）

前田 康造（青邨）

松林 篤（桂月）

結城 貞松（素明）

安田新三郎（靱彦）

昭和二三、四、一七 福田平八郎

奥村 義三（士牛）

野田 道三（九浦）

小野 英吉（竹喬）

中村 恒吉（岳陵）

堂本三之助（印象）

山口 三郎（蓬春）

有島生馬（生馬）

石井 満吉（柏亭）

梅原龍三郎

小杉國太郎（放庵）

中澤 弘光

藤田 嗣治

昭和二六、七、四 安井曾太郎

山下新太郎

和田 英作

和田 三造

昭和二三、四、一七 辻 永

昭和二三、七、一四 須田國太郎

昭和二三、一〇、五 川島理一郎

昭和二五、二、一五 中村 研一

昭和二五、六、一 石井 鶴三  
昭和二二、六、二四 板谷 嘉七（波山）  
香取秀治郎（秀眞）  
清水 六和  
松田 權六  
昭和二三、四、一七 海野 清  
昭和二五、二、一五 高村 豊周  
昭和二二、六、二四 伊東 忠太  
尾上 八郎（榮舟）  
昭和二三、七、一四 豊道 慶中（春海）  
第二部、第三部 会員略  
（昭和二八年二月現在）

### 日本美術展覽會

日本美術展覽會運営會規則  
第一條 本会は、日本美術展覽會運営會と称し、事務所を日本芸術院（文部省内）に置く。

第二條 本会は、日本芸術院に協力して、日本美術展覽會を開催することを目的とする。

第三條 本会は、日本芸術院第一部会員をもつて組織する。

第四條 本会に左の役員を置く  
会長 一名

第五條 会長は、日本芸術院長をもつてこれに充てる。  
会長は、本会を代表し、会務を總理す



る。  
会長は、理事会の議長となる。

第六条 理事は会員の互選によつてこれを定め、理事会を構成する。

理事中若干名を常任理事とし、会長これを依属する。

会長事故あるときは、その指定した常任理事これを代理する。

理事の任期を二年とし、毎年その半数を交替する。

第七条 理事会は、会長これを招集する。理事会は本会の運営上重要な事項を審議する。

理事会は全員の半数以上出席しなければ議決をなすことができない。但し、会議に出席することのできない者は、予め通知された事項について書面をもつて表決をなし、又は委任状を提出することにより他の理事を代理人とすることが出来る。

理事会の議事は出席者の過半数をもつてこれを決する。可否同数のときは、議長が決する。

第八条 本会に参事若干名を置く。参事は、会長がこれを指名する。

参事は、日本美術展覧会の運営に關し、会長の諮問に應ずる。

参事の任期は二年とする。ただし留任を妨げない。

第九条 本会の事務を処理するため事務局を置く。

## 日本美術展覧会規則

### 第一章 總則

第一条 日本美術展覧会は、日本芸術院と日本美術展覧会運営会（以下日展運営会という）が開催する。会場、会期及び事務所は、その都度これを公告する。

第二条 展覧会は、作品の種類に依つて左の五科に分け、各科の総合展覧会とする。

第一科 絵画

第二科 絵画（油画、水彩画、パステル画、素描、創作版画等）

第三科 彫塑

第四科 美術工芸

第五科 書（漢字、仮名、てん刻）

第三条 陳列する作品は鑑査して決定する。左の各号の一に該当するものの専門技術による作品は、前項の規定にかかわらず、無鑑査で陳列することが出来る。但し第四科に属する作品で総合製作によるものは、すべて鑑査を経なければならぬ。

一、日本芸術院会員

二、日展運営会参事

三、当該年度審査員

四、前年度審査員

五、本展覧会に出品を依属されたもの

六、前年度特選受賞者

鑑査を経て陳列された作品及び前項第六号に規定する作品については、審査

の上特選として授賞することが出来る。

第四条 鑑査、審査及び陳列のため、審査員長及び審査員を置く。

審査員は、日本芸術院会員の一部、日展運営会参事の一部及び本展覧会に出品を依属された者、その他場合により美術研究家、美術批評家等の中から日本芸術院会員が選考したものにつき、日本芸術院長が展覧会毎にこれを依属する。

審査員の各科員数は、第一科十五名、第二科二十三名、第三科十五名、第四科十九名、第五科十五名以内とする。

第五条 審査員は、その専門技術によつて第一科から第五科の各科に分類し、その属する科の作品について鑑査及び審査を行う各科の審査員はその互選によつて審査主任を決定する。

各科の審査主任はその互選または推薦によつて審査員長を決定する。

第六条 本展覧会に出品を依属されるものは、日本芸術院会員が特に優秀な作家と認めたものの中から選考したものに、日本芸術院長が指名する。その員数は第一科六十八名、第二科百五十六名、第三科五十八名、第四科七十五名、第五科三十七名以内とする。

出品を依属されるものの指名は、毎年これを更新する。

第二章 出品

第七条 出品作品は自己の製作したものに限る。

故人の製作したものはその相続人においてこれを出品することが出来る。

第八条 第三科の作品で原形製作者と実材製作者とが異なるときは、原形製作者をその出品人とする。

第四科の作品で総合製作であるときは、その代表製作者一名をその出品人とする。

この場合には、代表製作者は共同製作者の氏名を附記することが出来る。

第九条 出品作品は各科ともに一点とする。

第十条 出品作品の大きさの制限を次の通りとする。（但し額とも）

第一科は縦十尺、横七尺以内。第二科は横六尺以内、縦は制限しない。

第五科は、縦九尺、横六尺以内とし、額および横巻に限り縦三尺、横八尺以内とする。但し幅四尺を超過するものは縦七尺以内とする。（対幅は制限以内の寸法で二枚とすることが出来る）

第十一条 出品作品の搬入場所及び受付期間は展覧会開催の都度これを公告する。

第十二条 左に掲げる作品は、提出することが出来ない。

一、製作後五年以上経たぬもの

二、既に公募の展覧会に出陳したことのあるもの

第十三条 出品作品は、鑑査、無鑑査にかかわらず、所定書式の申込書に所定の手数料五百円を添えて公示の場所に搬入しなければならない。

既納の手数料は返付しない。

出品作品には題名及び出品人氏名を裏面に記載しなければならない。

第十四条 作品を受領したときは、本展覧会は引換に受領証を交付する。

第十五条 受理された作品は撤回することができない。

但し審査員長の許可を得たときはこの限りでない。

第十六条 第一科の作品は額面、屏風。第二科の作品は額面とし、わく縁を附け、第五科の作品はてん刻の外はわく張額面、屏風(二曲、四曲)横巻、帖および対幅とし、すべて縦八寸、横五寸以内の釈文二枚を附けるものとする。

釈文を添えぬ作品は受理しないことがある。てん刻は印影(台紙寸法縦一尺二寸、横一尺以内)をつける。てん刻の連作の二題は一点と見なす。

第十七条 作品の荷造及び運送費はすべて出品人の負担とする。

第十八条 受理した作品の保管については、本展覧会でその責を負う。

但し正常な管理のもとにおいて生じた紛失、破損等に対してはその責を負わない。

第十九条 受理した作品の撮影または模写は、出品人の承諾があるものに限る。審査員長が許可する。

前項の許可を受けたものが、会場で作品の撮影または模写をするときは、許可証を係員に示し、その指図を受けることを要する。日本芸術院または日展

運営会は受理した作品を撮影若しくは模写し、またはこれを刊行することがある。

第三章 鑑査、審査及び陳列

第二十条 鑑査、審査及び陳列の方法は各科の審査員がこれを決定し審査員長の承認を得るものとする。

第二十一条 鑑査及び審査の結果は、審査主任から審査員長に報告し、その承認を得て決定するものとする。

第二十二条 出品者は鑑査及び審査に対して異議を申し立てることはできない。

第二十三条 出品者は陳列の位置、配列等に対して異議を申し立てることはできない。

第四章 売約及び搬出

第二十四条 陳列作品の売約については本会は関与しない。

第二十五条 陳列作品は展覧会終了後、五日以内に出品人が搬出することを要する。

前項の期間内に搬出されないものは日展運営会で処置することがある。

第二十六条 陳列することに決定した作品以外のものは、展覧会開会後五日を経過した後五日間以内に、出品人が搬出することを要する。前項の期間内に搬出されないものは日展運営会で処置することがある。

第五章 観覧

第二十七条 観覧時間は、開会中毎日午前九時から午後四時までとする。

但し都合によつてこれを伸縮または観覧を停止することがある。

第二十八条 観覧者は陳列品に触れてはならない。

観覧者は場内の指示に従わなければならない。

第二十九条 観覧者で、他の観覧者の鑑賞を妨げるおそれがあると認められるものは、入場を禁止し、または退場させることがある。

第三十条 観覧の入場料を百円とする。

第六章 地方日展

第三十一条 東京展終了後、開催希望道府県教育委員会又は、美術館、新聞社、文化団体等と日展運営会との共同主催によつて地方展を開催する。

第三十二条 地方展の開催地、開催期日その他は日展運営会と開催希望地代表者と協議の上定める。

第三十三条 地方展は東京展出陳作品中より選ばれたものをもつて構成する。

今般日本芸術院及び日本美術展覧会運営会において第九回日本美術展覧会の会場、出品期限其の他を次のように定めた。

名称 第九回日本美術展覧会

会場 東京都台東区上野公園内東京都立美術館

会期 昭和二十八年十月二十九日から同十二月一日まで

搬入期日 出品申込書及び作品の受理期間は昭和二十八年十月十日から同十月十四日までとする。但し無鑑査者の出品は十月二十

四日までとし、前年度特選受賞者は十月二十日までとする。

出品は右期間内毎日午前九時から午後四時までに金五百円の手数料を添えて所定書式の申込書と共に之を会場に搬入しなければならない。

事務所 本会の事務所は昭和二十八年十月七日までは文部省社会教育局芸術課内に、十月八日以後は会場内に置く。

日本美術展覧会運営会役員

会長及理事(○印常任理事)

理事 高橋誠一郎

○松林 篤(桂月)

○野田 道三(九津)

中村 恒吉(岳陵)

西山卯三郎(翠嶂)

○辻 永

○山下新太郎

石井 満吉(柏亭)

中村 研一

○藤井 浩佑

○北村 西望

石井 鶴三

齋藤 知雄

○松田 權六

海野 清

○高村 豊周

○尾上 八郎(柴舟)

○豊道 慶中(春海)

参事(昭和二年六月現在)

第一科(日本画)一五名

池田 遙邨、伊東 深水、岩田 正巳  
宇田 荻邨、大智 勝觀、堅山 南風  
金嶋 桂華、川崎 小虎、兒玉 希望  
徳岡 神泉、服部 有恒、望月 春江  
森 白甫、矢野 橋村、山口 華楊

第二科(西洋画)一四名

石川 寅治、伊原宇三郎、大久保作次郎  
鬼頭鍋三郎、木下 孝則、小糸源太郎  
小山 敬三、齋藤 與里、鈴木千久馬  
寺内萬治郎、中野 和高、裕 伊之助  
長谷川 昇、三上 知治

第三科(彫塑)二名

雨宮 治郎、加藤 顯清、國方 林三  
後藤 清一、佐々木大樹、澤田 晴廣  
清水多嘉示、橋本 朝秀、堀 進二

第四科(美術工藝)二名

飯塚琅玕齋、石田 英一、岩田 藤七  
大須賀 喬、大森 光彦、各務 鑑三  
香取 正彦、河村 靖山、岸本 景春  
清水六兵衛、楠部 彌次、杉田 禾堂  
高野 松山、内藤 春治、二橋 美衡  
前 大峰、宮之原 謙、山鹿 清華  
山崎覺太郎、吉田源十郎、吉田醇一郎

第五科(書)六名

相澤 春洋、石井 雙石、川村 職山  
辻本 史邑、西川 寧、松本 芳翠

### 正倉院評議會規程

(昭和二十二年七月十四日  
宮内府訓令第八号)

改正(昭和二十四年六月一日)  
宮内府訓令第一号

#### 正倉院評議會規程

第一条 宮内府に、正倉院評議會を置く。

第二条 正倉院評議會は、宮内府長官の諮問に応じ、正倉院に関する重要事項を審議する。

第三条 正倉院評議會は、会長及び委員で、これを組織する。

第四条 会長及び委員は、宮内府長官が、これを委嘱する。

第五条 会長は、会務を総理し、正倉院評議會の意見を、宮内府長官に答申する。

会長に事故があるときは、会長の指名する委員が、会長の事務を代理する。

第六条 正倉院評議會に、幹事及び書記を置く。

第七条 幹事及び書記は、宮内府職員の中から、宮内府長官がこれを命ずる。

第八条 幹事は、会長の命を受けて、庶務を整理する。

書記は、幹事の命を受けて、庶務に従事する。

#### 正倉院評議會

会長 安倍 能成  
委員 宇佐美 毅  
鈴木 菊男  
西原 英次  
原田 淑人  
伊東 忠太  
和辻 哲郎  
上野 直昭  
藤田 亮策

洋画

稲田 周一  
三井 安彌  
高橋誠一郎  
原田 治郎  
細川 護立  
辻 善之助  
安田新三郎  
芝 葛盛

彫刻

梅原龍三郎  
安井曾太郎  
山崎 朝雲  
朝倉 文夫  
平櫛 田中

浅野 長武

黒田 源次  
石田 茂作  
本郷 定男

小宮 豊隆  
高尾 亮一  
和田 軍一

#### 帝室技藝員

帝室技藝員の制度は明治二十三年一〇月我が皇室におかれられて、明治維新以来藝術的に衰退し経済的に困窮していた当時の我が美術界振興の思召しから制定されたもので、帝室技藝員には人格藝術共に後進の師表と仰がれる大家を、特にその為には選ばれた委員をして銓衡させ、任命されたものである。

帝室技藝員名簿

日本画 川合 玉堂

横山 大觀

安田 靱彦

菊池 契月

西山 翠峰

堂本 印象

錦木 清方

前田 青邨

松林 桂月

小林 古徑

和田 英作

金山 平三

中澤 弘光

梅原龍三郎

安井曾太郎

山崎 朝雲

朝倉 文夫

平櫛 田中

拜命年月

大正六年六月

昭和六年六月

昭和九年一月二日

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

昭和九年七月

#### 美術関係研究施設

東京大学史料編纂所

東京都文京区本富士町  
電小石川二六六、三一八五

(内線四〇一四〇五)

史料編纂所は明治二十三年三月史料編輯国史校正局を旧和学講談所に設置したの初まり其後数度の所管、名称の変更を経て明治二十八年四月史料編纂所として帝國大学文学部内に置かれた、更に昭和四年七月史料編纂所と改称した。同二五年四月東京大学附置研究所に改組、現在に至っている。本邦に関する史料の研究、編纂及び出版を行い、第一研究部(編年史料)第二研究部(古文書、古記録)第三研究部(近世・維新・海外史料)第四研究部(史料調査、企画出版)事務部の五部を置く。

〔所長〕 坂本太郎 〔部長〕 〔第二〕吉村茂樹、〔第三〕寶月圭吾、〔第四〕西岡虎之助、〔第五〕森末義彰、〔室長〕 〔第一〕川崎庸之、勝野隆信、奥野高廣、〔第二〕寶月圭吾、桃裕行、〔第三〕伊東多三郎、西岡虎之助、岡田章雄、〔第四〕小西四郎、玉村竹二

東京大学東洋文化研究所

東京都文京区大塚町五六  
電大塚五〇九、六九八六

東洋文化の総合研究を目的として昭和十六年一月東京帝國大学内に設置され



た。昭和二年四月外務省所管東方文化学院を併合し研究所を文京区大塚町に移した。設立当初は哲・文・史学部、法・政部、経・商部の三部門であつたが昭和二年新に三部門を加へ、更に二六年二部門を増加し現在 一、哲学・宗教 二、文学・言語 三、歴史 四、文化人類学 五、人文地理学 六、美術史・考古学 七、法律・政治 八、経済・商業の八部門に分れている。研究発表は講演会の外、当初発行の「東洋文化研究所紀要」或は東洋学会機関誌「東洋文化」を通じて行つてゐる。

〔所長〕 辻直四郎 〔教授〕 仁井田陞、飯塚浩二、江上波夫、結城令聞、植田捷雄、米澤嘉圃、川野重任、石田英一郎

## 東京文化財研究所 美術部

(美術研究所)

東京都台東区上野公園

電駒込四八七、一九二三

当所は故黒田清輝子爵の遺志に基き、

その遺産を以て開始されたもので、昭和五年開設の準備完了とともに政府に寄附移管された。初め帝国美術院附屬として

設置されたが昭和一〇年六月帝国美術院改革に伴い、新に美術研究所官制を制定、文部省所管、帝国美術院に附置され、次で昭和一二年六月官制改正の上文部省の直轄研究所となつた。昭和二二年国立博物館官制の成立とともに同館附屬の研究所となり、更に昭和二五年八月文化財保護法制定により国立博物館より分離し、美術研究所として文化財保護委員

会の附屬となつた。次いで同二七年四月文化財保護法の一部改正に伴い東京文化財研究所が設置されるに及んで同研究所の美術部として藝能部・保存科学部と共に新発足をした。現在の内部組織は庶務室(東京文化財研究所の人事並びに業務全般の事務的統轄管理及び総合調整を行う)第一研究室(東洋及び日本の古美術の調査研究を行う)第二研究室(日本の近代及び西洋美術の調査研究を行う)資料室(図書、写真等基礎資料の蒐集その他、特殊写真による光学的研究を行う)となつてゐる。定期刊行物としては「美術研究」「日本美術年鑑」が有り、また「美術研究資料」や「研究報告」等を出版、その他随時講演会・特別展観等を開催する。なお所内には黒田記念室を設けその遺作を陳列、毎週木曜日午後公開してゐる。美術研究のために着実な基礎を提供すると共に文化財の保存活用に貢献してゐる。

〔所長〕 田中一松(美術部長) 田中一松(室長)(庶務室) 小島忠二、(第一研究室) 熊谷宣夫、(第二研究室) 隈元謙次郎、(資料室) 福山敏男(一七九、一九二、二〇一頁参照)

## 産業工藝試験所

東京本所 大田区下丸子町 三三

電蒲田六一四一―六

同 分 室 中央区銀座七ノ五

(工業技術院内)

電銀座六三―九

東北支所 仙台市二十人町通

電仙台五八八、五八九

九州出張所 久留米市津福本町三八

電久留米五八八・五八九

我国固有の技術である木工・金工・漆工その他各種工藝産業の改善発達を図るため、昭和三年設置された。当初商工省内に仮事務所を設け、同年一月仙台市内に建築中の庁舎竣工と共に事務を移転し事業を開始したが、其後事業の進展に伴い東京に於ける調査研究の必要を認め昭和八年五月商工省内に本所出張員事務所を設け常時所員を駐在せしむる事となつた。昭和一二一年八月には官制の改正に依り「木工及金属工品」を「工藝品」に改め職員を増員し、必要と認められる地に支所を置き事務を分掌させることとなつた。昭和一四年八月に輸出工藝雑貨の中心地である大阪江の子島に関西支所を置き、翌一五年一月には商工省告示を以て工藝指導所本所を東京市に移転、又従来の仙台の施設を東北支所に改めて態勢を強化した。戦時中は研究の方向転換を余儀なくされ、本所、関西支所は戦災焼失した。昭和三年一月川崎市久地元日本光学工場を借用し本所の再建を図ると共に同年八月久留米市に九州支所を設置、同二四年四月には布施市に関西支所を新築した。近時工藝指導所の業務内容も発展し、工藝に関する研究指導の外、工業意匠の改善研究、包装に関する研究等を加えて研究諸施設の整備充実を図つてゐる。昭和二六年本所を現在地へ移設、二七年機構を改め、関西支所を廃し、通商産業省工業技術院の管轄の下に

名称も産業工藝試験所として新発足した。組織と事務分掌は左の通りである。

## 〔指導部〕

(企画課) 試験研究等の調整、広報事務、(指導課) 工藝・意匠・包装技術の指導、研究成果の実施、講習・講演・展示・鑑定審査の実施その他、(調査課) 工藝・意匠・包装技術の調査、調査統計資料・研究資料の調査等

## 〔意匠部〕

(工業意匠課) 工業製品の意匠の図案設計・試験・研究等。(雑貨意匠課) 工藝品意匠の図案設計・試験・研究等

## 〔技術部〕

(技術第一課) 木工・塗装を主とする工藝品の工作技術の試験・研究等(技術第二課) 金工を主とする工藝品の工作技術の試験・研究等、(試験課) 原材料の品質、規格及試験・研究等

## 〔包装部〕

(包装試験課) 包装原材料・製品の試験・研究等(包装技術課) 包装技術の試験・研究等

## 〔庶務課〕

庶務・人事・会計・用度等(東北支所) (指導課) 工藝品の意匠・設計の研究・指導、地方工藝技術事情の調査等(漆工課) 漆工品の素地工作・塗装・加飾・金属部分の試験・研究等(試験課) 漆液・漆器素地の原材料の品質・規格の試験・研究等(庶務課) 支所の庶務・人事・会計等

## 〔九州出張所〕

地方工藝技術の指導・調査、工藝品・工業製品・包装の意匠の設



計・研究・指導

〔所長〕 松崎福三郎 (指導部)  
〔所長〕 藤井左内 (意匠部) 剣持勇 (技術部) 福岡謙太郎 (包装部) 福岡和雄 (課長)  
〔庶務課〕 小吹善男 (企画課) 伊達信義 (指導課) 知正夫 (調査課) 服部茂夫 (工業意匠課) 明石一男 (雜貨意匠課) 芳武茂介 (技術第一課) 船倉鑑 (技術第二課) 梶尾宗一 (試験課) 小松和 (包装試験課) 菅原晋 (包装技術課) 有吉金太 (東北支所長) 安倍郁二 (課長) (指導課) 猪狩英一 (漆工課) 武田豊太郎 (試験課) 鈴鹿清之介 (庶務課) 栗山樹人 (九州出張所長) 松田一雄  
京都大学人文科学研究所  
京都市左京区北白川小倉町五〇  
電 吉田 四〇五

本研究は昭和四四年八月、国家に須要なる東亞に關する人文科学の綜合研究を行うため設立された京都大学人文科学研究所を中核として、外務省所管東方文化研究所と、財団法人西洋文化研究所を合併して昭和四四年三月新に世界文化に關する人文科学の綜合研究を行う研究所として発足した。創立の際には三部門であつたが、合併により二部門に増加し、これを日本部、東洋部、西洋部に分け相互に協力して研究を推進している。「京都大学人文科学研究所紀要」其他出版物、講演会によつて研究発表を行い、又常設人文科学講座を開いている。

〔所長〕 貝塚茂樹 (教授) (日本部) 坂田吉雄 (東洋部) 塚本善隆 (安部健夫) 貝塚

美術関係研究施設・美術関係学会・美術教育施設

茂樹、水野清一、森鹿三、藪内清、長廣敏雄、岩村忍 (西洋部) 桑原武夫、清水盛光  
奈良文化財研究所  
奈良市春日野町五〇  
電 奈良 五五七五

昭和二七年文化財保護法の一部改正が行われ、同法の規定に基き同年四月一日、奈良市に当研究所が設置された。所内の組織は庶務室、及び美術工藝研究室 (絵画、彫刻、工藝品、書その他建造物以外の有形文化財並びに工藝技術に關する調査研究を行う) 建造物研究室 (建造物に關する調査研究を行う) 歴史研究室 (考古及史跡に關する調査研究を行う) の四室からなつてゐる。

〔所長〕 田澤坦 (室長) (庶務室) 森川幸男 (美術工藝研究室) 小林剛 (建造物研究室) 森藪 (歴史研究室) 田澤坦 (二七九、二〇二頁参照)

美術関係学会 (五〇音順)

(括弧内は代表者)

京都美術学会 京都市左京区吉田 京大文学部美学研究室内 電 吉田 四一一 (井島勉)

藝術学会 文京区大塚窪町 東京教育大学内 電 大塚 一八一 (三吉正雄)

古文文化資料自然科学研究会 台東区上野公園 東京文化財研究所保存科学部内 電 駒込 三七一 (柴田雄次)

史学会 文京区本富士町 東京大学文学部内 (坂本太郎) 機関誌「史学雑誌」発刊

東方学会 千代田区西神田二ノ二 電 九段一〇六一 (宇野哲人) 機関誌「東方学」発刊

東洋学会 文京区本富士町 東京大学東洋文化研究所内 電 小石川 二二一 (内線二九六) (長内太郎吉) 機関誌「東洋文化」発刊

日本藝術学会 文京区本富士町 東京大学文学部美術史研究室内 電 小石川 二二二 (内線四五二) (藤縣静也) 機関誌「藝術學報」発刊

日本建築学会 中央区銀座西三ノ一 電 京橋 二二三、一二三八 (伊藤滋) 機関誌「建築雑誌」発刊

日本考古学会 台東区上野公園 東京国立博物館内 電 駒込 三七一 (原田淑人) 機関誌「考古学雑誌」発刊

日本考古学協会 台東区上野公園 東京藝術大学図書館内 電 駒込 三七一 (藤田亮策)「日本考古学年報」発刊

日本民族学会 東京都世田谷区成城町 一六三一 柳田國男 電 砧 二二六 (柳田國男)

美学会 文京区本富士町 一 東京大学文学部美学研究室内 電 小石川 一二一 (内線四五二) (竹内敏雄) 機関誌「美学」発刊

美術教育学会 台東区上野公園 東京藝術大学美術学部内 電 駒込 三七一 (松田義之)

仏教史学会 京都市中京区東洞院三条上ル 四四九 電 本局一六 (禿氏祐祥) 機関誌「仏教史学」発刊

三田藝術学会 港区芝三田 慶応義塾大学文学部芸術学研究室内 電 三田 五八一 (守屋謙二)

早稲田大学美術史学会 新宿区戸塚町一ノ六四七 早稲田大学文学部藝術科研究室内 電 九段八四八 (坂崎坦)

東北大学美術史学会 仙台市片平丁 東北大学美術史研究室内 電 仙台 六一〇一 (村田漢)

美術教育施設

(学校)

東京藝術大学美術学部

台東区上野公園 電 駒込 三七一 (一六)

東京藝術大学美術学部の前身東京美術学校は明治二〇年一〇月勅令を以て設置せられ、文部省専門学務局長濱尾新が学校長事務取扱を命ぜられ、同二年二月授業を開始した。同三年濱尾新に代つて岡倉覚三学長となつたが、同三年退官し、彼と共に教授橋本雅邦以下多数の教授、助教が辞職した。高嶺秀夫、久保田鼎に次いで同三四年正木直彦学長となり昭和七年和田英作、同一年芝田徹心、同一年澤田源一、更に同一年六月上野直昭が学長に任ぜられた。昭和四四年五月三十一日法律第五十号を以

て国立学校設置法が公布され、東京美術学校は東京音楽学校と共に新制大学に包括され東京藝術大学美術学部及び東京藝術大学東京美術学校として夫々発足した。初代の学長には上野直昭、美術学部長には村田良策が任ぜられ、美術学部長は村田良策の兼任となつた。次いで昭和二十七年三月三十一日旧制課程廃止により東京美術学校及び同校附属工芸技術講習所は廃止された。

美術学部の学科は本科だけとなり旧制師範科は昭和二十七年三月三十一日官制を以て廃止された。

## 〔本科〕

絵画科 (日本画、油画)

彫刻科 (石井教室、菊池教室)

工芸科 (図案部、彫金部、鍛金部、鍍金部、漆器部、工芸計画部)

建築科

藝術学科

修業年限 四年。授業料 年額六〇〇〇円。

入学資格

- (1) 高校卒業者
- (2) 通常の課程による一二年の学校教育を修了した者
- (3) 文部大臣の指定した者
- (4) 大学入学資格検定規程により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

〔専攻生〕

入学資格 本学卒業生

〔聴講生〕

学生以外の者で本学に於て教授する学科目中一科目若しくは数科目を選び学習しようとするものは教授上差支ない場合に限り聴講を許可する。  
検定料二五〇円。入学料二五〇円。  
聴講料一単位につき二〇〇円。  
昭和二十七年八月一日に於ける各科学学生数は左の通りである。

〔絵画科〕 男一九七名、女七八名

〔彫刻科〕 男一〇三名、女一四名

〔工芸科〕 男二八名、女五〇名

〔建築科〕 男四七名、女二名

〔藝術学科〕 男五二名、女二八名

〔専攻生〕 男二三名、女一〇名

〔聴講生〕 男一二名、女一五名

尚、陳列館と正木記念館があり、随時展覧を行い学生及び一般に公開している。

〔学長〕 上野直昭〔美術学部長〕 小塚新一郎、〔教授〕 村田良策、脇本十九郎、海野清、前田廣造、石井鶴三、丸山義男、松田義之、藤田亮策、岡田捷五郎、吉田五十八、内藤春治、松田権六、田尾一、林武臣、西田正秋、横澤三郎、新規矩男、菊池一雄、摩壽意善郎、須藤雅路、〔兼任教授〕 吉川逸治、谷信一、〔助教〕 入谷昇、太田榮吉、伊藤廉、日下喜一郎、田中文雄、磯矢陽、阿部六郎、久保守、内藤四郎、山脇洋二、笹村良紀、吉村順三、三井安藤夫、宮川ムツ、寺田春式、西本順、小池岩太郎、前田泰次、末田利一、六角顯雄、野口三千三、櫻林仁、星谷剛一、小口八郎、新村撰吉、〔講師〕 兼子秀賢、八木悌二、山本豊、小磯良平、菅原

安男、中島清、村田徳松、須田善二、後藤年彦、上原之節、高田正二郎、田中芳郎、石山彰、鈴木信一、山本學治、伊藤茂之、山口薫、川合清、〔非常勤講師〕 蔭田宗次、藏田周忠、吉野富雄、黒崎静男、水谷武彦、佐藤隆三、豊田三郎、清水正雄、石川榮耀、随井勉、鈴木清、太田博太郎、加山四郎、福田良一、吉田謙吉、金丸重嶺

## 京都工芸繊維大学

本部 京都市 上京区

北野 神社前

電 西陣 共九二六四

工芸学部 京都市左京区松ヶ崎

御所 海道町

電 吉田 四四一四四

繊維学部 京都市 上京区

大将軍 坂田町

電 西陣 三三三、三三三

明治三十五年三月設置された京都高等工芸学校は昭和十九年四月官制改正により

京都工業専門学校と改称、更に昭和二十四年五月京都繊維専門学校と合併して京都工芸繊維大学工芸学部及び繊維学部となつた。京都工業専門学校は昭和二十六年三月廃止された。

〔工芸学部〕 機械工芸学科、建築工芸学科、色染工芸学科、窯業工芸学科

〔繊維学部〕 養蚕学科、製糸紡績学科、繊維化学科

学生定員は各学科二二〇名とする。

〔学長〕 中澤良夫〔工芸学部長〕 向井寛三郎〔繊維学部長〕 櫻井基〔美術関

係教授・講師〕 河本敦夫、土居次義、向井寛三郎、福永俊吉、藤原義一、大倉三郎、高原道夫、白石博三、明石國助、霜島正三郎、須田國太郎、松田尚之  
京都市立美術大学  
京都市東山区今熊野  
電 祇園 一五八

明治四十二年三月創立された京都市立絵画専門学校は初め京都市立美術工芸学校の西隣に校舎を設けたが大正一五年現地に移転した。昭和二〇年京都市立美術専門学校と改称、更に昭和二十五年新制大学令により京都市立美術大学となつた。京都市立美術専門学校は昭和二十七年三月廃止された。

〔学部及学科〕

美術学部 日本画科 一二〇名

西洋画科 一二〇名

彫刻科 四〇名

工芸科 一二〇名

図案専攻、陶磁器専攻

染織専攻、染織専攻

〔学長〕 長崎太郎〔教授〕 小野英吉、榎原安造、黒田重太郎、須田國太郎、上野伊三郎、富本憲吉、松原厚、金尾音美、石村忠次、重久篤太郎、岡本午一、佐和隆研、菊池一雄

京都市日吉ヶ丘高等学校美術課程

京都市東山区泉涌寺山内町

電 祇園 四一四二

明治一三年京都府画学校が設立され、その後同二四年に京都美術学校、二十七年に京都市立美術工芸学校と名称を変えた

が、更に昭和二三年京都市立美術高等学校となり、同二四年には京都市立日吉ヶ丘高等学校の綜合制の中へ美術課程として併置された。三年の課程の上に更に実技の実習のために二年の専攻科を設置する。

〔学科〕

日本画科

西洋画科

彫刻科

図案科

漆藝科

陶藝科

服飾科

〔校長〕横山佐久郎 〔職員〕勝田哲、天野大虹、松下明治、錦義一郎、矢野判三、藤庭賢一、安田謙、笠間嘉一郎、水内平一郎、平石晃祥、中島清、田代誠、他

女子美術大学

杉並区和本町八六〇

電 中野 九一〇

明治三三年本郷弓町に女子美術学校として創立された。後菊坂に移り、昭和四年専門学校に昇格女子美術専門学校と改称、同一〇年杉並に移転した。昭和二四年四月新制大学として女子美術大学となった。

〔藝術学部〕

洋画科

日本画科

図案科

工藝科

修業年限 四年。授業料年額一五、〇〇

美術教育施設

。円。

〔学長〕佐藤達次郎 〔主要職員〕加藤成之、村岡景夫、澤柳大五郎、穴戸愼、西田正秋、上原之節、坂崎坦、富永惣一、久野健、後藤守一、川島理一郎、木下義謙、中山鶴、森田元子、櫻井悦、佐々木四郎、玉置政敏、東惠美、赤城泰舒、岡田節子、春田安喜子、今井麗子、上原綾子、荻野康兒、奥村土牛、三谷十糸子、後藤芳仙、竹吉妙子、麻生秀二、新井泉、乘松巖、福田良一、由良玲吉、橋本徹郎、河野鷹思、松井直樹、桑澤洋子、柳宗悦、芹澤鉦介、柚木沙彌郎、柳悦孝

多摩美術大学

世田谷区玉川上野町三三

電 玉川 五 六

昭和一〇年九月、北玲吉、牧野虎雄、杉浦非水、近藤清吾によつて多摩帝国美術学校が設立され、更に昭和二年専門学校令により多摩造形藝術専門学校となつた。昭和二五年新制大学令に伴い、三年制の短期大学として多摩美術短期大学と改称したが、二八年度より四年制大学となった。

〔学科〕

絵画科（日本画、油画）

彫刻科（塑造、木彫）

図案科

修業年限 四年。

〔学長〕井上忻治 〔理事長〕杉浦非水 〔職員〕奥村土牛、郷倉千鞆、森白甫、新井勝利、島田訥郎、中村研一、宮本三郎、林武、鈴木信太郎、鈴木保徳、鈴木誠、

大澤昌助、川端實、長屋男、佐々木大樹、早川鶴一郎、圓鋸勝二、杉浦非水、山名文夫、吉田謙吉、今井兼次、芹澤鉦介、木村和一、磯部陽、岩下洋

武蔵野美術学校

武蔵野市吉祥寺三三〇

電 吉祥寺 二四七二

昭和四年設立された帝國美術学校は同二年造形美術学園と改称され、更に同二四年武蔵野美術学校となつた。

〔学科〕

日本画科

西洋画科

彫刻科

商業美術科

演劇映画美術科

以上の入学資格は新制高校、旧制中学卒業者

研究科

本校卒業程度以上

修業年限 四年。学生定員四〇〇名。

授業料年額八〇〇〇円。

〔校長〕丸山鶴吉 〔教育部長〕名取堯

〔主要職員〕服部有恒、川崎小虎、林武、

高島達四郎、三岸節子、森芳雄、清水多

嘉示、龜倉雄策、三林亮太郎、金原省吾、

板垣鷹穂

附設図工科

教育養成所

修業年限一ヶ年（高校生以上）

〔所長〕名取堯

教職員は本校に同じ。

日本大学藝術学部

練馬区江古田町

昭和六年専門部に藝術専攻科が設置されたのに始まり、昭和二四年新制大学となり、大学院も併置している。

〔藝術学部〕

美術学科

音楽学科

文藝学科

演劇学科

写真学科

映画学科

〔藝術学部長〕尾形龜吉 〔美術学科主任教授〕山脇巖 〔主要職員〕湯川制、櫻林仁、野口彌太郎、吉岡憲、澤健太郎、山本豊市、柳原義達、深瀬嘉臣、小池岩太郎、三苦正光、山名文夫、吉田謙吉、田中一松、岡田讓

文化学院美術科

千代田区神田駿河台

電 神田 四〇三二

大正一一年西村伊作により一般の学校教育とは異なる自由教育を標榜して設立された。

〔美術科〕

〔夜間美術科〕

修業年限 二年。授業料年額九〇〇〇円。材料費三〇〇〇円。

入学資格 旧制中学、新制高校卒業程度。及び同等の実力を持つ者。

〔日曜美術科〕

授業料年額四〇〇〇円。材料費一五〇〇円。



〔院長〕 西村伊作

盛岡短期大学美術工藝科

盛岡市内九六九

昭和三年五月、絵画・彫刻及び工藝の両域に亘つて専門家・美術教育者及び市町村の工芸指導者を養成すると共に藝術を中心としての教養・技術によつて生産・文化に寄与するのを目的として岩手県立美術工藝学校が設立され、昭和二年四月盛岡短期大学美術工藝科に昇格した。更に翌年従来の美術工藝学校を改組して岩手県立美術工藝高等学校が同地に併置された。盛岡短期大学美術工藝科長森口多里が岩手県立美術工藝高等学校長をも兼任している。

修業年限 三年。学生定員一五〇名。

〔美術工藝科長〕 深澤省三〔美術工藝科関係教授〕堀江越、深澤省三、深澤紅子、池田桃太郎、〔助教〕佐佐木一郎、三鬼勤、奈知安太郎、〔講師〕小杉一雄、船越健次郎、高橋吉雄、橋本八百二、戸田芳鉄、小森貞二、古關六平、大林徳兵衛、小池岩太郎、松本總

岩手県立美術工藝高等学校

盛岡市内九六九

盛岡短期大学美術工藝科参照。一般高等学校の学課規程に従い、その他専門学課と専門実習を課す。

〔学科〕

美術科（日本画専修、油絵専修、彫刻専修）

工藝科（図案専修、木工専修、漆工専修、

金工専修）

〔校長〕森口多里〔主要職員〕加藤英夫、松本總、池田龍甫、三ヶ尻正、深澤省三、深澤紅子、海野經、佐々木一郎、堀江越、三鬼勤、中島喜雄、戸田芳鉄、杉江康彦

金沢美術工藝短期大学

金沢市下本多町三番丁九

電 金沢③三五三〇、一

昭和二年七月金沢美術工藝専門学校が設立され同一月開校した。同二年短期大学として金沢美術工藝短期大学となり、森田亀之助が初代学長に任命された。

〔本科〕

美術科（日本画専攻、油画専攻、彫塑専攻）

工藝科（陶磁専攻、漆工専攻、金工専攻）

修業年限三年、入学資格新制高校卒

〔選科〕 入学資格 学歴を問わない。

〔学長〕森田龜之助〔教授〕野田九浦、小

絲源太郎、吉田源十郎、高村豊周、板垣

慶穂、秋山光夫、畠山錦成、北出塔次郎、

小松森作、平野謙一、原田太一、高光一

也、矩辛成

〔実技研究所〕

〔東京〕

春陽会美術研究所

会場 千代田区麹町四番町六

電 九段七九一六

事務所 大田区新井宿四ノ一

一〇一 三井永一方

昭和四年九月創立、春陽会の藝術活動の一翼として純粋美術を研究することを目的とする。実技指導、作品批評、講義講演等。入所資格は春陽会々員、准会員、又は所員の紹介による。入会金五〇〇円、石膏部（月謝五〇〇円）、人体部、五日間単位とし固定ポーズ（月謝二五〇円）、クローキ一部（二回六〇円）

毎月第三日曜は特別研究会とし作品批評及講演を行う、所員五〇〇円、臨時聴講者一〇〇円。（指導者）石井鶴三、岡鹿之助、加山四郎、木村莊八、中川一政、他春陽会々員及准会員

日月社研究所

会場 上野・桜亭

事務所 松戸市上矢切三五七

奥田元宋方

電 松戸 三二七

昭和二年創立、日本画の研究所、毎月一回研究会及び講演会を上野桜亭で開く。研究会費は会員年三〇〇円で入所資格は委員推薦による。（指導者）伊東深水、兒玉希望、矢野橋村

青山絵画研究所

港区赤坂青山南町六ノ一〇八

昭和二年一月創立、洋画の基礎技術の指導と藝大受験を目的とする。種目は石膏・人体デッサン・人体油絵・風景・静物で毎日午前八時—十二時、午後一時—五時、夜間五時半—九時の三部に別れ研究費は月五〇〇円。（指導者）辻永、小

川傳四郎

光風会美術研究所

港区新松田町一九 光風会館内

電 銀座一七三二

昭和二年創立。光風会々員指導の洋画実技研究所で油絵、木炭素描の外西洋美術史、服飾研究の講習も行う。石膏部（午前）月五〇〇円、人体部（午後）月一〇〇〇円、クローキ（夜間）六回券三〇〇円、（指導者）辻永、中村研一、寺内萬治郎、小絲源太郎、耳野卯三郎、小寺健吉他光風会々員、（代表者）淀橋区戸塚諏訪町一八 中澤弘光

第一美術研究所

文京区高田豊川町六〇 石川

重信方 電 九段一二〇一

昭和二年創立。専門家及び中・小学生を含む洋画の実技研究所。種目はデッサン、油絵、水彩、クレヨンに亘り、毎週土曜日、月謝五〇〇円、（指導者）石川重信、高橋亮、谷井喜三郎、村上松次郎、野澤孝作、上原重和、堀忠

ブルヒ美術研究所

（文京絵画研究所改称）

文京区駒込千駄木町七

電 駒込一一七九

昭和二年一月創立。資格に制限なく絵画に興味を持つ人々が気軽に勉強できることを目的としている。油絵、日本画、水彩画、パステル等の種目があり三部に分れている。石膏部月曜—土曜午後（入会金三〇〇円、月謝四〇〇円、五回券一五〇円）人体部月曜—土曜、夜間（入会



金三〇〇円、月謝五〇〇円、五回券一五〇〇円、静物、風景部毎日曜午後(入金金三〇〇円、五回券二五〇円)、臨時会員は一回五〇〇円、入会金不用。子供部日曜午前、木曜、土曜午後(週一回三〇〇円、週二回五〇〇円)

### ナガハマ染彩画塾

文京区指ヶ谷町六〇

電 小石川一三八二

昭和二四年九月創立。皮革、布帛の染色全般に亘り本格的染色技術の指導を行う。毎日曜月曜午前十時—午後四時(一回二〇〇円)研究科は随時で毎月一五〇〇円。(指導者)長瀬重太郎、中村妙子

### 日本画院研究会

台東区上野桜木町

(大黒天)

本部 台東区谷中清水町一

望月春江方

電 駒込三八一〇

昭和二四年四月創立。美術に関する教養を高め日本画制作上必要な技術を研究指導することを目的とする。入会資格は日本画の修得を志すもので日本画院同人の推薦を経たる作家、尚研究会は美術に関する専門家の講演、見学並びに美術映画の鑑賞を行う。毎月一回開催。会費毎回五〇円(指導者)岩田正巳、服部有恒、川崎小虎、野田九浦、望月春江、他同人全員及び委員

### 日本水彩画会研究所

会 場 台東区根岸小学校美術教室

美術教育施設

事務所 中野区江古田一ノ二二

日本水彩画会内

明治四〇年創立。男女、年齢、職業を問わず水彩画の指導を行う。毎週日曜日、九時—四時。石膏、人体、静物、風景。記名料二〇〇円。会費毎月四八〇円。臨時参加一回一〇〇円。(指導者)石井鶴三、水野以文他日本水彩画会々員(主任)内藤秀因(代表者)日本水彩画会幹事細島昇一

### 現代版画研究会

会 場 新宿区笹塚町一五

(都立新宿生活館)

電 九段三六六七

事務所 杉並区東荻町八八

日本版画協会

### 国画会美術研究所

新宿区戸塚町三ノ九〇一

昭和二六年五月創立。専門家、藝術大學受験生及びアマチュアも含めた洋画の実技研究所で美術講義批評等も毎週行う。石膏、デッサン部は毎日午前九時—十二時、午後五時—八時の二回、月謝各五〇〇円。石膏、人体部は毎日午後一時—四時、月謝七五〇円。入会金五〇〇円。

(指導者)主任、川口軌外の他大森啓助、大淵武夫、久保守、土田文雄、原精一等在京国画会員が毎週二名で交代指導。

(責任者)武蔵野市境七、大淵武夫

行動美術東京研究所

新宿区四谷一ノ七

日本写真文化協会内

昭和二二年六月創立。将来美術家を志す人、及び広く美術に親しむ一般の人々に解放し基礎的技術の研究と新しい美術の教養を高めることを目的とする。石膏写生は毎日曜午後、月謝三〇〇円。クロッキーは毎土曜夜間、毎日曜午後、月謝四〇〇円。少年美術教室は毎日曜午前中月謝二〇〇円。入会金は何れも三〇〇円。(指導者)行動美術協会員の交替指導(代表者)世田谷区弦巻町一ノ二六、向井潤吉

中央美術研究所

新宿区戸塚町二ノ五四

杉 本 鷹 方

昭和二三年二月創立。年齢・資格を問わず一般に開放し、石膏、人体のデッサンから制作の指導に及ぶ。毎日午前は石膏、午後及び夜はモデル、日曜は午前午後ともモデルを使用する。入所費三〇〇円各部の月謝五五〇円。(指導者)熊谷守一、野口彌太郎、吉岡憲、井上長三郎、鶴岡政男、麻生三郎、杉本鷹

陶彫会研究所

中野区江古田二ノ九二八

瀧 川 美 一 方

陶磁彫刻の基礎的な技術の相互研究と併せて有為な陶彫家の育成のための実技指導を行うことを目的とする。クロッキー、塑像、型取、型起、釉薬、焼成。毎週土、日曜日午前九時—午後四時。入所金五〇〇円。聴講研究費一日一回一〇〇円。(指導者)沼田一雅他陶彫会々員

阿佐ヶ谷洋画研究所

杉並区高円寺三ノ一八四

昭和二二年一月創立。男女年齢を問わず随時入所出来、個人的指導を行う。種目は油絵、水彩、デッサン(石膏、モデル)、美術史等で、(午前部)九時—正午、(午後部)一時—四時、(夜間部)六時—九時。月謝各部六〇〇円。日曜は午前と午後の部に分れ月謝は各五〇〇円、終日五〇〇円。児童部は日曜のみ。建築・工藝家志望者は別教室で行う。(指導者)上原之節、熊谷公、三輪孝

新水彩作家協会研究所

杉並区上荻窪一ノ一三

互 井 開 一 方

昭和二五年四月創立。基本的技術並びに水彩画一般についての指導を行う。石膏(木炭)、人体(木炭・水彩)水彩画研究

二一七

美術教育施設

の科目があり毎週土曜・日曜日。月謝三〇〇円。〔指導者〕五井開一、古郷八郎、前林章司、他同協会々員

創藝協会研究所

杉並区東荻町六九 神津

港入方 電 荻窪四四三

昭和二年二月創立。石膏素描による基礎的写形を指導する。初学者向。毎週月・木・土の午前九時より正午迄。入所資格は一七歳以上の者で創藝協会々員の紹介あるものに限る。月謝七〇〇円。〔指導者〕神津港人

東京美術研究所

(全日本画人聯盟附屬)

杉並区馬橋三ノ四二四

土味川 独甫方

昭和二年四月創立。個人的指導により初心者のための実技を主とし併せて専門教育も行う。本科は二ヶ年で毎日九時—五時月謝七〇〇円。他に専攻科一年、デッサン科、研究科があり、毎日、午前の部月謝四〇〇円。午後の部、夜間部月謝各五〇〇円。日曜部九時—五時月謝三〇〇円。入所金五〇〇円。またクロッキー部を設け毎日曜の午後、及び夜間モデルを使用(一日五〇〇円)〔指導者〕土味川独甫、他全日本画人聯盟会員、外山卯三郎等

太平洋画会研究所

北区上中里町一一

多々羅 義雄方

明治三十七年四月創立された太平洋画会研究所は昭和四年太平洋美術学校となつたが、同二〇年戦災によつて焼失した。

本研究所は同校再建までの暫定措置として設けられたものである。美術学校入学準備、後進美術家養成を目的とする。石膏素描部、水彩・油絵部、人体部があり毎日午前九時—一二時。月謝人体部五〇〇円他は三〇〇円。入所資格は新制中学卒業以上。〔指導者〕多々羅義雄、井口勇、早川芳彦、他一〇名

春日部水彩研究所

豊島区長崎五ノ三二

春日部 大さく方

昭和二年創立。水彩画を専門とし、学童、専門家の別がある。毎土・日曜日、月謝三〇〇円。〔指導者〕春日部大さく

練馬区大泉学園町七二八

練馬区大泉学園町七二八

平子 聖 龍方

昭和二年一月創立。余技、専門の區別を問わず指導する。種目及び指導者は日本画(平子聖龍)、洋画(武田信夫)、彫塑(木島正雄)、書道(國岡竹畦)の他華道教授も行う。研究日は毎日曜、一回一〇〇円。

双台社写真研究所

渋谷区代々木上原一三二〇

基礎技術の訓練に重きをおく。A・Bのクラスがあり、Aは素描、水彩、油絵。Bはクレヨン、パステル、水彩、油絵。Aクラスは高校生以上一般、毎土曜、月謝三〇〇円。Bクラスは小・中学生、毎日曜月謝四〇〇円。〔指導者〕石井柏亭、平塚運一、荒谷直之介、他双台社社員、(代表者)品川区大井町四八三一 田坂彰

絵の教室

世田谷区松原町三ノ八〇五

昭和二年八月創立。幼児より青年迄の素人を対象とする。油絵、水彩画、クレヨン、パステル画を教える。毎日曜。月謝三〇〇円—六〇〇円。〔指導者〕一水会員 坂本正春

世田谷区大蔵町一八三五

中野 秀人方

昭和四年一月創立。同会の趣旨は絵画を主とし文化一般の理解を高めることにある。人体デッサン、油絵、水彩、パステル。程度は初歩より専門家を含む。毎土・日曜、午後一時より、月謝二五〇円。

田園調布純粋美術研究所

世田谷区玉川田園調布二ノ七

一三 電田園調布二〇八九

昭和二年一月創立。洋画の実技を指導する。モデル使用によるデッサン及び油絵の勉強で土曜日以外毎日、午後は固定ポーズ。夜間はクロッキー(月謝昼夜通し六〇〇円)入会金八〇〇円、土曜日休み。〔指導者及び代表者〕大田区田園調布二ノ八一〇 猪熊弦一郎

自由ヶ丘絵画研究所

目黒区自由ヶ丘二八九

昭和五年四月創立。高校生以上のAクラス。小・中学生のBクラスの別がある。A—油絵、水彩、デッサン。毎日曜午後一時—四時。月謝四〇〇円(石膏、五〇〇円(人体))。B—水彩、クレパス等、毎土曜午前九

時—午後五時。月謝三〇〇円。〔指導者〕須山計一他

近藤吾朗アトリエ

大田区田園調布一ノ一六

昭和五年創立。一般教養のため絵画教育を目的としている。種目は油画、水彩、素描、版画、パステルに亘り、初心者、毎日曜及び月曜の午前一〇時—午後四時、月謝五〇〇円。児童は毎土曜の午後、月謝三〇〇円。〔指導者〕近藤吾朗

河合美術研究所

大田区久ヶ原町六四二

河合敏雄方

昭和六年創立。太平洋画会委員河合敏雄他、同会委員教氏の指導による絵画並びに、染色、花、書の研究所。

【地方】

創型会彫刻研究所

浦和市常盤町六ノ二二

中野四郎方

事務所 世田谷区玉川奥沢町二ノ一四九 森大造方

電 田園調布三二八〇

昭和二年創立。モデルを使用して基本型体の構成と応用研究。入所資格は石膏像製作に多少経験あるもの。研究日は日曜と春夏秋冬の休暇〔指導者〕中野四郎、奥山泰堂、森大造、菅原安男、村井辰夫

造形美術研究所

浦和市外大戸四二八 手塚

又四郎方 電 浦和二四〇二

昭和二年一月創立。絵画、彫塑、

造形理論、造形教育原理等、各部門に互  
り基本的部面より研究指導、毎週、土  
曜、日曜〔指導者〕手塚又四郎、田中  
修、飛岡文一、大坪實、石原英雄、大里  
光春、岡澤光雄、番匠宇司、染谷英五、  
星野祐二、磯谷猛、三森一伸

#### 茨城綜合美術研究所

茨城県土浦市富士崎町四八六  
昭和二十六年一〇月創立。専門部、児童  
部、クロッキー部があり、油絵、水彩、素描  
等を教える。時間は毎日、午後一時―四  
時。夜間六時―九時。なお土曜、日曜は  
特別日として午前、午後、夜間の三つに  
分け裸体モデルのクロッキーを行う。研  
究費は専門部一ヶ月五〇〇円。児童部一  
ヶ月二五〇円。入会金研究生五〇〇円。  
児童一〇〇円。〔指導者〕荒城季夫、織  
田廣喜、鶴岡義雄、寺田竹雄、服部正一  
郎

#### サロン・ド・ジュワン

##### 名古屋研究所

名古屋市中区和区御器所町  
五ノ三〇 真島建三

昭和二十七年三月創立。基本的な理論と  
技術の指導を目的とする。毎日午後及び  
夜間。月八回毎週水、金の夜間。月謝五  
〇〇円。入所資格制限なし。〔指導者〕  
大口登、真島建三

#### 関西美術院

京都市左京区岡崎南御所町四〇

明治三十九年三月創立。創立以来一派、一  
団体の機関とせず、流派を超えて後進養  
成に努めている洋画研究機関。研究生が

主体となり委員互選で経営を行つてい  
る。種目は洋画実技(素描、油絵)と専門学  
科(美術史、技法史、構図法等)の二つが  
ある。洋画実技、人体は毎日午前九時―  
一二時。石膏、静物写生は午前九時―午  
後五時。専門学科は随時研究会を催す。  
月謝は各料一〇〇円、(燃料費モデル費  
は別)資格制限なし。〔指導者〕黒田重  
太郎(研究所代表者)、川端彌之助、津  
田周平

#### 行動美術京都研究所

京都市左京区川端丸太町下ル  
和風書院内 電 吉田二八四

昭和二十二年六月創立。美術の研究のみ  
ならず美術運動を目的とする。夜間部は  
毎日曜、土曜、午後六時―九時。日曜部  
は毎日曜午前九時―午後四時、月謝は執  
れも石膏が三〇〇円、人体四五〇円、ク  
ロッキー部は毎月曜午後六時―九時、毎  
回四五円。他に学生部毎土曜午後二時―  
五時がある。〔指導者〕伊谷賢蔵、伊藤  
久三郎、福井勇、飯田清毅、保地謹哉  
(研究所代表者)

#### 紫野洋画研究所

京都市上京区北大野町六八  
山田新一方 電 西六五三三

昭和二十一年創立。創設者太田喜三郎の  
遺志をつぎ健康な基礎技術の指導を目的  
とする。石膏、人体デッサン部及びクロ  
ッキー部一回五〇円一ヶ月一七〇円。人  
体(油絵、水彩)部、午前午後各六〇円、終  
日一〇〇円。何れも、日曜午前午後、金、  
土曜午後、夜間、木曜夜間。入所金五〇

円〔指導者〕山田新一、雷鳥之彦、坪井  
一男、由里明、富士一男  
独立美術京都研究所  
京都市下京区八条西酢屋町  
四 今井憲一方

昭和八年九月創立。毎日午後六時半―  
九時半、月謝六〇〇円。少年部は日曜午  
前及び午後。〔指導者〕須田國太郎、田中  
佐一郎、今井憲一

#### 大阪市立美術館附設美術研究所

大阪天王寺区天王寺  
公園内(市立美術館)  
電 天王寺六一〇、四六〇九

昭和二十一年五月創立。日本画、洋画、彫  
塑の三科あり各々初歩指導、美術学校受  
験者の指導等を行う。日曜祭日を除き九  
時―四時。入所金三〇〇円。月謝は洋画  
人体、彫塑、日本画部各三五〇円、洋画  
石膏部三〇〇円。〔指導者〕日本画―中村  
貞以、矢野橋村、菅橋彦、生田花朝他。  
洋画―須田國太郎、鍋井克之、小磯良平、  
田村孝之介他。彫塑―保田龍門、上田曉

### 美術観覧施設

#### 【東北地方】

##### 本間美術館

山形県酒田市浜畑町一二  
電 酒田 一四二九

昭和二十二年五月創立。地方文化に貢献  
するために旧本間家別邸を美術館として  
公開した。文書・陶器等東洋美術関係二  
〇〇点、油画・版画等西洋美術関係三〇

数点を有し、年平均二五回展覧会を開い  
ている。運営は別に組織された酒田美術  
協会が当つてゐる。

〔館長〕 本間祐介  
〔観覧日〕 月曜を除き、毎日午前九時  
―午後四時半

〔観覧料〕 三〇円、学生一〇円  
致道博物館

山形県鶴岡市家中新町成  
電 鶴岡一一九九

昭和二十七年三月創立。維新後、藩校致  
道館廃止と共に、旧藩主酒井家邸内に図  
書研究所文芸会堂を設け、各種郷土資料の  
研究調査公開を行つて来たが、昭和二  
五年財団法人以文会の設立と同時にこれ  
を継承し、更に同二七年博物館法によ  
り財団法人以文会立致道博物館となつ  
た。古文書五六八点、甲冑二〇点、刀剣  
三四点、書画数十点、考古学資料二〇〇  
点等を有し、美術展・文化史展等を開  
き、郷土文化の向上を図り資料の保管陳  
列等を行つてゐる。

〔館長〕 犬塚又太郎

〔観覧日〕 毎日午前九時―午後五時  
〔観覧料〕 展覧会の規模に応じて之を  
定める。

##### 上杉神社権照殿

山形県米沢市南堀端町三六  
電 米沢 一七三〇

大正一一年四月創立。上杉神社祭神謙  
信公及び鷹山公の遺品を収蔵する。絵画  
約三〇点、工藝品及文書約五〇〇点  
〔観覧日〕 希望に応じ随時開館



美術 観覧施設

【観覧料】二〇円、学生一〇円  
掏粋巧藝館

山形県小松町二九一一  
昭和七年四月創立。財団法人組織。學術參考資料として支那、朝鮮及日本の古陶磁其他約五〇〇点を陳列公開する。

【館長】井上庄七  
【観覧日】四、五、六、七、九、一〇  
六ヶ月間、毎日午前一〇時—午後三時  
【観覧料】無料  
中尊寺宝物庫

岩手県西磐井郡平泉寺  
電 平泉一

明治三一年四月創立。大日如来坐像、一字金輪仏を始め多数の仏像、仏画、古文書類を蔵し、又同寺境内には国宝建造物金色堂がある。

【観覧日】四月—一〇月（午前八時—午後五時）  
十一月—三月（午前八時半—午後四時半）  
齋藤報恩会博物館

仙台市大聖寺裏門通三  
電 仙台四七七七

大正二二年二月創立。大正一二年文部省認可となり昭和八年に開館一般公開した。昭和二〇年戦災を受けたが二三年修理再開した。東北地方の博物学資料、文化史資料を陳列する。

【館長】齋藤登之助  
【観覧日】日曜・祭日の他毎日、土曜半日。  
【観覧料】無料

【関東地方】

茨城県立美術館

茨城県東茨城郡磯浜町  
磯浜一七六

昭和二二年五月創立。新憲法公布を記念して設立され、美術思想の普及向上を図る目的を以て展覧会・講演会等の事業を行っている。日本画・洋画・彫刻・工藝の所蔵品がある。

【館長】名越那珂次郎  
【観覧日】四月—一〇月（午前八時—午後五時）  
十一月—三月（午前九時—午後四時）  
【観覧料】一五円

笠間美術館

茨城県西茨城郡笠間町  
佐白山麓公園内

創立昭和二五年一月。県内外に存在する国宝指定の仏像の複製（石膏）を保存し、且、国宝仏像管理寺院の照会及び参観視察の便宜を計る。複製仏像の所蔵約一〇点、他に随時絵画展なども行なう。

【館長】根本政太郎  
【観覧日】毎日午前八時半—午後五時  
【観覧料】一〇円  
鹿島神宮宝物館

茨城県鹿島郡鹿島町宮中  
鹿島九

甲冑・古文書等鹿島神宮の宝物を陳列。  
【観覧日】毎日午前八時—午後五時  
【観覧料】一般一〇円、学生五円  
日光宝物館

栃木県上都賀郡日光町  
電 日光一一四

大正四年五月東照宮三〇〇年祭記念事業として建設され、東照宮、二荒山神社、輪王寺所蔵の宝物類を陳列する。主として江戸時代の工芸品が多い。

【観覧日】毎日、四月—一〇月午前八時—午後五時、十一月—三月午前八時—午後四時。

【観覧料】一〇〇円、二社一寺の殿堂拝観料に含まる。

【東京】

東京国立博物館

台東区上野公園  
電 駒込三七一一五

創立は明治五年正院に於ける博覧会事務局の設置に始まり、其後同局を博物館と改称し内務省の管轄に付したが同一四年農商務省へ移管となり、事務所（当時博物館と称す）を上野の旧寛永寺本坊跡に移転し翌一五年同所に新築の本館を開いた。一九九年宮内省管理となり二二年帝國博物館と改められ、歴史、美術、美術工藝、工藝、天産の五部を設け、三三年帝室に改められた。天産部は大正一四年文部省に移管された。大正天皇の御成婚記念として造営された表慶館は明治四一年に竣工した。昭和一二年従来の歴史課、美術課を廃し列品課に改め、別に学藝課を新設した。陳列本館は震災に大破し、其の後表慶館を列品陳列に充てたが今上陛下の御即位記念事業である帝室博物館復興興賛会の復興大工事が昭和一二年に竣工し、同一三年一月開館された。昭和二二年五月帝室博物館は文部省国宝調

査室、同保存修理室及び美術研究所と合併し、文部省の管轄の下に国立博物館として発足した。陳列課、事業課、調査課、保存修理課、資料課、監理課、附屬美術研究所の六課一所制をとり、奈良帝室博物館は国立博物館奈良分館と称することとなった。ついで昭和二五年八月文化財保護法が制定実施され、さきに国立博物館に合併された調査課、保存修理課は文化財保護委員会事務局保存部に入るることとなり再び博物館から離れ、美術研究所も分離し、博物館は文化財保護委員会の附屬機関となった。その内部組織は館長、次長の下に新に庶務、学藝の二部を設け、庶務部には管理、会計、普及の三課、学藝部には美術、工藝、考古、資料の四課をおき、また諮問機関として国立博物館評議員会を設置し、奈良分館には分館長の下に庶務、学藝、普及の三課が置かれたが二七年四月文化財保護法の一部改正にともない、当館は東京国立博物館と改称され、更に同年八月当館附屬の奈良分館は奈良国立博物館となつて東京国立博物館から分離した。（二七九、一九二、一九九頁参照）

建物は地上二階、地下二階、総面積六五二坪、鉄骨鉄筋コンクリート造りの東洋風建築である。

又構内には九条道秀及び益田孝より夫寄贈され、昭和一一年開館された九条館及び応挙館がある。前者はもと京都御所内九条邸にあつたもので伝山本雪筆の四季楼閣山水図の画かれた床張付、襖等



があり、後者には圓山應舉筆の壁張付、襖等がある。その他茶室六窓庵、校倉等の建物がある。

〔館長〕 岡部長景〔次長〕 今泉篤男  
〔庶務課長〕(兼) 今泉篤男〔事業課長〕 河北倫明

〔館長〕 淺野長武〔次長〕 田内静三

〔評議員〕 一万田尚登、石橋正二郎、

〔部長〕 (庶務) 深見吉之助 (学藝) 石田茂作

細川護立、大谷竹次郎、岡安彦三郎、河

〔課長〕 (管理) 山田秀吉

原春作、鍋木清方、高橋誠一郎、竹尾式、

〔會計〕 出牛清次郎 (普及) 近藤市太

團伊能、上野直昭、山下新太郎、矢代幸

郎 (美術) 野間清六 (工藝) 溝口三

雄、安井曾太郎、松田權六、藤山愛一郎、

郎 (考古) 石田茂作 (資料) 石澤正男

淺野長武、齋藤知雄、坂崎坦、岸田日出

〔評議員〕 宇佐美毅、上野直昭、梅原

刀

末治、大原總一郎、河原春作、小宮豊隆、

〔調査委員〕 (○印兼運営委員) ○岩

杉榮三郎、辻善之助、羽田亨、原田淑人、

動道行 ○池田義信 飯島正 ○富永惣

藤山愛一郎、三矢宮松、和辻哲郎

一 ○和田新 嘉門安雄 ○吉川逸治

〔観覧日〕 月曜日、年末年始を除き、

○瀧口修造 ○村田良策 牛原盛彦 ○

三月一十月午前九時一午後四時半、十一

宇野俊郎 ○野間清六 ○隈元謙次郎

月一二月午前九時一午後四時

○山田智三郎 ○前川國男 清水晶 島

〔観覧料〕 大人二〇円、小人一〇円

崎清彦 ○土方定一 關野嘉雄

国立近代美術館

東京都美術館

中央区京橋三ノ一

台東区上野公園

電 京橋 八二二一五

電 駒込 三七二六

昭和二七年八月一日創立、二月一日

大正一〇年平和博覧会記念事業期成実

開館。建物は旧日活会館を買上げ、建築

行会によつて東京に永久的美術館の設立

家前川團男に依託して改装した。(二〇

が建議され、佐藤慶太郎の百万円の寄附

三頁参照)

及び大正一三年皇太子殿下御慶事に際し

敷地 一六九坪

宮内省より現敷地約四〇〇坪の無償貸

建坪 總坪数五〇九坪 (鉄骨鉄筋コン

与によつて、大正一三年九月起工、同一

クリート)、各階九四坪 (地上四階、地

五年四月竣工した。五月聖德太子奉讃美

下一階) 屋外展示場一六坪、車庫二二坪

術展を開館記念として開催した。昭和四

〔観覧日〕 一月四日から二月二八日

年東京府より約四〇万円を支出して別館

迄。午前一〇時一午後六時、但し夏期は

を増築した。昭和一八年旧称東京府美術

午前一〇時一午後七時。毎月曜休館。

館を東京都美術館と改めた。

〔観覧料〕 大人五〇円。学生三〇円、

〔館長〕 杉山司七〔主事〕 早川治平、

小人二〇円

美術観覧施設

柿沼春雄、友部隆治、田栗貞留子〔顧

間〕 川合玉堂、横山大觀、鍋木清方、松

林桂月、川端龍子、北村西望、奥村士平

結城素明、安田靉彦、小林古徑、野田九

津、前田青邨、中村岳陵、平藤田中、香

取秀眞、松田權六、板谷波山、豊道春海

海野清、藤井浩佑、内藤伸、齋藤素巖、

朝倉文夫、山崎朝雲、佐藤清藏、小杉放

庵、和田三造、安井曾太郎、山下新太郎

和田英作、石井柏亭、中澤弘光、辻永、

有島生馬、梅原龍三郎、石井鶴三、上野

直昭、伊東忠太、齋藤隆三、尾上榮舟、

川島理一郎、高村豊周、中村研一、山口

落春〔参与〕 伊東深水、福田豊四郎、

兒玉希望、郷倉千鶴、望月春江、石川寅

治、猪熊弦一郎、高岡徳太郎、田崎廣

助、中山巖、益田義信、小糸源太郎、山

本豊市、藤野舜正、内藤春治、山崎覺太

郎、柳田泰雲、鈴木梅溪、磯村英一、今

泉篤男、嘉門安雄、谷信一

一、東京都美術館規程(略)

二、東京都美術館顧問及び参与規程

第一条 東京都美術館(以下館という)に

顧問及び参与若干人を置く。都教育

委員会がこれを委嘱する。

第二条 参与の任期は二年とし、再任を

妨げない。

第三条 顧問及び参与は館の運営につい

て館長の諮問に應ずる。

第四条 館に常任参与若干人を置くこと

ができる。参与の中から都教育委員会

これを委嘱する。

附 則

この規則は、昭和二十二年四月一日か

らこれを施行する。

附 則 (昭和二十五年教育

委員会規則第七号)

この規程は、公布の日から施行する。

東京都美術館使用条例

第一条 東京都美術館(以下館と称する)

は、次の目的を有する者にこの条例に

よつて使用せしめる。

一、美術についての創作の展覧

二、新古典美術品の陳列

三、その他美術についての事業

前項各号の使用者がない場合に限り

芸術等の会に臨時に使用せしめること

ができる。

第二条 館を使用しようとする者は、別

に定める様式によつて、要項を記して

館長の承認を受けなければならない。

第三条 前条によつて承認を受けた者

は、使用料を前納しなければならない。

但し、特別な事情があると認めるとき

は、相当の保証人を附け又は保証金を

納めさせた上後納を許すことがある。

第四条 使用料は左の範囲で都教育委員

会がこれを定める。

一、全館(本館地階陳列室を除く)使用

の場合 一日 一万二千円以内

二、一部使用の場合 一分区

一日 四千円以内

三、本館地階陳列室使用の場合

一分区 一日 八百円以内

四、会議室使用の場合

一日 一千円以内

五、小講堂使用の場合

二二

一日 一千円以内

部屋の模様替その他の設備を必要とするときは、館長の承認を受けてその実費を納めなければならない。

看守、受付、下足等については、使用者がその費用によつてこれを施設しなければならない。

第五条 館の使用の承認を受けた後これを他に転貸することは出来ない。

第六条 既納の使用料はこれを還付しない。但し左の場合はその一部又は全部を還付することがある。

一、不可抗力によつて指定の場所を使用することができないとき。

二、館の都合によつて使用承認を取消したとき。

第七条 使用者が切符売場その他特別の設備をしようとするときは館長の承認を受けなければならない。

第八条 使用者が館についての諸規定及びこれに基いてする館長の指示を遵守せず又は公安風紀を紊る虞があると認められる場合には、館長は、使用者に対してその使用の承認を取消することがある。

前項の処分によつて使用者に損害が生ずることがあつても、館は、その賠償の責を負わない。

第九条 使用者が使用を終り若くは使用を中止したとき又は使用の承認を取消されたときは、速に使用の場所を原状に回復し館長の検査を受けなければならない。

第十条 故意又は過失によつて建物及び使用物を汚損し又は毀損した場合は、使用者はその賠償の責を負わなければならない。

第十一条 館長において必要と認めるときは、使用者に対して臨機の処置をなすことができる。

第十二条 この条例施行に必要な細則は都教育委員会が定めることができる。

附則 (昭和二十七年  
条令第二十四号)

この条例は昭和二十七年四月一日から施行する。

東京都美術館使用規則(略)  
演劇博物館

(早稲田大学坪内博士記念)

新宿区戸塚町一ノ六四七  
電九段八五八一—五

昭和三年一〇月創立。坪内逍遙博士の古稀の賀及びシェークスピア全集翻訳完成を記念して学界、芸能界其他有志数千名の拠出により創立、昭和三年一〇月開館した。西洋、日本の演劇に関する参考資料、文献を蒐集陳列して一般の観覧に供する。一方、附属演劇図書館をもち、演劇文化の向上発展に資するを目的としている。

早稲田大学の管理に属すが公共機関として一般に無料で公開されている。季刊「演劇博物館」を発行。

〔館長〕 河竹繁俊 (観覧日) 毎日午前九時—午後四時。休館は毎月曜及び祭日の翌日、年末年始の他夏期数日間。

大倉集古館

港区赤坂葵町三  
電 赤坂 七八一

大正六年八月創立。財団法人大倉集古館は其の土地、建物、蒐集品、維持資金等悉く故大倉喜八郎がその授産記念として寄附したものである。創立当時土地四八二五坪、建物延一〇六四坪、美術品三六九二点、書籍一五、六〇〇冊であつたが大正一二年の大震災で蒐集品の殆ど全部を焼失、大正一五年再び大倉男の寄附により現在の陳列館を起工、焼失を免れた蔵品を基礎に多数の新収品を加え昭和三年八月開館した。本館は鉄筋コンクリート銅葺屋根の支那風建築である。絵画は毎月陳列替を行い、彫刻、工芸品等は三ヶ月—六ヶ月で陳列替を行う。

〔館長〕 大崎新吉

〔理事長〕 門野重九郎 (理事) 大倉桑馬 大崎新吉 (評議員) 門野重九郎 大倉桑馬 大倉喜七郎 大倉喜六郎 大崎新吉 大倉喜一郎 吉武一雄 藤田武雄 伊藤勇二 横田保

〔観覧日〕 四月—九月午前九時より午後四時迄、一〇月—三月午前九時より午後三時迄、但毎月曜、祝日、年末年始は休館

〔観覧料〕 無料  
書道博物館

台東区上根岸町一二五

昭和十一年一〇月創立。財団法人書道博物館は故中村不折が四〇年に亘つて蒐集した書道に関する参考品一二、〇〇〇余点を以て昭和十一年一〇月開館した。

〔館長〕 中村丙午郎

〔観覧日〕 月曜を除き毎日午前九時—午後四時 (観覧料) 五〇円  
東洋文庫

文京区駒込上富士前町一四七  
電 大塚 二二九、六六八

大正六年九月岩崎久彌が前中華民國總督府顧問ジョージ・アーネスト・モリソンより購入したモリソン文庫を核心とし、其後更に東洋に関する諸書の蒐集を行ったもので現在の場所に文庫を新築し大正一三年一〇月財団法人組織とし東洋文庫と称した。文庫の敷地、建物、図書其他一切の設備は岩崎の寄附によるものである。終戦後文庫の図書部は国立国会図書館の支那東洋文庫として運営されることとなり、研究部は従前の如く財団法人にて経営されている。事業としては前記の如く東洋関係の図書を蒐集し閲覧に供するとともに東洋学の研究上有益なる図書の出版、複製をなし又講演会、展覽会等を行う。

〔文庫長〕 岩井大慈 (理事長) 細川護立 (理事) 和田清 有光次郎 徳川宗敬 (監事) 深井三男 (観覧日) 月曜以外毎日午前八時半—午後四時半、(観覧料) 無料

日本民藝館

目黒区駒場八六一  
電 渋谷 五九一

昭和十一年一〇月創立。民藝品の蒐集並に常置陳列を行い、地方民藝の指導と開発に当るを目的とす。蒐集の事業は大正一五年に始められたが、昭和十一年一

○月大原孫三郎の寄附によつて建物完成し、一二月財団法人組織となつた。

〔館長〕 柳宗悦〔観覧日〕木曜午前中及祭日を除き午前10時—午後4時、但八月、一月、二月休館〔観覧料〕五〇円

根津美術館

港区赤坂青山南町六ノ一五  
電 赤坂二五三六、二五八七

昭和十五年一月創立。根津嘉一郎の蒐集なる東洋美術品を翁の歿後その遺志により寄附を受け昭和十五年一月財団法人根津美術館として設立し、翌十六年一月開館第一回展を開いた。第二次大戦により建物は焼失したが、藏品は戦災を免れ現在仮建築の中で春秋二季の特別展の外常置陳列を行つてゐる。主な収藏品は日本及東洋の古美術。

〔館長〕 河西豊太郎〔主事〕 依田太郎

〔観覧日〕 毎日午前10時—午後4時、但し月曜、祝祭日、及び八月—九月五日、年末年始は休館〔観覧料〕 無料

ブリッヂストン美術館

中央区京橋一ノ一  
電 京橋六三一七

昭和二十七年一月開館、石橋正二郎によりブリッヂストンビルの一階に創設された常設美術館で、所蔵の西洋及日本近代の油絵、彫刻を主として陳列する。

〔顧問〕 石橋正二郎、和田英作、細川護立、淺野長武〔参事〕 上野直昭、入間野武雄、大原總一郎、久保良次郎、矢代幸雄、矢崎美盛、松本榮一、福島繁太

美術観覧施設

郎、秋山光夫、今泉篤男〔運営委員長〕 團伊能〔運営委員〕 石橋幹一郎、猪熊弦一郎、富永惣一、嘉門安雄、谷信一

〔主事〕 岩佐新〔観覧日〕 月曜を除き午前10時—午後5時半  
〔観覧料〕 五〇円

牧野記念館

〔駒場高等学校美術館〕

目黒区上目黒八ノ六六〇  
都立駒場高校内  
電 渋谷二〇〇八

昭和二十五年七月創立。故牧野虎雄の遺作油絵七七点、画帖等を保存し常置陳列を行ふ。〔観覧日〕 希望により随時開館  
〔観覧料〕 無料

明治神宮宝物殿

渋谷区代々木外輪町  
電 澁橋二一六、一一七

大正一〇年一月開館。明治神宮儀式課の所管で、明治天皇、昭憲皇太後の御物を保管陳列する。

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時  
〔観覧料〕 二〇円

〔神奈川〕

金澤文庫

横浜市区金沢町二二七  
電 長者町九〇六九

昭和五年八月再建。史蹟金澤文庫及び稱名寺に収蔵する書籍その他の文化財を襲蔵し、又図書記録の類を蒐集保存して一般に閲覧させる。金澤文庫は鎌倉中期北條實時が蒐集した和漢書を納めるため

に創建し、一時稱名寺によつて保管されたが、昭和五年御大典記念事業として神奈川県が現在の文庫を再建した。

〔文庫長〕 熊原政男  
〔観覧日〕 毎月末日、年末年始を除き、毎日午前九時—午後四時半  
〔観覧料〕 二〇円

神奈川県立近代美術館

神奈川県鎌倉市雪ノ下一  
〇五一 電 鎌倉二五〇〇

昭和二十六年一月開館。建物は坂倉準三の設計による。近代美術だけでなく、凡ゆる美術を新しい観点から展覧する。

〔館長〕 村田良策〔副館長〕 土方定一〔運営委員〕 安井曾太郎、内山岩太郎、伊東深水、木下孝則、小山富士夫、中村岳陵、坂倉準三、佐藤敬、富永惣一、山口蓬春、吉川逸治、山田智三郎、近藤市太郎

〔観覧日〕 毎月曜を除き午前九時—午後四時  
〔観覧料〕 六〇円、学生四〇円

鎌倉国宝館

神奈川県鎌倉市雪ノ下一  
〇三四 電 鎌倉七五三

昭和三年四月創立。主に鎌倉を中心とする社寺及び個人寄託の古美術品を収蔵展覧する。

〔館長〕 澁江二郎  
〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時  
〔観覧料〕 一〇円

鶴岡八幡宮宝物殿

神奈川県鎌倉市雪ノ下一  
〇五一 電 鎌倉三二五

鶴岡八幡宮に伝来する刀剣・武器・工芸品等社宝の一般展覧をなす。

〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時  
〔観覧料〕 一〇円

長尾美術館

本館 神奈川県鎌倉市深沢町  
分室 世田谷区深沢町四ノ一  
三三三 電 鎌倉九二二三

昭和二十二年五月創立。財団法人組織、長尾欽彌の蒐集による絵画・陶磁器その他美術工芸品を保管公開展覧する。毎年春秋二季特別展覧を行ふ。

〔理事長〕 長尾欽彌〔理事〕 草間時光、清瀬三郎〔監事〕 村田五郎

箱根神社宝物殿

神奈川県足柄下郡元箱根村  
電 箱根町三一

明治四〇年六月創立、現在の建物は昭和九年に新設された。同社所蔵の古美術品、古文書等を展覧する。

〔観覧日〕 毎日、四月—一〇月午前八時—午後五時、十一月—三月午前九時—午後四時  
〔観覧料〕 一〇円

箱根美術館

神奈川県足柄下郡宮城野村  
強羅 電 箱根宮ノ下三五八

昭和二十七年六月設立。世界救世教々主岡田茂吉によつて設立され、財団法人東明美術保存会箱根美術館として広く美術品を蒐集し一般に公開する。古美術約二



七四点、現代日本美術約六二点。

〔館長〕 岡田茂吉

〔観覧日〕 四月二日—十一月三日

迄、午前九時—午後五時

〔観覧料〕 普通観覧料一〇〇円。

〔中部地方〕

三島大社博物館

静岡県三島市伝馬町一

電 三島一七二

昭和五年三月創立。三島神社所蔵の宝物を始め郷土出土品等を陳列する。絵画一三点、工藝一二四点

〔館長〕 矢田部盛枝

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 二〇円

久能山東照宮博物館

静岡市根古屋三八九

大正三年三月宝物館を新築し現在に及んでいる。徳川歴代將軍の武器刀剣類を収蔵陳列する。

〔観覧日〕 午前八時—午後四時 初穂料として三〇円以上奉納せる者にのみ拝観させる。

身延山宝物館

山梨県南巨摩郡身延町

電 身延山二、三

大正一五年五月創立。日蓮宗本山に關する歴史考古資料等を公開する。

〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時

〔観覧料〕 三〇円

上田微古館

長野県上田市新参町

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 一〇円

〔館長〕 高野忠衛

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 一〇円

昭和四年九月創立。旧上田城南櫓内に郷土資料を陳列公開する。

〔主任〕 上羽文雄

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 一〇円

諏訪市美術館

長野県諏訪市大字上諏訪中

浜町 電 諏訪二二七

昭和二年八月創立。従来片倉會館の一部として懷古館と称し、常時諏訪地方出土の考古学参考品を陳列し、又美術展覽会を行つて來たが、昭和二年諏訪市に寄附されたものである。油絵・水彩・版圖等を収蔵している。

〔館長〕 金井清

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 二〇円

松本市立博物館

長野県松本市地蔵清水六

電 松本一三三

長野県に關する山岳、自然科学、考古、民俗、歴史、美術に關する資料を蒐集陳列し地方文化の向上を計り、学校教育に資する。山岳資料に重点を置く。

〔館長〕 本郷巳津男

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 一〇円

大観進宝博物館

長野市元善町四九二のイ

電 長野二四六

明治四〇年創立。大正七年増設、寺宝約一五〇点を収蔵、参拝者、信徒に拝観させることを目的とする。

〔館長〕 高野忠衛

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 一〇円

〔近畿地方〕

北方文化博物館

新潟県中蒲原郡横越村大字

沢海

電 横越一番甲

昭和二〇年一〇月創立、旧伊藤文吉邸とその所蔵品を基として、財団法人組織により、美術、民俗、考古、郷土資料、農業資料等を展示公開する。

〔館長〕 伊藤文吉

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 無料

高岡市美術館

富山県高岡市古城公園内

電 高岡二六六六

昭和二六年八月創立。主として郷土出身作家の作品を所蔵陳列している。日本画、洋画、工藝、彫刻等現代美術約一〇八点。

〔館長〕 中條豊治

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時

〔観覧料〕 無料

徳川美術館

名古屋市中区徳川町

電 名古屋東六六二六

昭和六年二月財団法人黎明会により設立され昭和一〇年一月開館。尾州徳川家伝来の美術品、古文書等を保存し、展観する。絵画、彫刻、工藝品外約五〇〇点。

〔館長〕 熊澤五六

〔観覧日〕 年末、年始を除き毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 三〇円

京都国立博物館

京都市東山区大和大路通

七条上ル 電 祇園五四

明治二二年五月宮内省達を以て圖書寮附屬博物館が廢止され帝國博物館、帝國奈良博物館と同時に帝國京都博物館が設

〔館長〕 上野肇

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 五〇円。

〔京都〕

京都国立博物館

京都市東山区大和大路通

七条上ル 電 祇園五四

明治二二年五月宮内省達を以て圖書寮附屬博物館が廢止され帝國博物館、帝國奈良博物館と同時に帝國京都博物館が設



置された。二五年工事に着手し二八年竣工、三〇年五月開館した。その後官制改革により京都帝室博物館と改称。大正一三年今上陛下の御成婚に際し宮内省より京都市に下賜され、同年二月一日より恩賜京都博物館と改称し、京都市の経営するところとなつたが、昭和二七年文化財保護法の一部改正により同法の規定に基づき四月一日より国立移管をもつて京都国立博物館として新発足をした。内部組織は館長、次長の下に管理課、学藝課を置き館長諮問機関として京都国立博物館評議員会が設置されている。(一七一、二〇〇頁参照)

【館長】 神田喜一郎 【次長】 富岡益五郎 【課長】 (管理課) 有本利三郎 (学藝課) 梅津次郎

【評議員】 羽田亨、服部峻治郎、蟠川虎三、岡田戒玉、大原總一郎、高山義三、竹内忠治、中野種一郎、長崎太郎、梅原末治、上野精一、上田一夫、守屋孝藏、須田國太郎、本田親男

【観覧日】 一月四日―二月二八日及び一月一日―二月二五日午前九時―午後四時、三月一日―九月三〇日午前九時―午後四時半

【観覧料】 大人一〇円、小人五円

【観覧料】 大人一〇円、小人五円

市立京都美術館

京都市左京区岡崎法勝寺町  
電 吉田 四一〇七―八

今上陛下の御即位大礼を記念し京都市が建設したもので昭和八年竣工した。同市並に同館主催の美術展覧会を開催する

美術観覧施設

他、一般美術団体に陳列室を貸与する。昭和一五年七月より明治以降美術の陳列を開始した。昭和二年進駐軍により接収されたが、同二六年五月解除となり、九月から再び開館した。

【館長】 原興作 【職員】 岡部三郎、加藤一雄

北野天満宮宝物殿

京都市上京区馬喰町  
電 西 陣 五

昭和二年二月創立、菅原道真没後一〇二五年祭(半万燈祭)の記念事業の一つとして設立され、北野天神縁起絵巻を初め絵画、古文書等の宝物類を展示する。

【観覧日】 毎月二五日の月次祭当日と春秋二季の臨時開館日 午前九時―午後四時

【観覧料】 三〇円

廣隆寺靈宝殿

京都市右京区太秦蜂岡町  
大正一一年一〇月創立。聖德太子一三〇〇年遠忌記念に創設された。同寺蔵の飛鳥時代彌勒菩薩像を始め多くの仏像、仏画、美術工藝品等を収蔵している。

【観覧日】 毎日 【観覧料】 四〇円

醍醐寺靈宝殿宝聚院

京都市伏見区醍醐  
電 醍 醐 二

昭和一〇年四月開館。醍醐天皇一〇〇〇年遠忌の記念事業として設立された。醍醐寺所蔵の夥しい仏画、一般絵画、彫刻、古文書記録、經典等を保管整理し、又一般に公開する。

【館長】 岡田戒玉 【主事】 佐和隆研

【観覧日】 春秋二季 四―五月、一〇―十一月 毎日午前八時―午後四時

【観覧料】 三〇円

仁和寺靈宝殿

京都市右京区御室仁和寺  
電 西 陣 三八

昭和二年五月竣工開館。聖教三十帖冊子、孔雀明王等仁和寺所蔵の国宝その他宝物を保管し一般に公開する。

【館長】 小川義章

【観覧日】 毎日午前九時―午後五時

【観覧料】 三〇円

豊国神社宝物館

京都市東山区大和太路正面  
茶屋町 電 祇園三八〇二

大正一四年一二月開館。豊国祭屏風を始め神社宝物、歴史風俗資料を陳列する。

有 鄰 館

京都市左京区岡崎田勝  
寺町四四 電 吉田 五

大正一五年一二月創立。藤井善助の寄附行為による財団法人藤井善助の経営。藤井善助の蒐集せる東洋古美術品を保存展覧する。

【代表理事】 藤井志づ

【観覧日】 毎月第一、第三日曜の正午―三時迄に限り開館、但し一月、八月は休館。

【観覧料】 無料

陽明文庫

京都市右京区宇多野上ノ  
谷町一 電 西陣七五五〇

昭和一三年九月財団法人組織として設立。古文書一〇万余点、古典籍三万余部を収蔵し、研究者のもとにに応じ随時閲覧の便を計っている。

【総裁】 近衛文隆(在リ) 【主事】 小笹喜三

【奈良】

奈良国立博物館

奈良市春日野町  
電 奈良二〇二四

明治二二年奈良帝國博物館設置せられ同二八年四月開館。三三年官制の改革と共に奈良帝室博物館と改められ、更に昭和二二年五月官制改正により帝室博物館は文部省の管轄の下に国立博物館となるに及んで国立博物館奈良分館と改称された。ついで二五年八月文化財保護法の制定にともない文化財保護委員会の管轄に、又二七年四月東京国立博物館奈良分館に、同年八月文化財保護法一部改正により東京国立博物館より分離し、奈良国立博物館と改められて新発足をした。内部組織は館長の下に次長が置かれ、従前の庶務、学藝、普及の三課は廃されて新たに管理、学藝の二課が置かれ、館長の諮問機関として奈良国立博物館評議員会が設置されている。

【館長】 黒田源次 【次長】 高村峰藏

【課長】 (管理課) 未定 (学藝課) 蓮實重康(一七九二―一頁参照)

【評議員】 奥田良三、高橋正次、落合太郎、今村荒男、羽田亨、梅原末治、平

## 美術観覧施設

岡明海、橋本凝胤、岡田戒玉、和田軍一金森乾次、中山正善、堀越儀郎、新納忠之介

〔観覧日〕 毎月第一、第三月曜日、年末年始を除き、三月—一〇月午前九時—午後四時半、十一月—二月午前九時—午後四時

〔観覧料〕 大人一〇円、小人五円  
春日大社宝物殿

奈良市春日野町御蓋山一六〇  
電 奈良二二六四

昭和一〇年四月創立、歴代朝野から献進の宝物を保存し、展覧する。絵画彫刻の他、太刀等工芸品約三〇〇〇点所蔵。

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時  
〔観覧料〕 二〇円  
天理参考館

奈良県丹波市町守目堂電 丹波市 三四一

昭和十三年四月創立。天理大学の教材として蒐集した海外土俗資料に、更に支那古美術の蒐集を戦後合併し、続いて西洋古美術資料も加え、大学附属として公開している。

〔主事〕 福原喜代男

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 無料  
東洋民俗博物館

奈良県生駒郡伏見町電 富雄 六九

昭和三年一月創立。大正六年項より

九十九豊勝が個人として蒐集したものを収蔵し展覧する。各国民族資料、特に比較宗教学に関する資料が多い。

〔館長〕 九十九豊勝 〔観覧料〕 二〇円  
榎原公苑大和歴史館

奈良県高市郡畝傍町電 奈良県榎原四七八

昭和十五年一月創立の大和国史館が同四年八月大和歴史館と改称した。主として大和に関する上代の遺品、その他歴史的事物を収集展示し、歴史教育に資する。又、一定期間に亘つて特に調査研究を希望するものに資料を閲覧させる特別観覧の制度を設けている。

〔館長〕 土井實 (主任) 小島貞三  
〔観覧日〕 毎日午前八時半—午後五時  
〔観覧料〕 普通、一〇円

〔大阪〕  
大阪市立美術館

大阪市天王寺区茶臼山町電 天王寺六〇一、四六〇九

古美術品の常設展覧と一般美術展の展覧場としての設備を兼ね、昭和十一年五月落成した。同月開館し、古美術の常設展覧は同年九月より開始した。絵画・彫刻・美術工藝・考古学資料に亘る同館蒐集保存の古美術品を常設展覧し、展覧会室・講堂は一般美術展・講演会等に貸館する。又図書閲覧室は規定に従つて一般の閲覧に開放する。

〔館長〕 望月信成 (事務長) 樋渡静男 (学藝係長) 藤井源一 (学藝員)

今村龍一、佐々木利三

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、午前九時—午後五時 〔観覧料〕 二〇円  
日本工藝館

大阪市北区堂島上二ノ四六電 福 島 五二一 四

昭和二十六年六月創立。堂島の米倉であつたものを改増築し、民藝の研究と普及を目的として、財団法人組織により設立された。日本の現代民衆工芸品を主体として現代美術工芸品・版画等を蒐集常時展覧する。

〔理事長〕 三宅忠一  
〔観覧日〕 日曜・祭日を除き午前十時—午後八時 〔観覧料〕 三〇円  
観心寺霊宝館

大阪府南河内郡川上村電 河内長野一三四

霊宝館は明治三十三年に開設され、国宝如意輪観音像を始め、仏像、古文書等の寺宝を保管展覧する。

〔館長〕 永島行善

〔観覧日〕 毎日午前九時半—午後五時  
〔観覧料〕 一〇円

〔兵庫県〕

市立神戸美術館  
神戸市葺合区熊内町一丁目電 葺合 三〇四三

南蠻美術の蒐集で著名な池長美術館 (昭和十五年三月創立) が建物・所蔵品共に昭和二十六年四月神戸市へ寄附され市立

神戸美術館となつた。同年七月より開館した。

〔館長〕 上月順治

〔観覧日〕 毎月一日より二十五日迄、午前九時—午後五時。月曜休館  
〔観覧料〕 二〇円  
白鶴美術館

神戸市東灘区住吉町落合一五四五 電 御影六〇〇一

昭和九年五月創立。昭和六年嘉納治兵衛の古稀を記念してその美術工芸品、考古資料の蒐集を一般に公開するため財団法人白鶴美術館を設立した。建物は同九年竣工し、五月から公開した。中国及日本の工芸品、金石類、刀剣等の所蔵品を常時陳列し、同時に特別展を開催する。

〔会長〕 嘉納治兵衛 (主事) 山口雅生

〔観覧日〕 月曜日、年末年始及び陳列替の一週間を除き午前一〇時—午後四時迄

〔観覧料〕 五〇円  
鶴林寺宝物館

兵庫県加古川市加古川町北在家 電 加古川五六三

大正一〇年一〇月聖徳太子一三〇〇年御忌記念として宝物館を建設し、絵画、工芸美術品、古文書等の什宝を保管し、希望者のある毎に開館する。

〔中国地方〕

大原美術館

岡山県倉敷市新川町電 倉敷五

昭和五年一月創立。故洋画家児島虎次郎を記念し、美術の研究発達に資するため絵画及びその他の美術品の蒐集、陳列公開等を行う。大原孫三郎によつて創設され、昭和一〇年三月財団法人となつた。泰西絵画、古代エジプト工芸品等の收藏品が著名である。

〔観覧料〕 四〇円、学生三〇円  
吉備考古館

岡山県倉敷市前神町  
倉敷一六三七

昭和一七年創立、吉備地方を中心とした考古資料・郷土資料を展覧する。  
〔観覧日〕 毎日。開、閉館時間は一定せず。

〔観覧料〕 二〇円  
嚴島神社宝物館

広島県佐伯郡宮島町  
電 宮 島 三六

〔観覧日〕 年末年始、祭日を除き、毎日午前九時―午後四時  
〔観覧料〕 五〇円、学生 三〇円  
倉敷考古館

岡山県倉敷市前神町  
倉敷一五四二

昭和二年一月創立。考古学の研究普及と地方文化の向上を目的として、財団法人組織をとつてゐる。考古学関係資料一五〇〇点を収蔵す。

創立明治三〇年。現在の建物は昭和九年建造され、嚴島神社宝物として伝承した藤原時代以後の書蹟・工芸品等を公開する。

〔館長〕 鎌木義昌  
〔観覧日〕 月曜日、年末年始、祭日を除き、午前九時―午後四時  
〔観覧料〕 三〇円  
倉敷民藝館

〔館長〕 野坂元定  
〔観覧日〕 毎日  
〔観覧料〕 二〇円  
出雲大社宝物殿

〔観覧日〕 月曜日、年末年始、祭日を除き、午前九時―午後四時  
〔観覧料〕 三〇円  
倉敷民藝館

岡山県倉敷市前神町  
倉敷一六三七

大正三年三月創設。神像、古文書、武器、祭器等を収蔵する。  
〔観覧日〕 毎日、午前八時―午後四時  
長府博物館

山口県下関市大字豊浦村  
電 五 五 五

昭和二年一月創立。岡山県民藝協会の事業の一つとして創設され、後、財団法人として独立した。我国民藝品約一六六〇点の外各国の民藝品も収蔵してゐる。

昭和八年二月創立。当初は故桂欄一が財団法人長府尊攘堂を創設し明治維新前後の志士の遺墨等を収集陳列したものであつた。戦後は財団法人長府博物館と改称、郷土を中心とした文化資料を陳列保管する他各種特別展を行う。

〔館長〕 外村吉之介  
〔観覧日〕 月曜日、年始年末、祭日を除き、午前九時―午後四時

〔館長〕 榎惣一

〔観覧日〕 三、四、五、九、一〇、一の各月以外は毎月月曜休館、午前九時―午後五時、〔観覧料〕 一〇円  
防府天満宮宝物館

〔旧松崎神社宝物館〕  
山口県防府市宮市

松崎神社は昭和二年四月炎上、同宝物館は災禍を免れたが現在閉鎖中。尚昭和二年一月二日松崎神社は防府天満宮と改称した。

〔館長〕 磯部稜威雄  
〔観覧日〕 希望に依り開館  
〔観覧料〕 規定なし  
〔四国地方〕

〔館長〕 磯部稜威雄  
〔観覧日〕 希望に依り開館  
〔観覧料〕 規定なし  
〔四国地方〕

山口県下関市長府町宮の内  
大正四年三月創立。神社創建以来の古文書其他寄進による絵画、工芸品等を収蔵する。

〔館長〕 磯部稜威雄  
〔観覧日〕 希望に依り開館  
〔観覧料〕 規定なし  
〔四国地方〕

〔館長〕 磯部稜威雄  
〔観覧日〕 希望に依り開館  
〔観覧料〕 規定なし  
〔四国地方〕

〔館長〕 磯部稜威雄  
〔観覧日〕 希望に依り開館  
〔観覧料〕 規定なし  
〔四国地方〕

高松美術館

香川県高松市栗林公園内  
電 高松 三一六

昭和二年四月一月開館。昭和四年高松観光大博覧会を機会にその建物の一部三〇六坪を市立美術館として存置し、日展、県展、各種美術展を開催、地方文化の普及を計つてゐる。

〔館長〕 中村良三  
金刀比羅宮博物館

香川県琴平町  
電 琴平 一

金刀比羅宮博物館は宝物館、学藝館、金刀比羅宮書院の三施設に分れてゐる。

〔館長〕 中村良三  
金刀比羅宮博物館

宝物館は明治三八年創立。金刀比羅宮所蔵の書画、刀剣、古文書等を収蔵展覧する。学藝館は昭和三年創立。学藝参考品、標本等の外高橋由一の作品二六点を収蔵展覧する。書院は鶴の間外四室に書かれた應挙の絵がある。

〔館長〕 琴陵光重  
〔観覧日〕 無休、午前八時―午後四時  
〔観覧料〕 二〇円  
総本山善通寺宝物館

香川県仲多度郡善通寺町  
電 一 一 一

明治三五年四月創立。善通寺伝来の絵画、仏像、工芸品等約一二〇余点を陳列展覧する。

〔館長〕 亀谷有英  
〔観覧日〕 春、夏、午前八時―午後五時、秋、冬、午前九時―午後四時  
〔観覧料〕 一〇円  
大山祇神社宝物館

愛媛県越智郡宮浦村  
電 大島 三一六

大正一五年六月創立。鎧、太刀等工藝品一〇〇〇余点を収蔵、展覧する。

〔館長〕 三島敦雄  
〔観覧日〕 無休、春、夏、午前八時―午後五時、秋、冬、午前九時―午後四時  
〔観覧料〕 三〇円  
〔九州地方〕

市立長崎博物館

長崎市馬町二一  
電 九九 九九

昭和二年二月創立。開国史に關係あ

二二七

美術観覧施設

二二七

二二七

二二七

二二七



美術 観覧施設

る郷土資料、主として中国、オランダ貿易関係の資料を蒐集し展観する。

〔館長〕 伊藤正雄

〔観覧日〕 毎日、午前九時—午後五時

〔観覧料〕 無料

本妙寺宝物館

熊本県熊本市花園町六

電 六三〇

明治四十二年五月創立。明治四十二年清正公三〇〇年祭に際し公の威徳顕彰の目的を以て開設した。

〔館長〕 馬場木壽

〔観覧日〕 毎日、午前八時—午後五時

〔観覧料〕 一〇円

菊池神社宝物館

熊本県菊池郡隈府町隈府

電 一四九

大正八年一月創立。菊池神社の教化運動の一助として設けたもので、菊池氏の遺墨その他を収蔵、展観する。

〔館長〕 櫻井勝之進

〔観覧日〕 午前八時—午後四時 但一

〇月一二日より五日間休館

〔観覧料〕 一〇円

宮崎県立博物館

宮崎市神宮町

電 四〇〇四

昭和二十六年四月創立。昭和十五年、紀元二六〇〇年記念事業として奉賛会が設立した徴古館を同二十六年県立博物館として新発足したもの。考古資料を主とした博物館。

〔館長〕 日高重孝

〔観覧日〕 午前九時—午後四時半  
〔観覧料〕 一〇円

東京画廊一覧

白木屋画廊

中央区日本橋通一ノ九 電 千代田三五五一

高島屋画廊

中央区日本橋通二ノ五 電 日本橋四一一一

松坂屋画廊

中央区銀座六ノ一 電 銀座三一八一

三越画廊

中央区日本橋室町一ノ七 電 日本橋三三一一

兜屋画廊

中央区銀座西六ノ三 電 銀座六三三一一

兼素洞

中央区京橋三ノ四第百生命館 電 東京二〇七〇

壺中居

中央区日本橋通三ノ一 電 日本橋一八四六

松屋画廊

中央区銀座三ノ一 電 京 橋三一一一

サエクスガヤラリー

中央区銀座三ノ二 電 京 橋一〇

和光

中央区銀座四ノ一 電 京 橋二四三三

阿部養清堂

中央区銀座西五ノ五 電 銀座一三一二

村松ギャラリー

中央区銀座七ノ一 電 銀座七四八九

資生堂画廊

中央区銀座西七ノ三ノ五 電 銀座七六四一

新橋画廊

中央区銀座東八ノ三 電 銀座一三九

教寄屋橋

中央区銀座西六ノ六鉄道工 業ビル一階

たくみ

中央区銀座西八ノ三 電 銀座二〇一七

東京画廊

中央区銀座西七ノ五 電 銀座一八〇八

日動画廊

中央区銀座西五ノ一 電 銀座二五五三

丸善画廊

中央区日本橋通二ノ六 電 日本橋二一三三

松島ギャラリー

中央区銀座三ノ二 電 京 橋七五八七

三笠画廊

中央区銀座西六ノ一 電 銀座一四一九

室町画廊

中央区室町二ノ二室町ビル 一階 電 日本橋一六一六

弥生画廊

中央区西銀座並木通り 中央区銀座五丁目川瀬商会 二階

フオルム

中央区銀座五丁目川瀬商会 二階

草土舎画廊

千代田区神田小川町 電 神田三二四〇

竹見屋画廊

千代田区神田駿河台下 電 神田九二七

中央公論社

千代田区丸ビル二階 電 和田倉一一二一

日比谷画廊

千代田区日比谷公園内 港区芝新松田町一九 電 銀座一七三三

光風会美術

会館画廊

伊勢丹画廊

新宿区新宿三ノ八 電 淀橋二五四

西武百貨店

豊島区池袋二丁目 電 大塚一五一

京都画廊一覧

京都府ギャラリー

下京区四条通河原町西入 電 本局五二〇七

丸善画廊

中京区河原町通蛸薬師上 電 本局二一六一

土橋画廊

下京区四条通堺町東 電 本局一二三

大丸美術

中京区四条高倉 電 本局二二二

丸物美術

下京区烏丸通七条上 電 下八七二一

画築堂画廊

下京区河原町通五条下 電 下八七五

祇園商会

東山区祇園町南側五六二 電 祇園一四四六

京都美術倶楽部

東山区新門前通東大路西入

大阪画廊一覧

梅田画廊

北区曾根崎上二ノ三八 電 堀川二六二三

フジカワ

東区瓦町二 フジカワビル 電 二一四九〇一



美交社画廊 東区大川町四 電 北浜二五四二

淀屋画廊 東区今橋五ノ三六 電 北浜六〇一八

堂島画廊 北区神明町五〇 電 堀川五五一九

丸善美術 北区梅田町四七 新阪神ビル二階 電 福島六七九七

阪急画廊 北区角田町六二 電 福島六四六一

三越画廊 東区高麗橋二ノ六三 電 北浜八五一

大丸画廊 南区心斎橋一 電 南三五三一

そごう画廊 南区心斎橋一 電 南八四三六

高島屋画廊 南区難波新地六 電 戎一五五一

松坂屋画廊 浪速区日本橋三ノ四五 電 戎一五三一

近鉄画廊 阿倍野区阿倍野町一ノ一 電 天王寺五一三一

### 美術団体一覧(五。音順)

(3)

一采社(日) 世田谷区成城町一二九

高山辰雄方 昭和16年4月創立、同20年戦災のため展覧会を中止したが翌21年より引続き毎年春に展覧会を開き、昭和28年4月第12回展覧会開催。

〔会員〕 大山忠作、加藤東一、加藤長

美術観覧施設・美術団体一覧

明、河部貞夫、高山辰雄、中村正義、浦田正夫、野島青枝、山口吉三郎、山田申吾、朝倉鑑、我妻碧宇、佐藤閑夫、三尾雄次、嶋谷自然、森緑翠、鈴木竹柏

一水会(洋) 練馬区豊玉北町四ノ一五

田崎廣助方(電練馬六六) 昭和11年12月、田二科会員八名は「会場藝術を非とし、技術を重んじ、高雅なる藝術を尊重することに於て一致、同会を創立した。同12年12月東京府美術館に第1回公募展を開催し、爾後毎年秋季に展覧会を開き昭和28年9月第15回展覧会開催。

〔委員〕 石井柏亭、池部鈞、池邊一郎

裕三彩亭、小野末、奥田郁太郎、高橋庸男、高田誠、田崎廣助、仲田好江、中村善策、中村琢二、納富進、山下新太郎、安井曾太郎、澤澤紅子、福田新生、小山敏三、高野三三男、有島生馬、安宅庸雄、荒谷直之介、木下孝則、木下義謙、鈴木良三

一線美術(洋) 杉並区大宮前四ノ四六

六 岩井彌一郎方 昭和25年7月創立、年1回春に展覧会を開き昭和28年3月第3回展覧会開催。

〔委員〕 岩井彌一郎、石川久三郎、石上駒吉、石井榮、石川晴雄、伊藤行雄、伊藤徳衛、磯村利雄、濱田羊、長谷川ハツ、新野敷一、別府貫一郎、千木良富士、沖田稔、萩原城舟、河崎千代子、神田房光、横山嘉平、田村満、村瀬眞治、上野山清貴、山田篤、山田新吉、矢部桂一郎、町田文雄、松浦喜久次、兒玉勝次、小柳勇兒、秋山良太郎、西東重義、佐々木榮

松、紫藤卓三、平田健三、寺田正、簗輪初太郎、宮澤今朝雄、三浦きよ子、木村博之

(う、え)

上野会(捕) 杉並区馬橋二ノ二四四

山本武夫方 昭和24年創立、東京美術学校出身者よりなる挿絵家を主とする集り。

〔委員〕 伊藤文七、富田千秋、織田音也、小川洗二、小野佐世男、鴨下晃湖、田中良、竹田忠丸、山本武夫、梁川剛一、藤形一男、三輪孝、三谷一馬、三輪秀清水三三三

エスフリ会(洋) 世田谷区若林町四六一

一 西田信一方 昭和27年11月創立、近代絵画の研究會。

〔委員〕 長谷川三郎、西田信一、脇田和、川端實、村井正誠、山口薫、小松義雄

(お)

旺玄会(洋) 武蔵野市吉祥寺三二六

堀田清治方 昭和19年解散した牧野虎雄を主宰者とする旺玄社が21年新に旺玄会として発足したもの。昭和28年5月第7回展覧会開催。

〔委員〕 青山裏、堀田清治、金井文彦、金子保、近藤せい子、小林喜代吉、小林猶治郎、皆見鶴三、長屋男、大久保作次郎、阪井谷松太郎、佐藤文雄、鈴木金平、

高間惣七、高野眞美、田邊嘉重、田澤八甲、遠山純一、梅野順三、吉村吉松  
大阪工藝美術会(工) 大阪市天王寺区逢坂上ノ町一四一 汎工藝社内 乙佳会、九和会を解消してその他の工藝家を加え、昭和23年8月組織した。

〔会務代表者〕 柴崎風神

岡山県民藝協会 岡山県倉敷市土手電倉敷一五四一 昭和21年6月創立、凡ゆる生活用具を再検討してそれを健康、簡素、誠実ならしめ、生活に真の美を直結せしめる為に力を尽すことを趣旨とし、工藝品の調査、蒐集、展覧、指導、地方民藝館の創設経営、工藝研究所及び図案指導所等の開設を事業目的としている。

〔会長〕 大原總一郎代表者 外村吉之介

(か)

華畝美術協会(洋) 京都市上京区北大路新町東入ル

〔事務代表〕 京都市上京区塔之段敷ノ下町四二一 中川義憲方 昭和15年6月創立。紀元二六〇〇年を記念して爾歩会を解散、華畝美術協会として再発足した。昭和28年9月第16回展覧会開催。

〔委員〕 赤澤正次、赤松文子、新井完、荒木貞人、居井直胤、伊丹愛子、井垣嘉平、池田治三郎、井上三郎、岩田順三、梅林良子、上田輝七郎、角野判治郎、北川威夫、楠見文雄、小西

丘太郎、小林富藏、小林正雄、島戸繁  
霜鳥之彦、篠崎貞五郎、鈴木昶、關口正  
夫、武田新太郎、坪井一男、辻川新十郎  
中井潔、中川義憲、中堀愛作、成田浩子、  
成瀬十郎、西岡義一、則元醇、原田久之  
助、伴庄兵衛、富士一男、藤松升之助、  
古澤廣樹、正木順子、松田藤兵衛、松田  
淑子、三尾公三、水谷ミヨ、南素行、宮  
内順三、安江孝治、山尾平、山田新一、  
山田キミ、由里明

関西水彩画協会(水) 大阪市住吉区帝塚山中四ノ一〇 桂龍雄方(電住吉五二四五) 昭和10年4月創立、関西在住の水彩画家の団結、親睦、研究を趣旨とする。機関誌「関西水彩」発行。

〔會員〕 池島勘治郎、別車博資、青野馬左奈、乾一雄、水野修道、大庭しづ子、小倉實海、田村雅保、芹生政夫、庭田定男、松村豐太郎、大久保正義、赤尾長二、桂龍雄、山田一雄、上田素由

菊池画塾(日) 京都市上京区平野鳥居  
前町四二 菊池契月方 菊池契月主宰の  
日本画塾。

**九元社(彫)** 世田谷区玉川奥沢町二ノ  
一四九 森大造 方 昭和9年創立、昭和  
18年迄毎年展覧会を開催していたが現在は活動を中止している。

〔會員〕 高橋泰藏、中野四郎、村井辰夫、鈴木三郎助、長沼孝三、紺谷英儀、石塚貞男、森大造、奥山泰堂、長谷川宏

九室会(洋・彫) 杉並区久我山二の六  
二六 森田信夫方 昭和13年11月創立。  
二科展の第9室を中心とする新傾向作家  
の親睦を図り、併せて各自の研究を目的  
とする。戦時中絶、昭和25年再組織、昭  
和26年第1回展開催、毎年春期展覧会開  
催予定。

〔繪圖讀友會員〕阿部金剛 井上覺造  
桂ユキ子、桑原實、中原實、野村守夫、  
岡本太郎、大澤昌助、荻野康兒、織田廣  
喜、鷹山宇一、寺田竹雄、鶴岡義雄、山  
口長男、山路眞護、山本敬輔、吉原治良、  
伊藤研之、松葉清吾

〔八云〕 安藤幹麿、藤田金之助、萩尾  
テル、塙賢三、春田安喜子、長谷川三千  
春、橋上菁兒、今泉六郎、今長谷巖、稻  
垣克己、因藤壽、伊勢谷陽子、伊藤節尾、  
岩田安郎、狩野守、柏田泰次、加藤孝一、  
加藤正一、木俣滋彦、近藤長三郎、越谷  
繁造、増田勉、森田信夫、中川時之助、

中田豐 浪江勘次郎、根本茂子、西村千太郎、能間弘、大淵陽一、織田りら、小川清、齋藤三郎、榑山勝、佐々木良三、田川覺三、高橋滿洲男、丹下富士男、田中君子、竹中清、戸川串田、戸川ふみ子、上田民子、山本不二夫、山ノ内靖巳、山谷鉄一、米田三男之介、吉村勲、佐岡恒喜、吉田一夫

〔彰義賛助會員〕 淺野孟府、堀内正和、笠置季男、乘松巖、上田曉、植木力、野水信、淀井敏夫

〔會員〕 廣瀬不可止、飯田癡三、岩元梶子、水野修造、野口嘉光、關口孝吉、曾山節雄、植村育子

京都金藝作家協会(工) 京都市上京区  
等持院西町一六 加藤宗巖方 昭和26年  
5月創立。京都金藝作家の同志的集り。  
展覧会を錚錚展という。昭和28年6月第  
2回展開催。

〔會員〕 淺井清太郎、今大路長光、上田哲三、大久保鼎湖、岡村榮治、加藤宗巖、加茂靈峯、金谷五良三良、金江宗觀、小林尚珉、小泉八郎、野田喜市、村田信續、村上直行

京都新彫刻家クラブ（彫） 京都市東山区五条橋東五ノ四六七 清水禮四郎方（電祇園三三三） 昭和27年2月創立。京都在住の中堅彫刻家によつて組織される。昭和28年2月、第2回展開催。

〔会員〕 伊室重孝、清水禮四郎、藤庭  
賢一、藤林重次、河野薫郎、小谷謙、岡  
本庄三、山本恪二、三宅五穂  
鏖（洋） 豊島区要町一ノ四八ノ四  
梶田英一方 昭和27年10月創立。昭和16

年12月東京美術学校油絵科卒業生の集  
団。昭和28年6月第1回展開催。

〔會紀〕綾井秀宣、有海喜久雄、笠木實、梶田英一、黑澤梧郎、澤田正太郎、島田美成、清宮質文、田代利夫、田畔司朗、土屋廣倫、弦田英太郎、富安昌也、中尾良一、細小路眞、山中市郎、柚木祥吉郎、吉原秀夫

(け)

型生派美術家協会(洋) 世田谷区宇奈  
根町八一〇 庫田毅方 国画会中堅會員

により昭和25年結成された。昭和28年第4回展開催。

〔會員〕 宇治山哲平、香月泰男、喜多村知、國松登、熊谷九壽、庫田鬲、須田剋太、福留章太、福井敬一、山崎隆夫、原精一、橋本三郎

現代美術協会(洋) 杉並区阿佐ヶ谷三ノ三四 宮島資雄方 昭和23年11月、日本作家協会洋画部、現代美術作家協会新生派美術家協会の三団体が合同して設立発足したものである。昭和28年6月第9回展開催。

〔委員〕	朝田進、丘野美、小澤正、佐藤亘安、原田雅兆、古川恂、三浦勝治、宮島資雄
〔會員〕	大野堯岳、齋藤森重、鈴木重雄、田中皓四郎、筒井正次、富塚勝男、武藤重典、由比種三郎、升禮、照丘晃子、島崎貞子、相澤謙一

(二)

工彩会(工) 北区中十条二ノ八 會田  
富康方 昭和17年研究団体として発足。  
昭和24年第1回展を開く。昭和28年7月  
第5回展開催その間地方に於いて移動展  
を開催する。

〔會員〕 飯塚小玗齋、伊藤隆光、伊藤  
鐐一、大谷珍石、大坪重周、岡本玉水、  
岡本輝子、山本曠、川上南甫、勝田靜  
璋、竹內蘭山、高木幾望、長野埤志、前  
大峰、松本佐吉、小林清、寺井直次、會  
田富康、有田利章、天野策地、明石義  
祐、櫻井一郎、佐藤貞一、三井義夫、三

田村秀雄、三村昌弘、新村撰吉、平野利太郎、平田郷陽、安きよ子、介川芳秀、中野馨一

〔紅土会(洋)〕新宿区下落合三ノ一八五九 櫻井慶治方 昭和23年6月創立。同年より毎年展覧会開催。昭和28年8月第7回展を開いた。

〔会員〕 櫻井慶治、上島一司、宮脇憲三、矢口洋、武内和夫、野本正雄、海老澤敏夫、花田忠吾、大島健治、武林敬吉、篠田喜代志、仲町謙吉、森清治郎、草野和郎 〔協賛指導者〕 寺内萬治郎、渡邊武夫

行動美術協会(洋・彫) 世田谷区弦巻町一ノ二六ノ一 向井潤吉方(電世田谷三五六一) 昭和20年11月創立、昭和19年二科会解散し、翌年8月終戦後二科会は再結成を図つたがその際主張の異なる旧二科会々員の一部を中心として組織された。昭和28年9月第8回展開催

〔会員〕 (絵画部) 榎倉省吾、福井勇、古家新、飯田清毅、生澤朗、柏原覺太郎、三芳悌吉、向井潤吉、村田實史雄、難波香久三、田中忠雄、高橋進、伊藤信夫、伊谷賢蔵、伊藤久三郎、小林武夫、小出卓二、西坂修、田川寛一、下高原龍巳、田邊三重松、坪内節太郎、浦久保義信、川原章二、山中春雄、高井寛二、佐藤真一、齋藤眞成、津高一、田中勇次郎(彫刻部) 建島覺造、中島快彦、向井良吉、板谷慎、今村輝久、伊勢典賢、林是、阿井正典

光風会(洋・工) 港区芝新校田町一九九 光風会館内(電銀座二七三三) 責任者小寺健吉 明治45年創立。明治44年白馬会解散後、中澤弘光、山本森之助、三宅克己、杉浦非水、岡野榮、小林鏡吉、跡見泰の七氏発起して創立、第1回展を45年6月上野竹之台陳列館に開催した。官展系洋画家の団体、毎年春季公募展を開催。昭和28年4月第39回展を開いた。

〔会員〕 (絵画) 石橋武治、井手宣通、伊藤應九、伊藤悌三、伊藤四郎、岩船修三、伊藤鎧一、井上武、飯田彌生、池野壽彦、服部亮英、橋口康雄、西山眞一、西村厚定、西尾善樹、西村俊郎、西村喜久子、西岡義一、星野正三、遠山清、土佐林豊夫、土橋醇一、戸塚孝三郎、鳥井昇、中條茂、岡田又三郎、小川智、大澤海蔵、大河内信敬、緒方亮平、斧山萬次郎、小川博史、奥山堤、大原省三、大倉克次、大桃寛、渡邊武夫、和田香苗、和田清、河井清一、梶原貫五、花嚴巖、角野判治郎、笠井忠郎、金子徳衛、金澤秀之助、米本一郎、田村一男、高木春太郎、高宮一榮、田中實一、反野博彦、高橋道雄、高光一也、竹岡良太郎、高田正二郎、竹澤基、相馬其一、辻永、辻朗、辻村八五郎、根津莊一、長原坦、中村研一、中澤弘光、中尾達、永田精二、名渡山愛順、内藤隼、中島音次郎、村岡平蔵、宇城時志、上島二司、野平上、黒田頼綱、黒田久美子、熊澤欽三、樽松正利、山中清一郎、山下忠平、山口猛彦、山喜多二郎

太、山崎坤象、山村孝太郎、山本彪一、柳瀬俊雄、山田新一、牧野司郎、松尾正巳、益山雅衛、松浦英章、藤彦右衛門、藤本東一良、古屋浩蔵、舟木徳重、藤井芳子、藤江理三郎、福山進、小絲源太郎、小林眞二、小寺健吉、小林易夫、江藤純平、江坂清作、寺内萬治郎、赤城泰舒、安達眞太郎、足立眞一郎、足代義郎、朝比奈文雄、有馬三斗枝、秋元松子、荒井邦朝、鮫島利久、笹岡了一、飯倉宣暢、笹鹿彪、櫻井悦、櫻田精一、齋藤齊、坂田虎一、櫻井慶治、清原重以知、鬼頭鍋三郎、木村八郎、北濱淳、幸島重雄、由里明、三宅克己、耳野卯三郎、南政善、水上信雄、三輪孝、溝江勘二、三上義人、宮脇憲三、三尾文夫、清水良雄、白石隆一、市ノ木慶治、新道繁、白川一、島野重之、神保和幸、新保兵次郎、庄司榮吉、日原晃、久本弘一、森山肇、森田元子、森桂一、守屋千之、妹尾壽信、瀬戸千代三、鈴木榮二郎、杉村悌、鈴木三五郎、菅谷邦敏

〔工藝〕 一噌元治、西村英夫、大宮隼男、大阿久重治、鷺田うめゑ、川合修二、巽勇、染川鐵之助、辻光典、中上川蝶子、中田満雄、中村俊介、中村董一、夏井清、上野正之輔、上野斌郎、山形駒太郎、小林清、佐藤正巳、杉浦非水

神戶洋画会(洋) 神戶市東灘区本山町田辺三八 三木朋太郎方(電ミカゲ七五八六) 昭和21年創立、阪神在住の洋画家をもつて組織、毎年展覧会を開く。

〔常任委員〕 朝倉斯道、大塚銀次郎、小磯良平、川西英、上田清一、小松益喜、大石輝一、江田誠郎、三木朋太郎

〔会員〕 宮下貞之介、大石輝一、藤井二郎、石黒平三郎、根木從之介、伊藤慶之助、辻愛造、山崎隆夫、上田清一、三木朋太郎、前田藤四郎、大垣泰治郎、田村孝之介、岡正一、松田豊、奥村隼人、小磯良平、小松益喜、青木一夫、中岡恒雄、江田誠郎、久本弘一、細谷重雄、津谷龍市、佐藤篤郎、川西英、角野判治郎、伊川寛、別原博資、榊井一夫、尾田龍、新井完、神原浩

國画会(洋・版・工・写真) 中野区橋場町一三 土田文雄方(電中野二七一〇呼) 大正7年1月小野竹喬、土田泰徳、村上華岳、野長瀬晩花、榊原紫峰の五名は國画創作協会を設立、爾來毎秋東京及京都に於て協会展を開催し、又入江波光はじめ数名の若い作家を同人に推挙したが、同15年梅原龍三郎、川島理一郎の兩名を迎えて第二部を新設し更に富本憲吉、金子九平次を加えて彫刻及び工藝を同部に置いた。その後昭和3年7月解散したが、第二部は存続して國画会と改称し大橋幸吉、梅原龍三郎、川島理一郎、金子九平次、富本憲吉、山脇信徳の旧会員に新に高村光太郎、椿貞雄、河野通勢の三名が参加し、翌4年「第4回國画会展」を公募の上開催した。10年梅原龍三郎及び富本憲吉は新帝院会員に任命、同年6月川島理一郎は同会を脱退した。尚第14回展には写真部を新設し、鑑査には福原信三、野島康三の兩名が當つた。同14年彫



刻部は同会を結束離脱し、清水多嘉示を除いて他の全員が新制作派に合流し同会は彫刻部を解消した。昭和28年第27回展開催。

〔名譽會員〕 梅原龍三郎 〔會員〕

〔繪面部〕 青山義雄、青木達彌、伊藤藤、池部貞喜、井上三綱、宇治山哲平、内堀勉、大森啓助、大谷房吉、大淵武夫、尾田龍、柏木俊一、川口軌外、香月泰男、喜多村知、木内廣、國松登、熊谷九壽、久保守、庫田發、小林邦報、澤野岩太郎、佐藤哲三、瀧川榮志、島内キミ、杉本健吉、須田翹太、曾宮一念、立石鐵臣、高松健太郎、辻愛造、椿貞雄、土田文雄、中村博、中村好安、長谷川春子、原精一、橋本三郎、南風原朝光、平塚運一、日向裕、福留章太、福井敬一、二見利節、細谷重雄、益田義信、馬越樹太郎、眞垣武勝、松木満史、松田正平、宮田重雄、村上巖、山村誠、山崎隆夫、養田つや子、鈴木正二、小館善四郎、上田清一、田中道久、北村綱義、音部幸司 〔版面部〕 畦地梅太郎、橋本興家、恩地孝四郎、川上澄生、川西英、齋藤清、下澤木鉢郎、品川工、笹島喜平、關野準一郎、平塚運一、ブノワ、前田政雄、山口源 〔写真部〕 入江泰吉、小野由行、木村伊兵衛、中居正躬、西山清、錦古里孝治、野島康三、北角玄三、長濱慶三、吉川富三、島田貫一郎 〔工藝部〕 バナード・リーチ、上田恒次、及川全三、岡村吉右衛門、河井寛次郎、川上澄生、河井武一、小島恵次郎、後藤清吉郎、佐久間藤太郎、芹澤銈介、鈴木繁

男、外村吉之介、濱田庄司、廣本長子、船木道忠、三代澤本壽、柚木沙彌郎、柳宗悦、柳悦孝、安川慶一 〔理事〕 青山義雄、椿貞雄、宮田重雄、野島康三、西村總左衛門、福島繁太郎、柏木俊一 〔國畫3季會〕 大田区調布鶴ノ木町一八六 木内廣方 昭和28年6月創立。国画會所所屬の三〇代作家を主体とする。昭和28年9月第1回展開催。

〔會員〕 石原宏策、音部幸司、木内廣、小泉富司、高松健太郎、野田好子、本田克己、和田忠志、小館善四郎、川村浩章、菊地辰幸、鈴木正二、横田鑒士、張替正次、渡邊貞一

〔コンレアル美術協會〕 堺市旭ヶ丘南陵通三丁七四 關本弘三郎方 大阪市立工藝学校第一八期生の同志六名により昭和26年5月創立。昭和27年11月第3回展開催。

〔會員〕 稻井誠一、中辻大、中島洋、小田村貞雄、小笠原美代治、關本弘三郎

〔週日會〕 台東区谷中真島町一ノ一 羽藤馬佐夫方 昭和13年創立、昭和27年7月第22回展開催

〔會員〕 伊藤幹雄、井上正喜、羽藤馬佐夫、堀需、加藤正信、金子紘通、茅原隆、横山徳二郎、竹上義治、高木秀男、中島久雄、野地正記、山本甚作、矢島俊一、古賀正秋、越次勇、佐藤昌祐、木村昭彌、白石延夫、鈴木堅司、杉原正一、堀口安衛、小野弘雄、後藤高司、荒井一男、野末兆光、酒井たみ、徳本立憲、小泉由雄、角田和志郎、横山俊郎

〔サロンド・ジュワン〕 豊島区長崎六ノ四一 米倉壽仁方 昭和26年6月創立、昭和28年7月第2回展開催。

〔會員〕 濱田稔、堀田操、大口登、渡邊寛治、米倉壽仁、中島稔、眞島建三、三水公平、木谷俊、計葦夫、盛益子

〔三光會〕 世田谷区松原町一ノ四六 山下義方 川合玉堂の塾生により昭和21年11月創立、昭和28年3月第7回展開催

〔會員〕 井上恒也、田中針水、山下巖

〔示現會〕 中野区鷺ノ宮一ノ四七二 橋原健三 昭和22年10月創立、昭和28年3月第6回展開催

〔代表者〕 石川寅治 〔常任委員〕 石川寅治、三上知治、奥瀬英三、光安浩行

〔委員〕 江崎寛友、米田圭治、原本虎雄、水戸敬之助、三井滋、松本重雄、中村新治郎、橋原健三、奈良岡正夫、能見三次、大沼静巖、大内田茂士、細島昇一、阿部廣司、山田説義 〔會員〕 安西恒男、青木純子、阿部廣司、江崎寛友、富士一男、半田圭治、原本虎雄、原本敏子、平澤定人、細梅久彌、細島昇一、石川寅治、伊藤源右衛門、木下克己、木下邦子、工藤靖彦、三上知治、水戸敬之助、三井滋、光安浩行、松本重雄、盛忠七、中村新次郎、中村勝美、中谷健次、橋原健三、奈良岡正夫、内藤秀因、能見三次、加藤義雄、奥瀬英三、奥森多可志、大沼静巖、大内田茂士、太田嘉兵衛、織田寅之助、齋藤俊雄、佐野喜太郎、清水敦次郎、關口文雄、芹生政夫、鈴木満、田原輝夫、武田一郎、玉井力三、寺崎善次郎、戸津文雄、内野英實、飛塚安吉、吉原甲蔵、山川利夫、山田説義、進藤正一郎、佐々木四郎、盛國春、平光軍一、吉田敏夫、波多野光臣、梶一郎、大坪實

〔四耕會〕 影・工・写真 京都市東山区高台寺樹屋町三九九 宇野三吾方 〔電祇園二四二〕 昭和23年10月創立、彫刻・工藝写真等の研究団体。毎年1回公募展開催。

〔會員〕 伊豆藏壽郎、宇野三吾、岡本素六、大西金之助、加藤仁、鈴木康之、中西美和、澤田一三、林康文、雲雀民雄、藤田作、益田哲、三浦省吾、渡邊好章

〔日社〕 千葉県松戸市上矢切三五七 奥田元宋方 〔電松戸三二七〕 昭和25年2月創立、官展系日本画家の研究団体毎年各地で展覧會開催、昭和28年4月第4回展開催。

〔顧問〕 伊東深水、兒玉希望、矢野橋村 〔委員〕 田中針水、笠原可於、間宮正、白井烟嵩、松浦満、西野新泉、須田珠中、伊東萬籟、濱田台兒、立石春美、秋元節朗、横尾芳月、武藤嘉亭、森田秀治、渡邊阿以湖、白鳥映雪、奥田元宋、村松乙彦、佐藤太清、北村明道、森正元、福與悦夫、直原玉青 〔會員〕 山下巖、鳥居言人、田岡春徑、八幡白帆、森戸國



次、田栗貞華、奥村采非、松本敦南、寺島紫明、融紅鸞等八〇余名

実験工房(綜) 品川区上大崎長者丸三〇〇 鈴木博義方 (電大崎三八七四)

美術家、音楽家、文藝家等の集団。

(会員) (美術)北代省三、駒井哲郎、山口勝弘、福島秀子、今井直次、山崎英夫、大辻清司(音楽)武満徹、鈴木博義、湯淺譲二、福島和夫、園田高弘(文学)秋山邦晴

室内構成美術家連盟 目黒区金町一〇〇 佐々木達三 (電荏原二四〇九)

昭和26年創立、同年第1回展開催。

(会員) 佐々木達三、岩瀬要三、濱中勝、喜多村政良、野口壽郎、奥平貞俊、水谷文平、大泉博一郎、狩野雄一

信濃美術会(綜) 大田区山王一ノ二五六二 伊川鷹治方(電大森六九一) 昭和27年3月創立。在京信州美術家及在郷有力美術家による団体。昭和28年6月第2回展開催。

(会員) (日本画) 町田曲江、江崎孝坪、龜割隆、藤森壽藝、他(洋画) 伊川鷹治、辻村八五郎、中川紀元、小山敬三、高橋貞一郎、小穴隆一、須山計一、小林邦報、宮川仁、矢崎牧廣、日向祐、關四郎五郎、志村一男、他(彫塑) 清水多嘉示、瀬戸團次、小林章、小林三郎、長田平次、大和作内、矢崎虎夫、他(工藝) 杉田禾堂、北原三佳、大森光彦、山岸堅二、他

示風会(工) 練馬区豊玉北四ノ二ノ二祝三良方 昭和26年2月創立。東京及近

県在住の日展出品者(染・織・綴)の集団。昭和28年4月第2回展開催。

(会員) 岩下洋、磯部陽、祝三良、今井輝子、池田和子、般若佑弘、富岡伸吉、十束敏子、河合研二、高久空木、大坪重周、山岸堅二、平野利太郎等二五名

JAN(洋・写) 杉並区阿佐ヶ谷四ノ三八五 濱谷次郎方 昭和9年創立。昭和28年2月第22回展開催。

(会員) 荒木剛稔、井上孟、荻原榮治、加藤文生、五味秀夫、田中岑、山下鐵之輔、秋山庄太郎、藤本四八、他一〇余名

自由美術家協会(洋) 新宿区矢来町七四(電九段八六三〇) 保守的な形式主義、形式模倣を超越し、自由に新しい前衛藝術を作ろうと云う主張で結ばれている。昭和11年7月創立。昭和12年第1回展を開催。戦時中昭和16年第5回展より美術創作家協会と改称したが昭和21年第9回展(大阪)より旧称に復活、昭和28年10月第17回展開催。

(会員) 麻生三郎、中條顯、長谷川三郎、濱口陽三、堀内規次、今井繁三郎、井上長三郎、井上照子、池田榮、池田淑人、井澤元一、糸園和三郎、稻田三郎、久保田久一、木ノ内岬、昆野恒、小林良曹、小山田二郎、小谷博貞、小谷良徳、小林邦二、松本正子、三井滋夫、三木弘、水谷武彦、森芳雄、難波田龍起、中野淳、廣田嘉典子、長野誠之助、野見山曉治、大野五郎、佐田勝、佐藤美代子、澤野井信夫、清希卓、園田猛、末松正樹、田中健三、竹中三郎、手塚益雄、清水七太郎、寺田球一、富成忠夫、登崎太三郎、富山妙子、鶴岡政男、寺田政明、山口英哉、山口正城、山田光春、吉井忠、小野里利信、中島保彦、清水正策、西田信一、藤間清、峰孝、新田實、西村保史郎、塚谷政義、山内豊喜、吉本時昌、鬼頭曜、仲村俊夫、濱田知明、藤澤友一、渡方敷唯信、菊地又男、川口精六、倉石隆、中山一郎、文狭克明、團勇二、荒木道夫、小野忠弘、山田肇雄、豊田一男、松本忠義、上原二郎、川合喜二郎、松永浩二、中村健一郎、荒井文雄、加納敬次、野崎南海雄、矢島甲子夫、小菅徳二、中本達也、八鐵四郎、上野省策、島鐵生、西良三郎、前川博人、鈴木福男、森川昭、森堯茂

主潮社(日) 大阪府豊中市麻田一〇九四ノ九 矢野橋村方(電石橋三四二) 昭和22年1月創立、矢野橋村を会長とする日本画塾。(委員長) 直原玉青

出版美術家連盟 新宿区下落合四ノ二一一 林唯一方(電落合三三五四) 昭和25年10月創立、戦前の日本挿絵画家協会を戦後改称したもの。(理事長) 岩田専太郎(専務理事) 鴨下晃湖

朱葉会(洋) 新宿区下落合二ノ六六七吉田ふじを方(電落合四三三七) 大正7年創立、女流洋画家の団体、昭和28年6月第5回連立展開催。

(会員) 友田みね子、吉田ふじを、村井静江、山田文子、大久保為世子、赤津捨子、岩村芳子、野内静子、水澤順子、南桂子、吉田千鶴子、小川イチ、佐藤榮子、森野照子、鹿島よし子、仲敏子、直井澄子、梅川彫子、重松京子、他

青甲社(日) 京都市東山区東大路西入西山翠峰方(電祇園一六八四) 西山翠峰を熟主とした日本画研究団体、大正10年1月創立。(幹事) 西山英雄

春陽会(日) 大阪市住吉区塚崎山中三ノ二六 中村貞以方 中村貞以の主催する日本画の画塾。昭和11年5月創立。昭和27年6月第11回展開催。

春陽会(洋版・舞台装置) 杉並区和田本町八三二 水谷清方(電中野六三七八) 大正9年秋日本美術院洋画部を脱退した小杉未醒、山本鼎、倉田白羊、森田恒友、長谷川昇、足立源一郎の六名は同11年1月、新歸朝の梅原龍三郎を加え、更に九名の客員を迎えて同会を創立、「春陽会」は従来屢々見たる如き既成会への社会的対抗として興らず、単なる藝術家の心を以て因縁相熟したるものです」と声明した。翌年5月上野竹之台陳列館に第1回展を開き、爾後毎年春季に公募展を開催し、又東京開催後大阪、名古屋等に地方展を催している。昭和26年から舞台美術部を設けた。昭和28年4月第30回展開催。尚春陽会研究所は昭和4年開設、現在に及んでいる。

(会員) 油絵 石井鶴三、石井光楓、伊藤慶之助、岩田榮之助、伊川鷹治、新沼杏一、岡鹿之助、小穴隆一、鬼塚金華、小栗哲郎、大澤鉦一郎、小川マリ子、若山爲三、加山四郎、川端彌之助、横堀角次郎、吉田達磨、高田力蔵、高橋辰雄、田中壽太郎、田川勤次、土屋義郎、中川一政、南

美術団体 一覽

二二三

城一夫、村山密、川隅路之助、中谷泰、中村徳三郎、上野春香、栗田雄、倉田三郎、藤野龍、小杉放庵、野村千春、遠藤典太、足立源一郎、佐藤篤郎、本村莊八、水谷清、三雲祥之助、南大路一、宮田武彦、角南松生、今竹七郎、田邊謙輔、本庄起(版画)長谷川潔、前田藤四郎、駒井哲郎、北岡文雄(舞台美術)伊藤嘉朗、吉田謙吉

上彩会(綜) 千代田区立今川小学校内(電茅場町七八〇九)代表者藤澤典明、昭和22年創立、東京都小学校在職者にて終戦後東京都学術派遣生として東京美術学校に派遣された二六名にて結成する。

女流画家協会(洋) 渋谷区八幡通一ノ八 東山沙智子方 昭和21年11月創立。女流画家相互の研究と新人の登龍門としてアンデパンダン形式の展覧会を開催する。昭和28年6月第7回展開催。

新工入協会(工) 世田谷区上馬町二ノ二八 北原央方 昭和26年12月創立、若い工藝家の研究団体、昭和28年5月第3回展開催。

〔会員〕 辻輝子、中村俊介、吉田重郎、北原央一五名

新構造社(綜) 北多摩郡小金井町小金井四四八 三村英一方 昭和10年6月構造社有志幹事会は絵画部の解消を決議したが同部は翌月構造社総会を招集彫刻部会員を退会者なりとして決議し同年11月第9回構造社絵画展を公募の上開催した。11年7月彫塑団体十七会の加盟により名

を新構造社と改称、更に工藝部を新設した。昭和24年から太平洋画会、新構造社、朱葉会、創造美術会の四団体による自主連立展を開催し、3回展を了えて太平洋画会が退会、三団体により連立展を運営している。毎年1回展覧会開催、昭和28年6月第5回自主連立展開催。

〔会員〕 (絵画) 新井時厚、本目勇都、市川兼治、石崎勝三郎、改井貞子、何徳来、木村晃郎、清浦正風、楠本繁、北澤博生、小祝嘉一郎、齋藤六郎、齋藤慶一、三村英一、岡田洋采、岡本壽一郎、岡義長、古川彰治郎、中川安一、南部一信、難波魁、大野元明、大澤康之、太田友一、及川康雄、小田福丸、小口一郎、島太郎、三枝惣太郎、妹尾弓子、上松二朗、竹澤要作、寺中靖直、徳山巖、多比羅榮一、山本好信、下淵冷泉子、山中馨(彫刻) 濱田三郎、思田忠一、鍋元治、林達川、鈴木博、寺畑助之丞、戸張幸男(工藝) 齋藤あき子(写真) 秋山青磁、岩間慎久、則松皓一、天野光章、熊谷辰男、長口富吉、仙波巖、八木治、三澤貞之助、赤穂英一、立花浩二、山田廣次、田村榮、山名常人

再興新興美術院(日) 中野区江古田二ノ一五 茨木杉風方 昭和12年9月日本美術院を脱退した元院友一二名を以て結成、戦争中一時中絶していたが昭和25年旧新興美術院同人六名に他二名を加え再興新興美術院として発足。毎年春秋2回展覧会を開催、昭和28年11月第3回秋季展開催。

〔会員〕 茨木杉風、保尊良朝、横田仙草、田中案山子、岡田魚峰森、小林集居人、鬼原素俊、芝垣興生、高島祥光、林部圭幸、岡田錬石、倉持晋一、松永光玉、兒玉三鈴、岩崎巴人、上田臥牛、安孫子荻聲、箱山精一、花岡朝生

新樹会(洋・彫) 台東区谷中清水町三 大河内信敬方(電駒込四八八七) 昭和22年3月創立、昭和28年8月第7回展開催

〔会員〕 井手宣通、原勝郎、濱口陽三、大河内信敬、大久保泰、山本豊市、朝井閑右衛門、齋藤愛子、木内克、南政善、清水多嘉示、鈴木榮二郎

新樹会(工) 京都市上京区北野紅梅町三二 黒田暢方(電西陣六八二八) 昭和23年5月創立。昭和23年の京都絵画專門学校卒業生を中心に結束した染織研究団体、昭和28年6月大阪松坂屋で展覧会開催。

〔会員〕 伊藤逸平、横山英明、中島正三郎、黒田暢、寺石正作、齊田あさ、来野月乙、日高祥三郎、杉田博美、鈴鹿雄次郎

新匠会(工) 京都市上京区新島丸頭町富本恵吉方(電上七三六) 昭和23年新匠工藝会として第1回展を開催、昭和26年第5回展より新匠会と改め、昭和27年在野団体として新発足。昭和28年第8回展開催。

〔会員〕 (陶) 福田力三郎、藤本能道、熊倉順吉、近藤悠三、森一正、鈴木清、富本恵吉、徳力孫三郎、徳力牧之助、山田結(染) 稻垣稔次郎、河合隆三(漆) 山永光

甫(金) 増田三男  
森々金(日) 杉並区阿佐ヶ谷三ノ五二八 川崎小虎方(電荻窪一〇七七) 昭和25年7月川崎小虎塾有志により結成。昭和28年5月第3回展開催。

〔顧問〕 川崎小虎、東山魁夷〔会員〕 石曾根貞竜、石田重子、箱山精一、大田歳、奥山芳泉、小倉芳司、小澤春子、川崎鈴彦、川崎春彦、田中千恵、永山十志夫、奈良裕功、小關きみ子、佐藤永芳、三河義太郎、山本瑛幾、大島秀信、小野茂明、石倉正富

新水彩作家協会(水・染色) 杉並区上荻窪一ノ一三 互井開一方 昭和24年2月創立、昭和28年3月第5回展開催。

〔会員〕 (水彩部) 姫野正義、古郷八郎、小林新吉、前林章司、庭野福次郎、瀧澤清、互井開一、氏家秀之進、豊千里、増田大男、大久保覺郎(染色部) 大坪重周、奈良東明子

新制作協会(日・洋・彫・建) 豊島区椎名町一ノ一八〇三 竹谷富士男方 昭和11年7月、第二部会が文展に参加するに及び猪熊弦一郎、内田巖、佐藤敬、中西利雄、小磯良平、三田康の六名は同会を離脱、脇田和、伊勢正義、鈴木誠の三名とともに新制作派協会を設立、同14年7月国画会の彫刻部を脱退した本郷新、佐藤忠良、山内壯夫、柳原義達、吉田芳夫、舟越保武、明田川孝によつて彫刻部を設けた。同24年には建築部を新設、26年には日本画在野団体創造美術と合流し新に日本画部を設け新制作協会と改称し

た。展覧会回数は従来の回数を追うことになった。昭和28年9月第17回展開催。

総意に依り新たに最鳥社を結成した。現在山口華楊が主宰する。

〔會員〕(油絵部) 伊藤繼郎、猪熊弦一郎、石川滋彦、伊勢正義、荻太郎、荻須高徳、脇田和、竹谷富士雄、内田武夫、桑田道夫、小磯良平、小松益喜、古茂田守介、佐藤敬、坂井範一、三田康、三岸節子、鈴木誠、太田忠、川端實、田中修、瀬島好正、西田勝、角浩(日本画部) 岩崎鐸、堀文子、奥村厚一、吉岡堅二、高橋周桑、向井久万、上村松篁、山本丘人、福田豊四郎、朝倉攝、麻田鷹司、秋野不矩、澤宏毅、菊池隆志、廣田多津、稗田一穂、信太金昌(彫刻部) 伊東俛、早川巍一郎、西常雄、本郷新、吉田芳夫、田畑一作、村田勝四郎、柳原義達、山内壯夫、山本常一、舟越保武、明田川孝、芥川永、佐藤忠良、菊池一雄、久保孝雄、武次郎、山本悟二、岡本庄三(建築部) 池邊陽、岡田哲郎、吉村順三、谷口吉郎、丹下健三、山口文象、前川國男、劍持勇

(す)

水彩聯盟(水) 品川区東大崎三ノ二一五 荒谷直之介方 昭和15年5月創立、昭和28年3月第12回展開催。

〔會員〕 荒谷直之介、春日部たすく、小堀進、長澤節、上田折農、古川弘、海老原省集、山本彪一、牧原萬之助、仁戸田秀吉、中村忠二、酒泉淳、増永直樹、坂上明司、寺居健一、加治屋隆、三橋兄弟治、新井邦雄

(せ)

生活工藝集團(工) 中央区寶町一ノ二 前田保三(電京橋二〇六三) 型々工藝集團とコ工藝が合体、同時に同志を糾合して昭和26年発足した。昭和28年3月第1回展開催。

〔會員〕 麻田蓮三、淺野陽、飯田美郎、磯矢阿伎良、緒方正祥、小倉紘梧、北村一朗、後藤年彦、鈴木泰、須田利雄、関谷四郎、田中芳郎、田村耕一、帖佐美行、寺本美茂、内藤四郎、西川宏夫、西村純一、林尚月齋、林二郎、前田保三、宮野光雄、矢部連光、吉原良雄

菁莪会(日) 京都市上京区上賀茂坂口町二 水田竹圃方 水田竹圃の主宰する日本画塾。

青季会(洋) 練馬区豊玉北四ノ一 新

道整方 昭和22年創立。年一回展覧会開催。

〔會員〕 森田元子、鬼頭銅三郎、幸島重雄、土佐林豊夫、田村一男、大澤海蔵、小川博史、高光一也、櫻井悦、村岡平蔵、朝比奈文雄、新保兵次郎、新道繁

青丘会(洋) 新宿区下落合四ノ一五八 高木紀重方 日展所屬各団体の中堅作家各二名よりなる研究団体。昭和25年9月創立。

〔會員〕 西尾善積、渡邊武夫、大内田茂士、橋原健三、高田誠、廣瀬功、森田茂、山本日子士良、伊藤清永、平松讓、小野彦三郎、藤橋正枝(在仏會員館慶二)

青晴会(洋) 中野区橋場町一三 土田次枝方(電中野二七一〇呼) 国画会の在京女流出品者により昭和26年結成された。

〔會員〕 田中美知子、土田次枝、野田好子、山本友子、川越昭子

青陶会(陶) 京都市左京区岡崎田勝寺町 楠部彌式方(電吉田三一五二) 昭和28年6月創立。楠部彌式を中心とする陶藝研究会。

〔會員〕 一〇余名。

青龍社(日) 大田区新井宿四ノ一〇五 三 川端龍子方(電大森三二二) 昭和3年、日本美術院を脱退した川端龍子が、龍子及び其御形勢員の製作発表の機関として同4年6月同社を創立した。同年東京府美術館に第1回展を開催。同28年9月第25回展開催。尚秋期本展覧会に対して毎年「春の青龍社展」を開催する。春期

展は秋期展に於ける入選者を出品資格者として鑑別の上陳列する。「健剛なる会場芸術」を唱え、在野団体として官展には参加しない。

〔主宰〕 川端龍子(社人) 加納三樂、福岡青嵐、山崎豊、市野亭、安西啓明、小島鼎子、時田直善、龜井玄兵衛、琴塚英一、松宮左京、佐藤土筆、佐々木邦彦、結城天童、大塚香緑、竹内未明、渡邊不二根

纖維意匠創作協会(工) 中央区日本橋兜町三ノ五 米山ビル(電兜町五七一五、七七七六) 昭和25年3月創立。纖維業界の共同研究機関として纖維意匠及流行に関する研究グループを組織し各事業会社との連携により製品の向上に寄与する目的で設立された。別にTDC美術研究所を設けている。

〔理事長〕 大島亮治(常任理事) 新井泉(専門委員) 毛利登、乗松巖、小池岩太郎、由良玲吉、石山彰、池邊義敦、池田美明、松川照一、河野鷹思、小杉二郎、福田良一

前衛美術会(洋・彫) 豊島区千川町二ノ一 山下菊二方(電落合五一七六呼) 昭和22年5月創立。戦後、美術文化協会より分け、井上長三郎、吉井忠、赤松俊子、佐田勝、山下菊二、堀内規次、井手則雄等を中心として設立されたが其後會員は若干変動があつた。昭和27年6月第6回展開催。

〔會員〕(絵画) 尾藤豊、岩崎ひろ、

農鳥社(日) 京都市上京区北野紅梅町三三ノ一 山口華楊方 明治45年創立の西村五雲、農鳥社は昭和13年9月五雲の逝去により解散、同年11月6日旧塾生の

〔會員〕 東俊二、勝田寛一、藤澤典明等一六名

美術団体一覽



岩原正男、箕田源二郎、本島宏一、奈良次雄、中野秀人、小川宏、大塚陸、菅野陽、島田澄也、杉浦眞幸子、櫻井誠、高山良策、山下菊二、新井廣治、鈴木賢二、瀧平二郎、大野齊治、伊藤朝彦、ひろたこういち、瀧連三、穂積肇、宮城泰助、黒澤悟郎、恩地邦郎（彫刻）井手則雄、入江弘、林原英世、武内芳夫、山喜多次世志、吉中道夫

全日本画人連盟（日・洋・版・写）杉並区馬橋三ノ四二四 土味川独甫方 昭和25年1月創立、昭和28年7月第4回展開催。

〔會員〕 土味川独甫、中林松太郎、朝木良之助、關根弘、菅野剛吉、渡邊健、遠藤敏彌、窪田知矩、奥田正昭、竹内利枝、杉浦以登、小林恒火子、恩田耕作、飯田庸夫、木村光夫、水谷賢二

全日本工藝美術家協会（工）千代田区有楽町二ノ五 東京都商工指導所内 梨谷静山氣付（電和田倉二二八六）昭和26年10月創立。

〔會長〕 徳川宗敬〔副會長〕 海野清、高村豊周〔委員長〕 杉田不堂〔事務局長〕 梨谷静山

（そ）

創型会（彫）世田谷区玉川奥沢町二ノ一四九 森大造方（電田園調布三二八〇）九元社の會員有志により結成。昭和26年11月創立。昭和28年第2回展開催。

〔會員〕 森大造、中野四郎、菅原安男、村井辰夫、奥山泰堂等二六名

創藝協会（洋・彫・工・写）杉並区東荻町六九 神津港人方（電荻窪四四三）昭和25年3月創立。昭和24年6月緑巻会第10回展終了後、解体再編成を行い創芸協会として再発足したもので緑巻会を継承している。昭和28年4月第4回展開催

〔會員〕 尾崎一草、神津港人、河野磨津良、金澤茂元、後藤嶺三、佐藤利平、島田彦五郎、田島長齡、中森避、平井為成、山下鐵之輔、小林三郎等二七名

造型版画協会（版）台東区金杉一ノ六清水正博方（電浅草一九〇）昭和7年新版面集団として創立。11年第6回展を経て組織変更、12年3月造型版画協会と改称、版画の純粹なる繪画的造型性の確立を目的とす。戦時中一時展覧会を休止し、24年再出苑して28年11月第11回展開催。

〔會員〕 松下芳太郎、馬淵聖、水船六洲、武藤六郎、小野忠重、柴秀夫、清水正博

造形美育研究所 浦和市外大戸四二八手塚又四郎方（電浦和三一九〇呼）昭和26年11月創立。

〔會員〕 石原英雄、大里光春、岡澤光雄、手塚又四郎、染谷英五、田中修、飛岡文一、磯谷猛、三森一伸、番匠宇司、田村俊夫

創元会（洋）中野区鷺ノ宮二ノ八七五 會員辰雄方 昭和15年創立。昭和28年4月第12回展開催。

〔會員〕 青地秀太郎、安藤信哉、金澤重治、會員辰雄、鈴木千久馬、中野和高、田中繁吉等一〇〇名

創作工藝協会（工）大田区西六郷一ノ七 各務クリスタル製作所内（電蒲田三三一〇）昭和27年6月創立。工藝的素材を以て自由な創造をめざすと共に産業工藝に於けるデザインの水準を高めるために積極的な活動を行う。昭和28年9月第2回展開催。

〔會員〕 高橋節郎、吉田丈夫、佐治正、佐藤潤四郎、染川鐵之助、芳武茂介、青木滋芳、蓮田修吾郎

創造美術会（洋・写）港区芝公園一五号地一一 樹下行雄方 昭和22年創立。同28年6月第5回連立展開催。

〔會員〕（絵画部）保科米三、山村勝人、松本茂雄、青樹宮三、坂口辰己、樹下行雄、國分治、椎名剛美、下田篤次、外山英知、福島長二朗、小泉鐵太郎、坂田悦三、金子弘、染木照、渡邊喜一、小栗慶太郎（写真部）小台正勝、風見武秀、岩佐義文等七名他に実用美術部會員五名

創造美術協会（洋・彫）大阪市住吉区粉浜本町三ノ二 上嶋龍方 昭和10年創立の洋画団体セクションダールが同15年創造美術協会と改称、関西在住の各派美術家による研究団体として組織されたもの。毎年會員展、公募展を開催する。

〔実行委員〕 上嶋龍、荒木由三、伊藤歳夫、貝原六一、神戶繁雄、藤本美弘〔委員〕 西坂修、玉澤潤一、小林武夫、

下高原龍巳、高須國之、川原章二、森島包光、船越かつみ、荒井秀宜、野尻弘、田中阿喜良、藤田重夫、陰山光義、武本憲太郎、山添信、今村市久、米田勇之介、菊地三郎、今村輝久、白石正義、仲眞弘〔會員〕四七名

双台社（洋）世田谷区玉川奥沢町一ノ三八四 鍋谷傳一郎方 昭和16年創立、昭和28年8月第12回展開催。

〔同人〕 石井柏亭、赤城泰舒、荒谷直之介、上田哲農、岡田行一、大石俊彦、大兼實、刑部人、下澤木鉢郎、鈴木良三、鈴木信太郎、須山計一、田坂乾、瀧川太朗、近藤吾朗、高橋唐男、近岡善次郎、千ヶ崎梯六、田代光、多和與三、齋藤州外、平塚運一、鍋谷傳一郎、眞下慶治、松田文雄、松村三冬、望月省三、他

蒼野社（日）神奈川県逗子町山ノ根四二三 中村岳陵方（電逗子三七九）中村岳陵の主宰する日本画塾。

（た）

第一美術協会（洋）〔事務局〕 足立区上沼田町九九八 野澤孝作方 昭和4年5月創立。毎年展覧会開催、昭和28年5月第24回展開催。

〔委員〕 石川重信、高橋亮、谷井喜三郎、佐野忠吉、細井繁誠、任補豊丸、横山群、竹野谷仁重、村上松次郎、松坂康、野澤孝作、岡登貞治、齋藤茂

第二紀会（洋・彫・造型）杉並区高井戸四ノ八五九 栗原信方 二科会は昭



和19年第30回展後解散し戦後再結成を図つたが旧二科会員黒田重太郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井禮市の九名は参加せず旧二科会の活動を第一期とし、戦後新しく第二の紀元を劃するの目的を以て昭和22年5月第二紀元を創立した。昭和28年10月第5回展開催。

〔会員〕 (絵画) 黒田重太郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井禮市、佐野繁次郎、橋本徹郎、峰岸義一、宮川仁、藪野正雄、成井弘文、大兼實、大石俊彦、佐佐木孔、秋保正三、高山道雄、森英、津田周平、中野安次郎、井上安男、佐伯米子、土岐國彦、近藤嘉男、島岡實、鳥取敏、兒玉幸雄等九四名 (彫刻) 川上全次、菅沼五郎、中川為延、松村外次郎、八柳恭次 (造型) 原弘、龜倉雄策、金子徳次郎、河野鷹思、桑澤洋子

太平洋画会 (洋・彫・字) 文京区白山御殿町一〇 布施信太郎方 明治22年創立の明治美術会を同34年組織を一新し、翌年1月太平洋画展と改称。第1回展を上野公園第五号館に開催した。同37年に洋画研究所を開設、(昭和4年より戦災焼失迄太平洋美術学校と改称) 昭和28年7月第49回展開催。

〔委員〕 (絵画) 井口勇、石井明、石井彌一郎、早川芳彦、原正俊、堀澤、大木卓、大森商二、川村信雄、河合敏雄、多々羅義雄、高橋虎之助、多田榮二、佃武昭、辻周里、山田武、前田眞一、布施

信太郎、近藤洋二、小坂健三、近馬勘吉、齋藤武 (彫刻) 吉田陽悦、宗像庄一郎 (写真部) 大東元、渡邊義雄、金丸重嶺、田中清隆、魚住勸、相浦勝

〔工〕 京都市左京区下鴨東本町三三三 皆川泰蔵方 (電上六二二) 昭和23年4月創立。染色美術家の集り、毎年一回京都にて展覧会開催。

〔会員〕 皆川泰蔵、佐野猛府、今西良雄、春日井秀雄、三浦景雄、山出守二

(ウ)

竹杖会 (日) 京都市上京区衣笠小松原北町七六 濱田觀方 明治28年故竹内栖鳳塾生にて創立。昭和27年4月第5回展を京都で開催。

〔会員〕 西山翠嶂、小野竹齋、徳岡神泉、金島桂華、池田遙邨、濱田觀、伊藤小坡、中田晃陽、森月城、池田虹影、大村廣陽、榎原吾山、山本紅雲、東原方櫻、三木翠山、青木生沖、大矢峻嶺、川口吳川、柴原希祥、岩周環、山本朝光、稻葉春生、佐藤寛山、伊藤石華、小豆島甘光

中央美術協会 (洋) 杉並区善福寺町四八 郡山三郎方 昭和27年5月創立。中央美術学園の指導者と卒業生をもつて組織する。昭和28年4月第2回展開催、機関誌「中央美術」発行。

〔参予〕 今泉篤男等一四名 (会員) 新倉政英等二二名

(エ)

デッサン社 品川区西中延五ノ一二五 一 旭正秀方 大正15年創立。途中中絶昭和22年再開、28年第18回展開催、機関誌「デッサン」発行。

〔特別賛助員〕 小林古徑、安井曾太郎、中川一政、石井鶴三 (主幹) 旭正秀

デモクラート協会 (絵・商・美・字等) 世田谷区北沢四ノ三二八 加藤正方 昭和26年創立のデモクラート美術家協会が改称したもので前衛的な作家の集り。昭和28年3月第5回展開催。

〔会員〕 青原俊子、瑛九、福島辰夫、早川良雄、細江英公、飯島孝雄、泉茂、岩宮武二、加藤正、カワラ・オン、菊地秀行、松尾明美、森啓、森泰子、山城隆一、湯淺英夫、土橋慶三、津村義幸

(オ)

東亜美術院 (日) 新宿区築地町一〇 今福武雄方 (電九段五九〇九) 昭和12年創立。

東五社 (日) 京都市平野橋木町二八 (電西陣九六八) 堂本印象の主宰する画塾で毎年京阪神で展覧会を開催する。昭和28年4月第10回記念展開催。

〔代表者〕 京都市左京区上鴨北山町六三 輪見勢

東京美術文化協会 台東区上根岸町四四 (電浅草三〇一、三四五六) 小中学及高校の図画教育の振興のため昭和21年財団法人として創立。毎年展覧会開催。研究雑誌「美術教室」を年4回発行。

東光会 (洋) 豊島区椎名町一ノ一八七 三 森田茂方 昭和7年創立。昭和28年5月第19回展開催。

〔会員〕 岩下三四、石本秀雄、家永麒三郎、西川高次、大和田富子、渡邊義一、渡邊浩三、河井達海、河原修平、田代順七、辻利平、桑原福保、胡桃源源人、熊岡正夫、山本日士良、山崎修二、柳田久、松永敏太郎、松岡正、松本富太郎、小早川篤四郎、齋藤與里、佐藤一章、水野一好、三田村榮、塩津誠一、江藤哲平、通武男、森田茂、関信等二五名

東陶会 (工・陶) 中野区川添町一 大森光彦方 昭和2年創立。年1回、同人展及全国陶藝展開催。昭和28年4月第4回展開催。

〔会長〕 板谷波山 (会員) 大森光彦、安原喜明、宮之原謙、井上良齋、土肥刀泉、唐杉清光、大森信比古、中野昭平、館野善次郎、古宇田正雄、城戸夏男、板谷梅樹、水野一善、磯谷丹舸春、横山朝陽、山本正年、中野馨一、杉田榮助、林茂松

読画会 (日) 板橋区常盤台一ノ二九 西澤笛歌方 (電板橋二二〇一) 明治41年故荒木實敏及十敵の門下を主体として発足、毎年展覧会を開催。展覧会名を一新社展と改め昭和26年第3回展開催。

〔委員〕 西澤笛歌、森白甫、永田春水、朝井觀波、田口黄葵、木本大果、松久休光、湯原柳歌、亀刺隆

独立美術協会 (洋) 台東区谷中初音町四ノ一七 島村三七雄方 昭和5年11月

創立、里見勝藏、兒島善三郎、林重義、林武等二科会の会員会友及び同会出品者一名に国画会の高島達四郎、春陽会の三岸好太郎を加え、「我々は既設の団体より絶縁し新時代の美術の確立を期す」と宣言、独立美術協会を創立した。翌年1月第1回展を開き新時代の福澤一郎も第1回展から会員として参加した。昭和28年10月第21回展開催。

〔会員〕 青柳暢夫、赤星孝、赤堀佐兵、足立襄、池島勘治郎、今井憲一、居串佳一、伊藤彪、宇根元警、海老原喜之助、江川平三、大久保泰、岡部文之助、岡村芳男、小原雄二、片山公一、加藤陽、菊地精二、木村忠太、久保一雄、熊谷登久平、小出三郎、兒島善三郎、小島善太郎、小林和作、齋田武夫、齋藤長三、齋藤求、坂本善三、佐川敏子、島村三七雄、清水鍊徳、志村計介、末永胤生、菅野圭哉、鈴木保徳、鈴木亜夫、須田國太郎、妹尾正彦、高島達四郎、田中行一、高橋忠彌、田中佐一郎、島海青兒、島居敏文、中尾彰、中津瀬忠彦、中間昶夫、中村節也、中村善種、中山鶴、鳩川誠一、野口彌太郎、狭間二郎、林武、樋口加六、藤岡一、堀之内一誠、斑目秀雄、松島一郎、松島正人、緑川廣太郎、宮崎精一、宮島佐一郎、李田たけを、矢崎牧廣、山田榮二、山道榮助、山本正、横地康國、吉岡憲

土曜会(工) 大阪市天王寺区逢坂上ノ町一四一 柴崎風神方 昭和27年1月創立。関西在住の官展系工藝作家の同志的集り。

〔会員〕 平松安春、角谷一生、森崎静亮、辻翁介、八井孝二、川端三義、田邊竹雲斎、中島保美、砲山竹司、米澤蘇峰、桶田撫泉、伊東泰壺、宮下善壽、堂本漆軒、中村鶴生、勝尾青龍洞、森野嘉光、柴崎風神

(二)

二科会(洋・彫・理・漫・商業美術・写) 杉並区久我山二ノ五九〇 東郷青兒方(電我窪五二四) 大正3年文展第二部に二科設置運動が起つたが、当局に容れられず、同年10月ついに文展より分離して、上野竹之台陳列館に二科美術展覧会を開催した。同展開催の際の鑑査員一名は翌年そのまゝ会員となり在野団体として独立した。爾來同会は新進流派の作家を包容して我洋画史上に啓蒙的功績を挙げている。大正8年藤川勇造会員に推され初めて彫刻部の加入をみた。其後昭和5年兒島善三郎、里見勝藏等は退会し独立美術協会を創立、更に石井柏亭、有島生馬、山下新太郎、安井曾太郎等の名誉会員辞退があり、会員の移動はあつたが在野として行動を続け昭和18年第30回展を開催した。翌19年は情報局の指令により展覧会中止となり更に諸般の事情により同年10月ひとまず解散した。同20年終戦となり再結成を図つたが旧会員中、向井潤吉、古家新等は行動美術協会を、又、正宗得三郎、熊谷守一等は第二紀会を結成して離脱した。昭和20年新に工藝部、

理論部を、同26年漫画部、商業美術部を設けた。昭和28年9月第38回展開催。

〔会員〕 (絵画部) 阿部金剛、青山龍水、藤井二郎、藤川榮子、福島金一郎、服部正一郎、伊庭傳治郎、井上賢三、井上寛造、伊藤研之、加治屋隆二、北川民次、小林喜一郎、桑原實、桂ユキ子、松本弘二、松井正、松葉清吉、米良道博、中原實、錦義一郎、野間仁根、野村守夫、岡本太郎、岡田謙三、大澤昌助、荻野康兒、織田廣喜、佐藤吉五郎、鈴木信太郎、清水刀根、鹽川利彦、高岡徳太郎、鷹山宇一、寺田竹雄、東郷青兒、鶴岡義雄、山口長男、山尾薫明、山路眞護、山本敬輔、吉井淳二、吉原治良(彫塑部) 笠置季男、上田暁、浅野孟府、大西金次郎、安藤菊男、堀内正和、乗松義、妹尾健太郎、野水信、淀井敏夫、植木力、廣瀬不可止(理論部) 北園克衛、鈴木崧、山中散生、植村鷹千代、菊岡久利(漫画部) 近藤日出造、清水眞、小野佐世男(写真部) 大竹省三、秋山庄太郎、早田雄二、林忠彦

日本アプストラクト・アート・クラブ(洋・版) 世田谷区若林町四六一 西田信一(電世田谷一五八七) 昭和28年6月創立。アプストラクト・アートの国際交流を目的として結成した集団。

〔会員〕 恩地孝四郎、西田信一、川口軌外、末松正樹、山口長男、植木茂、山口正城、長谷川三郎、吉原治良、村井正誠、植村鷹千代、瀧口修三、

日本インダストリアル・デザイナー協会(工) 二四二頁追加参照

日本浮世絵協会 港区麻布市兵衛町二ノ一 国華社内(電赤坂一七五二) 旧日本浮世絵協会とその後設立された浮世絵同好会が合体して昭和16年に創立されたもの。不定期に浮世絵に関する講演会を開催又展覧会を指導する。

〔会長〕 浅野長武(理事長) 藤縣静也(常任理事) 橋崎宗重、金田信武、渡邊庄三郎

日本画院(日) 台東区谷中清水町一 望月春江方(電駒込三八一〇) 昭和13年5月創立。昭和28年5月第13回展開催。

〔同人〕 岩田正巳、川崎小虎、野田九浦、松本姿水、望月春江、服部有恒、根上富治、町田曲江、穴山勝堂

日本硝子絵協会 中野区桜山町九 昭和26年2月創立。昭和27年5月第3回展開催。

〔会員〕 鈴木信太郎、桂ユキ子、佐田勝、山田光春、赤松俊子、神谷信子、寺田政明、田村貞子、佐藤美代子、北川民次、山道榮助、富山妙子、山下鐵之輔、三保憲司、鈴木亜夫、高岡徳七、河村俊子、井上照子、中谷泰、西尾善積

日本工人社(工) 二四二頁追加参照

日本水彩画会(水) 中野区江古田一ノ二九一 細島昇一方 故大下藤次郎、故丸山曉霞、故河合新蔵の三人の経営せる日本水彩画会研究所を大正2年4月、石井柏亭、故石川欽一郎、故戸張孤雁等三一七名の発起に依り、改制拡張して新に各派水彩画家の綜合団体として設立。毎年1回展覧会開催、昭和28年6月第41回

展開催。

〔會員〕 一二八名

日本染織美術協会 世田谷区上馬町一ノ六〇七（電世田谷一〇三三）昭和20年4月創立。機関誌「染織美術」を発行。

〔会長〕 野口眞造 〔主席〕 本吉春三郎

日本宣伝美術会 中央区銀座西六ノ一熊谷ビル3階（電銀座二二九一）昭和26年6月創立、毎年春秋各地にて展覧会を開く、昭和28年6月第2回展覧会。

〔委員長〕（東京）山名文夫（大阪）重成基 〔委員〕（東京）伊藤憲治、板橋義夫、今泉武治、原弘、橋本徹郎、登村變里、大智浩、龜倉雄策、高橋錦吉、河野鷹思、大橋正、宮永岳彦、岩本守彦、落合登、氏原忠夫、青木清、小島康弘（大阪）早川良雄、奥野英雄、太田健一、田中輝夫、中島康雄、山城隆一、藤原常次、小林葉三、金野弘、澤村為一、上田健一、藤浪勉（名古屋）深井敏夫、長谷川寅二、堀田能雄

日本彫塑家倶楽部（彫）台東区谷中初音町三ノ五 昭和28年2月創立、昭和22年創立の日本彫刻家連盟を発展改称したもので職能団体的性格を離れ彫塑家相互の親睦と彫塑の研究、発展を目的として再発足した。

創立委員は加藤顯清、北村治郎、古賀忠雄、澤田晴廣、中野桂樹、長沼孝三、橋本朝秀、晝間弘、藤野舜正、安田周三郎、山本稚彦。昭和28年4月第一回日本彫塑展開催。

〔顧問〕 朝倉文夫、北村西望、齋藤知雄、藤井浩佑、〔参事〕 雨宮治郎、石川確治、池田勇八、小倉右一郎、加藤顯清、北村正信、國方林三、後藤良、後藤清一、澤田晴広、佐々木大樹、清水多嘉示、畑正吉、橋本朝秀、堀進二、毛利教武、松田尚之、横江嘉純、吉田三郎、吉田久繼 〔理事〕 四五名 〔評議員〕 一〇四名 〔會員〕 一四〇余名

日本彫塑家倶楽部関西支部（彫）京都市左京区修学院大林町一六 松田尚之方（電山端一〇八）昭和28年6月創立。関西日展彫塑家協会が発展改称し、日本彫塑家倶楽部（東京）に台流し、其の関西支部として新発足した。昭和28年10月京都、同11月大阪神戸で第2回展覧会。

〔會員〕 一六名

日本童画会 豊島区長崎一ノ二二 安泰方 昭和21年創立。毎年展覧会開催。

〔役員〕 秋岡芳夫、黒崎義介、武井武雄、鳥居敏文、初山滋、安泰、井口文秀、久坂晴夫、中尾彰、林義雄、松山文雄、外會員百四名

日本陶磁協会 中央区東銀座二ノ一一 日本医事新報社梅澤彦太郎方（電京橋二〇五七）昭和20年1月創立。毎月研究会、講演会並びに春秋二回古陶磁の展覧、講演会等を行う。機関誌「陶記」発行。

〔役員〕（顧問）尾崎海盛、奥田誠一、小林一三、團伊能、松永安左衛門（理事長）梅澤彦太郎（理事）伊東祐淳、磯野信義、大屋敦、小田榮作、加藤唐九郎、加藤土師萌、久志卓真、黒田領治、小山

富士夫、小森新一、佐藤進三、陶守三思郎、瀬川昌世、瀬津伊之助、田澤坦、田中作太郎、鷹巢尊治、内藤匡、中村一雄、中本孝、廣田熙、堀口捨巳、藏山順吉、満岡忠成、森村義行、保田憲三、田山信郎（會員）一五〇〇名

日本陶彫会 練馬区南町二ノ三六八〇 古賀忠雄方 昭和26年創立。

〔会長〕 沼田一雅 〔副会長〕 古賀忠雄 〔會員〕 澤田晴廣、雨宮治郎、安藤士、荒井徳亮、赤堀信平、〇圓鏑勝二、船津英治、長谷川塊記、長谷川義起、伊奈重孝、伊藤芳雄、井岡俊子、片山辰之助、〇唐杉清光、加藤顯清、木村好雄、木下繁、木内克、清水禮四郎、〇古賀忠雄、久保駒太郎、黒田嘉治、眞鍋知造、松田尚之、松村秀太郎、三澤寛、三井高義、宮地寅彦、森豊一、村田勝四郎、宮本光庸、水船六洲、松岡正雄、長野隆業、〇長沼孝三、中川為延、中島浩、中村直人、中野五一、野々村一男、沼田喜代子、野口嘉光、大須賀力、大内青圃、大野信藏、小笠原貞弘、柴田佳石、菅野操子、菅原安男、〇多田瑞穂、〇瀧川美一、瀧一夫、都賀田勇馬、竹下恵一、竹林薫、津上昌平、筑紫忠門、分部順治、渡邊徹、安田周三郎、小畑阿梨一、藤野舜正、片岡静観、峰孝、柴山清風、杉江清軒、坂上政克、佐々木大樹、富永直樹、山畑阿利一、中野桂樹、（〇委員）

日本銅版画協会（版）杉並区高円寺三ノ一八〇 關野準一郎方 昭和28年7月創立。關野、濱田、駒井等の中堅作家

が発起人となつて銅版画家の全国的な集團をつくつた。〔理事長〕 關野準一郎、〔理事〕 濱田知明、駒井哲郎、〔経理〕 田河水泡 〔會員〕 六〇余名

日本板画院（版）杉並区荻窪四ノ五七 棟方志功方（電荻窪五三〇一）昭和27年5月創立。同11月第1回展覧会。

〔顧問〕 碓伊之助、富本憲吉、梅原龍三郎、安井曾太郎 〔會員〕 棟方志功、棟方未華、大澤竹胎、ブブノワ、笹島喜平、北澤民治、下澤木鉢郎

日本版画協会 杉並区東荻町八八 恩地孝四郎方（電荻窪一四）大正7年創立の日本創作版画協会が昭和6年版画家の大同団結をはかり改組したもの、昭和28年4月第21回展覧会。

〔会長〕 石井鶴三 〔会務委員〕 畦地梅太郎、稲垣知雄、恩地孝四郎、川西英、北岡文雄、駒井哲郎、齋藤清、品川工、関野準一郎、初山滋、武井武雄、平塚運一、前川千帆、前田政雄、加藤八洲、〔會員〕 織田一磨、川上澄生、前田藤四郎、ブブノワ、吉田遠志、吉田穂高、濱田知明、濱口陽三他七〇余名

日本美術院（日・彫）台東区谷中上三崎町五二（電駒込四五一〇）明治31年10月、当時東京美術学校長を退いた岡倉覺三を盟主とし、橋本稚邦以下二六名を正員として結成。新時代に於ける東洋美術の維持並開発が創立に際しての二大主張であつた。同年10月第1回展覧会開催、研究所を下谷谷中初音町に設置して後進の養成に努め雑誌「日本美術」を発刊、

二三九



同39年12月に至り一時東京の研究所を撤廃、同人四名は岡倉覺三と共に常陸の五浦に退去し専念研鑽に努めたが、大正2年岡倉覺三病歿するに及び、直ちに院の再興を画し新に院舎を谷中上三崎南町に起し翌3年9月開院式を挙行、10月再興第1回展を開催した。再興に当つたのは横山大觀、下村觀山、木村武山、安田靉彦、今村紫紅、小杉未醒、辰澤延次郎、笹川種郎、齋藤隆三等で其中実技者六名を以て同人とした。再興美術院には彫刻部並に洋画部を設けたが洋画部は大正9年小杉未醒、山本鼎、倉田白羊等の脱退と共に消滅した。毎年秋期に公募展を開き、又春季には内部の試作展を開く。大正10年米國クリブランド美術館の要請に応じ、同國主要都市六箇所に巡回展を開き、以降日本美術の海外紹介にも努めた。昭和10年帝院改組に際して、同人合議の上新帝院への参加を声明し、横山大觀、安田靉彦、小杉古徑、前田青邨、富田漢仙、平橋田中、佐藤朝山、藤井浩佑の八名が會員に就任した。昭和28年9月第38回展開催。

〔経営者・同人〕 横山大觀、安田靉彦、小杉古徑、前田青邨、大智勝觀、平橋田中〔経営者幹理〕 齋藤隆三〔同人〕 佐藤清蔵、石井鶴三、保田龍門、眞道黎明、郷倉千鶴、堅山南風、酒井三良、富取風堂、喜多武四郎、新海竹蔵、大内青圃、奥村土牛、小倉遊龜、田中青坪、山本豊市、太田聰雨、中村貞以、中村直人、宮本重良、松原松造、村田徳次

晋郎、關谷充、新井勝利、北澤映月、辻堂、小谷津任牛、小松均、古藤正雄、中島清、片岡球子、中島多茂都、岩橋英遠

日本美術會 杉並区天沼三ノ八七四  
新海覺雄方 昭和21年創立。毎年アンデパンタン展開催。同26年第6回展開催

〔委員長〕 井上長三郎、〔中央委員〕 新海覺雄、吉井忠、井上長三郎、佐田勝、永井潔、金野新一、松山文雄、箕田源二郎等八〇名

日本美術家連盟 台東区上野公園東京都美術館内（電駒込三三七二六、七）昭和24年6月創立。美術家の個人加盟によつて組織し美術家の職能組合として權益の擁護、相互扶助、其他諸事業を行ふ。

〔會長〕 安井曾太郎 〔委員長〕 伊原宇三郎 〔委員〕 六〇名 〔會員〕 六二八名

日本美術協會 台東区上野公園桜ヶ丘（電駒込三九一〇）明治12年創立の龍池會を同20年日本美術協會と改称し財団法人組織とした。毎年展覧會を継続して太平洋戦争までに一四五回に及んだ。本邦美術の振興をはかるを以て目的とし、戦後組織を新たに於て各流各派を綜合融和した方針を以て絵画展を東京並びに各地で開催している。昭和28年第6回展開催。

〔總裁〕 高松宮宣仁親王〔顧問〕 細川護立、淺野長武、岡部長景、横山大觀、川合玉堂、他一五名〔理事〕 高山一清、長尾欽彌、團伊能、秋山光夫〔會頭〕 團伊能〔専務理事〕 秋山光夫〔常任委

員長〕 松林桂月〔常任委員〕 二二名 〔委員〕 四七名

日本本彫會（彫） 中野区上高田一ノ二七三 内藤四郎方 昭和4年創立、昭和28年4月第13回展開催。

〔會員〕 石井滋、長谷川昂、西田明史、岡正敏、内藤伸、内藤四郎、中野桂樹、熊谷幸太郎、日下寛治、山脇敏男、山脇正司、山口伊之助、古川武治、佐々木大樹、木村威夫、三國慶一、水島弘一、清水源可、森野圓象

人形玩具文化の會 板橋区常盤台一ノ二九 西澤篤方（電板橋一二〇一）昭和11年創立、同25年財団法人となる。

〔會長〕 金森徳次郎〔理事長〕 西澤篤方〔理事〕 板谷波山、團伊能、佐藤達夫、鈴木隆夫、品田豊治

（は）

白鳥會（洋） 豊島区高松町一ノ六 伊藤彪方（電落合四七二一）昭和27年7月創立、10月第1回展開催。

〔會員〕 熊谷守一、野口彌太郎、藤田鶴夫、多田榮二、島居敏文、桑原實、島津純一、賀茂牛之輔、伊藤彪

白日會（洋・彫） 北区田端町一九四 川島實方（電駒込一四六四）大正13年創立。昭和28年3月第29回展開催。

〔會員〕（絵画部） 千葉精三、福田義之助、古川弘、灰野文一郎、平松謙、廣本了、今清、伊藤清水、伊藤利行、岩月光金、東理仁朗、川口榮、川村精一郎、川

島實、小堀進、間部時雄、牧原萬之助、三浦明銀、水野富美夫、村上鐵太郎、森谷重夫、長井幸一、中澤弘光、大崎善生、酒泉淳、島田四郎、篠原薫、坂上明司、富田温一郎、富山芳男、渡部百合子、山本道乗、吉田比古蔵、柳澤涉郎、柴田祐作、石崎五郎、笹口淳、堀英治、小林一雄（彫刻部） 堀義雄、星野宣、伊奈重孝、伊藤五百亀、岩崎良平、木村桂二、兒島正典、坂上政克、阪本良武、坂手讓、笹野恵三、富田匠美、内堀功、渡邊外枝、吉田三郎、秦浩三郎、菊岡義政、小池藤雄

白鳳會（洋） 目黒区柿ノ木坂二二一 吉田政次方 昭和15年創立。昭和27年6月第10回展開催。昭和16年東京美術学校油画科藤島教室を卒業した一〇名に依り創設した。

〔會員〕 井上慎、加藤長一、北岡文雄、小泉富司、吳天華、鮫島宗明、篠窪亮、高田肇三、高田久、松永敏太郎、松永和夫、安田寛、吉野廣行、吉田政次

汎美術家協會（洋） 大阪市阿倍野区北畠西一ノ一〇五 前田藤四郎方 昭和22年7月創立。関西在住の洋画家の団体。昭和27年2月第5回展開催。

〔會員〕 荒井龍男、藤井二郎、原精一、長谷川三郎、橋上壽児、萩森久朗、伊藤久三郎、井上覺造、井上賢三、井川捷視、池島勘治郎、石丸一、伊庭傳治郎、江川平三、川西英、小出三郎、前田藤四郎、松井正、米良道博、宮下貞之介、本田たけを、中村真、中村善種、仲村一男、中



川力、中村徳三郎、中畑紳人、錦義一郎、須田超太、佐藤篤郎、田川勤次、植木茂、山本敬輔、山崎隆夫、吉原治良、和田季悦、渡邊修

パンリアル美術協会(日) 京都市東山区五条橋東六ノ五三一 山崎隆夫(電祇園一二五三) 昭和23年6月創立。昭和27年11月第9回展開催。

(会員) 榮永大治良、不動茂彌、日ノ下淳一、星野真吾、小林司郎、松本一穂、三上誠、宮崎實仁、野村耕二郎、大野秀隆、下村良之介、高濱謙、湯田寛、山崎隆、吉田利次

(ウ)

美術記者会 中央区京橋三ノ一一  
国立近代美術館内

(会員) 社名五〇音順 ○印幹事

朝日新聞社 社会部 牧田 茂  
学藝部 高松喜八郎  
企画部 遠山 孝  
出版局〇赤井 正友  
特信 松江 智壽  
文化部 長興 道夫  
社会部 山田 一郎  
産業経済新聞社 文化部 中山 勝次  
藤谷 雨道  
時事新報社 文化部 日野耕之祐  
牛木 聖兒  
信濃毎日新聞社 〇三宅正太郎  
中部日本新聞社 文化部 岡山 東  
白木 博

中部日本新聞社 社会部 北村 義朗  
東京新聞社 文化部〇宮川 謙一  
寺田 千壘  
桑原 住雄

西日本新聞社 文化部 伊東 浩三  
宗 榮之助  
仁村美津夫  
川本 静二

日本経済新聞社 文化部 編集部 木庭 典三  
文化部 島野 功  
社会部 鈴木 正八  
学藝部 船戸 洪吉  
整理部 上島 長健  
文化部 藤澤 逸哉  
和伊都夫

日本放送協会 編集部 木庭 典三  
報知新聞社 文化部 島野 功  
社会部 鈴木 正八  
学藝部 船戸 洪吉  
整理部 上島 長健  
文化部 藤澤 逸哉  
和伊都夫

読売新聞社 社会部 藤本 憲治  
企画部 平川富太郎

美術評論家クラブ 中央区京橋三ノ一一  
国立近代美術館内 昭和15年創立の  
美術問題研究会は同25年改組して美術評  
論家組合として再出発したが、同26年更  
に美術評論家クラブと改称した。美術評  
論家相互の親睦と活動に必要な事業を行  
うを目的とする。

(幹事) 土方定一、田近憲三、河北倫  
明、瀧口修造、徳大寺公英、鈴木進、江  
川和彦(会員) 六〇余名  
美術文化協会(洋影写) 埼玉県飯能  
町三ノ四〇二 白木正一方(電飯能三七  
六呼) 独立を脱退した福澤一郎を中心  
主として独立、二科の所謂前衛派の新進  
が昭和14年に結成した。同会は絵画、  
彫刻、写真、装飾、図案、文筆等分野

を網羅し総合的に前衛運動を行う。昭和  
28年3月第13回展開催。

(委員)(絵画) 古田晴久、古澤岩美、  
早瀬龍江、堀尾實、笠井一、土井俊夫、  
猪飼重明、小牧源太郎、小林勇、佐伯和  
美、石井玲一、岡田徹、下郷羊雄、島津  
純一、笹川由為子、白木正一、谷口克  
己、田島康、吉川三伸、幸壽、山崎貴英  
子、池原正男(彫刻) 國光興(建築) 清  
家清(写真) 石井誠晴、大辻清司、天野  
龍一、小川義良、小林祐史、中藤敦、原  
田萬治郎、堀内初太郎、田島安文、高林  
靖、三瀬幸一、田島勇、徳山曜芳、山本  
悍右、吉崎一人、土井俊夫、松澤宥、戸  
川金雄、千田健次

美術文化研究会 京都市上京区小山下  
板倉町三二 小牧源太郎方(電西陣七三  
四七呼) 昭和21年創立。

(会員) 小牧源太郎、関角太郎、田中  
杏兒、笠井一、高藤義雄、羽阪清、長谷  
川望、香川勇、須賀卯夫、坂田明道、里  
見勝三、橋永一男、齋藤萬次郎、狩野儀  
三郎

(エ)

舞踊美術家懇話会 武蔵野市吉祥寺二  
〇九五 東原徹方(電武蔵野二九四五)  
舞台美術の発展に寄与するため昭和27年  
創立した。

(会員) 荒島鶴吉、石濱日出雄、國東  
清、三枝大二、島公靖、田中良、東原  
徹、遠山静雄、長瀬直諒、中村正典、眞

木小太郎、三林亮太郎、三輪祐輔、吉村  
俊一、渡邊正男

ブラス美術家群(洋) 新宿区下落合二  
ノ六六七 吉田遠志方(電落合四三三七)  
昭和25年8月創立。

(会員) 浅井真、吉田千鶴子、小林森  
次、海洲正太郎、田村玄一郎、吉田ふじ  
を、吉田遠志、吉田穂高

(オ)

麗聲社(綜) 練馬区大泉学園町七一八  
平子聖龍方 昭和21年10月創立。昭和27  
年4月第6回展開催。

(主宰者) 平子聖龍 [各代表者]  
(日本画部) 平子聖龍(洋画部) 武田信  
夫(彫塑) 木島正雄(書道) 國岡竹雄  
(華道) 角田一忠、上原理仲

(カ)

真赤土工藝会(工) 世田谷区喜多見町  
一三三三 平沼淨方 昭和17年5月創  
立。毎年東京他各地で展覧会を開く。

(会員) (染色) 堀友三郎、武穂貞波留、  
栗原宏、里内幸、清水喜美、日比野近三  
(陶器) 唐杉清光(彫金) 織田慎一、竹  
内元之助(綴織) 古戸忠平(竹工) 横田  
峰齋、平沼淨(漆工) 渡邊六郎、村山久、  
三木義榮(ガラス) 前田喬平(木彫) 逸  
見良之助

(キ)

無服会(工) 二四二頁追加参照

**武蔵野会(洋)** 豊島区駒込六ノ七三〇  
土橋醇一方(電大塚四六五)昭和18年  
創立。昭和27年2月第9回展開催。

**【会員】** 土橋醇一、岡田又三郎、渡邊  
武夫、金子徳衛、田中實一、永田精二、  
山口猛彦、松尾正己、藤本東一良、寺内  
萬治郎、飯倉宣暢、里見明正、南政善、  
島野重之、妹尾壽信、鈴木榮二郎、杉村  
惇、杉山一正、松永敏太郎

(も)

**木彩会(工・木)** 文京区駒込千駄木町  
二四 山本葉彌志方 昭和23年4月木工  
藝の制作又は研究に携わる者が集つて創  
立した。昭和28年9月第6回展開催。

**【会員】** 河津直武、梅田總太郎、山口  
壽泉、山本葉彌志、前田保三、松原貞嗣、  
麻田謹三、浅川藤治、佐藤豊、本吉春三  
郎、本橋政一、須田利雄、原田英、大友  
中和、落合一郎、大熊喜英、高田義雄、  
内藤幸夫、櫻井博、江刺英一

**モダンアート協会(洋)** (東京)世田谷  
区上北沢三ノ一・一九山口薫方 (大阪)  
大阪市阿倍野区昭和町西三ノ一五植木茂  
方 昭和25年9月創立。昭和28年2月第  
3回展覧会開催

**【会員】** 荒井龍男、朝妻治郎、東俊二、  
江波戸一郎、廣井力、井川捷視、小松義  
雄、城所昌夫、北垣正樹、勝本富士雄、  
勝田寛一、藤山光義、村井正誠、靱山七  
重、宮田正己、中村眞、大森朝衛、小川  
孝子、周襄吉、杉本龜久雄、勝呂忠、谷

澤秀晃、竹田長年、植木茂、和田季悦、  
矢橋六郎、山口薫、山内一彦

**モダンアート研究会(洋)** 千代田区神  
田錦町三ノ七 三寿莊 城所昌夫方 大  
阪市南区久左衛門町三三 中村眞方 昭  
和27年モダンアート協会の補助団体とし  
て発足したもの。

**【会員】** モダンアート協会々員及び同  
会所属出品者

(り)

**立軌会(洋)** 大田区小林町二八 有岡  
一郎方 昭和24年4月創立、元創元会の  
会員七名によつて結成、第2回展より有  
岡一郎が参加した。昭和28年9月第5回  
展開催。

**【会員】** 有岡一郎、飯島一、牛島憲  
之、榎戸庄衛、大貫松三、須田壽、山下  
大五郎、玉置弘三(再入会)

(れ)

**レアル美術会(洋)** 世田谷区赤堤町一  
ノ一三 野崎利喜男方 昭和27年9月創  
立。一水会々員一三名により設立。昭和  
28年3月第1回展開催。

**【会員】** 福田新生、林鶴雄、池邊一郎、  
金丸直衛、中畑紳人、中川力、野崎利喜  
男、尾崎正章、高橋貞一郎、高森捷三、  
筒井廣道、矢野雄蔵

**黎明美術研究会(洋)** 目黒区中目黒四  
ノ一三三二 松村禎夫方 昭和18年4月

創立。基礎理論の徹底、新技法の習得等を  
目的とする。

**【会長】** 柳亮 **【会員】** 五〇余名  
**連袂会(洋)** 大田区馬込東一ノ一〇六  
〇 昭和12年安井曾太郎の門下を以て組  
織、昭和28年6月第15回展開催。

**【会員】** 廣瀬功、本郷博、金子博信、  
狩野壽一、笠置いづ子、加藤水城、木村  
辰彦、兒島三吉、中村琢二、二宮雪夫、  
丸野豊司、三浦俊輔、岡本半三、小野末  
大津鎮雄、櫻井恵美子、菅野矢一、高田  
誠、高見耿太郎、寺田春次、幸雅二、山  
川勇一郎、澤崎恵子

(ろ)

**六窓会(綜)** 北区十条仲原町二ノ八  
内藤四郎方 東京美術学校昭和6年卒業  
の同窓を以て昭和25年創立。昭和28年4  
月第4回展開催。

**【会員】** (日本画) 橋本明治、加藤榮三、  
山田申吾、東山魁夷(洋画)伊勢正義、  
大貫松三、佐藤敬、須田壽(工藝)内藤  
四郎、長沼孝三、野々村一男、大須賀力、  
黒田嘉治(建築)吉村順三

【追加】

**日本インダストリアル・デザイン協  
会(工)** 中央区京橋一ノ二 大阪商船ビ  
ル 国際文化振興会内 電話二〇七一一  
二 昭和27年10月創立。

**【会長】** 加納久朗 **【理事長】** 佐々木  
達三 **【理事】** 剣持勇等九名 **【正会員】**

金子徳次郎等一八名 **【顧問】** 三名  
**日本工人社(工)** 京都市上京区 京都  
府教育委員会事務局文化財保護課内 昭  
和28年9月創立。無形文化財として後世  
に伝へべき伝承的工芸技術の調査を行  
い、あわせて後継者の指導育成を行うこ  
とを目的とする。

**【顧問】** 明石染人、荻野二郎、坂田正  
**【幹事】** 法山龍正 **【会員】** 田畑喜八、  
中川華郎、土屋素秋、上野爲二、羽田登  
喜男、岡本庄三、岡本正太郎、川瀬正太  
郎、齊田梅亭、永田末次郎、北村玉芳、  
飛來一閑、宇野宗麿、石黒宗磨、伊藤富  
三郎、森村清太郎

**無厭会(工・陶)** 京都市東山区五条橋  
東六丁目 山崎光洋方(電祇園一二五三)  
昭和22年2月創立。清水焼作家五〇名に  
よつて結成。昭和28年5月第6回展開催。  
**【会員】** 河合瑞豊、河合榮之助、米澤  
蘇峯、高橋道八、大丸北峰、宇野仁松、  
久世久寶、山崎光洋、近藤悠三、浅見五  
郎助、赤澤露石、清水六和、清水六兵衛、  
三浦竹泉、宮川香齋、七兵衛信翠、新開  
邦太郎、永樂善五郎、森野嘉光、諏訪藤  
山

# 美術家及美術関係者名簿

昭和二八年一二月現在

## 凡 例

一、本名簿にのせた美術家及美術関係者の数は一六二六名である。  
我が国において、美術家として社会的地位を有する人々を採録した。  
不備の点は次年度に補いたい。

一、名簿は氏名の頭文字の発音により五〇音順に記載した。発音の同じ場合は字訓の少ないものを先にし、頭文字の同じものは二字目の発音により、その発音の同じ場合は字訓の少ないものを先に掲げた。但し同字は訓音の異なるものもなるべく一箇所に集めた。安宅、安達、安西、安藤等を同一箇所に掲げた如くである。

一、名簿に用いた略語はだいたい左の通りである。

(日) 日本画 (洋) 洋画 (挿) 挿画 (版) 版画 (漫) 漫画 (影) 彫塑  
(工) 工芸 (漆) 漆工芸 (陶) 陶磁 (金) 金工芸 (染) 染色 (織) 織物  
(繡) 刺繡 (硝) 硝子工芸 (建) 建築 (写) 写真 (学) 学者 (評) 美術評論家 (記) 美術記者 (文化財事務局) 文化財保護委員会事務局 (文化財専審委) 文化財専門審議会専門委員 (日展) 日本美術展覧会 (日展無) 日本美術展覧会無鑑査 (日展依) 日本美術展覧会出品依頼者 (日展審) 日本美術展覧会審査員 (日展参事) 日本美術展覧会運営会参事 (日展理事) (日展常任理事) 日本美術展覧会運営会理事、同常任理事 (東京藝大) 東京藝術大学 (東美校) 東京美術学校 (京都美術大) 京都市立美術大学 (京都絵専校) 京都市立絵画専門学校 (京都美術専校) 京都市立美術専門学校 (女子美大) 女子美術大学 (女子美校) 女子美術学校・女子美術専門学校 (帝国美校) 帝国美術学校 (日美校) 日本美術学校 (大阪美校) 大阪美術学校 (東京高工藝校) 東京高等工芸学校 (東京高工業校) 東京高等工業学校 (京都高工藝校) 京都高等工芸学校 (名古屋高工業校) 名古屋高等工業学校 (京都美工藝校) 京都市立美術工芸学校

一、日展無、日展依、日展審は昭和二八年第九回日本美術展覧会の無鑑査(昭和二七年第八回展特選者)、出品依頼者、審査員を示す。元日展無、元日展依、元日展審は日本美術展覧会運営会、日本藝術院共催による昭和二四年第五回日展から昭和二七年第八回日展迄の間の無鑑査、出品依頼者、審査員を示す。

一、住所中東京都のみは都名を略して区名を以て始めた。

「美術家及美術関係者名簿」 ページ (244～279 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the list of Artists and Experts in Art (pp.244-279)

Cut for protection of the personal information



## 美術関係定期刊行物一覽 (五〇音順)

ア ト リ エ	月刊、編輯北原義雄、発行アトリエ社、千代田区神田神保町三々一三、電九段二五七五・二五七六	三 彩	季刊、編輯藤本韶三、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇・一一三
意 匠	月刊、編輯日本工藝協會、発行同会、千代田区三年町特許庁内	史 迹 と 美 術	月刊、編輯川勝政太郎、発行史迹美術同致会、京都市上京区紫野下柳町一四、電西陣五九五六
藝 術 學 報	編輯金丸重嶺、発行日本藝術学会、文京区本富士町東大文学部美術史研究室内	書 品	月刊、編輯庄司一夫、発行東洋書道協會、中央区京橋二ノ三、電京橋三〇四・二七八一・三八五六
藝 術 新 潮	月刊、編輯佐藤義夫、発行新潮社、新宿区矢来町七一、電九段一一一五	新 建 築	月刊、編輯吉岡保五郎、発行新建築社、中央区宝町一ノ六、電京橋四七五二
建 築 史 研 究	編輯建築史研究会(藤島亥治郎)、発行彰国社、千代田区平河町二ノ一	人 文 學 報	編輯京大人文科学研究所(吉田良馬)、発行同所、京都市左京区北白川小倉町五〇、電上五〇五〇
建 築 雜 誌	月刊、編輯北村正雄、発行日本建築学会、中央区銀座西三ノ一、電京橋一二三三・一二三八	染 色 美 術	編輯本吉春三郎、発行日本染織美術協會、世田ヶ谷区上馬町一ノ六〇七
建 築 文 化	月刊、編輯井上精二、発行彰国社、千代田区平河町二ノ一	綜 合 世 界 文 藝	編輯佐藤春夫、発行綜合世界文藝委員會、新宿区戸塚町一ノ六四六早大文学部内
工 藝	月刊、編輯工藝学会編集委員會、発行財団法人工藝学会、港区麻布三河台町二四、電赤坂一〇三四	淡 交	月刊、編輯能村圭、発行淡交社、京都市上京区小川通寺ノ内上ル、電西陣七一一三〇
工 藝 ニ ュ ー ス	月刊、編輯工業技術院産業工藝試験所、発行丸善出版株式会社、中央区日本橋、電日本橋一七三三・二一四二・二二四四	刀 劍 美 術	編輯宮崎芳樹、発行日本刀劍美術保存協會、台東区上野公園国立博物館内
考 古 學 雜 誌	月刊、編輯日本考古学会(原田淑人)、発行日本考古学会、台東区上野公園東京国立博物館内	東 方 學	編輯東方学会、発行同会、千代田区西神田二ノ二、電九段一〇六一
國 際 建 築	月刊、編輯藤懸靜也、発行国華社、港区麻布市兵衛町二ノ一、電赤坂一七五二	東 洋 文 化	編輯京大人文科学研究所、発行同所、京都市左京区北白川小倉町五〇、電上五〇五〇
國立博物館ニュース	月刊、編輯國際建築協會(小山正和)、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇・一一三	日 本 漆 工	編輯仁井田陞、発行東洋学会、文京区大塚町東大東洋文化研究所内
古文化財之科学	月刊、編輯近藤市太郎、発行国立博物館、台東区上野公園編輯柴田雄次、発行古文化資料自然科学研究会、台東区上野公園国立博物館研究室内	日 本 の 茶 道	月刊、編輯安藤鉦一、発行多摩書房、中野区新井町六四九
	電駒込三七一一・三七一五		編輯古谷豊吉、発行日本漆工協會、中央区日本橋通二ノ二加藤ビル内
			月刊、編輯栗田常太郎、発行日本の茶道社、港区赤坂青山南町二ノ五三

日本美術工藝  
汎工藝

月刊、編輯加藤義一郎、発行日本美術工藝社、大阪市北区梅田阪急ビル内  
旬刊、編輯柴崎俊吉、発行汎工藝社、大阪市天王寺区逢坂上町一四一

美術學

季刊、編輯美学会(山本正男)、発行美術出版社

美術館ニュース

編輯井上芳郎、発行東京美術倶楽部、港区芝新橋七ノ十二月刊、編輯早川治平、発行東京都美術館友の会、台東区上野公園、電駒込四八九六

美術研究

隔月刊、編輯美術研究所(田中一松)、発行吉川弘文館、千代田区神田神保町三ノ一九、電九段一九〇〇

美術史

季刊、編輯美術史学会(熊谷宣夫)、発行便利堂、京都市中京区新町通竹屋町南

美術新聞

週刊、編輯佐久間善三郎、発行藝術文化研究所、大田区蓮沼町一〇七

美術探求

隔月刊、編輯難波專太郎、発行美術探求社、大田区石川町九八

美術通信

旬刊、編輯高木紀重、発行日本美術通信社、新宿区下落合四ノ一五八八

美術手帖

月刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇一―三

美術ニュース

月刊、編輯上田宏範、発行大阪市立美術館友の会、大阪市天王寺公園、電天王寺六一〇・四六〇九

美術批評

月刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段三三六・二〇四三

佛教藝術

季刊、編輯仏教藝術学会、発行毎日新聞社、大阪堂島、東京有楽町

文化財月報

編輯蒲生芳郎、発行文化財保護委員会、千代田区霞ヶ関三ノ四

墨美

月刊、編輯森田子龍、発行墨美発行所、京都市上京区大宮大門町一二

みづゑ

月刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇一―三

ミュージアム

月刊、編輯国立博物館、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本

大和文華

村町一五、電九段九九〇一―三  
編輯大和文華館(谷田闕次)、発行大和文華館出版部、大阪府南河内郡道明寺村道明寺内

昭和二十九年一月二十八日印刷  
昭和二十九年二月二十五日発行

日本美術年鑑

昭和二十八年版

編集者

東京文化財研究所美術部  
(美術研究所)

印刷者

大蔵省印刷局

発行所

東京文化財研究所

東京都台東区上野公園  
電話駒込(82)四四八七  
一九二三